

プログラマ・マニュアル

Tektronix

RSA3408A型

8GHz リアルタイム・スペクトラム・アナライザ

077-0004-01

本マニュアルはファームウェア・バージョン
3.10 以降に対応しています。

www.tektronix.com

Copyright © Tektronix Japan, Ltd. All rights reserved.

当社の製品は、米国その他各国における登録特許および出願中特許の対象となっています。本書の内容は、すでに発行されている他の資料の内容に代わるものです。また、製品仕様は、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

Tektronix、Tek は Tektronix, Inc.の登録商標です。

また、本マニュアルに記載されている、その他の全ての商標は、各社所有のものです。

安全にご使用いただくために

安全にご使用いただくため、機器をご使用になる前に、次の事項を必ずお読みください。

人体保護における注意事項

適切な電源コードの使用

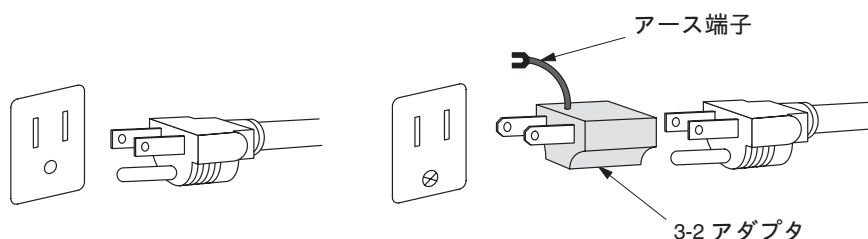
発火などの恐れがありますので、指定された電源コード以外は、使用しないでください。

過電圧の保護

感電または発火などの恐れがありますので、コネクタに指定された範囲外の電圧を加えないでください。

適切な接地

本機器は、アース線付きの3線式電源コードを通して接地されます。感電を避けるため、必ずアース端子のあるコンセントに差し込んでください。3-2アダプタを使用して2線式電源に接続する場合も、必ずアダプタのアース線を接地してください。



キャビネットやカバーの取り外し

機器内部には高電圧の箇所がありますので、カバーやパネルを取り外したまま使用しないでください。

機器が濡れた状態での使用

感電の恐れがありますので、機器が濡れた状態で使用しないでください。

ガス中での使用

発火の恐れがありますので、爆発性ガスが周囲に存在する場所では、使用しないでください。

本機器の運搬

本機器は 19kg 以上の質量があります。運搬・移動は 2人以上で行ってください。

機器保護における注意事項

電 源

本機器は、90～250 V の AC 電源電圧、47～63 Hz の電源周波数で使用できます。電源コンセントに接続する前に、電源電圧が適切であることを確認してください。指定範囲外の電圧を加えないでください。

機器の放熱

本機器が過熱しないよう、十分に放熱してください。

故障と思われる場合

故障と思われる場合は、必ず販売店または当社サービス・センターまでご連絡ください。

修理と保守

修理・保守は、当社サービス員だけが行えます。修理が必要な場合には、最寄りの販売店または当社サービス・センターにご相談ください。

用語とマークについて

本マニュアルで使用されている用語とマークの意味は、次のとおりです。

注：操作を理解する上での情報など、取り扱い上の有益な情報について記してあります。



注意：取り扱い上の一般的な注意事項や本機器または他の接続機器に損傷を及ぼす恐れのある事柄について記してあります。



警告：人体や生命に危害を及ぼす恐れのある事柄について記してあります。



静電気に対して注意が必要な部分について記してあります。



取り扱い上の注意、警告、危険を示しています。

機器に表示されている用語とマークの意味は、次のとおりです。

DANGER：直ちに人体や生命に危害を及ぼす危険があることを示しています。

WARNING：間接的に人体や生命に危害を及ぼす危険があることを示しています。

CAUTION：機器および周辺機器に損傷を及ぼす危険があることを示しています。



高電圧箇所です。絶対に手を触れないでください。



保護用接地端子を示します。



注意、警告、危険を示す箇所です。内容については、このマニュアルの該当箇所を参照してください。

目次

安全にご使用いただくために	i
本マニュアルについて	xv

第1章 はじめに

はじめに	1-1
概要	1-2
インタフェースの接続	1-4
GPIB ポートの使用	1-5
前面パネルでの通信パラメータ設定	1-6
TekVISA の使用	1-8

第2章 コマンドと構文

コマンドの構文	2-1
BNF 表記法の定義	2-1
SCPI コマンドと問合せ	2-2
IEEE 488.2 共通コマンド	2-10
構造化シーモニック	2-11
コマンドの分類	2-13
測定モード	2-14
機能別グループ	2-15
IEEE 共通コマンド	2-16
:ABORt コマンド	2-16
:CALCulate コマンド	2-16
:CALibration コマンド	2-17
:CONFigure コマンド	2-18
:CONFigure コマンド (オプション)	2-18
:DISPlay コマンド	2-20
:DISPlay コマンド (オプション)	2-22
:FETCh コマンド	2-30
:FETCh コマンド (オプション)	2-31
:FORMat コマンド	2-33
:HCOPy コマンド	2-33

:INITiate コマンド	2-34
:INPut コマンド	2-34
:INSTrument コマンド	2-34
:MMEMory コマンド	2-34
:OUTPut コマンド	2-35
:PROGram コマンド	2-35
:READ コマンド	2-36
:READ コマンド (オプション)	2-37
:SENSe コマンド	2-38
:SENSe コマンド (オプション)	2-41
:STATus コマンド	2-51
:SYSTem コマンド	2-51
:TRACe コマンド	2-52
:TRIGger コマンド	2-52
:UNIT コマンド	2-52
一般的なプログラム手順	2-53
IEEE 共通コマンド	2-55
:ABORt コマンド	2-65
:CALCulate コマンド	2-67
:CALibration コマンド	2-83
:CONFigure コマンド	2-95
:CONFigure コマンド (オプション)	2-107
:DISPlay コマンド	2-137
:DISPlay コマンド (オプション)	2-203
:FETCh コマンド	2-439
:FETCh コマンド (オプション)	2-467
:FORMat コマンド	2-579
:HCOPy コマンド	2-581
:INITiate コマンド	2-585
:INPut コマンド	2-589

:INSTrument コマンド	2-593
:MMEMory コマンド	2-597
:OUTPut コマンド	2-609
:PROGram コマンド	2-611
:READ コマンド	2-617
:READ コマンド (オプション)	2-645
:SENSe コマンド	2-715
:SENSe コマンド (オプション)	2-795
:STATus コマンド	2-1057
:SYSTem コマンド	2-1065
:TRACe コマンド	2-1075
:TRIGger コマンド	2-1081
:UNIT コマンド	2-1093
応答メッセージの取り出し	2-1095

第3章 ステータスとイベント

ステータスとイベント	3-1
ステータス/イベント・レポーティング機能	3-1
レジスタ	3-6
キュー	3-14
ステータスとイベントの処理	3-15
コマンドの同期処理	3-17
エラー・メッセージ	3-19

第4章 プログラム例

プログラム例	4-1
アプリケーション・プログラム例	4-2
マクロ・プログラム実行例	4-13

付録

付録 A ASCII コード表	A-1
付録 B GPIB インタフェース仕様	B-1
インタフェース機能	B-1
インタフェース・メッセージ	B-3
付録 C デフォルト設定	C-1
付録 D 設定範囲	D-1
表示形式とスケール	D-1
RBW (分解能帯域幅)	D-6
付録 E SCPI 適合情報	E-1

索引

保証規定・お問い合わせ

図一覧

図 1-1 : コマンドの要素	1-2
図 1-2 : 機能別コマンド・グループとアルファベット順コマンド一覧	1-2
図 1-3 : イベント駆動プログラム	1-3
図 1-4 : サンプル・プログラム (Visual C++ ソース・コード)	1-3
図 1-5 : GPIB コネクタ (後部パネル)	1-4
図 1-6 : GPIB 接続	1-5
図 1-7 : GPIB ネットワーク構成例	1-5
図 1-8 : Remote Setup メニュー	1-6
図 1-9 : GPIB パラメータの設定	1-7
図 2-1 : SCPI サブシステムのツリー構造	2-2
図 2-2 : 短縮したコマンドの例	2-6
図 2-3 : 複数のコマンドと問合せの連結	2-7
図 2-4 : 連結したメッセージ内でのルート・ノードと下位レベル・ノードの省略	2-7
図 2-5 : ビュー番号の割り当て	2-67
図 2-6 : 横軸スケール設定条件	2-138
図 2-7 : 横軸スケール設定条件 (スペクトラム表示の場合)	2-139
図 2-8 : :DISPlay:CCDF コマンドの設定	2-140
図 2-9 : :DISPlay:OVlew コマンドの設定	2-147
図 2-10 : :DISPlay:PULSe:SPEctrum コマンドの設定	2-169
図 2-11 : :DISPlay:SPEctrum コマンドの設定	2-178
図 2-12 : :DISPlay:TFRequency コマンドの設定	2-188
図 2-13 : ビューの表示形式	2-198
図 2-14 : :DISPlay:WAVeform コマンドの設定	2-199
図 2-15 : :DISPlay:DDEMod コマンドの設定	2-205
図 2-16 : :DISPlay:AC3Gpp コマンドの設定	2-287
図 2-17 : :DISPlay:UL3Gpp コマンドの設定	2-293
図 2-18 : :DISPlay:WLAN:SPEctrum コマンドの設定	2-434
図 2-19 : ACPR 測定の設定	2-718
図 2-20 : 解析範囲の設定	2-720
図 2-21 : チャンネル電力測定の設定	2-735
図 2-22 : C/N 測定の設定	2-738
図 2-23 : EBW 測定の設定	2-747
図 2-24 : 周波数とスパンの設定	2-749
図 2-25 : OBW 測定の設定	2-757
図 2-26 : スプリアス測定のセットアップ	2-787
図 2-27 : 解析範囲の設定	2-790
図 2-28 : 解析範囲の設定	2-798
図 2-29 : トリガ・マスク設定例	2-1083

図 2-30 : 応答メッセージの取り出し	2-1095
図 3-1 : ステータス/イベント・レポーティング機構	3-2
図 3-2 : ステータス・バイト・レジスタ (SBR)	3-7
図 3-3 : スタンダード・イベント・ステータス・レジスタ (SESR)	3-8
図 3-4 : オペレーション・コンディション・レジスタ (OCR)	3-9
図 3-5 : オペレーション・イベント・レジスタ (OEVR)	3-9
図 3-6 : クエスチョナブル・コンディション・レジスタ (QCR)	3-10
図 3-7 : クエスチョナブル・イベント・レジスタ (QEV)	3-10
図 3-8 : イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ (ESER)	3-11
図 3-9 : サービス・リクエスト・イネーブル・レジスタ (SRER)	3-11
図 3-10 : オペレーション・イネーブル・レジスタ (OENR)	3-12
図 3-11 : クエスチョナブル・イネーブル・レジスタ (QENR)	3-12
図 3-12 : オペレーション・トランジション・レジスタ (OTR)	3-13
図 3-13 : クエスチョナブル・トランジション・レジスタ (QTR)	3-13
図 3-14 : ステータスとイベントの処理 — オペレーション・ステータス・ ブロック	3-15
図 3-15 : ステータスとイベントの処理 — クエスチョナブル・ステータス・ ブロック	3-15
図 3-16 : ステータスとイベントの処理 — スタンダード・イベント・ ステータス・ブロック	3-16
図 4-1 : マクロ・プログラムの保存	4-13

表一覧

表 2-1: BNF 記号と定義	2-1
表 2-2: 応答例	2-3
表 2-3: 構文記述で用いるパラメータ・タイプ	2-4
表 2-4: 単位	2-8
表 2-5: SI 接頭辞	2-8
表 2-6: 構造化ニーモニック	2-11
表 2-7: 測定モード	2-14
表 2-8: コマンド・グループ一覧	2-15
表 2-9: IEEE 共通コマンド	2-16
表 2-10: :ABORt コマンド	2-16
表 2-11: :CALCulate コマンド	2-16
表 2-12: :CALibration コマンド	2-17
表 2-13: :CONFigure コマンド	2-18
表 2-14: :CONFigure コマンド	2-18
表 2-15: :DISPlay コマンド	2-20
表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション)	2-22
表 2-17: :FETCh コマンド	2-30
表 2-18: :FETCh コマンド (オプション)	2-31
表 2-19: :FORMat コマンド	2-33
表 2-20: :HCOPy コマンド	2-33
表 2-21: :INITiate コマンド	2-34
表 2-22: :INPut コマンド	2-34
表 2-23: :INSTrument コマンド	2-34
表 2-24: :MMEMory コマンド	2-34
表 2-25: :INITiate コマンド	2-35
表 2-26: :PROGram コマンド	2-35
表 2-27: :READ コマンド	2-36
表 2-28: :READ コマンド (オプション)	2-37
表 2-29: :SENSe コマンド	2-38
表 2-30: :SENSe コマンド (オプション)	2-41
表 2-31: :STATus コマンド	2-51
表 2-32: :SYSTem コマンド	2-51
表 2-33: :TRACe コマンド	2-52
表 2-34: :TRIGger コマンド	2-52
表 2-35: :UNIT コマンド	2-52
表 2-36: :CONFigure コマンドのサブグループ (オプション)	2-107
表 2-37: :DISPlay コマンドのサブグループ	2-137
表 2-38: サブ・ビューの表示形式	2-165
表 2-39: :DISPlay コマンドのサブグループ (オプション)	2-203

表 2-40: メイン・ビューの表示形式	2-208
表 2-41: サブ・ビューの表示形式	2-221
表 2-42: サブ・ビューの表示形式	2-241
表 2-43: シグナル・ソース解析のサブ・ビューの表示形式	2-265
表 2-44: シンボル・レートの設定	2-294
表 2-45: メイン・ビューの表示形式	2-297
表 2-46: サブ・ビューの表示形式	2-305
表 2-47: メイン・ビューの表示形式	2-315
表 2-48: サブ・ビューの表示形式	2-321
表 2-49: X オフセット設定範囲	2-328
表 2-50: メイン・ビューの表示形式	2-344
表 2-51: サブビューの表示形式	2-351
表 2-52: メイン・ビューの表示形式	2-373
表 2-53: サブビューの表示形式	2-379
表 2-54: シンボル・レートの設定	2-400
表 2-55: メイン・ビューの表示形式	2-403
表 2-56: シンボル・レートの設定	2-409
表 2-57: サブビューの表示形式	2-412
表 2-58: サブ・ビューの表示形式	2-426
表 2-59: パルス解析結果の取得	2-450
表 2-60: :FETCh コマンドのサブグループ (オプション)	2-467
表 2-61: デジタル変調信号解析結果の取得	2-469
表 2-62: RFID 測定	2-475
表 2-63: PLL 測定	2-483
表 2-64: W-CDMA アップリンク解析結果の取得	2-493
表 2-65: n の値	2-534
表 2-66: n の値	2-541
表 2-67: 3GPP-R5 ダウンリンク解析結果の取得	2-555
表 2-68: デジタル変調信号解析結果の取得	2-571
表 2-69: リファレンス・レベルの設定範囲	2-592
表 2-70: 測定モード	2-594
表 2-71: ファイル・ヘッダの内容 (オプション21型、23型、27型)	2-605
表 2-72: ファイル・ヘッダの内容 (オプション25型、26型、29型)	2-605
表 2-73: パルス解析結果の取得	2-628
表 2-74: :READ コマンドのサブグループ (オプション)	2-645
表 2-75: デジタル変調信号解析結果の取得	2-647
表 2-76: PLL 測定	2-658
表 2-77: :SENSe コマンドのサブグループ	2-715
表 2-78: フィルタの選択	2-719
表 2-79: 測定項目の選択	2-724
表 2-80: ブロック・サイズ設定範囲	2-729
表 2-81: フィルタの選択	2-736
表 2-82: フィルタの選択	2-740
表 2-83: 測定周波数帯	2-750

表 2-84: スパンの設定	2-754
表 2-85: フィルタの選択	2-777
表 2-86: FFT ウィンドウ	2-780
表 2-87: S/A モードの測定項目	2-782
表 2-88: :SENSe コマンドのサブグループ (オプション)	2-795
表 2-89: 変調方式の選択	2-805
表 2-90: 通信規格の選択	2-812
表 2-91: RFID 解析の測定項目	2-823
表 2-92: デコード方式	2-826
表 2-93: 変調方式の選択	2-827
表 2-94: 復調規格の選択	2-831
表 2-95: S/A モードの測定項目	2-848
表 2-96: GSM/EDGE モードの測定項目	2-878
表 2-97: S/A モードの測定項目	2-888
表 2-98: フィルタの選択	2-892
表 2-99: Walsh コード長	2-903
表 2-100: フィルタの選択	2-906
表 2-101: フィルタの選択	2-909
表 2-102: Walsh コード長	2-922
表 2-103: Walsh コード長	2-932
表 2-104: フィルタの選択	2-941
表 2-105: S/A モードの測定項目	2-951
表 2-106: フィルタの選択	2-955
表 2-107: コード番号設定範囲	2-966
表 2-108: フィルタの選択	2-969
表 2-109: フィルタの選択	2-972
表 2-110: コード番号設定範囲	2-985
表 2-111: コード番号設定範囲	2-994
表 2-112: フィルタの選択	2-1005
表 2-113: 変調の種類	2-1048
表 2-114: サブ・ビューの表示形式	2-1051
表 2-115: ビン番号設定範囲	2-1082
表 3-1: SBR のビット機能	3-7
表 3-2: SESR のビット機能	3-8
表 3-3: OCR のビット機能	3-9
表 3-4: ノー・エラー	3-19
表 3-5: コマンド・エラー	3-19
表 3-6: 実行エラー	3-20
表 3-7: デバイス固有エラー	3-21
表 3-8: デバイス固有エラー	3-22
表 B-1: GPIB インタフェース機能と組み込みサブセット	B-1
表 B-2: GPIB インタフェース・メッセージ	B-3
表 C-1: IEEE 共通コマンド	C-1

表 C-2: :CALCulate コマンド	C-1
表 C-3: :CALibration コマンド	C-1
表 C-4: :DISPlay コマンド	C-1
表 C-5: :DISPlay コマンド (オプション)	C-3
表 C-6: :FORMat コマンド	C-9
表 C-7: :INITiate コマンド	C-9
表 C-8: :INPut コマンド	C-9
表 C-9: :SENSe コマンド	C-10
表 C-10: :SENSe コマンド (オプション)	C-12
表 C-11: :STATus コマンド	C-21
表 C-12: :TRACe コマンド	C-21
表 C-13: :TRIGger コマンド	C-21
表 C-14: :UNIT コマンド	C-21
表 D-1: 表示形式とスケール範囲	D-1
表 D-2: 表示形式とスケール範囲 : デジタル変調解析 (オプション21 型)	D-1
表 D-3: 表示形式とスケール範囲 : RFID 解析 (オプション21 型)	D-2
表 D-4: 表示形式とスケール範囲 : シグナル・ソース解析 (オプション21 型)	D-3
表 D-5: 表示形式とスケール範囲 (オプション23 型、27 型)	D-3
表 D-6: 表示形式とスケール範囲 (オプション25 型 cdma2000 解析関連)	D-4
表 D-7: 表示形式とスケール範囲 (オプション26 型 1xEV-DO 解析関連)	D-4
表 D-8: 表示形式とスケール範囲 (オプション29 型 WLAN 解析関連)	D-5
表 D-9: RBW 設定範囲	D-6
表 E-1: SCPI 1999.0 適合コマンド	E-1

本マニュアルについて

本マニュアルは、RSA3408A 型 8GHz リアルタイム・スペクトラム・アナライザのプログラマ・マニュアルです。

第 1 章 準備

概要、GPIB インタフェースの使用方法について説明しています。

第 2 章 コマンドと構文

コマンドの記述法、各コマンドの構文、引数、使用例などをグループ別にアルファベット順に説明しています。

第 3 章 ステータスとイベント

ステータスとイベントを調べる方法、およびエラー・メッセージについて説明しています。

第 4 章 プログラム例

コマンドを使用したプログラム例を示しています。

付 録

ASCII コード表と本機器のデフォルト設定を記載しています。

関連マニュアル

RSA3408A 型 ユーザ・マニュアル (標準添付)

071-1618-XX

本機器のインストールの方法、メニューの操作、機能の詳細などについて説明しています。

第1章 はじめに

はじめに

RSA3400 シリーズは、 GPIB インタフェースを標準装備し、 外部コントローラからデータ取り込み、測定、解析、保存などが遠隔操作できます。

この章では、以下の項目について説明します。

- **概要**
各章の概要を示します。
- **インタフェースの接続**
後部パネルのインタフェース・コネクタの接続について説明します。
- **通信ポートの使用法**
GPIB ポートの使い方について説明します。
- **前面パネルでの通信パラメータ設定**
GPIB 通信パラメータを前面パネルから設定する手順を示します。
- **TekVISA の使用**
TekVISA 通信プロトコルの使用方法を示します。

概要

各章の概要を示します。

コマンドと構文

第2章「コマンドと構文」では、本機器に送るコマンドの構造について説明します。コマンドは、図 1-1 に示した要素から成ります。

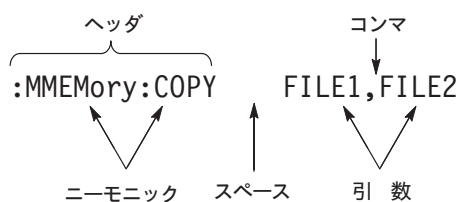


図 1-1 : コマンドの要素

「コマンドの分類」の節でコマンドの機能別一覧を示し、「IEEE 共通コマンド」の節以降でコマンドの記述方法をアルファベット順に説明します（図 1-2 参照）。各コマンドの詳細説明では、コマンドの構文、引数、使用例などを示します。

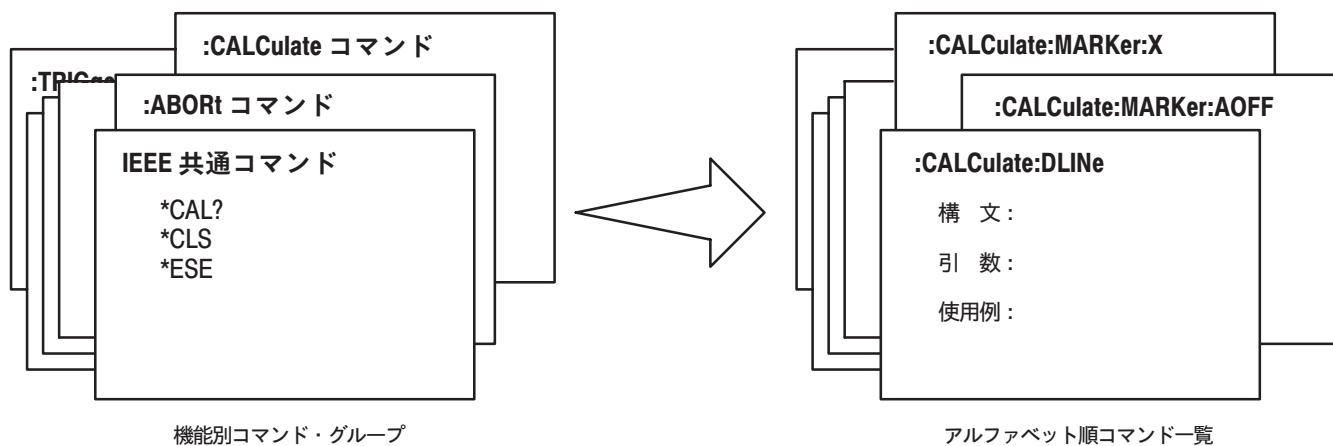


図 1-2 : 機能別コマンド・グループとアルファベット順コマンド一覧

ステータスとイベント

外部コントローラ上で実行中のアプリケーションから本機器に情報を要求すると、本機器はステータスやエラー・メッセージとして情報を返します。図 1-3 は、このシステムの基本動作を示しています。

第 3 章「ステータスとイベント」では、プログラムからステータス/イベント情報を得る方法とイベント/エラー・メッセージについて説明します。

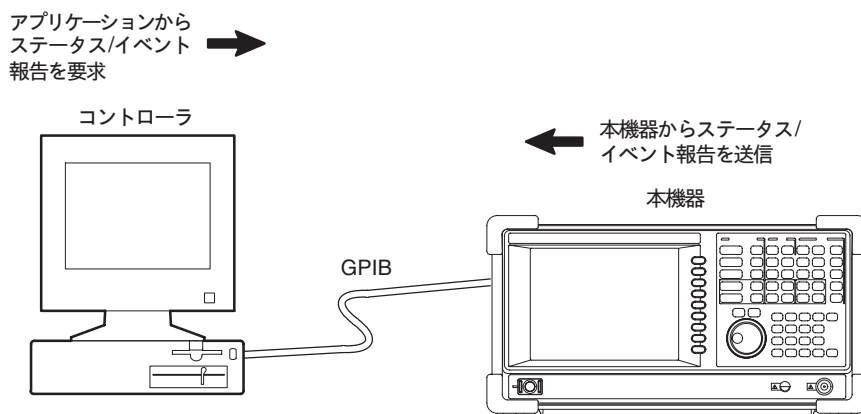


図 1-3 : イベント駆動プログラム

プログラム例

第 4 章「プログラム例」では、サンプル・プログラムとして Visual C++ ソース・コードとマクロ・プログラム実行例を示しています。

```

)
GpibWrite("INSTRument 'SANORMAL'");
GpibWrite("*RST");
GpibTimeOut(NORMAL_TIME);
GpibWrite("CONFigure:SPECTrum:CHPower");
GpibWrite("FREQuency:BAND RF1B");
GpibWrite("FREQuency:CENTer 1GHz");
GpibWrite("FREQuency:SPAN 1MHz");
GpibWrite("*CAL?");
GpibRead(readBuf, MAX_BUF);
printf("*CAL? result = %s\n", readBuf);
GpibWrite("CHPower:BANDwidth:INTegration 300kHz");
GpibWrite("SPECTrum:AVERage ON");
)

```

図 1-4 : サンプル・プログラム (Visual C++ ソース・コード)

インタフェースの接続

本機器は、後部パネルに GPIB ポートを標準装備しています（図1-5 参照）。

■ GPIB インタフェース

コネクタは Dタイプ・シエルで、IEEE488.1-1987規格に準拠しています。この規格に従う GPIBケーブルを使用してください（部品番号 012-0991-00）。

他のインタフェースについては、ユーザ・マニュアルを参照してください。

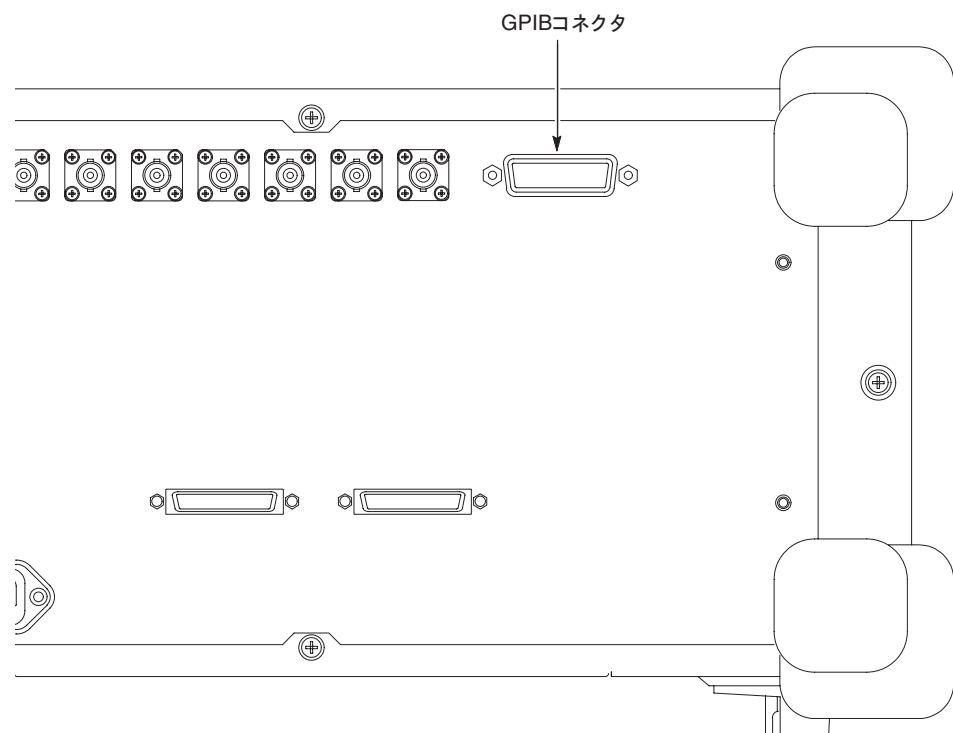


図 1-5 : GPIB コネクタ（後部パネル）

GPIB ポートの使用

本機器は、GPIB のトーカ/リスナ機能を持ち、バス上の外部コントローラおよび他の装置と通信できます。

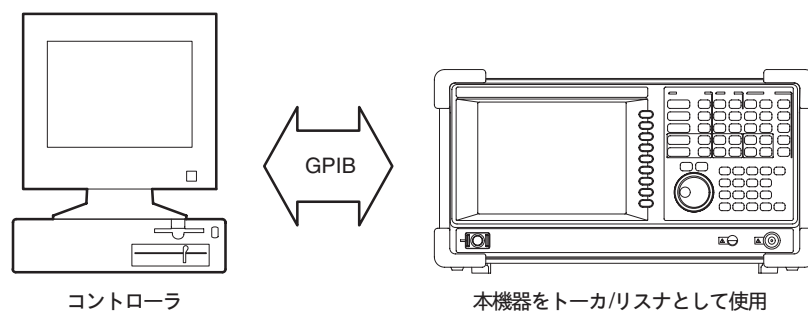


図 1-6 : GPIB 接続

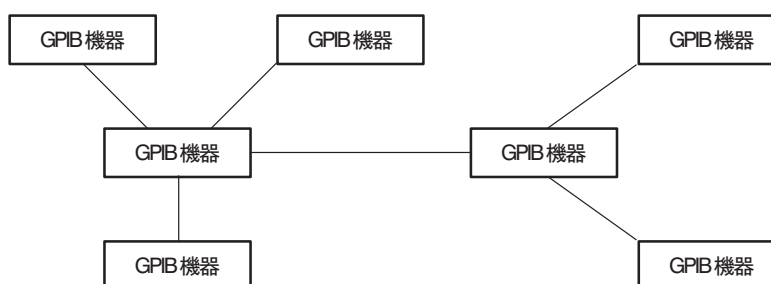


図 1-7 : GPIB ネットワーク構成例

GPIB 接続条件

本機器を GPIB ネットワークに接続するときは、次の規則に従ってください。

- バス上の各機器に異なるデバイス・アドレスを割り当ててください。
2つの機器が同じデバイス・アドレスをもつことはできません。
- 1つのバスに接続できる機器は、コントローラを含めて 15 台までです。
- 各デバイス間は、2m以内のケーブルで接続してください。
- バスの接続に使うケーブルの長さの合計は、20m以下にしてください。
- ネットワーク動作中は、ネットワークに接続されている 2/3 以上の機器の電源スイッチをオンにしてください。
- 図 1-7 のように、星型または直列構成で機器をネットワークに接続します。
ループまたは並列構成は使わないでください。

前面パネルでの通信パラメータ設定

SYSTEM → Remote Setup メニューを使用し、バス構成に合わせて本機器の GPIB パラメータを設定します。一度、パラメータを設定すれば、GPIB インタフェースを通して本機器をコントロールできます。

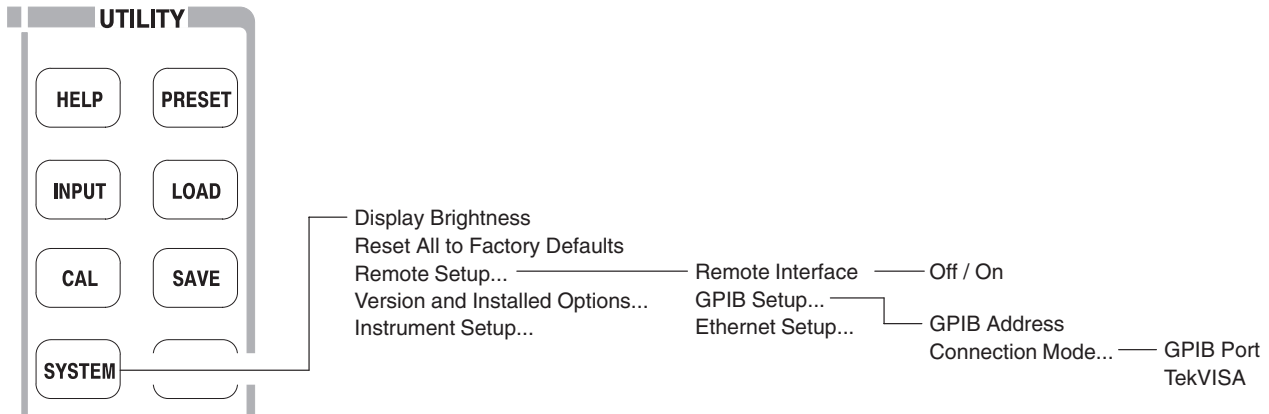


図 1-8 : Remote Setup メニュー

Remote Setup メニュー

Remote Interface

本機器とインタフェース・バスを接続 (On) または切断 (Off) します。

GPIB Setup...

GPIB アドレスと接続方法を設定します。

GPIB Address — 本機器の GPIB アドレスを設定します。

Connection Mode が GPIB Port のときに有効です。

設定範囲：0～30（工場出荷時：1）

Connection Mode — 物理接続 (GPIBポート) または仮想接続 (TekVISA) 接続を選択します。

- **GPIB Port** (デフォルト) — 本機器後部パネルの GPIBコネクタを通して、外部コントローラと接続します。手順については、次の「GPIB ポートの設定」を参照してください。

- **TekVISA** — TekVISA を使用し、Ethernet（本機器側面パネルの LANコネクタ）を通して、外部機器と接続します。また、本機器上でローカルにプログラムを実行します。詳細は、1-8ページの「TekVISA の使用」を参照してください。

Ethernet Setup...

現在、機能は組み込まれていません。

ネットワーク・パラメータの設定は Windows XP のコントロール・パネルで行ってください。

GPIB ポートの設定

GPIB ポートを使用するときは、以下の手順でパラメータを設定します。

1. 前面パネルの UTILITY ブロックにある **SYSTEM** キーを押します。
2. サイド・キーで **Remote Setup...→ GPIB Setup...** を押します。

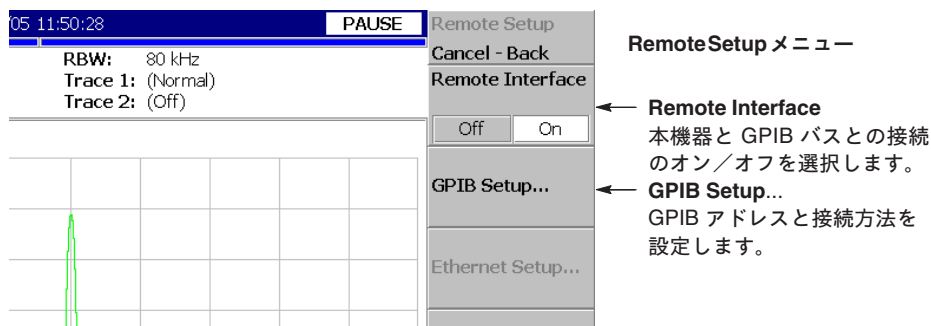


図 1-9 : GPIB パラメータの設定

3. **Conection Mode...** サイド・キーを押し、**GPIB Port** を選択します。
4. **GPIB Address** サイド・キーを押し、ロータリ・ノブまたはキーパッドを使い GPIB アドレスを設定します。

注 : GPIB アドレスは、*RST コマンドで初期化されません。

5. **Cancel-Back** (最上位) サイド・キーを押し、**Remote Interface** サイド・キーを押して、**On** を選択します (図 1-9 参照)。

本機器をバスから切り離すときには、次の操作をします :

- **Remote Interface** サイド・キーを押して、**Off** を選択します。

この操作で本機器はバスから切り離され、コントローラとの通信はすべて中止されます。

TekVISA の使用

TekVISA は、業界標準の通信プロトコルである VISA (Virtual Instrument Software Architecture) を当社製品に実装したものです。RSA3400A シリーズで、SCPI コマンド・セットを使用してプログラムを作成し、後部パネルにある GPIB ポートよりほかのインタフェースを通して、機器をコントロールできます。作成したプログラムは、ローカルまたはリモート・コントローラ上で実行されます。RSA3400A シリーズに実装される TekVISA は、当社のオシロスコープに組み込まれる TekVISA 機能のサブセットを含みます。Virtual GPIB (GPIB8)、GPIB、および LAN (VXI-11プロトコル) インタフェースがサポートされますが、ASRL インタフェースはサポートされません。

注： TekVISA の概念や操作などの詳細は、TekVISA プログラマ・マニュアル (英文) に記載されています。下記の「TekVISA のインストール」を参照して、ファイルにアクセスしてください。

次の点に注意してください。

- TekVISA がインストールされていない、あるいは使用可能になっていないときに接続方法 (Connection Mode) として TekVISA を選択すると、本機器は TekVISA への接続を試みます。ハングアップはしませんが、再度 GPIB Port を選択するまで、GPIB ポートはオフラインのままです。
- 本機器上でローカルに実行されるアプリケーションは、本機器の解析ソフトウェアと Windows プロセッサを共有します。コントローラ用アプリケーションの処理負荷が大きい場合、本機器の解析ソフトウェアの処理速度が下がることがあります。

TekVISA のインストール

TekVISA ツールは、本機器の出荷時にはインストールされていません。以下の手順で、インストールしてください。

TekVISA を使用するには、次の条件を満たす必要があります。

- 本機器の OS として Windows XP が使用されていること。

Windows 98SE が搭載されている機器は、TekVISA を正常に動作させるため、Windows XP にアップグレードしなければなりません。
- 本機器にインストールされた解析ソフトウェアのバージョンが TekVISA とコンパチブルであること。

バージョンは 3.00.000 以上でなければなりません。
- 本機器に TekVISA がインストールされていること (バージョン 2.03 を推奨)。

TekVISA 関連のファイルは、本機器内蔵ハードディスクの次のディレクトリに保存されています。

- C:\Tektronix\TekVISA\installer : TekVISA インストーラ関連ファイル
- C:\Tektronix\TekVISA>manual : TekVISA プログラマ・マニュアル関連ファイル

次の手順で TekVISA ツールをインストールしてください。

注：本機器で Windows XP にアクセスする方法については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

1. USBマウスおよびキーボードを本機器側面パネルの USBコネクタに接続します。
2. 画面に Windows XP デスクトップを表示します。
3. C:\Tektronix\TekVISA\installer ディレクトリ内の setup.exe ファイルを探します。
(Windows Explorer や他のファイル・アクセス方法を使用します)
4. setup.exe を実行し、示された手順に従います。

TekVISA プログラマ・マニュアルは、C:\Tektronix\TekVISA>manual ディレクトリにあります。

第 2 章 コマンドと構文

コマンドの構文

この項では、RSA3400 シリーズのプログラミングで使用する SCPI 標準コマンドと IEEE 488.2 共通コマンドについて説明します。

BNF 表記法の定義

このマニュアルでは、Backus-Naur Form (BNF) 表記法を用いてコマンドと問合せを記述しています。表2-1 に、BNF 記号の定義を示します。

表 2-1: BNF 記号と定義

記号	意味
< >	定義された要素
::=	左辺を右辺として定義
	排他的論理和
{ }	グループ (1つの要素は必要です)
[]	オプション (省略可能)
...	前の要素の繰り返し
()	コメント

SCPI コマンドと問合せ

SCPI (Standard Commands for Programmable Instruments) は、計測機器のリモートプログラミングのガイドラインを定めるコンソシアムで作成された標準規格です。このガイドラインでは、機器のコントロールとデータ転送のためのプログラミング環境を実現しています。この環境では、メーカーによらず、すべての SCPI 機器で定義されたプログラミング・メッセージ、機器応答、およびデータ・フォーマットが使用できます。本機器では、この SCPI 標準を基にしたコマンド言語を使用しています。

SCPI 言語はツリー構造になっています (図 2-1)。ツリーの上位レベルは、ルート・ノードで、その下に 1 つまたは複数の下位レベル・ノードが続きます。

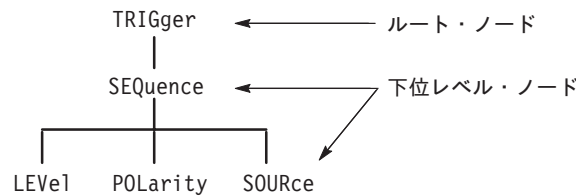


図 2-1 : SCPI サブシステムのツリー構造

設定コマンドと問合せコマンドは、これらサブシステムの階層ツリーから作成できます。設定コマンドを使い、機器の動作を指定します。また、問合せコマンドを使い、測定データとパラメータ設定に関する情報を問合せます。

設定コマンドおよび問合せコマンドは通常、それぞれ単にコマンドおよび問合せと呼ばれます。

設定コマンドの作成

SCPI 設定コマンドは、サブシステムのノードと、各ノードを区切るコロン (:) とで作成されます。

図2-1 で、TRIGger はルート・ノードで、LEVel、POLarity、SOURce などは下位レベル・ノードです。SCPI コマンドを作成するには、ルート・ノードの TRIGger からツリー構造の下方に向かってノードを追加していきます。ほとんどのコマンドといくつかの問合せはパラメータを持っており、パラメータ値を追加する必要があります。範囲外のパラメータ値を指定した場合は、値はデフォルトに設定されます。各コマンドのパラメータについては、2-55ページ以降の「コマンドの記述」を参照してください。

例えば、TRIGger:SEquence:SOURce EXT は、図2-1 の階層ツリーから作成された有効な SCPI 設定コマンドです。

問合せコマンドの作成

問合せコマンドを作成するには、ツリー構造のルート・ノードから下方に向かってノードを追加して行き、最後に疑問符 (?) を追加します。

例えば、TRIGger:SEquence:SOURce? は、図2-1 の階層ツリーから作成された有効な SCPI 問合せコマンドです。

応 答

RSA3400 シリーズに問合せコマンドを送ると、機器の設定条件またはステータスが返ります。応答は値だけが返ります。値がニーモニックの場合には、短縮形で表記されます。

表 2-2: 応答例

問合せ	応 答
:DISPlay:OVlew:SGRam:X:SCALe:SPAN?	10.0E+06
:SENSe:AVERage:TYPE?	RMS

問合せコマンドには、値を返す前に、ある操作を実行するものもあります。例えば、*CAL? 問合せコマンドは、校正を実行します。

パラメータ・タイプ

コマンドと問合せの記述内のすべてのパラメータは、独自のパラメータ・タイプを持っています。パラメータは、<file_name> などのように括弧で囲まれています。パラメータ・タイプはパラメータの後に記され、<NRf> のように括弧で囲まれています。パラメータには、RSA3400 シリーズのコマンド・セットで定義されたものと ANSI/IEEE 488.2-1987 で定義されたものがあります (表 2-3)。

表 2-3: 構文記述で用いるパラメータ・タイプ

パラメータ・タイプ	記 述	例
任意ブロック ¹	指定長の任意データ	#512234xxxx... ここで、5はそれに続く 5桁 (12234) の数がデータ長 (バイト) を指定していることを表します。xxxxx...はデータを表します。 または #0xxxxx...<LF><&EOI>
ブーリアン	ブーリアン数または値	ON または 1、OFF または 0
離散値	特定値	MIN、MAX
2 進	2 進数	#B0110
8 進	8 進数	#Q57、#Q3
16 進 ²	16 進数 (0~9, A, B, C, D, E, F)	#HAA、#H1
NR1 ^{2,3} 数値	整数	0、1、15、-1
NR2 ² 数値	小数	1.2、3.141516、-6.5
NR3 ² 数値	浮動小数	3.1415E-9、-16.1E5
NRf ² 数値	NR1, NR2, NR3 のいずれも可能な 10 進数	NR1, NR2, NR3 の各例を参照してください。
文字列 (string) ⁴	英数字 (引用符で囲む必要があります)	"Test 1, 2, 3"

¹ ANSI/IEEE 488.2 で「任意ブロック・プログラム・データ」として定義。

² ANSI/IEEE 488.2-1992 で定義されたパラメータ・タイプ。

³ パラメータ・タイプが NR1 として定義されていても、コマンドと問合せによっては 8 進数または 16 進数を受け付けます。

⁴ ANSI/IEEE 488.2 で「文字列応答データ」、「文字列プログラム・データ」として定義。

SCPI パラメータ

RSA3400 シリーズでは、ANSI/IEEE 488.2-1987 で定義されたパラメータに加えて SCPI で定義された以下のパラメータが使用できます。

- ブーリアンで <NRf> を使用

OFF | ON | 0 | 1 | <NRf>

<NRf> を使う場合、0 (OFF) 以外の値は 1 (ON) とみなされます。

- 数値パラメータで MAXimum と MINimum を使用

数値パラメータとして、<NRf> 以外に MAXimum と MINimum がサポートされます。

【例】トリガ・レベルを最大値 (100%) に設定します。

```
:TRIGger[:SEquence]:LEVel:IF MAXimum
```

数値パラメータを持つコマンドでは、次の問合せがサポートされます。

```
<header>? { MAXimum | MINimum }
```

応答は、問合せコマンドの設定可能な最大値または最小値が返ります。

【例】トリガ・レベルの最大値を問合せます。

```
(問合せ) :TRIGger[:SEquence]:LEVel:IF? MAXimum  
(応答)    100
```

- 数値パラメータで UP と DOWN を使用

[[:SENse]:FREQuency:CENTer:STEP:COMMAND] コマンド (☞ 2-750ページ) では、数値パラメータとして UP と DOWN がサポートされます。UP/DOWN の設定値増分/減分は、次のいずれかのコマンドで設定された値が適用されます。

```
[[:SENse]:FREQuency:CENTer:STEP:AUTO  
[:SENse]:FREQuency:CENTer:STEP[:INCREMENT]
```

特殊文字

改行 (LF, ASCII 10) と ASCII 127~255 の範囲の文字は、特殊文字として定義されています。これらの文字は任意ブロック引数だけで使います。コマンドの他の部分で使うと、予期されない結果が生じる場合があります。

コマンド、問合せ、パラメータの短縮

SCPI コマンド、問合せ、およびパラメータのほとんどは、短縮形で記述することができます。このマニュアルでは、これらの短縮形を大文字と小文字の組み合わせで示します。大文字はコマンドの短縮形を表します。図2-2 に示すように、大文字だけでコマンドを記述できます。短縮したコマンドと短縮されないコマンドは等価で、機器に同じ動作を要求します。

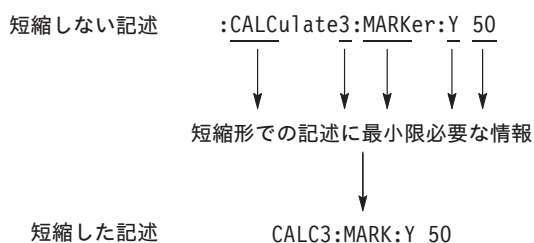


図 2-2 : 短縮したコマンドの例

注 : コマンドまたは問合せニーモニックの最後に付けられた数値 (サフィックス) は、短縮しない記述と短縮した記述のどちらにも含まれます。サフィックスを付けない場合には、デフォルトとして 1 が適用されます。

複数のコマンドと問合せの連結

コマンドまたは問合せは1つのメッセージ内で連結できます。連結したメッセージを作成するには、最初にコマンドまたは問合せを作成し、セミコロン (;) を追加し、それからコマンドまたは問合せを追加していきます。セミコロンに続くコマンドがルート・ノードの場合は、その前にコロン (:) を挿入してください。図2-3 に複数のコマンドと問合せを含む連結したメッセージを示します。連結したメッセージは、セミコロンでなくコマンドまたは問合せで終わる必要があります。メッセージ内に含まれた問合せに対する応答は、セミコロンで区切られます。

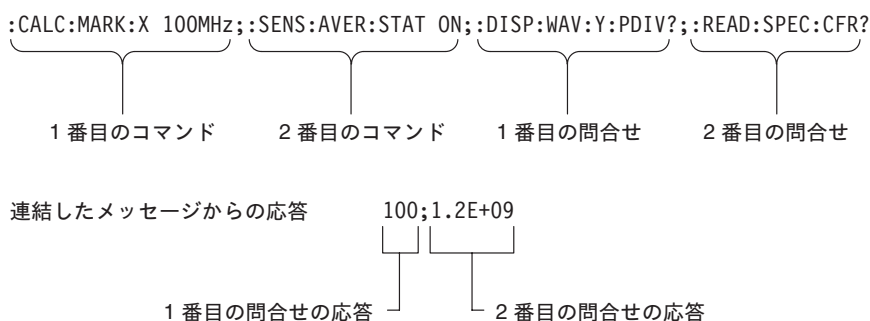


図 2-3 : 複数のコマンドと問合せの連結

コマンドまたは問合せが、前にあるコマンドまたは問合せと共通のルート・ノードおよび下位レベル・ノードをもつ場合は、これらのノードを省略できます。図2-4 では、2 番目のコマンドが最初のコマンドと共通のルート・ノード (TRIG:SEQuence) をもつため、これらのノードを省略できます。

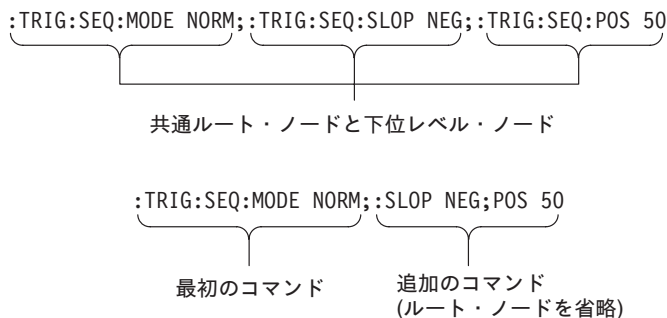


図 2-4 : 連結したメッセージ内でのルート・ノードと下位レベル・ノードの省略

単位と SI 接頭辞

引数の振幅、周波数、時間などが小数点の場合、浮動小数 <NR3> の代わりに、SI 単位を用いて値を表すことができます (SI は Systeme International d'Unites Standard に準拠した単位です)。例えば、電圧 200.0E-3、周波数 1.2E+6 は、それぞれ、200mV、1.2MHz として指定できます。

単位として使用できる記号は、次の通りです。

表 2-4: 単位

記号	意味
dB	デシベル (相対振幅)
dBm	デシベル (絶対振幅)
DEG	度 (位相)
Hz	ヘルツ (周波数)
PCT	%
s	秒 (時間)
V	ボルト (電圧)

SI 接頭辞として使用できる記号は、次の通りです。

表 2-5: SI 接頭辞

SI 接頭辞	A	F	P	N	U	M	K	MA ¹	G	T	PE	EX
対応するべき乗	10 ⁻¹⁸	10 ⁻¹⁵	10 ⁻¹²	10 ⁻⁹	10 ⁻⁶	10 ⁻³	10 ⁺³	10 ⁺⁶	10 ⁺⁹	10 ⁺¹²	10 ⁺¹⁵	10 ⁺¹⁸

1. 単位が Hz のときだけ、MA の代わりに M が使用でき、周波数が MHz で表せます。

単位は省略できます。ただし、SI 接頭辞を使用するときには、必ず単位を付けなければなりません。例えば、周波数 15MHz は次のように表せます。

15.0E6、1.5E7Hz、15000000、15000000Hz、15MHz など
ただし、“15M” と表すことはできません。

単位および SI 接頭辞として使う記号は、大文字と小文字の両方が可能です。例えば、次の例は同じ結果になります。

170mhz、170mHz、170MHz など
250mv、250mV、250MV など

一般的な規則

SCPI コマンド、問合せ、およびパラメータの使用について、以下の 3つの一般的な規則があります。

- 文字列を引用する場合には、引用符 (') または二重引用符 (") のいずれかを使用できますが、一つの文字列で両方を使用することはできません。

正しい記述 : " この文字列では、引用符を正しく使用しています "
 ' この文字列では、引用符を正しく使用しています '

誤った記述 : " この文字列では、引用符を誤って使用しています '

- コマンド、問合せ、およびパラメータを記述する場合には、大文字、小文字、または両方を混在して使用することができます。

```
OUTPUT:FILTER:LPASS:FREQUENCY 200MHZ
```

このコマンドは、次のコマンドと同じ意味をもちます。

```
output:filter:lpass:frequency 200mhz
```

さらに、次のコマンドとも同じ意味をもちます。

```
OUTPUT:filter:lpass:FREQUENCY 200MHz
```

注 : 引用符内の文字列 (例えば、ファイル名) は、大文字と小文字が区別されます。

- ノード内またはノード間で、スペース (空白) は使用できません。

正しい記述 : OUTPUT:FILTER:LPASS:FREQUENCY 200MHZ

誤った記述 : OUTPUT: FILTER: LPASS:FREQ UENCY 200MHZ

IEEE 488.2 共通コマンド

概 要

ANSI/IEEE 488.2 規格では、コントローラと機器間のインタフェースで使用するコード、フォーマット、プロトコル、および共通コマンドと問合せの使用方法について定義しています。RSA3400 シリーズは、この規格に準拠しています。

コマンドと問合せ

IEEE 488.2 共通コマンドは、アスタリスク (*) の後にコマンドが続き、オプションとしてスペースとパラメータ値が続きます。IEEE 488.2 の問合せは、アスタリスクの後に問合せコマンドと疑問符が続きます。

次は、IEEE 488.2 共通コマンドの例です。

*ESE 16

*CLS

次は、問合せの例です。

*ESR?

*IDN?

構造化ニーモニック

ヘッダ・ニーモニックには、決まった範囲の中から1つのニーモニックを選択するものがあります。例えば、CALCulate ニーモニックは、CALCulate1、CALCulate2、CALCulate3、CALCulate4 のいずれかです。これらのニーモニックは、コマンドの中で他のニーモニックと同様に扱います。例えば、CALCulate1:MARKer:MAX コマンドがあり、CALCulate2:MARKer:MAX コマンドもあります。コマンド説明ではこのニーモニックを簡単に CALCulate<x> と表します。この値 (x) を省略した場合はデフォルトの1が使われます。

以下に、ニーモニックの一覧を示します。

表 2-6: 構造化ニーモニック

記号	意味
CALCulate<x>	<x> = 1、2、3、または 4。 複数のビューを表示したときに各ビューに割り当てられた番号です。
DLINe<x>	<x> = 1 または 2。 それぞれ、水平ライン 1 または 2 を表します。
VLINe<x>	<x> = 1 または 2。 それぞれ、垂直ライン 1 または 2 を表します。
MARKer<x>	<x> = 1 または 2。 それぞれ、マーカ 1 または 2 を表します。
TRACe<x> DATA<x>	<x> = 1 または 2。 それぞれ、トレース 1 または 2 を表します。

コマンドの分類

この節では、最初に、機能ごとにコマンド一覧を示します。次に、2-55ページ以降のコマンドの記述で、アルファベット順にコマンドの詳細を説明します。

説明の中では“(?)”のマークを使用しています。コマンド・ヘッダの後ろにこのマークが付いている場合、そのコマンドは、問合せコマンドを伴っていることを表します。それ以外のコマンドは、設定コマンドか問合せコマンドのどちらかです。

RSA3400 シリーズは、特に断りがない限り、SCPI (Standard Commands for Programmable Instruments) 1999.0 と IEEE Std 488.2-1987 に準拠しています。

このマニュアルで用いている表記法については、2-1ページから始まる「コマンドの構文」を参照してください。

測定モード

コマンドは測定モードによって使用できる場合とできない場合があります。各コマンドの記述の「測定モード」の項に、コマンドが使用できる測定モードを示しています。測定モードは、:INSTrument[:SElect] コマンド (2-595ページ) で設定し、下表に示したニーモニックを使います。

表 2-7: 測定モード

モード名	意味
S/A モード	
SANORMAL	一般的なスペクトラム解析
SASGRAM	スペクトログラムを使用したスペクトラム解析
SARTIME	リアルタイム・スペクトラム解析
SAZRTIME	ズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析
SAUL3G	W-CDMA アップリンクのスペクトラム解析 (オプション23 型のみ)
SADLR5_3G	3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析 (オプション27 型のみ)
DEMODO モード	
DEMADEM	アナログ変調解析
DEMDEM	デジタル変調解析 (オプション21 型のみ)
DEMRfid	RFID 変調解析 (オプション21 型のみ)
DEMUL3G	W-CDMA アップリンクの変調解析 (オプション23 型のみ)
DEMGSMEDGE	GSM/EDGE の変調解析 (オプション24 型のみ)
DEMFLCDMA2K	cdma2000 フォワード・リンク解析 (オプション25 型のみ)
DEMRLCDMA2K	cdma2000 リバース・リンク解析 (オプション25 型のみ)
DEMFL1xEVDO	cdma2000 1xEV-DO フォワード・リンク解析 (オプション26 型のみ)
DEMRL1xEVDO	cdma2000 1xEV-DO リバース・リンク解析 (オプション26 型のみ)
DEMDLR5_3G	3GPP-R5 ダウンリンクの変調解析 (オプション27 型のみ)
DEMULR5_3G	3GPP-R5 アップリンクの変調解析 (オプション27 型のみ)
DEMWLAN	IEEE802.11a/b/g 解析 (オプション29 型のみ)
TIME モード	
TIMCCDF	CCDF 解析
TIMTRAN	時間特性解析
TIMPULSE	パルス特性解析
TIMSSOURCE	シグナル・ソース解析 (オプション21 型のみ)

機能別グループ

コマンドは、下表に示したグループに大別されます。

表 2-8: コマンド・グループ一覧

コマンド・グループ	機能
IEEE 共通	IEEE Std 488.2-1987 に準拠したコマンドです。
:ABORt	掃引、測定、トリガをリセットし、再スタートします。
:CALCulate	マーカと表示ラインをコントロールします。
:CALibration	本機器の校正を行います。
:CONFigure	各測定に応じた基本設定を行います。
:DISPlay	ビューの表示をコントロールします。
:FETCh	最後に取り込んだ波形データについて測定結果を取得します。
:FORMat	出力データのフォーマットを設定します。
:HCOPy	画面のハードコピー出力をコントロールします。
:INITiate	データ取り込みをコントロールします。
:INPut	入力関連の設定を行います。
:INSTrument	測定モードを選択します。
:MMEMory	ファイルの保存／読み出しをコントロールします。
:PROGram	マクロ・プログラムをコントロールします。
:READ	データを取り込んで測定結果を取得します。
:SENSe	測定に応じて機器の詳細な設定を行います。
:STATus	ステータス／イベント・レジスタをコントロールします。
:SYSTem	システム・パラメータの設定とシステム情報の問合せを行います。
:TRACe	トレース 1, 2 の表示をコントロールします。
:TRIGger	トリガをコントロールします。
:UNIT	測定単位の設定を行います。

以下で、各グループ別にコマンド一覧を示します。

IEEE 共通コマンド

IEEE 488.2 共通コマンドは、アスタリスク (*) の後にコマンドが続き、オプションのスペースとパラメータ値が続きます。問合せは、アスタリスクの後に問合せコマンドと疑問符が続きます。

表 2-9: IEEE 共通コマンド

ヘッダ	説明
*CAL?	すべての校正ルーチンを実行する
*CLS	イベント/ステータスをクリアする
*ESE(?)	ESER レジスタの値を設定する
*ESR?	SESR レジスタの値を問合せ
*IDN?	機器の ID を問合せ
*OPC(?)	コマンド間の同期をとるときに使用する
*OPT?	本機器に組み込まれたオプションを問合せ
*RST	本機器を工場出荷時設定に戻す
*SRE(?)	SRER レジスタの値を設定する
*STB?	ステータス・バイト・レジスタの値を問合せ
*TRG	トリガ・イベントを発生させる
*TST?	セルフ・テストを実行する
*WAI	他のコマンドの実行を待つ

:ABORt コマンド

掃引、測定、およびトリガをリセットし、再スタートします。

表 2-10: :ABORt コマンド

ヘッダ	説明
:ABORt	掃引、測定、トリガをリセットし、再スタートする

:CALCulate コマンド

マーカ機能とライン表示をコントロールします。

表 2-11: :CALCulate コマンド

ヘッダ	説明
:CALCulate<x>:DLINe<y>(?)	水平ラインの縦方向の位置を設定する
:CALCulate<x>:DLINe<y>:STATe(?)	水平ラインを表示するかどうかを選択する
:CALCulate<x>:MARKer:AOFF	すべてのマーカをオフにする
:CALCulate<x>:MARKer<y>:MAXimum	マーカをトレースの最大値に置く
:CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE(?)	マーカのモードを切り替える
:CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:HIGHer	マーカを上方向のピークに移動する
:CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:LEFT	マーカを左方向のピークに移動する

表 2-11: :CALCulate コマンド

ヘッダ	説明
:CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:LOWer	マーカを下方方向のピークに移動する
:CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:RIGHT	マーカを右方向のピークに移動する
:CALCulate<x>:MARKer<y>:PTHReshoId(?)	ピーク検出時の横軸上のマーカ最小移動量を設定する
:CALCulate<x>:MARKer<y>:ROFF	リファレンス・カーソルをオフにする
:CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:CENTer	マーカ位置に中心周波数を移動する
:CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:MEASurement	マーカ位置に測定開始位置を移動する
:CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:RCURsor	マーカ位置にリファレンス・カーソルを表示する
:CALCulate<x>:MARKer<y>[:STATe]	マーカを表示するかどうかを選択する
:CALCulate<x>:MARKer<y>:T(?)	時間上のマーカ位置を設定する
:CALCulate<x>:MARKer<y>:TOGGle	デルタ・マーカをメイン・マーカと入れ替える
:CALCulate<x>:MARKer<y>:TRACe(?)	マーカを置くトレースを選択する
:CALCulate<x>:MARKer<y>:X(?)	横軸上のマーカ位置を設定する
:CALCulate<x>:MARKer<y>:Y(?)	縦軸上のマーカ位置を設定する
:CALCulate<x>:VLINe<y>(?)	垂直ラインの横方向の位置を設定する
:CALCulate<x>:VLINe<y>:STATe(?)	垂直ラインを表示するかどうかを選択する

:CALibration コマンド

本機器の校正を行います。

表 2-12: :CALibration コマンド

ヘッダ	説明
:CALibration[:ALL](?)	すべての校正ルーチンを実行する
:CALibration:AUTO(?)	RF ゲイン校正を自動で実行するかどうかを選択する
:CALibration:DATA:DEFault	校正データを工場出荷時のデフォルト値に戻す
:CALibration:FLATness:IF(?)	IF フラットネス校正を実行する
:CALibration:IQ:CORRection:MAGNitude?	IF フラットネス補正係数の大きさの値を取得する
:CALibration:IQ:CORRection:PHASe?	IF フラットネス補正係数の位相の値を取得する
:CALibration:IQ:HEADer?	IQ データ・ファイルのヘッダ情報を取得する
:CALibration:IQ:VFRame:BNUMber(?)	ブロック番号を指定する
:CALibration:IQ:VFRame[:TYPE](?)	IQ データの有効フレームの種類を選択する
:CALibration:OFFSet:BASEbanddc(?)	ベースバンド DC オフセット校正を実行する
:CALibration:OFFSet:CENTer(?)	センタ・オフセット校正を実行する
:CALibration:OFFSet:IQINput(?) (オプション03 型のみ)	IQ 入力オフセット校正を実行する
:CALibration:RF(?)	RF ゲイン校正を実行する

:CONFigure コマンド

各測定に応じた基本設定を行います。

表 2-13: :CONFigure コマンド

ヘッダ	説明
:CONFigure:ADEMod:AM	AM 変調信号解析のデフォルト設定にする
:CONFigure:ADEMod:FM	FM 変調信号解析のデフォルト設定にする
:CONFigure:ADEMod:PM	PM 変調信号解析のデフォルト設定にする
:CONFigure:ADEMod:PSpectrum	パルス・スペクトラム測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:CCDF	CCDF 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:OView	オーバービュー表示データ取得のために測定をオフにする
:CONFigure:PULSe	パルス測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:SPECTrum	スペクトラム測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:SPECTrum:ACPower	ACPR 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:SPECTrum:CFrequency	キャリア周波数測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:SPECTrum:CHPower	チャンネル電力測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:SPECTrum:CNRatio	C/N 比測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:SPECTrum:EBWidth	放射帯域幅測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:SPECTrum:OBWidth	OBW 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:SPECTrum:SPURious	スプリアス測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:TFrequency:RTIME	リアルタイム・スペクトラム測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:TFrequency:SGRam	スペクトログラム測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:TRANSient:FVTime	時間対周波数測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:TRANSient:IQVTime	時間対 IQ レベル測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:TRANSient:PVTTime	時間対電力測定のデフォルト設定にする

:CONFigure コマンド (オプション)

オプションの解析ソフトウェアで使用する :CONFigure コマンドを示します。

表 2-14: :CONFigure コマンド

ヘッダ	説明
オプション21 型 拡張測定解析機能関連	
:CONFigure:DDEMod	デジタル変調信号解析のデフォルト設定にする
:CONFigure:RFID	RFID 解析のデフォルト設定にする
:CONFigure:SSource	シグナル・ソース解析のデフォルト設定にする
オプション23 型 W-CDMA アップリンク解析関連	
:CONFigure:AC3Gpp	W-CDMA ACLR 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:UL3Gpp	W-CDMA アップリンク解析のデフォルト設定にする
オプション24 型 GSM/EDGE 解析関連	
:CONFigure:GSMedge:MACCuracy	GSM/EDGE の変調確度測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:GSMedge:MCPower	GSM/EDGE の平均キャリア電力測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:GSMedge:MODulation	連続変調時スペクトラム測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:GSMedge:PVTTime	GSM/EDGE の電力対時間測定のデフォルト設定にする

表 2-14: :CONFigure コマンド (続き)

ヘッダ	説明
:CONFigure:GSMedge:SPURious	GSM/EDGE のスプリアス測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:GSMedge:SWITching	スイッチング時スペクトラム測定のデフォルト設定にする
オプション25 型 cdma2000 解析関連 (:Standard = :FLCDMA2K :RLCDMA2K)	
:CONFigure:Standard:ACPower	ACPR 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:CCDF	CCDF 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:CDPower	コード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:CHPower	チャンネル電力測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:IM	相互変調測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:MACCuracy	変調確度測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:OBWidth	OBW 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:PCCPtime	パイロット/コード・チャンネル測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:RLCDMA2K:PVTime	ゲートッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:SEMask	スペクトラム放射マスク測定のデフォルト設定にする
オプション26 型 1xEV-DO 解析関連 (:Standard = :FL1XEVD0 :RL1XEVD0)	
:CONFigure:Standard:ACPower	ACPR 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:CCDF	CCDF 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:CDPower	コード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:CHPower	チャンネル電力測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:IM	相互変調測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:MACCuracy	変調確度測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:OBWidth	OBW (占有帯域幅) 測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:PCCPtime	パイロット/コード・チャンネル測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:FL1XEVD0:PVTime	ゲートッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:Standard:SEMask	スペクトラム放射マスク測定のデフォルト設定にする
オプション27 型 3GPP-R5 解析関連	
:CONFigure:DLR5_3GPP	3GPP-R5ダウンリンク変調解析の設定を行う
:CONFigure:SADLR5_3GPP:ACLR	3GPP-R5ダウンリンクACLR測定の設定を行う
:CONFigure:SADLR5_3GPP:CHPower	3GPP-R5ダウンリンクのチャンネル電力測定の設定を行う
:CONFigure:SADLR5_3GPP:OBW	3GPP-R5ダウンリンクOBW測定の設定を行う
:CONFigure:SADLR5_3GPP:SEMask	3GPP-R5ダウンリンクのスペクトラム放射マスク設定を行う
:CONFigure:ULR5_3GPP	3GPP-R5アップリンク変調解析の設定を行う
オプション29 型 WLAN 解析関連	
:CONFigure:WLAN	WLAN 変調解析の設定を行う
:CONFigure:WLAN:SMASK	スペクトラム放射マスク測定のデフォルト設定にする
:CONFigure:WLAN:TPower	送信電力測定のデフォルト設定にする

:DISPlay コマンド

表示に関する設定を行います。

表 2-15: :DISPlay コマンド

ヘッダ	説明
:DISPlay:CCDF サブグループ	CCDF 測定関連
:DISPlay:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATE](?)	ガウス曲線を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:CCDF:LINE:REfERENCE[:STATE](?)	基準線を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:CCDF:LINE:REfERENCE:STORe	現在の CCDF 波形を基準線として保存し、表示する
:DISPlay:CCDF:X[:SCALE]:AUTO(?)	横軸スケールの自動設定をオン/オフする
:DISPlay:CCDF:X[:SCALE]:MAXimum(?)	横軸の最大値 (右端) を設定する
:DISPlay:CCDF:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:CCDF:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:CCDF:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:CCDF:Y[:SCALE]:MAXimum(?)	縦軸の最大値 (上端) を設定する
:DISPlay:CCDF:Y[:SCALE]:MINimum(?)	縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:OView サブグループ	DEMOM / TIME モードのオーバービュー関連
:DISPlay:OView:FORMat(?)	オーバービューの表示形式を選択する
:DISPlay:OView:OTIndicator(?)	トリガ出力インジケータを表示するかどうかを選択する
:DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALE]:OFFSet(?)	スペクトログラムの色軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALE]:RANGe(?)	スペクトログラムの色軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALE]:OFFSet(?)	スペクトログラムの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALE]:SPAN(?)	スペクトログラムの横軸のスケール (スパン) を設定する
:DISPlay:OView:SGRam:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	スペクトログラムの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:OView:SGRam:Y[:SCALE]:PLINe(?)	スペクトログラムの縦軸のスケールを設定する
:DISPlay:OView:WAVeform:X[:SCALE]:OFFSet(?)	時間領域表示の横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:OView:WAVeform:X[:SCALE]:PDIVision(?)	時間領域表示の横軸のスケールを設定する
:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALE]:FIT	時間領域表示のオートスケールを実行する
:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALE]:FULL	時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	時間領域表示の縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	時間領域表示の縦軸のスケールを設定する
:DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALE]:OFFSet(?)	ズーム付きスペクトログラムの色軸の最小値を設定する
:DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALE]:RANGe(?)	ズーム付きスペクトログラムの色軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALE]:OFFSet(?)	ズーム付きスペクトログラムの横軸の最小値を設定する
:DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALE]:SPAN(?)	ズーム付きスペクトログラムの横軸のスケールを設定する
:DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	ズーム付きスペクトログラムの縦軸の最小値を設定する
:DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALE]:PLINe(?)	ズーム付きスペクトログラムの縦軸のスケールを設定する
:DISPlay:PULSe:MView SVIew サブグループ	パルス測定のメインおよびサブ・ビュー関連
:DISPlay:PULSe:MView:RESuIt:CHPower(?)	チャンネル電力測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MView:RESuIt:DCYClE(?)	デューティ・サイクル測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MView:RESuIt:EBWidth(?)	EBW 測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MView:RESuIt:FREQuency(?)	キャリア周波数測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MView:RESuIt:OBWidth(?)	OBW 測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MView:RESuIt:OORatio(?)	パルス・オン/オフ比測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MView:RESuIt:PERiod(?)	パルス繰り返し間隔測定結果を表示するかどうかを選択する

表 2-15: :DISPlay コマンド (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESuIt:PHASe(?)	パルス間位相差測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESuIt:PPOWer(?)	ピーク電力測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESuIt:RIPPlE(?)	パルス・リップル測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESuIt:WIDTh(?)	パルス幅測定結果を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:PULSe:SVIew:GUIDelInes(?)	サブ・ビューに補助線を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:PULSe:SVIew:RANGe(?)	サブ・ビュー上のパルスの表示方法を選択する
:DISPlay:PULSe:SVIew:RESuIt(?)	サブ・ビューで測定結果をどのように表示するかを選択する
:DISPlay:PULSe:SVIew:SELEct(?)	測定するパルスを選択する
:DISPlay:PULSe:SPECTrum サブグループ	パルス特性解析のスペクトラム表示関連
:DISPlay:PULSe:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)	横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:PULSe:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)	横軸 (周波数) のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
:DISPlay:PULSe:WAVEform サブグループ	パルス特性解析の時間領域表示関連
:DISPlay:PULSe:WAVEform:X[:SCALe]:OFFSet(?)	横軸 (時間) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:WAVEform:X[:SCALe]:PDIVision(?)	横軸 (時間) のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:PULSe:WAVEform:Y[:SCALe]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:PULSe:WAVEform:Y[:SCALe]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:PULSe:WAVEform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)	縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:PULSe:WAVEform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)	縦軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:SPECTrum サブグループ	スペクトラム・ビュー関連
:DISPlay:SPECTrum:BMARker:STATe(?)	バンド・パワー・マーカのオン/オフを選択する
:DISPlay:SPECTrum:GRATicule:GRID(?)	目盛りの表示の仕方を選択する
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:INTerval(?)	振幅マルチ表示ラインの間隔を設定する
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:OFFSet(?)	振幅マルチ表示ラインのオフセットを設定する
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude[:STATe](?)	振幅マルチ表示ラインを表示するかどうかを選択する
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:ANNOtation[:STATe](?)	マルチ表示ラインのリードアウトを表示するかどうかを選択する
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:INTerval(?)	周波数マルチ表示ラインの間隔を設定する
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:OFFSet(?)	周波数マルチ表示ラインのオフセットを設定する
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency[:STATe](?)	周波数マルチ表示ラインを表示するかどうかを選択する
:DISPlay:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)	横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)	横軸 (周波数) のスケールを設定する
:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
:DISPlay:TFREquency サブグループ	3次元表示 (スペクトログラム) 関連
:DISPlay:TFREquency:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet(?)	スペクトログラムの色軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:TFREquency:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe(?)	スペクトログラムの色軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:ANNOtation[:STATe](?)	マルチ表示ラインのリードアウトを表示するかどうかを選択する
:DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency:INTerval(?)	周波数マルチ表示ラインの間隔を設定する
:DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency:OFFSet(?)	周波数マルチ表示ラインのオフセットを設定する

表 2-15: :DISPlay コマンド (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:FREquency[:STATe](?)	周波数マルチ表示ラインを表示するかどうかなを選択する
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:INTerval(?)	時間マルチ表示ラインの間隔を設定する
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:OFFSet(?)	時間マルチ表示ラインのオフセットを設定する
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME[:STATe](?)	時間マルチ表示ラインを表示するかどうかなを選択する
:DISPlay:TFRequency:SGRam:X[:SCALE]:OFFSet(?)	スペクトログラムの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:TFRequency:SGRam:X[:SCALE]:SPAN(?)	スペクトログラムの横軸のスケール (スパン) を設定する
:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	スペクトログラムの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALE]:PLINe(?)	スペクトログラムの縦軸のスケールを設定する
:DISPlay[:VIEW] サブグループ	表示全般
:DISPlay[:VIEW]:BRIGhtness(?)	画面の輝度を設定する
:DISPlay[:VIEW]:FORMat(?)	ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:WAVeform サブグループ	時間領域表示関連
:DISPlay:WAVeform:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (時間) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:WAVeform:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (時間) のスケールを設定する
:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する

:DISPlay コマンド (オプション)

オプションの解析ソフトウェアで使用する :DISPlay コマンドを示します。

表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション)

ヘッダ	説明
オプション21 型 拡張測定解析機能関連	
:DISPlay:DDEMod サブグループ	デジタル変調信号解析関連
:DISPlay:DDEMod:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe](?)	CCDF 測定でガウス曲線を表示するかどうかなを選択する
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:BFIT[:STATe](?)	AM/AM/AM/PM 測定で近似曲線を表示するかどうかなを選択する
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:REFerence[:STATe](?)	AM/AM/AM/PM 測定で基準線を表示するかどうかなを選択する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:DSTart(?)	ASK/FSK/GFSK 信号のデコード開始位置を選択する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat(?)	メイン・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:RADix(?)	メイン・ビューのシンボルの基数を選択する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:MAXimum(?)	CCDF メイン・ビューの縦軸の最大値 (上端) を設定する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:MINimum(?)	CCDF メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:DSTart(?)	ASK/FSK/GFSK 信号のデコード開始位置を選択する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:HSSHift(?)	Qデータを 1/2シンボルほどずらすかどうかなを選択する

表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:DDEMod:SVIew:RADix(?)	サブ・ビューのシンボルの基数を選択する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FIT	サブ・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FULL	サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:MAXimum(?)	CCDF サブ・ビューの縦軸の最大値 (上端) を設定する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:MINimum(?)	CCDF サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod サブグループ	RFID 解析のメインおよびサブ・ビュー関連
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:BURSt[:NUMBER](?)	測定結果を表示するバーストの番号を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:EDGE[:NUMBER](?)	測定結果を表示するエッジの番号を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:ENVELOpe[:NUMBER](?)	測定結果を表示するエンベロープの番号を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:GUIDeLine[:STATe](?)	メイン・ビューにガイドラインを表示するかどうかを選択する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:PDIVision(?)	メイン・ビューの横軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	メイン・ビューの縦軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:BURSt[:NUMBER](?)	測定結果を表示するバーストの番号を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:EDGE[:NUMBER](?)	測定結果を表示するエッジの番号を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:ENVELOpe[:NUMBER](?)	測定結果を表示するエンベロープの番号を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:GUIDeLine[:STATe](?)	サブ・ビューにガイドラインを表示するかどうかを選択する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:PDIVision(?)	サブ・ビューの横軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FIT	サブ・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FULL	サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	サブ・ビューの縦軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:RFID:SPECTrum サブグループ	RFID 解析のスペクトラム表示関連
:DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (周波数) のスケールを設定する
:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
:DISPlay:RFID:WAVEform サブグループ	RFID 解析の時間領域表示関連
:DISPlay:RFID:WAVEform:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (時間) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:RFID:WAVEform:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (時間) のスケールを設定する

表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:RFID:WAVEform:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:RFID:WAVEform:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:RFID:WAVEform:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:RFID:WAVEform:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
:DISPlay:SSource:MVlew サブグループ	シグナル・ソース解析のメイン・ビュー関連
:DISPlay:SSource:MVlew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SSource:MVlew:X[:SCALE]:PDIVision(?)	メイン・ビューの横軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:SSource:MVlew:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:SSource:MVlew:X[:SCALE]:START(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SSource:MVlew:X[:SCALE]:STOP(?)	メイン・ビューの横軸の最大値 (右端) を設定する
:DISPlay:SSource:MVlew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:SSource:MVlew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:SSource:MVlew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SSource:MVlew:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	メイン・ビューの縦軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:SSource:MVlew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:SSource:SVlew サブグループ	シグナル・ソース解析のサブ・ビュー関連
:DISPlay:SSource:SVlew:COLor[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの色軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:COLor[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの色軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:SSource:SVlew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:X[:SCALE]:PDIVision(?)	サブ・ビューの横軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:X[:SCALE]:START(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:X[:SCALE]:STOP(?)	サブ・ビューの横軸の最大値 (右端) を設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:Y[:SCALE]:FIT	サブ・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:SSource:SVlew:Y[:SCALE]:FULL	サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	サブ・ビューの縦軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:Y[:SCALE]:PLINe(?)	サブ・ビューの縦軸 (フレーム番号) のスケールを設定する
:DISPlay:SSource:SVlew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:SSource:SPECTrum サブグループ	シグナル・ソース解析のスペクトラム表示関連
:DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (周波数) のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:SSource:TFRrequency サブグループ	シグナル・ソース解析の 3次元表示関連
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:COLor[:SCALE] :OFFSet(?)	ノイズグラムの色軸 (C/N) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:COLor[:SCALE] :RANGe(?)	ノイズグラムの色軸 (C/N) のフルスケールを設定する
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:X[:SCALE]:START(?)	ノイズグラムの横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:X[:SCALE]:STOP(?)	ノイズグラムの横軸 (周波数) の最大値 (右端) を設定する

表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	ノイズグラムの縦軸 (フレーム) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y[:SCALE]:PLINe(?)	ノイズグラムの縦軸 (フレーム) のスケールを設定する
:DISPlay:SSource:WAVeform サブグループ	シグナル・ソース解析の時間領域表示関連
:DISPlay:SSource:WAVeform:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (時間) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SSource:WAVeform:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (時間) のスケールを設定する
:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
:DISPlay:AC3Gpp サブグループ	W-CDMA ACLR 測定関連
:DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALE]:RANGe(?)	横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALE]:RANGe(?)	縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:UL3Gpp サブグループ	W-CDMA アップリンク解析関連
:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SHORtcode(?)	表示するショート・コードを選択する
:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SRATe(?)	表示するシンボル・レートを選択する
:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:TSLot(?)	表示するタイム・スロットを選択する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:COLor[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの色軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:COLor[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの色軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:FORMat(?)	メイン・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:RADix(?)	メイン・ビューのシンボルの基数を選択する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit(?)	メイン・ビューの縦軸の単位を選択する
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの色軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの色軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:RADix(?)	サブ・ビューのシンボルの基数を選択する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALE]:FIT	サブ・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALE]:FULL	サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALE]:PUNit(?)	サブ・ビューの縦軸の単位を選択する
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定する

表 2-16: :DISPLAY コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
オプション24 型 GSM/EDGE 解析関連	
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod サブグループ	GSM/EDGE 解析のメインおよびサブ・ビュー関連
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:FILTer:EINVerse(?)	メイン・ビューで EDGE 逆フィルタのオン/オフを選択する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:FORMat(?)	メイン・ビューの表示形式を選択する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:STIME(?)	メイン・ビューでスライス・タイムを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューのオートスケールを実行する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:FILTer:EINVerse(?)	サブ・ビューで EDGE 逆フィルタのオン/オフを選択する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:STIME(?)	サブ・ビューでスライス・タイムを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FIT	サブ・ビューのオートスケールを実行する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FULL	サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPLAY:GSMedeg:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:SPECTrum サブグループ	GSM/EDGE 解析のスペクトラム表示関連
:DISPLAY:GSMedeg:SPECTrum:BMARker:STATe(?)	スプリアス測定でスプリアス・マーカのオン/オフを選択する
:DISPLAY:GSMedeg:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPLAY:GSMedeg:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (周波数) のスケールを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPLAY:GSMedeg:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPLAY:GSMedeg:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPLAY:GSMedeg:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:WAVEform サブグループ	GSM/EDGE 解析の時間領域表示関連
:DISPLAY:GSMedeg:WAVEform:BURSt(?)	電力対時間測定でバーストの拡大表示を選択する
:DISPLAY:GSMedeg:WAVEform:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (時間) の最小値 (左端) を設定する
:DISPLAY:GSMedeg:WAVEform:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (時間) のスケールを設定する
:DISPLAY:GSMedeg:WAVEform:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPLAY:GSMedeg:WAVEform:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPLAY:GSMedeg:WAVEform:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPLAY:GSMedeg:WAVEform:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
オプション25 型 cdma2000 解析関連 (:Standard = :FLCDMA2K :RLCDMA2K)	
:DISPLAY:Standard:CCDF サブグループ	CCDF 測定関連
:DISPLAY:Standard:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe](?)	ガウス曲線を表示するかしないかを選択する
:DISPLAY:Standard:CCDF:LINE:REFerence[:STATe](?)	基準線を表示するかしないかを選択する
:DISPLAY:Standard:CCDF:LINE:REFerence:STORe	現在の CCDF 波形を基準線として保存し、表示する
:DISPLAY:Standard:CCDF:X[:SCALE]:AUTO(?)	横軸スケールの自動設定をオン/オフする
:DISPLAY:Standard:CCDF:X[:SCALE]:MAXimum(?)	横軸の最大値 (右端) を設定する
:DISPLAY:Standard:CCDF:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸の最小値 (左端) を設定する

表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:MAXimum(?)	縦軸の最大値 (上端) を設定する
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:MINimum(?)	縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod サブグループ	デジタル変調信号解析関連
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:CORDer(?)	コードの表示方法を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:FORMat(?)	メイン・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:PUNit(?)	メイン・ビューの縦軸の単位を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:Y[:SCALE]:FIT	サブ・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:Y[:SCALE]:FULL	サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIEW:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:SPECTrum サブグループ	スペクトラム測定関連
:DISPlay:Standard:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:Standard:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (周波数) のスケールを設定する
:DISPlay:Standard:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform サブグループ	時間領域表示関連
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (時間) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (時間) のスケールを設定する
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
オプション26 型 1xEV-DO 解析関連 (:Standard = :FL1XEVD0):RL1XEVD0)	
:DISPlay:Standard:CCDF サブグループ	CCDF 測定関連
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATE](?)	ガウス曲線を表示するかしないかを選択する
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REFerence[:STATE](?)	基準線を表示するかしないかを選択する
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REFerence:STORe	現在の CCDF 波形を基準線として保存し、表示する

表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALE]:AUTO(?)	横軸スケールの自動設定をオン/オフする
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALE]:MAXimum(?)	横軸の最大値 (右端) を設定する
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:MAXimum(?)	縦軸の最大値 (上端) を設定する
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALE]:MINimum(?)	縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod サブグループ	デジタル変調信号解析関連
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:CORDer(?)	コードの表示方法を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:FORMat(?)	メイン・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューでオートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit(?)	メイン・ビューの縦軸の単位を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FIT	サブ・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FULL	サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:SPECTrum サブグループ	スペクトラム・ビュー関連
:DISPlay:Standard:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:Standard:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (周波数) のスケールを設定する
:DISPlay:Standard:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:DDEMod:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する
:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform サブグループ	時間領域表示関連
:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (時間) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (時間) のスケールを設定する
:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する

表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
オプション27 型 3GPP-R5 解析関連 (:Standard = :DLR5_3GPP :ULR5_3GPP)	
:DISPlay:SADLR5_3GPP サブグループ	3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析関連
:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard サブグループ	3GPP-R5 ダウンリンクまたはアップリンク変調解析関連
:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:HEAD(?)	表示するタイム・スロットのヘッド数を選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot[:STATE](?)	マルチ・スロットかシングル・スロットかを選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SHORTcode(?)	表示するショート・コードを選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SRATe(?)	ダウンリンク解析のためのシンボル・レートを選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SSCHpart(?)	SCH を表示するかどうかを選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:TSLot(?)	表示するタイム・スロットを選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの色軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの色軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat(?)	メイン・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:RADix(?)	メイン・ビューのシンボルの基数を選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビュー縦軸をデフォルトのフルスケールに設定
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit(?)	メイン・ビューの縦軸の単位を選択する
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:SVIew:COLor[:SCALE]:OFFSet(?)	サブビューの色軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:SVIew:COLor[:SCALE]:RANGe(?)	サブビューの色軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:SVIew:FORMat(?)	サブビューの表示形式を選択する
:DISPlay:Standard:SVIew:RADix(?)	サブビューのシンボルの基数を選択する
:DISPlay:Standard:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:Standard:SVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:Standard:SVIew:Y[:SCALE]:FIT	サブビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:Standard:SVIew:Y[:SCALE]:FULL	サブビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定
:DISPlay:Standard:SVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:Standard:SVIew:Y[:SCALE]:PUNit(?)	サブビューの縦軸の単位を選択する
:DISPlay:Standard:SVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:SRATe(?)	アップリンク解析のシンボル・レートを選択する
:DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:TSLot(?)	表示するタイム・スロットを選択する
:DISPlay:ULR5_3GPP:MVIew:FORMat(?)	メイン・ビューの表示形式を選択する
オプション29 型 WLAN 解析関連	
:DISPlay:WLAN:DDEMod サブグループ	WLAN 変調解析関連
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:FORMat(?)	OFDM リニアリティ測定の表示形式を選択する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:MCONtent(?)	メイン・ビューの測定内容を選択する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:RADix(?)	メイン・ビューのシンボルの基数を選択する

表 2-16: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:PDIVision(?)	メイン・ビューの横軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FIT	メイン・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:FULL	メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	メイン・ビューの縦軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat(?)	サブ・ビューの表示形式を選択する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:MCONtent(?)	サブ・ビューの測定内容を選択する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:RADix(?)	サブ・ビューのシンボルの基数を選択する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:PDIVision(?)	サブ・ビューの横軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FIT	サブ・ビューのオートスケールを実行する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FULL	サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	サブ・ビューの縦軸のスケール (/div) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:RANGe(?)	サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定する
:DISPlay:WLAN:SPECTrum サブグループ	WLAN 解析のスペクトラム・ビュー関連
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet(?)	横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定する
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision(?)	横軸 (周波数) のスケールを設定する
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT	オートスケールを実行する
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL	縦軸をデフォルトのフルスケールに設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:Y[:SCALE]:OFFSet(?)	縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定する
:DISPlay:WLAN:DDEMod:Y[:SCALE]:PDIVision(?)	縦軸 (振幅) のスケールを設定する

:FETCh コマンド

現在メモリ上にあるデータについて測定結果を取得します。入力信号の取り込みは行いません。入力信号を取り込んでから、そのデータについて測定結果を取得するときには、:READ コマンドを使用してください。

表 2-17: :FETCh コマンド

ヘッダ	説明
:FETCh:AEMod:AM?	AM 変調信号解析結果の時系列データを取得する
:FETCh:AEMod:AM:RESult?	AM 変調信号解析結果を取得する
:FETCh:AEMod:FM?	FM 変調信号解析結果の時系列データを取得する
:FETCh:AEMod:FM:RESult?	FM 変調信号解析結果を取得する
:FETCh:AEMod:PM?	PM 変調信号解析結果の時系列データを取得する
:FETCh:AEMod:PSPectrum?	パルス・スペクトラム測定のスเปクトラム・データを取得する
:FETCh:CCDF?	CCDF 測定結果を取得する
:FETCh:DIStribution:CCDF?	CCDF 波形データを取得する

表 2-17: :FETCh コマンド (続き)

ヘッダ	説明
:FETCh:OView?	オーバービューの波形データから最大値・最小値を取得する
:FETCh:PULSe?	パルス解析の結果を取得する
:FETCh:PULSe:SPECTrum?	周波数領域測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:PULSe:TAMplitude?	時間領域測定の変幅データを取得する
:FETCh:PULSe:TFrequency?	周波数偏移測定データを取得する
:FETCh:SPECTrum?	スเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:SPECTrum:ACPower?	ACPR 測定結果を取得する
:FETCh:SPECTrum:CFrequency?	キャリア周波数測定結果を取得する
:FETCh:SPECTrum:CHPower?	チャンネル電力測定結果を取得する
:FETCh:SPECTrum:CNRatio?	C/N 測定結果を取得する
:FETCh:SPECTrum:EBWidth?	放射帯幅測定結果を取得する
:FETCh:SPECTrum:OBWidth?	OBW 測定結果を取得する
:FETCh:SPECTrum:SPURious?	スプリアス測定結果を取得する
:FETCh:TRANSient:FVTime?	周波数対時間の測定結果を取得する
:FETCh:TRANSient:IQVTime?	I/Q レベル対時間の測定結果を取得する
:FETCh:TRANSient:PVTime?	電力対時間の測定結果を取得する

:FETCh コマンド (オプション)

オプションの解析ソフトウェアで使用する :FETCh コマンドを示します。

表 2-18: :FETCh コマンド (オプション)

ヘッダ	説明
オプション21 型 拡張測定解析機能関連	
:FETCh:DDEMod サブグループ	デジタル変調解析関連
:FETCh:DDEMod?	デジタル変調信号解析の測定結果を取得する
:FETCh:RFID サブグループ	RFID 解析関連
:FETCh:RFID?	RFID 解析の結果を取得する
:FETCh:RFID:ACPower?	ACPR 測定結果を取得する
:FETCh:RFID:SPURious?	スプリアス測定結果を取得する
:FETCh:RFID:SPECTrum:ACPower?	ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:RFID:SPECTrum:SPURious?	スプリアス測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:SSource サブグループ	シグナル・ソース解析関連
:FETCh:SSource?	シグナル・ソース解析の結果を取得する
:FETCh:SSource:CNVFrequency?	CN vs オフセット周波数の測定データを取得する
:FETCh:SSource:CNVTime?	C/N vs 時間の波形データを取得する
:FETCh:SSource:IPNVtime?	積分位相雑音 vs 時間の波形データを取得する
:FETCh:SSource:RJVTime?	ランダム・ジッタ vs 時間の波形データを取得する
:FETCh:SSource:SPECTrum?	周波数領域測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:SSource:TRANSient:FVTime?	周波数対時間測定結果を取得する
オプション23 型 W-CDMA アップリンク解析関連	
:FETCh:AC3Gpp:ACLR?	W-CDMA ACLR 測定結果を取得する
:FETCh:UL3Gpp?	W-CDMA アップリンク解析の測定結果を取得する

表 2-18: :FETCh コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
オプション24 型 GSM/EDGE 解析関連	
:FETCh:GSMedge:MACCuracy?	GSM/EDGE の変調確度測定結果を取得する
:FETCh:GSMedge:MCPower?	GSM/EDGE の平均キャリア電力測定結果を取得する
:FETCh:GSMedge:MODulation?	GSM/EDGE の連続変調時スペクトラム測定結果を取得する
:FETCh:GSMedge:PVTime?	GSM/EDGE の電力対時間測定結果を取得する
:FETCh:GSMedge:SPECTrum:MODulation?	連続変調時スペクトラムの振幅データを取得する
:FETCh:GSMedge:SPECTrum:SWITching?	スイッチング時スペクトラムの振幅データを取得する
:FETCh:GSMedge:SPURious?	GSM/EDGE のスプリアス測定結果を取得する
:FETCh:GSMedge:SWITching?	スイッチング時スペクトラム測定結果を取得する
:FETCh:GSMedge:TAMPliitude:MCPower?	平均キャリア電力の振幅データを取得する
:FETCh:GSMedge:TAMPliitude:PVTime?	電力対時間の振幅データを取得する
:FETCh:GSMedge:TSCode?	トレーニング・シーケンス・コードを取得する
オプション25 型 cdma2000 解析関連 (:Standard = :FLCDMA2K):RLCDMA2K)	
:FETCh:Standard:ACPower?	ACPR 測定結果を取得する
:FETCh:Standard:CCDF?	CCDF 測定結果を取得する
:FETCh:Standard:CDPower?	コード・ドメイン・パワー測定結果を取得する
:FETCh:Standard:CHPower?	チャンネル電力測定結果を取得する
:FETCh:Standard:DISTRibution:CCDF?	CCDF 波形データを取得する
:FETCh:Standard:IM?	相互変調測定結果を取得する
:FETCh:Standard:MACCuracy?	変調確度測定結果を取得する
:FETCh:Standard:OBWidth?	OBW 測定結果を取得する
:FETCh:Standard:PCCHanne1?	パイロット/コード・チャンネル測定結果を取得する
:FETCh:RLCDMA2K:PVTime?	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定結果を取得する
:FETCh:Standard:SEMAsk?	スペクトラム・エミッション・マスク測定結果を取得する
:FETCh:RLCDMA2K:TAMPliitude:PVTime?	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の時間振幅を取得する
:FETCh:Standard:SPECTrum:ACPower?	ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:Standard:SPECTrum:CHPower?	チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:Standard:SPECTrum:IM?	相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:Standard:SPECTrum:OBWidth?	OBW 測定のスเปクトラム波形データを取得する
オプション26 型 1xEV-DO 解析関連 (:Standard = :FL1XEVD0):RL1XEVD0)	
:FETCh:Standard:ACPower?	ACPR 測定の結果を取得する
:FETCh:Standard:CCDF?	CCDF 測定の結果を取得する
:FETCh:Standard:CDPower?	コード・ドメイン・パワー測定の結果を取得する
:FETCh:Standard:CHPower?	チャンネル電力測定の結果を取得する
:FETCh:Standard:DISTRibution:CCDF?	CCDF 測定のディストリビューション・データを取得する
:FETCh:Standard:IM?	相互変調測定の結果を取得する
:FETCh:Standard:MACCuracy?	変調確度測定の結果を取得する
:FETCh:Standard:OBWidth?	OBW 測定の結果を取得する
:FETCh:Standard:PCCHanne1?	パイロット/コード・チャンネル測定の結果を取得する
:FETCh:FL1XEVD0:PVTime?	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得する
:FETCh:Standard:SEMAsk?	スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得する

表 2-18: :FETCh コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:FETCh:Standard:SPECTrum:ACPower?	ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:Standard:SPECTrum:CHPower?	チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:Standard:SPECTrum:IM?	相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:Standard:SPECTrum:OBWidth?	OBW 測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:FL1XEVD0:TAMPlitude:PVTime?	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定的时间振幅を取得する
オプション27 型 3GPP-R5 解析関連	
:FETCh:DLR5_3GPP?	ダウンリンク変調解析の測定結果を取得する
:FETCh:SADLR5_3GPP:ACLR?	ダウンリンク ACLR 測定結果を取得する
:FETCh:SADLR5_3GPP:CHPower?	ダウンリンクのチャンネル電力測定結果を取得する
:FETCh:SADLR5_3GPP:OBWidth?	ダウンリンク OBW 測定結果を取得する
:FETCh:SADLR5_3GPP:SEMAsk?	ダウンリンクのスเปクトラム放射マスク測定結果を取得する
:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:ACLR?	ACLR 測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:CHPower?	チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:OBWidth?	OBW 測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:SEMAsk?	スเปクトラム放射マスク測定波形データを取得する
:FETCh:ULR5_3GPP?	アップリンク変調解析の測定結果を取得する
オプション29 型 WLAN 解析関連	
:FETCh:WLAN?	WLAN 解析結果を取得する
:FETCh:WLAN:Power:TPower?	送信電力測定のスเปクトラム波形データを取得する
:FETCh:WLAN:SMASK?	スเปクトラム・マスク測定結果を取得する
:FETCh:WLAN:SPECTrum:SMASK?	スเปクトラム・マスク測定波形データを取得する
:FETCh:WLAN:TPower?	送信電力測定結果を取得する

:FORMat コマンド

データ・フォーマットを選択します。

表 2-19: :FORMat コマンド

ヘッダ	説明
:FORMat:BORDER(?)	データ出力のバイト順を設定する
:FORMat[:DATA](?)	データ出力のデータ・フォーマットを設定する

:HCOPY コマンド

画面のハードコピー出力をコントロールします。

表 2-20: :HCOPY コマンド

ヘッダ	説明
:HCOPY:BACKground	ハードコピーの背景色を選択する
:HCOPY:DESTination	ハードコピーの出力先を指定する
:HCOPY[:IMMediate]	指定したプリンタにハードコピーを出力する

:INITiate コマンド

データ取り込みの開始/停止をコントロールします。

表 2-21: :INITiate コマンド

ヘッダ	説明
:INITiate:CONTInuous(?)	連続データ取り込みを行うかどうか設定する
:INITiate[:IMMediate]	データ取り込みを実行する
:INITiate:REStart	データ取り込みを再実行する

:INPut コマンド

入力関連の設定を行います。

表 2-22: :INPut コマンド

ヘッダ	説明
:INPut:ALEVel	入力信号のオート・レベルを実行する
:INPut:ATTenuation(?)	入力アッテネータを設定する
:INPut:ATTenuation:AUTO(?)	入力アッテネータを自動で設定するかどうか選択する
:INPut:COUPling(?) (オプション03型のみ)	IQ 入力モードで入力カップリングを切り替える
:INPut:MIXer(?)	ミキサ・レベルを設定する
:INPut:MLEVel(?)	リファレンス・レベルを設定する

:INSTrument コマンド

本機器の測定モードを設定します。

表 2-23: :INSTrument コマンド

ヘッダ	説明
:INSTrument:CATalog?	機器が持つすべての測定モードを問合せ
:INSTrument[:SElect]	測定モードを設定する

:MMEMory コマンド

ハードディスクまたはフロッピー・ディスク上のファイル进行操作します。

表 2-24: :MMEMory コマンド

ヘッダ	説明
:MMEMory:COpy	1つのファイルを別のファイルにコピーする
:MMEMory:DELeTe	ファイルを削除する
:MMEMory:LOAD:CORRection	ファイルから補正テーブルをロードする
:MMEMory:LOAD:IQT	ファイルから IQ データをロードする

表 2-24: :MMEMemory コマンド (続き)

ヘッダ	説明
:MMEMemory:LOAD:LIMit (オプション25型・26型・27型・29型)	ファイルからリミットをロードする
:MMEMemory:LOAD:STATe	ファイルから機器の設定をロードする
:MMEMemory:LOAD:TRACe<x>	ファイルからトレース・データをロードする
:MMEMemory:NAME(?)	ハードコピー出力のファイル名を指定する
:MMEMemory:STORe:ACPower (オプション21型)	RFID 解析でファイルに ACPR 測定結果を格納する
:MMEMemory:STORe:CORRection	ファイルに振幅補正表を格納する
:MMEMemory:STORe:IQT	ファイルに IQ データを格納する
:MMEMemory:STORe:LIMit (オプション25型・26型・27型・29型)	ファイルにリミットを保存する
:MMEMemory:STORe:PULSe	ファイルにパルス測定結果を格納する
:MMEMemory:STORe:STABle (オプション21型・23型・25型・26型・27型・29型)	ファイルにシンボル・テーブルを格納する
:MMEMemory:STORe:STATe	ファイルに機器の設定を格納する
:MMEMemory:STORe:TRACe<x>	ファイルにトレース・データを格納する

:OUTPut コマンド

本機器の出力ポートをコントロールします。

表 2-25: :INITiate コマンド

ヘッダ	説明
:OUTPut:IQ[:STATe](?) (Option 05 only)	デジタル IQ データ出力をオンにするかどうかを選択する

:PROGram コマンド

マクロ・プログラムをコントロールします。

表 2-26: :PROGram コマンド

ヘッダ	説明
:PROGram:CATalog?	プログラム一覧を問合せ
:PROGram[:SElected]:DELeTe[:SElected]	プログラムを削除する
:PROGram[:SElected]:EXECute	プログラムを実行する
:PROGram[:SElected]:NAME(?)	プログラムを指定する
:PROGram:NUMBer(?)	プログラムの数値変数を設定する
:PROGram:STRing(?)	プログラムの文字変数を設定する

:READ コマンド

入力信号を取り込み、そのデータについて測定結果を取得します。入力信号を取り込まず、現在メモリ上にあるデータについて測定結果を取得するときは、:FETCH コマンドを使用してください。

表 2-27: :READ コマンド

ヘッダ	説明
:READ:ADEMod:AM?	AM 変調信号解析結果の時系列データを取得する
:READ:ADEMod:AM:RESult?	AM 変調信号解析結果を取得する
:READ:ADEMod:FM?	FM 変調信号解析結果の時系列データを取得する
:READ:ADEMod:FM:RESult?	FM 変調信号解析結果を取得する
:READ:ADEMod:PM?	PM 変調信号解析結果の時系列データを取得する
:READ:ADEMod:PSpectrum?	パルス・スペクトラム測定のスเปクトラム・データを取得する
:READ:CCDF?	CCDF 測定結果を取得する
:READ:DDEMod?	デジタル変調信号解析の測定結果を取得する
:READ:DIStribution:CCDF?	CCDF 波形データを取得する
:READ:OVIew?	オーバービューの波形データから最大値・最小値を取得する
:READ:PULSe?	パルス解析の結果を取得する
:READ:PULSe:SPECTrum?	周波数領域測定のスเปクトラム波形データを取得する
:READ:PULSe:TAMplitude?	時間領域測定振幅データを取得する
:READ:PULSe:TFrequency?	周波数偏移測定データを取得する
:READ:SPECTrum?	スเปクトラム波形データを取得する
:READ:SPECTrum:ACPower?	ACPR 測定結果を取得する
:READ:SPECTrum:CFrequency?	キャリア周波数測定結果を取得する
:READ:SPECTrum:CHPower?	チャンネル電力測定結果を取得する
:READ:SPECTrum:CNRatio?	C/N 測定結果を取得する
:READ:SPECTrum:EBwidth?	放射帯域幅測定結果を取得する
:READ:SPECTrum:OBwidth?	OBW 測定結果を取得する
:READ:SPECTrum:SPURious?	スプリアス測定結果を取得する
:READ:TRANsient:FVTime?	周波数対時間の測定結果を取得する
:READ:TRANsient:IQVTime?	I/Q レベル対時間の測定結果を取得する
:READ:TRANsient:PVTime?	電力対時間の測定結果を取得する

:READ コマンド (オプション)

オプションの解析ソフトウェアで使用する :READ コマンドを示します。

表 2-28: :READ コマンド (オプション)

ヘッダ	説明
オプション21 型 拡張測定解析機能関連	
:READ:DDEMod?	デジタル変調信号解析の測定結果を取得する
:READ:RFID サブグループ	
:READ:RFID:ACPower?	ACPR 測定結果を取得する
:READ:RFID:SPURious?	スプリアス測定結果を取得する
:READ:RFID:SPECTrum:ACPower?	ACPR 測定のスpektrum波形データを取得する
:READ:RFID:SPECTrum:SPURious?	スプリアス測定のスpektrum波形データを取得する
:READ:SSource サブグループ	
:READ:SSource?	シグナル・ソース解析の結果を取得する
:READ:SSource:SPECTrum?	周波数領域測定のスpektrum波形データを取得する
:READ:SSource:TRANsient:FVTime?	周波数対時間測定結果を取得する
オプション23 型 W-CDMA アップリンク解析関連	
:READ:AC3Gpp:ACLR?	W-CDMA ACLR 測定結果を取得する
オプション24 型 GSM/EDGE 解析関連	
:READ:GSMedge:MACCuracy?	GSM/EDGE の変調確度測定結果を取得する
:READ:GSMedge:MCPower?	GSM/EDGE の平均キャリア電力測定結果を取得する
:READ:GSMedge:MODulation?	GSM/EDGE の連続変調時スpektrum測定結果を取得する
:READ:GSMedge:PVTime?	GSM/EDGE の電力対時間測定結果を取得する
:READ:GSMedge:SPECTrum:MODulation?	連続変調時スpektrumの時間領域の振幅データを取得する
:READ:GSMedge:SPECTrum:SWITChing?	スイッチング・スpektrumの時間領域振幅データを取得する
:READ:GSMedge:SPURious?	GSM/EDGE のスプリアス測定結果を取得する
:READ:GSMedge:SWITChing?	スイッチング時スpektrum測定結果を取得する
:READ:GSMedge:TAMPliTude:MCPower?	平均キャリア電力の時間領域の振幅データを取得する
:READ:GSMedge:TAMPliTude:PVTime?	電力対時間の時間領域の振幅データを取得する
オプション25 型 cdma2000 解析関連 (:Standard = :FLCDMA2K :RLCDMA2K)	
:READ:Standard:ACPower?	ACPR 測定結果を取得する
:READ:Standard:CCDF?	CCDF 測定結果を取得する
:READ:Standard:CHPower?	チャンネル電力測定結果を取得する
:READ:Standard:DISTRibution:CCDF?	CCDF 波形データを取得する
:READ:Standard:IM?	相互変調測定結果を取得する
:READ:Standard:OBWidth?	OBW 測定結果を取得する
:READ:RLCDMA2K:PVTime?	ゲートッド・アウトプット・パワー測定結果を取得する
:READ:Standard:SEMAsk?	スpektrum・エミッション・マスク測定結果を取得する
:READ:Standard:SPECTrum:ACPower?	ACPR 測定のスpektrum波形データを取得する
:READ:Standard:SPECTrum:CHPower?	チャンネル電力測定のスpektrum波形データを取得する
:READ:Standard:SPECTrum:IM?	相互変調測定のスpektrum波形データを取得する
:READ:Standard:SPECTrum:OBWidth?	OBW 測定のスpektrum波形データを取得する
:READ:RLCDMA2K:TAMPliTude:PVTime?	ゲートッド・アウトプット・パワー測定のスpektrum時間振幅を取得する

表 2-28: :READ コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
オプション26 型 1xEV-DO 解析関連 (:Standard = :FL1XEVD0 :RL1XEVD0)	
:READ:Standard:ACPower?	ACPR 測定の結果を取得します。
:READ:Standard:CCDF?	CCDF 測定の結果を取得します。
:READ:Standard:CHPower?	チャンネル電力測定の結果を取得します。
:READ:Standard:DISTRibution:CCDF?	CCDF 測定の実数値・データを取得します。
:READ:Standard:IM?	相互変調測定の結果を取得します。
:READ:Standard:OBWidth?	OBW 測定の結果を取得します。
:READ:FL1XEVD0:PVTime?	ゲートド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。
:READ:Standard:SEMask?	スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。
:READ:Standard:SPECTrum:ACPower?	ACPR 測定の実数値波形データを取得します。
:READ:Standard:SPECTrum:CHPower?	チャンネル電力測定の実数値波形データを取得します。
:READ:Standard:SPECTrum:IM?	相互変調測定の実数値波形データを取得します。
:READ:Standard:SPECTrum:OBWidth?	OBW 測定の実数値波形データを取得します。
:READ:FL1XEVD0:TAMPliitude:PVTime?	ゲートド・アウトプット・パワー測定の時間振幅を取得します。
オプション27 型 3GPP-R5 解析関連	
:READ:SADLR5_3GPP:ACLR?	ダウンリンク ACLR 測定結果を取得する
:READ:SADLR5_3GPP:CHPower?	ダウンリンクのチャンネル電力測定結果を取得する
:READ:SADLR5_3GPP:OBWidth?	ダウンリンクの OBW 測定結果を取得する
:READ:SADLR5_3GPP:SEMask?	ダウンリンクのスペクトラム放射マスクの測定結果を取得する
:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:ACLR?	ACLR 測定の実数値波形データを取得する
:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:CHPower?	チャンネル電力測定の実数値波形データを取得する
:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:OBWidth?	OBW 測定の実数値波形データを取得する
:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:SEMask?	スペクトラム放射マスク測定の実数値波形データを取得する
オプション29 型 WLAN 解析関連	
:READ:WLAN:Power:TPower?	送信電力測定の実数値波形データを取得する
:READ:WLAN:SMASK?	スペクトラム・マスク測定結果を取得する
:READ:WLAN:SPECTrum:SMASK?	スペクトラム・マスク測定の実数値波形データを取得する
:READ:WLAN:TPower?	送信電力測定結果を取得する

:SENSe コマンド

測定条件の詳細を設定します。

表 2-29: :SENSe コマンド

ヘッダ	説明
[[:SENSe]:ACPower サブグループ	ACPR 測定関連
[[:SENSe]:ACPower:BANDwidth BWIDTH:ACHannel(?)]	隣接チャンネルの帯域幅を設定する
[[:SENSe]:ACPower:BANDwidth BWIDTH:INTegration(?)]	主チャンネルの帯域幅を設定する
[[:SENSe]:ACPower:CSPacing(?)]	チャンネル間隔を設定する
[[:SENSe]:ACPower:FILTer:COEfficient(?)]	フィルタ係数を設定する
[[:SENSe]:ACPower:FILTer:TYPE(?)]	フィルタの種類を選択する

表 2-29: :SENSe コマンド (続き)

ヘッダ	説明
[[:SENSe]:ADEMod サブグループ	アナログ変調信号解析関連
[[:SENSe]:ADEMod:BLOCK(?)]	測定するブロックの番号を設定する
[[:SENSe]:ADEMod:CARRier:OFFSet(?)]	FM 変調信号解析でキャリア周波数オフセットを設定する
[[:SENSe]:ADEMod:CARRier:SEARCh(?)]	FM キャリア検出を自動で行うかどうかを選択する
[[:SENSe]:ADEMod:FM:THResHoId(?)]	FM 変調信号解析でバーストを判断するしきい値を設定する
[[:SENSe]:ADEMod[:IMMediate]]	アナログ変調信号解析を実行する
[[:SENSe]:ADEMod:LENGth(?)]	測定範囲の長さを設定する
[[:SENSe]:ADEMod:MODuLation(?)]	変調方式を選択する
[[:SENSe]:ADEMod:OFFSet(?)]	測定開始位置を設定する
[[:SENSe]:ADEMod:PM:THResHoId(?)]	PM 変調信号解析でバーストを判断するしきい値を設定する
[[:SENSe]:AVERAge サブグループ	アベレージ関連
[[:SENSe]:AVERAge:CLear]	アベレージをリセットする
[[:SENSe]:AVERAge:COUnT(?)]	アベレージ回数を設定する
[[:SENSe]:AVERAge[:STATe](?)	アベレージのオン/オフを選択する
[[:SENSe]:AVERAge:TCOnTrol(?)]	アベレージの更新モードを選択する
[[:SENSe]:BSIZe サブグループ	ブロック・サイズ設定
[[:SENSe]:BSIZe(?)]	ブロック・サイズを設定する
[[:SENSe]:CCDF サブグループ	CCDF 測定関連
[[:SENSe]:CCDF:BLock(?)]	測定するブロックの番号を設定する
[[:SENSe]:CCDF:CLear]	測定をリセットし、再実行する
[[:SENSe]:CCDF:RMEasurement]	測定をリセットし、再実行する
[[:SENSe]:CCDF:THResHoId(?)]	サンプル・ポイントを決定するしきい値を設定する
[[:SENSe]:CFRequency サブグループ	キャリア周波数測定関連
[[:SENSe]:CFRequency:CRESolution(?)]	カウンタ分解能を設定する
[[:SENSe]:CHPower サブグループ	チャンネル電力測定
[[:SENSe]:CHPower:BAWidTh BWiDth:INTegration(?)]	チャンネル帯域幅を設定する
[[:SENSe]:CHPower:FiLTer:COEFFicient(?)]	フィルタのロールオフ係数を設定する
[[:SENSe]:CHPower:FiLTer:TYPE(?)]	フィルタを選択する
[[:SENSe]:CNRatio サブグループ	C/N 測定関連
[[:SENSe]:CNRatio:BAWidTh BWiDth:INTegration(?)]	測定帯域幅を設定する
[[:SENSe]:CNRatio:BAWidTh BWiDth:NOISe(?)]	ノイズ帯域幅を設定する
[[:SENSe]:CNRatio:FiLTer:COEFFicient(?)]	フィルタのロールオフ係数を設定する
[[:SENSe]:CNRatio:FiLTer:TYPE(?)]	フィルタを選択する
[[:SENSe]:CNRatio:OFFSet(?)]	オフセット周波数を設定する
[[:SENSe]:CORRection サブグループ	振幅補正関連
[[:SENSe]:CORRection:DATA(?)]	振幅補正データを設定する
[[:SENSe]:CORRection:DELeTe]	振幅補正データを削除する
[[:SENSe]:CORRection:OFFSet[:MAGNitude](?)	振幅オフセットを設定する
[[:SENSe]:CORRection:OFFSet:FREQuency(?)]	周波数オフセットを設定する
[[:SENSe]:CORRection[:STATe](?)	振幅補正のオン/オフを選択する
[[:SENSe]:CORRection:X:SPACing(?)]	補間時の横軸 (周波数) のスケーリングを選択する
[[:SENSe]:CORRection:Y:SPACing(?)]	補間時の縦軸 (振幅) のスケーリングを選択する
[[:SENSe]:EBWidTh サブグループ	EBW 測定関連
[[:SENSe]:EBWidTh:XDB(?)]	ピークからの相対電力を設定する

表 2-29: :SENSe コマンド (続き)

ヘッダ	説明
[[:SENSe]:FEED サブグループ	入力ポート関連
[[:SENSe]:FEED	入力ポート (RF、IQ、校正信号) を選択する
[[:SENSe]:FREQuency サブグループ	周波数関連
[[:SENSe]:FREQuency:BAND?	測定周波数帯を問合せ
[[:SENSe]:FREQuency:CENTer(?)	中心周波数を設定する
[[:SENSe]:FREQuency:CENTer:STEP:AUTO(?)	中心周波数のステップ幅をスパンによって自動的に定める
[[:SENSe]:FREQuency:CENTer:STEP[:INCRement] (?)	中心周波数のステップ幅を設定する
[[:SENSe]:FREQuency:CHANnel (?)	チャンネルを選択する
[[:SENSe]:FREQuency:CTABle:CATalog?	チャンネル・テーブルを問合せ
[[:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SELect] (?)	チャンネル・テーブルを選択する
[[:SENSe]:FREQuency:SPAN(?)	スパンを設定する
[[:SENSe]:FREQuency:START(?)	スタート周波数を設定する
[[:SENSe]:FREQuency:STOP(?)	ストップ周波数を設定する
[[:SENSe]:OBWidth サブグループ	OBW 測定関連
[[:SENSe]:OBWidth:PERCent(?)	占有帯域幅を設定する
[[:SENSe]:PULSe サブグループ	パルス測定関連
[[:SENSe]:PULSe:BLock(?)	パルス特性解析を行うブロック番号を設定する
[[:SENSe]:PULSe:CHPower:BANDwidth BWIDTH:INTEGRation (?)	チャンネル電力測定のチャンネル帯域幅を設定する
[[:SENSe]:PULSe:CRESolution(?)	周波数偏移測定の分解能を設定する
[[:SENSe]:PULSe:EBWidth:XDB(?)	EBW 測定レベルを設定する
[[:SENSe]:PULSe:FFT:COEFFicient(?)	FFT のロールオフ係数を設定する
[[:SENSe]:PULSe:FFT:WINDow[:TYPE] (?)	FFT ウィンドウを選択する
[[:SENSe]:PULSe:FILTer:BANDwidth BWIDTH(?)	時間測定フィルタの帯域を設定する
[[:SENSe]:PULSe:FILTer:COEFFicient(?)	ガウス・フィルタの α/BT 値を設定する
[[:SENSe]:PULSe:FILTer:MEASurment(?)	時間測定フィルタを選択する
[[:SENSe]:PULSe:FREQuency:OFFSet(?)	周波数オフセットを設定する
[[:SENSe]:PULSe:FREQuency:RECOvery(?)	周波数補正方法を選択する
[[:SENSe]:PULSe[:IMMediate]	パルス特性解析の演算を実行する
[[:SENSe]:PULSe:LENGth(?)	測定範囲の長さを設定する
[[:SENSe]:PULSe:OBWidth:PERCent(?)	OBW 測定の占有帯域幅を設定する
[[:SENSe]:PULSe:OFFSet(?)	測定開始位置を設定する
[[:SENSe]:PULSe:PTOffset(?)	パルス間位相差測定のオフセット時間を設定する
[[:SENSe]:PULSe:THReshoId(?)	パルスの位置を検出するレベルを設定する
[[:SENSe]:ROSCillator サブグループ	基準発振器関連
[[:SENSe]:ROSCillator:SOURce(?)	基準発振器を選択する
[[:SENSe]:SPEctrum サブグループ	スペクトラム関連
[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:CLEar	アベレージをリセットする
[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:COUNT (?)	アベレージ回数を設定する
[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage[:STATe] (?)	アベレージのオン/オフを選択する
[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:TYPE(?)	アベレージの種類を選択する
[[:SENSe]:SPEctrum:BANDwidth BWIDTH[:RESolution] (?)	分解能帯域幅を設定する
[[:SENSe]:SPEctrum:BANDwidth BWIDTH[:RESolution]:AUTO (?)	分解能帯域幅をスパンによって自動設定するかどうかを選択する
[[:SENSe]:SPEctrum:BANDwidth BWIDTH:STATe(?)	分解能帯域幅の演算処理のオン/オフを選択する

表 2-29: :SENSe コマンド (続き)

ヘッダ	説明
[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth BWIDth:VIDeo(?)	ビデオ・フィルタの周波数帯域を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth BWIDth:VIDeo:STATe(?)	ビデオ・フィルタのオン/オフを選択する
[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth BWIDth:VIDeo:SWEEp[:TIME](?)	ビデオ・フィルタの掃引時間を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:DETEctor[:FUNction](?)	波形表示の圧縮方法を選択する
[:SENSe]:SPEctrum:FILTer:COEFFicient(?)	RBW フィルタのロールオフ係数を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:FILTer:TYPE(?)	RBW フィルタの種類を選択する
[:SENSe]:SPEctrum:FFT:ERESolution(?)	分解能拡大 (Extended Res.) を有効にするかどうかを選択する
[:SENSe]:SPEctrum:FFT:LENGth(?)	FFT のデータ・ポイント数を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:FFT:STARt(?)	オーバーラップ FFT フレーム間の時間間隔を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:FFT:WINDow[:TYPE](?)	FFT の窓関数を選択する
[:SENSe]:SPEctrum:FRAME(?)	スペクトラムのフレーム番号を選択する
[:SENSe]:SPEctrum:MEASurement(?)	測定項目を選択して実行する
[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:BLOCK(?)	ズーム操作を行うブロックの番号を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:CENTer(?)	ズーム領域の中心の周波数を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:WIDTh(?)	ズーム領域の周波数幅を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:LENGth(?)	ズーム領域の時間長 (データポイント数) を設定する
[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:OFFSet(?)	ズーム領域の開始点 (データポイント) を設定する
[:SENSe]:SPURious サブグループ	スプリアス測定関連
[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:EXCURsion(?)	スプリアス突出レベルを設定する
[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:IGNore(?)	スプリアス非検出範囲を設定する
[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SIGNal(?)	キャリア判定レベルを設定する
[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SPURious(?)	スプリアス判定レベルを設定する
[:SENSe]:TRANsient サブグループ	時間特性解析関連
[:SENSe]:TRANsient:BLOCK(?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe]:TRANsient[:IMMediate]	時間特性解析を実行する
[:SENSe]:TRANsient:ITEM(?)	測定項目を選択する
[:SENSe]:TRANsient:LENGth(?)	測定範囲の長さを設定する
[:SENSe]:TRANsient:OFFSet(?)	測定開始位置を設定する

:SENSe コマンド (オプション)

オプションの解析ソフトウェアで使用する :SENSe コマンドを示します。

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション)

ヘッダ	説明
オプション21 型 拡張測定解析機能関連	
[:SENSe]:DDEMod サブグループ	デジタル変調信号解析関連
[:SENSe]:DDEMod:BLOCK(?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe]:DDEMod:CARRier:OFFSet(?)	キャリア周波数のオフセットを設定する
[:SENSe]:DDEMod:CARRier:SEARch(?)	キャリア検出を自動で行うかどうかを選択する
[:SENSe]:DDEMod:DECode(?)	データ・ビットをデコードする方法を選択する
[:SENSe]:DDEMod:FDEVIation(?)	FSK/GFSK 信号の 2つの状態を区別する周波数偏移を設定する
[:SENSe]:DDEMod:FDEVIation:AUTO(?)	状態を区別する周波数偏移を自動で検出するかどうかを選択する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
[:SENSe]:DDEMod:FILTer:ALPHa(?)	フィルタ係数 (α /BT) を設定する
[:SENSe]:DDEMod:FILTer:MEASurement(?)	測定フィルタを設定する
[:SENSe]:DDEMod:FILTer:REFeRence(?)	基準フィルタを設定する
[:SENSe]:DDEMod:FORMat(?)	変調方式を選択する
[:SENSe]:DDEMod[:IMMediate]	デジタル復調演算を実行する
[:SENSe]:DDEMod:LENGth(?)	解析範囲を設定する
[:SENSe]:DDEMod:MDEPth(?)	ASK 信号の2つの状態を区別する変調の深さを設定する
[:SENSe]:DDEMod:MDEPth:AUTO(?)	状態を区別する変調の深さを自動で検出するかどうかを選択する
[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:COEFFicient(?)	AM/AM/AM/PM 測定で曲線近似式の次数を設定する
[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:HDIVision(?)	CCDF/PDF 測定で画面上の表示点間の水平間隔を設定する
[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion[:SET] (?)	AM/AM/AM/PM 測定で線形領域を設定する
[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion:UNIT (?)	AM/AM/AM/PM 測定で線形領域設定時の単位を選択する
[:SENSe]:DDEMod:OFFSet(?)	解析開始位置を設定する
[:SENSe]:DDEMod:PRESet(?)	通信規格によりデフォルト設定にする
[:SENSe]:DDEMod:SRATE(?)	シンボル・レートを設定する
[:SENSe]:RFID サブグループ	RFID 解析関連
[:SENSe]:RFID:ACPower:BANDwidth :BWIDth:ACHannel (?)	ACPR 測定で隣接チャンネルの帯域幅を設定する
[:SENSe]:RFID:ACPower:BANDwidth :BWIDth:INTEgration(?)	ACPR 測定で主チャンネルの帯域幅を設定する
[:SENSe]:RFID:ACPower:CSPacing(?)	ACPR 測定でチャンネル間隔を設定する
[:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:COEFFicient(?)	ACPR 測定でフィルタのロールオフ係数を設定する
[:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:TYPE(?)	ACPR 測定でフィルタの種類を選択する
[:SENSe]:RFID:BLOCK(?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe]:RFID:CARRier:BANDwidth :BWIDth:INTEgration(?)	最大 EIRP のチャンネルの帯域幅を設定する
[:SENSe]:RFID:CARRier:COUNter[:RESolution] (?)	キャリア測定で周波数カウンタ分解能を設定する
[:SENSe]:RFID:CARRier:OFFSet(?)	最大 EIRP の振幅オフセットを設定する
[:SENSe]:RFID:CARRier:PRATio[:SET] (?)	OBW 測定で電力比を設定する
[:SENSe]:RFID:CARRier:PRATio:UNIT (?)	OBW 測定で電力比の単位を設定する
[:SENSe]:RFID[:IMMediate]	RFID 解析演算を実行する
[:SENSe]:RFID:LENGth(?)	解析範囲を設定する
[:SENSe]:RFID:MEASurement(?)	測定項目を選択する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:BRATE:AUTO(?)	ビット・レートを自動で設定するかどうかを選択する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:BRATE[:SET] (?)	ビット・レートを設定する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:DECode(?)	デコード方式を選択する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:FORMat(?)	変調方式を選択する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:INTErpolate(?)	波形補間のポイント数を設定する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:LINK(?)	リンクを選択する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:SERRor[:WIDTh] (?)	セトリング・タイムを判定する誤差幅を設定する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:STANdard(?)	復調規格を選択する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:TARI:AUTO(?)	Tari を自動で設定するかどうかを選択する
[:SENSe]:RFID:MODUlation:TARI[:SET] (?)	Tari を設定する
[:SENSe]:RFID:MODUlation[:THReshold]:LOWer(?)	立ち上がり/立ち下がり時間測定の低域しきい値を設定する
[:SENSe]:RFID:MODUlation[:THReshold]:HIGHer(?)	立ち上がり/立ち下がり時間測定の高域しきい値を設定する
[:SENSe]:RFID:OFFSet(?)	解析開始位置を設定する
[:SENSe]:RFID:RFSPurious[:THReshold]:EXCURsion(?)	スプリアス測定でスプリアス突出レベルを設定する
[:SENSe]:RFID:RFSPurious[:THReshold]:IGNore(?)	スプリアス測定でスプリアス非検出範囲を設定する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
[:SENSe]:RFID:RFSPurious[:THReshold]:SIGNal(?)	スプリアス測定でキャリア判定レベルを設定する
[:SENSe]:RFID:RFSPurious[:THReshold]:SPURious(?)	スプリアス測定でスプリアス判定レベルを設定する
[:SENSe]:RFID:ZOOM:FREQuency:CENTer(?)	ズーム領域の中心の周波数を設定する
[:SENSe]:RFID:ZOOM:FREQuency:WIDTh(?)	ズーム領域の周波数幅を設定する
[:SENSe]:SSource サブグループ	シグナル・ソース解析関連
[:SENSe]:SSource:BLOCK(?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe]:SSource:CARRier:Bandwidth :BWIDth:INTEgration(?)	チャンネル電力を計算する周波数帯域幅を設定する
[:SENSe]:SSource:CARRier[:THReshold](?)	キャリアを検出するしきい値を設定する
[:SENSe]:SSource:CARRier:TRACKing[:STATe](?)	キャリア・トラッキングの有効/無効を選択する
[:SENSe]:SSource:CNRatio:FFT[:LENGth](?)	フレームあたりの FFT サンプル数を設定する
[:SENSe]:SSource:CNRatio:OFFSet(?)	サブ・ビューに C/N 対時間を表示する周波数を設定する
[:SENSe]:SSource:CNRatio:SBAND(?)	位相雑音を測定する側波帯を選択する
[:SENSe]:SSource:CNRatio[:THReshold](?)	位相雑音のセトリング・タイムを求めるしきい値を設定する
[:SENSe]:SSource:FVTime:SMOothing(?)	周波数対時間測定のスムージング・ファクタを設定する
[:SENSe]:SSource:FVTime[:THReshold](?)	周波数セトリング・タイムのしきい値を設定する
[:SENSe]:SSource[:IMMEDIATE]	取り込んだデータについて解析演算を実行する
[:SENSe]:SSource:LENGth(?)	解析範囲を設定する
[:SENSe]:SSource:MEASurement(?)	シグナル・ソース解析の測定項目を選択して実行する
[:SENSe]:SSource:OFFSet(?)	解析開始位置を設定する
[:SENSe]:SSource:PNOise:MPJitter[:THReshold](?)	周期的ジッタを判定するしきい値を設定する
[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:STARt(?)	ランダム・ジッタ測定開始周波数をを設定する
[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:STOP(?)	ランダム・ジッタ測定停止周波数を設定する
[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter[:THReshold](?)	ジッタのセトリング・タイムを求めるしきい値を設定する
[:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MAXimum(?)	位相雑音測定範囲の最大周波数を設定する
[:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MINimum(?)	位相雑音測定範囲の最小周波数を設定する
[:SENSe]:SSource:SPURious:IGNore(?)	スプリアス測定でスプリアス非検出範囲を設定する
[:SENSe]:SSource:SPURious:SFILter[:STATe](?)	スプリアス測定で対称フィルタの有効/無効を選択する
[:SENSe]:SSource:SPURious[:THReshold]:EXCURsion(?)	スプリアス突出レベルを設定する
[:SENSe]:SSource:SPURious[:THReshold]:SPURious(?)	スプリアス判定レベルを設定する
オプション23 型 W-CDMA アップリンク解析関連	
[:SENSe]:AC3Gpp サブグループ	W-CDMA ACLR 測定関連
[:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:ALPHa(?)	フィルタ係数 (α/BT) を設定する
[:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSe]:UL3Gpp サブグループ	W-CDMA アップリンク解析関連
[:SENSe]:UL3Gpp:BLOCK(?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe]:UL3Gpp:CARRier:OFFSet(?)	キャリア周波数のオフセットを設定する
[:SENSe]:UL3Gpp:CARRier:SEARch(?)	キャリア検出を自動で行うかどうかを選択する
[:SENSe]:UL3Gpp:FILTer:ALPHa(?)	フィルタ係数 (α/BT) を設定する
[:SENSe]:UL3Gpp:FILTer:MEASurement(?)	測定フィルタを設定する
[:SENSe]:UL3Gpp:FILTer:REFerence(?)	基準フィルタを設定する
[:SENSe]:UL3Gpp[:IMMEDIATE]	W-CDMA アップリンク解析演算を実行する
[:SENSe]:UL3Gpp:LENGth(?)	測定範囲を設定する
[:SENSe]:UL3Gpp:MMODE(?)	移動機モードを選択する
[:SENSe]:UL3Gpp:OFFSet(?)	測定開始位置を設定する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
[:SENSe] :UL3Gpp :SCODE :NUMBer (?)	スクランプリング・コード番号を設定する
[:SENSe] :UL3Gpp :SCODE :TYPE (?)	スクランプリング・コードの種類を選択する
[:SENSe] :UL3Gpp :THResho1d (?)	入力信号をバーストと判断するしきい値を設定する
オプション24 型 GSM/EDGE 解析関連	
[:SENSe] :GSMedgE サブグループ	GSM/EDGE 解析関連
[:SENSe] :GSMedgE :ABITs (?)	EVM 測定に使用するシンボル数を設定する
[:SENSe] :GSMedgE :BLOCk (?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe] :GSMedgE :BURSt :INDEx (?)	測定するバーストの番号を設定する
[:SENSe] :GSMedgE :BURSt :MPOint (?)	電力対時間測定でマスクの中心位置を定義する
[:SENSe] :GSMedgE :BURSt :RTFirsT (?)	測定するバーストを最初のバーストに戻す
[:SENSe] :GSMedgE :CARRier :OFFSet (?)	キャリア周波数のオフセットを設定する
[:SENSe] :GSMedgE :CARRier :SEARch (?)	キャリア検出を自動で行うかどうかを選択する
[:SENSe] :GSMedgE :FILTer :RCWRcosine (?)	RCW Raised Cosine フィルタを有効にするかどうかを選択する
[:SENSe] :GSMedgE [:IMMediate]	GSM/EDGE 解析演算を実行する
[:SENSe] :GSMedgE :LIMit :SIGNal (?)	スプリアス測定で正規信号を判定するしきい値を設定する
[:SENSe] :GSMedgE :LIMit :SPURious (?)	スプリアス測定でスプリアスを判定するしきい値を設定する
[:SENSe] :GSMedgE :MEASurement (?)	測定項目を選択する
[:SENSe] :GSMedgE :MODulation (?)	変調方式を選択する
[:SENSe] :GSMedgE :SLOT (?)	1ブロックあたりのスロット数を設定する
[:SENSe] :GSMedgE :Standard :BAND (?)	GSM/EDGE の規格を選択する
[:SENSe] :GSMedgE :Standard :DIRection (?)	リンク方法を選択する
[:SENSe] :GSMedgE :STINdex (?)	スプリアス・テーブルの列番号を指定する
[:SENSe] :GSMedgE :TSCode :AUTO (?)	TS コードを自動で設定するかどうかを選択する
[:SENSe] :GSMedgE :TSCode [:NUMBer] (?)	TS コードを設定する
オプション25 型 cdma2000 解析関連 (:Standard = :FLCDMA2K :RLCDMA2K)	
:SENSe :Standard サブグループ	cdma2000 解析全般
[:SENSe] :Standard :ACQuisition :CHIPs (?)	1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定する
[:SENSe] :Standard :ACQuisition :HISTory (?)	解析するブロック番号を設定する
[:SENSe] :Standard :ACQuisition :SEConds (?)	1 ブロックの取り込み時間を秒単位で設定する
[:SENSe] :Standard :ANALySis :INTerval (?)	解析時間を設定する
[:SENSe] :Standard :ANALySis :OFFSet (?)	解析範囲の始点を設定する
[:SENSe] :Standard :BLOCk (?)	測定するブロック数を設定する
[:SENSe] :Standard [:IMMediate] (?)	取り込んだデータの解析を開始する
[:SENSe] :Standard :MEASurement (?)	測定項目を選択する
[:SENSe] :Standard :SPECTrum :OFFSet (?)	スペクトラムの FFT 処理開始位置を設定する
[:SENSe] :Standard :SPECTrum :TINTerval ?	スペクトラムの FFT 処理範囲を返す
:SENSe :Standard :ACPower サブグループ	ACPR 測定関連
[:SENSe] :Standard :ACPower :BANDwidth BWIDth :INTegration (?)	メイン・チャンネルの帯域幅を設定する
[:SENSe] :Standard :ACPower :FILTer :COEFFicient (?)	フィルタのロールオフ係数を設定する
[:SENSe] :Standard :ACPower :FILTer :TYPE (?)	フィルタを選択する
[:SENSe] :Standard :ACPower :LIMit :LADJacent <x> [:STATE] (?)	隣接チャンネル・リミット・テストの有効/無効を設定する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:SENSe:Standard:CCDF サブグループ	CCDF 測定関連
[:SENSe] :Standard:CCDF:RMEasurement (?)	累積された測定をクリアし、測定を再開する
[:SENSe] :Standard:CCDF:THReshoId (?)	CCDF 測定のスレッシュホールドを設定する
:SENSe:Standard:CDPower サブグループ	コード・ドメイン・パワー測定関連
[:SENSe] :Standard:CDPower:ACCThreshoId (?)	アクティブ・チャンネルのスレッシュホールドを設定する
[:SENSe] :Standard:CDPower:FILTer:MEASurement (?)	測定フィルタを選択する
[:SENSe] :Standard:CDPower:IQSWap (?)	IQ データのスイッチングの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:CDPower:MLEVe1 (?)	測定レベルを設定する
[:SENSe] :FLCDMA2K:CDPower:PNOFFset (?)	PN オフセットを設定する
[:SENSe] :FLCDMA2K:CDPower:QOF (?)	準直交関数 (QOF) を設定する
[:SENSe] :Standard:CDPower:RCONfig (?)	無線構成 (RC) を設定する
[:SENSe] :Standard:CDPower:SELEct:CODE (?)	PCG 内のコードを設定する
[:SENSe] :Standard:CDPower:SELEct:PCG (?)	PCG を設定する
[:SENSe] :Standard:CDPower:WCODe (?)	Walsh コード長を設定する
:SENSe:Standard:CHPower サブグループ	チャンネル電力測定
[:SENSe] :Standard:CHPower:BANdwidth BWIDth:INTegratIon (?)	チャンネル帯域幅を設定する
[:SENSe] :Standard:CHPower:FILTer:COEFFicient (?)	フィルタのロール・オフ係数を設定する
[:SENSe] :Standard:CHPower:FILTer:TYPE (?)	フィルタを選択する
[:SENSe] :Standard:CHPower:LIMit[:STATe] (?)	リミット・テストの有効/無効を設定する
:SENSe:Standard:IM サブグループ	相互変調歪測定関連
[:SENSe] :Standard:IM:BANdwidth BWIDth:INTegratIon (?)	メイン・チャンネルの帯域幅を設定する
[:SENSe] :Standard:IM:FILTer:COEFFicient (?)	フィルタのロール・オフ係数を設定する
[:SENSe] :Standard:IM:FILTer:TYPE (?)	フィルタを選択する
[:SENSe] :Standard:IM:LIMit:FORDer[:STATe] (?)	5 次高調波のリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:IM:LIMit:TORDer[:STATe] (?)	3 次高調波のリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:IM:SCOFFset (?)	第 2 チャンネルの周波数を設定する
:SENSe:Standard:MACCuracy サブグループ	変調精度測定関連
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:ACCThreshoId (?)	コード・チャンネルの動作を決めるレベルを設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:FILTer:MEASurement (?)	測定フィルタを選択する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:IQSWap (?)	IQ データのスイッチングの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe] (?)	ピーク EVM リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe] (?)	RMS EVM リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:LIMit:PCDError[:STATe] (?)	PCD エラーのリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe] (?)	ロー (ρ) のリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe] (?)	タウ (τ) のリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:MLEVe1 (?)	測定レベルを設定する
[:SENSe] :FLCDMA2K:MACCuracy:PNOFFset (?)	PN オフセットを設定する
[:SENSe] :FLCDMA2K:MACCuracy:QOF (?)	準直交関数 (QOF) を設定する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:RCONfig(?)	無線構成 (RC) を設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:SElect:CODE(?)	PCG 内のコードを設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:SElect:PCG(?)	PCG を設定する
[:SENSe] :Standard:MACCuracy:WCode(?)	Walsh コード長を設定する
:SENSe:Standard:OBWidth サブグループ	OBW 測定関連
[:SENSe] :Standard:OBWidth:LIMit[:STATe](?)	リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:OBWidth:PERcent(?)	占有帯域幅を設定する
:SENSe:Standard:PCCHannel サブグループ	パイロット/コード・チャンネル測定関連
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:ACCThreshoId(?)	コード・チャンネルの動作を決めるレベルを設定する
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:FILTer:MEASurement(?)	測定フィルタを選択する
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:IQSWap(?)	IQ データのスイッチングの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe](?)	位相リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe](?)	時間リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :FLCDMA2K:PCCHannel:PNOFfset(?)	PN オフセットを設定する
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:RCONfig(?)	無線構成 (RC) を設定する
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:SElect:CODE(?)	PCG 内のコードを設定する
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:SElect:PCG(?)	PCG を設定する
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:WCode(?)	Walsh コード長を設定する
:SENSe:RLCDMA2K:PVTime サブグループ	電力対時間測定関連
[:SENSe] :RLCDMA2K:PVTime:BURSt:OFFSet(?)	トリガ位置とバースト位置間のオフセットを選択する
[:SENSe] :RLCDMA2K:PVTime:BURSt:SYNC(?)	バースト・シンクを選択する
[:SENSe] :RLCDMA2K:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe](?)	ゾーン・リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:LEVeL(?)	リファレンス・チャンネル・レベルを設定する
[:SENSe] :RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:MODE(?)	リファレンス・チャンネル・レベルのモードを選択する
[:SENSe] :RLCDMA2K:PVTime:SLOT[:TYPE](?)	スロット・タイプを選択する
:SENSe:Standard:SEMask サブグループ	スペクトラム・エミッション・マスク測定関連
[:SENSe] :Standard:SEMask:BANDwidth BWIDth:INTEgration(?)	チャンネル帯域幅を設定する
[:SENSe] :Standard:SEMask:BURSt:OFFSet(?)	トリガ位置とバースト位置間のオフセットを選択する
[:SENSe] :Standard:SEMask:BURSt:SYNC(?)	バースト・シンクを選択する
[:SENSe] :Standard:SEMask:FILTer:COEFFicient(?)	フィルタのロールオフ係数を設定する
[:SENSe] :Standard:SEMask:FILTer:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSe] :Standard:SEMask:LIMit:ISPuriuos:ZONE<x>[:STATe](?)	インバンド・スプリアス・リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE<x>[:STATe](?)	周波数オフセット・リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe] :Standard:SEMask:MEASurement(?)	リミット・テーブルを選択する
[:SENSe] :Standard:SEMask:RCHannel:LEVeL(?)	リファレンス・チャンネル・レベルを設定する
[:SENSe] :Standard:SEMask:RCHannel:MODE(?)	リファレンス・チャンネル・レベル・モードを設定する
[:SENSe] :Standard:SEMask:SLOT:GATE(?)	スロット・ゲート時間を設定する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
オプション26 型 1xEV-DO 解析関連 (:Standard = :FL1XEVD0 :RL1XEVD0)	
:SENSe:Standard サブグループ	
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:CHIPs(?)	1 ブロックの取り込み時間をチップ単位で設定する
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:HISTory(?)	解析するブロック番号を設定する
[:SENSe]:Standard:ACQuisition:SEConds(?)	1 ブロックの取り込み時間を秒単位で設定する
[:SENSe]:Standard:ANALysis:INTerval(?)	解析時間を設定する
[:SENSe]:Standard:ANALysis:OFFSet(?)	解析範囲の始点を設定する
[:SENSe]:Standard:BLOCK(?)	測定するブロック数を設定します。
[:SENSe]:Standard[:IMMediate] (?)	取り込んだデータの解析を開始する
[:SENSe]:Standard:MEASurement(?)	測定項目を選択する
[:SENSe]:Standard:SPECTrum:OFFSet(?)	スペクトラムの FFT 処理開始位置を設定する
[:SENSe]:Standard:SPECTrum:TINTerval ?	スペクトラムの FFT 処理範囲を返す
:SENSe:Standard:ACPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:ACPower:BANDwidth BWIDTH:INTegration (?)	メイン・チャンネルの帯域幅を設定する
[:SENSe]:Standard:ACPower:FILTer:COEFFicient(?)	フィルタのロールオフ係数を設定する
[:SENSe]:Standard:ACPower:FILTer:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSe]:Standard:ACPower:LIMit:LADJacent<x>[:STATe] (?)	隣接チャンネル・リミット・テストの有効/無効を設定する
:SENSe:Standard:CCDF サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CCDF:RMEasurement (?)	累積された測定をクリアし、測定を再開する
[:SENSe]:Standard:CCDF:THReshold(?)	CCDF 測定のスレッシュホールドを設定する
:SENSe:Standard:CDPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CDPower:ACCThreshold(?)	アクティブ・チャンネルのスレッシュホールドを設定する
[:SENSe]:FL1XEVD0:CDPower:CHANnel[:TYPE] (?)	チャンネル・タイプを選択する
[:SENSe]:Standard:CDPower:FILTer:MEASurement(?)	測定フィルタを選択する
[:SENSe]:Standard:CDPower:IQSWap(?)	IQ データのスイッチングの有効/無効を設定する
[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMASK:I(?)	I 信号のロング・コード・マスクを設定する
[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMASK:Q(?)	Q 信号のロング・コード・マスクを設定する
[:SENSe]:Standard:CDPower:MLEVel (?)	測定レベルを設定する
[:SENSe]:FL1XEVD0:CDPower:PNOffset(?)	PN オフセットを設定する
[:SENSe]:Standard:CDPower:SElect:CODE(?)	ハーフ・スロット内のコードを設定する
[:SENSe]:Standard:CDPower:SElect:HSLot(?)	ハーフ・スロットを設定する
:SENSe:Standard:CHPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CHPower:BANDwidth BWIDTH:INTegration (?)	チャンネル帯域幅を設定する
[:SENSe]:Standard:CHPower:FILTer:COEFFicient(?)	フィルタのロール・オフ係数を設定する
[:SENSe]:Standard:CHPower:FILTer:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSe]:Standard:CHPower:LIMit[:STATe] (?)	リミット・テストの有効/無効を設定する

表 2-30: :SENSE コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:SENSE:Standard:IM サブグループ	
[:SENSE] :Standard:IM:Bandwidth BWidth:INtegration(?)	メイン・チャンネルの帯域幅を設定する
[:SENSE] :Standard:IM:Filter:COEfficient(?)	フィルタのロール・オフ係数を設定する
[:SENSE] :Standard:IM:Filter:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSE] :Standard:IM:LIMit:FORDer[:STATe](?)	5 次高調波のリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :Standard:IM:LIMit:TORDer[:STATe](?)	3 次高調波のリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :Standard:IM:SCOFFset(?)	第 2 チャンネルの周波数を設定する
:SENSE:Standard:MACCuracy サブグループ	
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:ACCThreshoId(?)	コード・チャンネルの動作を決めるレベルを設定する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:CHANnel[:TYPE](?)	チャンネル・タイプを選択する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:Filter:MEASurement(?)	測定フィルタを選択する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:IQSwAp(?)	IQ データのスワッピングの有効/無効を設定する
[:SENSE] :RL1XEVD0:MACCuracy:LCMASK:I(?)	I 信号のロング・コード・マスクを設定する
[:SENSE] :RL1XEVD0:MACCuracy:LCMASK:Q(?)	Q 信号のロング・コード・マスクを設定する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe](?)	ピーク EVM リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe](?)	RMS EVM リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:LIMit:PCDError[:STATe](?)	PCD エラーのリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe](?)	ロー (ρ) のリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe](?)	タウ (τ) のリミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:MLEVel(?)	測定レベルを設定する
[:SENSE] :FL1XEVD0:MACCuracy:PNOFFset(?)	PN オフセットを設定する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:SElect:CODE(?)	ハーフ・スロット内のコードを設定する
[:SENSE] :Standard:MACCuracy:SElect:HSLot(?)	ハーフ・スロットを設定する
:SENSE:Standard:OBWidth サブグループ	
[:SENSE] :Standard:OBWidth:LIMit[:STATe](?)	リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :Standard:OBWidth:PERcent(?)	占有帯域幅を設定する
:SENSE:Standard:PCCHannel サブグループ	
[:SENSE] :Standard:PCCHannel:ACCThreshoId(?)	コード・チャンネルの動作を決めるレベルを設定する
[:SENSE] :FL1XEVD0:PCCHannel:CHANnel[:TYPE](?)	チャンネル・タイプを選択する
[:SENSE] :Standard:PCCHannel:Filter:MEASurement(?)	測定フィルタを選択する
[:SENSE] :Standard:PCCHannel:IQSwAp(?)	IQ データのスワッピングの有効/無効を設定する
[:SENSE] :RL1XEVD0:PCCHannel:LCMASK:I(?)	I 信号のロング・コード・マスクを設定する
[:SENSE] :RL1XEVD0:PCCHannel:LCMASK:Q(?)	Q 信号のロング・コード・マスクを設定する
[:SENSE] :Standard:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe](?)	位相リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :Standard:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe](?)	時間リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSE] :FL1XEVD0:PCCHannel:PNOFFset(?)	PN オフセットを設定する
[:SENSE] :Standard:PCCHannel:SElect:CODE(?)	ハーフ・スロット内のコードを設定する
[:SENSE] :Standard:PCCHannel:SElect:HSLot(?)	ハーフ・スロットを設定する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
:SENSe:FL1XEVD0:PVTime サブグループ	
[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:OFFSet(?)	トリガ位置とバースト位置間のオフセットを選択する
[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:SYNC(?)	バースト・シンクを選択する
[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe](?)	ゾーン・リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHanne1:LEVe1(?)	リファレンス・チャンネル・レベルを設定する
[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHanne1:MODE(?)	リファレンス・チャンネル・レベルのモードを選択する
[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:SLOT[:TYPE](?)	スロット・タイプを選択する
:SENSe:Standard:SEMAsk サブグループ	
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:BANDwidth BWiDth:INTEgration(?)	チャンネル帯域幅を設定する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:BURSt:OFFSet(?)	トリガ位置とバースト位置間のオフセットを選択する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:BURSt:SYNC(?)	バースト・シンクを選択する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:FILTer:COEFFicient(?)	フィルタのロールオフ係数を設定する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:FILTer:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:LIMit:ISPuriuos:ZONE<x>[:STATe](?)	インバンド・スプリアス・リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:LIMit:OFCHanne1:ZONE<x>[:STATe](?)	周波数オフセット・リミット・テストの有効/無効を設定する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:MEASurement(?)	リミット・テーブルを選択する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:RCHanne1:LEVe1(?)	リファレンス・チャンネル・レベルを設定する
[:SENSe]:Standard:SEMAsk:RCHanne1:MODE(?)	リファレンス・チャンネル・レベル・モードを設定する
[:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT:GATE(?)	スロット・ゲート時間を設定する
[:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT[:TYPE](?)	スロット・タイプ(アイドルまたはアクティブ)を設定する
オプション27 型 3GPP-R5 解析関連 (:Standard = :DLR5_3GPP :ULR5_3GPP)	
[:SENSe]:DLR5_3GPP サブグループ	
[:SENSe]:DLR5_3GPP:BLOCK(?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:CARRier:OFFSet(?)	キャリア周波数のオフセットを設定する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:CARRier:SEARCh(?)	キャリア検出を自動で行うかどうかを選択する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:COMPosite(?)	コンポジット解析を実行するかどうかを選択する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:DTYPe:SEARCh(?)	コード・チャンネルの変調方式の自動検出を指定する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:ALPHa(?)	基準フィルタを設定する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:MEASurement(?)	測定フィルタを選択する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:REFerence(?)	基準フィルタを選択する
[:SENSe]:DLR5_3GPP[:IMMediate]	取り込んだデータの解析演算を開始する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:LENGth(?)	解析範囲を設定する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:OFFSet(?)	測定範囲の始点を設定する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCHPart(?)	SCH を解析に含めるかどうかを選択する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:ALTErnative(?)	代替スクランプリング・コードを選択する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:NUMBer(?)	スクランプリング・コードを設定する
[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:SEARCh(?)	スクランプリング・コードの自動検出を選択する
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR サブグループ	
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:ALPHa(?)	フィルタ係数 (α/BT) を設定する
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:LIMit:ADJacent<x>[:STATe](?)	隣接リミット・テストを有効にするかどうかを選択する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR:NCORrection(?)	ノイズ補正を行うかどうかを選択する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR:SWEEP(?)	25MHz スパンの掃引方法を選択する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:CHPower サブグループ	3GPP-R5 ダウンリンクのチャンネル電力測定関連
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:CHPower:BANDwidth BWIDTH:INTegration(?)	チャンネル帯域幅を設定する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:COEFFicient(?)	フィルタのロールオフ係数を設定する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:CHPower:LIMit[:STATe] (?)	リミット・テストを有効にするかどうかを選択する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:OBWidth サブグループ	3GPP-R5 ダウンリンク OBW 測定関連
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:OBWidth:LIMit[:STATe] (?)	リミット・テストを有効にするかどうかを選択する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:OBWidth:PERCent(?)	OBW 測定の占有帯域幅を設定する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask サブグループ	3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム放射マスク測定関連
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:BANDwidth BWIDTH:INTegration(?)	チャンネル帯域幅を設定する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:COEFFicient(?)	フィルタのロールオフ係数を設定する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:TYPE(?)	フィルタを選択する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:LIMit:ZONE<x>[:STATe] (?)	リミット・テストを有効にするかどうかを選択する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:LEVel (?)	リファレンス・チャンネル・レベルを設定する
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:MODE(?)	リファレンス・チャンネル・レベルのモードを選択する
[:SENSe] :ULR5_3GPP サブグループ	3GPP-R5 アップリンク変調解析関連
[:SENSe] :ULR5_3GPP:BLOCK(?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:CARRier:OFFSet(?)	キャリア周波数のオフセットを設定する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:CARRier:SEARCh(?)	キャリア検出を自動で行うかどうかを選択する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:FILTer:ALPHa(?)	フィルタ係数 (α /BT) を設定する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:FILTer:MEASurement(?)	測定フィルタを選択する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:FILTer:REFerence(?)	基準フィルタを選択する
[:SENSe] :ULR5_3GPP[:IMMediate]	解析演算を開始する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:LENGth(?)	解析範囲を定義する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:OFFSet(?)	測定範囲の始点を設定する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:SCODE:NUMBer(?)	スクランプリング・コード番号を設定する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:SCODE:TYPE(?)	スクランプリング・コード・タイプを設定する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:DLTime(?)	ダウンリンク・タイム・オフセットを設定する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet[:STSLot] (?)	サブフレーム・タイムスロット・オフセットを設定する
[:SENSe] :ULR5_3GPP:SFRame:SEARCh(?)	サブフレーム・オフセットの自動検出を行うかどうかを選択する
オプション29型 WLAN 解析関連	
[:SENSe] :WLAN サブグループ	WLAN 解析関連
[:SENSe] :WLAN:ACQuisition:HISTory(?)	解析・表示するデータ取り込みブロック番号を設定する
[:SENSe] :WLAN:ACQuisition:SEConds(?)	データ取り込み長を設定する
[:SENSe] :WLAN:ANALysis:EQUalization[:STATe] (?)	ロング・トレーニング・シンボルのデータ補正を選択する
[:SENSe] :WLAN:ANALysis:LENGth(?)	解析時間を設定する
[:SENSe] :WLAN:ANALysis:MODulation(?)	変調の種類を選択する
[:SENSe] :WLAN:ANALysis:OFFSet(?)	測定開始点を設定する
[:SENSe] :WLAN:ANALysis:SYNC(?)	ロング・トレーニング・シンボルの同期方法を選択する
[:SENSe] :WLAN:BLOCK(?)	測定するブロックの番号を設定する
[:SENSe] :WLAN[:IMMediate]	WLAN 解析の演算を実行する

表 2-30: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	説明
[:SENSe] :WLAN:MEASurement(?)	測定項目を選択する
[:SENSe] :WLAN:SMASK[:SElect](?)	スペクトラム・マスク測定 of 信号の種類を選択する
[:SENSe] :WLAN:SPECTrum:OFFSet(?)	スペクトラム・オフセットを設定する
[:SENSe] :WLAN:SSEGment(?)	シンボルまたはセグメント番号を設定する
[:SENSe] :WLAN:SUBCarrier[:NUMBer](?)	サブキャリア番号を設定する
[:SENSe] :WLAN:SUBCarrier:SElect(?)	表示するサブキャリアを選択する
[:SENSe] :WLAN:TPOWer:BURSt:INDex(?)	送信電力測定でバースト番号を設定する

:STATus コマンド

イベント/ステータス・レジスタを設定または読み取ります。

表 2-31: :STATus コマンド

ヘッダ	説明
:STATus:OPERation:CONDition?	レジスタ OCR の内容を問合せ
:STATus:OPERation:ENABle(?)	レジスタ OENR のマスクを設定する
:STATus:OPERation[:EVENT]?	レジスタ OEVR の内容を問合せ
:STATus:OPERation:NTRansition(?)	ネガティブ・トランジション・フィルタの値を設定する
:STATus:OPERation:PTRansition(?)	ポジティブ・トランジション・フィルタの値を設定する
:STATus:PRESet	ステータス・バイトをプリセットする
:STATus:QUESTionable:CONDition?	レジスタ QCR の内容を問合せ
:STATus:QUESTionable:ENABle(?)	レジスタ QENR のマスクを設定する
:STATus:QUESTionable[:EVENT]?	レジスタ QER の内容を問合せ
:STATus:QUESTionable:NTRansition(?)	ネガティブ・トランジション・フィルタの値を設定する
:STATus:QUESTionable:PTRansition(?)	ポジティブ・トランジション・フィルタの値を設定する

:SYSTem コマンド

システム・パラメータの設定とシステム情報の問合せを行います。

表 2-32: :SYSTem コマンド

ヘッダ	説明
:SYSTem:DATE(?)	日付を設定する
:SYSTem:ERRor:ALL?	すべてのエラー/イベント情報を問合せ
:SYSTem:ERRor:CODE:ALL?	すべてのエラー/イベント・コードを問合せ
:SYSTem:ERRor:CODE[:NEXT]?	最新のエラー/イベント・コードを問合せ
:SYSTem:ERRor:COUNT?	エラー/イベントの個数を問合せ
:SYSTem:ERRor[:NEXT]?	最新のエラー/イベント情報を問合せ
:SYSTem:KLOCK(?)	前面パネル・キーの機能のロックまたはロック解除を選択する
:SYSTem:OPTions?	オプション情報を問合せ
:SYSTem:PRESet	機器をプリセットする

表 2-32: :SYSTem コマンド (続き)

ヘッダ	説明
:SYSTem:TIME(?)	時刻を設定する
:SYSTem:VERSion?	SCPI のバージョンを問合せ

:TRACe コマンド

トレース 1, 2 の表示に関する設定を行います。

表 2-33: :TRACe コマンド

ヘッダ	説明
:TRACe<x> DATA<X>:AVERage:COUNT(?)	トレースのアベレージ回数を設定する
:TRACe<x> DATA<X>:AVERage:CLEar	トレースのアベレージをリセットする
:TRACe<x> DATA<X>:DDETEctor(?)	トレースの表示ディテクタを選択する
:TRACe<x> DATA<X>:MODE(?)	トレースの表示形式を選択する
:TRACe2 DATA2:MODE(?) (オプション21 型のみ)	シグナル・ソース解析でトレース2の表示形式を選択する

:TRIGger コマンド

トリガの設定を行います。

表 2-34: :TRIGger コマンド

ヘッダ	説明
:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:EXTErnal(?)	外部トリガ・レベルを設定する
:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:IQFREquency(?)	IQ 周波数トリガ・レベルを設定する (オプション02 型のみ)
:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:IQTime(?)	IQ 時間トリガ・レベルを設定する (オプション02 型のみ)
:TRIGger[:SEQuence]:MODE(?)	トリガ・モードを選択する
:TRIGger[:SEQuence]:MPOsition?	1 ブロック・データ中のトリガ発生点を問合せ
:TRIGger[:SEQuence]:OPOsition?	トリガ出力点を問合せ
:TRIGger[:SEQuence]:POsition(?)	トリガ・ポジションを設定する
:TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT[:STATe](?)	データ保存回数に上限を設定するかどうかを選択する
:TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT:MAXimum(?)	セーブ・オン・トリガのデータ保存回数の上限を設定する
:TRIGger[:SEQuence]:SAVE[:STATe](?)	セーブ・オン・トリガの有効/無効を選択する
:TRIGger[:SEQuence]:SLOPe(?)	トリガ・スロープを選択する
:TRIGger[:SEQuence]:SOURce(?)	トリガ・ソースを選択する

:UNIT コマンド

測定単位の設定を行います。

表 2-35: :UNIT コマンド

ヘッダ	説明
:UNIT:ANGLE(?)	角度の単位を選択する

一般的なプログラム手順

プログラムは、一般に次の流れで作成されます。

1. 測定モードの設定

:INSTrument コマンドを使用して、測定モードを選択し、基本設定を行います。

【例】 :INSTrument:SElect "SANORMAL"

スペクトラム解析モードを選択し、基本設定を行います。

2. 測定項目の設定

:CONFigure コマンドで、測定項目を選択し、デフォルト状態に設定します。

【例】 :CONFigure:SPECTrum:CHPower

チャンネル電力測定のデフォルト状態に設定します。

3. 詳細設定

:SENSe コマンドを使用して、測定ごとの詳細な設定を行います。

【例】 :SENSe:CHPower:BWIDth:INTEgration 3MHz

チャンネル電力測定範囲を 3MHz に設定します。

4. データの取り込み

:INITiate または :ABOrt コマンドを使用して、データの取り込みを開始または停止します。

【例】 :INITiate:CONTInuous ON

連続モードでデータの取り込みを開始します。

取り込んだデータおよび設定条件の保存／読み出しには、:MMEMory コマンドを使用します。

【例】 :MMEMory:STORe:IQT "DATA1"

取り込んだデータをファイル DATA1.IQT に保存します。

5. 測定結果の取得

:FETCh または :READ コマンドを使用して、測定結果を取得します。

【例】 :FETCh:SPECTrum:CHPower?

チャンネル電力測定結果を取得します。

6. 表示

:DISPlay コマンドを使用して、表示に関する設定を行います。

【例】 :DISPlay:SPECTrum:X:SCALE:OFFSet 800MHz

スペクトラム表示の横軸の最小値（左端）を 800MHz に設定します。

注：設定が禁止されている場合や設定ができない場合には、画面上のメニュー項目が灰色で表示されます。このメニュー項目に相当する GPIB コマンドを実行すると、エラーが発生します。例えば、画面に波形が表示されていないときには、スケール関連のコマンドは無効となります。

第4章のプログラム例にサンプル・プログラムを示しています。
付録Bには、各コマンドのデフォルト設定を示しています。

IEEE 共通コマンド

IEEE 共通コマンドの詳細を説明します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
*CAL?	
*CLS	
*ESE	<value>
*ESR?	
*IDN?	
*OPC	
*OPT?	
*RST	
*SRE	<value>
*STB?	
*TRG	
*TST?	
*WAI	

*CAL? (問合せのみ)

次の3種類の校正を実行し、校正が正常に終了したかどうかの結果を返します。

RF ゲイン校正

センタ・オフセット校正

DC オフセット校正 (オプション05 型で測定周波数帯がベースバンドのとき)

このコマンドは、:CALibration[:ALL]? 問合せコマンドと等価です。

注: 校正には、数秒から十数秒かかります。この間に次のコマンド送っても、受け付けられません。

構文: *CAL?

引数: なし

応答: <NR1>

0 は正常終了を示します。

エラー・コードの詳細については、3-19ページを参照してください。

測定モード: 全モード

使用例: 校正を実行します。

*CAL?

次の応答は、校正が正常に終了したことを示しています。

0

関連コマンド: :CALibration[:ALL]

*CLS (問合せなし)

ステータス/イベント・レポート機能で使用されるイベント・ステータス・レジスタとキューをすべてクリアします。
ステータスとイベントについての詳細は、3-1ページ以降を参照してください。

構文: *CLS

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: すべてのイベント・ステータス・レジスタとキューをクリアします。

*CLS

関連コマンド: *ESE, *ESR, *SRE, *STB?

*ESE(?)

ステータス/イベント・レポート機能で使用されるレジスタ ESER (Event Status Enable Register) の値を設定または問合せます。
ステータスとイベントについての詳細は、3-1ページ以降を参照してください。

構文: *ESE <value>

*ESE?

引数: <value>::=<NR1> — 設定範囲: 0~255。
ESER には、この値に対応するバイナリ・コードが設定されます。

測定モード: 全モード

使用例: ESER を 145 (2進 10010001) に設定します。
この場合、ESER の PON、EXE、OPC の各ビットがセットされます。

*ESE 145

次は、*ESE? に対する応答例です。

184

この場合、ESER の内容は、10111000 となります。

関連コマンド: *CLS, *ESR, *SRE, *STB?

*ESR? (問合せのみ)

ステータス/イベント・レポーティング機能で使われるレジスタ SESR (Standard Event Status Register) の内容を問合せます。SESR は、読み出した後にクリアされます。

ステータスとイベントについての詳細は、3-1ページ以降を参照してください。

構文: *ESR?

引数: なし

応答: <NR1> — SESR の内容が 0~255 の 10 進数で表されます。

測定モード: 全モード

使用例: *ESR? の応答例です。

213

この場合、SESR の内容は 2 進数で 11010101 です。

関連コマンド: *CLS, *ESE?, *SRE, *STB?

*IDN? (問合せのみ)

本機器の識別コードを返します。

構文: *IDN?

引数: なし

応答: 次のフォーマットで本機器の識別コードを返します。

```
TEKTRONIX,RSA340XA,<serial_number>,<firmware_version>
```

ここで

TEKTRONIX — 製造者：テクトロニクス

<serial_number> — シリアル・ナンバ

<firmware_version> — ファームウェア・バージョン

測定モード: 全モード

使用例: 本機器の識別コードを問合せます。

```
*IDN?
```

次は応答例です。

```
TEKTRONIX,RSA3408A,B300101,3.10.000
```

*OPC(?)

他のコマンドの操作完了を確認します。2つのコマンドの実行時、2番目のコマンドを実行する前に1番目のコマンドの完了を確認するときに使います。詳細は、3-17ページの「コマンドの同期処理」を参照してください。

構文: *OPC

```
*OPC?
```

引数: なし

測定モード: 全モード

*OPT? (問合せのみ)

機器にインストールされているオプションを問合せます。

構文: *OPT?

引数: なし

応答: 機器にインストールされたすべてのオプションの番号をコンマで区切った文字列で返します。オプションがインストールされていない場合には、0を返します。

測定モード: 全モード

使用例: *OPT? 問合せコマンドに対する応答例です。

02,03,21

これは、オプション02型、03型、および21型が組み込まれていることを示しています。

*RST (問合せなし)

本機器を工場出荷時のデフォルト設定に戻します。設定内容については、付録Cの「デフォルト設定」を参照してください。このコマンドは、:SYSTEM:PRESet および *CLS コマンドを続けて実行するのと等価です。

ただし、次の項目は *RST コマンドの影響を受けません。

- :INSTRument[:SElect] コマンドで選択した測定モード
- GPIB アドレスなどの通信パラメータ

構文: *RST

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: 本機器をリセットします。

*RST

関連コマンド: *CLS, :INSTRument[:SElect], :SYSTEM:PRESet

*SRE(?)

ステータス/イベント・レポーティング機能で使用されるレジスタ SRER (Service Request Enable Register) の値を設定または問合せます。
ステータスとイベントについての詳細は、3-1ページ以降を参照してください。

構文: *SRE <value>

*SRE?

引数: <value>::=<NR1> — SRER のビット値。設定範囲：0~255。
SRER のバイナリ・ビットは、この値によってセットされます。
範囲外の値を代入すると実行エラーが発生します。

測定モード: 全モード

使用例: SRER のビットを 2 進数の 00110000 にセットします。

*SRE 48

次は、問合せの例です。

*SRE?

SRER のビットが 2 進数の 00100000 にセットされていると、値 32 が返ります。

関連コマンド: *CLS, *ESE, *ESR?, *STB?

*STB? (問合せのみ)

ステータス/イベント・レポーティング機能で使われるレジスタ SBR (Status Byte Register) の内容を MSS (Master Summary Status) ビットを使って問合せます。ステータスとイベントについての詳細は、3-1ページ以降を参照してください。

構文: *STB?

引数: なし

応答: <NR1> — SBR の 2 進数の値が 10 進数で返ります。

測定モード: 全モード

使用例: *STB? に対する応答例です。

96

この場合、SBR の内容は 2 進数で 0110 0000 です。

関連コマンド: *CLS, *ESE, *ESR?, *SRE

*TRG (問合せなし)

トリガ信号を発生させます。
このコマンドは、:INITiate[:IMMediate] コマンドと等価です。

構文: *TRG

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: トリガ信号を発生させます。

*TRG

関連コマンド: :INITiate[:IMMediate]

***TST?** (問合せのみ)

セルフテストを実行し、結果を返します。

注：本機器は、セルフテストを行いません。*TST コマンドを送ると、常に 0 が返ります。

構文： *TST?

引数： なし

応答： <NR1>
常に 0 が返ります。

測定モード： 全モード

関連コマンド： *CAL?, CALibration[:ALL]

***WAI** (問合せなし)

実行中または実行待ちのコマンドの全処理が完了するまで、後のコマンドの実行を待ちます。詳細は、3-17ページの「コマンドの同期処理」を参照してください。

構文： *WAI

引数： なし

測定モード： 全モード

使用例： 実行中または実行待ちのコマンドの全処理が完了するまで待ちます。

*WAI

関連コマンド： *OPC

:ABORt コマンド

:ABORt コマンドでは、掃引、測定、およびトリガをリセットし、連続モードの場合には再スタートします。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:ABORt	

:ABORt (問合せなし)

掃引、測定、およびトリガをリセットし、連続モードの場合には再スタートします。

注 : :ABORt コマンドを実行する前に、:INITiate:CONTinuous コマンド (☞ 2-586 ページ) で、データ取り込みの設定をしておく必要があります。

シングル・モードの場合 : データ取り込みを強制終了します。

シングル・モードでトリガがかからないために取り込みを中断するときには、次のコマンドを送ってください。

```
:INITiate:CONTinuous OFF
```

連続モードの場合 : 連続モードで新たにデータ取り込みを開始します。

連続モードで取り込みを停止するときには、次のコマンドを送ってください。

```
:INITiate:CONTinuous OFF
```

構文 : :ABORt

引数 : なし

測定モード : 全モード

使用例 : 連続モードのときに、掃引、測定、およびトリガをリセットし、再スタートします。

```
:ABORt
```

関連コマンド : :INITiate:CONTinuous

:CALCulate コマンド

:CALCulate コマンドでは、マーカ機能とライン表示をコントロールします。コマンド・ヘッダの :CALCulate<x> で、ビューを区別します (図 2-5)。

:CALCulate1 : ビュー1
:CALCulate2 : ビュー2 (注 : 現在、ビュー2 は使用されていません)
:CALCulate3 : ビュー3
:CALCulate4 : ビュー4

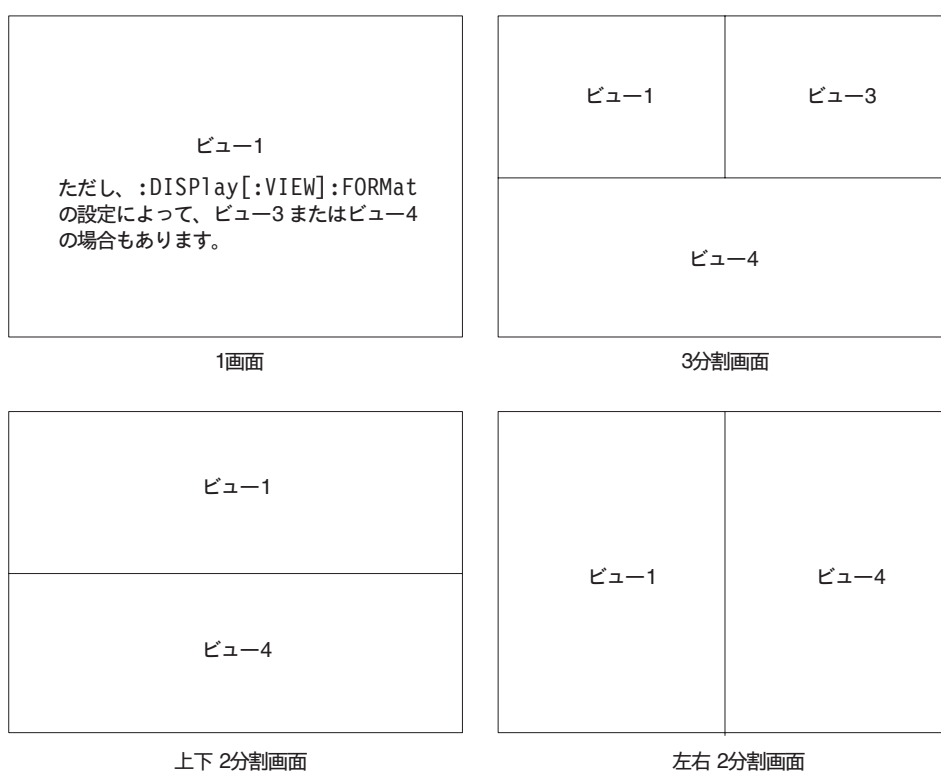


図 2-5 : ビュー番号の割り当て

マーカ機能とライン表示については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CALCulate<x>	
:DLINe<y>	<numeric_value>
:STATe	<boolean>
:MARKer<y>	
:AOFF	
:MAXimum	
:MODE	POSITION DELTA
:PEAK	
:LEFT	
:RIGHT	
:HIGHer	
:LOWer	
:PTHReshold	<numeric_value>
:ROFF	
[:SET]	
:CENTer	
:MEASurement	
:RCURsor	
[:STATe]	<boolean>
:T	<numeric_value>
:TOGGle	
:TRACe	MAIN SUB
:X	<numeric_value>
:Y	<numeric_value>
:VLINe<y>	<numeric_value>
:STATe	<boolean>

:CALCulate<x>:DLINe<y>(?)

水平ラインの縦方向の位置を設定または問合せます。

構文: :CALCulate<x>:DLINe<y> <value>

:CALCulate<x>:DLINe<y>?

引数: <value>::=<NRf> — 水平ラインの縦方向の位置を設定します。
設定範囲: -200~+100 dBm。

測定モード: 全 S/A モード

使用例: 水平ライン1 の縦方向の位置を -20dBm に設定します。

:CALCulate1:DLINe1 -20

関連コマンド: :CALCulate<x>:DLINe<y>:STATe

:CALCulate<x>:DLINe<y>:STATe(?)

水平ラインの表示のオン/オフを選択または問合せます。

構文: :CALCulate<x>:DLINe<y>:STATe { OFF | ON | 0 | 1 }

:CALCulate<x>:DLINe<y>:STATe?

引数: OFF または 0 — 水平ラインを表示しません。

ON または 1 — 水平ラインを表示します。

測定モード: 全 S/A モード

使用例: ビュー1 で水平ライン2 を表示します。

:CALCulate1:DLINe2:STATe 1

:CALCulate<x>:MARKer<y>:AOFF (問合せなし)

指定したビューで、すべてのトレースのすべてのマーカをオフにします。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:AOFF

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 のすべてのトレースのすべてのマーカをオフにします。

:CALCulate1:MARKer:AOFF

:CALCulate<x>:MARKer<y>:MAXimum (問合せなし)

指定したビューで、マーカをトレースの最大値に置きます。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:MAXimum

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 で、マーカをトレースの最大値に置きます。

:CALCulate1:MARKer1:MAXimum

:CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE(?)

指定したビューで、マーカ・モード（ポジションまたはデルタ）を選択または問合せます。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE { POSition | DELTa }

:CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE?

引数: POSition — ポジション・マーカ・モードを選択します。
このモードでは、リファレンス・カーソルを使用せずに、マーカ測定を行います。
<y> の値が 1 と 2 のいずれでも、コマンドの働きは同じです。

DELTA — デルタ・マーカ・モードを選択します。
このモードでは、リファレンス・カーソルを使用して、マーカ測定を行います。
<y> で指定したマーカの現在の位置にリファレンス・カーソルが置かれます。

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 で、デルタ・マーカ・モードを選択します。

:CALCulate1:MARKer1:MODE DELTa

:CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:HIGHer (問合せなし)

指定したビューで、マーカを上方向のピークに移動します。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:HIGHer

引数: なし

応答: ピークがない場合、エラー・メッセージ “No Peak Found Error (202)” が返ります。

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 で、マーカ1 を上方向のピークに移動します。

:CALCulate1:MARKer1:PEAK:HIGHer

:CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:LEFT (問合せなし)

指定したビューで、マーカを左方向のピークに移動します。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:LEFT

引数: なし

応答: ピークがない場合、エラー・メッセージ “No Peak Found Error (202)” が返ります。

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 で、マーカを左方向のピークに移動します。

:CALCulate1:MARKer1:PEAK:LEFT

:CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:LOWer (問合せなし)

指定したビューで、マーカを下方方向のピークに移動します。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:LOWer

引数: なし

測定モード: 全モード

応答: ピークがない場合、エラー・メッセージ “No Peak Found Error (202)” が返ります。

使用例: ビュー1 で、マーカ1 を下方方向のピークに移動します。

:CALCulate1:MARKer1:PEAK:LOWer

:CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:RIGHT (問合せなし)

指定したビューで、マーカを右方向のピークに移動します。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:PEAK:RIGHT

引数: なし

測定モード: 全モード

応答: ピークがない場合、エラー・メッセージ “No Peak Found Error (202)” が返ります。

使用例: ビュー1 で、マーカを右方向のピークに移動します。

:CALCulate1:MARKer1:PEAK:RIGHT

:CALCulate<x>:MARKer<y>:PTHReshold(?)

指定したビューで、ピーク検出時の横軸上のマーカ最小移動量を設定または問合せます。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:PTHReshold <value>

:CALCulate<x>:MARKer<y>:PTHReshold?

引数: <value>::=<NRf> — ピーク検出時の横軸上のマーカ最小移動量を設定します。
設定範囲：スパン設定の 1%~20%。

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 で、ピーク検出時のマーカ1 の最小移動量を 10kHz に設定します。

:CALCulate1:MARKer1:PTHReshold 10kHz

:CALCulate<x>:MARKer<y>:ROFF (問合せなし)

指定したビューで、リファレンス・カーソルをオフにします。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:ROFF

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1で、リファレンス・カーソルをオフにします。

:CALCulate1:MARKer1:ROFF

:CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:CENTER (問合せなし)

指定したビューで、マーカ周波数を中心周波数に設定します。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:CENTER

引数: なし

測定モード: 全 S/A モード

使用例: ビュー1で、マーカ位置の周波数を中心周波数に設定します。

:CALCulate1:MARKer1:SET:CENTer

:CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:MEASurement (問合せなし)

指定したビューで測定位置または範囲を設定します。

注：このコマンドは、横軸が時間を表すビューで有効です。

マーカ・モードによって働きが異なります。

- ポジション・マーカ・モードの場合：
指定したマーカの現在の位置を測定開始位置とします。
- デルタ・マーカ・モードの場合：
指定したマーカとリファレンス・カーソルの現在の位置を測定開始および終了位置とします。

マーカ・モードは、:CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE コマンドで選択します
([P.2-71](#)ページ)。

構文： :CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:MEASurement

引数： なし

測定モード： 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例： ビュー1で測定位置を設定します。

:CALCulate1:MARKer1:SET:MEASurement

関連コマンド： :CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE

:CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:RCURsor (問合せなし)

指定したビューで、マーカ位置にリファレンス・カーソルを表示します。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>[:SET]:RCURsor

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 で、リファレンス・カーソルを表示します。

:CALCulate1:MARKer1::SET:RCURsor

関連コマンド: :CALCulate<x>:MARKer<y>:ROFF

:CALCulate<x>:MARKer<y>[:STATE](?)

指定したビューで、マーカの表示のオン/オフを選択または問合せます。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>[:STATE] { OFF | ON | 0 | 1 }

:CALCulate<x>:MARKer<y>[:STATE]?

引数: OFF または 0 — マーカを表示しません。
デルタ・マーカ・モードを選択している場合は、メイン・マーカとデルタ・マーカの両方がオフになります。

ON または 1 — マーカを表示します。
デルタ・マーカ・モードを選択している場合は、メイン・マーカとデルタ・マーカの両方がオンになります。

マーカ・モードは、:CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE コマンドで選択します。

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 で、マーカを表示します。

:CALCulate1:MARKer1:STATE ON

関連コマンド: :CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE

:CALCulate<x>:MARKer<y>:T(?)

指定したビューで、マーカの時間軸上の位置を設定または問合せます。

注：このコマンドは、アイ・ダイアグラムとコンスタレーション・ビューで有効です。

構文： :CALCulate<x>:MARKer<y>:T <time>

:CALCulate<x>:MARKer<y>:T?

引数： <time>::=<NRf> — マーカの時間軸上の位置を設定します。
設定範囲については、付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード： DEMADEMを除く全 DEMODモード

使用例： アイ・ダイアグラムを表示したビュー4で、マーカ1を-1.5msの点に置きます。

:CALCulate4:MARKer1:T -1.5ms

:CALCulate<x>:MARKer<y>:TOGGLE (問合せなし)

指定したビューで、マーカとリファレンス・カーソルの位置を入れ替えます。

構文： :CALCulate<x>:MARKer<y>:TOGGLE

引数： なし

測定モード： 全モード

使用例： ビュー1で、マーカ1とリファレンス・カーソルの位置を入れ替えます。

:CALCulate1:MARKer1:TOGGLE

:CALCulate<x>:MARKer<y>:TRACe(?)

指定したビューで、マーカを置くトレースを指定します。
問合せでは、マーカが置かれているトレースを返します。

構文: :CALCulate<x>:MARKer<y>:TRACe { MAIN | SUB }

:CALCulate<x>:MARKer<y>:TRACe?

引数: MAIN — マーカをトレース1（現在取り込み中の波形）に置きます。

SUB — マーカをトレース2（レジスタまたはファイルから読み込んだ波形）に置きます。

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1で、マーカをトレース2に置きます。

:CALCulate1:MARKer1:TRACe SUB

:CALCulate<x>:MARKer<y>:X(?)

指定したビューで、マーカの横軸上の位置を設定または問合せます。

注：アイ・ダイアグラムとコンスタレーション・ビューでは、問合せだけが有効です。コンスタレーション・ビューでは、戻り値は振幅を意味します。

構文： :CALCulate<x>:MARKer<y>:X <param>

:CALCulate<x>:MARKer<y>:X?

引数： <param>::=<NRf> — マーカの横軸上の位置を設定します。

マーカ・モードによって値が異なります。

- ポジション・マーカ・モードの場合：
指定マーカの位置を絶対値で設定します。
- デルタ・マーカ・モードの場合：
指定マーカの位置をリファレンス・カーソルからの相対値で設定します。

マーカ・モードは、:CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE コマンドで選択します (2-71ページ)。

設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード： 全モード

使用例： ビュー1で横軸が周波数のとき、マーカ1を800MHzの点に置きます。

:CALCulate1:MARKer1:X 800MHz

関連コマンド： :CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE

:CALCulate<x>:MARKer<y>:Y(?)

指定したビューで、マーカの縦軸上の位置を設定または問合せます。

注：設定コマンドは、DEMOD（変調解析）/ TIME（時間解析）モードのオーバービューと Real Time S/A（リアルタイム・スペクトラム解析）モードで表示されるスペクトログラム・ビューで有効です。他のビューで実行すると、“Execution Error” (-200) が返ります。

問合せコマンドは、すべてのビューで実行できます。コンスタレーション・ビューでは、戻り値は位相を意味します。

構文： :CALCulate<x>:MARKer<y>:Y <param>

:CALCulate<x>:MARKer<y>:Y?

引数： <param>::=<NRf> — マーカの縦軸上の位置を設定します。

マーカ・モードによって値が異なります。

- ポジション・マーカ・モードの場合：
指定マーカの位置を絶対値で設定します。
- デルタ・マーカ・モードの場合：
指定マーカの位置をリファレンス・カーソルからの相対値で設定します。

マーカ・モードは、:CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE コマンドで選択します（[図 2-71](#)ページ）。

設定範囲については、付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード： 設定時：SARTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード；問合せ時：全モード

使用例： ビュー1（スペクトログラム表示）で、マーカ1をフレーム #-20に置きます。

```
:CALCulate1:MARKer1:Y -20
```

次は、ビュー2（スペクトラム表示）での :CALCulate2:MARKer1:Y? 問合せに対する応答例です。

```
-34.28
```

これは、マーカ1の読み取り値が -34.28dBmであることを示しています。

:CALCulate<x>:VLINe<y>(?)

垂直ラインの横方向の位置を設定または問合せます。

構文: :CALCulate<x>:VLINe<y> <value>

:CALCulate<x>:VLINe<y>?

引数: <value>::=<NRf> — 垂直ラインの横方向の位置を設定します。
設定範囲：0～8GHz

測定モード: 全 S/A モード

使用例: 垂直ライン1 の横方向の位置を 800MHz に設定します。

:CALCulate1:VLINe1 800MHz

関連コマンド: :CALCulate<x>:VLINe<y>:STATe

:CALCulate<x>:VLINe<y>:STATe(?)

垂直ラインの表示のオン/オフを選択または問合せます。

構文: :CALCulate<x>:VLINe<y>:STATe { OFF | ON | 0 | 1 }

:CALCulate<x>:VLINe<y>:STATe?

引数: OFF または 0 — 垂直ラインを表示しません。

ON または 1 — 垂直ラインを表示します。

測定モード: 全 S/A モード

使用例: 垂直ライン1 を表示します。

:CALCulate1:VLINe1:STATe ON

:CALibration コマンド

:CALibration コマンドでは、本機器の校正を実行したり、補正係数を取得したりします。校正については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CALibration	
[:ALL]	
:AUTO	
:DATA	
:DEFault	
:FLATness	
:IF	
:IQ	
:CORrection	
:MAGNitude?	
:PHASe?	
:HEADer?	
:VFRame	
:BNUmber	<numeric_value>
[:TYPE]	ALL BLOCK
:OFFSet	
:BASebanddc	
:CENTer	
:IQINput (オプション03 型のみ)	
:RF	

:CALibration[:ALL](?)

:CALibration[:ALL] コマンドでは、次の4種類の校正を実行します。

ゲイン校正
センタ・オフセット校正
IF フラットネス校正
DC オフセット校正（測定周波数帯がベースバンドのとき）

:CALibration[:ALL]? 問合せコマンドは、これらの校正を実行し、結果を返します。
*CAL? 問合せコマンドと等価です。

構文: :CALibration[:ALL]
:CALibration[:ALL]?

引数: なし

測定モード: 全モード

応答: <NR1>
0 は正常終了を示します。
エラー・コードの詳細については、3-19ページを参照してください。

使用例: すべての校正を実行します。
:CALibration:ALL

関連コマンド: *CAL?

:CALibration:AUTO(?)

RF ゲイン校正を自動で実行するかどうか選択または問合せます。

構文: :CALibration:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

:CALibration:AUTO?

引数: OFF または 0 — RF ゲイン校正を自動で実行しません。
:CALibration:RF コマンドで実行します。

ON または 1 — RF ゲイン校正を自動で実行します。

測定モード: 全モード

使用例: RF ゲイン校正を自動で実行します。

:CALibration:AUTO ON

関連コマンド: :CALibration:RF

:CALibration:DATA:DEFAult (問合せなし)

校正データを工場出荷時デフォルト値に戻します。

構文: :CALibration:DATA:DEFAult

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: 校正データを工場出荷時デフォルト値に戻します。

:CALibration:DATA:DEFAult

:CALibration:FLATness:IF(?)

IF フラットネス校正を実行します。
問合せでは、校正を実行し、正常終了であれば、ゼロを返します。

構文: :CALibration:FLATness:IF
:CALibration:FLATness:IF?

引数: なし

応答: <NR1>
0 は正常終了を示します。
エラー・コードの詳細については、3-19ページを参照してください。

測定モード: 全モード

使用例: IF フラットネス校正を実行します。
:CALibration:FLATness:IF

:CALibration:IQ:CORRection:MAGNitude? (問合せのみ)

IF フラットネス補正係数の大きさの値を取得します。

構文: :CALibration:IQ:CORRection:MAGNitude?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Mag(1)><Mag(2)>...<Mag(n)>

ここで
<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。
<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。
<Mag(n)>::=<NR1> — IF フラットネス補正係数の大きさ、単位 [dB]
n : 常に 1024

測定モード: 全モード

使用例: IF フラットネス補正係数の大きさの値を取得します。
:CALibration:IQ:CORRection:MAGNitude?

応答は、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

:CALibration:IQ:CORRection:PHASe? (問合せのみ)

IF フラットネス補正係数の位相の値を取得します。

構文: :CALibration:IQ:CORRection:PHASe?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Phase(1)>< Phase (2)>...< Phase (n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Phase(n)>::=<NR1> — IF フラットネス補正係数の位相、単位 [度]

n : 常に 1024

測定モード: 全モード

使用例: IF フラットネス補正係数の位相の値を取得します。

```
:CALibration:IQ:CORRection:PHASe?
```

応答は、1024バイトのデータが返ります。

```
#41024xxxx...
```

:CALibration:IQ:HEADer? (問合せのみ)

IQ データ・ファイルのヘッダ情報を取得します。
ヘッダの詳細については、RSA3408A 型ユーザ・マニュアルを参照してください。

有効フレームの種類を選択するには、:CALibration:IQ:VFramE[:TYPE] コマンドを使用してください。

構文: :CALibration:IQ:HEADer?

引数: なし

応答: <string> — ヘッダ情報が返ります。

測定モード: 全モード

使用例: IQ データ・ファイルのヘッダ情報を取得します。

```
:CALibration:IQ:HEADer?
```

次は応答例です。

```
"<CR><LF>Type=RSA3408AIQT<CR><LF>FrameReverse=OFF<CR><LF>  
FramePadding=Before<CR><LF>Band=RF3<CR><LF>MemoryMode=Zoom<CR><LF>  
FFTPoints=1024<CR><LF>Bins=801<CR><LF>MaxInputLevel=0<CR><LF>  
LevelOffset=0<CR><LF>CenterFrequency=7.9G<CR><LF>Span=5M<CR><LF>  
BlockSize=40<CR><LF>ValidFrames=40<CR><LF>FramePeriod=160u<CR><LF>  
UnitPeriod=160u<CR><LF>FrameLength=160u<CR><LF>  
DateTime=2005/01/01@ 12:00:00<CR><LF>  
GainOffset=-82.3326910626668<CR><LF>MultiFrames=1<CR><LF>  
MultiAddr=0<CR><LF>IOffset=-0.0475921630859375<CR><LF>  
QOffset=0.12628173828125<CR><LF>"
```

関連コマンド: :CALibration:IQ:VFramE[:TYPE]

:CALibration:IQ:VFRame:BNUMber(?)

:CALibration:IQ:VFRame[:TYPE] コマンドで BLOCK を選択したときに、ブロック番号を指定または問合せます。

構文: :CALibration:IQ:VFRame:BNUMber <value>

:CALibration:IQ:VFRame:BNUMber?

引数: <value>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。設定範囲: -63999~0

測定モード: 全モード

使用例: ブロック番号を -100 に設定します。

:CALibration:IQ:VFRame:BNUMber -100

関連コマンド: :CALibration:IQ:VFRame[:TYPE]

:CALibration:IQ:VFRame[:TYPE](?)

:CALibration:IQ:HEADer? 問合せコマンドで IQ データ・ファイルのヘッダ情報を取得する際に、有効フレームの種類を選択または問合せます。

構文: :CALibration:IQ:VFRame[:TYPE] { ALL | BLOCK }

:CALibration:IQ:VFRame[:TYPE]?

引数: ALL — メモリ上に取り込まれた全 IQ データを選択します。

BLOCK — :CALibration:IQ:VFRame:BNUMber コマンドで指定したブロックの IQ データを選択します。

測定モード: 全モード

使用例: 全 IQ データを選択します。

:CALibration:IQ:VFRame:TYPE ALL

関連コマンド: :CALibration:IQ:HEADer?, :CALibration:IQ:VFRame:BNUMber

:CALibration:OFFSet:BASebanddc(?)

ベースバンド DC オフセット校正を実行します。
問合せでは、校正を実行し、正常終了であれば、ゼロを返します。

注： このコマンドは、入力周波数帯がベースバンド (DC~40MHz) のとき有効です。

構文： :CALibration:OFFSet:BASebanddc

:CALibration:OFFSet:BASebanddc?

引数： なし

応答： <NR1>

0 は正常終了を示します。

エラー・コードの詳細については、3-19ページを参照してください。

測定モード： 全モード

使用例： ベースバンド DC オフセット校正を実行します。

:CALibration:OFFSet:BASebanddc

:CALibration:OFFSet:CENTer(?)

センタ・オフセット校正を実行します。
問合せでは、校正を実行し、正常終了であれば、ゼロを返します。

構文: :CALibration:OFFSet:CENTer
:CALibration:OFFSet:CENTer?

引数: なし

応答: <NR1>
0 は正常終了を示します。
エラー・コードの詳細については、3-19ページを参照してください。

測定モード: 全モード

使用例: センタ・オフセット校正を実行します。
:CALibration:OFFSet:CENTer

:CALibration:OFFSet:IQINput(?) (オプション03 型のみ)

IQ 入力オフセット校正を実行します。
問合せでは、校正を実行し、正常終了であれば、ゼロを返します。

注 : IQ 入力オフセット校正を実行する前に、後部パネルの I/Q コネクタに I/Q 信号を接続し、I/Q 信号の入力レベルをゼロに設定してください。

このコマンドを実行するには、[:SENSe]:FEED コマンドで IQ を選択しておく必要があります。

構文 : :CALibration:OFFSet:IQINput

:CALibration:OFFSet:IQINput?

引数 : なし

応答 : <NR1>

0 は正常終了を示します。
エラー・コードの詳細については、3-19ページを参照してください。

測定モード : 全モード

使用例 : IQ 入力オフセット校正を実行します。

:CALibration:OFFSet:IQINput

関連コマンド : [:SENSe]:FEED

:CALibration:RF(?)

RF ゲイン校正を実行します。
問合せでは、校正を実行し、正常終了であれば、ゼロを返します。

構文: :CALibration:RF
:CALibration:RF?

引数: なし

応答: <NR1>
0 は正常終了を示します。
エラー・コードの詳細については、3-19ページを参照してください。

測定モード: 全モード

使用例: RF ゲイン校正を実行します。
:CALibration:RF

関連コマンド: :CALibration:AUTO

:CONFigure コマンド

:CONFigure コマンドでは、各測定に応じた基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:ADEMod	
:AM	
:FM	
:PM	
:PSpectrum	
:CCDF	
:OVIew	
:PULSe	
:SPECTrum	
:ACPower	
:CFRequency	
:CHPower	
:CNRatio	
:EBWidth	
:OBWidth	
:SPURious	
:TFRequency	
:RTIME	
:SGRam	
:TRANsient	
:FVTime	
:IQVTime	
:PVTime	

注 : :CONFigure コマンドを実行すると、データ取り込みは停止します。以下の各コマンド説明では、データ取り込みを除いて等価な前面パネル・キー操作を示しています。

:CONFigure:ADEMod:AM (問合せなし)

本機器を AM 変調信号解析のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMODO キー → **Analog Demod** サイド・キー → **PRESET** キー
→ **AM Demod** サイド・キー

構文: :CONFigure:ADEMod:AM

引数: なし

測定モード: DEMADEM

使用例: 本機器を AM 変調信号解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:ADEMod:AM

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:ADEMod:FM (問合せなし)

本機器を FM 変調信号解析のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMODO キー → **Analog Demod** サイド・キー → **PRESET** キー
→ **FM Demod** サイド・キー

構文: :CONFigure:ADEMod:FM

引数: なし

測定モード: DEMADEM

使用例: 本機器を FM 変調信号解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:ADEMod:FM

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:ADEMod:PM (問合せなし)

本機器を PM 変調信号解析のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMOMD キー → Analog Demod サイド・キー → PRESET キー
→ PM Demod サイド・キー

構文: :CONFigure:ADEMod:PM

引数: なし

測定モード: DEMADEM

使用例: 本機器を PM 変調信号解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:ADEMod:PM

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:ADEMod:PSpectrum (問合せなし)

本機器をパルス・スペクトラム測定のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMOMD キー → Analog Demod サイド・キー → PRESET キー
→ Pulse Spectrum サイド・キー

構文: :CONFigure:ADEMod:PSpectrum

引数: なし

測定モード: DEMADEM

使用例: 本機器をパルス・スペクトラム測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:ADEMod:PSpectrum

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:CCDF (問合せなし)

本機器を CCDF 測定のリセット設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

TIME キー → **CCDF** サイド・キー → **PRESET** キー → **CCDF** サイド・キー

構文: :CONFigure:CCDF

引数: なし

測定モード: TIMCCDF

使用例: 本機器を CCDF 測定のリセット設定状態にします。

:CONFigure:CCDF

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:OVlew (問合せなし)

DEMOD (変調解析) および TIME (時間解析) モードでオーバービューのデータを取得するために測定オフの状態にします。次の前面パネル・キー操作と等価です。

MEASURE キー → **Measurement Off** サイド・キー

オーバービューのデータの取得には、:FETCh:OVlew? または :READ:OVlew? コマンドを使用します。

構文: :CONFigure:OVlew

引数: なし

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: DEMOD/TIME モードで測定オフの状態にします。

:CONFigure:OVlew

関連コマンド: :FETCh:OVlew?, :READ:OVlew?, :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:PULSe (問合せなし)

本機器をパルス特性解析のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

TIME キー → Pulse Measurements サイド・キー → PRESET キー

構文: :CONFigure:PULSe

引数: なし

測定モード: TIMPULSE

使用例: 本機器をパルス特性解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:PULSe

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:CONFigure:SPECTrum (問合せなし)

本機器をスペクトラム測定のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → { Spectrum Analyzer | S/A with Spectrogram | Real Time S/A
| Standard... } → { W-CDMA-DL | W-CDMA-UL | 3GPP-R5-DL } サイド・キー
→ PRESET キー → Measurement Off サイド・キー

構文: :CONFigure:SPECTrum

引数: なし

測定モード: 全 S/A モード

使用例: 本機器をスペクトラム測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:SPECTrum

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:CONFigure:SPECtrum:ACPpower (問合せなし)

本機器を ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → { Spectrum Analyzer | S/A with Spectrogram | Real Time S/A
| Standard... → W-CDMA-DL | Standard... → W-CDMA-UL } サイド・キー
→ PRESET キー → ACPR または ACLR サイド・キー

構文: :CONFigure:SPECtrum:ACPpower

引数: なし

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: 本機器を ACPR 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:SPECtrum:ACPpower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SPECtrum:CFRequency (問合せなし)

本機器をキャリア周波数測定のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → { Spectrum Analyzer | S/A with Spectrogram | Real Time S/A
| Standard... → { W-CDMA-DL | W-CDMA-UL | 3GPP-R5-DL } } サイド・キー
→ PRESET キー → Carrier Frequency サイド・キー

構文: :CONFigure:SPECtrum:CFRequency

引数: なし

測定モード: 全 S/A モード

使用例: 本機器をキャリア周波数測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:SPECtrum:CFRequency

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SPECTrum:CHPower (問合せなし)

本機器をチャンネル電力測定のリファレンス設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → { Spectrum Analyzer | S/A with Spectrogram | Real Time S/A
| Standard... → W-CDMA-DL | Standard... → W-CDMA-UL } サイド・キー
→ PRESET キー → Channel Power サイド・キー

構 文 : :CONFigure:SPECTrum:CHPower

引 数 : なし

測定モード : SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例 : 本機器をチャンネル電力測定のリファレンス設定状態にします。

:CONFigure:SPECTrum:CHPower

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SPECTrum:CNRatio (問合せなし)

本機器を C/N (キャリア対ノイズ比) 測定のリファレンス設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → { Spectrum Analyzer | S/A with Spectrogram | Real Time S/A
| Standard... → W-CDMA-DL | Standard... → W-CDMA-UL } サイド・キー
→ PRESET キー → C/N サイド・キー

構 文 : :CONFigure:SPECTrum:CNRatio

引 数 : なし

測定モード : SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例 : 本機器を C/N 測定のリファレンス設定状態にします。

:CONFigure:SPECTrum:CNRatio

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SPECtrum:EBWidth (問合せなし)

本機器を EBW（放射帯域幅）測定のリファレンス設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → { Spectrum Analyzer | S/A with Spectrogram | Real Time S/A
| Standard... → { W-CDMA-DL | W-CDMA-UL | 3GPP-R5-DL } } サイド・キー
→ PRESET キー → EBW サイド・キー

構文: :CONFigure:SPECtrum:EBWidth

引数: なし

測定モード: 全 S/A モード

使用例: 本機器を EBW 測定のリファレンス設定状態にします。

:CONFigure:SPECtrum:EBWidth

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SPECtrum:OBWidth (問合せなし)

本機器を OBW（占有帯域幅）測定のリファレンス設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → { Spectrum Analyzer | S/A with Spectrogram | Real Time S/A
| Standard... → W-CDMA-DL | Standard... → W-CDMA-UL } サイド・キー
→ PRESET キー → OBW サイド・キー

構文: :CONFigure:SPECtrum:OBWidth

引数: なし

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: 本機器を OBW 測定のリファレンス設定状態にします。

:CONFigure:SPECtrum:OBWidth

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SPECTrum:SPURious (問合せなし)

本機器をスプリアス測定のリアルタイム・スペクトラム測定の設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → { Spectrum Analyzer | S/A with Spectrogram | Real Time S/A } サイド
キー → PRESET キー → Spurious サイド・キー

構文: :CONFigure:SPECTrum:SPURious

引数: なし

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: 本機器をスプリアス測定のリアルタイム・スペクトラム測定の設定状態にします。

:CONFigure:SPECTrum:SPURious

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:TFRequency:RTIME (問合せなし)

本機器をリアルタイム・スペクトラム測定の設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → Real Time S/A サイド・キー → PRESET キー

構文: :CONFigure:TFRequency:RTIME

引数: なし

測定モード: SARTIME

使用例: 本機器をリアルタイム・スペクトラム測定の設定状態にします。

:CONFigure:TFRequency:RTIME

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:TFRequency:SGRam (問合せなし)

本機器をスペクトログラム測定のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → S/A with Spectrogram サイド・キー → PRESET キー

構文: :CONFigure:TFRequency:SGRam

引数: なし

測定モード: SASGRAM

使用例: 本機器をスペクトログラム測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:TFRequency:SGRam

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:TRANsient:FVTime (問合せなし)

本機器を時間対周波数測定のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

TIME キー → Transient サイド・キー → PRESET キー
→ Frequency versus Time サイド・キー

構文: :CONFigure:TRANsient:FVTime

引数: なし

測定モード: TIMTRAN

使用例: 本機器を時間対周波数測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:TRANsient:FVTime

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:TRANSient:IQVTime (問合せなし)

本機器を時間対 IQ レベル測定のリセット設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

TIME キー → **Transient** サイド・キー → **PRESET** キー
→ **IQ versus Time** サイド・キー

構文: :CONFigure:TRANSient:IQVTime

引数: なし

測定モード: TIMTRAN

使用例: 本機器を時間対 IQ レベル測定のリセット設定状態にします。

:CONFigure:TRANSient:IQVTime

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:TRANSient:PVTime (問合せなし)

本機器を時間対電力測定のリセット設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

TIME キー → **Transient** サイド・キー → **PRESET** キー
→ **Power versus Time** サイド・キー

構文: :CONFigure:TRANSient:PVTime

引数: なし

測定モード: TIMTRAN

使用例: 本機器を時間対電力測定のリセット設定状態にします。

:CONFigure:TRANSient:PVTime

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure コマンド (オプション)

ここでは、オプションの解析ソフトウェアの :CONFigure コマンドについて説明します。サブグループを表2-36 に示します。

表 2-36: :CONFigure コマンドのサブグループ (オプション)

コマンド・ヘッダ	機 能	参 照
オプション21 型 拡張測定解析機能関連		
:CONFigure:DDEMod	デジタル変調解析のデフォルト設定にする	p. 2-108
:CONFigure:RFID	RFID 解析のデフォルト設定にする	p. 2-109
:CONFigure:SSource	シグナル・ソース解析のデフォルト設定にする	p. 2-110
オプション23 型 W-CDMA アップリンク関連		
:CONFigure:AC3Gpp	ACLR 測定のデフォルト設定にする	p. 2-111
:CONFigure:UL3Gpp	アップリンク解析のデフォルト設定にする	p. 2-112
オプション24 型 GSM/EDGE 関連		
:CONFigure:GSMEdge	GSM/EDGE 解析のデフォルト設定にする	p. 2-113
オプション25 型 cdma2000 関連		
:CONFigure:FLCDMA2K :RLCDMA2K	cdma2000 解析のデフォルト設定にする	p. 2-117
オプション26 型 1xEV-DO 関連		
:CONFigure:FL1XEVD0 :RL1XEVD0	1xEV-DO 解析のデフォルト設定にする	p. 2-123
オプション27 型 3GPP-R5 関連		
:CONFigure:DLR5_3GPP	ダウンリンク変調解析のデフォルト設定にする	p. 2-129
:CONFigure:SADLR5_3GPP	ダウンリンク・スペクトラム解析のデフォルト設定にする	p. 2-130
:CONFigure:ULR5_3GPP	アップリンク変調解析のデフォルト設定にする	p. 2-133
オプション29 型 WLAN 関連		
:CONFigure:WLAN	WLAN 解析のデフォルト設定にする	p. 2-134

注 : :CONFigure コマンドを実行すると、データ取り込みは停止します。以下の各コマンド説明では、データ取り込みを除いて等価な前面パネル・キー操作を示しています。

:CONFigure:DDEMod サブグループ デジタル変調解析、オプション21型のみ

:CONFigure:DDEMod コマンドでは、デジタル変調解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:DDEMod	

:CONFigure:DDEMod (問合せなし)

本機器をデジタル変調解析のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMODO キー → **Digital Demod** サイド・キー → **PRESET** キー
→ **IQ/Frequency versus Time** サイド・キー

構文: :CONFigure:DDEMod

引数: なし

測定モード: DEMDDEM

使用例: 本機器をデジタル変調解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:DDEMod

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:CONFigure:RFID サブグループ

RFID 解析、 オプション21 型のみ

:CONFigure:RFID コマンドは、RFID (Radio Frequency Identification) 解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:RFID	

:CONFigure:RFID (問合せなし)

本機器を RFID 解析のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMOD キー → Standard...サイド・キー → RFID 18000-4/6 サイド・キー
→ PRESET キー

構文: :CONFigure:RFID

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: 本機器を RFID 解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:RFID

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SSource サブグループ

シグナル・ソース解析、オプション21型のみ

:CONFigure:SSource コマンドでは、シグナル・ソース解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:SSource	

:CONFigure:SSource (問合せなし)

本機器をシグナル・ソース解析のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

TIME キー → Signal Source Analysis サイド・キー → PRESET キー

構文: :CONFigure:SSource

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 本機器をシグナル・ソース解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:SSource

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:AC3Gpp サブグループ

W-CDMA、 オプション23 型のみ

:CONFigure:AC3Gpp コマンドでは、W-CDMA に準じた ACLR 測定の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:AC3Gpp	

:CONFigure:AC3Gpp (問合せなし)

本機器を ACLR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のデフォルト設定状態にします。次の前面パネル・キー操作と等価です。

S/A キー → **Standard...** サイド・キー → **W-CDMA-DL** サイド・キー
→ **PRESET** キー → **ACLR** サイド・キー

構文: :CONFigure:AC3Gpp

引数: なし

測定モード: SAUL3G

使用例: 本機器を ACPR 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:AC3Gpp

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:UL3Gpp サブグループ

W-CDMA, オプション23 型のみ

:CONFigure:UL3Gpp コマンドでは、W-CDMA アップリンク解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:UL3Gpp	

:CONFigure:UL3Gpp (問合せなし)

本機器を W-CDMA アップリンク解析のデフォルト設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMODO キー → **Standard...** サイド・キー → **W-CDMA-UL** サイド・キー
→ **PRESET** キー

構文: :CONFigure:UL3Gpp

引数: なし

測定モード: DEMUL3G

使用例: 本機器を W-CDMA アップリンク解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:UL3Gpp

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:GSMedge サブグループ

GSM/EDGE, オプション24 型のみ

:CONFigure:GSMedge コマンドでは、GSM/EDGE 解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:GSMedge	
:MACCuracy	
:MCPower	
:MODulation	
:PVTime	
:SPURious	
:SWITching	

:CONFigure:GSMedge:MACCuracy (問合せなし)

本機器を GSM/EDGE 解析の変調確度測定のリファレンス設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMODO キー → **Standard...** サイド・キー → **GSM/EDGE** サイド・キー
→ **PRESET** キー → **Modulation Accuracy** サイド・キー

構文: :CONFigure:GSMedge:MACCuracy

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 本機器を GSM/EDGE 解析の変調確度測定のリファレンス設定状態にします。

:CONFigure:GSMedge:MACCuracy

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:GSMedge:MCPower (問合せなし)

本機器を GSM/EDGE 解析の平均キャリア電力測定のリファレンス設定状態にします。
次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMODO キー → **Standard...** サイド・キー → **GSM/EDGE** サイド・キー
→ **PRESET** キー → **Mean Carrier Power** サイド・キー

構文: :CONFigure:GSMedge:MCPower

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 本機器を GSM/EDGE 解析の平均キャリア電力測定のリファレンス設定状態にします。

:CONFigure:GSMedge:MCPower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:GSMedge:MODulation (問合せなし)

本機器を GSM/EDGE解析のモジュレーション・スペクトラム測定のデフォルト設定状態にします。次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMOMD キー → Standard...サイド・キー → GSM/EDGE サイド・キー
→ PRESET キー → Modulation Spectrum サイド・キー

構文: :CONFigure:GSMedge:MODulation

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 本機器を GSM/EDGE解析のモジュレーション・スペクトラム測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:GSMedge:MODulation

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:GSMedge:PVTime (問合せなし)

本機器を GSM/EDGE 解析の電力対時間測定 of デフォルト設定状態にします。次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMOMD キー → Standard...サイド・キー → GSM/EDGE サイド・キー
→ PRESET キー → Power versus Time サイド・キー

構文: :CONFigure:GSMedge:PVTime

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 本機器を GSM/EDGE 解析の電力対時間測定 of デフォルト設定状態にします。

:CONFigure:GSMedge:PVTime

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:GSMedge:SPURious (問合せなし)

本機器を GSM/EDGE 解析のスプリアス測定のデフォルト設定状態にします。次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMOM キー → Standard... サイド・キー → GSM/EDGE サイド・キー
→ PRESET キー → Inband Spurious サイド・キー

構文: :CONFigure:GSMedge:SPURious

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 本機器を GSM/EDGE 解析のスプリアス測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:GSMedge:SPURious

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:GSMedge:SWITching (問合せなし)

本機器を GSM/EDGE 解析のスイッチング・スペクトラム測定のデフォルト設定状態にします。次の前面パネル・キー操作と等価です。

DEMOM キー → Standard... サイド・キー → GSM/EDGE サイド・キー
→ PRESET キー → Switching Spectrum サイド・キー

構文: :CONFigure:GSMedge:SWITching

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 本機器を GSM/EDGE 解析のスイッチング・スペクトラム測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:GSMedge:SWITching

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2Kコマンドでは、W-CDMAに準じた ACLR 測定の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:FLCDMA2K :RLCDMA2K	
:ACPower	
:CCDF	
:CDPower	
:CHPower	
:IM	
:MACCuracy	
:OBWidth	
:PCCHannel	
:PVTime	
:SEMask	

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACPower

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、機器をACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACPower

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器を ACPR 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:ACPower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF (問合せなし)

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、機器をCCDF 測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器を CCDF 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:CCDF

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CDPower (問合せなし)

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、本機器をコード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CDPower

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器をコード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:CDPower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CHPower (問合せなし)

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、機器をチャンネル電力測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CHPower

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器をチャンネル電力測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:CHPower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:IM (問合せなし)

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、本機器を相互変調測定デフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:IM

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器を相互変調測定デフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:IM

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy (問合せなし)

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、本機器を変調確度測定デフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器を変調確度測定デフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:MACCuracy

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:OBWidth (問合せなし)

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、機器をOBW (占有帯域幅) 測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:OBWidth

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器をOBW測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:OBWidth

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel (問合せなし)

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、機器をパイロット／コード・チャンネル測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器をパイロット／コード・チャンネル測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:PCCHannel

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:RLCDMA2K:PVTime (問合せなし)

cdma2000 リバース・リンク解析で、本機器をゲーテッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:RLCDMA2K:PVTime

引数: なし

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、本機器をゲーテッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:RLCDMA2K:PVTime

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:SEMask (問合せなし)

cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク解析で、本機器をスペクトラム・エミッション・マスク測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:SEMask

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、機器をスペクトラム・エミッション・マスク測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FLCDMA2K:SEMask

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 サブグループ

1xEV-DO、 オプション26 型のみ

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0コマンドでは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク規格に準じた ACLR測定の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:FL1XEVD0 :RL1XEVD0	
:ACPower	
:CCDF	
:CDPower	
:CHPower	
:IM	
:MACCuracy	
:OBWidth	
:PCCHannel	
:PVTime	
:SEMask	

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:ACPower (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、機器を ACPR (隣接チャネル漏洩電力比) 測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:ACPower

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、機器を ACPR 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:ACPower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、機器を CCDF 測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、機器を CCDF 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:CCDF

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、機器をコード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、機器をコード・ドメイン・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:CDPower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CHPower (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、機器をチャンネル電力測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CHPower

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、機器をチャンネル電力測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:CHPower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM (問合せなし)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、機器を相互変調測定デフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、機器を相互変調測定デフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:IM

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MACCuracy (問合せなし)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、機器を変調確度測定デフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MACCuracy

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、機器を変調確度測定デフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:MACCuracy

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:OBWidth (問合せなし)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、機器をOBW（占有帯域幅）測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:OBWidth

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、機器をOBW測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:OBWidth

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:PCCHannel (問合せなし)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、機器をパイロット／コード・チャンネル測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:PCCHannel

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、機器をパイロット／コード・チャンネル測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:PCCHannel

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0:PVTime (問合せなし)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、機器をゲーテッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0:PVTime

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、機器をゲーテッド・アウトプット・パワー測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:PVTime

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMask (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、機器をスペクトラム・エミッション・マスク測定のデフォルト設定状態にします。

構文: :CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMask

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、機器をスペクトラム・エミッション・マスク測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:FL1XEVD0:SEMask

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:DLR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5, オプション27 型のみ

:CONFigure:DLR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンク解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:DLR5_3GPP	

:CONFigure:DLR5_3GPP (問合せなし)

本機器を 3GPP-R5 ダウンリンクの変調解析デフォルト設定状態にします。
このコマンドは、次の前面パネル キー操作と同等です。

DEMOMD キー → Standard... サイド・キー → 3GPP-R5-DL サイド・キー
→ PRESET キー

構文: :CONFigure:DLR5_3GPP

引数: なし

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 本機器を 3GPP-R5 ダウンリンクの変調解析デフォルト設定状態にします。

:CONFigure:DLR5_3GPP

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SADLR5_3GPP サブグループ 3GPP-R5, オプション27 型のみ

:CONFigure:SADLR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:SADLR5_3GPP	
:ACLR	
:CHPower	
:OBWidth	
:SEMask	

:CONFigure:SADLR5_3GPP:ACLR (問合せなし)

本機器を 3GPP-R5 ダウンリンク ACLR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のデフォルト設定状態にします。このコマンドは、次の前面パネル・キー操作と同等です。

S/A キー → **Standard...** サイド・キー → **3GPP-R5-DL** サイド・キー
→ **PRESET** キー → **ACLR** サイド・キー

構文: :CONFigure:SADLR5_3GPP:ACLR

引数: なし

測定モード: SADLR5_3G

使用例: 3GPP-R5 ダウンリンク ACLR 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:SADLR5_3GPP:ACLR

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SADLR5_3GPP:CHPower (問合せなし)

本機器を 3GPP-R5 ダウンリンクのチャンネル電力測定のデフォルト設定状態にします。このコマンドは、次の前面パネル キー操作と同等です。

S/A キー → **Standard...** サイド・キー → **3GPP-R5-DL** サイド・キー
→ **PRESET** キー → **Channel Power** サイド・キー

構文: :CONFigure:SADLR5_3GPP:CHPower

引数: なし

測定モード: SADLR5_3G

使用例: 本機器を 3GPP-R5 ダウンリンクのチャンネル電力測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:SADLR5_3GPP:CHPower

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SADLR5_3GPP:OBWidth (問合せなし)

本機器を 3GPP-R5 ダウンリンクOBW（占有帯域幅）測定のデフォルト設定状態にします。このコマンドは、次の前面パネル キー操作と同等です。

S/A キー → **Standard...** サイド・キー → **3GPP-R5-DL** サイド・キー
→ **PRESET** キー → **OBW** サイド・キー

構文： :CONFigure:SADLR5_3GPP:OBW

引数： なし

測定モード： SADLR5_3G

使用例： 本機器を 3GPP-R5 ダウンリンク OBW 測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:SADLR5_3GPP:OBW

関連コマンド： :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:SADLR5_3GPP:SEMask (問合せなし)

本機器を 3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム放射マスク測定のデフォルト設定状態にします。このコマンドは、次の前面パネル キー操作と同等です。

S/A キー → **Standard...** サイド・キー → **3GPP-R5-DL** サイド・キー
→ **PRESET** キー → **Spectrum Emission Mask** サイド・キー

構文： :CONFigure:SADLR5_3GPP:SEMask

引数： なし

測定モード： SADLR5_3G

使用例： 本機器を 3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム放射マスク測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:SADLR5_3GPP:SEMask

関連コマンド： :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:ULR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5, オプション27 型のみ

:CONFigure:ULR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 アップリンク解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:ULR5_3GPP	

:CONFigure:ULR5_3GPP (問合せなし)

本機器を 3GPP-R5 アップリンクの変調解析デフォルト設定状態にします。
このコマンドは、次の前面パネル キー操作と同等です。

DEMOMD キー → Standard... サイド・キー → 3GPP-R5-UL サイド・キー
→ PRESET キー

構文: :CONFigure:ULR5_3GPP

引数: なし

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: 本機器を 3GPP-R5 アップリンクの変調解析デフォルト設定状態にします。

:CONFigure:ULR5_3GPP

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:WLAN サブグループ

WLAN, オプション29 型のみ

:CONFigure:WLAN コマンドでは、WLAN 解析の基本設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:CONFigure	
:WLAN	
:SMASK	
:TPOWer	

:CONFigure:WLAN (問合せなし)

本機器を WLAN 変調解析のデフォルト設定状態にします。
このコマンドは、次の前面パネル キー操作と同等です。

DEMODO キー → **Standard...** サイド・キー → **IEEE802.11a/b/g** サイド・キー
→ **PRESET** キー → **EVM vs Time** サイド・キー

構文: :CONFigure:WLAN

引数: なし

測定モード: DEMWLAN

使用例: 本機器を WLAN 変調解析のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:WLAN

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:WLAN:SMASk (問合せなし)

本機器をスペクトラム・マスク測定のデフォルト設定状態にします。
このコマンドは、次の前面パネル キー操作と同等です。

DEMOD キー → Standard... サイド・キー → IEEE802.11a/b/g サイド・キー
→ PRESET キー → Spectrum Mask サイド・キー

構 文 : :CONFigure:WLAN:SMASk

引 数 : なし

測定モード : DEMWLAN

使用例 : 本機器をスペクトラム・マスク測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:WLAN:SMASk

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:CONFigure:WLAN:TPOWer (問合せなし)

本機器を送信電力測定のデフォルト設定状態にします。
このコマンドは、次の前面パネル キー操作と同等です。

DEMOD キー → Standard... サイド・キー → IEEE802.11a/b/g サイド・キー
→ PRESET キー → Transmit Power サイド・キー

構 文 : :CONFigure:WLAN:TPOWer

引 数 : なし

測定モード : DEMWLAN

使用例 : 本機器を送信電力測定のデフォルト設定状態にします。

:CONFigure:WLAN:TPOWer

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:DISPlay コマンド

:DISPlay コマンドは、表示をコントロールします。
下表に示したサブグループに分けられています。

表 2-37: :DISPlay コマンドのサブグループ

コマンド・ヘッダ	機 能	参 照
:DISPlay:CCDF	CCDF 解析の表示設定	p.2-140
:DISPlay:OView	DEMOD/TIME モードのオーバービュー設定	p.2-146
:DISPlay:PULSe:MView :SVIew	パルス特性解析のメイン/サブ・ビュー設定	p.2-158
:DISPlay:PULSe:SPECTrum	パルス特性解析のスペクトラム・ビュー設定	p.2-168
:DISPlay:PULSe:WAVeform	パルス特性解析の時間領域表示設定	p.2-173
:DISPlay:SPECTrum	スペクトラム表示設定	p.2-177
:DISPlay:TFRequency	スペクトログラム表示の設定	p.2-187
:DISPlay[:VIEW]	画面輝度と表示形式の設定	p.2-196
:DISPlay:WAVeform	時間対振幅表示の設定	p.2-199

注：:DISPlay コマンドは、測定結果の表示だけに関係し、ハードウェアの設定には影響しません。

横軸スケール設定上の注意

取り込んだ波形は、水平および垂直方向に拡大できます（縮小は、できません）。
 :X[:SCALE] または :Y[:SCALE] ノードを含む :DISPlay コマンドを使用して、拡大範囲を設定します。設定範囲については、各コマンドの説明を参照してください。
 さらに、横軸スケール設定時には、以下の注意が必要です。

:DISPlay:X[:SCALE] コマンドで設定する横軸表示範囲は、:SENSe コマンドで設定したデータ取り込み範囲内になければなりません（図 2-6）：

$$X_{START} \leq X_{MIN} < X_{STOP}$$

$$X_{MAX} \leq X_{STOP}$$

ここで

- X_{START}： :SENSe コマンドで設定したデータ取り込み範囲の始点
- X_{STOP}： :SENSe コマンドで設定したデータ取り込み範囲の終点
- X_{MIN}： :DISPlay コマンドで設定したデータ拡大範囲の始点
- X_{MAX}： :DISPlay コマンドで設定したデータ拡大範囲の終点

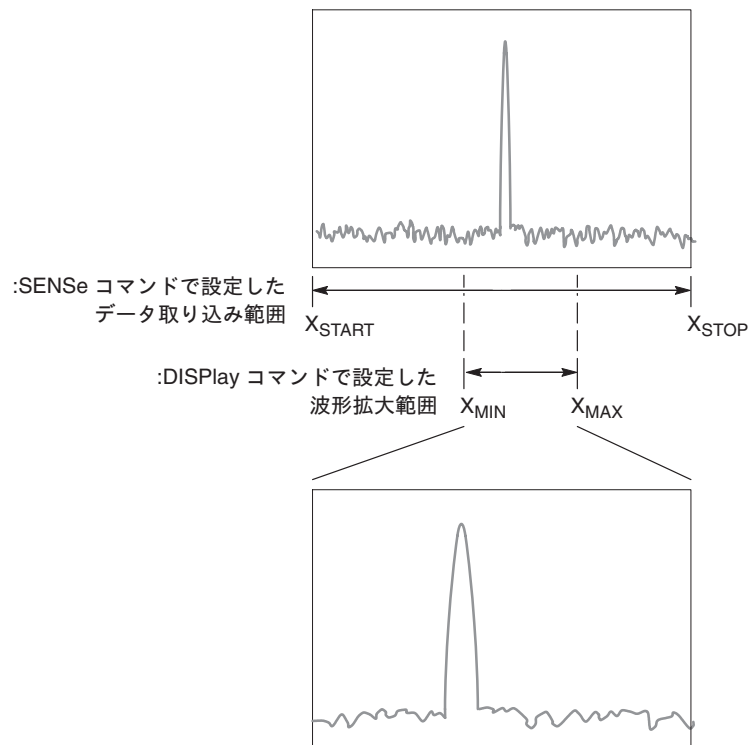


図 2-6：横軸スケール設定条件

:X[:SCALe] ノードを含む :DISPlay コマンドはすべて、上記の注意が必要です。例えば、スペクトラム表示では、次の条件を満たさなければなりません (図 2-7)。

$$\begin{aligned} \text{CENTer} - \text{SPAN}/2 &\leq \text{OFFSet} < \text{CENTer} + \text{SPAN}/2 \\ \text{OFFSet} + 10 * \text{PDIVision} &\leq \text{CENTer} + \text{SPAN}/2 \end{aligned}$$

ここで

CENTer : [:SENSe]:FREQuency:CENTer コマンド設定値

SPAN : [:SENSe]:FREQuency:SPAN コマンド設定値

OFFSet : :DISPlay:SPECtrum:X[:SCALe]:OFFSet コマンド設定値

PDIVision : :DISPlay:SPECtrum:X[:SCALe]:PDIVision コマンド設定値

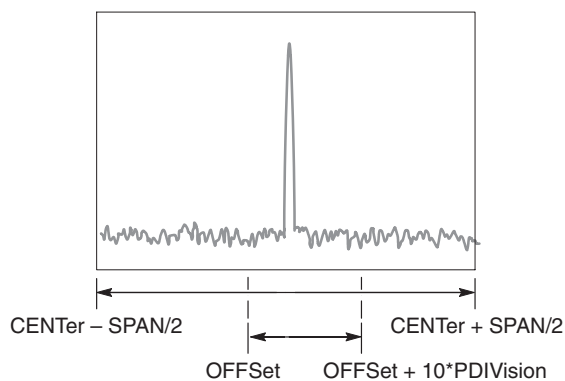


図 2-7 : 横軸スケール設定条件 (スペクトラム表示の場合)

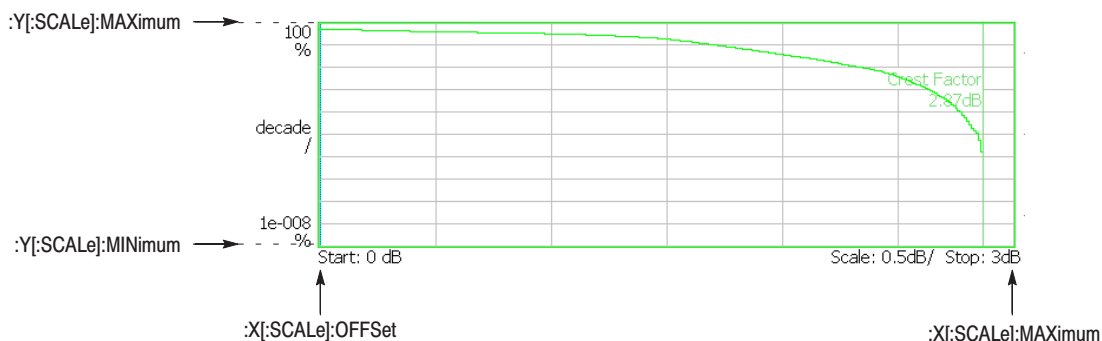
:DISPlay:CCDF サブグループ

:DISPlay:CCDF コマンドでは、CCDF 表示をコントロールします。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで TIMCCDF (CCDF 解析モード) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:CCDF	
:LINE	
:GAUSSian	
[:STATe]	<boolean>
:REFerence	
[:STATe]	<boolean>
:STORe	
:X	
[:SCALe]	
:AUTO	<boolean>
:MAXimum	<relative_amplitude>
:OFFSet	<relative_amplitude>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:MAXimum	<percent>
:MINimum	<percent>



注：:DISPlay:CCDF コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-8 : :DISPlay:CCDF コマンドの設定

:DISPlay:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATE](?)

CCDF ビューでガウス曲線を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATE] { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATE]?

引数: OFF または 0 — ガウス曲線を表示しません。
ON または 1 — ガウス曲線を表示します。

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF ビューでガウス曲線を表示します。
:DISPlay:CCDF:LINE:GAUSSian:STATE ON

:DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence[:STATE](?)

CCDF ビューで基準線を表示するかどうかを選択または問合せます。
基準線は、:DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence:STORe コマンドで保存します。

構文: :DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence[:STATE] { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence[:STATE]?

引数: OFF または 0 — 基準線を表示しません。
ON または 1 — 基準線を表示します。

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF ビューで基準線を表示します。
:DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence:STATE ON

関連コマンド: :DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence:STORe

:DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence:STORe (問合せなし)

現在の CCDF 波形を新しい基準線として保存し、表示します。

構文: :DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence:STORe

引数: なし

測定モード: TIMCCDF

使用例: 現在の CCDF 波形を新しい基準線として保存し、表示します。

:DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence:STORe

関連コマンド: :DISPlay:CCDF:LINE:REFeRence[:STATe]

:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:AUTO(?)

CCDF 表示の横軸（電力）スケールを自動設定するかどうか選択します。

構文: :DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:AUTO?

引数: OFF または 0 — 横軸のスケールを手動で設定します。

下記の:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum および:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet
コマンドで設定してください。

ON または 1 — 横軸のスケールを自動で設定します（デフォルト）。

測定モード: TIMCCDF

使用例: 横軸のスケールを自動で設定します。

:DISPlay:CCDF:X:SCALe:AUTO ON

関連コマンド: :DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum, :DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet

:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum(?)

CCDF 表示の横軸（電力）の最大値（右端）を設定します。

構文: :DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum <rel_amp1>

:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum?

引数: <rel_amp1>::=<NRf> — 横軸の最大値を設定します。設定範囲：1～100 dB。

測定モード: TIMCCDF

使用例: 横軸の最大値を 15dB に設定します。

:DISPlay:CCDF:X:SCALe:MAXimum 15

関連コマンド: :DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:AUTO

:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet(?)

CCDF 表示の横軸の開始値を設定します。

構文: :DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet <rel_amp1>

:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <rel_amp1>::=<NRf> — 横軸の開始値を設定します。
設定範囲：0 ～ [(横軸最大値) - (横軸フルスケール)] dB。

測定モード: TIMCCDF

使用例: 横軸の開始値を 5dB に設定します。

:DISPlay:CCDF:X:SCALe:OFFSet 5

関連コマンド: :DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:AUTO

:DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

CCDF 表示で、オートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF 表示でオートスケールを実行します。

:DISPlay:CCDF:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

CCDF 表示で、縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF 表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:CCDF:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum(?)

CCDF 表示の縦軸の最大値（上端）を設定します。

構文: :DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum <value>

:DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸の最大値を設定します。設定範囲： 10^{-9} ～100 %。

測定モード: TIMCCDF

使用例: 縦軸の最大値を 80% に設定します。

:DISPlay:CCDF:Y:SCALe:MAXimum 80

:DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum(?)

CCDF 表示の縦軸の最小値（下端）を設定します。

構文: :DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum <value>

:DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲： 10^{-9} ～100 %。

測定モード: TIMCCDF

使用例: 縦軸の最小値を 20% に設定します。

:DISPlay:CCDF:Y:SCALe:MINimum 20

:DISPlay:OVlew サブグループ

:DISPlay:OVlew コマンドでは、DEMOM（変調解析）モードと TIME（時間解析）モードのオーバービュー、およびズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析のスペクトログラムを設定します。

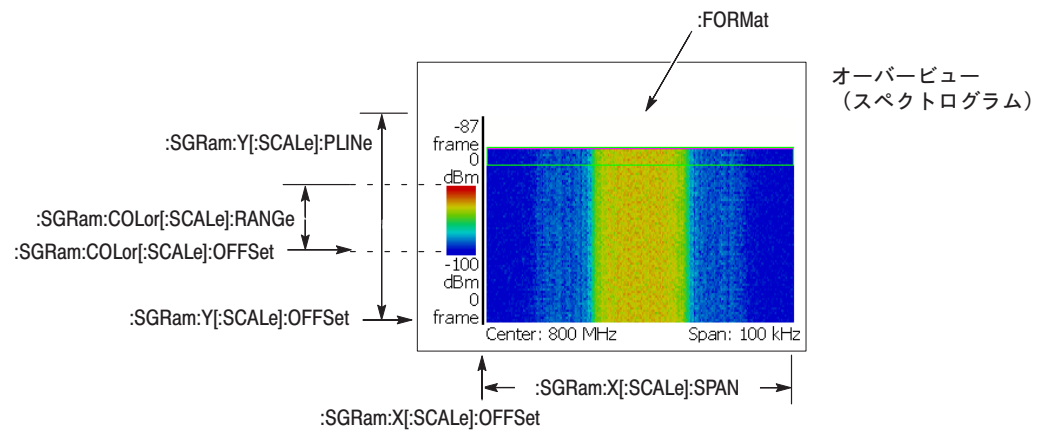
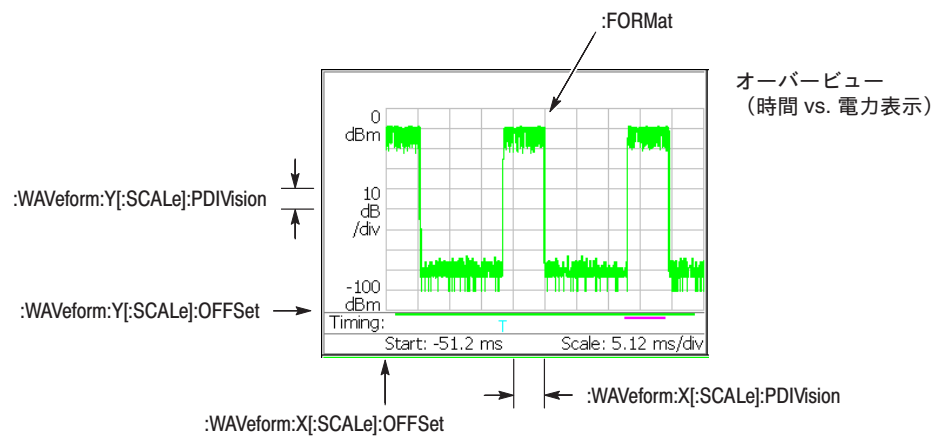
注：:DISPlay:OVlew:ZOOM コマンドは、:INSTrument[:SElect] の設定が SAZR-TIME（ズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析）と DEMRFID（RFID 解析、オプション21 型）のときに有効です。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:OVlew	
:FORMat	WAVEform SGRam ZOOM
:OTINdicator	<boolean>
:SGRam	
:COLor	
[:SCALE]	
:OFFSet	<amplitude>
:RANge	<relative_amplitude>
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<frequency>
:SPAN	<frequency>
:Y	
[:SCALE]	
:OFFSet	<frame_count>
:PLINe	<frame_count>
:WAVEform	
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<time>
:PDIVision	<time>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVision	<amplitude>
:ZOOM	
:COLor	
[:SCALE]	
:OFFSet	<amplitude>
:RANge	<relative_amplitude>

```

:X
  [:SCALe]
    :OFFSet <frequency>
    :SPAN <frequency>
:Y
  [:SCALe]
    :OFFSet <frame_count>
    :PLINe <frame_count>
  
```



注 : :DISPlay:OVlew コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-9 : :DISPlay:OVlew コマンドの設定

:DISPlay:OView:FORMat(?)

オーバービューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:OView:FORMat { WAVEform | SGRam | ZOOM }
:DISPlay:OView:FORMat?

引数: WAVEform — 振幅 vs. 時間を表示します。

SGRam — スペクトログラムを表示します。

ZOOM — ズーム機能付きのスペクトログラムを表示します。

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: オーバービューにスペクトログラムを表示します。
:DISPlay:OView:FORMat SGRam

:DISPlay:OView:OTINdicator(?)

オーバービューにトリガ出力インジケータ (“O”) を表示するかどうかを選択します。

構文: :DISPlay:OView:OTINdicator { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:OView:OTINdicator?

引数: OFF または 0 — トリガ出力インジケータを表示しません (デフォルト)。

ON または 1 — トリガ出力インジケータを表示します。

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: オーバービューにトリガ出力インジケータを表示します。
:DISPlay:OView:OTINdicator ON

:DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet(?)

オーバービューがスペクトログラムのときに色軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet <ampl>
:DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet?

引数: <ampl>::=<NRf> — 色軸の最小値を設定します。設定範囲：-200～+100 dBm。

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: 色軸の最小値を -100dBm に設定します。

```
:DISPlay:OView:SGRam:COLor:SCALe:OFFSet -100
```

:DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe(?)

オーバービューがスペクトログラムのときに、色軸（振幅）のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe <re1_amp1>
:DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe?

引数: <re1_amp1>::={ 10 | 20 | 50 | 100 } — 色軸のフルスケールを設定します。
単位 [dB]

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: 色軸のフルスケールを 100dB に設定します。

```
:DISPlay:OView:SGRam:COLor:SCALe:RANGe 100
```

:DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALe]:OFFSet(?)

オーバービューがスペクトログラムのときに、横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALe]:OFFSet <freq>
:DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <freq>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例： 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:OView:SGRam:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALe]:SPAN(?)

オーバービューがスペクトログラムのときに横軸（周波数）のスパンを設定または問合せます。

構文： :DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALe]:SPAN <freq>
:DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALe]:SPAN?

引数： <freq>::=<NRf> — 横軸のスパンを設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例： スパンを 100kHz に設定します。

:DISPlay:OView:SGRam:X:SCALe:SPAN 100kHz

:DISPlay:OVlew:SGRam:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

オーバービューがスペクトログラムのときに縦軸 (フレーム番号) の最小値 (下端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:OVlew:SGRam:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:OVlew:SGRam:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NR1> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲: -63999~0 フレーム。

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: 縦軸の最小値を フレーム -100 に設定します。

:DISPlay:OVlew:SGRam:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:OVlew:SGRam:Y[:SCALe]:PLINe(?)

オーバービューがスペクトログラムのときに、縦軸 (フレーム番号) のスケールを設定または問合せます。スペクトログラムは、取り込んだ全フレーム・データからこのコマンドで設定した数ごとにフレームが間引かれて表示されます。例えば、5 に設定すると、5フレームごとに表示されます。

構文: :DISPlay:OVlew:SGRam:Y[:SCALe]:PLINe <value>

:DISPlay:OVlew:SGRam:Y[:SCALe]:PLINe?

引数: <value>::=<NR1> — 縦軸のスケールを設定します。設定範囲: 1~1024 フレーム。

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: 5フレームごとにスペクトログラムを表示します。

:DISPlay:OVlew:SGRam:Y:SCALe:PLINe 5

:DISPlay:OView:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet(?)

オーバービューが時間対振幅表示のときに、横軸（時間）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:OView:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <time>
:DISPlay:OView:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <time>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。設定範囲：-32000~0 s。

測定モード： 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例： 横軸の最小値を $-100\ \mu\text{s}$ に設定します。

:DISPlay:OView:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100us

:DISPlay:OView:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision(?)

オーバービューが時間対振幅表示のときに、横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:OView:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision <time>
:DISPlay:OView:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision?

引数： <time>::=<NRf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0~3200 s/div。

測定モード： 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例： 横軸のスケールを $10\ \mu\text{s}/\text{div}$ に設定します。

:DISPlay:OView:WAVeform:X:SCALe:PDIVision 10.0E-6

:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

オーバービューのオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: オーバービューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:OView:WAVeform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

オーバービューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: オーバービューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:OView:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

オーバービューが時間対振幅表示のときに、縦軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <amp1>
:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <amp1>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200~0 dBm。

測定モード： 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例： 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:OView:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

オーバービューが時間対振幅表示のときに、縦軸（振幅）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision <amp1>
:DISPlay:OView:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数： <amp1>::=<NRf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0~30 dB/div。

測定モード： 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例： 振幅のスケールを 10dB/div に設定します。

:DISPlay:OView:WAVeform:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALe]:OFFSet(?)

ズーム機能付きスペクトログラムで、色軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALe]:OFFSet <amp1>
:DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALe]:OFFSet?

引数: <amp1>::=<NRf> — ズーム機能付きスペクトログラムで色軸の最小値を設定します。
設定範囲: -200~+100 dBm。

測定モード: SAZRTIME, DEMRFID

使用例: 色軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:OView:ZOOM:COLor:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALe]:RANGe(?)

ズーム機能付きスペクトログラムで、色軸（振幅）のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALe]:RANGe <rel_amp1>
:DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALe]:RANGe?

引数: <rel_amp1>::={ 10 | 20 | 50 | 100 } [dB] — ズーム機能付きスペクトログラムで色軸のフルスケールを設定します。

測定モード: SAZRTIME, DEMRFID

使用例: 色軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:OView:ZOOM:COLor:SCALe:RANGe 100

:DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALe]:OFFSet(?)

ズーム機能付きスペクトログラムで、横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALe]:OFFSet <freq>

:DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <freq>::=<Nrf> — ズーム機能付きスペクトログラムで横軸の最小値を設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： SAZRTIME, DEMRFID

使用例： 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:OView:ZOOM:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALe]:SPAN(?)

ズーム機能付きスペクトログラムで、横軸（周波数）のスパンを設定または問合せます。

構文： :DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALe]:SPAN <freq>

:DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALe]:SPAN?

引数： <freq>::=<Nrf> — ズーム機能付きスペクトログラムで横軸のスパンを設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： SAZRTIME, DEMRFID

使用例： スパンを 100kHz に設定します。

:DISPlay:OView:ZOOM:X:SCALe:SPAN 100kHz

:DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

ズーム機能付きスペクトログラムで、縦軸（フレーム番号）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NR1> — ズーム機能付きスペクトログラムで縦軸の最小値を設定します。
設定範囲：-63999～0 フレーム。

測定モード: SAZRTIME, DEMRFID

使用例: 縦軸の最小値を フレーム -100 に設定します。

:DISPlay:OView:ZOOM:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALe]:PLINe(?)

ズーム機能付きスペクトログラムで縦軸（フレーム番号）のスケールを設定または問合せます。

スペクトログラムは、取り込んだ全フレーム・データからこのコマンドで設定した数ごとにフレームが間引かれて表示されます。例えば、5に設定すると、5フレームごとに表示されます。

構文: :DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALe]:PLINe <value>

:DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALe]:PLINe?

引数: <value>::=<NR1> — ズーム機能付きスペクトログラムで、縦軸のスケールを設定します。設定範囲：1～1024 フレーム。

測定モード: SAZRTIME, DEMRFID

使用例: 5フレームごとにスペクトログラムを表示します。

:DISPlay:OView:ZOOM:Y:SCALe:PLINe 5

:DISPlay:PULSe:MView|:SVIew サブグループ

:DISPlay:PULSe:MView|:SVIew コマンドでは、パルス特性解析のメイン・ビュー（測定値表）とサブ・ビューの表示を設定します。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで TIMPULSE（パルス特性解析モード）を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:PULSe	
:MView	
:RESult	
:CHPower	<boolean>
:DCYClE	<boolean>
:EBWidth	<boolean>
:FREQuency	<boolean>
:OBWidth	<boolean>
:OORatio	<boolean>
:PERiod	<boolean>
:PHASe	<boolean>
:PPOWer	<boolean>
:RIPPlE	<boolean>
:WIDTh	<boolean>
:SVIew	
:FORMat	WIDTh PPOWer OORatio RIPPlE PERIod DCYClE PHASe CHPower OBWidth EBWidth FREQuency
:RANGe	ADAPtive MAXimum
:RESult	SINGle ALL
:SElect	<numeric_value>

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:CHPower(?)

メイン・ビュー（測定値表）にチャンネル電力測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:CHPower { 0 | 1 | OFF | ON }
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:CHPower?

引数: OFF または 0 — チャンネル電力測定結果をメイン・ビューに表示しません。
ON または 1 — チャンネル電力測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: チャンネル電力測定結果をメイン・ビューに表示します。
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:CHPower ON

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:DCYClE(?)

メイン・ビュー（測定値表）にデューティ・サイクル測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:DCYClE { 0 | 1 | OFF | ON }
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:DCYClE?

引数: OFF または 0 — デューティ・サイクル測定結果をメイン・ビューに表示しません。
ON または 1 — デューティ・サイクル測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: デューティ・サイクル測定結果をメイン・ビューに表示します。
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:DCYClE ON

:DISPlay:PULSe:MView:RESult:EBWidth(?)

メイン・ビュー（測定値表）に EBW（放射帯域幅）測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:MView:RESult:EBWidth { 0 | 1 | OFF | ON }
:DISPlay:PULSe:MView:RESult:EBWidth?

引数： OFF または 0 — EBW 測定結果をメイン・ビューに表示しません。
ON または 1 — EBW 測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード： TIMPULSE

使用例： EBW 測定結果をメイン・ビューに表示します。
:DISPlay:PULSe:MView:RESult:EBWidth ON

:DISPlay:PULSe:MView:RESult:FREQuency(?)

メイン・ビュー（測定値表）に周波数偏移測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:MView:RESult:FREQuency { 0 | 1 | OFF | ON }
:DISPlay:PULSe:MView:RESult:FREQuency?

引数： OFF または 0 — 周波数偏移測定結果をメイン・ビューに表示しません。
ON または 1 — 周波数偏移測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード： TIMPULSE

使用例： 周波数偏移測定結果をメイン・ビューに表示します。
:DISPlay:PULSe:MView:RESult:FREQuency ON

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:OBWidth(?)

メイン・ビュー（測定値表）に OBW（占有帯域幅）測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:OBWidth { 0 | 1 | OFF | ON }
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:OBWidth?

引数: OFF または 0 — OBW 測定結果をメイン・ビューに表示しません。
ON または 1 — OBW 測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: OBW 測定結果をメイン・ビューに表示します。
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:OBWidth ON

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:OORatio(?)

メイン・ビュー（測定値表）に、オン／オフ比測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:OORatio { 0 | 1 | OFF | ON }
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:OORatio?

引数: OFF または 0 — オン／オフ比測定結果をメイン・ビューに表示しません。
ON または 1 — オン／オフ比測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: オン／オフ比測定結果をメイン・ビューに表示します。
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:OORatio ON

:DISPlay:PULSe:MView:RESult:PERiod(?)

メイン・ビュー（測定値表）にパルス繰り返し間隔測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:MView:RESult:PERiod { 0 | 1 | OFF | ON }
:DISPlay:PULSe:MView:RESult:PERiod?

引数： OFF または 0 — パルス繰り返し間隔測定結果をメイン・ビューに表示しません。
ON または 1 — パルス繰り返し間隔測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード： TIMPULSE

使用例： パルス繰り返し間隔測定結果をメイン・ビューに表示します。
:DISPlay:PULSe:MView:RESult:PERiod ON

:DISPlay:PULSe:MView:RESult:PHASe(?)

メイン・ビュー（測定値表）にパルス間位相差測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:MView:RESult:PHASe { 0 | 1 | OFF | ON }
:DISPlay:PULSe:MView:RESult:PHASe?

引数： OFF または 0 — パルス間位相差測定結果をメイン・ビューに表示しません。
ON または 1 — パルス間位相差測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード： TIMPULSE

使用例： パルス間位相差測定結果をメイン・ビューに表示します。
:DISPlay:PULSe:MView:RESult:PHASe ON

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:PPOWer(?)

メイン・ビュー（測定値表）にピーク電力測定結果を表示するかどうか選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:PPOWer { 0 | 1 | OFF | ON }

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:PPOWer?

引数: OFF または 0 — ピーク電力測定結果をメイン・ビューに表示しません。

ON または 1 — ピーク電力測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: ピーク電力測定結果をメイン・ビューに表示します。

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:PPOWer ON

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:RIPPlE(?)

メイン・ビュー（測定値表）にパルス・リプル測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:RIPPlE { 0 | 1 | OFF | ON }

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:RIPPlE?

引数: OFF または 0 — パルス・リプル測定結果をメイン・ビューに表示しません。

ON または 1 — パルス・リプル測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス・リプル測定結果をメイン・ビューに表示します。

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:RIPPlE ON

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:WIDTh(?)

メイン・ビュー（測定値表）にパルス幅測定結果を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:WIDTh { 0 | 1 | OFF | ON }

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:WIDTh?

引数： OFF または 0 — パルス幅測定結果をメイン・ビューに表示しません。

ON または 1 — パルス幅測定結果をメイン・ビューに表示します。

測定モード： TIMPULSE

使用例： パルス幅測定結果をメイン・ビューに表示します。

:DISPlay:PULSe:MVIew:RESult:WIDTh ON

:DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat(?)

パルス特性解析のサブ・ビューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat { WIDTH | PPOWer | OORatio | RIPPlE | PERIod
| DCYClE | PHASe | CHPOWer | OBWidth | EBWidth | FREQuency }

:DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-38: サブ・ビューの表示形式

引数	表示形式
WIDTH	パルス幅測定
PPOWer	パルス・オン時のピーク電力測定
OORatio	パルス・オン時とオフ時の電力差測定
RIPPlE	パルス・オン時のリップル測定
PERIod	パルス周期測定
DCYClE	デューティ・サイクル測定
PHASe	パルス間位相差測定
CHPOWer	パルス・オン時のスペクトラムのチャンネル電力測定
OBWidth	パルス・オン時のスペクトラムの OBW 測定
EBWidth	パルス・オン時のスペクトラムの EBW 測定
FREQuency	パルス・オン時の周波数偏移測定

測定モード: TIMPULSE

使用例: サブ・ビューにパルス幅測定を表示します。

:DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat WIDTH

:DISPlay:PULSe:SVIew:GUIDelines(?)

サブビューに補助線を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:SVIew:GUIDelines { 0 | 1 | OFF | ON }

:DISPlay:PULSe:SVIew:GUIDelines?

引数: OFF または 0 — サブビューに補助線を表示しません。

ON または 1 (デフォルト) — サブビューに補助線を表示します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: サブビューに補助線を表示します。

:DISPlay:PULSe:SVIew:GUIDelines ON

:DISPlay:PULSe:SVIew:RANGe(?)

サブビュー上のパルスの表示方法を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:SVIew:RANGe { ADAPtive | MAXimum }

:DISPlay:PULSe:SVIew:RANGe?

引数: ADAPtive (デフォルト) — サブビューのグラフ上に 1つのパルスが最適な大きさと表示されるように、各パルスのパルス幅に合わせて横軸のスケールが調整されます。

MAXimum — 解析範囲内で最大のパルス幅に合わせて横軸のスケールが決定されます。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 各パルスのパルス幅に合わせて、横軸のスケールを調整します。

:DISPlay:PULSe:SVIew:RANGe ADAPtive

:DISPlay:PULSe:SVIew:RESult(?)

測定結果をサブビューでどのように表示するかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:SVIew:RESult { SINGle | ALL }

:DISPlay:PULSe:SVIew:RESult?

引数: SINGle (デフォルト) — 1つのパルスの測定結果を波形表示します。
パルスは、:DISPlay:PULSe:SVIew:SElect コマンドで選択します。

ALL — 解析範囲のすべてのパルスの測定結果を表示します。
横軸はパルス番号、縦軸は測定結果を表します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: サブビューに1つのパルスの測定結果を波形表示します。

:DISPlay:PULSe:SVIew:RESult SINGle

関連コマンド: :DISPlay:PULSe:SVIew:SElect

:DISPlay:PULSe:SVIew:SElect(?)

:DISPlay:PULSe:SVIew:RESult コマンドで SINGle を選択したときに測定するパルスを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:SVIew:SElect <number>

:DISPlay:PULSe:SVIew:SElect?

引数: <number>::=<NR1> — パルス番号を指定します。範囲: -999~0。
0が最新のパルスを表します。古いパルスほど、負の値が大きくなります。

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス #-125 を指定します。

:DISPlay:PULSe:SVIew:RESult -125

関連コマンド: :DISPlay:PULSe:SVIew:RESult

:DISPlay:PULSe:SPECtrum サブグループ

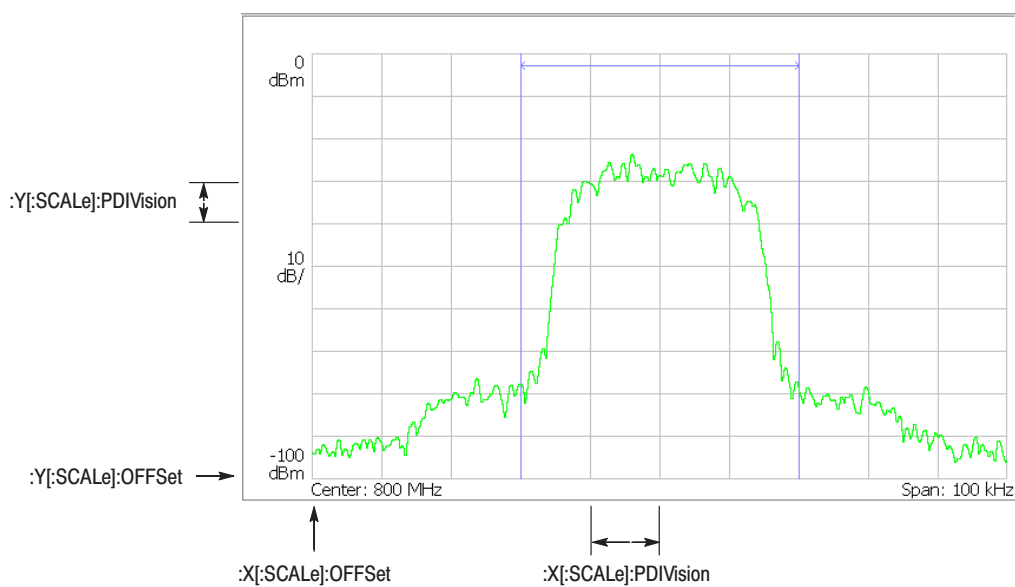
:DISPlay:PULSe:SPECtrum コマンドでは、パルス特性解析の中の周波数領域測定でスペクトラム表示を設定します。このサブグループは、:DISPlay:PULSe:SVIEW:FORMatコマンドで次の項目を選択したときに有効です。

- CHPower (チャンネル電力)
- OBWidth (OBW)
- EBWidth (EBW)

注： このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで TImPULSE (パルス特性解析モード) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:PULSe	
:SPECtrum	
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>



注 : :DISPlay:PULSe:SPECTrum コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-10 : :DISPlay:PULSe:SPECTrum コマンドの設定

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:SPECTrum::X[:SCALe]:OFFSet <freq>

:DISPlay:PULSe:SPECTrum::X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <freq>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： TIMPULSE

使用例： 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision <freq>

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision?

引数： <freq>::=<NRf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： TIMPULSE

使用例： 横軸のスケールを 100kHz/div に設定します。

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:X:SCALe:PDIVision 100.0E+3

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

スペクトラム表示で、オートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: TIMPULSE

使用例: スペクトラム表示のオートスケールを実行します。

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

スペクトラム表示で縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: TIMPULSE

使用例: サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

縦軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <amp1>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200～0 dBm。

測定モード： TIMPULSE

使用例： 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の縦軸（振幅）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision <amp1>

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数： <amp1>::=<NRf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0～10 dB/div。

測定モード： TIMPULSE

使用例： 縦軸の1目盛りの値を 10dB に設定します。

:DISPlay:PULSe:SPECTrum:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlayPULSe:WAVeform サブグループ

:DISPlay:PULSe:WAVeform コマンドでは、パルス特性解析で時間領域表示を設定します。このサブグループは、:DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat コマンドで次の項目を選択したときに有効です。

- WIDTh (パルス幅)
- PPOWer (ピーク電力)
- OORatio (パルス・オン/オフ比)
- RIPPlE (パルス・リップル)
- PERiod (パルス周期)
- DCYClE (デューティ・サイクル)
- PHASe (パルス間位相差)
- FREQuency (周波数偏移)

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで TIMPULSE (パルス特性解析モード) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:PULSe	
:WAVeform	
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>

:DISPlay:PULSe:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の横軸（時間）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:PULSe:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <time>

:DISPlay:PULSe:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <time>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。設定範囲：-32000~0 s。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： TIMPULSE

使用例： 横軸の最小値を -100 μ s に設定します。

:DISPlay:PULSe:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100us

:DISPlay:PULSe:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision <time>

:DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision?

引数： <time>::=<NRf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0~3200 s/div。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： TIMPULSE

使用例： 横軸のスケールを 10 μ s/div に設定します。

:DISPlay:WAVeform:X:SCALe:PDIVision 10us

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

時間領域表示のオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: TIMPULSE

使用例: オートスケールを実行します。

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: TIMPULSE

使用例: 縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <amp1>::=<NRf> — 縦軸（振幅）の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision <amp1>

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <amp1>::=<NRf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 縦軸のスケールを 10dB/div に設定します。

:DISPlay:PULSe:WAVeform:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay:SPECtrum サブグループ

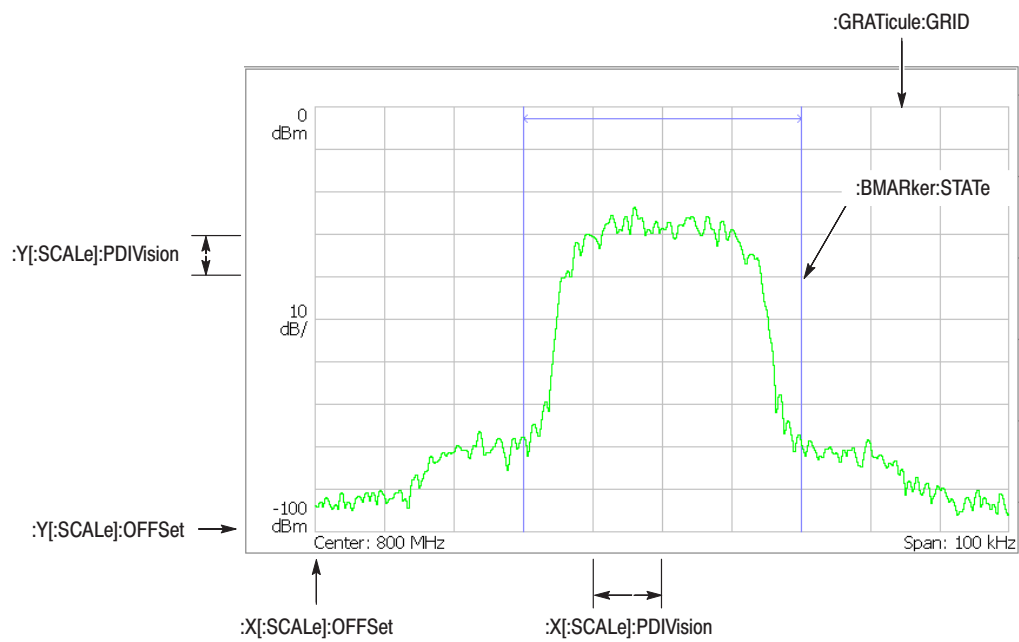
:DISPlay:SPECtrum コマンドでは、スペクトラム表示を設定します。

注：このコマンド・グループを使用する場合には、測定モードによらず、画面上にスペクトラムが表示されている必要があります。

:DISPlay:SPECtrum:MLINe コマンドは、SARTIME（リアルタイム S/A）モードでのみ有効です。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:SPECtrum	
:BMARker	
:STATe	<boolean>
:GRATicule	
:GRID	OFF FIX FLEX
:MLINe	
:AMPLitude	
:INTerval	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
[:STATe]	<boolean>
:ANNotation	
[:STATe]	<boolean>
:FREQuency	
:INTerval	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
[:STATe]	<boolean>
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<frequency>
:PDIvision	<frequency>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIvision	<amplitude>



注 : `:DISPlay:SPECTrum` コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-11 : `:DISPlay:SPECTrum` コマンドの設定

:DISPlay:SPECtrum:BMARker:STATe(?)

バンド・パワー・マーカを表示するかしないかを選択します。

構文: :DISPlay:SPECtrum:BMARker:STATe { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:SPECtrum:BMARker:STATe?

引数: OFF または 0 — バンド・パワー・マーカを表示しません。
ON または 1 — バンド・パワー・マーカを表示します。

測定モード: 全モード

使用例: バンド・パワー・マーカを表示します。

:DISPlay:SPECtrum:BMARker:STATe ON

:DISPlay:SPECtrum:GRATicule:GRID(?)

目盛りの表示の仕方を選択または問合せます。

注: このコマンドは、Real Time S/A を除いた S/A (スペクトラム解析) モードで有効です。

構文: :DISPlay:SPECtrum:GRATicule:GRID { OFF | FIX | FLEX }
:DISPlay:SPECtrum:GRATicule:GRID?

引数: OFF — 目盛りを表示しません。
FIX — 常に 10×10 の目盛りを表示します。
FLEX — 1 目盛りが 1-2-5 ステップの値をとるように目盛りを表示します。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 常に 10×10 の目盛りを表示します。

:DISPlay:SPECtrum:GRATicule:GRID FIX

:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:INTerval(?)

スペクトラム・ビューで、振幅マルチ表示ラインの間隔を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:INTerval <value>
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:INTerval?

引数: <value>::=<NRf> — 振幅マルチ表示ラインの間隔を設定します。
設定範囲：0～100 dB。

測定モード: SARTIME

使用例: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:INTerval 5
振幅マルチ表示ラインの間隔を 5dB に設定します。

:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:OFFSet(?)

スペクトラム・ビューで、振幅マルチ表示ラインのオフセットを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:OFFSet <value>
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 振幅マルチ表示ラインのオフセットを設定します。
設定範囲：-100～0 dBm。

測定モード: SARTIME

使用例: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:OFFSet -10
振幅マルチ表示ラインのオフセットを -10dBm に設定します。

:DISPlay:SPECtrum:MLINe:AMPLitude[:STATE](?)

スペクトラム・ビューで、振幅マルチ表示ラインを表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECtrum:MLINe:AMPLitude[:STATE] { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:SPECtrum:MLINe:AMPLitude[:STATE]?

引数: OFF または 0 — 振幅マルチ表示ラインを表示しません。
ON または 1 — 振幅マルチ表示ラインを表示します。

測定モード: SARTIME

使用例: マルチ振幅表示ラインを表示します。

:DISPlay:SPECtrum:MLINe:AMPLitude:STATE ON

:DISPlay:SPECtrum:MLINe:ANNotation[:STATE](?)

スペクトラム・ビューで、マルチ表示ラインのリードアウトを表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECtrum:MLINe:ANNotation[:STATE] { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:SPECtrum:MLINe:ANNotation[:STATE]?

引数: OFF または 0 — マルチ表示ラインのリードアウトを表示しません。
ON または 1 — マルチ表示ラインのリードアウトを表示します。

測定モード: SARTIME

使用例: マルチ表示ラインのリードアウトを表示します。

:DISPlay:SPECtrum:MLINe:ANNotation:STATE ON

:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:INTerval(?)

スペクトラム・ビューで周波数マルチ表示ラインの間隔を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:INTerval <value>
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:INTerval?

引数: <value>::=<NRf> — 周波数マルチ表示ラインの間隔を設定します。
設定範囲: 0 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: SARTIME

使用例: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:INTerval 1MHz
周波数マルチ表示ラインの間隔を 1MHz に設定します。

:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:OFFSet(?)

スペクトラム・ビューで周波数マルチ表示ラインのオフセットを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:OFFSet <value>
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 周波数マルチ表示ラインのオフセットを設定します。
設定範囲: (中心周波数) ± (スパン) / 2 [Hz]

デフォルト値は中心周波数です。このとき、周波数マルチ表示ラインは横軸の中心から等間隔に置かれます。

測定モード: SARTIME

使用例: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:OFFSet 2GHz
周波数マルチ表示ラインのオフセットを 2GHz に設定します。

:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency[:STATe]?

スペクトラム・ビューで周波数マルチ表示ラインを表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 周波数マルチ表示ラインを表示しません。

ON または 1 — 周波数マルチ表示ラインを表示します。

測定モード: SARTIME

使用例: 周波数マルチ表示ラインを表示します。

:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:STATe ON

:DISPlay:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECTrum::X[:SCALe]:OFFSet <freq>

:DISPlay:SPECTrum::X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、[:SENSe]:FREQuency:BAND の測定周波数帯の設定によります。
2-750ページの表2-83 を参照してください。

測定モード: 全モード

使用例: 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:SPECTrum:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision <freq>

:DISPlay:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-754ページの表2-84 を参照してください。
ただし、横軸スケール (/div) = スパン / 10

測定モード: 全モード

使用例: 横軸のスケールを 100kHz/div に設定します。

:DISPlay:SPECTrum:X:SCALe:PDIVision 100.00E+3

:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

スペクトラム表示で、オートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: スペクトラム表示のオートスケールを実行します。

:DISPlay:SPECTrum:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

スペクトラム表示で縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:SPECTrum:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

縦軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet <ampl>

:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <ampl>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200～0 dBm。

測定モード： 全モード

使用例： 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:SPECTrum:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の縦軸（振幅）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision <ampl>

:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数： <freq>::=<NRf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲：0～10 dB/div。

測定モード： 全モード

使用例： 縦軸の1目盛りの値を 10dB に設定します。

:DISPlay:SPECTrum:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay:TFRequency サブグループ

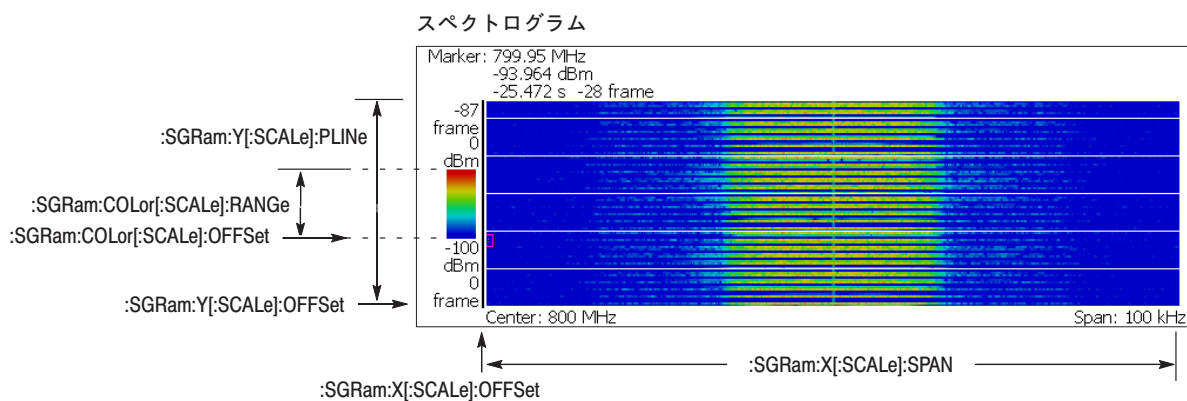
DISPlay:TFRequency コマンドでは、スペクトログラム表示をコントロールします。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで SARTIME (Real Time S/A) を選択しておく必要があります。

SASGRAM (S/A with Spectrogram) モードでは、スペクトログラムのスケールは、設定できません。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:TFRequency	
:SGRam	
:COLor	
[:SCALE]	
:OFFSet	<amplitude>
:RANge	<relative_amplitude>
:MLINe	
:ANNotation	
[:STATE]	<boolean>
:FREQuency	
:INTerval	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
[:STATE]	<boolean>
:TIME	
:INTerval	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
[:STATE]	<boolean>
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<frequency>
:SPAN	<frequency>
:Y	
[:SCALE]	
:OFFSet	<frame_count>
:PLINe	<frame_count>



注 : :DISPlay:TFRequency コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-12 : :DISPlay:TFRequency コマンドの設定

:DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトログラムの色軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet?

引数: <amp1>::=<NRf> — 色軸の最小値を設定します。設定範囲：-200～0 dBm。

測定モード: SARTIME

使用例: 色軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe(?)

スペクトログラムの色軸（振幅）のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe <rel_amp1>

:DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe?

引数: <rel_amp1>::={ 10 | 20 | 50 | 100 } — 色軸のフルスケールを設定します。
単位 [dB]

測定モード: SARTIME

使用例: 色軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor:SCALe:RANGe 100

:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:ANNotation[:STATe](?)

スペクトログラムで、マルチ表示ラインのリードアウトを表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:ANNotation[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:ANNotation[:STATe]?

引数: OFF または 0 — マルチ表示ラインのリードアウトを表示しません。
ON または 1 — マルチ表示ラインのリードアウトを表示します。

測定モード: SARTIME

使用例: マルチ表示ラインのリードアウトを表示します。

:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:ANNotation:STATe ON

:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:FREQuency:INTerval(?)

スペクトログラムで、周波数マルチ表示ラインの間隔を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:FREQuency:INTerval <value>
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:FREQuency:INTerval?

引数: <value>::=<NRf> — 周波数マルチ表示ラインの間隔を設定します。
設定範囲: 0 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: SARTIME

使用例: :DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:FREQuency:INTerval 1MHz
周波数マルチ表示ラインの間隔を 1MHz に設定します。

:DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency:OFFSet(?)

スペクトログラムで周波数マルチ表示ラインのオフセットを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency:OFFSet <value>

:DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 周波数マルチ表示ラインのオフセットを設定します。

設定範囲: (中心周波数) ± (スパン) / 2 [Hz]

デフォルト値は中心周波数です。このとき、周波数マルチ表示ラインは横軸の中心から等間隔に置かれます。

測定モード: SARTIME

使用例: :DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency:OFFSet 2GHz

周波数マルチ表示ラインのオフセットを 2GHz に設定します。

:DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency[:STATe](?)

スペクトログラムで、周波数マルチ表示ラインを表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 周波数マルチ表示ラインを表示しません。

ON または 1 — 周波数マルチ表示ラインを表示します。

測定モード: SARTIME

使用例: 周波数マルチ表示ラインを表示します。

:DISPlay:TFREquency:SGRam:MLINe:FREQuency:STATe ON

:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:INTerval(?)

スペクトログラムで、時間マルチ表示ラインの間隔を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:INTerval <value>
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:INTerval?

引数: <value>::=<NRf> — 時間マルチ表示ラインの間隔を設定します。
設定範囲: 最小値は 0s です。
最大値は、取り込んだデータ量によります。

測定モード: SARTIME

使用例: :DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:INTerval 1m
周波数マルチ表示ラインの間隔を 1ms に設定します。

:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:OFFSet(?)

スペクトログラムで、時間マルチ表示ラインのオフセットを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:OFFSet <value>
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 時間マルチ表示ラインのオフセットを設定します。
設定範囲: 最大値は 0 です (0 は最新のフレームを表します)。
最小値は、取り込んだデータ量によります。

測定モード: SARTIME

使用例: :DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:OFFSet -500u
時間マルチ表示ラインのオフセットを $-500\mu\text{s}$ に設定します。

:DISPlay:TFrequency:SGRam:MLINE:TIME[:STATE](?)

スペクトログラムで、時間マルチ表示ラインを表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:TFrequency:SGRam:MLINE:TIME[:STATE] { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:TFrequency:SGRam:MLINE:TIME[:STATE]?

引数: OFF または 0 — 時間マルチ表示ラインを表示しません。

ON または 1 — 時間マルチ表示ラインを表示します。

測定モード: SARTIME

使用例: 時間マルチ表示ラインを表示します。

:DISPlay:TFrequency:SGRam:MLINE:TIME:STATE ON

:DISPlay:TFREquency:SGRam:X[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトログラムの横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:TFREquency:SGRam:X[:SCALe]:OFFSet <freq>

:DISPlay:TFREquency:SGRam:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <freq>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、[:SENSe]:FREQuency:BAND の測定周波数帯の設定によります。
2-750ページの表2-83 を参照してください。

測定モード： SARTIME

使用例： 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:TFREquency:SGRam:X:SCALe:OFFSet 100MHz

関連コマンド： [:SENSe]:FREQuency:BAND

:DISPlay:TFREquency:SGRam:X[:SCALe]:SPAN(?)

スペクトログラムの横軸（周波数）のスパンを設定または問合せます。

構文： :DISPlay:TFREquency:SGRam:X[:SCALe]:SPAN <freq>

:DISPlay:TFREquency:SGRam:X[:SCALe]:SPAN?

引数： <freq>::=<NRf> — 横軸のスパンを設定します。
設定範囲： 100Hz～15MHz (RF)
100Hz～20MHz (ベースバンド、オプション05 型のみ)

測定モード： SARTIME

使用例： スパンを 10MHz に設定します。

:DISPlay:TFREquency:SGRam:X:SCALe:SPAN 10MHz

:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトログラムの縦軸（フレーム番号）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NR1> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-63999~0。

測定モード: SARTIME

使用例: 縦軸の最小値をフレーム -100 に設定します。

:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALe]:PLINe(?)

スペクトログラムの縦軸（フレーム番号）のスケールを設定または問合せます。
スペクトログラムは、取り込んだ全フレーム・データからこのコマンドで設定した数ごとにフレームが間引かれて表示されます。例えば、5に設定すると、5フレームごとに表示されます。

構文: :DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALe]:PLINe <value>

:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALe]:PLINe?

引数: <value>::=<NR1> — 縦軸のスケールを設定します。設定範囲：1~1024 フレーム。

測定モード: SARTIME

使用例: 5フレームごとにスペクトログラムを表示します。

:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y:SCALe:PLINe 5

:DISPlay[:VIEW] サブグループ

:DISPlay[:VIEW] コマンドでは、画面輝度と表示形式を設定します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
[:VIEW]	
:BRIGhtness	<numeric_value>
:FORMat	V1S V3S V4S VSPL HSPL MULTitude

:DISPlay[:VIEW]:BRIGhtness(?)

画面の輝度を設定または問合せます。

構文: :DISPlay[:VIEW]:BRIGhtness <value>

:DISPlay[:VIEW]:BRIGhtness?

引数: <value>::=<NRf> — 輝度を設定します。設定範囲：0～1（1が最大輝度）。

測定モード: 全モード

使用例: 画面の輝度を1（最大）に設定します。

:DISPlay:VIEW:BRIGhtness 1

:DISPlay[:VIEW]:FORMat(?)

ビューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay[:VIEW]:FORMat { V1S | V3S | V4S | VSPL | HSPL | MULTitude }
:DISPlay[:VIEW]:FORMat?

- 引数:** V1S — ビュー1 だけを画面に表示します。
V3S — ビュー3 だけを画面に表示します。
V4S — ビュー4 だけを画面に表示します。
VSPL — ビュー1 とビュー4 を横に並べて表示します。
HSPL — ビュー1 とビュー4 を縦に並べて表示します。
MULTitude — 画面に複数のビューを表示します。

注: SPL または HSPL を選択するときは、あらかじめ INSTRument[:SElect] コマンドで SASGRAM または SARTIME を選択してください。

MULTitude を選択するときは、画面に3つのビューを表示する測定モード (DEM-ADEM、TIMCCDF、または TIMTRAN) に設定しておく必要があります。

測定モード: 全モード

使用例: ビュー1 だけを画面に表示します。

:DISPlay:VIEW:FORMat V1S

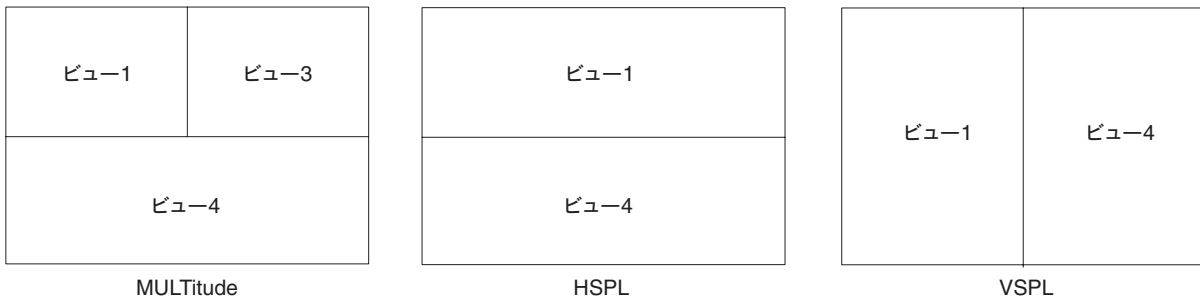


図 2-13 : ビューの表示形式

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:DISPlay:WAVeform サブグループ

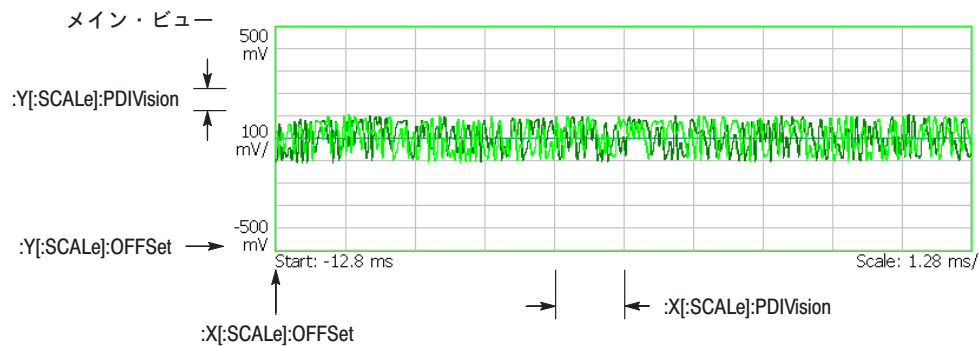
:DISPlay:WAVeform コマンドでは、DEMOM (変調解析) および TIME (時間解析) モードでメイン・ビューに表示される時間領域表示を設定します。時間領域表示は測定項目により以下の 6 種類があります。

振幅 vs. 時間	AM 復調表示 (変調率 vs. 時間)
I/Q レベル vs. 時間	FM 復調表示 (周波数偏移 vs. 時間)
周波数偏移 vs. 時間	PM 復調表示 (位相偏移 vs. 時間)

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで、DEMADEM (アナログ変調解析)、DEMDEM (デジタル変調解析) または TIMTRAN (時間特性解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:WAVeform	
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<time>
:PDIVision	<time>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVision	<amplitude>



注：:DISPlay:WAVeform コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-14 : :DISPlay:WAVeform コマンドの設定

:DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の横軸（時間）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <time>

:DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <time>::=<Nrf> — 横軸の最小値を設定します。設定範囲：-32000~0 s。

測定モード： DEMADEM, DEMDDEM, TIMTRAN

使用例： 横軸の最小値を -100 μ s に設定します。

:DISPlay:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100us

:DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision <time>

:DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision?

引数： <time>::=<Nrf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0~3200 s/div。

測定モード： DEMADEM, DEMDDEM, TIMTRAN

使用例： 横軸のスケールを 10 μ s/div に設定します。

:DISPlay:WAVeform:X:SCALe:PDIVision 10us

:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

時間領域表示のオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMADEM, DEMDDEM, TIMTRAN

使用例: オートスケールを実行します。

:DISPlay:WAVeform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMADEM, DEMDDEM, TIMTRAN

使用例: 縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <amp1>::=<NRf> — 縦軸（振幅）の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMADEM, DEMDDEM, TIMTRAN

使用例: 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision <amp1>

:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <amp1>::=<NRf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMADEM, DEMDDEM, TIMTRAN

使用例: 縦軸のスケールを 10dB/div に設定します。

:DISPlay:WAVeform:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay コマンド (オプション)

ここでは、オプションの解析ソフトウェアの :DISPlay コマンドを説明します。
サブグループを表2-39 に示します。

注 : :DISPlay コマンドは、測定結果の表示だけに関係し、ハードウェアの設定には影響しません。

表 2-39: :DISPlay コマンドのサブグループ (オプション)

コマンド・ヘッダ	機能	参照
オプション21 型 拡張測定解析機能関連		
:DISPlay:DDEMod	デジタル変調解析の表示設定	p.2-204
:DISPlay:RFID:DDEMod	RFID 変調解析の表示設定	p.2-231
:DISPlay:RFID:SPECTrum	RFID 変調解析のスペクトラム表示設定	p.2-247
:DISPlay:RFID:WAVEform	RFID 変調解析の時間領域表示設定	p.2-251
:DISPlay:SSource:MVIew	シグナル・ソース解析のメイン・ビュー設定	p.2-255
:DISPlay:SSource:SVIew	シグナル・ソース解析のサブ・ビュー設定	p.2-263
:DISPlay:SSource:SPECTrum	シグナル・ソース解析のスペクトラム表示設定	p.2-275
:DISPlay:SSource:TFRequency	シグナル・ソース解析の3次元表示設定	p.2-279
:DISPlay:SSource:WAVEform	シグナル・ソース解析の時間領域表示設定	p.2-283
オプション23 型 W-CDMA アップリンク関連		
:DISPlay:AC3Gpp	W-CDMA ACLR 解析の表示設定	p.2-287
:DISPlay:UL3Gpp	W-CDMA アップリンク解析の表示設定	p.2-292
オプション24 型 GSM/EDGE 関連		
:DISPlay:GSMedge:DDEMod	GSM/EDGE 解析の表示設定	p.2-312
:DISPlay:GSMedge:SPECTrum	GSM/EDGE 解析のスペクトラム表示設定	p.2-326
:DISPlay:GSMedge:WAVEform	GSM/EDGE 解析の振幅対時間表示設定	p.2-331
オプション25 型 cdma2000 関連		
:DISPlay:FLCDMA2K :RLCDMA2K:CCDF	cdma2000 CCDF 解析の表示設定	p.2-336
:DISPlay:FLCDMA2K :RLCDMA2K:DDEMod	cdma2000 変調解析の表示設定	p.2-342
:DISPlay:FLCDMA2K :RLCDMA2K:SPECTrum	cdma2000 解析のスペクトラム表示設定	p.2-357
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform	cdma2000 解析の振幅対時間表示設定	p.2-357
オプション26 型 1xEV-DO 関連		
:DISPlay:FL1XEVD0 :RL1XEVD0:CCDF	1xEV-DO CCDF 解析の表示設定	p.2-365
:DISPlay:FL1XEVD0 :RL1XEVD0:DDEMod	1xEV-DO 変調解析の表示設定	p.2-371
:DISPlay:FL1XEVD0 :RL1XEVD0:SPECTrum	1xEV-DO 解析のスペクトラム表示設定	p.2-384
:DISPlay:RL1XEVD0:WAVEform	1xEV-DO 解析の振幅対時間表示設定	p.2-384
オプション27 型 3GPP-R5 関連		
:DISPlay:SADLR5_3GPP	3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析の表示設定	p.2-392
:DISPlay:DLR5_3GPP :ULR5_3GPP	3GPP-R5 変調解析の表示設定	p.2-396
オプション29 型 WLAN 関連		
:DISPlay:WLAN:DDEMod	WLAN 変調解析の表示設定	p.2-418
:DISPlay:WLAN:SPECTrum	WLAN 解析のスペクトラム・ビュー設定	p.2-434

:DISPlay:DDEMod サブグループ

デジタル変調解析, オプション21 型のみ

:DISPlay:DDEMod コマンドでは、デジタル変調信号解析のメイン・ビューとサブ・ビューの表示をコントロールします。

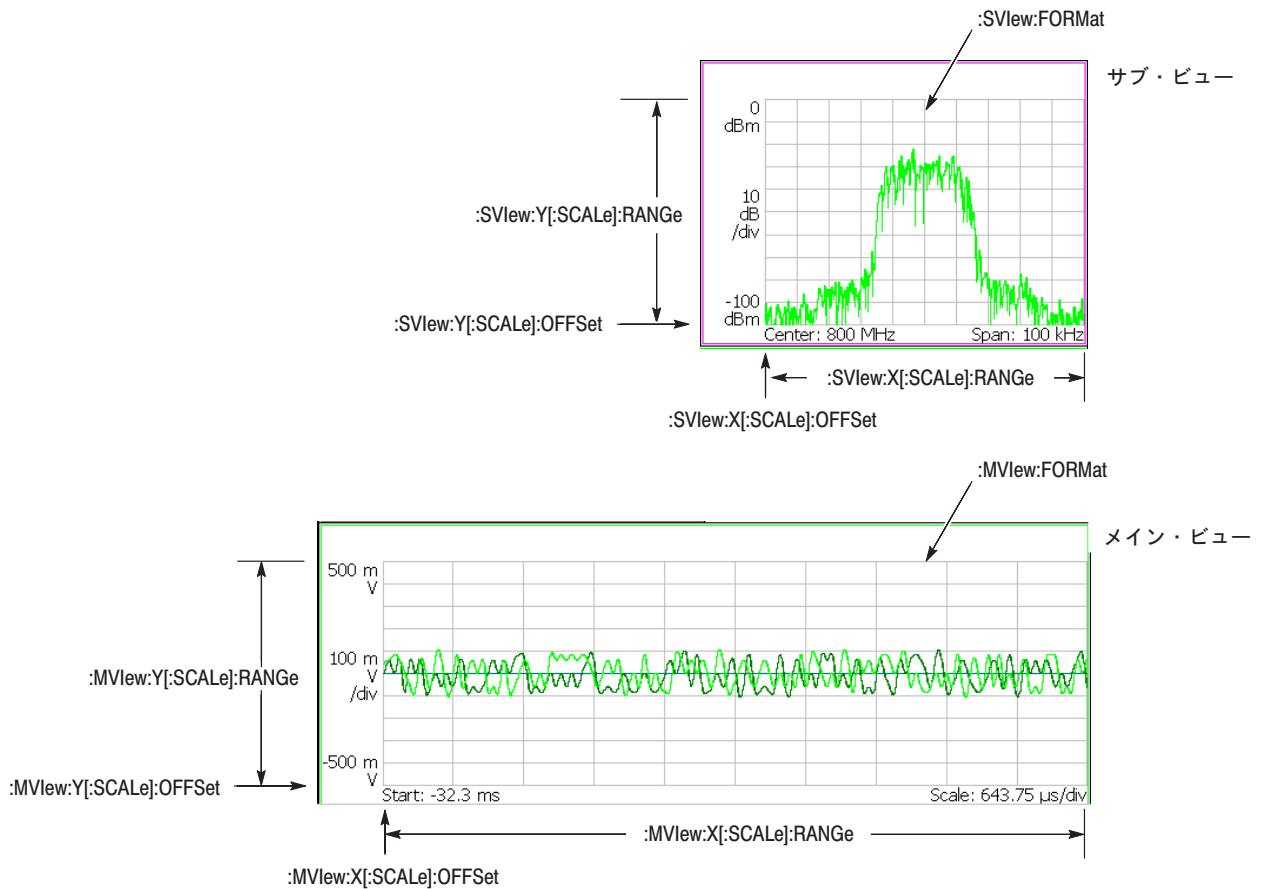
注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMDDEM（変調解析モード）を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:DDEMod	
:CCDF	
:LINE	
:GAUSSian	
[:STATE]	<boolean>
:MView	
:DStart	AUTO FIX ADD
:FORMat	OFF IQVTime FVTime CONSTe VECTor EVM MERRor PERRor IEYE QEYE TEYE STABLE PVTime AMAM AMPM DAMam DAMPm CCDF PDF
:HSSHift	LEFT NONE RIGHT
:RADix	BINARY OCTal HEXadecimal
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:MAXimum	<numeric_value>
:MINimum	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:NLINearity	
:LINE	
:BFIT	
[:STATE]	<boolean>
:REFerence	
[:STATE]	<boolean>
:MASK	
[:STATE]	<boolean>

```

:SVIew
  :DStArT      AUTO | FIX | ADD
  :FORMat      SPECTrum | IQVTime | FVTime | CONSte
               | VECTor | EVM | MERRor | PERRor
               | IEYE | QEYE | TEYE | STABle | PVTime
               | AMAM | AMPM | DAMam | DAMPm | CCDF | PDF
  :HSShift     LEFT | NONE | RIGHT
  :RADix       BINary | OCTal | HEXadecimal
  :X
    [:SCALe]
      :OFFSet   <numeric_value>
      :RANGe    <numeric_value>
  :Y
    [:SCALe]
      :FIT
      :FULL
      :MAXimum  <numeric_value>
      :MINimum  <numeric_value>
      :OFFSet   <numeric_value>
      :RANGe    <numeric_value>
  
```



注: :DISPlay:DDEMod コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-15 : :DISPlay:DDEMod コマンドの設定

:DISPlay:DDEMod:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe](?)

デジタル変調解析の CCDF 測定でガウス曲線を表示するかどうかを選択または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat が CCDF のときに有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }
:DISPlay:DDEMod:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]?

引数: OFF または 0 — ガウス曲線を表示しません。
ON または 1 — ガウス曲線を表示します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: CCDF 測定でガウス曲線を表示します。

:DISPlay:DDEMod:CCDF:LINE:GAUSSian:STATe ON

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVlew:DStart(?)

メイン・ビューで、デコード・フォーマットが Manchester または Miller の ASK、FSK または GFSK 信号のデコード開始位置を選択または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat の設定が STABLE (シンボルテーブル) で、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK、FSK、または GFSK のときに有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:MVlew:DStart { AUTO | FIX | ADD }

:DISPlay:DDEMod:MVlew:DStart?

引数: AUTO — デコード開始位置を自動で検出します。

FIX — シンボルの先頭をデコード開始位置とします。

ADD — シンボルの先頭から1/2シンボルほど遅らせた点をデコード開始位置とします。

測定モード: DEMDDEM

使用例: デコード開始位置を自動で検出します。

:DISPlay:DDEMod:MVlew:DStart AUTO

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat, [:SENSe]:DDEMod:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat(?)

デジタル変調信号解析のメイン・ビューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat { OFF | IQVTime | FVTime | CONSte | VECTor
| EVM | MERRor | PERRor | IEYE | QEYE | TEYE | STABle | PVTime
| AMAM | AMPM | DAMam | DAMPm | CCDF | PDF }

:DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-40: メイン・ビューの表示形式

引数	表示形式
OFF	波形を表示しません。
IQVTime	IQ レベル vs 時間
FVTime	周波数偏移 vs 時間
CONSte	コンスタレーション
VECTor	ベクトル
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差
IEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: I データ)
QEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: Q データ)
TEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: 位相)
STABle	シンボル・テーブル
PVTime	電力 vs 時間
AMAM	AM/AM (ベクトル)
AMPM	AM/PM (ベクトル)
DAMam	AM/AM (ドット)
DAMPm	AM/PM (ドット)
CCDF	CCDF
PDF	PDF

注: 引数 FVTime は、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が GFSK のときだけ有効です。引数 PVTime は、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK のときだけ有効です。表示形式は変調方式によって制約があります。詳細は、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例 : アイ・ダイアグラムを選択します。縦軸を I データで表示します。

:DISPlay:DDEMod:MView:FORMat IEYE

関連コマンド : :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat, [:SENSe]:DDEMod:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVIew:HSSHift(?)

メイン・ビューで、OQPSK信号の場合に I データに対して Q データを 1/2シンボルほどずらすかどうかを選択または問合せます。

注 : このコマンドは、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が OQPSK のときに有効です。このコマンドの設定は、直ちに :DISPlay:DDEMod:SVIew:HSSHift の設定に影響します。

構文 : :DISPlay:DDEMod:MVIew:HSSHift { LEFT | NONE | RIGHT }

:DISPlay:DDEMod:MVIew:HSSHift?

引数 : LEFT — I データに対し Q データを時間軸上で負方向に 1/2シンボルほどずらします。

NONE — Q データをずらしません。

RIGHT — I データに対し Q データを時間軸上で正方向に 1/2シンボルほどずらします。

測定モード : DEMDDEM

使用例 : OQPSK 信号で I データに対して Q データを時間軸上で負方向に 1/2 シンボルほどずらします。

:DISPlay:DDEMod:MVIew:HSSHift LEFT

関連コマンド : :DISPlay:DDEMod:SVIew:HSSHift, [:SENSe]:DDEMod:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVIew:RADix(?)

デジタル変調信号解析のメイン・ビューのシンボル基数を選択または問合せます。

注： このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat コマンドで STABle (シンボルテーブル) を選択したときに有効です。シンボル・テーブル以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:DDEMod:MVIew:RADix { BINary | OCTal | HEXadecimal }

:DISPlay:DDEMod:MVIew:RADix?

引数： BINary — 2進数を選択します。

OCTal — 8進数を選択します。

HEXadecimal — 16進数を選択します。

測定モード： DEMDDEM

使用例： 2進数を選択します。

:DISPlay:DDEMod:MVIew:RADix BINary

関連コマンド： :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet(?)

デジタル変調信号解析でメイン・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません: CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STABle

構文: :DISPlay:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例: メイン・ビューに IQレベル vs. 時間を表示したとき、横軸の最小値を $-40\mu\text{s}$ に設定します。

:DISPlay:DDEMod:MVIew:X:SCALe:OFFSet -40us

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MView:X[:SCALe]:RANGe(?)

デジタル変調信号解析でメイン・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません: CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STAB1e、AMAM、AMPM、DAMam、DAMPm

構文: :DISPlay:DDEMod:MView:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:DDEMod:MView:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例: メイン・ビューに IQ レベル vs. 時間を表示したとき、横軸のフルスケールを 40 μ s に設定します。

:DISPlay:DDEMod:MView:X:SCALe:RANGe 40us

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

デジタル変調信号解析で、メイン・ビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません : CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STABle、AMAM、AMPm、DAMam、DAMPm

構文: :DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMDDEM

使用例: メイン・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:FIT

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

デジタル変調信号解析でメイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません : CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STABle、AMAM、AMPm、DAMam、DAMPm

構文: :DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMDDEM

使用例: メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:MAXimum(?)

デジタル変調信号解析の CCDF 測定で、メイン・ビューの縦軸の最大値（上端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat の設定が CCDF の場合に有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:MAXimum <value>

:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:MAXimum?

引数: <value>::=<Nrf> — CCDF ビューの縦軸の最大値を設定します。

設定範囲: 最小値の 2倍 ~ 100%

最小値は、:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:MINimum コマンドで設定します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: CCDF ビューの縦軸の最大値を 80% に設定します。

:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y:SCALe:MAXimum 80pct

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:MINimum

:DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:MINimum(?)

デジタル変調信号解析の CCDF 測定で、メイン・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVlew:FORMat の設定が CCDF の場合に有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:MINimum <value>

:DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:MINimum?

引数: <value>::=<NRf> — CCDF ビューの縦軸の最小値を設定します。

設定範囲: 0.01 ~ 最大値の1/2 [%]

最大値は、:DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:MAXimum コマンドで設定します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: CCDF ビューの縦軸の最小値を 0.1% に設定します。

:DISPlay:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:MINimum 0.1pct

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:MAXimum

:DISPlay:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

デジタル変調信号解析でメイン・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません：CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STAB1e、AMPm、DAMPm、CCDF

問合せコマンドは :DISPlay:DDEMod:MView:FORMat の設定が AMAM の場合に有効です。

構文： :DISPlay:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード： DEMDDEM

使用例： メイン・ビューにIQ レベル vs. 時間を表示したとき、縦軸の最小値を -500mV に設定します。

:DISPlay:DDEMod:MView:Y:SCALe:OFFSet -500mV

関連コマンド： :DISPlay:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

デジタル変調信号解析でメイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません: CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STABLe、AMAM、DAMam、CCDF

構文: :DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例: メイン・ビューにIQ レベル vs. 時間を表示したとき、縦軸のフルスケールを 500mV に設定します。

:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y:SCALe:RANGe 500mV

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:BFIT[:STATe](?)

デジタル変調解析の AM/AM または AM/PM 測定で、近似曲線 (best-fit line) を表示するかどうかを選択または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat が AMAM、AMPM、DAMam または DAMPm のときに有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:BFIT[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:BFIT[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 近似曲線を表示しません。
ON または 1 — 近似曲線を表示します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: AM/AM または AM/PM 測定で近似曲線を表示します。
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:BFIT:STATe ON

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:REFerence[:STATe](?)

デジタル変調解析の AM/AM または AM/PM 測定で、基準線を表示するかどうかを選択または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat が AMAM、AMPM、DAMam または DAMPm のときに有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:REFerence[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:REFerence[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 基準線を表示しません。
ON または 1 — 基準線を表示します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: AM/AM または AM/PM 測定で基準線を表示します。
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:REFerence:STATe ON

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:NLINearity:MASK[:STATe](?)

デジタル変調解析の AM/AM 測定で線形領域を表示するかどうかを選択または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat が AMAM または DAMam のときに有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:NLINearity:MASK[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }

:DISPlay:DDEMod:NLINearity:MASK[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 線形領域を表示しません。

ON または 1 — 線形領域を表示します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: AM/AM 測定で線形領域を表示します。

:DISPlay:DDEMod:NLINearity:MASK:STATe ON

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:SVIew:DStart(?)

サブビューで、デコード・フォーマットが Manchester または Miller の ASK、FSK、または GFSK 信号のデコード開始位置を選択または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が STABLE (シンボルテーブル) で、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK、FSK、または GFSK のときに有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:DStart { AUTO | FIX | ADD }

:DISPlay:DDEMod:SVIew:DStart?

引数: AUTO — デコード開始位置を自動で検出します。

FIX — シンボルの先頭をデコード開始位置とします。

ADD — シンボルの先頭から1/2シンボルほど遅らせた点をデコード開始位置とします。

測定モード: DEMDDEM

使用例: デコード開始位置を自動で検出します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:DStart AUTO

関連コマンド: [:SENSe]:DDEMod:FORMat

:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat(?)

デジタル変調信号解析のサブビューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat { SPECTrum | IQVTime | FVTime | CONSte
| VECTor | EVM | MERRor | PERRor | IEYE | QEYE | TEYE | STABle | PVTime
| AMAM | AMPM | DAMam | DAMPm | CCDF | PDF }

:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-41: サブ・ビューの表示形式

引数	表示形式
SPECTrum	スペクトラム
IQVTime	IQ レベル vs 時間
FVTime	周波数偏移 vs 時間
CONSte	コンスタレーション
VECTor	ベクトル
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差
IEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: I データ)
QEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: Q データ)
TEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: 位相)
STABle	シンボル・テーブル
PVTime	電力 vs 時間
AMAM	AM/AM (ベクトル)
AMPM	AM/PM (ベクトル)
DAMam	AM/AM (ドット)
DAMPm	AM/PM (ドット)
CCDF	CCDF
PDF	PDF

注: 引数 FVTime は、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が GFSK のときだけ有効です。引数 PVTime は、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK のときだけ有効です。表示形式は変調方式によって制約があります。詳細は、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例： サブビューにコンスタレーションを表示します。

`:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat CONSTe`

関連コマンド： `:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat, [:SENSe]:DDEMod:FORMat`

:DISPlay:DDEMod:SVIew:HSSHift(?)

サブビューで、OQPSK信号の場合にIデータに対してQデータを1/2シンボルほどずらすかどうかを選択または問合せます。

注： このコマンドは、`[:SENSe]:DDEMod:FORMat` が OQPSK のときに有効です。このコマンドの設定は、直ちに `:DISPlay:DDEMod:MVIew:HSSHift` の設定に影響します。

構文： `:DISPlay:DDEMod:SVIew:HSSHift { LEFT | NONE | RIGHT }`

`:DISPlay:DDEMod:SVIew:HSSHift?`

引数： LEFT — Iデータに対しQデータを時間軸上で負方向に1/2シンボルほどずらします。

NONE — Qデータをずらしません。

RIGHT — Iデータに対しQデータを時間軸上で正方向に1/2シンボルほどずらします。

測定モード： DEMDDEM

使用例： OQPSK信号でIデータに対してQデータを時間軸上で負方向に1/2シンボルほどずらします。

`:DISPlay:DDEMod:SVIew:HSSHift LEFT`

関連コマンド： `:DISPlay:DDEMod:MVIew:HSSHift, [:SENSe]:DDEMod:FORMat`

:DISPlay:DDEMod:SVIew:RADix(?)

デジタル変調信号解析のサブ・ビューのシンボル基数を選択または問合せます。

注：このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat コマンドで STABle (シンボルテーブル) を選択したときに有効です。シンボル・テーブル以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:DDEMod:SVIew:RADix { BINary | OCTal | HEXadecimal }

:DISPlay:DDEMod:SVIew:RADix?

引数： BINary — 2進数を選択します。

OCTal — 8進数を選択します。

HEXadecimal — 16進数を選択します。

測定モード： DEMDDEM

使用例： 2進数を選択します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:RADix BINary

関連コマンド： :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet(?)

デジタル変調信号解析でサブ・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません: CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STAB1e

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例: サブ・ビューにコンスタレーションを表示したとき、横軸の最大値を -2.5 に設定します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:X:SCALe:OFFSet -2.5

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe(?)

デジタル変調信号解析で、サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません: CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STABLe、AMAM、AMPM、DAMam、DAMPm

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例: サブ・ビューにコンスタレーションを表示したとき、横軸のフルスケールを 2.5 に設定します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:X:SCALe:RANGe 2.5

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

デジタル変調信号解析で、サブ・ビューのオートスケールを実行します。
オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません : CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STABLe、AMAM、AMPM、DAMam、DAMPm

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMDDEM

使用例: サブ・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FIT

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

デジタル変調信号解析でサブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません : CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STABLe、AMAM、AMPM、DAMam、DAMPm

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMDDEM

使用例: サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MAXimum(?)

デジタル変調信号解析で、CCDF サブ・ビューの縦軸最大値（上端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が CCDF の場合に有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MAXimum <value>

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MAXimum?

引数: <value>::=<NRf> — CCDF ビューの縦軸の最大値を設定します。

設定範囲: 最小値の 2倍 ~ 100%

最小値は、:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MINimum コマンドで設定します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: CCDF ビューの縦軸の最大値を 80% に設定します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:MAXimum 80pct

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MINimum

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MINimum(?)

デジタル変調信号解析で、CCDF サブ・ビューの縦軸最小値（下端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が CCDF の場合に有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MINimum <value>

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MINimum?

引数: <value>::=<Nrf> — CCDF ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲: 0.01 ~ 最大値の1/2 [%]

最大値は、:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MAXimum コマンドで設定します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: CCDF ビューの縦軸の最小値を 0.1% に設定します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:MINimum 0.1pct

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MAXimum

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

デジタル変調信号解析でサブ・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません: CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STABle、AMPM、DAMPm、CCDF

問合せコマンドは :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が AMAM の場合に有効です。

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例: サブ・ビューにスペクトラムを表示したとき、縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:OFFSet -100

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

デジタル変調信号解析で、サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合には使用できません: CONSTe、VECTor、IEYE、QEYE、TEYE、STAB1e、AMAM、DAMam、CCDF

構文: :DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMDDEM

使用例: サブ・ビューにスペクトラムを表示したとき、縦軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:DDEMod サブグループ

RFID 解析, オプション21 型のみ

:DISPlay:RFID:DDEMod コマンドでは、RFID 変調解析のメイン・ビューとサブ・ビューの表示をコントロールします。このコマンド・グループは、次の測定で有効です。

- RF キャリア (RF Carrier)
- 送信電力オン/ダウン (Power On/Down)
- RF エンベロープ (RF Envelope)
- コンスタレーション (Constellation)
- アイ・ダイアグラム (Eye Diagram)
- シンボル・テーブル (Symbol Table)

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで DEMRFID (RFID 解析モード) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:RFID	
:DDEMod	
:MVIew	
:BURSt[:NUMBER]	<numeric_value>
:EDGE[:NUMBER]	<numeric_value>
:ENVELOpe[:NUMBER]	<numeric_value>
:GUIDeline[:STATE]	<boolean>
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:SVIew	
:BURSt[:NUMBER]	<numeric_value>
:EDGE[:NUMBER]	<numeric_value>
:ENVELOpe[:NUMBER]	<numeric_value>
:FORMat	SPECTrum PVTime FVTime ZSPECTrum RFENvelope CONSTe VECTor EYE STABle
:GUIDeline[:STATE]	<boolean>
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:BURSt[:NUMBer](?)

メイン・ビューに測定結果を表示するバーストの番号を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENse]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONSte、
EYE、または STABLE のとき有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MView:BURSt[:NUMBer] <number>
:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:BURSt[:NUMBer]?

引数: <value>::=<NRf> — バースト番号を設定します。設定範囲: 0 ~ 31。

測定モード: DEMRFID

使用例: バースト番号を 5 に設定します。

```
:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:BURSt:NUMBer 5
```

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:EDGE[:NUMBer](?)

メイン・ビューに測定結果を表示するエッジの番号を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENse]:RFID:MEASurement の設定が PODwon のとき有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MView:EDGE[:NUMBer] <number>
:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:EDGE[:NUMBer]?

引数: <value>::=<NRf> — エッジ番号を設定します。
設定範囲: 0 ~ (取り込んだエッジの数) - 1。

測定モード: DEMRFID

使用例: エッジ番号を 5 に設定します。

```
:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:EDGE:NUMBer 5
```

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:ENvelope[:NUMBer](?)

メイン・ビューに測定結果を表示するエンベロープの番号を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENse]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、または STABLe のとき有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:ENvelope[:NUMBer] <number>
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:ENvelope[:NUMBer]?

引数: <value>::=<Nrf> — エンベロープ番号を設定します。
設定範囲: 0 ~ (取り込んだエンベロープの数) -1。

測定モード: DEMRFID

使用例: エンベロープ番号を 5 に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:ENvelope:NUMBer 5

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:GUIDeline[:STATe](?)

RFID 解析で、メイン・ビューにガイドラインを表示するかどうか選択または問合せます。このコマンドは、[:SENse]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、または STABLe のとき有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:GUIDeline[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:GUIDeline[:STATe]?

引数: OFF または 0 — メイン・ビューにガイドラインを表示しません。
ON または 1 — メイン・ビューにガイドラインを表示します。

測定モード: DEMRFID

使用例: メイン・ビューにガイドラインを表示します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:GUIDeline:STATe ON

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:X[:SCALe]:OFFSet(?)

RFID 解析で、メイン・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MView:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: メイン・ビューに RF エンベロープを表示したときに、横軸の最小値を -100ms に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:X:SCALe:OFFSet -100ms

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:X[:SCALe]:PDIVision(?)

RFID 解析で、メイン・ビューの横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:RFID:MView:FORMat の設定が RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MView:X[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の 1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: メイン・ビューに RF エンベロープを表示したときに、横軸のスケールを 5ms/div に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:X:SCALe:PDIVision 5ms

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:RANGe(?)

RFID 解析でメイン・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>

 :DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: メイン・ビューにキャリアのスペクトラムを表示したときに、横軸のフルスケールを 10MHz に設定します。

 :DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X:SCALe:RANGe 10MHz

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FIT (問合せなし)

RFID 解析でメイン・ビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: TIMRFID

使用例: メイン・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y:SCALE:FIT

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FULL (問合せなし)

RFID 解析でメイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y:SCALE:FULL

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

RFID 解析で、メイン・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-3を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: メイン・ビューにキャリアのスペクトラムを表示したとき、縦軸の最小値を -100 dBm に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:OFFSet -100

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

RFID 解析で、時間領域表示の縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<Nrf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: メイン・ビューに RF エンベロープを表示したとき、縦軸のスケールを 5mV/div に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:PDIVision 5m

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe(?)

RFID 解析でメイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-3を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: メイン・ビューにキャリアのスペクトラムを表示したとき、縦軸のフルスケールを100dBに設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:MView:Y:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:BURSt[:NUMBer](?)

サブ・ビューに測定結果を表示するバーストの番号を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENse]:RFID:MEASurementの設定がRFENvelope、CONSte、EYE、またはSTABleのとき有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:BURSt[:NUMBer] <number>

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:BURSt[:NUMBer]?

引数: <value>::=<NRf> — バースト番号を設定します。設定範囲: 0 ~ 31。

測定モード: DEMRFID

使用例: バースト番号を5に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:BURSt:NUMBer 5

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:EDGE[:NUMBER](?)

サブ・ビューに測定結果を表示するエッジの番号を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENse]:RFID:MEASurement の設定が PODwon のとき有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:EDGE[:NUMBER] <number>
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:EDGE[:NUMBER]?

引数: <value>::=<Nrf> — エッジ番号を設定します。
設定範囲: 0 ~ (取り込んだエッジの数) - 1。

測定モード: DEMRFID

使用例: エッジ番号を 5 に設定します。

```
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:EDGE:NUMBER 5
```

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:ENVELOpe[:NUMBER](?)

サブ・ビューに測定結果を表示するエンベロープの番号を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENse]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、または STABLE のとき有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:ENVELOpe[:NUMBER] <number>
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:ENVELOpe[:NUMBER]?

引数: <value>::=<Nrf> — エンベロープ番号を設定します。
設定範囲: 0 ~ (取り込んだエンベロープの数) - 1。

測定モード: DEMRFID

使用例: エンベロープ番号を 5 に設定します。

```
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:ENVELOpe:NUMBER 5
```

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat(?)

RFID 解析のサブ・ビューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat { SPECTrum | PVTime | FVTime
| ZSPECTrum | RFENvelope | CONSTe | VECTor | EYE | STABle }

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-42: サブ・ビューの表示形式

引数	表示形式
SPECTrum	スペクトラム
PVTime	電力 vs 時間
FVTime	周波数 vs 時間
ZSPECTrum	ズーム領域のスペクトラム
RFENvelope	RF エンベロープ
CONSTe	コンスタレーション
VECTor	ベクトル
EYE	アイ・ダイアグラム
STABle	シンボル・テーブル

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューの表示形式としてコンスタレーションを選択します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat CONSTe

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:GUIDeline[:STATE](?)

RFID 解析で、サブ・ビューにガイドラインを表示するかどうか選択または問合せます。このコマンドは、[:SENse]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONSte、EYE、または STABLE のとき有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:GUIDeline[:STATE] { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:GUIDeline[:STATE]?

引数: OFF または 0 — サブ・ビューにガイドラインを表示しません。
ON または 1 — サブ・ビューにガイドラインを表示します。

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューにガイドラインを表示します。
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:GUIDeline:STATE ON

関連コマンド: [:SENse]:RFID:MEASurement

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)

RFID 解析で、サブ・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が SPECtrum、PVTime、FVTime、ZSPectrum、または RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet <value>
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブ・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューに RF エンベロープを表示したとき、横軸の最小値を -100ms に設定します。
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X:SCALE:OFFSet -100ms

関連コマンド: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision(?)

サブ・ビューの横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、PVTime、FVTime、ZSPectrum、または RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸の 1目盛りの値を設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューに RF エンベロープを表示したときに、横軸のスケールを 5ms/div に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X:SCALe:PDIVision 5ms

関連コマンド: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe(?)

RFID 解析でサブ・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、PVTime、FVTime、ZSPectrum、または RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューにキャリアのスペクトラムを表示したときに、横軸のフルスケールを 10MHz に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X:SCALe:RANGe 10MHz

関連コマンド: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

RFID 解析で、サブ・ビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

このコマンドは、:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、PVTime、FVTime、ZSPectrum、または RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FIT

関連コマンド: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

RFID 解析でサブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

このコマンドは、:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、PVTime、FVTime、ZSPectrum、または RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

RFID 解析で、サブ・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、PVTime、FVTime、ZSPectrum、または RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録D の表D-3 を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューにスペクトラムを表示したとき、縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:OFFSet -100

関連コマンド: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

RFID 解析で、時間領域表示の縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、PVTime、FVTime、ZSPectrum、または RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸の 1目盛りの値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録D の表D-3 を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューに RFエンベロープを表示したとき、縦軸を 5mV/div に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:PDIVision 5m

関連コマンド: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

RFID 解析でサブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が SPECtrum、PVTime、FVTime、ZSPectrum、または RFENvelope のときに有効です。

構文: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-3を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: サブ・ビューにスペクトラムを表示したとき、縦軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: :DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:RFID:SPECTrum サブグループ

RFID 解析, オプション21 型のみ

:DISPlay:RFID:SPECTrum コマンドは、RFID (Radio Frequency Identification) 解析でスペクトラム表示を設定します。このコマンド・グループは、以下の測定で有効です。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで DEMRFID (RFID 解析モード) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:RFID	
:SPECTrum	
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<frequency>
:PDIVsion	<frequency>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVsion	<amplitude>

:DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet <freq>

:DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:RFID:SPECTrum:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision <freq>

:DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: 横軸のスケールを 100kHz/div に設定します。

:DISPlay:RFID:SPECTrum:X:SCALe:PDIVision 100.0E+3

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

スペクトラム表示で、オートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: スペクトラム表示のオートスケールを実行します。

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

スペクトラム表示で、縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: スペクトラム表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム表示で、縦軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <amp1>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200~0 dBm。

測定モード: TIMRFID

使用例: 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の縦軸（振幅）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision <amp1>

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<NRf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0~10 dB/div。

測定モード: DEMRFID

使用例: 縦軸の1目盛りの値を 10dB に設定します。

:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay:RFID:WAVeform サブグループ

RFID 解析, オプション21 型のみ

:DISPlay:RFID:WAVeform コマンドは、RFID (Radio Frequency Identification) 解析で時間領域表示を設定します。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで DEMRFID (RFID 解析モード) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:RFID	
:WAVeform	
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<time>
:PDIVsion	<time>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVsion	<amplitude>

:DISPlay:RFID:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の横軸（時間）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:RFID:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <time>

:DISPlay:RFID:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <time>::=<Nrf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： DEMRFID

使用例： 横軸の最小値を $-100\mu\text{s}$ に設定します。

:DISPlay:RFID:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100us

:DISPlay:RFID:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:RFID:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision <time>

:DISPlay:RFID:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision?

引数： <time>::=<Nrf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： DEMRFID

使用例： 横軸のスケールを $10\mu\text{s}/\text{div}$ に設定します。

:DISPlay:RFID:WAVeform:X:SCALe:PDIVision 10us

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

時間領域表示のオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: オートスケールを実行します。

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: 縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <ampl>

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <ampl>::=<NRf> — 縦軸（振幅）の最小値を設定します。
設定範囲については、付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision <ampl>

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <ampl>::=<NRf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMRFID

使用例: 縦軸のスケールを 10dB/div に設定します。

:DISPlay:RFID:WAVeform:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay:SSource:MView サブグループ

シグナル・ソース解析, オプション21 型のみ

:DISPlay:SSource:MView コマンドでは、シグナル・ソース解析のメイン・ビューの表示をコントロールします。このコマンド・グループは、次の測定で有効です。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで TIMSSOURCE (シグナル・ソース解析モード) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:SSource	
:MView	
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:STARt	<numeric_value>
:STOP	<numeric_value>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>

:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:OFFSet(?)

シグナル・ソース解析で、メイン・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が SPURious（スプリアス）、RTSPurious（リアルタイム・スプリアス）または FVTime（周波数 vs 時間）のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: メイン・ビューにスプリアスを表示したときに、横軸の最小値を 950MHz に設定します。

:DISPlay:SSource:MView:X:SCALe:OFFSet 950MHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MVlew:X[:SCALe]:PDIVision(?)

シグナル・ソース解析で、メイン・ビューの横軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が SPURious (スプリアス)、RTSPurious (リアルタイム・スプリアス) または FVTime (周波数 vs 時間) のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:MVlew:X[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:SSource:MVlew:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<Nrf> — メイン・ビューの横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: メイン・ビューの横軸のスケールを 1 μ s/div に設定します。

:DISPlay:SSource:MVlew:X:SCALe:PDIVision 1us

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:RANGe(?)

シグナル・ソース解析で、メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が SPURious（スプリアス）、RTSPurious（リアルタイム・スプリアス）または FVTime（周波数 vs 時間）のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: メイン・ビューにスプリアスを表示したときに、横軸のフルスケールを 10MHz に設定します。

:DISPlay:SSource:MView:X:SCALe:RANGe 10MHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:START(?)

位相雑音測定でメイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が PNOise (位相雑音) または RTPNoise (リアルタイム位相雑音) のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:START <value>

:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:START?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の最小値を設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 位相雑音測定の本メイン・ビューで、横軸の最小値を 1kHz に設定します。

:DISPlay:SSource:MView:X:SCALe:START 1kHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:STOP(?)

位相雑音測定でメイン・ビューの横軸の最大値 (右端) を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が PNOise (位相雑音) または RTPNoise (リアルタイム位相雑音) のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:STOP <value>

:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALe]:STOP?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の最大値を設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 位相雑音測定の本メイン・ビューで、横軸の最大値を 1MHz に設定します。

:DISPlay:SSource:MView:X:SCALe:STOP 1MHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

シグナル・ソース解析で、メイン・ビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: メイン・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:SSource:MView:Y:SCALe:FIT

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

シグナル・ソース解析でメイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:SSource:MView:Y:SCALe:FULL

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

シグナル・ソース解析で、メイン・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-4を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 位相雑音測定の本メイン・ビューで、縦軸の最小値を -100dBc/Hz に設定します。

:DISPlay:SSource:MView:Y:SCALe:OFFSet -100

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

シグナル・ソース解析で、メイン・ビューの横軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲については、付録Dの表D-4を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 周波数対時間測定の本メイン・ビューで、縦軸の1目盛りの値を 50kHz/div に設定します。

:DISPlay:SSource:MView:Y:SCALe:PDIVision 50kHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:RANGe(?)

シグナル・ソース解析で、メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:RANGe <value>

 :DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-4を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 位相雑音測定の本メイン・ビューで、縦軸のフルスケールを 100dB に設定します。

 :DISPlay:SSource:MView:Y:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:DISPlay:SSource:SVIew サブグループ

シグナル・ソース解析, オプション21 型のみ

:DISPlay:SSource:SVIew コマンドは、シグナル・ソース解析のサブ・ビューの表示をコントロールします。このコマンド・グループは、次の測定で有効です。

- リアルタイム位相雑音 (Real Time Phase Noise)
- リアルタイム・スプリアス (Real Time Spurious)

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで TIMSSOURCE (シグナル・ソース解析モード) を選択しておく必要があります。

:DISPlay:SSource:SVIew コマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が RTPNoise (リアルタイム位相雑音) または RTSPurious (リアルタイム・スプリアス) のときに有効です。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:SSource	
:SVIew	
:COLor	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:FORMat	SPECTrum NGRam RJVTime IPNVtime CNVTime CNVFrequency
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:START	<numeric_value>
:STOP	<numeric_value>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<numeric_value>
:PLINe	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>

:DISPlay:SSource:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet(?)

サブ・ビューがノイズグラムのときに、色軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が NGRam のとき有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブ・ビューの色軸の最小値を設定します。
設定範囲：-230～+70 dBc/Hz。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 色軸の最小値を -100dBc/Hz に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:COLor:SCALe:OFFSet -100

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe(?)

サブ・ビューがノイズグラムのときに、色軸（C/N）のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が NGRam のとき有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe?

引数: <rel_amp1>::={ 10 | 20 | 50 | 100 } [dB] — 色軸のフルスケールを設定します。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 色軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:COLor:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat(?)

シグナル・ソース解析のサブ・ビューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat { SPECTrum | NGRam | RJVTime | IPNVtime
| CNVTime | CNVFrequency }

:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。
サブ・ビューで表示可能な形式は、メイン・ビューの表示形式に依存します。

表 2-43: シグナル・ソース解析のサブ・ビューの表示形式

引数	サブ・ビューの表示形式	測定項目 ¹
SPECTrum	スペクトラム	RTPNoise または RTSPurious
NGRam	ノイズグラム	RTPNoise または RTSPurious
RJVTime	ランダム・ジッタ vs 時間	RTPNoise
IPNVtime	積分位相雑音 vs 時間	RTPNoise
CNVTime	C/N vs 時間	RTPNoise
CNVFrequency	C/N vs オフセット周波数	RTSPurious

¹ 測定項目は、[:SENSe]:SSource:MEASurement コマンドで選択します。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューにノイズグラムを表示します。

```
:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat NGRam
```

関連コマンド: :DISPlay:SSource:MVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet(?)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が SPEcTrum、RJVTi-me、IPNVtime、または CNVTime のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューにスペクトラムを表示したとき、横軸の最小値を 1GHz に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:X:SCALe:OFFSet 1GHz

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision(?)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューの横軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、RJVTi-me、IPNVtime、または CNVTime のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸の 1目盛りの値を設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューにランダム・ジッタ vs 時間を表示したとき横軸のスケールを 1 μ s/div に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:X:SCALe:PDIVision 1us

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:RANGe(?)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が SPECtrum、RJVTi-me、IPNVtime、または CNVTime のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューにスペクトラムを表示したときに、横軸のフルスケールを 10MHz に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:X:SCALe:RANGe 10MHz

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:START(?)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が NGRam または CN-VFrequency のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:START <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:START?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューにノイソグラムを表示したとき、横軸の最小値を 1kHz に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:X:SCALe:START 1kHz

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:STOP(?)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューの横軸の最大値（右端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が NGRam または CN-VFrequency のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:STOP <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:X[:SCALe]:STOP?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸の最大値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューにノイズグラムを表示したとき、横軸の最大値を 1MHz に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:X:SCALe:STOP 1MHz

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューのオートスケールを実行します。
オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:SSource:SVIew:Y:SCALe:FIT

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブ・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-4を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューにスペクトラムを表示したときに、縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:Y:SCALe:OFFSet -100dBm

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

サブ・ビューが時間領域表示のとき縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、RJVTi-me、IPNVtime、CNVTime、または CNVFrequency のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision <value>
:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<Nrf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-4を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューが C/N vs 時間表示のとき、縦軸を 15dB/div に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:Y:SCALe:PDIVision 15

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:PLINe(?)

サブ・ビューがノイズグラムするとき、縦軸(フレーム番号)のスケールを設定または問合せます。ノイズグラムは、取り込んだ全フレーム・データからこのコマンドで設定した数ごとにフレームが間引かれて表示されます。例えば5に設定すると、5フレームごとに表示されます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が NGRam のとき有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:PLINe <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:PLINe?

引数: <value>::=<NR1> — ノイズグラムの縦軸のスケールを設定します。
設定範囲: 1~1024 フレーム。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: ノイズグラムを5フレームごとに表示します。

:DISPlay:SSource:SVIew:Y:SCALe:PLINe 5

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

シグナル・ソース解析で、サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が SPECTrum、RJVTi-me、IPNVtime、CNVTime、または CNVFrequency のときに有効です。

構文: :DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:SSource:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-4を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: サブ・ビューにスペクトラムを表示したとき、縦軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:SSource:SVIew:Y:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat

:DISPlay:SSource:SPECTrum サブグループ

シグナル・ソース解析, オプション21 型のみ

:DISPlay:SSource:SPECTrum コマンドでは、シグナル・ソース解析でスペクトラム表示を設定します。このコマンド・グループは、次の測定で有効です。

- スプリアス (Spurious)
- リアルタイム・スプリアス (Real Time Spurious)

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで TIMSSOURCE (シグナル・ソース解析モード) を選択しておく必要があります。

:DISPlay:SSource:SVIew コマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が SPURious (スプリアス) または RTSPurious (リアルタイム・スプリアス) のときに有効です。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:SSource	
:SPECTrum	
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<frequency>
:PDIVSION	<frequency>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVSION	<amplitude>

:DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet <freq>

:DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <freq>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:SSource:SPECTrum:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision <freq>

:DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<NRf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 横軸のスケールを 100kHz/div に設定します。

:DISPlay:SSource:SPECTrum:X:SCALe:PDIVision 100.0E+3

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

スペクトラム表示で、オートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: スペクトラム表示のオートスケールを実行します。

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

スペクトラム表示で、縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: スペクトラム表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム表示で、縦軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <amp1>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200~0 dBm。

測定モード： TIMSSOURCE

使用例： 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の縦軸（振幅）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision <amp1>

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数： <freq>::=<NRf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0~10 dB/div。

測定モード： TIMSSOURCE

使用例： 縦軸の1目盛りの値を 10dB に設定します。

:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay:SSource:TFRrequency サブグループ

シグナル・ソース解析, オプション21 型のみ

DISPlay:SSource:TFRrequency コマンドでは、シグナル・ソース解析で、3次元表示 (ノイズグラム) をコントロールします。

注: このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで TIMSSOURCE (シグナル・ソース解析モード) を選択しておく必要があります。

このコマンド・グループは :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat の設定が NGRam (ノイズグラム) のときに有効です。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:SSource	
:TFRrequency	
:NGRam	
:COLor	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANge	<numeric_value>
:X	
[:SCALE]	
:STARt	<frequency>
:STOP	<frequency>
:Y	
[:SCALE]	
:OFFSet	<frame_count>
:PLINe	<frame_count>

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet(?)

ノイズグラムの色軸 (C/N) の最小値 (下端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — 色軸の最小値を設定します。設定範囲: -230~70 dBc/Hz。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 色軸の最小値を -50dBc/Hz に設定します。

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:COLor:SCALe:OFFSet -50

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:COLor[:SCALe]:RANGe(?)

ノイズグラムの色軸 (振幅) のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:COLor[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:COLor[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::={ 10 | 20 | 50 | 100 } [dB] — 色軸のフルスケールを設定します。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 色軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:COLor:SCALe:RANGe 100

:DISPlay:SSource:TFrequency:NGRam:X[:SCALe]:START(?)

ノイソグラムの横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:TFrequency:NGRam:X[:SCALe]:START <freq>

:DISPlay:SSource:TFrequency:NGRam:X[:SCALe]:START?

引数: <freq>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。設定範囲：10Hz～100MHz。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 横軸の最小値を 1kHz に設定します。

:DISPlay:SSource:TFrequency:NGRam:X:SCALe:START 1kHz

:DISPlay:SSource:TFrequency:NGRam:X[:SCALe]:STOP(?)

ノイソグラムの横軸（周波数）の最大値を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:TFrequency:NGRam:X[:SCALe]:STOP <freq>

:DISPlay:SSource:TFrequency:NGRam:X[:SCALe]:STOP?

引数: <freq>>::=<NRf> — 横軸の最大値を設定します。設定範囲：10Hz～100MHz。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 横軸の最大値を 1MHz に設定します。

:DISPlay:SSource:TFrequency:NGRam:X:SCALe:STOP 1MHz

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

ノイズグラムの縦軸（フレーム番号）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <value>::=<NR1> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-40960~0。

測定モード： TIMSSOURCE

使用例： 縦軸の最小値をフレーム -100 に設定します。

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y[:SCALe]:PLINe(?)

ノイズグラムの縦軸（フレーム番号）のスケールを設定または問合せます。ノイズグラムは、取り込んだ全フレーム・データから、このコマンドで設定した数ごとにフレームが間引かれて表示されます。例えば5に設定すると、5フレームごとに表示されます。

構文： :DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y[:SCALe]:PLINe <value>

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y[:SCALe]:PLINe?

引数： <value>::=<NR1> — 縦軸のスケールを設定します。
設定範囲：1~1024 フレーム。

測定モード： TIMSSOURCE

使用例： ノイズグラムを5フレームごとに表示します。

:DISPlay:SSource:TFRequency:NGRam:Y:SCALe:PLINe 5

:DISPlay:SSource:WAVeform サブグループ

シグナル・ソース解析, オプション21 型のみ

:DISPlay:SSource:WAVeform コマンドでは、シグナル・ソース解析の時間領域表示を設定します。このコマンド・グループは、周波数対時間測定でのみ有効です。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで TIMSSOURCE (シグナル・ソース解析モード) を選択しておく必要があります。

:DISPlay:SSource:SVIew コマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が FVTime (周波数対時間) のときに有効です。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:SSource	
:WAVeform	
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<time>
:PDIVsion	<time>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVsion	<amplitude>

:DISPlay:SSource:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の横軸（時間）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:SSource:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <time>

:DISPlay:SSource:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <time>::=<NRF> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： TIMSSOURCE

使用例： 横軸の最小値を -100ms に設定します。

:DISPlay:SSource:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100ms

:DISPlay:SSource:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:SSource:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision <time>

:DISPlay:SSource:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision?

引数： <time>::=<NRF> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード： TIMSSOURCE

使用例： 横軸のスケールを 10ms/div に設定します。

:DISPlay:SSource:WAVeform:X:SCALe:PDIVision 10ms

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

時間領域表示のオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: オートスケールを実行します。

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <amp1>::=<NRf> — 縦軸（振幅）の最小値を設定します。
設定範囲については、付録Dの表D-4を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 周波数 vs 時間表示で、縦軸の最小値を -100kHz に設定します。

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100kHz

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision <amp1>

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <amp1>::=<NRf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、付録Dの表D-4を参照してください。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 周波数 vs 時間表示で、縦軸のスケールを 50kHz/div に設定します。

:DISPlay:SSource:WAVeform:Y:SCALe:PDIVision 50kHz

:DISPlay:AC3Gpp サブグループ

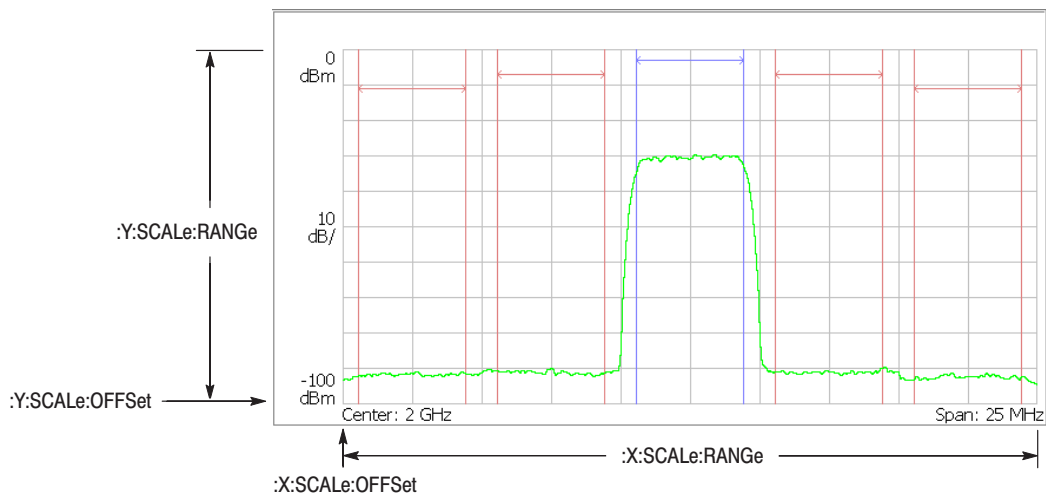
W-CDMA, オプション23 型のみ

:DISPlay:AC3Gpp コマンドでは W-CDMA ACLR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定
の表示を設定します。

注: このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect]
コマンドで SAUL3G (W-CDMA アップリンク・スペクトラム解析) を選択しておく
必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:AC3Gpp	
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	
:RANGe	<frequency>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:RANGe	<relative_amplitude>



注: :DISPlay:AC3Gpp コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-16 : :DISPlay:AC3Gpp コマンドの設定

:DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:OFFSet(?)

W-CDMA ACLR 解析で、横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲：（中心周波数）±12.5MHz。

ただし、次の条件を満たさなければなりません。

$$\text{OFFSet} + \text{RANGe} < (\text{中心周波数}) + 12.5\text{MHz}$$

ここで、

OFFSet : :DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:OFFSet コマンド設定値

RANGe : :DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:RANGe コマンド設定値

測定モード: SAUL3G

使用例: 横軸の最小値を 1GHz に設定します。

:DISPlay:AC3Gpp:X:SCALe:OFFSet 1GHz

関連コマンド: :DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:RANGe

:DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:RANGe(?)

W-CDMA ACLR 解析で、横軸（周波数）のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRF> — 横軸のフルスケールを設定します。設定範囲：0Hz～25MHz。

ただし、次の条件を満たさなければなりません。

$$\text{OFFSet} + \text{RANGe} < (\text{中心周波数}) + 12.5\text{MHz}$$

ここで、

OFFSet : :DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:OFFSet コマンド設定値

RANGe : :DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:RANGe コマンド設定値

測定モード: SADL3G

使用例: 横軸のフルスケールを 25MHz に設定します。

:DISPlay:AC3Gpp:X:SCALe:RANGe 25MHz

関連コマンド: :DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALe]:OFFSet

:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

W-CDMA ACLR 解析でオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: SADL3G

使用例: メイン・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:AC3Gpp:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

W-CDMA ACLR 解析で、縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: SADL3G

使用例: 縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:AC3Gpp:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

W-CDMA ACLR 解析で、縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200～+100 dBm。

測定モード: SADL3G

使用例: 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:AC3Gpp:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:RANGe(?)

W-CDMA ACLR 解析で、縦軸（振幅）のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲：0～100 dB。

測定モード: SADL3G

使用例: 縦軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:AC3Gpp:Y:SCALe:RANGe 100

:DISPlay:UL3Gpp サブグループ

W-CDMA, オプション23 型のみ

:DISPlay:UL3Gpp コマンドでは、W-CDMA アップリンク解析の表示を設定します。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで DEMUL3G (W-CDMA アップリンク解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:UL3Gpp	
:AVIew	
:SHORtcode	<number>
:SRATe	R960S R480S R240S R120S R60S R30S R15S
:TSLot	<number>
:MVIew	
:COLor	
[:SCALe]	
:OFFSet	<amplitude>
:RANge	<relative_amplitude>
:FORMat	OFF CSGRam CPSHortcode CPSYmbol CPTSlot SCONste SVEctor SEVM SMERror SPERror SIEYe SQEYe STEYe STABle CONSTe VECTor
:RADix	BINary OCTal HEXadecimal
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANge	<numeric_value>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PUNit	RELative ABSolute
:RANge	<numeric_value>
:SVIew	
:COLor	
[:SCALe]	
:OFFSet	<amplitude>
:RANge	<relative_amplitude>

```

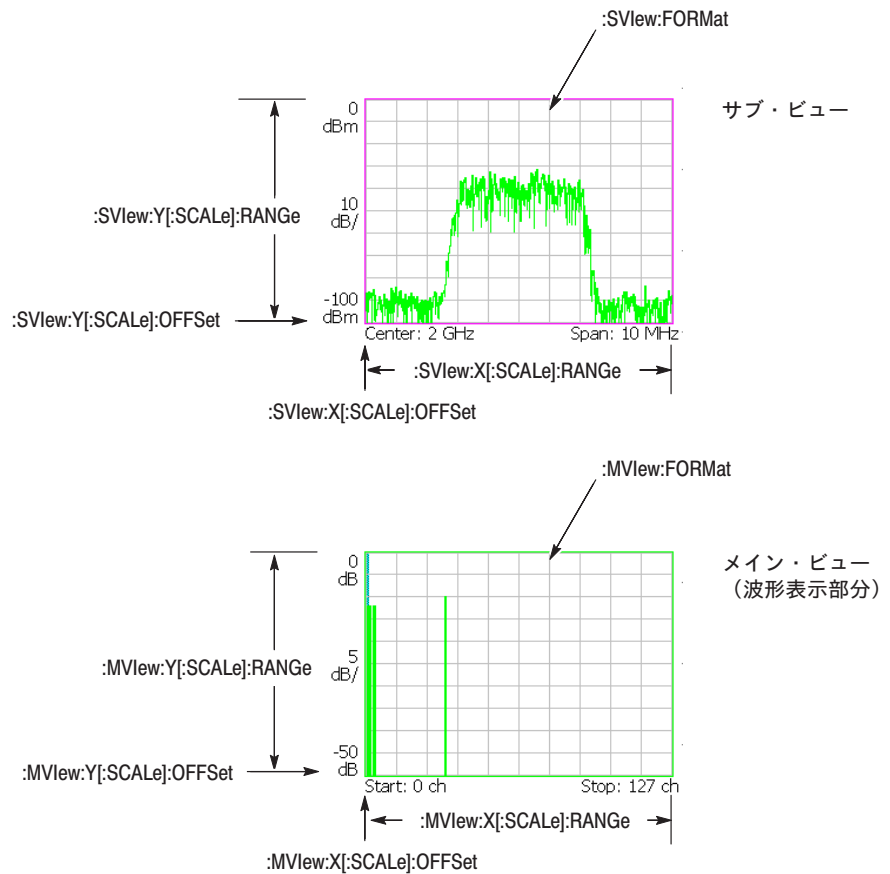
:FORMat          CSGRam | CPSHortcode | CPSYmbol | CPTSlot
                 | SCONste | SVEctor | SEVM | SMERror
                 | SPERror | SIEYe | SQEYe | STEYe
                 | STABle | CONSte | VECTor | SPECTrum

:RADix          BINary | OCTal | HEXadecimal

:X

[:SCALe]
:OFFSet        <numeric_value>
:RANGe         <numeric_value>

:Y
[:SCALe]
:FIT
:FULL
:OFFSet        <numeric_value>
:PUNit         RELative | ABSolute
:RANGe         <numeric_value>
    
```



注 : :DISPlay:UL3Gpp コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-17 : :DISPlay:UL3Gpp コマンドの設定

:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SHORtcode(?)

W-CDMA アップリンク解析で、表示するショート・コードを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SHORtcode <number>
:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SHORtcode?

引数: <number>::=<NR1> — 表示するショート・コードを設定します。
設定範囲: 0~511 チャンネル。

測定モード: DEMUL3G

使用例: 表示するショート・コードを 100 チャンネルに設定します。
:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SHORtcode 100

:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SRATe(?)

W-CDMA アップリンク解析で、表示するシンボル・レートを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SRATe { R960S | R480S | R240S | R120S | R60S
| R30S | R15S }
:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SRATe?

引数: 各引数は、下表に示したシンボル・レートに対応しています。

表 2-44: シンボル・レートの設定

引数	シンボル・レート
R960S	960k
R480S	480k
R240S	240k
R120S	120k
R60S	60k
R30S	30k
R15S	15k

注: 測定信号が PRACH の場合、R960S、R480S、および R240S は使用できません (2-869ページの [:SENSe]:UL3Gpp:MMODE コマンド参照)。

測定モード : DEMUL3G

使用例 : シンボル・レートを 960k に設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SRATe R960S

関連コマンド : [:SENSe]:UL3Gpp:MMODE

:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:TSLot(?)

W-CDMA アップリンク解析で、表示するタイム・スロットの番号を設定または問合せます。

構文 : :DISPlay:UL3Gpp:AVIew:TSLot <number>

:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:TSLot?

引数 : <number>::=<NRf> — 表示するタイム・スロットの番号を設定します。
設定範囲 : -15999~0。

測定モード : DEMUL3G

使用例 : 表示するタイム・スロットを -100 に設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:TSLot -100

:DISPlay:UL3Gpp:MView:COLor[:SCALE]:OFFSet(?)

W-CDMA アップリンク解析で、メイン・ビューがスペクトログラムのときに、色軸（振幅）の最小値を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:MView:COLor[:SCALE]:OFFSet <value>
:DISPlay:UL3Gpp:MView:COLor[:SCALE]:OFFSet?

引数： <value>::=<Nrf> — 色軸の最小値を設定します。設定範囲：-200～+100 dBm。

測定モード： DEMUL3G

使用例： メイン・ビューの色軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:COLor:SCALE:OFFSet -100

:DISPlay:UL3Gpp:MView:COLor[:SCALE]:RANGe(?)

W-CDMA アップリンク解析で、メイン・ビューがスペクトログラムのときに、色軸（振幅）のフルスケールを設定または問合せます。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:MView:COLor[:SCALE]:RANGe <value>
:DISPlay:UL3Gpp:MView:COLor[:SCALE]:RANGe?

引数： <value>::={ 10 | 20 | 50 | 100 } — 色軸のフルスケールを設定します。
単位 [dB]

測定モード： DEMUL3G

使用例： メイン・ビューの色軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:COLor:SCALE:RANGe 100

:DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat(?)

W-CDMA アップリンク解析でメイン・ビューの表示形式を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat { OFF | CSGRam | CPSHortcode | CPSYmbol
| CPTS1ot | SCONste | SVEctor | SEVM | SMERror | SPERror | SIEYe | SQEYe
| STEYe | STABle | CONSte | VECTor }

:DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-45: メイン・ビューの表示形式

引数	表示形式
OFF	波形を表示しません。
CSGRam	コード・ドメイン・パワー・スペクトログラム
CPSHortcode	コード・ドメイン・パワー vs. ショート・コード
CPSYmbol	コード・ドメイン・パワー vs. シンボル
CPTS1ot	コード・ドメイン・パワー vs. タイム・スロット
SCONste	シンボルのコンスタレーション
SVEctor	シンボルのベクトル
SEVM	シンボルの EVM
SMERror	シンボルの振幅誤差
SPERror	シンボルの位相誤差
SIEYe	シンボルのアイ・ダイアグラム (縦軸: I)
SQEYe	シンボルのアイ・ダイアグラム (縦軸: Q)
STEYe	シンボルのトレリス・ダイアグラム (縦軸: 位相)
STABle	シンボル・テーブル
CONSte	コンスタレーション
VECTor	ベクトル軌跡

測定モード: DEMUL3G

使用例: メイン・ビューにコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムを表示します。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat CSGRam

:DISPlay:UL3Gpp:MView:RADix(?)

W-CDMA アップリンク解析で、メイン・ビューのシンボルの基数を選択または問合せます。

注： このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMatコマンドで STABle（シンボルテーブル）を選択したときに有効です。シンボル・テーブル以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:MView:RADix { BINary | OCTal | HEXadecimal }

:DISPlay:UL3Gpp:MView:RADix?

引数： BINary — 2進数を選択します。

OCTal — 8進数を選択します。

HEXadecimal — 16進数を選択します。

測定モード： DEMUL3G

使用例： メイン・ビューのシンボルの基数を 2進数にします。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:RADix BINary

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:MView:X[:SCALe]:OFFSet(?)

W-CDMA アップリンク解析でメイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:MView:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:UL3Gpp:MView:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMUL3G

使用例: メイン・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、横軸の最小値を0チャンネルに設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:X:SCALe:OFFSet 0

:DISPlay:UL3Gpp:MView:X[:SCALe]:RANGe(?)

W-CDMA アップリンク解析でメイン・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:MView:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:UL3Gpp:MView:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMUL3G

使用例: メイン・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、横軸のフルスケールを512チャンネルに設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:X:SCALe:RANGe 512

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

W-CDMA アップリンク解析で、メイン・ビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

注： このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CPSHortcode, CPSYmbol, CPTS1ot, SEVM, SMERror, SPERror これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:FIT

引数： なし

測定モード： DEMUL3G

使用例： メイン・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y:SCALe:FIT

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

W-CDMA アップリンク解析でメイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

注： このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CPSHortcode, CPSYmbol, CPTS1ot, SEVM, SMERror, SPERror これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:FULL

引数： なし

測定モード： DEMUL3G

使用例： メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y:SCALe:FULL

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

W-CDMA アップリンク解析でメイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定または問合せます。

注 : このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です : CSGRam, CPHortcode, CPSYmbol, CPTSlot, SEVM, SMERror, SPERror
これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文 : :DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数 : <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード : DEMUL3G

使用例 : メイン・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、縦軸の下端をスロット0に設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y:SCALe:OFFSet 0

関連コマンド : :DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:PUNit(?)

W-CDMA アップリンク解析でメイン・ビューの Y 軸（電力）の単位を選択または問合せます。

注： このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CSGRam, CPSHortcode, CPSYmbol, CPTS1ot
これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:PUNit { RELative | ABSolute }

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y[:SCALe]:PUNit?

引数： RELative — Y 軸は、全チャンネルの総電力を基準とした相対電力 [dB] を表します。

ABSolute — Y 軸は、各チャンネルの絶対電力 [dBm] を表します。

測定モード： DEMUL3G

使用例： メイン・ビューの Y 軸を相対電力とします。

:DISPlay:UL3Gpp:MView:Y:SCALe:PUNit RELative

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:MView:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

W-CDMA アップリンク解析でメイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

注：このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CSGRam, CPSHortcode, CPSYmbol, CPTSlot, SEVM, SMERror, SPERror
これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数： <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード： DEMUL3G

使用例： メイン・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、縦軸のフルスケールを50スロットに設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y:SCALe:RANGe 50

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:MVIew:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet(?)

W-CDMA アップリンク解析で、サブ・ビューがスペクトログラムのときに、色軸（振幅）の最小値を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — 色軸の最小値を設定します。

測定モード: DEMUL3G

使用例: サブ・ビューの色軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe(?)

W-CDMA アップリンク解析で、サブ・ビューがスペクトログラムのときに、色軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe <value>
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — 色軸（振幅）のフルスケールを設定します。

測定モード: DEMUL3G

使用例: サブ・ビューの色軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor:SCALe:RANGe 100

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat(?)

W-CDMA アップリンク解析で、サブ・ビューの表示形式を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat { CSGRam | CPShortcode | CPSYmbol | CPTSlot
| SCOnste | SVEctor | SEVM | SMERror | SPERror | SIEYe | SQEYe | STEYe
| STABle | CONSte | VECTor | SPECTrum }

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-46: サブ・ビューの表示形式

引数	表示形式
CSGRam	コード・ドメイン・パワー・スペクトログラム
CPShortcode	コード・ドメイン・パワー vs. ショート・コード
CPSYmbol	コード・ドメイン・パワー vs. シンボル
CPTSlot	コード・ドメイン・パワー vs. タイム・スロット
SCOnste	シンボルのコンスタレーション
SVEctor	シンボルのベクトル
SEVM	シンボルの EVM
SMERror	シンボルの振幅誤差
SPERror	シンボルの位相誤差
SIEYe	シンボルのアイ・ダイアグラム (縦軸: I)
SQEYe	シンボルのアイ・ダイアグラム (縦軸: Q)
STEYe	シンボルのトレリス・ダイアグラム (縦軸: 位相)
STABle	シンボル・テーブル
CONSte	コンスタレーション
VECTor	ベクトル軌跡
SPECTrum	スペクトラム

測定モード: DEMUL3G

使用例: サブ・ビューにコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムを表示します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat CSGRam

関連コマンド: :DISPlay:UL3Gpp:MVIew:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:RADix(?)

W-CDMA アップリンク解析で、サブ・ビューのシンボル基数を選択または問合せます。

注： このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMatコマンドで STABle（シンボルテーブル）を選択したときに有効です。シンボル・テーブル以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:RADix { BINary | OCTal | HEXadecimal }

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:RADix?

引数： BINary — 2進数を選択します。

OCTal — 8進数を選択します。

HEXadecimal — 16進数を選択します。

測定モード： DEMUL3G

使用例： サブ・ビューのシンボルの基数を 2進数にします。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:RADix BINary

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet(?)

W-CDMA アップリンク解析でサブ・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMUL3G

使用例: サブ・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに横軸の最小値を0チャンネルに設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X:SCALe:OFFSet 0

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALe]:RANGe(?)

W-CDMA アップリンク解析で、サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMUL3G

使用例: サブ・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに横軸のフルスケールを512チャンネルに設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X:SCALe:RANGe 512

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

W-CDMA アップリンク解析で、サブ・ビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

注： このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CPSHortcode, CPSYmbol, CPTS1ot, SEVM, SMERror, SPERror
これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:FIT

引数： なし

測定モード： DEMUL3G

使用例： サブ・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y:SCALe:FIT

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

W-CDMA アップリンク解析でサブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

注： このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CPSHortcode, CPSYmbol, CPTS1ot, SEVM, SMERror, SPERror
これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:FULL

引数： なし

測定モード： DEMUL3G

使用例： サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

W-CDMA アップリンク解析でサブ・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

注：このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CSGRam, CPSHortcode, CPSYmbol, CPTSlot, SEVM, SMERror, SPERror
これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <value>::=<NRf> — サブ・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード： DEMUL3G

使用例： サブ・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのとき、縦軸の下端をスロット0に設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y:SCALe:OFFSet 0

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:PUNit(?)

W-CDMA アップリンク解析で、サブ・ビューの Y 軸（電力）の単位を選択または問合せます。

注： このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CSGRam, CPSHortcode, CPSYmbol, CPTSlot
これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:PUNit { RELative | ABSolute }

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:PUNit?

引数： RELative — Y 軸は、全チャンネルの総電力を基準とした相対電力 [dB] を表します。

ABSolute — Y 軸は、各チャンネルの絶対電力 [dBm] を表します。

測定モード： DEMUL3G

使用例： サブ・ビューの Y 軸を相対電力とします。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y:SCALe:PUNit RELative

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

W-CDMA アップリンク解析で、サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

注：このコマンドは、:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：CSGRam, CPSHortcode, CPSYmbol, CPTSlot, SEVM, SMERror, SPERror
これら以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数： <value>::=<NRf> — サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード： DEMUL3G

使用例： サブ・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのとき、縦軸のフルスケールを50スロットに設定します。

:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y:SCALe:RANGe 50

関連コマンド： :DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod サブグループ GSM/EDGE, オプション24 型のみ

:DISPlay:GSMedge:DDEMod コマンドでは、GSM/EDGE 変調解析のメイン・ビューとサブ・ビューの表示をコントロールします。

注： このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMGSMEDGE を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:GSMedge	
:DDEMod	
:MView	
:FILTer	
:EIINVerse	<boolean>
:FORMat	CONStE VECTor EVM MERRor PERRor OFF
:STIME	SYMBol ISYMBol
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:SVIew	
:FILTer	
:EIINVerse	<boolean>
:FORMat	IQVTime SPECTrum CONStE VECTor EVM MERRor PERRor IEYE QEYE TEYE STABle
:STIME	SYMBol ISYMBol
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FILTer:EINVerse(?)

GSM/EDGE 変調解析で、メイン・ビューがコンスタレーション表示、変調方式が EDGE のときに、逆フィルタを有効にするかどうかを選択または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat で CONStE を選択し、[:SENSe]:GSMedge:MODulation で EDGE を選択している場合に有効です。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FILTer:EINVerse { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FILTer:EINVerse?

引数: OFF または 0 — EDGE の逆フィルタを無効にします。

ON または 1 — EDGE の逆フィルタを有効にします。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: メイン・ビューで EDGE の逆フィルタを有効にします。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FILTer:EINVerse ON

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat, [:SENSe]:GSMedge:MODulation

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat(?)

GSM/EDGE 変調解析で、メイン・ビューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat { CONSte | VECTor | EVM | MERRor
| PERRor | OFF }

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-47: メイン・ビューの表示形式

引数	表示形式
CONSte	コンスタレーション
VECTor	ベクトル
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差
OFF	表示をオフにします。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: メイン・ビューにコンスタレーションを表示します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat CONSte

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVlew:STIME(?)

GSM/EDGE 変調解析のコンスタレーション表示で、変調方式が EDGE のときに、スライス・タイムを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVlew:EINVerse が OFF、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVlew:FORMat が CONSte、かつ [:SENSe]:GSMedge:MODulation が EDGE の設定のときに有効です。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVlew:STIME { SYMBo1 | ISYMbo1 }

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVlew:STIME?

引数: SYMBo1 — シンボルの位置に赤色の点を表示します (デフォルト)。

ISYMbo1 — シンボルとシンボルの中間の位置に赤色の点を表示します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: コンスタレーション表示で、シンボルの位置に赤色の点を表示します

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVlew:STIME SYMBo1

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVlew:EINVerse,
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVlew:FORMat, [:SENSe]:GSMedge:MODulation

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:X[:SCALE]:OFFSet(?)

GSM/EDGE 変調解析で、メイン・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:X[:SCALE]:OFFSet <value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:X[:SCALE]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: メイン・ビューに EVM を表示したときに、横軸の最小値を -20ms に設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:X:SCALE:OFFSet -20ms

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:X[:SCALE]:RANGe(?)

GSM/EDGE 変調解析で、メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:X[:SCALE]:RANGe <value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:X[:SCALE]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: メイン・ビューに EVM を表示したとき、横軸のフルスケールを 50 μ s に設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:X:SCALE:RANGe 50us

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FIT (問合せなし)

GSM/EDGE 変調解析で、メイン・ビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：EVM, MERRor, PERRor

構文： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FIT

引数： なし

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： メイン・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y:SCALE:FIT

関連コマンド： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FULL (問合せなし)

GSM/EDGE 変調解析でメイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：EVM, MERRor, PERRor

構文： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FULL

引数： なし

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y:SCALE:FULL

関連コマンド： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

GSM/EDGE 変調解析で、メイン・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：EVM, MERRor, PERRor

構文： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： メイン・ビューに EVM を表示したとき、縦軸の最小値を 10% に設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y:SCALe:OFFSet 10pct

関連コマンド： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe(?)

GSM/EDGE 変調解析で、メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：EVM, MERRor, PERRor

構文： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y[:SCALe]:RANGe?

引数： <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： メイン・ビューに EVM を表示したときに、縦軸のフルスケールを 50% に設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:Y:SCALe:RANGe 50pct

関連コマンド： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FILTer:EINVerse(?)

GSM/EDGE 変調解析で、サブ・ビューがコンスタレーション表示、変調方式が EDGE のときに、逆フィルタを有効にするかどうかを選択または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat で CONStE を選択し、[:SENSe]:GSMedge:MODulation で EDGE を選択している場合に有効です。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FILTer:EINVerse { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FILTer:EINVerse?

引数: OFF または 0 — EDGE の逆フィルタを無効にします (デフォルト)。

ON または 1 — EDGE の逆フィルタを有効にします。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: サブ・ビューで EDGE の逆フィルタを有効にします。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FILTer:EINVerse ON

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat, [:SENSe]:GSMedge:MODulation

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat(?)

GSM/EDGE 変調解析で、サブ・ビューの表示形式を選択または問合せます。

このコマンドは、測定項目が変調確度 (MACCuracy)、平均キャリア電力 (MCPower)、モジュレーション・スペクトラム (MODulation) または電力対時間 (PVTime) のときに有効です。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat { IQVTime | SPEctrum | CONSte
| VECTor | EVM | MERRor | PERRor | IEYE | QEYE | TEYE | STABle }

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-48: サブ・ビューの表示形式

引数	表示形式
IQVTime	IQ レベル vs. 時間
SPEctrum	スペクトラム表示
CONSte	コンスタレーション
VECTor	ベクトル
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差
IEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: I データ)
QEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: Q データ)
TEYE	アイ・ダイアグラム (縦軸: 位相)
STABle	シンボル・テーブル

注: 測定項目がスイッチング・スペクトラム (SWITching) のときには、表示形式は SPEctrum 固定です。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: サブ・ビューにコンスタレーションを表示します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat CONSte

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVIew:FORMat, [:SENSe]:GSMedge:MEASurement

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:STIME(?)

GSM/EDGE 変調解析のコンスタレーション表示で、変調方式が EDGE のときに、スライス・タイムを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:EINVerse が OFF、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat が CONSTe、かつ [:SENSe]:GSMedge:MODulation が EDGE の設定のときに有効です。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:STIME { SYMBo1 | ISYMbo1 }

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:STIME?

引数: SYMBo1 — シンボルの位置に赤色の点を表示します（デフォルト）。

ISYMbo1 — シンボルとシンボルの中間の位置に赤色の点を表示します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: コンスタレーション表示で、シンボルの位置に赤色の点を表示します

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:STIME SYMBo1

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:EINVerse,
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat, [:SENSe]:GSMedge:MODulation

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet(?)

GSM/EDGE 変調解析で、サブ・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet <value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: サブ・ビューにコンスタレーションを表示したとき、横軸の最大値を -2.5 に設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X:SCALE:OFFSet -2.5

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe(?)

GSM/EDGE 変調解析で、サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe <value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: サブ・ビューにコンスタレーションを表示したとき、横軸のフルスケールを 2.5 に設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X:SCALE:RANGe 2.5

関連コマンド: :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FIT (問合せなし)

GSM/EDGE 変調解析で、サブ・ビューのオートスケールを実行します。
オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：IQVTime, FVTime, EVM, MERRor, PERRor

構文： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FIT

引数： なし

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： サブ・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y:SCALE:FIT

関連コマンド： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FULL (問合せなし)

GSM/EDGE 変調解析で、サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：IQVTime, FVTime, EVM, MERRor, PERRor

構文： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FULL

引数： なし

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： サブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y:SCALE:FULL

関連コマンド： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

GSM/EDGE 変調解析で、サブ・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：IQTime, FVTime, EVM, MERRor, PERRor

構文： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <value>::=<NRf> — サブ・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： サブ・ビューに EVM を表示したときに、縦軸の最小値を 10% に設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:OFFSet 10pct

関連コマンド： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

GSM/EDGE 変調解析で、サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat の設定が次のいずれかの場合に有効です：IQTime, FVTime, EVM, MERRor, PERRor

構文： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数： <value>::=<NRf> — サブ・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： サブ・ビューに EVM を表示したとき、縦軸のフルスケールを 50% に設定します。

:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:RANGe 50pct

関連コマンド： :DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum サブグループ

GSM/EDGE, オプション24 型のみ

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum コマンドでは、GSM/EDGE 解析でスペクトラム表示を設定します。測定項目がモジュレーション・スペクトラム、スイッチング・スペクトラム、およびスプリアス測定のために使用します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:GSMedge	
:SPECTrum	
:BMARker	
:STATe	<boolean>
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<frequency>
:PDIVsion	<frequency>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVsion	<amplitude>

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを GSM/EDGE に設定します。

```
:INSTrument[:SElect] "DEMGSMEDGE"
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行し、モジュレーション・スペクトラム、スイッチング・スペクトラム、またはスプリアス測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合

```
:CONFIgure:GSMedge:MODulation
:CONFIgure:GSMedge:SWITching または
:CONFIgure:GSMedge:SPURious
```

- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合

```
[:SENSe]:GSMedge:MEASurement { MODulation | SWITching
| SPURious }
```

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:BMARker:STATe(?)

測定項目がスプリアス (SPURious) のときに、スプリアス・マーカを表示するかしないかを選択します。

構文: :DISPlay:GSMedge:SPECTrum:BMARker:STATe { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:BMARker:STATe?

引数: OFF または 0 – スプリアス・マーカを表示しません。

ON または 1 – スプリアス・マーカを表示します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スプリアス測定でスプリアス・マーカを表示します。

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:BMARker:STATe ON

関連コマンド: [:SENSe]:GSMedge:MEASurement

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet <freq>

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、[:SENSe]:FREQuency:BAND の測定周波数帯の設定によります。
(表2-83)

表 2-49: X オフセット設定範囲

周波数帯	設定範囲
BAS	DC~20MHz
RF1B	15MHz~3.5GHz
RF2B	3.5~6.5GHz
RF3B	5~8GH

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X:SCALE:OFFSet 100MHz

関連コマンド: [:SENSe]:FREQuency:BAND

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の横軸（周波数）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision <freq>

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の 1目盛りの値を設定します。
設定範囲: 5Hz~2MHz (ベースバンド)、5Hz~300MHz (RF)

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 横軸のスケールを 100kHz/div に設定します。

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X:SCALE:PDIVision 100.0E+3

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT (問合せなし)

スペクトラム表示で、オートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スペクトラム表示のオートスケールを実行します。

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y:SCALE:FIT

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL (問合せなし)

スペクトラム表示で、縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スペクトラム表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y:SCALE:FULL

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet(?)

縦軸（振幅）の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet?

引数： <amp1>::=<Nrf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200～+100 dBm。

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y:SCALE:OFFSet -100

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の縦軸（振幅）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision <amp1>

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision?

引数： <freq>::=<Nrf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0～10 dB/div。

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： 縦軸の1目盛りの値を 10dB に設定します。

:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y:SCALE:PDIVision 10

:DISPlay:GSMedge:WAVeform サブグループ GSM/EDGE, オプション24 型のみ

:DISPlay:GSMedge:WAVeform コマンドでは、GSM/EDGE 解析で、時間領域表示を設定します。測定項目が平均キャリア電力と電力対時間のときに使用します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:GSMedge	
:WAVeform	
:BURSt	FULL REDGe FEDGe
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIvSion	<numeric_value>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIvSion	<numeric_value>

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを GSM/EDGE に設定します。

```
:INSTRument[:SElect] "DEMGSMEDGE"
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行して、平均キャリア電力または電力対時間測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合

```
:CONFIgure:GSMedge:MCPower または
:CONFIgure:GSMedge:PVTime
```

- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合

```
[:SENSe]:GSMedge:MEASurement { MCPower | PVTime }
```

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:BURSt(?)

電力対時間 (PVTime) 測定で、バーストの拡大表示を選択または問合せます。

このコマンドは、表示データが存在するときだけ実行されます。

構文: :DISPlay:GSMedge:WAVeform:BURSt { FULL | REDGe | FEDGe }

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:BURSt?

引数: FULL — バースト全体を表示します。

REDGe — 波形の立ち上がりエッジを拡大表示します。

FEDGe — 波形の立ち下がりエッジを拡大表示します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 波形の立ち上がりエッジを拡大表示します。

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:BURSt REDGe

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の横軸（時間）の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <time>
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <time>::=<Nrf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 横軸の最小値を $-100\mu\text{s}$ に設定します。

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100us

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision <time>
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <time>::=<Nrf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、付録Dの表D-1を参照してください。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 横軸のスケールを $10\mu\text{s}/\text{div}$ に設定します。

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:X:SCALe:PDIVision 10us

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

時間領域表示のオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: オートスケールを実行します。

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

時間領域表示の縦軸の最小値 (下端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <amp1>
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <amp1>::=<Nrf> — 縦軸 (振幅) の最小値を設定します。
設定範囲については、付録D の表D-1 を参照してください。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision <amp1>
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <amp1>::=<Nrf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、付録D の表D-1 を参照してください。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 縦軸のスケールを 10dB/div に設定します。

:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF サブグループ

cdma2000, オプション25 型

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF コマンドでは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定の表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPlay
  : FLCDMA2K|:RLCDMA2K
    :CCDF
      :LINE
        :GAUSSian
          [:STATE] <boolean>
        :REFERence
          [:STATE] <boolean>
      :X
        [:SCALE]
          :AUTO <boolean>
          :MAXimum <relative_amplitude>
          :OFFSet <relative_amplitude>
      :Y
        [:SCALE]
          :FIT
          :FULL
          :MAXimum <percent>
          :MINimum <percent>
```


:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューにガウス曲線を表示するかどうかを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe] { OFF | ON
| 0 | 1 }

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]?

引数: OFF または 0 — ガウス曲線を表示しません。

ON または 1 — ガウス曲線を表示します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューにガウシアン・ラインを表示します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:LINE:GAUSSian ON

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:REFerence[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析の CCDF ビューで基準線を表示するかどうかを選択または問合せます。

基準線は、:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:REFerence::STORE コマンドで保存します。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:REFerence[:STATe] { OFF | ON
| 0 | 1 }

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:REFerence[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 基準線を表示しません。

ON または 1 — 基準線を表示します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF ビューに基準線を表示します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:LINE:REFerence ON

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:REFerence:STORE

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:REFeRence:STORe

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、現在の CCDF 波形を新しい基準線として保存し、表示します。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:REFeRence:STORe

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、現在の CCDF 波形を新しい基準線として保存し、表示します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:LINE:REFeRence:STORe

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:LINE:REFeRence[:STATe]

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALe]:AUTO(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 表示の横軸（電力）スケールを自動設定するかどうか選択します。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALe]:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALe]:AUTO?

引数: OFF または 0 — 横軸のスケールを手動で設定します。
下記の :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum および :OFFSet コマンドで設定してください。

ON または 1 — 横軸のスケールを自動で設定します（デフォルト）。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF ビューの水平軸スケールを自動設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:X:SCALe:AUTO ON

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum
:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALE]:MAXimum(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 表示の横軸（電力）の最大値（右端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALE]:MAXimum <rel_amp1>
:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALE]:MAXimum?

引数: <rel_amp1>::=<NRf> — 横軸の最大値を設定します。設定範囲：0 ~ 15.01 dB。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF ビューの横軸最大値を 15 dB に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:X:SCALE:MAXimum 15dB

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALE]:AUTO

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALE]:OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューの横軸の開始値を設定または問い合わせます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALE]:OFFSet <numeric_value>
:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALE]:OFFSet?

引数: <numeric_value>::=<numeric_value> — 横軸の開始値を設定します。
設定範囲：0 ~ 15.01 dB

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF ビューの横軸の開始値を 10 dB に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:X:SCALE:OFFSet 10dB

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:X[:SCALE]:AUTO

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALe]:FIT

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析のCCDFビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000フォワード・リンク解析で、CCDFビューでオートスケールを実行します。
:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALe]:FULL

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDFビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000フォワード・リンク解析で、CCDFビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALE]:MAXimum(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューの縦軸の最大値（上端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALE]:MAXimum <value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALE]:MAXimum?

引数: <value>::=<Nrf> — 縦軸の最大値を設定します。設定範囲：10 E-9 ~ 100%

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000フォワード・リンク解析で、CCDF ビューの縦軸の最大値を 90% に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:Y:SCALE:MAXimum 90PCT

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALE]:MINimum(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALE]:MINimum <numeric_value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF:Y[:SCALE]:MINimum?

引数: <numeric_value>::=<Nrf> — 縦軸の最小値を設定します。
設定範囲：10 E-9 ~ 100%

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000フォワード・リンク解析で、CCDF ビューの縦軸の最小値を 20% に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:CCDF:Y:SCALE:MINimum 20PCT

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod サブグループ

cdma2000, オプション25 型

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod コマンドは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、デジタル変調信号解析のメイン・ビューとサブ・ビューの表示をコントロールします。

コマンド一覧

```

:DISPlay
  :FLCDMA2K|:RLCDMA2K
    :DDEMod
      :MVIew
        :CORDEr          HADamard|BREVerse
        :FORMat          CDPower|MACCuracy|EVM|MERRor|
                        PERRor|PCGRam|STABle|IQPower
      :X
        [:SCALe]
          :OFFSet        <numeric_value>
          :RANGe         <numeric_value>
      :Y
        [:SCALe]
          :FIT
          :FULL
          :OFFSet        <numeric_value>
          :PUNIT         RELative|ABSolute
          :RANGe         <numeric_value>
      :SVIew
        :FORMat          SPECTrum|IQPower|CONSte|EVM|
                        MERRor|PERRor
      :X
        [:SCALe]
          :OFFSet        <numeric_value>
          :RANGe         <numeric_value>
      :Y
        [:SCALe]
          :FIT
          :FULL
          :OFFSet        <numeric_value>
          :RANGe         <numeric_value>

```

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:CORDer(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析でメイン・ビューのコードオーダを設定または問合せます。このコマンドは、コード・ドメイン・パワー測定が選択され、:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:FORMat コマンドが CDPower または PCGram に設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:CORDer { HADamard | BREVerse }

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:CORDer?

引数: HADamard — ハダマード・コード・オーダを指定します。

BREVerse — ビット・リバースを指定します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクのコード・ドメイン・パワー測定で、ハダマード・コードオーダを選択します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MVlew:CORDer HADamard

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:FORMat(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析でメイン・ビューの表示形式を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:FORMat { CDPower | MACCuracy | EVM | MERRor | PERRor | PCGRam | STABle | IQPower }

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:FORMat?

引数: 引数と表示フォーマットの関係は、次のとおりです。

表 2-50: メイン・ビューの表示形式

引数	表示形式
CDPower	コード・ドメイン・パワー
MACCuracy	変調確度
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差
PCGRam	パワー・コードグラム
STABle	シンボル・テーブル
IQPower	IQ パワー・グラフ

注: 引数 CDPower、PCGram、および IQPower は、[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MEASurement コマンドを CDPower に設定しているときだけ有効です。また、引数 MACCuracy、EVM、MERRor、PERRor、および STABle は、[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MEASurement コマンドを MACCuracy に設定しているときだけ有効です。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定を選択します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MView:FORMat CDPower

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:FORMat
[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MEASurement

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:X[:SCALE] :OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:X[:SCALE]:OFFSet <numeric_value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:X[:SCALE]:OFFSet?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-6 を参照してください。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、メイン・ビューに EVM が表示されているときの横軸の最小値を 10 chip に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MView:X:SCALE:OFFSet 10

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:X[:SCALE] :RANGe(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの横軸フルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:X[:SCALE]:RANGe <numeric_value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:X[:SCALE]:RANGe?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸フルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-6 を参照してください。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、メイン・ビューに EVM が表示されているときの横軸フルスケールを 512 chip に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MView:X:SCALE:RANGe 512

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE]

:FIT (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析のメイン・ビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク変調解析のメイン・ビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y:SCALE:FIT

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE]

:FULL (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクの変調解析で、メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y:SCALE:FULL

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe] :OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-6 を参照してください。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、メイン・ビューに EVM が表示されているときの縦軸の最小値を 10% に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MVIew:Y:SCALe:OFFSet 10PCT

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE] :PUNit(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸 (電力) 単位を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE]:PUNit
{RELative|ABSolute}

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y[:SCALE]:PUNit?

引数: RELative 総電力に対する相対チャンネル電力 (dB) を表します。
ABSolute 各チャンネルの絶対電力 (dBm) を表します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、メイン・ビューの縦軸の単位を絶対電力 (dBm) に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MVlew:Y:SCALE:PUNit ABSolute

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:Y[:SCALE] :RANGe(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸フルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:RANGe <value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの縦軸フルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-6 を参照してください。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、メイン・ビューに EVM が表示されているときの縦軸フルスケールを 10% に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:MView:Y:SCALE:RANGe 10PCT

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、サブビューの表示形式を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat { SPECTrum | IQPower
| CONSte | EVM | MERRor | PERRor }

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat?

引数: 引数と表示フォーマットの関係は、次のとおりです。

表 2-51: サブビューの表示形式

引数	表示形式
SPECTrum	スペクトラム
IQPower	IQ パワー・グラフ
CONSte	コンスタレーション
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差

注: 引数の IQPower は、[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MEASurement コマンドを CDPower または MACCuracy に設定しているときだけ有効です。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、サブビューにスペクトラムを表示します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat SPECTrum

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:FORMat
[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MEASurement

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:X[:SCALE] :OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調解析で、サブビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet <value>

 :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-6 を参照してください。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、サブビューに EVM が表示されているときの横軸の最小値を 10 chip に設定します。

 :DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:SVIew:X:SCALE:OFFSet 10

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:X[:SCALE] :RANGe(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、サブビューの横軸フルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe <value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:X[:SCALE]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブビューの横軸フルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-6 を参照してください。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、サブビューに EVM が表示されているときの横軸フルスケールを 512 chip に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:SVIew:X:SCALE:RANGe 512

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]**:FIT** (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析時に、サブビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク変調解析のサブビューで、オートスケールを実行します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y:SCALE:FIT

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]**:FULL** (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析時に、サブビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク変調解析で、サブビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y:SCALE:FULL

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe] :OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析時に、サブビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — サブビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-6 を参照してください。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、サブビューに EVM が表示されているときの縦軸の最小値を 10% に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:OFFSet 10PCT

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe] :RANGe(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、サブビューの縦軸フルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの縦軸フルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-6 を参照してください。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、サブビューに EVM が表示されているときの縦軸フルスケールを 10% に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:RANGe 10PCT

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum サブグループ

cdma2000, オプション25 型

:DISPLay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum コマンドは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析のチャンネル電力測定、相互変調測定、スペクトラムエミッション・マスク測定、および OBW (占有帯域幅) 測定でスペクトラム表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPlay
  :FLCDMA2K|:RLCDMA2K
    :SPECTrum
      :X
        [:SCALE]
          :OFFSet      <numeric_value>
          :PDIVsion    <numeric_value>
      :Y
        [:SCALE]
          :FIT
          :FULL
          :OFFSet      <numeric_value>
          :PDIVsion    <numeric_value>
```

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet <numeric_value>
:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <numeric_value>::=<Nrf> — スペクトラム・ビューの横軸の最小値を設定します。設定範囲は [:SENSe]:FREQuency:BAND コマンドの測定周波数帯の設定によります。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの横軸の最小値を 100 MHz に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:SPECTrum:X:SCALe:OFFSet 100MHz

関連コマンド: [:SENSe]:FREQuency:BAND

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIvision(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの横軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIvision <numeric_value>
:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIvision?

引数: <numeric_value>::=<Nrf> — スペクトラム・ビューの横軸スケールを設定します。設定範囲は [:SENSe]:FREQuency:BAND コマンドの測定周波数帯の設定によります。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの横軸スケールを 100 kHz/div に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:SPECTrum:X:SCALe:PDIvision 100kHz

関連コマンド: [:SENSe]:FREQuency:BAND

:DISPlay:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SPECtrum:Y[:SCALE]

:FIT (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析時、スペクトラム・ビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SPECtrum:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析時、スペクトラム・ビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FLCDMA2K:SPECtrum:Y:SCALE:FIT

:DISPlay:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SPECtrum:Y[:SCALE]

:FULL (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SPECtrum:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:SPECtrum:Y:SCALE:FULL

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200 dBm ~ 100 dBm

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの縦軸の最小値を -100 dBm に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:SPECTrum:Y:SCALe:OFFSet -100dBm

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:Y[:SCALe]

:PDIVision(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの縦軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<Nrf> — スペクトラム・ビューの横軸スケールを設定します。設定範囲：0 ~ 10 dB/div

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの縦軸スケールを 10 dB/div に設定します。

:DISPlay:FLCDMA2K:SPECTrum:Y:SCALe:PDIVision 10dB

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform サブグループ

cdma2000, オプション25 型

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform コマンドでは、cdma2000 リバース・リンク解析のゲーテッド・アウトプット・パワー測定で時間領域表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPlay
  :RLCDMA2K
    :WAVeform
      :X
        [:SCALe]
          :OFFSet <numeric_value>
          :PDIVsion <numeric_value>
      :Y
        [:SCALe]
          :FIT
          :FULL
          :OFFSet <numeric_value>
          :PDIVsion <numeric_value>
```

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet(?)

cdma2000 リバース・リンク解析で、時間領域表示の横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲：約 $-416.67\ \mu\text{s}$ ~ 約 $415\ \mu\text{s}$ (スパンの設定により時間軸の分解能が変わるため、上限値および下限値はその分解能の倍数で一番近い値になります)

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、時間領域表示の横軸の最小値を $100\ \mu\text{s}$ に設定します。

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100us

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision(?)

cdma2000 リバース・リンク解析で時間領域表示の横軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<NRf> — 横軸スケールを設定します。
設定範囲：約 $-0.1627\ \mu\text{s}$ ~ 約 $833.33\ \mu\text{s}$ (スパンの設定により時間軸の分解能が変わるため上限値および下限値はその分解能の倍数で一番近い値になります)

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、スペクトラム・ビューの横軸スケールを $10\ \mu\text{s}/\text{div}$ に設定します。

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:X:SCALe:PDIVision 10us

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

cdma2000 リバース・リンク解析の時間領域表示でオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、時間領域表示でオートスケールを実行します。

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

cdma2000 リバース・リンク解析で時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

cdma2000 リバースまたはリバース・リンク解析で、時間領域表示の縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数： <value>::=<Nrf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：-200 ~ 100 dBm

測定モード： DEMRLCDMA2K

使用例： cdma2000 リバース・リンク解析で、時間領域表示の縦軸の最小値を -100 dBm に設定します。

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100dBm

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

cdma2000 リバースまたはリバース・リンク解析で、時間領域表示の縦軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数： <value>::=<Nrf> — 縦軸スケールを設定します。設定範囲：1.0 E-5 ~ 10 dB

測定モード： DEMRLCDMA2K

使用例： cdma2000 リバース・リンク解析で時間領域表示の縦軸スケールを 10 dB/div に設定します。

:DISPlay:RLCDMA2K:WAVeform:Y:SCALe:PDIVision 10dB

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF サブグループ

1xEV-DO, オプション26 型

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF コマンドは 1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で CCDF 測定の表示をコントロールします。

コマンド一覧

```

:DISPlay
  : FL1XEVD0|:RL1XEVD0
    :CCDF
      :LINE
        :GAUSSian
          [:STATe] <boolean>
        :REFerence
          [:STATe] <boolean>
      :X
        [:SCALe]
          :AUTO <boolean>
          :MAXimum <relative_amplitude>
          :OFFSet <relative_amplitude>
      :Y
        [:SCALe]
          :FIT
          :FULL
          :MAXimum <percent>
          :MINimum <percent>

```

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューにガウス曲線を表示するかどうかを決めます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe] { OFF | ON
| 0 | 1 }

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]?

引数: OFF または 0 — ガウス曲線を表示しません。

ON または 1 — ガウス曲線を表示します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF ビューにガウス曲線を表示します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:LINE:GAUSSian ON

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューに基準線を表示するかどうかを選択または問合せます。基準線は、:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence:STORe コマンドで保存します。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence[:STATe] { OFF | ON
| 0 | 1 }

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 基準線を表示しません。

ON または 1 — 基準線を表示します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF ビューに基準線を表示します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence ON

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence:STORe

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence :STORe (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、現在の CCDF 波形を新しい基準線として保存し、表示します。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence:STORe

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、現在の CCDF 波形を新しい基準線として保存し、表示します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence:STORe

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:LINE:REFerence[:STATe]

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:AUTO(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューの横軸（電力）スケールを自動設定するかどうか選択します。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:AUTO { ON | OFF | 1 | 0 }

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:AUTO?

引数: OFF または 0 — 横軸のスケールを手動で設定します。下記の :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum および :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet コマンドで設定してください。

ON または 1 — 横軸のスケールを自動で設定します（デフォルト）。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF ビューの横軸スケールを自動設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:X:SCALe:AUTO ON

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で CCDF ビューの横軸（電力）スケールの最大値を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum <rel_amp1>
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum?

引数: <rel_amp1>::=<NRf> — 横軸の最大値を設定します。設定範囲：0 ~ 15.01 dB。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF ビューの横軸の最大値を 15 dB に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:X:SCALe:MAXimum 15dB

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:AUTO

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で CCDF ビューの横軸の開始値を設定または問い合わせます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet <rel_amp1>
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <rel_amp1>::=<NRf> — 横軸の開始値を設定します。設定範囲：0 ~ 15.01 dB。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF ビューの横軸の開始値を 10 dB に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:X:SCALe:OFFSet 10dB

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:X[:SCALe]:AUTO

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALE]:FIT (問合せなし)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析のCCDFビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析時、CCDFビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:Y:SCALE:FIT

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALE]:FULL (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でCCDFビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンクの解析で、CCDFビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:Y:SCALE:FULL

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューの横軸の最大値（上端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum <value>
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum?

引数: <value>::=<Nrf> — 横軸の最大値を設定します。設定範囲：10 E-9 ~ 100%

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、CCDF ビューの横軸の最大値を90% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:Y:SCALe:MAXimum 90PCT

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum <value>
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum?

引数: <value>::=<Nrf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲：10 E-9 ~ 100%

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF ビューの縦軸の最小値を20% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:CCDF:Y:SCALe:MINimum 20PCT

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod サブグループ

1xEV-DO, オプション26 型

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析でメイン・ビューとサブ・ビューの表示をコントロールします。

コマンド一覧

```

:DISPlay
  :FL1XEVD0|:RL1XEVD0
    :DDEMod
      :MVIew
        :CORDER          HADamard|BREVerse
        :FORMat          CDPower|MACCuracy|EVM|MERRor|
                        PERRor|PCGRam|STABle|IQPower
      :X
        [:SCALE]
          :OFFSet        <numeric_value>
          :RANGe         <numeric_value>
      :Y
        [:SCALE]
          :FIT
          :FULL
          :OFFSet        <numeric_value>
          :PUNIT         RELative|ABSolute
          :RANGe         <numeric_value>
      :SVIew
        :FORMat          SPECTrum|IQPower|CONStE|EVM|
                        MERRor|PERRor
      :X
        [:SCALE]
          :OFFSet        <numeric_value>
          :RANGe         <numeric_value>
      :Y
        [:SCALE]
          :FIT
          :FULL
          :OFFSet        <numeric_value>
          :RANGe         <numeric_value>

```

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:CORDer(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析でメイン・ビューのコードオーダを設定または問合せます。このコマンドは、コード・ドメイン・パワー測定が選択され、:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:FORMat コマンドが CDPower または PCGram に設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:CORDer { HADamard | BREVerse }

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:CORDer?

引数: HADamard ハダマード・コード・オーダを指定します。
BREVerse ビット・リバースを指定します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンクのコード・ドメイン・パワー測定でハダマード・コード・オーダを選択します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVIew:CORDer HADamard

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:FORMat(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの表示フォーマットを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:FORMat { CDPower | MACCuracy | EVM | MERRor | PERRor | PCGRam | STABle | IQPower }

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:FORMat?

引数: 引数と表示フォーマットの関係は、次のとおりです。

表 2-52: メイン・ビューの表示形式

引数	表示形式
CDPower	コード・ドメイン・パワー
MACCuracy	変調確度
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差
PCGRam	パワー・コードグラム
STABle	シンボル・テーブル
IQPower	IQ パワー・グラフ

注: 引数 CDPower、PCGRam、および IQPower は、[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MEASurement コマンドを CDPower に設定しているときだけ有効です。また、引数 MACCuracy、EVM、MERRor、PERRor、および STABle は、[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MEASurement コマンドを MACCuracy に設定しているときだけ有効です。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定を選択します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MView:FORMat CDPower

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:FORMat
[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MEASurement

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:X[:SCALe] :OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、メイン・ビューに EVM が表示されているとき、横軸の最小値を 10 chip に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVlew:X:SCALe:OFFSet 10

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:X[:SCALe] :RANGe(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの横軸フルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸フルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、メイン・ビューに EVM が表示されているとき、横軸フルスケールを 512 chip に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVlew:X:SCALe:RANGe 512

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:Y[:SCALE]**:FIT** (問合せなし)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク変調解析時、メイン・ビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod/MVIew:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク変調解析時に、メイン・ビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MView:Y:SCALE:FIT

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:Y[:SCALE]**:FULL** (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MView:Y:SCALE:FULL

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MView:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe] :OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、メイン・ビューに EVM が表示されているときの縦軸の最小値を 10% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:OFFSet 10PCT

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE] :PUNit(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸（電力）の単位を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit
{ RELative | ABSolute }

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit?

引数: RELative 総電力に対する相対チャンネル電力 (dB) を表します。
ABSolute 各チャンネルの絶対電力 (dBm) を表します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、メイン・ビューの縦軸単位を絶対電力 (dBm) に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVIew:Y:SCALE:PUNit ABSolute

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe] :RANGe(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、メイン・ビューの縦軸フルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:RANGe <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸フルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、メイン・ビューに EVM が表示されているときの縦軸フルスケールを 10% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:RANGe 10PCT

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVlew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、サブビューの表示形式を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat { SPECTrum | IQPower
| CONSte | EVM | MERRor | PERRor }

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat?

引数: 引数と表示形式の関係は、次のとおりです。

表 2-53: サブビューの表示形式

引数	表示形式
SPECTrum	スペクトラム
IQPower	IQ パワー・グラフ
CONSte	コンスタレーション
EVM	EVM (エラー・ベクトル・マグニチュード)
MERRor	振幅誤差
PERRor	位相誤差

注: 引数 IQPower は [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MEASurement コマンドが CDPower または MACCuracy に設定されているときにのみ有効です。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、サブビューにスペクトラムを表示します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat SPECTrum

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:FORMat
[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MEASurement

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:X[:SCALe] :OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析でサブビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、サブビューに EVM が表示されているときの横軸の最小値を 10 chip に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:X:SCALe:OFFSet 10

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:X[:SCALe] :RANGe(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、サブビューの横軸フルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの横軸フルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、サブビューに EVM が表示されているときの横軸フルスケールを 512 chip に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:X:SCALe:RANGe 512

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]

:FIT (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析時に、サブビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク変調解析時に、サブビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FIT

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]

:FULL (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析時に、サブビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク変調解析で、サブビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe] :OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析でサブビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、サブビューに EVM が表示されているときの縦軸の最小値を 10% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:OFFSet 10PCT

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe] :RANGe(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク変調解析で、サブビューの縦軸フルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — サブビューの縦軸フルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、サブビューに EVM が表示されているときの縦軸フルスケールを 10% に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:RANGe 10PCT

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum サブグループ

1xEV-DO, オプション26 型

:DISPLay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析のチャンネル電力測定、相互変調測定、スペクトラムエミッション・マスク測定、および OBW（占有帯域幅）測定でスペクトラム表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPLay
  :FL1XEVD0|:RL1XEVD0
  :SPECTrum
    :X
      [:SCALE]
        :OFFSet      <numeric_value>
        :PDIVsion    <numeric_value>
    :Y
      [:SCALE]
        :FIT
        :FULL
        :OFFSet      <numeric_value>
        :PDIVsion    <numeric_value>
```


:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — スペクトラム・ビューの横軸の最小値を設定します。設定範囲は、[:SENSe]:FREQuency:BAND コマンドの測定周波数帯の設定によります。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの横軸の最小値を 100 MHz に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:SPECTrum:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの横軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision <value>
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<Nrf> — スペクトラム・ビューの横軸スケールを設定します。設定範囲は、[:SENSe]:FREQuency:BAND コマンドの測定周波数帯の設定によります。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの横軸スケールを 100 kHz/div に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:SPECTrum:X:SCALe:PDIVision 100kHz

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]**:FIT** (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析時、スペクトラム・ビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析時、スペクトラム・ビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVD0:SPECtrum:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]**:FULL** (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析時に、スペクトラム・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:SPECtrum:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの縦軸の最小値 (下端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲: -200 ~ 100 dBm

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの縦軸の最小値を -100 dBm に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:SPECtrum:Y:SCALe:OFFSet -100dBm

:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・ビューの縦軸スケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]:PDIVision <value>
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<NRf> — スペクトラム・ビューの横軸スケールを設定します。
設定範囲: 0 ~ 10 dB/div

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの縦軸スケールを 10 dB/div に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:SPECtrum:Y:SCALe:PDIVision 10dB

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform サブグループ

1xEV-DO, オプション26 型

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform コマンドでは、1xEV-DO フォワード・リンクのゲートッド・アウトプット・パワー測定の時間領域表示をコントロールします。

コマンド一覧

```
:DISPlay
  :FL1XEVD0
    :WAVeform
      :X
        [:SCALe]
          :OFFSet      <numeric_value>
          :PDIVsion    <numeric_value>
      :Y
        [:SCALe]
          :FIT
          :FULL
          :OFFSet      <numeric_value>
          :PDIVsion    <numeric_value>
```

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet(?)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、時間領域表示の横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。

設定範囲：約 $-416.67 \mu\text{s}$ ~ 約 $415 \mu\text{s}$ （スパンの設定により時間軸の分解能が変わるため、上限値および下限値はその分解能の倍数で一番近い値になります）

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で時間領域表示の横軸の最小値を $100 \mu\text{s}$ に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X:SCALe:OFFSet -100us

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision(?)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、時間領域表示の横軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision <numeric_value>

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — 横軸スケールを設定します。

設定範囲：約 $-0.1627 \mu\text{s}$ ~ 約 $833.33 \mu\text{s}$ （スパンの設定により時間軸の分解能が変わるため、上限値および下限値はその分解能の倍数で一番近い値になります）

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・ビューの横軸スケールを $10 \mu\text{s}/\text{div}$ に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:X:SCALe:PDIVision 10us

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

1xEV-DOフォワード・リンク解析の時間領域表示でオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析の時間領域表示でオートスケールを実行します。

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

1xEV-DO フォワード・リンク解析時に、時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析時に、時間領域表示の縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードリンク解析で、時間領域表示の縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式により異なります。付録 D の表 D-7 を参照してください。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、時間領域表示の縦軸の最小値を -100 dBm に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y:SCALe:OFFSet -100dBm

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、時間領域表示の縦軸のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸スケールを設定します。設定範囲: 10 ~ 1.0E-5 dB

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、時間領域表示の縦軸スケールを 10 dB/div に設定します。

:DISPlay:FL1XEVD0:WAVeform:Y:SCALe:PDIVision 10dB

:DISPlay:SADLR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5, オプション27 型のみ

:DISPlay:SADLR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンクのチャンネル電力スペクトラム解析、ACLR、スペクトラム放射マスク、および OBW 測定の各表示をコントロールします。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで、SADLR5_3G (3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:SADLR5_3GPP	
:SPECTrum	
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	
:PDIVision	<frequency>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVision	<relative_amplitude>

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム・ビューで横軸の最小値 (左端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 横軸の最小値を設定します。設定範囲: 中心周波数 ± 25 MHz

測定モード: SADLR5_3G

使用例: 横軸の最小値を 1 GHz に設定します。

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X:SCALe:OFFSet 1GHz

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム・ビューで横軸 (周波数) 1div のスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<NRf> — 横軸 1div のスケールを設定します。設定範囲: 0~2.5 MHz

測定モード: SADLR5_3G

使用例: 横軸のスケールを 2.5MHz に設定します。

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:X:SCALe:PDIVision 2.5MHz

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

スペクトラム・ビューでオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム・ビュー上でオートスケールを実行します。

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

スペクトラム・ビューで縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム・ビュー上で、縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム・ビューで縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲: -200~+100 dBm

測定モード: SADLR5_3G

使用例: 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y:SCALe:OFFSet -100

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム・ビューで縦軸（振幅）1divのスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision <value>

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <value>::=<NRf> — 縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲:0~10 dB

測定モード: SADLR5_3G

使用例: 縦軸のフルスケールを 10dB/div に設定します。

:DISPlay:SADLR5_3GPP:SPECTrum:Y:SCALe:PDIVision 10

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5, オプション27 型のみ

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPPコマンドでは、3GPP-R5ダウンリンクまたはアップリンク変調解析の表示をコントロールします。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで、DEMDLR5_3G (3GPP-R5 ダウンリンクの変調解析) または DEMULR5_3G (3GPP-R5 アップリンクの変調解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:DLR5_3GPP	
:AVIew	
:MSLot	
:HEAD	<numeric_value>
[:STATe]	<boolean>
:SHORtcode	<number>
:SRATe	COMPosite R960S R480S R240S R120S R60S R30S R15S R7P5S
:SSCHpart	<boolean>
:TSLot	<number>
:MVIEw	
:COLor	
[:SCALe]	
:OFFSet	<amplitude>
:RANGe	<relative_amplitude>
:FORMat	OFF CSGRam CPSHortcode CPSymbol CPTSlot SCONste SVEctor SEVM SMERror SPERror SIEYe SQEYe STEYe STABle CONSte VECtor
:RADix	BINary OCTal HEXadecimal
:X	
[:SCALe]	
:OFFSet	<numeric_value>
:RANGe	<numeric_value>
:Y	
[:SCALe]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PUNit	RELative ABSolute
:RANGe	<numeric_value>

```

:ULR5_3GPP
  :AVIew
    :SRATe          R960S | R480S | R240S | R120S | R60S | R30S
                    | R15S
    :TSLot          <number>
  :MVIew
    :FORMat        OFF | ANACK
:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP
  :SVIew
    :COLor
      [:SCALE]
        :OFFSet    <amplitude>
        :RANGe     <relative_amplitude>
    :FORMat        CSGRam | CPSHortcode | CPSYmbol | CPTSlot
                    | SCONste | SVECTor | SEVM | SMERror
                    | SPERror | SIEYe | SQEYe | STEYe | STABle
                    | CONSTe | VECTor | SPECTrum
  :RADix          BINary | OCTal | HEXadecimal
  :X
    [:SCALE]
      :OFFSet    <numeric_value>
      :RANGe     <numeric_value>
  :Y
    [:SCALE]
      :FIT
      :FULL
      :OFFSet    <numeric_value>
      :PUNit     RELative | ABSolute
      :RANGe     <numeric_value>

```

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:HEAD(?)

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot[:STATe] が On のときに、ビューの左端に表示するタイム・スロットの番号を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:HEAD <number>

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:HEAD?

引数: <number>::=<NR1> — ビューの左端に表示するタイム・スロットの番号を指定します。
設定範囲: -15985~-14

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: ビューの左端に表示するタイム・スロットの番号を -100 に設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:HEAD -100

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot[:STATe]

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot[:STATe](?)

複数のスロットを表示するか1スロットを表示するかを指定します。複数スロットは、:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat が CPSYmbol、CPRSslot、SEVM、SMERror、SPERror、または CSGRam のいずれかに設定されているとき有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot[:STATe]?

引数: OFF — 1スロットを表示します。

ON — 複数スロットを表示します。:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:HEAD コマンドで表示するタイム・スロットの番号が指定できます。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 複数スロットを表示します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:STATe ON

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:HEAD, :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SHORtcode(?)

3GPP-R5 変調解析で、表示するショート・コードを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SHORtcode <number>

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SHORtcode?

引数: <number>::=<NR1> — 表示するショート・コードを設定します。
設定範囲:0~511チャンネル

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 表示するショート・コードを 100 チャンネルに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SHORtcode 100

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SRATe(?)

3GPP-R5 ダウンリンク変調解析で、シンボル・レートを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SRATe { COMPOSITE | R960S | R480S | R240S
| R120S | R60S | R30S | R15S | R7P5S }

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SRATe?

引数: 各引数は、下表に示したシンボル・レートに対応しています。

表 2-54: シンボル・レートの設定

引数	シンボル・レート
COMPOSITE	マルチレート対応 (デフォルト)
R960S	960k
R480S	480k
R240S	240k
R120S	120k
R60S	60k
R30S	30k
R15S	15k
R7P5S	7.5k

注: 正しく解析できないときには、[:SENSe]:DLR5_3GPP:COMPOSITE コマンドで OFF を選択し、表2-54 から COMPOSITE 以外のシンボル・レートを選択してください。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: シンボル・レートを 960k に設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SRATe R960S

関連コマンド: [:SENSe]:DLR5_3GPP:COMPOSITE

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SSCHpart(?)

3GPP-R5 変調解析で、データの先頭の SCH を表示するかどうか選択または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SSCHpart { OFF | ON | 0 | 1 }
:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SSCHpart?

引数: OFF または 0 — SCHを表示しません。
ON または 1 — SCHを表示します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: SCH を表示します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SSCHpart ON

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:TSLot(?)

3GPP-R5 変調解析で表示するタイム・スロットの番号を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:TSLot <number>
:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:TSLot?

引数: <number>::=<NR1> — 表示するタイム・スロットの番号を設定します。
設定範囲: -15999~0 スロット

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 表示するタイム・スロットの番号を -100 に設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:TSLot -100

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet(?)

3GPP-R5 変調解析でメイン・ビューがスペクトログラムのときに、色軸（振幅）の最小値を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — 色軸の最小値を設定します。設定範囲:-200~+100 dBm

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューの色軸の最小値を -100dBm に設定します。
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor:SCALe:OFFSet -100

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALe]:RANGe(?)

3GPP-R5変調解析でメイン・ビューがスペクトログラムのときに、色軸（振幅）のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALe]:RANGe <value>
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::={ 10 | 20 | 50 | 100 } (dB) 色軸のフルスケールを設定します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューの色軸のフルスケールを 100dB に設定します。
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat(?)

3GPP-R5 変調解析でメイン・ビューの表示形式を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat { OFF | CSGRam | CPShortcode | CPSymbol
| CPTSlot | SCOnste | SVEctor | SEVM | SMERror | SPERror | SIEYe | SQEYe
| STEYe | STABle | CONSte | VECTor }

:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-55: メイン・ビューの表示形式

引数	表示形式
OFF	波形を表示しません。
CSGRam	コード・ドメイン・パワー・スペクトログラム
CPShortcode	コード・ドメイン・パワー vs. ショート・コード
CPSymbol	コード・ドメイン・パワー vs. シンボル
CPTSlot	コード・ドメイン・パワー vs. タイム・スロット
SCOnste	シンボルのコンスタレーション
SVEctor	シンボルのベクトル
SEVM	シンボルの EVM
SMERror	シンボルの振幅誤差
SPERror	シンボルの位相誤差
SIEYe	シンボルのアイ・ダイアグラム (縦軸: I)
SQEYe	シンボルのアイ・ダイアグラム (縦軸: Q)
STEYe	シンボルのトレリス・ダイアグラム (縦軸: 位相)
STABle	シンボル・テーブル
CONSte	コンスタレーションと変調確度測定結果
VECTor	ベクトル軌跡

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューにコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムを表示します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat CSGRam

:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:RADix(?)

3GPP-R5変調解析で、メイン・ビューのシンボルの基数を選択または問合せます。
このコマンドは、DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMatでSTABLE（シンボル・
テーブル）を選択したときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MView:RADix { BINary | OCTal | HEXadecimal }
:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:RADix?

引数: BINary — 2進数を選択します。
OCTal — 8進数を選択します。
HEXadecimal — 16進数を選択します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューのシンボルの基数を2進数にします。
:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:RADix BINary

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet(?)

3GPP-R5 変調解析で、メイン・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、横軸の最小値を0チャンネルに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X:SCALe:OFFSet 0

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALe]:RANGe(?)

3GPP-R5 変調解析でメイン・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>
:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、横軸のフルスケールを512チャンネルに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:X:SCALe:RANGe 512

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:Y[:SCALE]:FIT (問合せなし)

3GPP-R5 変調解析で、メイン・ビューのオートスケールを実行します。
オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat が CPHortcode、CP-SYmbol、CPTSlot、SEVM、SMERror、または SPERror のいずれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MView:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューでオートスケールを実行します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:Y:SCALE:FIT

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:Y[:SCALE]:FULL (問合せなし)

3GPP-R5 変調解析で、メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat が CPHortcode、CP-SYmbol、CPTSlot、SEVM、SMERror、または SPERror のいずれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MView:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:MView:Y:SCALE:FULL

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MView:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet(?)

3GPP-R5 変調解析で、メイン・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat が CPSHortcode、CPSYmbol、CPTSlot、SEVM、SMERror、または SPERror のいずれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet <value>

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、縦軸の下端をスロット0に設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y:SCALE:OFFSet 0

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit(?)

3GPP-R5変調解析でメイン・ビューのY軸（電力）の単位を選択または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat が CSGRam、CPSHortcode、CPSYmbol、または CPTSlot のいずれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit { RELative | ABSolute }

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit?

引数: RELative — Y軸は、全チャンネルの総電力を基準とした相対電力 [dB] を表します。

ABSolute — Y軸は、各チャンネルの絶対電力 [dBm] を表します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューのY軸を相対電力とします。

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y:SCALE:PUNit RELative

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

3GPP-R5 変調解析でメイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat が CSGRam、CPSHort-code、CPSYmbol、CPTSlot、SEVM、SMERror、または SPERror のどれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: メイン・ビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、縦軸のフルスケールを 50 スロットに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:Y:SCALe:RANGe 50

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:SRATe(?)

3GPP-R5アップリンク変調解析で、シンボル・レートを選択または問合せます。

構文: :DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:SRATe { R960S | R480S | R240S | R120S | R60S
| R30S | R15S }

:DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:SRATe?

引数: 各引数は、下表に示したシンボル・レートに対応しています。

表 2-56: シンボル・レートの設定

引数	シンボル・レート
R960S	960k
R480S	480k
R240S	240k
R120S	120k
R60S	60k
R30S	30k
R15S	15k

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: シンボル・レートを 960k に設定します。

:DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:SRATe R960S

:DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:TSLot(?)

3GPP-R5 変調解析で表示するタイム・スロットの番号を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:TSLot <number>

:DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:TSLot?

引数: <number>::=<NR1> — 表示するタイム・スロットの番号を設定します。
設定範囲: -15999~0 スロット

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: 表示するタイム・スロットの番号を -100 に設定します。

:DISPlay:ULR5_3GPP:AVIew:TSLot -100

:DISPlay:ULR5_3GPP:MVIew:FORMat(?)

3GPP-R5 変調解析で、メイン・ビューの表示形式を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:ULR5_3GPP:MVIew:FORMat { OFF | ANACK }

:DISPlay:ULR5_3GPP:MVIew:FORMat?

引数: OFF — メイン・ビューに測定結果を表示しません。

ANACK — メイン・ビューにACK/NACK測定を表示します。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: メイン・ビューにACK/NACK測定を表示します。

:DISPlay:ULR5_3GPP:MVIew:FORMat ANACK

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:COLor[:SCALe] :OFFSet(?)

3GPP-R5 変調解析でサブビューがスペクトログラムのときに色軸（振幅）の最小値を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 色軸の最小値を設定します。設定範囲: -200~+100 dBm

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューの色軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:COLor:SCALe:OFFSet -100

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe(?)

3GPP-R5 変調解析でサブビューがスペクトログラムのときに、色軸（振幅）のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::={ 10 | 20 | 50 | 100 } [dB] 色軸のフルスケールを設定します。

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューの色軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:COLor:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat(?)

3GPP-R5 変調解析で、サブビューの表示形式を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat { SPECTrum | CPShortcode | CSGRam | CPTSlot | CPSYmbol | SCOnste | SEVM | SVECTor | SMERror | SPERror | SIEYe | SQEYe | STEYe | STABle | CONStE | VECTor }

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を表2-57 に示します。

表 2-57: サブビューの表示形式

引数	表示形式	規格
SPECTrum	スペクトラム	DLR5_3GPP および ULR5_3GPP
CPShortcode	コード・ドメイン・パワー vs. ショート・コード	
CSGRam	コード・ドメイン・パワー・スペクトログラム	
CPTSlot	コード・ドメイン・パワー vs. タイム・スロット	
CPSYmbol	コード・ドメイン・パワー vs. シンボル	
SCOnste	シンボル・コンスタレーション	DLR5_3GPP のみ
SEVM	シンボル EVM	
SVECTor	シンボル・ベクトル	
SMERror	シンボル振幅エラー	
SPERror	シンボル位相エラー	
SIEYe	シンボルのアイ・ダイアグラム (縦軸:I)	
SQEYe	シンボルのアイ・ダイアグラム (縦軸:Q)	
STEYe	シンボルのトレリス・ダイアグラム (縦軸:位相)	
STABle	シンボル・テーブル	
CONStE	コンスタレーションと変調確度測定結果	
VECTor	ベクトル軌跡	

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューにコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムを表示します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:FORMat CSGRam

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:MVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:RADix(?)

3GPP-R5 変調解析で、サブビューのシンボル基数を選択または問合せます。

注：このコマンドは DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat コマンドで STABLE (シンボル・テーブル) を選択したときに有効です。

構文： :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:RADix { BINary | OCTal
| HEXadecimal }

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:RADix?

引数： BINary — 2進数を選択します。

OCTal — 8進数を選択します。

HEXadecimal — 16進数を選択します。

測定モード： DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例： サブビューのシンボルの基数を 2進数にします。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:RADix BINary

関連コマンド： :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet(?)

3GPP-R5 変調解析でサブビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに横軸の最小値を0チャンネルに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:X:SCALe:OFFSet 0

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:X[:SCALe]:RANGe(?)

3GPP-R5 変調解析で、サブビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>
:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの横軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、横軸のフルスケールを512チャンネルに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:X:SCALe:RANGe 512

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALE]:FIT (問合せなし)

3GPP-R5 変調解析で、サブビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat が CP-SHortcode、CPSYmbol、CPTSlot、SEVM、SMERror、または SPERror のどれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALE]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:Y:SCALE:FIT

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALE]:FULL (問合せなし)

3GPP-R5 変調解析で、サブビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat が CP-SHortcode、CPSYmbol、CPTSlot、SEVM、SMERror、または SPERror のどれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALE]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:Y:SCALE:FULL

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

3GPP-R5 変調解析でサブ・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat が CS-GRam、CPSHortcode、CPSYmbol、CPTSlot、SEVM、SMERror、または SPERror のいずれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの縦軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、縦軸の最小値をスロット0に設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:Y:SCALe:OFFSet 0

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:PUNit(?)

3GPP-R5 変調解析で、サブビューの Y 軸（電力）の単位を選択または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat が CS-GRam、CPSHortcode、CPSYmbol、または CPTSlot のいずれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:PUNit
{ RELative | ABSolute }

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:PUNit?

引数: RELative — Y 軸は、全チャンネルの総電力を基準とした相対電力 [dB] を表します。

ABSolute — Y 軸は、各チャンネルの絶対電力 [dBm] を表します。

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューの Y 軸を相対電力とします。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:Y:SCALe:PUNit RELative

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

3GPP-R5変調解析で、サブビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。
このコマンドは、:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat が CS-GRam、CPSHortcode、CPSYmbol、CPTSlot、SEVM、SMERror、または SPERror のいずれかに設定されているときに有効です。

構文: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブビューの縦軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-5を参照してください。

測定モード: DEMDLR5_3G, DEMULR5_3G

使用例: サブビューがコード・ドメイン・パワー・スペクトログラムのときに、縦軸のフルスケールを50スロットに設定します。

:DISPlay:DLR5_3GPP:SVIew:Y:SCALe:RANGe 50

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP:SVIew:FORMat

:DISPlay:WLAN:DDEMod サブグループ

WLAN, オプション29 型のみ

:DISPlay:WLAN:DDEMod コマンドでは、WLAN 変調解析のメイン・ビューとサブビューの表示をコントロールします。

注： このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで、DEM WLAN (WLAN 変調解析) を選択しておく必要があります。

スペクトラム・マスク測定のスペクトラム表示をコントロールするには、:DISPlay:WLAN:SPECtrum コマンドを使用します。

WLAN 解析の測定項目を選択するには、[:SENSe]:WLAN:MEASurement コマンドを使用します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:WLAN	
:DDEMod	
:MView	
:FORMat	OLINearity DOLinearity
:MCONtent	EVM MERRor PERRor
:RADix	BINary OCTal HEXadecimal
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<time>
:RANGe	<numeric_value>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<amplitude>
:RANGe	<numeric_value>
:SVIew	
:FORMat	SPECTrum PVTime EVTime CONSTe VECTor PVSC EVSC SCConste SCVector FERRor OFLatness OLINearity DOLinearity STABLE PON POFF
:MCONtent	EVM MERRor PERRor
:RADix	BINary OCTal HEXadecimal
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<time>
:RANGe	<numeric_value>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<numeric_value>
:PDIVision	<amplitude>
:RANGe	<numeric_value>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:FORMat(?)

OFDM リニアリティ測定で表示形式を選択または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:WLAN:MEASurement コマンドが OLINearity のときに有効です。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:FORMat { OLINearity | DOLinearity }
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:FORMat?

引数: OLINearity — OFDM リニアリティ測定でベクトル表示を選択します。
(デフォルト)

DOLinearity — OFDM リニアリティ測定でドット表示を選択します。

測定モード: DEMWLAN

使用例: OFDM リニアリティ測定でベクトル表示を選択します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:FORMat OLINearity

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:MCONtent(?)

WLAN 解析でメイン・ビューの測定内容を選択または問合せます。このコマンドは [:SENSe]:WLAN:MEASurement コマンドが EVTime または EVSC のときに有効です。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:MCONtent { EVM | MERRor | PERRor }
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:MCONtent?

引数: EVM — EVM を選択します。

MERRor — 振幅誤差 (Magnitude Error) を選択します。

PERRor — 位相誤差 (Phase Error) を選択します。

測定モード: DEMWLAN

使用例: メイン・ビューに EVM を表示します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:MCONtent EVM

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:RADix(?)

WLAN 解析で、メイン・ビューのシンボルの基数を選択または問合せます。

注：このコマンドは [:SENSe]:WLAN:MEASurement コマンドで STABle (シンボル・テーブル) を選択したときに有効です。

構文： :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:RADix { BINary | OCTal | HEXadecimal }

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:RADix?

引数： BINary — 2進数を選択します。

OCTal — 8進数を選択します。

HEXadecimal — 16進数を選択します。

測定モード： DEMWLAN

使用例： メイン・ビューのシンボルの基数を 2進数にします。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:RADix BINary

関連コマンド： [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:OFFSet(?)

WLAN 解析でメイン・ビューの横軸の最小値 (左端) を設定または問合せます。

構文： :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数： <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録D の表D-8 を参照してください。

測定モード： DEMWLAN

使用例： メイン・ビューが IQ 対時間のときに、横軸の最小値を $-40\mu\text{s}$ に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X:SCALe:OFFSet -40us

関連コマンド： [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:PDIVision(?)

時間対振幅表示のときに横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:WLAN:MEASurement が PVTime、EVTime、EVSC、PVSC、または FERRor のとき有効です（EVSC と PVSC の表示データは OFDM 以外です）。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:PDIVision <time>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <time>::=<NRf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 横軸のスケールを 10 μ s/div に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X:SCALe:PDIVision 10us

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:RANGe(?)

WLAN 解析で、メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの横軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-8を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: メイン・ビューが IQ 対時間のときに、横軸のフルスケールを 40 μ s に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:X:SCALe:RANGe 40us

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

WLAN 変調信号解析で、メイン・ビューのオートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMWLAN

使用例: メイン・ビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:FIT

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

WLAN 変調信号解析でメイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMWLAN

使用例: メイン・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

WLAN 変調信号解析でメイン・ビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸の最小値を設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-8を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: メイン・ビューに IQ 対時間を表示したときに、縦軸の最小値を -500mV に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:OFFSet -500mV

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の縦軸（振幅）のスケール (/div) を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:WLAN:MEASurement が PVTTime、EVTime、EVSC、PVSC、または FERRor のとき有効です（EVSCとPVSCの表示データはOFDM以外です）。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:PDIVision <ampl>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <ampl>::=<NRf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。設定範囲：0~10 dB/div。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 縦軸の1目盛りの値を 10dB に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:PDIVision 10

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

WLAN 変調信号解析で、メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — メイン・ビューの縦軸のフルスケールを設定します。設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-8を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: メイン・ビューに IQ 対時間を表示したとき、縦軸のフルスケールを 500mV に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVlew:Y:SCALe:RANGe 500mV

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat(?)

WLAN 変調信号解析のサブビューの表示形式を選択または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat { SPECTrum | PVTTime | EVTime | CONSte | VECTor | PVSC | EVSC | SCConste | SCVector | FERRor | OFLatness | OLINearity | DOLinearity | STABle | PON | POFF }

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat?

引数: 各引数と表示形式を下表に示します。

表 2-58: サブ・ビューの表示形式

引数	表示形式
SPECTrum	スペクトラム
PVTTime	Power versus Time (電力対時間)
EVTime	EVM versus Time (EVM 対時間)
CONSte	コンスタレーション
VECTor	ベクトル
PVSC	Power versus SC (電力対サブキャリア)
EVSC	EVM versus SC (EVM 対サブキャリア)
SCConste	SC Constellation (サブキャリア・コンスタレーション)
SCVector	SC vector (サブキャリア・ベクトル)
FERRor	Frequency error (周波数誤差)
OFLatness	OFDM flatness (OFDM フラットネス)
OLINearity	OFDM linearity (OFDM リニアリティ、ベクトル表示)
DOLinearity	OFDM linearity (OFDM リニアリティ、ドット表示)
STABle	シンボル・テーブル
PON ¹	Transmit power on (送信電力オン)
POFF ¹	Transmit power off (送信電力オフ)

¹ [:SENSe]:WLAN:MEASurement が TPOwer のときに有効。

測定モード: DEMWLAN

使用例: サブビューにコンスタレーションを表示します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat CONSte

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:MCONtent(?)

WLAN 解析でサブビューの測定内容を選択または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:WLAN:MEASurement コマンドが EVTime または EVSC のとき有効です。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:MCONtent { EVM | MERRor | PERRor }
 :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:MCONtent?

引数: EVM — EVM を選択します。
 MERRor — 振幅誤差 (Magnitude Error) を選択します。
 PERRor — 位相誤差 (Phase Error) を選択します。

測定モード: DEM WLAN

使用例: サブビューに EVM を表示します。
 :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:MCONtent EVM

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:RADix(?)

WLAN 変調信号解析のサブ・ビューのシンボル基数を選択または問合せます。

注： このコマンドは :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat コマンドで STABle (シンボル・テーブル) を選択したときに有効です。シンボル・テーブル以外の表示形式で使用すると、エラーになります。

構文： :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:RADix { BINary | OCTal | HEXadecimal }

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:RADix?

引数： BINary — 2進数を選択します。

OCTal — 8進数を選択します。

HEXadecimal — 16進数を選択します。

測定モード： DEMWLAN

使用例： 2進数を選択します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:RADix BINary

関連コマンド： :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet(?)

WLAN 変調信号解析で、サブ・ビューの横軸の最小値（左端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<NRF> — サブ・ビューの横軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-8を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: サブ・ビューにコンスタレーションを表示したとき、横軸の最大値を -2.5 に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X:SCALe:OFFSet -2.5

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision(?)

時間対振幅表示のときに横軸（時間）のスケール (/div) を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:WLAN:MEASurement が PVTime、EVTime、EVSC、PVSC、または FERRor のとき有効です（EVSC と PVSC の表示データは OFDM 以外です）。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision <time>
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <time>::=<NRF> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 横軸のスケールを 10 μ s/div に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X:SCALe:PDIVision 10us

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat, [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe(?)

WLAN 変調信号解析でサブビューの横軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<Nrf> — サブ・ビューの横軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-8を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: サブ・ビューにコンスタレーションを表示したとき、横軸のフルスケールを 2.5 に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:X:SCALe:RANGe 2.5

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

WLAN 変調信号解析で、サブビューのオートスケールを実行します。
オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMWLAN

使用例: サブビューのオートスケールを実行します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FIT

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

WLAN 変調信号解析でサブ・ビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMWLAN

使用例: サブビューの縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:FULL

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet(?)

WLAN 変調信号解析で、サブビューの縦軸の最小値（下端）を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet <value>
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブビューの縦軸の最小値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-8を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: サブビューにスペクトラムを表示したときに、縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:OFFSet -100

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision(?)

時間領域表示の縦軸（振幅）のスケール (/div) を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:WLAN:MEASurement が PVTTime、EVTime、EVSC、PVSC、または FERRor のとき有効です（EVSCとPVSCの表示データはOFDM以外です）。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision <amp;l>
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision?

引数: <amp;l>::=<Nrf> — 縦軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-8を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 縦軸の1目盛りの値を 10dB に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:PDIVision 10

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat, [:SENSe]:WLAN:MEASurement

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe(?)

WLAN 変調信号解析でサブビューの縦軸のフルスケールを設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe <value>

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe?

引数: <value>::=<NRf> — サブビューの縦軸のフルスケールを設定します。
設定範囲は、表示形式によって異なります。付録Dの表D-8を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: サブビューにスペクトラムを表示したときに、縦軸のフルスケールを 100dB に設定します。

:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:Y:SCALe:RANGe 100

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

:DISPlay:WLAN:SPECTrum サブグループ

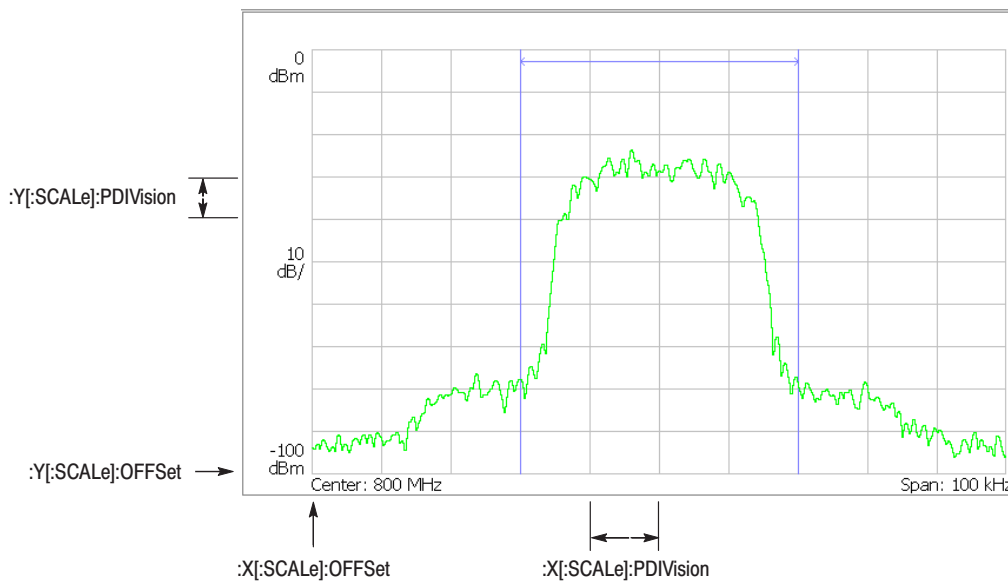
WLAN, オプション29 型のみ

:DISPlay:WLAN:SPECTrum コマンドでは、WLAN 解析のスペクトラム・マスク測定と送信電力測定で、スペクトラム表示を設定します。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで、DEM WLAN（WLAN 変調解析）を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:DISPlay	
:WLAN	
:SPECTrum	
:X	
[:SCALE]	
:OFFSet	<frequency>
:PDIVision	<frequency>
:Y	
[:SCALE]	
:FIT	
:FULL	
:OFFSet	<amplitude>
:PDIVision	<amplitude>



注：:DISPlay:SPECTrum コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-18 : :DISPlay:WLAN:SPECTrum コマンドの設定

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet(?)

スペクトラム表示の横軸 (周波数) の最小値 (左端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:SPECTrum::X[:SCALe]:OFFSet <freq>
:DISPlay:WLAN:SPECTrum::X[:SCALe]:OFFSet?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の最小値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 横軸の最小値を 100MHz に設定します。

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X:SCALe:OFFSet 100MHz

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の横軸 (周波数) のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision <freq>
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲については、2-138ページの「横軸スケール設定上の注意」を参照してください。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 横軸のスケールを 100kHz/div に設定します。

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X:SCALe:PDIVision 100.0E+3

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT (問合せなし)

スペクトラム表示で、オートスケールを実行します。オートスケールでは、波形の全体が表示されるように、縦軸の開始値とスケールが自動で設定されます。

構文: :DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALe]:FIT

引数: なし

測定モード: DEMWLAN

使用例: スペクトラム表示のオートスケールを実行します。

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y:SCALe:FIT

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL (問合せなし)

スペクトラム表示で縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

構文: :DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALe]:FULL

引数: なし

測定モード: DEMWLAN

使用例: スペクトラム表示で縦軸をデフォルトのフルスケールに設定します。

:DISPlay:SPECTrum:Y:SCALe:FULL

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet(?)

縦軸 (振幅) の最小値 (下端) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet <amp1>

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet?

引数: <amp1>::=<Nrf> — 縦軸の最小値を設定します。設定範囲: -200~0 dBm。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 縦軸の最小値を -100dBm に設定します。

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y:SCALE:OFFSet -100

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision(?)

スペクトラム表示の縦軸 (振幅) のスケール (/div) を設定または問合せます。

構文: :DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision <amp1>

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision?

引数: <freq>::=<Nrf> — 横軸の1目盛りの値を設定します。
設定範囲: 0~10 dB/div。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 縦軸の1目盛りの値を 10dB に設定します。

:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y:SCALE:PDIVision 10

:FETCh コマンド

:FETCh コマンドでは、測定結果を取得します。入力信号の取り込みは行いません。現在メモリ上にあるデータについて測定結果を算出します。

新たに入力信号を取り込んで、そのデータについて測定結果を取得する場合には、:READ コマンド (☞ 2-617ページ) を使用してください。

無効データは -1000 として返されます。

注 : :FETCh コマンドを使用するときには、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンド (☞ 2-595ページ) で測定モードを設定しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:ADEMod	
:AM?	
:RESult?	
:FM?	
:RESult?	
:PM?	
:PSpectrum?	
:CCDF?	
:DISTRibution:CCDF?	
:OVIew?	
:PULSe?	ALL WIDTH PPOWer OORatio RIPPlE PERiod DCYClE PHASe CHPOWer OBWidth EBWidth FREQuency
:SPECTrum?	
:TAMPliTude?	
:TFRequency?	
:SPECTrum?	
:ACPOWer?	
:CFRequency?	
:CHPOWer?	
:CNRatio?	
:EBWidth?	
:OBWidth?	
:SPURious?	
:TRANsient	
:FVTime?	
:IQVTime?	
:PVTTime?	

:FETCh:ADEMod:AM? (問合せのみ)

AM 変調信号解析結果の時系列データを取得します。

構文: :FETCh:ADEMod:AM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時系列の変調度データ、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: DEMADEM

使用例: AM 変調信号解析の結果を取得します。

:FETCh:ADEMod:AM?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:ADEMod:AM:RESult? (問合せのみ)

AM 変調信号解析の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:ADEMod:AM:RESult?

引数: None

応答: <+AM>,<-AM>,<Total_AM>

ここで

<+AM>::=<NRf> — 変調度の正のピーク値、単位 [%]

<-AM>::=<NRf> — 変調度の負のピーク値、単位 [%]

<Total_AM>::=<NRf> — 全変調度 ((変調度のピーク-ピーク値) / 2)、単位 [%]

測定モード: DEMADEM

使用例: AM 変調信号解析の測定結果を取得します。

:FETCh:ADEMod:AM:RESult?

次は応答例です。

37.34,-48.75,43.04

関連コマンド: :INSTrument[:SELect]

:FETCh:ADEMod:FM? (問合せのみ)

FM 変調信号解析結果の時系列データを取得します。

構文: :FETCh:ADEMod:FM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時系列の周波数偏移データ、単位 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: DEMADEM

使用例: FM 変調信号解析の結果を取得します。

:FETCh:ADEMod:FM?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:ADEMod:FM:RESult? (問合せのみ)

FM 変調信号解析の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:ADEMod:FM:RESult?

引数: None

応答: <+Pk_Freq_Dev>,<-Pk_Freq_Dev>,<P2P_Freq_Dev>,<P2P_Freq_Dev/2>,<RMS_Freq_Dev>

ここで、

<+Pk_Freq_Dev>::=<NRf> — 周波数偏移の正のピーク値、単位 [Hz]

<-Pk_Freq_Dev>::=<NRf> — 周波数偏移の負のピーク値、単位 [Hz]

<P2P_Freq_Dev>::=<NRf> — 周波数偏移のピーク-ピーク値、単位 [Hz]

<P2P_Freq_Dev/2>::=<NRf> — (周波数偏移のピーク-ピーク値) / 2、単位 [Hz]

<RMS_Freq_Dev>::=<NRf> — 周波数偏移の RMS 値、単位 [Hz]

測定モード: DEMADEM

使用例: FM 変調信号解析の測定結果を取得します。

:FETCh:ADEMod:FM:RESult?

次は応答例です。

1.13e+4,-1.55e+4,2.48e+4,1.24e+4,1.03e+4

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:ADEMod:PM? (問合せのみ)

PM 変調信号解析の結果を取得します。

構文: :FETCh:ADEMod:PM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時系列の位相偏移データ、単位 [deg]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024 ポイント × 500 フレーム)

測定モード: DEMADEM

使用例: PM 変調信号解析の結果を取得します。

:FETCh:ADEMod:PM?

次の応答例では、1024 バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:ADEMod:PSpectrum? (問合せのみ)

アナログ変調解析のパルス・スペクトラム測定で、スペクトラム・データを取得します。

構文: :FETCh:ADEMod:PSpectrum?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラムの振幅データ、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 240001

測定モード: DEMADEM

使用例: パルス・スペクトラム測定のスぺクトラム・データを取得します。

:FETCh:ADEMod:PSpectrum?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:FETCh:CCDF? (問合せのみ)

CCDF 測定結果を取得します。

構文: :FETCh:CCDF?

引数: なし

応答: <meanpower>,<peakpower>,<cfactor>

ここで

<meanpower>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]

<peakpower>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]

<cfactor>::=<NRf> — クレスト・ファクタ、単位 [dB]

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF の測定結果を取得します。

:FETCh:CCDF?

次は応答例です。

-11.16,-8.18,2.96

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:DISTriBution:CCDF? (問合せのみ)

CCDF 測定で、CCDF 波形データを取得します。

構文: :FETCh:DISTriBution:CCDF?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 振幅スペクトラム、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024 ポイント × 500 フレーム)

無効データは -1000 として返されます。

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF 波形データを取得します。

:FETCh:DISTriBution:CCDF?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :CONFIgure:OVIew, :INSTrument[:SElect]

:FETCh:OVlew? (問合せのみ)

DEMOD (変調解析) および TIME (時間解析) モードで、オーバービューに表示する全波形データから 1024ポイントごとに最小値と最大値を取得します。

注: このコマンドを実行する前に :CONFigure:OVlew コマンドで測定をオフしておく必要があります。

構文: :FETCh:OVlew?

応答: #<Num_digit><Num_byte><MinData(1)><MaxData(1)>...<MinData(n)><MaxData(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<MinData(n)> — オーバービュー波形 1024ポイントごとの最小値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

<MaxData(n)> — オーバービュー波形 1024ポイントごとの最大値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 500

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: オーバービューに表示する全波形データから 1024ポイントごとに最小値と最大値を取得します。

:FETCh:OVlew?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :CONFigure:OVlew, :INSTrument[:SElect]

:FETCh:PULSe? (問合せのみ)

パルス解析の結果を取得します。

構文: :FETCh:PULSe? { ALL | WIDTH | PPOWer | OORatio | RIPPlE | PERiod | DCYCle | PHASe | CHPower | OBWidth | EBWidth | FREQuency }

引数: 各引数について問合せ内容を下表に示します。

表 2-59: パルス解析結果の取得

引数	問合せの内容
ALL	すべての測定結果
WIDTH	パルス幅測定結果
PPOWer	パルス・オン時のピーク電力測定結果
OORatio	パルス・オン時とオフ時の電力差測定結果
RIPPlE	パルス・オン時のリップル測定結果
PERiod	パルス周期測定結果
DCYCle	デューティ・サイクル測定結果
PHASe	パルス間位相差測定結果
CHPower	パルス・オン時のスペクトラムのチャンネル電力測定結果
OBWidth	パルス・オン時のスペクトラムの OBW 測定結果
EBWidth	パルス・オン時のスペクトラムの EBW 測定結果
FREQuency	パルス・オン時の周波数偏移測定結果

応答: 各引数ごとに応答を示します。

ALL

<width>,<ppower>,<ooratio>,<ripple>,<period>,<dcycle>,<phase>,<chp>,<obw>,<ebw>,<freq>

ここで

<width>::=<NRf> — パルス幅、単位 [s]

<ppower>::=<NRf> — ピーク電力、単位 [W]

<ooratio>::=<NRf> — パルス・オン／オフ比、単位 [dB]

<ripple>::=<NRf> — パルス・リップル、単位 [W]

<period>::=<NRf> — パルス繰り返し間隔、単位 [s]

<dcycle>::=<NRf> — デューティ・サイクル、単位 [%]

<phase>::=<NRf> — パルス間位相差、単位 [度]

<chp>::=<NRf> — チャンネル電力、単位 [W]

<obw>::=<NRf> — OBW、単位 [Hz]

<ebw>::=<NRf> — EBW、単位 [Hz]

<freq>::=<NRf> — 周波数偏移、単位 [Hz]

WIDTh

#<Num_digit><Num_byte><Width(1)><Width(2)>...<Width(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Width(n)> — 各パルス番号に対応したパルス幅の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

PPOWer

#<Num_digit><Num_byte><Ppower(1)><Ppower(2)>...<Ppower(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Power(n)> — 各パルス番号に対応したピーク電力の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

OORatio

#<Num_digit><Num_byte><Ooratio(1)><Ooratio(2)>...<Ooratio(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ooratio(n)> — 各パルス番号に対応したオン／オフ比の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

RIPPlE

#<Num_digit><Num_byte><Ripple(1)><Ripple(2)>...<Ripple(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ripple(n)> — 各パルス番号に対応したリップルの値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

PERiod

#<Num_digit><Num_byte><Period(1)><Period(2)>...<Period(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Period(n)> — 各パルス番号に対応したパルス繰り返し間隔の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

DCYCLE

#<Num_digit><Num_byte><Dcycle(1)><Dcycle(2)>...<Dcycle(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Dcycle(n)> — 各パルス番号に対応したデューティ・サイクルの値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

PHASe

#<Num_digit><Num_byte><Phase(1)><Phase(2)>...<Phase(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Phase(n)> — 各パルス番号に対応したパルス間位相差の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

CHPower

#<Num_digit><Num_byte><Chp(1)><Chp(2)>...<Chp(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Chp(n)> — 各パルス番号に対応したチャンネル電力の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

OBWidth

#<Num_digit><Num_byte><Obw(1)><Obw(2)>...<Obw(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Obw(n)> — 各パルス番号に対応した OBW の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

EBWidth

#<Num_digit><Num_byte><Ebw(1)><Ebw(2)>...<Ebw(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ebw(n)> — 各パルス番号に対応した EBW の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

FREQuency

#<Num_digit><Num_byte><Freq(1)><Freq(2)>...<Freq(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Freq(n)> — 各パルス番号に対応したキャリア周波数の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

測定モード : TIMPULSE

使用例 : パルス幅測定結果を取得します。

:FETCh:PULSe? WIDTH

次の応答例では、500バイトのデータが返ります。

#3500xxxx...

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:FETCh:PULSe:SPECtrum? (問合せのみ)

パルス解析で、周波数領域測定のスเปクトラム波形データを取得します。

このコマンドは、:DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat が CHPOwr、OBWidth、または EBWidth のときに有効です。

構文: :FETCh:PULSe:SPECtrum?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラム、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 16384

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス解析で、スペクトラム波形データを取得します。

:FETCh:PULSe:SPECtrum?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat, :INSTrument[:SElect]

:FETCh:PULSe:TAMPlitude? (問合せのみ)

パルス解析で、時間領域測定 of 振幅データを取得します。

このコマンドは :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat が WIDTH、PPOWer、OORatio、RIPple、PERiod、DCYCle、または PHASe のときに有効です。

構文: :FETCh:PULSe:TAMPlitude?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各データ・ポイントの絶対電力、単位 [W]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 262,144

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス解析で、時間領域測定 of 振幅データを取得します。

:FETCh:PULSe:TAMPlitude?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat, :INSTrument[:SElect]

:FETCh:PULSe:TFRequency? (問合せのみ)

パルス解析の周波数偏移 (Frequency Deviation) 測定データを取得します。

このコマンドは :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat が FREQuency のときに有効です。

構文: :FETCh:PULSe:TFRequency?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 時間軸上の周波数偏移の値、単位 [Hz]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 262,144

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス解析の周波数偏移測定データを取得します。

:FETCh:PULSe:TFRequency?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat, :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SPECTrum? (問合せのみ)

S/A (スペクトラム解析) モードでスペクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:SPECTrum?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 振幅スペクトラム、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 400000 (800ポイント×500フレーム)

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAZRTIME, SAUL3G

使用例: スペクトラム波形データを取得します。

:FETCh:SPECTrum?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SPECTrum:ACPower? (問合せのみ)

S/A モードの ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SPECTrum:ACPower?

引数: なし

応答: <chpower>,<acpm1>,<acpp1>,<acpm2>,<acpp2>,<acpm3>,<acpp3>

ここで

<chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<acpm1>::=<NRf> — 下側第1 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpp1>::=<NRf> — 上側第1 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpm2>::=<NRf> — 下側第2 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpp2>::=<NRf> — 上側第2 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpm3>::=<NRf> — 下側第3 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpp3>::=<NRf> — 上側第3 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

注: チャンネル帯域幅とチャンネル間隔の設定 ([:SENSe]:ACPower サブグループ参照) によって隣接チャンネルがスパン外に出た場合、その測定値は返りません。例えば、第3 隣接チャンネルがスパン外に出た場合には、<acpm3> と <acpp3> は返らず、応答は <chpower>,<acpm1>,<acpp1>,<acpm2>,<acpp2> となります。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: ACPR の測定結果を取得します。

```
:FETCh:SPECTrum:ACPower?
```

次は応答例です。

```
-11.38,-59.41,-59.51,-59.18,-59.31,-59.17,-59.74
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:ACPower サブグループ

:FETCh:SPECTrum:CFRequency? (問合せのみ)

S/A モードのキャリア周波数の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SPECTrum:CFRequency?

引数: なし

応答: <cfreq>::=<NRf> — キャリア周波数測定値、単位 [Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: キャリア周波数の測定結果を取得します。

:FETCh:SPECTrum:CFRequency?

次は応答例です。

846187328.5

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SPECTrum:CHPower? (問合せのみ)

S/A モードのチャンネル電力の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SPECTrum:CHPower?

引数: なし

応答: <chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: チャンネル電力の測定結果を取得します。

:FETCh:SPECTrum:CHPower?

次は応答例です。

-1.081

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SPECTrum:CNRatio? (問合せのみ)

S/A モードの C/N (キャリア対ノイズ比) の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SPECTrum:CNRatio?

引数: なし

応答: <ctn>,<ctno>

ここで

<ctn>::=<NRf> — C/N 測定値、単位 [dB]

<ctno>::=<NRf> — C/No 測定値、単位 [dB/Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: C/N の測定結果を取得します。

```
:FETCh:SPECTrum:CNRatio?
```

次は応答例です。

```
75.594,125.594
```

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:FETCh:SPECtrum:EBWidth? (問合せのみ)

S/A モードの EBW (放射帯域幅) の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SPECtrum:EBWidth?

引数: なし

応答: <ebw>::=<NRf> — 放射帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: EBW の測定結果を取得します。

:FETCh:SPECtrum:EBWidth?

次は応答例です。

30956.26

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SPECtrum:OBWidth? (問合せのみ)

S/A モードの OBW (占有帯域幅) の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SPECtrum:OBWidth?

引数: なし

応答: <obw>::=<NRf> — 占有帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: OBW の測定結果を取得します。

:FETCh:SPECtrum:OBWidth?

次は応答例です。

26510.163

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SPECtrum:SPURious? (問合せのみ)

S/A モードのスプリアス測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SPECtrum:SPURious?

引数: なし

応答: <num>{,<dfreq>,<rdb>}

ここで

<num>::=<NR1> — 検出したスプリアスの数、最大 20。

<dfreq>::=<NRf> — スプリアスのキャリアからの離調周波数、単位 [Hz]

<rdb>::=<NRf> — スプリアスのキャリアからの相対レベル、単位 [dB]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: スプリアス測定結果を取得します。

```
:FETCh:SPECtrum:SPURious?
```

次は応答例です。

```
3,1.2E6,-79,2.4E6,-79.59,1E6,-80.38
```

関連コマンド: :INSTrument[:SELect]

:FETCh:TRANSient:FVTime? (問合せのみ)

TIME (時間解析) モードの時間対周波数の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:TRANSient:FVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 時系列の周波数データ、単位 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: TIMTRAN

使用例: 時間対周波数の測定結果を取得します。

:FETCh:TRANSient:FVTime?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:TRANsient:IQVTime? (問合せのみ)

TIME (時間解析) モードの時間対 IQレベルの測定結果を取得します。

構文: :FETCh:TRANsient:IQVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Idata(1)><Qdata(1)><Idata(2)><Qdata2>...
<Idata(n)><Qdata(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Idata(n)><Qdata(n)> — I および Q 信号レベル・データ、単位 [V]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: TIMTRAN

使用例: 時間対 IQレベルの測定結果を取得します。

:FETCh:TRANsient:IQVTime?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:TRANSient:PVTime? (問合せのみ)

TIME (時間解析) モードの時間対電力の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:TRANSient:PVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時系列の電力データ、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: TIMTRAN

使用例: 時間対電力の測定結果を取得します。

:FETCh:TRANSient:PVTime?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh コマンド (オプション)

ここでは、オプションの解析ソフトウェアの :FETCh コマンドを説明します。
サブグループを表2-60 に示します。

表 2-60: :FETCh コマンドのサブグループ (オプション)

コマンド・ヘッダ	機 能	参 照
オプション21 型 拡張測定解析機能関連		
:FETCh:DDEMod	デジタル変調解析結果を取得する	p.2-468
:FETCh:RFID	RFID 解析結果を取得する	p.2-474
:FETCh:SSOource	シグナル・ソース解析結果を取得する	p.2-482
オプション23 型 W-CDMA アップリンク関連		
:FETCh:AC3Gpp	W-CDMA ACLR 測定結果を取得する	p.2-491
:FETCh:UL3Gpp	W-CDMA アップリンク解析結果を取得する	p.2-492
オプション24 型 GSM/EDGE 関連		
:FETCh:GSMedge	GSM/EDGE 解析結果を取得する	p.2-498
オプション25 型 cdma2000 関連		
:FETCh:FLCDMA2K :RLCDMA2K	cdma2000 解析結果を取得する	p.2-510
オプション26 型 1xEV-DO 関連		
:FETCh:FLCDMA2K :RLCDMA2K	1xEV-DO 解析結果を取得する	p.2-530
オプション27 型 3GPP-R5 関連		
:FETCh:DLR5_3GPP	3GPP-R5 ダウンリンク変調解析結果を取得する	p.2-554
:FETCh:SADLR5_3GPP	ダウンリンクのスペクトラム解析結果を取得する	p.2-560
:FETCh:ULR5_3GPP	3GPP-R5 アップリンク変調解析結果を取得する	p.2-568
オプション29 型 WLAN 関連		
:FETCh:WLAN	WLAN 解析結果を取得する	p.2-570

注：:FETCh コマンドを使用するときには、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンド (p.2-595ページ) で測定モードを設定しておく必要があります。

:FETCh:DDEMod サブグループ

デジタル変調解析、オプション21 型のみ

:FETCh:DDEMod コマンドでは、デジタル変調解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:DDEMod	IQVTime FVTime CONSte EVM AEVM PEVM MERRor AMERror PMERror PERRor APERror PPERror RHO SLEngth FERRor OOFFset STABle PVTime AMAM AMPM CCDF PDF

:FETCh:DDEMod? (問合せのみ)

デジタル変調信号解析結果を取得します。

構文: :FETCh:DDEMod? { IQVTime | FVTime | CONSte | EVM | AEVM | PEVM | MERRor
| AMERRor | PMERRor | PERRor | APERRor | PPERror | RHO | SLEngth | FERRor
| OOFFset | STABle | PVTime | AMAM | AMPM | CCDF | PDF }

引数: 各引数について問合せ内容を下表に示します。

表 2-61: デジタル変調信号解析結果の取得

引数	問合せの内容
IQVTime	時間対 IQ レベル測定結果
FVTime	時間対周波数測定結果 (FSK 復調時のみ)
CONSte	コンスタレーション測定結果 (シンボルの座標データ列)
EVM	EVM (Error Vector Magnitude) 測定結果
AEVM	EVM の RMS 値
PEVM	EVM のピーク値とそのシンボル番号
MERRor	振幅誤差
AMERRor	振幅誤差の RMS 値
PMERRor	振幅誤差のピーク値とそのシンボル番号
PERRor	位相誤差
APERRor	位相誤差の RMS 値
PPERror	位相誤差のピーク値とそのシンボル番号
RHO	波形品質 (ρ) の値
SLEngth	解析されたシンボル数
FERRor	周波数誤差
OOFFset	原点オフセットの値 ([:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK、FSK または GFSK のときは無効)
STABle	シンボル・テーブルのデータ
PVTime	電力対時間測定結果 ([:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK のときに有効)
AMAM	AM/AM 測定結果
AMPM	AM/PM 測定結果
CCDF	CCDF 測定結果
PDF	PDF 測定結果

応 答： 各引数ごとに応答を示します。
 角度の単位は、:UNIT:ANGLE コマンドで、度 (degree) またはラジアン (radian) が
 選択できます。

IQVTime

```
#<Num_digit><Num_byte><Idata(1)><Qdata(1)><Idata(2)><Qdata2>...  
<Idata(n)><Qdata(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Idata(n)><Qdata(n)> — I信号、Q信号のレベルデータ、単位 [V]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
 n：最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

FVTime

```
#<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 時系列の周波数偏移データ、単位 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
 n：最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

CONSte

```
#<Num_digit><Num_byte><Ip(1)><Qp(1)>...<Ip(n)><Qp(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ip(n)> — I 座標軸上のサンプル位置を正規化した値

<Qp(n)> — Q 座標軸上のサンプル位置を正規化した値

<Ip(n)> と <Qp(n)> は IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動
 小数点フォーマット。n：最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

EVM

```
#<Num_digit><Num_byte><Evm(1)><Evm(2)>...<Evm(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Evm(n)> — シンボルのEVMの値、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
 n：最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

AEVM

```
<aevm>::=<NRf> — EVM の RMS 値、単位 [%]
```

PEVM

<pevm>,<symb>

ここで

<pevm>::=<NRf> — EVM のピーク値、単位 [%]

<symb>::=<NR1> — EVM のピーク値の時のシンボル番号

MERRor

#<Num_digit><Num_byte><Merr(1)><Merr(2)>...<Merr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merr(n)> — シンボルの振幅誤差の値、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

AMERror

<amer>::=<NRf> — 振幅誤差の RMS 値、単位 [%]

PMERror

<pmer>,<symb>

ここで

<pmer>::=<NRf> — 振幅誤差のピーク値、単位 [%]

<symb>::=<NR1> — 振幅誤差のピーク値のシンボル番号

PERRor

#<Num_digit><Num_byte><Perr(1)><Perr(2)>...<Perr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perr(n)> — シンボルの位相誤差の値、単位 [deg/rad]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

APERror

<aper>::=<NRf> — 位相誤差の RMS 値、単位 [deg/rad]

PPERror

<pper>,<symb>

ここで

<pper>::=<NRf> — 位相誤差のピーク値、単位 [deg/rad]

<symb>::=<NRf> — 位相誤差のピーク値のシンボル番号

RHO

<rho>::=<NRf> — 波形品質 (q) の測定値。

SLEngth

<slen>::=<NR1> — 解析されたシンボル数。

FERRor

<ferr>::=<NRf> — 周波数誤差の測定値、単位 [Hz]

OOFFset

<ooff>::=<NRf> — 原点オフセットの測定値、単位 [dB]

STABle

#<Num_digit><Num_byte><Sym(1)><Sym(2)>...<Sym(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Sym(n)>::=<NR1> — シンボル・データ

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

PVTime

#<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Sym(n)>::=<NR1> — 時間領域電力データ、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

AMAM

<Comp>,<Coeff_num>{,<Coeff>}

ここで

<Comp>::=<NRf> — 1dB 圧縮点、単位 [dBm]

<Coeff_Num>::=<NR1> — 係数の数 (1~16)

この数は、[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:COEFFicient で設定した値に 1 を足した値です。

<Coeff>::=<NRf> — 係数の値。

AMPM

<Coeff_num>{,<Coeff>}

ここで

<Coeff_Num>::=<NR1> — 係数の数 (1~16)

この数は、[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:COEFFicient で設定した値に 1 を足した値です。

<Coeff>::=<NRf> — 係数の値。

CCDF

<Mean_Power_D>,<Peak_Power_D>,<Crest_Factor_D>,
<Mean_Power_R>,<Peak_Power_R>,<Crest_Factor_R>

ここで

<Mean_Power_D>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]
<Peak_Power_D>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]
<Crest_Factor_D>::=<NRf> — クレスト・ファクタ測定値、単位 [dB]
<Mean_Power_R>::=<NRf> — 平均電力基準値、単位 [dBm]
<Peak_Power_R>::=<NRf> — ピーク電力基準値、単位 [dBm]
<Crest_Factor_R>::=<NRf> — クレスト・ファクタ基準値、単位 [dB]

PDF

<Mean_Power_D>,<Peak_Power_D>,<Mean_Power_R>,<Peak_Power_R>

ここで

<Mean_Power_D>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]
<Peak_Power_D>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]
<Mean_Power_R>::=<NRf> — 平均電力基準値、単位 [dBm]
<Peak_Power_R>::=<NRf> — ピーク電力基準値、単位 [dBm]

測定モード : DEMDDEM

使用例 : 時間対 IQ レベル測定結果を取得します。

```
:FETCh:DDEMod? IQVTime
```

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

```
#41024xxxx...
```

関連コマンド : :INSTRument[:SElect], [:SENSe]:DDEMod:FORMat, :UNIT:ANGLE

:FETCh:RFID サブグループ

RFID 解析、オプション21 型のみ

:FETCh:RFID コマンドは、RFID (Radio Frequency Identification) 解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ

:FETCh

:RFID?

:ACPower?

:SPURious?

:SPECTrum

:ACPower?

:SPURious?

パラメータ

CARRier | PODown | RFENvelope
| CONSTe | EYE | STABle

:FETCh:RFID? (問合せのみ)

RFID 解析で選択した測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:RFID? { CARRier | PODown | RFENvelope | CONSte | EYE | STABLe }

引数: 引数は、表に示した測定を意味します。

表 2-62: RFID 測定

引数	測定
CARRier	キャリア
PODown	送信電力オン/ダウン
RFENvelope	RF エンベロープ
CONSte	コンスタレーション
EYE	アイ・ダイアグラム
STABLe	シンボル・テーブル

応答: 各引数ごとに応答を示します。

CARRier

<Cfreq>,<Obw>,<Ebw>,<Max_EIRP>

ここで

<Cfreq>::=<NRf> — キャリア周波数 [Hz]

<Obw>::=<NRf> — 占有帯域幅 [Hz]

<Ebw>::=<NRf> — 放射帯域幅 [Hz]

<Max_EIRP>::=<NRf> — 最大 EIRP [dBm]

PODown

<Srate>,<Esrte>,<Count>{,<Index>,<Rise/Fall>,<Time>,<Settling>,<Over>,<Under>,<Offset>}

ここで

<Srate>::=<NRf> — 実サンプル・レート [Hz]

<Esrte>::=<NRf> — 有効サンプル・レート [Hz]

<Count>::=<NR1> — 後に続くデータ・セットの数 (0~32)

<Index>::=<NR1> — インデックス番号。

<Rise/Fall>::=<NR1> — 立ち上がり時間 (0) または立ち下がり時間 (1)

<Time>::=<NRf> — 立ち上がり時間/立ち下がり時間 [秒]

<Settling>::=<NRf> — セトリング・タイム [秒]

<Over>::=<NRf> — オーバーシュート (%)

<Under>::=<NRf> — アンダシュート (%)

<Offset>::=<NRf> — 信号オフ時の平均レベル (%)

RFENvelope

<Srate>,<Esrate>,<Count>{,<Index>,<On_Width>,<Off_Width>,<Duty>,<On_Ripple>,<Off_Ripple>,<Slope_1_Rise/Fall>,<Slope_1>,<Slope_2_Rise/Fall>,<Slope_2>,<Slope_3_Rise/Fall>,<Slope_3>}

ここで

- <Srate>::=<NRf> — サンプル・レート [Hz]
- <Esrate>::=<NRf> — 有効サンプル・レート [Hz]
- <Count>::=<NR1> — 後に続くデータ・セットの数 (0~1024)
- <Index>::=<NR1> — インデックス番号。
- <On_Width>::=<NRf> — オン幅 [秒]
- <Off_Width>::=<NRf> — オフ幅 [秒]
- <Duty>::=<NRf> — デューティ・サイクル (%)
- <On_Ripple>::=<NRf> — オン・リップル (%)
- <Off_Ripple>::=<NRf> — オフ・リップル (%)
- <Slope_1_Rise/Fall>::=<NR1> — スロープ 1 が立ち上がり (0) か立ち下がり (1) かを示します。
- <Slope_1>::=<NRf> — スロープ 1 立ち上がり/立ち下がり時間 [秒]
- <Slope_2_Rise/Fall>::=<NR1> — スロープ 2 が立ち上がり (0) か立ち下がり (1) かを示します。
- <Slope_2>::=<NRf> — スロープ 2 立ち上がり/立ち下がり時間 [秒]
- <Slope_3_Rise/Fall>::=<NR1> — スロープ 3 が立ち上がり (0) か立ち下がり (1) かを示します。
- <Slope_3>::=<NRf> — スロープ 3 立ち上がり/立ち下がり時間 [秒]

CONStE および EYE

デコード形式が PIE 以外の場合 :

<Mdepth>,<Mindex>,<Ferror>,<Abrate>,<Ebrate>,<Esbrate>

ここで

- <Mdepth>::=<NRf> — 変調の深さ (%)
- <Mindex>::=<NRf> — 変調指数 (%)
- <Ferror>::=<NRf> — 周波数誤差 [Hz]
- <Abrate>::=<NR1> — Auto Bit Rate の設定。0: Off, 1: On。
- <Ebrate>::=<NRf> — 推定ビット・レート [bps]
- <Esbrate>::=<NRf> — 推定シンボル・レート [シンボル/s]

デコード形式が PIE の場合 :

<Mdepth>,<Mindex>,<Ferror>,<Atari>,<Etdata0_s>,<Etdata0_t>,<Etdata1_s>,<Etdata1_t>

ここで

- <Mdepth>::=<NRf> — 変調の深さ (%)
- <Mindex>::=<NRf> — 変調指数 (%)
- <Ferror>::=<NRf> — 周波数誤差 [Hz]
- <Atari>::=<NR1> — Auto Tari の設定。0: Off, 1: On。
- <Etdata0_s>::=<NRf> — 推定 Tari データ 0 [秒]
- <Etdata0_T>::=<NRf> — 推定 Tari データ 0 (Tari)

<Etdata1_S>::=<NRf> — 推定 Tari データ 1 [秒]
<Etdata1_T>::=<NRf> — 推定 Tari データ 1 (Tari)

STABLE

#<Num_digit><Num_byte><Sym(1)><Sym(2)>...<Sym(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Sym(n)> — シンボル・データ。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

測定モード : DEMRFID

使用例 : キャリア測定結果を取得します。

:FETCh:RFID? CARRier

次は応答例です。

985.891768E+6,45.383E+3,104.601,30

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:FETCh:RFID:ACPower? (問合せのみ)

RFID 解析で、ACPR（隣接チャンネル漏洩電力比）測定結果を取得します。

構文: :FETCh:RFID:ACPower?

引数: なし

応答: <Count>{,<Ofrequency>,<Upper>,<Lower>}

ここで

<Count>::=<NR1> — 後に続くデータ・セットの数 (0~25)

<Ofrequency>::=<NRf> — オフセット周波数 [Hz]

<Upper>::=<NRf> — 上側 n 次隣接チャンネルの ACPR [dBc]

<Lower>::=<NRf> — 下側 n 次隣接チャンネルの ACPR [dBc]

測定モード: DEMRFID

使用例: ACPR 測定結果を取得します。

:FETCh:RFID:ACPower?

次は応答例です。

2,500E+3,-38.45,-38.43,1E+6,-44.14,-44.11

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:RFID:SPURious? (問合せのみ)

RFID 解析で、スプリアス測定結果を取得します。

構文: :FETCh:RFID:SPURious?

引数: なし

応答: <Snum>{,<Dfreq>,<Rdbc>}

ここで

<Snum>::=<NR1> — 検出されたスプリアスの数、最大 20。

<Dfreq>::=<NRf> — スプリアス周波数 (キャリア基準) [Hz]

<Rdbc>::=<NRf> — スプリアス・レベル (キャリア基準) [dBc]

測定モード: DEMRFID

使用例: スプリアス測定結果を取得します。

:FETCh:RFID:SPURious?

次は応答例です。

2,-468.75E+3,-45.62,787.5E+3,-49.88

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:RFID:SPECtrum:ACPoweR? (問合せのみ)

RFID 解析で ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:RFID:SPECtrum:ACPoweR?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラムの振幅 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001

測定モード: DEMRFID

使用例: ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:RFID:SPECtrum:ACPoweR?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:FETCh:RFID:SPECTrum:SPURious? (問合せのみ)

RFID 解析で、スプリアス測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:RFID:SPECTrum:SPURious?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラムの振幅 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 240001

測定モード: DEMRFID

使用例: スプリアス測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:RFID:SPECTrum:SPURious?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SSource サブグループ シグナル・ソース解析、オプション21 型のみ

:FETCh:SSource コマンドでは、シグナル・ソース解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:SSource?	PNoise SPurious RTPNoise RTSPurious FVTime
:CNVFrequency?	
:CNVTime?	
:IPNVtime?	
:IPNVtime?	
:RJVTime?	
:SPECTrum?	
:TRANSient	
:FVTime?	

:FETCh:SSource? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で選択した測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:SSource? { PNOise | SPURious | RTPNoise | RTSPurious | FVTime }

引数: 引数は、表に示した測定を意味します。

表 2-63: PLL 測定

引数	測定
PNOise	位相雑音
SPURious	スプリアス
RTPNoise	リアルタイム位相雑音
RTSPurious	リアルタイム・スプリアス
FVTime	周波数対時間

応答: 各引数ごとに応答を示します。

PNOise

<Cfreq>,<Cpower>,<IP_Noise>,<Rj>,<Max_Pj>

ここで

<Cfreq>::=<NRf> — キャリア周波数 [Hz]

<Cpower>::=<NRf> — チャンネル電力 [dBm]

<IP_Noise>::=<NRf> — 積分位相雑音 [ラジアン/度]

<Rj>::=<NRf> — ランダム・ジッタ [秒]

<Max_Pj>::=<NRf> — 最大周期的ジッタ [秒]

SPURious

<snum>{,<dfreq>,<rdb>}

ここで

<snum>::=<NR1> — 検出されたスプリアス信号の数 (最大 20)

<dfreq>::=<NRf> — スプリアス信号の周波数 (キャリアからの相対値) [Hz]

<rdb>::=<NRf> — スプリアス信号のレベル (キャリアからの相対値) [dBc]

RTPNoise

<Cfreq>,<Cpower>,<IP_Noise>,<Rj>,<Max_Pj>,<Jstime>,<Jsstart>,<Jsstop>,<PNstime>,<PNstart>,<PNSstop>

ここで

<Cfreq>::=<NRf> — キャリア周波数 [Hz]
<Cpower>::=<NRf> — チャンネル電力 [dBm]
<IP_Noise>::=<NRf> — 積分位相雑音 [ラジアン/度]
<Rj>::=<NRf> — ランダム・ジッタ [秒]
<Max_Pj>::=<NRf> — 最大周期的ジッタ [秒]
<Jstime>::=<NRf> — ジッタ・セトリング・タイム [秒]
<Jsstart>::=<NRf> — ジッタ・セトリング・タイム測定開始点 [秒]
<Jsstop>::=<NRf> — ジッタセトリング・タイム測定停止点 [秒]
<PNstime>::=<NRf> — 位相雑音セトリング・タイム [秒]
<PNSstart>::=<NRf> — 位相雑音セトリング・タイム測定開始点 [秒]
<PNSstop>::=<NRf> — 位相雑音セトリング・タイム測定停止点 [秒]

RTSPurious

<Cfreq>,<Cpower>,<Snum>{,<Dfreq>,<Rdbc>}

ここで

<Cfreq>::=<NRf> — キャリア周波数 [Hz]
<Cpower>::=<NRf> — チャンネル電力 [dBm]
<Snum>::=<NR1> — 検出されたスプリアス信号の数 (最大 20)
<Dfreq>::=<NRf> — スプリアス信号の周波数 (キャリアからの相対値) [Hz]
<Rdbc>::=<NRf> — スプリアス信号のレベル (キャリアからの相対値) [dBc]

FVTime

<Fstime>,<Fsstart>,<Fsstop>,<TFstime>,<Tfsstart>,<Tfsstop>

ここで

<Fstime>::=<NRf> — 周波数セトリング・タイム
<Fsstart>::=<NRf> — 周波数セトリング・タイム測定開始点
<Fsstop>::=<NRf> — 周波数セトリング・タイム測定停止点
<TFstime>::=<NRf> — トリガ点からの周波数セトリング・タイム
<Tfsstart>::=<NRf> — トリガ点からの周波数セトリング・タイム測定開始点
<Tfsstop>::=<NRf> — トリガ点からの周波数セトリング・タイム測定停止点
単位: すべて秒

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 位相雑音の測定結果を取得します。

:FETCh:SSource? PNOise

次は応答例です。

2.0E+9,-21.430,12.432E-12,8.95,217.725E-12

:FETCh:SSource:CNVFrequency? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で、CN vs オフセット周波数の測定データを取得します。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が PNOise または RTP-Noise のときに有効です。また、[:SENSe]:SSource:MEASurement が RTSPurious で、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat が CNVFrequency のときにも有効です。

構文: :FETCh:SSource:CNVFrequency? { MAIN | SUB }

引数: MAIN — トレース 1 (画面上黄色で表示) を選択します。

SUB — トレース 2 (画面上緑色で表示) を選択します。

応答: #<Num_digit><Num_byte><Frequency(1)><C/N(1)><Frequency(2)><C/N(2)>...
<Frequency(n)><C/N(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Frequency(n)> — 周波数 [Hz]

<C/N(n)> — C/N [dBc/Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: CN vs オフセット周波数測定のトレース 1 のデータを取得します。

```
:FETCh:SSource:CNVFrequency? MAIN
```

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

```
#43200xxxx...
```

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat, [:SENSe]:SSource:MEASurement

:FETCh:SSource:CNVTime? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で、C/N vs 時間の波形データを取得します。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が RTPNoise で、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat が CNVTime のときに有効です。

構文: :FETCh:SSource:CNVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — C/N [dBc/Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: シグナル・ソース解析で、C/N vs 時間の波形データを取得します。

:FETCh:SSource:IPNVtime?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat, [:SENSe]:SSource:MEASurement

:FETCh:SSource:IPNVtime? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で、積分位相雑音 vs 時間の波形データを取得します。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が RTPNoise で、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat が IPNVtime のときに有効です。

構文: :FETCh:SSource:IPNVtime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 位相 [ラジアン/度]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: シグナル・ソース解析で、積分位相雑音 vs 時間の波形データを取得します。

:FETCh:SSource:IPNVtime?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat, [:SENSe]:SSource:MEASurement

:FETCh:SSource:RJVTime? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で、ランダム・ジッタ vs 時間の波形データを取得します。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が RTPNoise で、:DISPlay:SSource:SVIew:FORMat が RJVTime のときに有効です。

構文: :FETCh:SSource:RJVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — ジッタ [秒]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: シグナル・ソース解析で、ランダム・ジッタ vs 時間の波形データを取得します。

:FETCh:SSource:RJVTime?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:SSource:SVIew:FORMat, [:SENSe]:SSource:MEASurement

:FETCh:SSource:SPECTrum? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で周波数領域測定のスเปクトラム波形データを取得します。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が PNOise、SPURious、または RTSPurious のときに有効です。

構文: :FETCh:SSource:SPECTrum?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラムの振幅 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: シグナル・ソース解析で、スペクトラム波形データを取得します。

:FETCh:SSource:SPECTrum?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:FETCh:SSOurce:TRANsient:FVTime? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で、周波数 vs 時間測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SSOurce:TRANsient:FVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時間軸上の周波数偏移値 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n: 最大 512000 (1024 ポイント×500 フレーム)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: シグナル・ソース解析で、周波数 vs 時間測定結果を取得します。

:FETCh:SSOurce:TRANsient:FVTime?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: [:SENSe]:SSOurce:MEASurement

:FETCh:AC3Gpp サブグループ

W-CDMA、オプション23型のみ

:FETCh:AC3Gpp コマンドでは、W-CDMA ACLR 測定結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:AC3Gpp	
:ACLR?	

:FETCh:AC3Gpp:ACLR? (問合せのみ)

W-CDMA ACLR (隣接チャンネル漏洩電力比) の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:AC3Gpp:ACLR?

引数: なし

応答: <chpower>,<ac1rm1>,<ac1rp1>,<ac1rm2>,<ac1rp2>

ここで

<chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<ac1rm1>::=<NRf> — 下側隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rp1>::=<NRf> — 上側隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rm2>::=<NRf> — 下側次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rp2>::=<NRf> — 上側次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

測定モード: SAUL3G

使用例: W-CDMA ACLR の測定結果を取得します。

:FETCh:AC3Gpp:ACLR?

次は応答例です。

-1.081,-68.420,-68.229,-74.506,-74.462

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:UL3Gpp サブグループ

W-CDMA、オプション23 型のみ

:FETCh:DL3Gpp コマンドでは、W-CDMA ダウンリンク解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:UL3Gpp?	CSHortcode CSYMBOL CTSLOT SCNSTE EVM AEVM PEVM MERROR AMERROR PMERROR PERROR APERROR PPEROR RHO FERROR OOFFSET STABLE TSNUMBER SIGNATURE PREAMBLE PCDE CEVM CMERROR CPEROR CRHO COOF

:FETCh:UL3Gpp? (問合せのみ)

W-CDMA アップリンク解析の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:DL3Gpp? { CSHortcode | CSYMBOL | CTSLOT | SCOnste | EVM | AEVM | PEVM | MERRor | AMERRor | PMERRor | PERRor | APERRor | PPERror | RHO | FERRor | OOFFset | STABle | TSNumber | SIGNature | PREamble | PCDE | CEVM | CMERRor | CPERror | CRHO | COOF }

引数: 各引数について問合せ内容を下表に示します。

表 2-64: W-CDMA アップリンク解析結果の取得

引数	問合せの内容
CSHortcode	指定 TS の各ショート・コード電力
CSYMBOL	指定 TS/SC の各シンボル電力
CTSLOT	指定 SC の各タイム・スロットの電力
SCOnste	指定 TS/SC のシンボル位置データ
EVM	指定 TS/SC の EVM (Error Vector Magnitude) 測定結果
AEVM	指定 TS/SC の EVM の RMS 値
PEVM	指定 TS/SC の EVM のピーク値とそのシンボル番号
MERRor	指定 TS/SC の振幅誤差
AMERRor	指定 TS/SC の振幅誤差の RMS 値
PMERRor	指定 TS/SC の振幅誤差のピーク値とそのシンボル番号
PERRor	指定 TS/SC の位相誤差
APERRor	指定 TS/SC の位相誤差の RMS 値
PPERror	指定 TS/SC の位相誤差のピーク値とそのシンボル番号
RHO	指定 TS/SC の波形品質 (ρ) の値
FERRor	指定 TS の周波数誤差
OOFFset	指定 TS/SC の原点オフセットの値
STABle	指定 TS/SC のシンボル・テーブルのデータ
TSNumber	指定 TS の無線フレーム内のスロット番号
SIGNature	指定 TS のシグネチャ
PREamble	指定 TS のプリアンブル長
TLENgth	解析した TS の数
PCDE	指定 TS の PCDE (Peak Code Domain Error) の値とその SC の値
CEVM	指定 TS のチップ EVM の RMS 値とピーク値
CMERRor	指定 TS のチップ振幅誤差の RMS 値とピーク値
CPERRor	指定 TS のチップ位相誤差の RMS 値とピーク値
CRHO	指定 TS のチップ波形品質の値
COOF	指定 TS のチップ原点オフセットの値

* TS : タイム・スロット、SC : ショート・コード

タイム・スロットは、:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:TSLOT コマンドで指定します。
 ショート・コードは、:DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SHORTcode コマンドで指定します。

測定モード: DEMUL3G

応 答： 各引数ごとに応答を示します。

CSHortcode

```
#<Num_digit><Num_byte><Cpwr(1)><Cpwr(2)>...<Cpwr(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Cpwr(n)> — 各ショート・コードの相対／絶対電力値、単位 [dB/dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 512

CSYMBOL

```
#<Num_digit><Num_byte><Cpwr(1)><Cpwr(2)>...<Cpwr(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Cpwr(n)> — 各シンボルの相対／絶対電力値、単位 [dB/dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 640

CTSLot

```
#<Num_digit><Num_byte><Cpwr(1)><Cpwr(2)>...<Cpwr(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Cpwr(n)> — 各タイムスロットの相対／絶対電力値、単位 [dB/dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 16000

SCONste

```
#<Num_digit><Num_byte><Ip(1)><Qp(1)>...<Ip(n)><Qp(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ip(n)> — シンボルの I 座標位置、単位 [V]

<Qp(n)> — シンボルの Q 座標位置、単位 [V]

<Ip(n)> と <Qp(n)> は IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。n : 最大 640。

EVM

#<Num_digit><Num_byte><Evm(1)><Evm(2)>...<Evm(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Evm(n)> — シンボルの EVM の値、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 640

AEVM

<aevm>::=<NRf> — EVM の RMS 値、単位 [%]

PEVM

<pevm>,<symb>

ここで

<pevm>::=<NRf> — EVM のピーク値、単位 [%]

<symb>::=<NR1> — EVM のピーク値のシンボル番号

MERRor

#<Num_digit><Num_byte><Merr(1)><Merr(2)>...<Merr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merr(n)> — シンボルの振幅誤差の値、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 640

AMERror

<amer>::=<NRf> — 振幅誤差の RMS 値、単位 [%]

PMERror

<pmer>,<symb>

ここで

<pmer>::=<NRf> — 振幅誤差のピーク値、単位 [%]

<symb>::=<NR1> — 振幅誤差のピーク値のシンボル番号

PERRor

#<Num_digit><Num_byte><Perr(1)><Perr(2)>...<Perr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perr(n)> — シンボルの位相誤差の値、単位 [deg]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 640

APERror

<pmer>::=<NRf> — 位相誤差の RMS 値、単位 [deg]

PPERror

<pmer>,<sybm>

ここで

<pmer>::=<NRf> — 位相誤差のピーク値、単位 [deg]

<sybm>::=<NRf> — 位相誤差のピーク値のシンボル番号

RHO

<rho>::=<NRf> — 波形品質の測定値

FERRor

<ferr>::=<NRf> — 周波数誤差の測定値、単位 [Hz]

OOFFset

<ooff>::=<NRf> — 原点オフセットの測定値、単位 [dB]

STABLE

#<Num_digit><Num_byte><Sym(1)><Sym(2)>...<Sym(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Sym(n)> — シンボル・データ。n：最大 640。

TSNumber

<tsnum>::=<NR1> — 無線フレーム内スロット番号

SIGNature

<sign>::=<NR1> — シグネチャ番号

PREamble

<prea>::=<NR1> — プリアンブル長

TLENgth

<tlen>::=<NR1> — 解析したタイム・スロットの数

PCDE

<pcde>,<scod>

ここで

<pcde>::=<NRf> — PCDE の値、単位 [dB]

<scod>::=<NRf> — PCDE を示す SC の値

CEVM

<cevma>,<cevmp>

ここで

<cevma>::=<NRf> — チップ EVM の RMS 値、単位 [%]

<cevmp>::=<NRf> — チップ EVM のピーク値、単位 [%]

CMERror

<cmera>,<cmerp>

ここで

<cmera>::=<NRf> — チップ振幅誤差の RMS 値、単位 [%]

<cmerp>::=<NRf> — チップ振幅誤差のピーク値、単位 [%]

CPERror

<cpera>,<cperp>

ここで

<cpera>::=<NRf> — チップ EVM の RMS 値、単位 [%]

<cperp>::=<NRf> — チップ EVM のピーク値、単位 [%]

CRHO

<crho>::=<NRf> — チップ波形品質の値、単位なし

COOF

<coof>::=<NRf> — チップ原点オフセットの値、単位 [dB]

使用例 : 各ショート・コードの電力測定結果を取得します。

```
:FETCh:UL3Gpp? CSHortcode
```

次の応答例では、512バイトのデータが返ります。

```
#3512xxxx...
```

関連コマンド : :DISPlay:UL3Gpp:AVIew:SHORtcode, :DISPlay:UL3Gpp:AVIew:TSLot,
:INSTrument[:SElect]

:FETCh:GSMedge サブグループ

GSM/EDGE、オプション24 型のみ

:FETCh:GSMedge コマンドでは、GSM/EDGE 解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:GSMedge	
:MACCuracy?	
:MCPower?	
:MODulation?	
:PVTime?	
:SPECTrum	
:MODulation?	
:SWITching?	
:SPURious?	
:SWITching?	
:TAMPLitude	
:MCPower?	
:PVTime?	
:TSCode?	

:FETCh:GSMedge:MACCuracy? (問合せのみ)

バーストの変調確度測定結果を取得します。

バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX コマンドで指定します。

構文: :FETCh:GSMedge:MACCuracy?

応答: <pass_fail>,<phase_error>,<peak_phase_error>,<evm>,<evm95>,<peak_evm>,<freq_error>,<o_off>

ここで

<pass_fail>::=<NR1> — 0 : フェイル、1 : パス

<phase_error>::=<NRf> — 位相誤差、単位 [degree]

<peak_phase_error>::=<NRf> — ピーク位相誤差、単位 [degree]

<evm>::=<NRf> — EVM (Error Vector Magnitude)、単位 [%]

<evm95>::=<NRf> — EVM 95% タイル、単位 [%]

<peak_evm>::=<NRf> — ピーク EVM、単位 [%]

<freq_error>::=<NRf> — 周波数誤差、単位 [Hz]

<o_off>::=<NRf> — 原点オフセット、単位 [dB]

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 変調確度の測定結果を取得します。

```
:FETCh:GSMedge:MACCuracy?
```

次は応答例です。

```
1,0.47,0.86,0.93,0.75,2.15,4.209,-64.31
```

関連コマンド: :INSTRument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX

:FETCh:GSMedge:MCPower? (問合せのみ)

バーストの平均キャリア電力測定結果を取得します。
バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INdEx コマンドで指定します。

構文: :FETCh:GSMedge:MCPower?

応答: <mean_power>,<max_power>,<max_bi>,<min_power>,<min_bi>

ここで

<mean_power>::=<NRf> — 平均電力、単位 [dBm]

<max_power>::=<NRf> — 最大電力、単位 [dBm]

<max_bi>::=<NR1> — 最大電力のバースト番号

<min_power>::=<NRf> — 最小電力、単位 [dBm]

<min_bi>::=<NR1> — 最小電力のバースト番号

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストの平均キャリア電力測定結果を取得します。

:FETCh:GSMedge:MACCuracy?

次は応答例です。

68.081,72.4203,-3,58.229,-7

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INdEx

:FETCh:GSMedge:MODulation? (問合せのみ)

[[:SENSe]:GSMedge:STANdard コマンド・グループで指定した規格を用いたモジュレーション・スペクトラム測定の結果 (パス/フェイル) を問合せます。

構文: :FETCh:GSMedge:MODulation?

引数: なし

応答: <NR1>
0 — フェイル
1 — パス

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: モジュレーション・スペクトラムの測定結果を問合せます。

:FETCh:GSMedge:MODulation?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:STANdard

:FETCh:GSMedge:PVTime? (問合せのみ)

バーストの電力対時間測定結果 (パス/フェイル) を問合せます。
バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX コマンドで指定します。

構文: :FETCh:GSMedge:PVTime?

引数: なし

応答: <NR1>
0 – フェイル
1 – パス

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 電力対時間の測定結果を問合せます。

:FETCh:GSMedge:PVTime?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX

:FETCh:GSMedge:SPECTrum:MODulation? (問合せのみ)

バーストのモジュレーション・スペクトラム測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。バーストは [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX コマンドで指定します。

構文: :FETCh:GSMedge:SPECTrum:MODulation?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — モジュレーション・スペクトラムの値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストのモジュレーション・スペクトラム測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。

:FETCh:GSMedge:SPECTrum:MODulation?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SELect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX

:FETCh:GSMedge:SPECTrum:SWITChing? (問合せのみ)

バーストのスイッチング・スペクトラム測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDEx コマンドで指定します。

構文: :FETCh:GSMedge:SPECTrum:SWITChing?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — Switching Spectrum の値、単位[dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストのスイッチング・スペクトラム測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。

:FETCh:GSMedge:SPECTrum:SWITChing?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDEx

:FETCh:GSMedge:SPURious? (問合せのみ)

[[:SENSe]:GSMedge:STANdard コマンドで指定した規格を用いたスプリアス測定の結果を取得します。規格線を越えた信号をレベルの小さい順に最大 10個まで抽出し周波数とレベルを返します。

構文: :FETCh:GSMedge:SPURious?

応答: <num>{,<freq>,<rdb>}

ここで

<num>::=<NR1> — 検出したスプリアスの数、最大 10

<freq>::=<NRf> — 周波数、単位 [Hz]

<rdb>::=<NRf> — レベル、単位 [dBm]

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スプリアス測定結果を取得します。

:FETCh:GSMedge:SPURious?

次は応答例です。

3,1.2E6,-79,2.4E6,-79.59,1E6,-80.38

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:STANdard

:FETCh:GSMedge:SWITching? (問合せのみ)

[[:SENSe]:GSMedge:STANdard コマンドで指定した規格を使用したスイッチング・スペクトラム測定の結果 (パス/フェイル) を問合せます。

構文: :FETCh:GSMedge:SWITching?

引数: なし

応答: <NR1>
0 – フェイル
1 – パス

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スイッチング・スペクトラムの測定結果を問合せます。

:FETCh:GSMedge:SWITching?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SELect], [[:SENSe]:GSMedge:STANdard

:FETCh:GSMedge:TAMPlitude:MCPower? (問合せのみ)

バーストの平均キャリア電力測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。
バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX コマンドで指定します。

構文: :FETCh:GSMedge:TAMPlitude:MCPower?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

無効データは、-1000 として送られます。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストの平均キャリア電力測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。

:FETCh:GSMedge:TAMPlitude:MCPower?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX

:FETCh:GSMedgE:TAMPlitude:PVTime? (問合せのみ)

バーストの電力対時間測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。
バーストは[:SENSe]:GSMedgE:BURSt:INDExコマンドで指定します。

構文: :FETCh:GSMedgE:TAMPlitude:PVTime?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

無効データは、-1000 として送られます。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストの電力対時間測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。

:FETCh:GSMedgE:TAMPlitude:PVTime?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedgE:BURSt:INDEx

:FETCh:GSMedge:TSCode? (問合せのみ)

バーストのトレーニング・シーケンス・コード (TSC: Training Sequence Code) 番号を取得します。バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX コマンドで指定します。

注：このコマンドは、測定項目が平均キャリア電力 (MCPower)、電力対時間(PV-Time)、変調確度 (MACCuracy)、モジュレーション・スペクトラム (MODulation)、またはスイッチング・スペクトラム (SWITching) のいずれかの場合に有効です。これら以外の測定では、“-200, Execution Error” が返ります。

構文： :FETCh:GSMedge:TSCode?

応答： <tsc>::=<NR1> — トレーニング・シーケンス・コード (0 ~7)

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： TSC 番号を問合せます。

:FETCh:GSMedge:TSCode?

次は応答例です。

5

関連コマンド： :INSTRument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX, [:SENSe]:MEASurement

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K サブグループ

cdma2000、オプション25 型のみ

:FETCh:FLCDMA2K|:RLcdma2K コマンドでは、cdma2000 解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:FLCDMA2K :RLCDMA2K	
:ACPower?	
:CCDF?	
:CDPower?	RESult CDPower IQPower
:CHPower?	
:Distribution	
:CCDF?	
:IM?	
:MACCuracy?	RESult MACCuracy EVM MERRor PERRor STABle
:OBWidth?	
:PCCHannel?	
:PVTime?	
:SEMask?	
:SPECTrum	
:ACPower?	
:CHPower?	
:IM?	
:OBWidth?	
:TAMPLitude	
:PVTime?	

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACPower?

引数: なし

応答: <Pass_fail>,<Chpower>,<Acpr1>,<Acpr2>,<Acpr3>,<Acpr4>,<Acpr5>,<Acpr6>,<Acpr7>,<Acpr8>,<Acpr9>,<Acpr10>,<Acpr11>,<Acpr12>

ここで

<Pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果:1はパス、0はフェイル。

<Chpower>::=<NRf>—チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Acpr1>::=<NRf>—1次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr2>::=<NRf>—2次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr3>::=<NRf>—3次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

.

.

.

<Acpr10>::=<NRf>—10次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr11>::=<NRf>—11次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr12>::=<NRf>—12次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、ACPR 測定の結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:ACPower?

次は応答例です。

0,-2.045E+001,-6.461E+001,-4.379E+001,-6.576E+001,-6.753E+001,
-6.79E+001,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,
-1.0E+038,-1.0E+038

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF?

引数: なし

応答: <Mean_power>,<Peak_power>,<Crest_factor>

ここで

<Mean_power>::=<Nrf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]

<Peak_power>::=<Nrf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]

<Crest_factor>::=<Nrf> — クレスト・ファクタ、単位 [dB]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:CCDF?

次は応答例です。

-1.757E+001,-9.53E+000,8.04E+000

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CDPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CDPower? {RESult|CDPower|IQPower}

引数: RESult — 測定結果

CDPower — 各コードの相対／絶対電力値

IQPower — 選択されたコードの I/Q シンボル電力

応答: 各引数ごとに応答を示します。

RESult

<Pass_fail>,<Total_power>,<ACP_max>,<ACP_avg>,<ACP_total>,<No_AC>,<ICP>,<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,<Perror_rms>

ここで

<Pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果:1はパス、0はフェイル。

<Total_power>::=<NRf> — 総チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<ACP_max>::=<NRf> — 最大アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<ACP_avg>::=<NRf> — 平均アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<ACP_total>::=<NRf> — 総アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<No_AC>::=<NR1> — アクティブ・チャンネル数

<ICP>::=<NRf> — 最大インアクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]

<EVM_rms>::=<NRf> — EVM rms 測定値、単位 [%]

<Merror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーク測定値、単位 [%]

<Merror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]

<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーク測定値、単位 [degree]

<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]

CDPower

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<ICpower(1)>,<QCpower(1)>,...<ICpower(n)>,<QCpower(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<ICpower(n)> および <QCpower(n)> — 各コードの相対電力値または絶対電力値。メイン・ビューの垂直軸単位が RELative に設定されているときは相対電力値が選択されます。また、メイン・ビューの垂直軸単位が ABSolute に設定されているときは絶対電力値が選択されます。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット、n: 最大 128

FLCDMA2K RC1/RC2 : n= 最大 64、RC3/RC4/RC5 : n=最大 128

RLCDMA2K RC3/RC4 : n= 最大 128

IQPower

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Ipower(1)>,<Qpower(1)>,...<Ipower(n)>,<Qpower(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ipower(n)> および <Qpower(n)> — 選択されたコードでの各 I/Q シンボル電力。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

測定レベル:

チップ : n= 最大 1536

シンボル:

FLCDMA2K RC1/RC2 : n= 最大 24、RC3/RC4/RC5 : n=最大 382

RLCDMA2K RC3/RC4 : n= 最大 768

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定結果を取得します。

```
:FETCh:FLCDMA2K:CDPower? RESult
```

次は応答例です。

```
0,-3.32076616615568E+001,-2.33279216292314E-004,
-2.33279216292314E-004,-2.33279216292314E-004,16,
-5.53129098248105E+001,1.05323582245638E-001,9.3576108554992E-002,
-9.71313482041643E-002,7.27630326866468E-002,4.19705794596374E-002,
3.37042668803851E-002
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CHPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CHPower?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<Chpower>,<Power_density>

ここで

<pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<Chpower>::=<Nrf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Power_density>::=<Nrf> — 電力密度測定値、単位 [dBm/Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定の結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:CHPower?

次は応答例です。

1,-2.0339E+001,-8.1238E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DISTriBution:CCDF? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定のディストリビューション・データを取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DISTriBution:CCDF?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 10001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:DISTriBution:CCDF?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:IM? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:IM?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<L_channel>,<U_channel>,<L3_lower>,<L3_upper>,<U3_lower>,<U3_upper>,<L5_lower>,<L5_upper>,<U5_lower>,<U5_upper>

ここで

<pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果:1はパス、0はフェイル

<L_channel>::=<NRf>—下側チャンネル測定値、単位 [dB]

<U_channel>::=<NRf>—上側チャンネル測定値、単位 [dB]

<L3_lower>::=<NRf>—下側3次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L3_upper>::=<NRf>—下側3次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U3_lower>::=<NRf>—上側3次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U3_upper>::=<NRf>—上側3次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<L5_lower>::=<NRf>—下側5次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L5_upper>::=<NRf>—下側5次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U5_lower>::=<NRf>—上側5次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U5_upper>::=<NRf>—上側5次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、相互変調測定の結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:IM?

次は応答例です。

1,-2.061E+001,-5.501E+001,-1.66E+001,1.78E+001,-4.76E+001,-1.32E+001,
-4.73E+001,-1.29E+001,-5.1E+001,-1.66E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy? { RESult | MACCuracy | EVM | MERRor | PERRor | STABle }

引数:

RESult	測定結果
MACCuracy	各シンボルの I/Q 位置
EVM	各シンボルの EVM
MERRor	各シンボルの振幅誤差
PERRor	各シンボルの位相誤差
STABle	各シンボル・データ

応答: 各引数ごとに応答を示します。

RESult

```
<Pass_fail>,<Rho>,<Peak_CDE>,<CDE_code>,<CDE_I/Q>,<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,<Perror_rms>,<Ferror>,<Org_offset>,<Tau>
```

ここで

```
<Pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル
<Rho>::=<NRf> — 波形品質測定値 (Rho)
<Peak_CDE>::=<NRf> — 測定値、単位 [dB]
<CDE_code>::=<NR1> — CDE コード番号
<CDE_I/Q>::=<NR1> — CDE の IQ チャンネル; 0: ドント・ケア、1: I、2: Q
<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]
<EVM_rms>::=<NRf> — EVM rms 測定値、単位 [%]
<Merror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーク測定値、単位 [%]
<Merror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]
<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーク測定値、単位 [degree]
<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]
<Ferror>::=<NRf> — 周波数誤差測定値、単位 [Hz]
<Org_offset>::=<NRf> — 原点オフセット測定値、単位 [Hz]
<Tau>::=<NRf> — タウ測定値、単位 [s]
```

Tau は、フォワード・リンクでのみ有効です。

MACCuracy

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Iposition(1)>,<Qposition(1)>,...<Iposition(n)>,<Qposition(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Iposition(n)> および <Qposition(n)> — 各シンボルの I/Q 位置。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

測定レベル:

チップ: n= 最大 1536

シンボル:

FLCDMA2K	RC1/RC2 : n= 最大 24、RC3/RC4/RC5 : n=最大 384
RLCDMA2K	RC3/RC4 : n= 最大 768

EVM

#<Num_digit>,<Num_byte>,<EVM(1)>,...<EVM(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<EVM(n)> — 各シンボルの EVM。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

チップ: n= 最大 1536

シンボル:

FLCDMA2K	RC1/RC2 : n= 最大 24、RC3/RC4/RC5 : n=最大 384
RLCDMA2K	RC3/RC4 : n= 最大 768

MERRor

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Merror(1)>,...<Merror(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merror(n)> — 各シンボルの振幅誤差。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

チップ: n= 最大 1536

シンボル:

FLCDMA2K	RC1/RC2 : n= 最大 24、RC3/RC4/RC5 : n=最大 384
RLCDMA2K	RC3/RC4 : n= 最大 768

PERRor

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Perror(1)>,...<Perror(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perror(n)> — 各シンボルの位相誤差。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

チップ : n= 最大 1536

シンボル :

FLCDMA2K	RC1/RC2 : n= 最大 24、RC3/RC4/RC5 : n=最大 384
RLCDMA2K	RC3/RC4 : n= 最大 768

STABle

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Symbol(1)>,...<ICpower(n)>,<Symbol(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Symbol(n)> — 各シンボル・データ。IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。FLCDMA2K では、この値は Measurement Level が Symbol に設定されている場合にのみ有効です。また、RLCDMA2K では、この値は Measurement Level が Symbol に設定され、Radio Configuration が RC1/RC2 に設定されている場合にのみ有効です。それ以外の場合は、-1000 が返されます。

RLCDMA2K (RC1/RC2) : n= 最大 1536

Measurement Level が Symbol に設定されている場合 :

FLCDMA2K	RC1/RC2 : n= 最大 24、RC3/RC4/RC5 : n= 最大 384
RLCDMA2K	RC3/RC4 : n= 最大 768

測定モード : DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例 : cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定の結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:MACCuracy? RESult

次は応答例です。

```
1,9.99999124351958E-001,-5.27257858114915E+001,28,1,
1.05323582245638E-001,9.3576108554992E-002,-9.71313482041643E-002,
7.27630326866468E-002,4.19705794596374E-002,3.37042668803851E-002,
-2.75421142578065E+001,-1.23769373237522E+002,0.0E+000
```

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:OBWidth? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、占有帯域幅測定結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:OBWidth?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<obw>

ここで

<pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<obw>::=<Nrf> — 占有帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定の結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:OBWidth?

次は応答例です。

1,1.27333E+006

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でパイロット/コード・チャンネル測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<No_AC>{,<SF(n)>,<Code_num(n)>,<Power(n)>,<Timing(n)>,<Phase(n)>,<I_code(n)>,<Q_code(n)>}

ここで

<pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<No_AC>::=<NRf> — アクティブ・チャンネルの総数。

<SF(n)>::=<NRf> — 拡散係数

<Code_num(n)>::=<NR1> — コード番号

<Power(n)>::=<NRf> — コード・ドメイン・パワー測定値、単位 [dBm]

<Timing(n)>::=<NRf> — パイロット・チャンネル対時間測定値、単位 [s]

<Phase(n)>::=<NRf> — パイロット・チャンネル対位相測定値、単位 [rad]

<I_code(n)>::=<NRf> — I 位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]

<Q_code(n)>::=<NRf> — Q 位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット/コード・チャンネル測定結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:PCCHannel?

次は応答例です。

1,2,6,2,-3.62181797592003E+001,7.95659919582192E-009,
2.46966153831218E-003,-7.2188511413898E+001,-7.25107168870122E+001,6,
34,-3.62224724925938E+001,-7.4505805947922E-010,
-3.11469251014973E-003,-7.1436502569957E+001,-6.58634460703051E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:RLCDMA2K:PVTime? (問合せのみ)

cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定結果を取得します。

構文: :FETCh:RLCDMA2K:PVTime?

引数: なし

応答: <pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1はパス、0はフェイル。

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定結果を取得します。

:FETCh:RLCDMA2K:PVTime?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SEMask? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・エミッションマスク測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SEMask?

引数: なし

応答: <pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:SEMask?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:ACPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:ACPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:SPECTrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:CHPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でチャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:CHPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

```
:FETCh:FLCDMA2K:SPECTrum:ACPower?
```

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:IM? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:IM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得します。

```
:FETCh:FLCDMA2K:SPECTrum:IM?
```

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECtrum:OBWidth? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、占有帯域幅測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECtrum:OBWidth?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:FLCDMA2K:SPECtrum:OBWidth?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:RLCDMA2K:TAMPlitude:PVTime? (問合せのみ)

cdma2000 リバース・リンク解析でゲートッド・アウトプット・パワー 測定の時間領域振幅データを取得します。

構文: :FETCh:RLCDMA2K:TAMPlitude:PVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析でゲートッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

:FETCh:RLCDMA2K:TAMPlitude:PVTime?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 サブグループ

1xEV-DO、オプション26 型のみ

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 コマンドでは、1xEV-DO解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:FL1XEVD0 :RL1XEVD0	
:ACPower?	
:CCDF?	
:CDPower?	RESult CDPower IQPower
:CHPower?	
:Distribution	
:CCDF?	
:IM?	
:MACCuracy?	RESult MACCuracy EVM MERRor PERRor STABle
:OBWidth?	
:PCCHannel?	
:PVTime?	
:SEMask?	
:SPECTrum	
:ACPower?	
:CHPower?	
:IM?	
:OBWidth?	
:TAMPLitude	
:PVTime?	

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:ACPower? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:ACPower?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<Chpower>,<Acpr1>,<Acpr2>,<Acpr3>,<Acpr4>,<Acpr5>,<Acpr6>,<Acpr7>,<Acpr8>,<Acpr9>,<Acpr10>,<Acpr11>,<Acpr12>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル。

<Chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Acpr1>::=<NRf> — 1 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr2>::=<NRf> — 2 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr3>::=<NRf> — 3 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

.

.

.

<Acpr10>::=<NRf> — 10 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr11>::=<NRf> — 11 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr12>::=<NRf> — 12 次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、ACPR 測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:ACPower?

次は応答例です。

0,-2.045E+001,-6.461E+001,-4.379E+001,-6.576E+001,-6.753E+001,
-6.79E+001,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,
-1.0E+038,-1.0E+038

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF?

引数: なし

応答: <Mean_power>,<Peak_power>,<Crest_factor>

ここで

<Mean_power>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]

<Peak_power>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]

<Crest_factor>::=<NRf> — クレスト・ファクタ、単位 [dB]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク・スタンダードにおいて、CCDF 測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:CCDF?

次は応答例です。

-1.757E+001,-9.53E+000,8.04E+000

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower? { RESult | CDPower | IQPower }

引数: RESult — 測定結果

CDPower — 各コードの相対/絶対電力値

IQPower — 選択されたコードの I/Q シンボル電力

応答: 各引数ごとに応答を示します。

FL1XEVD0 の場合**RESult**

<pass_fail>,<Total_power>,<ACP_max>,<ACP_avg>,<ACP_total>,<ICP>,<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,<Perror_rms>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<Total_power>::=<NRf> — 総チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<ACP_max>::=<NRf> — 最大アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<ACP_avg>::=<NRf> — 平均アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<ACP_total>::=<NRf> — 総アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<ICP>::=<NRf> — 最大インアクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]

<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]

<EVM_rms>::=<NRf> — EVM rms 測定値、単位 [%]

<Merror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーク測定値、単位 [%]

<Merror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]

<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーク測定値、単位 [degree]

<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]

CDPower

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<ICpower(1)>,<QCpower(1)>,...<ICpower(n)>,<QCpower(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<ICpower(n)> および <QCpower(n)> — 各コードの相対電力値または絶対電力値。

メイン・ビューの垂直軸単位が RELative に設定されているときは、相対電力値が選択されます。また、メイン・ビューの垂直軸単位が ABSolute に設定されているときは、絶対電力値が選択されます。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 640。

チャンネル・タイプ MAC : n=64、パイロット : n=32、データ : n= 最大 16、

プリアンブル : n= 最大 32

IQPower

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<Ipower(1)>,<Qpower(1)>,...<Ipower(n)>,<Qpower(n)>
```

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ipower(n)> および <Qpower(n)> — 選択されたコードでの各 I/Q シンボル電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1024。

表 2-65: n の値

チャンネル	チップ	シンボル
すべてを含む	1024	0
MAC	128	2
パイロット	96	3
データ	最大 800	最大 50
プリアンブル	最大 800	最大 25

RL1XEVD0 の場合**RESult**

```
<pass_fail>,<Total_power>,<ACP_max>,<ACP_avg>,<ACP_total>,<ICP>,<Num_AC>,<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,<Perror_rms>,<PCP2>,<RRI_CP>,<ACK_CP>,<DRC_CP>,<Data_CP>
```

ここで

```
<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル。
<Total_power>::=<NRf> — 総チャンネル電力測定値、単位 [dBm]
<ACP_max>::=<NRf> — 最大アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<ACP_avg>::=<NRf> — 平均アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<ACP_total>::=<NRf> — 総アクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<ICP>::=<NRf> — 最大インアクティブ・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<Num_AC>::=<NR1> — アクティブ・チャンネル数
<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]
<EVM_rms>::=<NRf> — EVM rms 測定値、単位 [%]
<Merror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーク測定値、単位 [%]
<Merror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]
<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーク測定値、単位 [degree]
<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]
<PCP2>::=<NRf> — RRI チャンネルを除いたパイロット・チャンネル電力測定値、単位 [dBc]
<RRI_CP>::=<NRf> — パイロット・チャンネルを除いた RRI チャンネル電力測定値、単位 [dB]
<ACK_CP>::=<NRf> — ACK チャンネル電力測定値、単位 [dB]
<DRC_CP>::=<NRf> — DRC チャンネル電力測定値、単位 [dB]
<Data_CP>::=<NRf> — データ・チャンネル電力測定値、単位 [dB]
```

CDPower

```
#<Num_digit>,<Num_byte>,<ICpower(1)>,<QCpower(1)>,...<ICpower(n)>,<QCpower(n)>
```

ここで

```
<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数
<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数
<ICpower(n)> および <QCpower(n)> — 各コードの相対電力値または絶対電力値。
メイン・ビューの垂直軸単位が RELative に設定されているときは、相対電力値が
選択されます。また、メイン・ビューの垂直軸単位が ABSolute に設定されている
ときは、絶対電力値が選択されます。
IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 16。
```

IQPower

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Ipower(1)>,<Qpower(1)>,...<Ipower(n)>,<Qpower(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ipower(n)> および <Qpower(n)> — 選択されたコードでの各 I/Q シンボル電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1024。チップ : n=1024、シンボル : n=256

測定モード : DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:CDPower? RESult

次は応答例です。

0,-3.32076616615568E+001,-2.33279216292314E-004,
-2.33279216292314E-004,-2.33279216292314E-004,-5.53129098248105E+001,
1.05323582245638E-001,9.3576108554992E-002,-9.71313482041643E-002,
7.27630326866468E-002,4.19705794596374E-002,3.37042668803851E-002

関連コマンド : :INSTRument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CHPower? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CHPower?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<Chpower>,<Power_density>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<Chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Power_density>::=<NRf> — 電力密度測定値、単位 [dBm/Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:CHPower?

次は応答例です。

1,-2.0339E+001,-8.1238E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DISTriBution:CCDF? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定のディストリビューション・データを取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DISTriBution:CCDF?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 10001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

```
:FETCh:FL1XEVD0:DISTriBution:CCDF?
```

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<L_channel>,<U_channel>,<L3_lower>,<L3_upper>,<U3_lower>,<U3_upper>,<L5_lower>,<L5_upper>,<U5_lower>,<U5_upper>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<L_channel>::=<NRf> — 下側チャンネル測定値、単位 [dB]

<U_channel>::=<NRf> — 上側チャンネル測定値、単位 [dB]

<L3_lower>::=<NRf> — 下側 3 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L3_upper>::=<NRf> — 下側 3 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U3_lower>::=<NRf> — 上側 3 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U3_upper>::=<NRf> — 上側 3 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<L5_lower>::=<NRf> — 下側 5 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L5_upper>::=<NRf> — 下側 5 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U5_lower>::=<NRf> — 上側 5 次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U5_upper>::=<NRf> — 上側 5 次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:IM?

次は応答例です。

1,-2.061E+001,-5.501E+001,-1.66E+001,1.78E+001,-4.76E+001,-1.32E+001,
-4.73E+001,-1.29E+001,-5.1E+001,-1.66E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MACCuracy? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MACCuracy? {RESuIt|MACCuracy|EVM|MERRor|PERRor|STABle}

引数:

RESuIt	測定結果
MACCuracy	各シンボルの I/Q 位置
EVM	各シンボルの EVM
MERRor	各シンボルの振幅誤差
PERRor	各シンボルの位相誤差
STABle	各シンボル・データ

応答: 各引数ごとに応答を示します。

FL1XEVD0 の場合

RESuIt

```
<pass_fail>,<Rho>,<Rho2>,<Peak_CDE>,<CDE_code>,<CDE_I/Q>,<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,<Perror_rms>,<Ferror>,<Org_offset>,<Tau>
```

ここで

```
<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル
<Rho>::=<NRf> — 波形品質測定値 (Rho)
<Rho2>::=<NRf> — 波形品質測定値 (Rho2) この値は、Measurement Level が Chip に設定され、Channel Type が Overall に設定されている場合に有効です。それ以外の場合は、-1000 が返されます。
<Peak_CDE>::=<NRf> — 測定値、単位 [dB]
<CDE_code>::=<NR1> — CDE コード番号
<CDE_I/Q>::=<NR1> — CDE の IQ チャンネル; 0: ドント・ケア、1: I、2: Q
<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]
<EVM_rms>::=<NRf>—EVM rms 測定値、単位 [%]
<Merror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーク測定値、単位 [%]
<Merror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]
<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーク測定値、単位 [degree]
<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]
<Ferror>::=<NRf> — 周波数誤差測定値、単位 [Hz]
<Org_offset>::=<NRf> — 原点オフセット測定値、単位 [Hz]
<Tau>::=<NRf> — タウ測定値、単位 [s]
```

MACCuracy

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Iposition(1)>,<Qposition(1)>,...<Iposition(n)>,<Qposition(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Iposition(n)> および <Qposition(n)> — 各シンボルの I/Q 位置。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1024。

表 2-66: n の値

チャンネル	チップ	シンボル
すべてを含む	1024	0
MAC	128	2
パイロット	96	3
データ	最大 800	最大 50
プリアンブル	最大 800	最大 25

EVM

#<Num_digit>,<Num_byte>,<EVM(1)>,...<EVM(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<EVM(n)> — 各シンボルの EVM。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1024。表2-66 参照。

MERRor

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Merror(1)>,...<Merror(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merror(n)> — 各シンボルの振幅誤差。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1024。表2-66 参照。

PERRor

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Perror(1)>,...<Perror(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perror(n)> — 各シンボルの位相誤差。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1024。表2-66 参照。

STABle

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Symbol(1)>,...<ICpower(n)>,<Symbol(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Symbol(n)> — 各シンボル・データ。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

この値は、Measurement Level が Symbol に設定されている場合にのみ有効です。

それ以外の場合は、-1000 が返されます。

チャンネル・タイプ MAC : n=2、パイロット : n=3、データ : n= 最大 50、

プリアンブル : n= 最大 25

RL1XEVD0 の場合

RESult

<pass_fail>,<Rho>,<Peak_CDE>,<CDE_code>,<CDE_I/Q>,<EVM_peak>,<EVM_rms>,<Merror_peak>,<Merror_rms>,<Perror_peak>,<Perror_rms>,<Ferror>,<Org_offset>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果 : 1 はパス、0 はフェイル

<Rho>::=<NRf> — 波形品質測定値 (Rho)

<Peak_CDE>::=<NRf> — 測定値、単位 [dB]

<CDE_code>::=<NR1> — CDE コード番号

<CDE_I/Q>::=<NR1> — CDE の IQ チャンネル ; 0 : ドント・ケア、1 : I、2 : Q

<EVM_peak>::=<NRf> — EVM ピーク測定値、単位 [%]

<EVM_rms>::=<NRf>—EVM rms 測定値、単位 [%]

<Merror_peak>::=<NRf> — 振幅誤差ピーク測定値、単位 [%]

<Merror_rms>::=<NRf> — 振幅誤差 rms 測定値、単位 [%]

<Perror_peak>::=<NRf> — 位相誤差ピーク測定値、単位 [degree]

<Perror_rms>::=<NRf> — 位相誤差 rms 測定値、単位 [degree]

<Ferror>::=<NRf> — 周波数誤差測定値、単位 [Hz]

<Org_offset>::=<NRf> — 原点オフセット測定値、単位 [Hz]

MACCuracy

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Iposition(1)>,<Qposition(1)>,...<Iposition(n)>,<Qposition(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Iposition(n)> および <Qposition(n)> — 各シンボルの I/Q 位置。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 1024。

測定レベル チップ : n=1024、シンボル : n=256

EVM

#<Num_digit>,<Num_byte>,<EVM(1)>,...<EVM(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<EVM(n)> — 各シンボルの EVM。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 1024。

測定レベル チップ : n=1024、シンボル : n=256

MERRor

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Merror(1)>,...<Merror(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merror(n)> — 各シンボルの振幅誤差。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 1024。

測定レベル チップ : n=1024、シンボル : n=256

PERRor

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Perror(1)>,...<Perror(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perror(n)> — 各シンボルの位相誤差。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 1024。

測定レベル チップ : n=1024、シンボル : n=256

STABle

#<Num_digit>,<Num_byte>,<Symbol(1)>,...<ICpower(n)>,<Symbol(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Symbol(n)> — 各シンボル・データ。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

この値は、Measurement Level が Symbol に設定されている場合にのみ有効です。

それ以外の場合は、-1000 が返されます。n= 最大 256

測定モード : DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:MACCuracy? RESult

次は応答例です。

```
1,9.99999124351958E-001,-1.0E+003,-5.27257858114915E+001,28,1,
1.05323582245638E-001,9.3576108554992E-002,-9.71313482041643E-002,
7.27630326866468E-002,4.19705794596374E-002,3.37042668803851E-002,
-2.75421142578065E+001,-1.23769373237522E+002,0.0E+000
```

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:OBWidth? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、占有帯域幅測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:OBWidth?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<obw>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — リミット・テスト結果: 1はパス、0はフェイル

<obw>::=<Nrf> — 占有帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:OBWidth?

次は応答例です。

1,1.27333E+006

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:PCCHannel? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット/コード・チャンネル測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:PCCHannel?

引数: なし

応答: フォワード・リンクとリバース・リンクとで内容が異なります。

FL1XEVD0

```
<pass_fail>,<Total_AC>{,<SF(n)>,<Code_num(n)>,<Power(n)>,<Timing(n)>,<Phase(n)>,<I_code(n)>,<Q_code(n)>}
```

ここで

```
<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果：1はパス、0はフェイル
<Total_AC>::=<NRf> — アクティブ・チャンネルの総数
(MAC : n=2 ~ 60、データ : n=16、プリアンブル : n=1)
<SF(n)>::=<NRf> — 拡散係数
<Code_num(n)>::=<NR1> — コード番号
<Power(n)>::=<NRf> — コード・ドメイン・パワー測定値、単位 [dBm]
<Timing(n)>::=<NRf> — パイロット・チャンネル対時間測定値、単位 [s]
<Phase(n)>::=<NRf> — パイロット・チャンネル対位相測定値、単位 [rad]
<I_code(n)>::=<NRf> — I位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]
<Q_code(n)>::=<NRf> — Q位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]
```

RL1XEVD0

```
<pass_fail>,<Total_AC>{,<SF(n)>,<Code_num(n)>,<Power(n)>,<Timing(n)>,<Phase(n)>,<I_code(n)>,<Q_code(n)>}
```

ここで

```
<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果：1はパス、0はフェイル
<Total_AC>::=<NRf> — アクティブ・チャンネルの総数 (n=1 ~ 4)
<SF(n)>::=<NRf> — 拡散係数
<Code_num(n)>::=<NR1> — コード番号
<Power(n)>::=<NRf> — コード・ドメイン・パワー測定値、単位 [dBm]
<Timing(n)>::=<NRf> — パイロット・チャンネル対時間測定値、単位 [s]
<Phase(n)>::=<NRf> — パイロット・チャンネル対位相測定値、単位 [rad]
<I_code(n)>::=<NRf> — I位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]
<Q_code(n)>::=<NRf> — Q位相のコード・ドメイン・エラー測定値、単位 [dBm]
```

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、パイロット/コード・チャンネル測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:PCCHannel?

次は応答例です。

1,2,6,2,-3.62181797592003E+001,7.95659919582192E-009,
2.46966153831218E-003,-7.2188511413898E+001,-7.25107168870122E+001,6,
34,-3.62224724925938E+001,-7.4505805947922E-010,
-3.11469251014973E-003,-7.1436502569957E+001,-6.58634460703051E+001

関連コマンド : :INSTRument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0:PVTime? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲートッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

構文 : :FETCh:FL1XEVD0:PVTime?

引数 : なし

応答 : <pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果 : 1はパス、0はフェイル。

測定モード : DEMFL1XEVD0

使用例 : 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲートッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:PVTime?

次は応答例です。

1

関連コマンド : :INSTRument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMAsk? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定の結果を取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMAsk?

引数: なし

応答: <pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1はパス、0はフェイル

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:SEMAsk?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:ACPpower? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:ACPpower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:SPECTrum:ACPpower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:CHPower? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:CHPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:SPECtrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:IM? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:IM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得します。

```
:FETCh:FL1XEVD0:SPECTrum:IM?
```

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:OBWidth? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で占有帯域幅測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:OBWidth?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2で規定された4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定のスเปクトラム波形データを取得します。

```
:FETCh:FL1XEVD0:SPECtrum:OBWidth?
```

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:FL1XEVD0:TAMPlitude:PVTime? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー 測定の時
時間領域振幅データを取得します。

構文: :FETCh:FL1XEVD0:TAMPlitude:PVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の結果
を取得します。

:FETCh:FL1XEVD0:TAMPlitude:PVTime?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:DLR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5、オプション27 型のみ

:FETCh:DLR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンク解析の測定結果を取得します。

:FETCh:DLR5_3GPP コマンド・サブグループで最新のデータについて FETCh 操作を実行するときは、[:SENSe]:DLR5_3GPP[:IMMEDIATE] コマンドを使用します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:DLR5_3GPP?	CSHortcode CSYMBOL CTSLOT SCONSTE EVM AEVM PEVM MERROR AMERROR PMERROR PERROR APERROR PPEROR RHO FERROR OOFFSET STABLE TSNUMBER SSCHANNEL SCGROUP SCNUMBER TLENGTH PCDE PCDE CEVM CMERROR CPEROR CRHO COOF

:FETCh:DLR5_3GPP? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンク変調解析の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:DLR5_3GPP? { CSHortcode | CSYMBOL | CTSLOT | SCONSTE | EVM | AEVM | PEVM | MERROR | AMERROR | PMERROR | PERROR | APERROR | PPERROR | RHO | FERROR | OOFFSET | STABLE | TSNUMBER | SSCHANNEL | SCGROUP | SCNUMBER | TLENGTH | PCDE | CEVM | CMERROR | CPERROR | CRHO | COOF }

引数: 各引数について問合せ内容を下表に示します。

表 2-67: 3GPP-R5 ダウンリンク解析結果の取得

引数	問合せの内容
CSHortcode	指定 TS の各ショート・コード電力
CSYMBOL	指定 TS/SC の各シンボル電力
CTSLOT	指定 SC の各タイム・スロットの電力
SCONSTE	指定 TS/SC のシンボル位置データ
EVM	指定 TS/SC の EVM (Error Vector Magnitude) 測定結果
AEVM	指定 TS/SC の EVM の RMS 値
PEVM	指定 TS/SC の EVM のピーク値とそのシンボル番号
MERROR	指定 TS/SC の振幅誤差
AMERROR	指定 TS/SC の振幅誤差の RMS 値
PMERROR	指定 TS/SC の振幅誤差のピーク値とそのシンボル番号
PERROR	指定 TS/SC の位相誤差
APERROR	指定 TS/SC の位相誤差の RMS 値
PPERROR	指定 TS/SC の位相誤差のピーク値とそのシンボル番号
RHO	指定 TS/SC の波形品質 (ρ) の値
FERROR	指定 TS の周波数誤差
OOFFSET	指定 TS/SC の原点オフセットの値
STABLE	指定 TS/SC のシンボル・テーブルのデータ
TSNUMBER	指定 TS の無線フレーム内のスロット番号
SSCHANNEL	指定 TS の SCH (Secondary Synchronization Channel) 番号
SCGROUP	指定 TS のスクランプリング・コード・グループ
SCNUMBER	指定 TS のスクランプリング・コード番号
TLENGTH	解析した TS の数
PCDE	指定 TS の PCDE (Peak Code Domain Error) の値とその SC の値
CEVM	指定 TS のチップ EVM の RMS 値とピーク値
CMERROR	指定 TS のチップ振幅誤差の RMS 値とピーク値
CPERROR	指定 TS のチップ位相誤差の RMS 値とピーク値
CRHO	指定 TS のチップ波形品質の値
COOF	指定 TS のチップ原点オフセットの値

* TS : タイム・スロット、SC : ショート・コード

タイム・スロットは、:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:TSLOTコマンドで指定します。
ショート・コードは、:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SHORTcodeコマンドで指定します。

応 答： 下記に、各引数ごとの応答を示します。

CSHortcode

#<Num_digit><Num_byte><Cpwr(1)><Cpwr(2)>...<Cpwr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Cpwr(n)> — 各ショート・コードの相対/絶対電力値、単位 [dB/dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n：最大 512

CSYMBOL

#<Num_digit><Num_byte><Cpwr(1)><Cpwr(2)>...<Cpwr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Cpwr(n)> — 各ショート・コードの相対/絶対電力値、単位 [dB/dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n：最大 640

CTSLot

#<Num_digit><Num_byte><Cpwr(1)><Cpwr(2)>...<Cpwr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Cpwr(n)> — 各ショート・コードの相対/絶対電力値、単位 [dB/dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n：最大 16000

SCONste

#<Num_digit><Num_byte><Ip(1)><Qp(1)>...<Ip(n)><Qp(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ip(n)> — シンボルの I 座標位置、単位 [V]

<Qp(n)> — シンボルの Q 座標位置、単位 [V]

<Ip(1)> と <Qp(1)> は IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。n：最大 640

EVM

#<Num_digit><Num_byte><Evm(1)><Evm(2)>...<Evm(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Evm(n)> — シンボルの EVM の値、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n: 最大 640**AEVM**

<aevm>::=<NRf> — EVM の RMS 値、単位 [%]

PEVM

<pevm>,<symb>

ここで

<pevm>::=<NRf> — EVMのピーク値、単位 [%]

<symb>::=<NR1> — EVMのピーク値のシンボル番号

MERRor

#<Num_digit><Num_byte><Merr(1)><Merr(2)>...<Merr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merr(n)> — シンボルの振幅誤差の値、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n: 最大 640**AMERror**

<amer>::=<NRf> — 振幅誤差の RMS 値、単位 [%]

PMERror

<pmer>,<symb>

ここで

<pmer>::=<NRf> — 振幅誤差のピーク値、単位 [%]

<symb>::=<NR1> — 振幅誤差のピーク値のシンボル番号

PERRor

#<Num_digit><Num_byte><Perr(1)><Perr(2)>...<Perr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perr(n)> — シンボルの位相誤差の値、単位 [deg]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n: 最大 640

APERror

<pmer>::=<NRf>: 位相誤差の RMS 値、単位 [deg]

PPERror

<pmer>,<symp>

ここで

<pmer>::=<NRf> — 位相誤差のピーク値、単位 [deg]

<symp>::=<NRf> — 位相誤差のピーク値のシンボル番号

RHO

<rho>::=<NRf> — 波形品質の測定値

FERRor

<ferr>::=<NRf> — 周波数誤差の測定値、単位 [Hz]

OOFFset

<ooff>::=<NRf> — 原点オフセットの測定値、単位 [dB]

STABLe

#<Num_digit><Num_byte><Sym(1)><Sym(2)>...<Sym(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Sym(n)>::=<NR1> — シンボル・データ、n: 最大 640

TSNumber

<tsnum>::=<NR1> — 無線フレーム内スロット番号

SSCHannel

<ssch>::=<NR1> — SSCH (Secondary Synchronization Code) 番号

SCGRoup

<scgr>::=<NR1> — スクランプリング・コード・グループ

SCNumber

<scnum>::=<NR1> — スクランプリング・コード番号

TLEngth

<tlen>::=<NR1> — 解析したタイム・スロットの数

PCDE

<pcde>,<scod>

ここで

<pcde>::=<NRf> — PCDE (Peak Code Domain Error) の値、単位 [dB]

<scod>::=<NRf> — PCDE を示すショート・コードの値

CEVM`<cevma>,<cevmp>`

ここで

`<cevma>::=<NRf>` — チップ EVM の RMS 値、単位 [%]`<cevmp>::=<NRf>` — チップ EVM のピーク値、単位 [%]**CMERror**`<cmera>,<cmerp>`

ここで

`<cmera>::=<NRf>` — チップ振幅誤差の RMS 値、単位 [%]`<cmerp>::=<NRf>` — チップ振幅誤差のピーク値、単位 [%]**CPERror**`<cpera>,<cperp>`

ここで

`<cpera>::=<NRf>` — チップ EVM の RMS 値、単位 [%]`<cperp>::=<NRf>` — チップ EVM のピーク値、単位 [%]**CRHO**`<crho>::=<NRf>` — チップ波形品質の値 (ρ)、単位なし**COOF**`<coof>::=<NRf>` — チップ原点オフセットの値、単位 [dB]**測定モード :** DEMDLR5_3G**使用例 :** 各ショート・コードの電力測定結果を取得します。`:FETCh:DLR5_3GPP? CSHortcode`

次の応答例では、512バイトのデータが返ります。

`#3512xxxx...`**関連コマンド :** `:DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SHORtcode, :DISPlay:DL3DLR5_3GPPGpp:AVIew:TSLot, :INSTRument[:SELEct]`

:FETCh:SADLR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5、オプション27 型のみ

:FETCh:DLR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析の測定結果を取得します。

:FETCh:SADLR5_3GPP コマンド・サブグループで最新のデータについて FETCh 操作を実行するときは、:READ コマンドを使用してください。:READ コマンドは、新たに入力信号を取り込み、そのデータから測定結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:SADLR5_3GPP	
:ACLR?	
:CHPower?	
:OBWidth?	
:SEMask?	
:SPECTrum?	
:ACLR?	
:CHPower?	
:OBWidth?	
:SEMask?	

:FETCh:SADLR5_3GPP:ACLR? (問合せのみ)

3GPP-R5ダウンリンクACLR (Adjacent Channel Leakage Power Ratio : 隣接チャンネル漏洩電力比) 測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SADLR5_3GPP:ACLR?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<chpower>,<ac1rm1>,<ac1rp1>,<ac1rm2>,<ac1rp2>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果、1: パス、0: フェイル

<chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<ac1rm1>::=<NRf> — 下側1次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rp1>::=<NRf> — 上側1次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rm2>::=<NRf> — 下側2次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rp2>::=<NRf> — 上側2次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

測定モード: SADLR5_3G

使用例: 3GPP-R5ダウンリンク ACLR の測定結果を取得します。

:FETCh:SADLR5_3GPP:ACLR?

次は応答例です。

-1.081,-68.420,-68.229,-74.506,-74.462

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:FETCh:SADLR5_3GPP:CHPower? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンクのチャンネル電力測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SADLR5_3GPP:CHPower?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<chpower>,<power_density>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果、1: パス、0: フェイル

<chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<power_density>::=<NRf> — 電力密度測定値、単位 [dBm/Hz]

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定結果を取得します。

:FETCh:SADLR5_3GPP:CHPower?

次は応答例です。

1,-2.0375E+001,-8.1274E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SADLR5_3GPP:OBWidth? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンクの OBW (占有帯域幅) 測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SADLR5_3GPP:OBWidth?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<obw>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果、1: パス、0: フェイル

<obw>::=<NRf> — 占有帯域幅、単位[Hz]

測定モード: SADLR5_3G

使用例: OBW測定結果を取得します。

:FETCh:SADLR5_3GPP:OBWidth?

次は応答例です。

1,1.27333E+006

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:FETCh:SADLR5_3GPP:SEMask? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンク のスペクトラム放射マスク測定結果を取得します。

構文: :FETCh:SADLR5_3GPP:SEMask?

引数: なし

応答: <pass_fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果、1: パス、0: フェイル。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定結果を取得します。パスの場合は 1 を返します。

:FETCh:SADLR5_3GPP:SEMask?

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECtrum:ACLR? (問合せのみ)

3GPP-R5ダウンリンクACLR (Adjacent Channel Leakage Power Ratio : 隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:SADLR5_3GPP:SPECtrum:ACLR?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001。

無効データは -1000 を返します。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: ACLR測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECtrum:ACLR?

次は応答例です。

#510240xxx... (1024バイト・データ)

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:CHPower? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンクのチャンネル電力測定で、スペクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:CHPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 240001。

無効データは -1000 を返します。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:CHPower?

次は応答例です。

#510240xxx... (1024バイト・データ)

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECtrum:OBWidth? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンク OBW (Occupied Bandwidth : 占有帯域幅) 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:SADLR5_3GPP:SPECtrum:OBWidth?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001。

無効データは -1000 を返します。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: OBW 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECtrum:OBWidth?

次は応答例です。

#510240xxx... (1024バイト・データ)

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:SEMAsk? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム放射マスク測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:SEMAsk?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 240001。

無効データは -1000 を返します。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:FETCh:SADLR5_3GPP:SPECTrum:SEMAsk?

次は応答例です。

#510240xxx... (1024 バイト・データ)

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:ULR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5、オプション27 型のみ

:FETCh:ULR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 アップリンク解析の測定結果を取得します。

:FETCh:ULR5_3GPPコマンド・サブグループで最新のデータについて FETCh 操作を実行するときは、[:SENSe]:ULR5_3GPP[:IMMediate]コマンドを使用します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:ULR5_3GPP?	ANACK

:FETCh:ULR5_3GPP? (問合せのみ)

3GPP-R5 アップリンク解析の測定結果を取得します。

構文: :FETCh:ULR5_3GPP? ANACK

引数: ANACK — ACK/NACK解析を指定します。

応答: <count>{,<anack(1)>,<cqi(1)>,<offset(1)>(<anack(2)>,<cqi(2)>,<offset(2)>
...{,<anack(10)>,<cqi(10)>,<offset(10)>}}}}}}}}}}

ここで

<count>::=<NR1> — 後に続くデータ・セットの数。

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch の設定により、下表の値を取ります。

0 は、サブフレームの先頭でないことを示します。

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch の設定	<count> の値
AUTO	0~10
STSLot または DLTime	0 または 1

<anack(i)>::=<NR1> — 信号の種類。0 : NACK、1 : ACK、2 : DTX。

<cqi(i)>::=<NR1> — タイム・スロット内で検出された CQI の値、0~29。

<offset(i)>::=<NR1> — サブフレーム・オフセット値、0~9。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: ACK/NACK 解析の結果を返します。

```
:FETCh:ULR5_3GPP? ANACK
```

以下は応答例です。

```
1,1,7,5
```

関連コマンド: :INSTRument[:SElect], [[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch

:FETCh:WLAN サブグループ

WLAN、オプション29 型のみ

:FETCh:WLAN コマンドでは、WLAN 解析の測定結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FETCh	
:WLAN?	PVTime EVTime PVSC EVSC CONStE SCConste FERRor OFLatness OLINearity STABle
:POWer	
:TPOWer?	POSitive NEGative
:SMASK?	
:SPECTrum	
:SMASK?	
:TPOWer?	

:FETCh:WLAN? (問合せのみ)

WLAN 解析結果を取得します。

構文: :FETCh:WLAN? { PVTime | EVTime | PVSC | EVSC | CONSte | SCConste | FERRor
| OFLatness | OLINearity | STABle }

引数: 各引数について問合せ内容を下表に示します。

表 2-68: デジタル変調信号解析結果の取得

引数	問合せの内容
PVTime	Power versus Time (電力対時間)
EVTime	EVM versus Time (EVM 対時間)
PVSC	Power versus SC (電力対サブキャリア)
EVSC	EVM versus SC (EVM 対サブキャリア)
CONSte	Constellation (コンスタレーション)
SCConste	SC Constellation (サブキャリア・コンスタレーション)
FERRor	Frequency Error (周波数誤差)
OFLatness	OFDM Flatness (OFDM フラットネス)
OLINearity	OFDM Linearity (OFDM リニアリティ)
STABle	Symbol Table (シンボル・テーブル)

測定モード: DEMWLAN

応答: 各引数ごとに応答を示します。
角度の単位は、:UNIT:ANGLE コマンドで、度 (degree) またはラジアン (radian) が
選択できます。

PVTime

<Power_Peak>,<Power_RMS>,<Power_Time>

ここで

<Power_Peak>::=<NRf> — ピーク電力、単位 [dBm]

<Power_RMS>::=<NRf> — RMS 電力、単位 [dBm]

<Peak_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS 電力の時間、単位 [s]

EVTime

<EVM_Peak>,<EVM_RMS>,<EVM_Time>,<Merror_Peak>,<Merror_RMS>,
<Merror_Time>,<Perror_Peak>,<Perror_RMS>,<Perror_Time>

ここで

<EVM_Peak>::=<NRf> — ピーク EVM、単位 [%]
<EVM_RMS>::=<NRf> — RMS EVM、単位 [%]
<EVM_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS EVM の時間、単位 [s]
<Merror_Peak>::=<NRf> — ピーク振幅誤差、単位 [%]
<Merror_RMS>::=<NRf> — RMS 振幅誤差、単位 [%]
<Merror_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS 振幅誤差の時間、単位 [s]
<Perror_Peak>::=<NRf> — ピーク位相誤差、単位 [deg/rad]
<Perror_RMS>::=<NRf> — RMS 位相誤差、単位 [deg/rad]
<Perror_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS 位相誤差時間、単位 [s]

PVSC

<Power_Peak>,<Power_RMS>,<SC_Number> (OFDM データ)

ここで

<Power_Peak>::=<NRf> — ピーク電力、単位 [dBm]
<Power_RMS>::=<NRf> — RMS 電力、単位 [dBm]
<SC_Number>::=<NR1> — サブキャリア番号

<Power_Peak>,<Power_RMS>,<Power_Time> (OFDM 以外)

ここで

<Power_Peak>::=<NRf> — ピーク電力、単位 [dBm]
<Power_RMS>::=<NRf> — RMS 電力、単位 [dBm]
<Power_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS 電力の時間、単位 [s]

EVSC

<EVM_Peak>,<EVM_RMS>,<SC_Number>,<Merror_Peak>,<Merror_RMS>,<SC_Number>,
<Perror_Peak>,<Perror_RMS>,<SC_Number> (OFDM データ)

ここで

<EVM_Peak>::=<NRf> — ピーク EVM、単位 [%]
<EVM_RMS>::=<NRf> — RMS EVM、単位 [%]
<SC_Number>::=<NR1> — ピークおよび RMS EVM のサブキャリア番号
<Merror_Peak>::=<NRf> — ピーク振幅誤差、単位 [%]
<Merror_RMS>::=<NRf> — RMS 振幅誤差、単位 [%]
<SC_Number>::=<NR1> — ピークおよび RMS 振幅誤差のサブキャリア番号
<Perror_Peak>::=<NRf> — ピーク位相誤差、単位 [deg/rad]
<Perror_RMS>::=<NRf> — RMS 位相誤差、単位 [deg/rad]
<SC_Number>::=<NR1> — ピークおよび RMS位相誤差のサブキャリア番号

<EVM_Peak>,<EVM_RMS>,<EVM_Time>,<Merror_Peak>,<Merror_RMS>,<Merror_Time>,
<Perror_Peak>,<Perror_RMS>,<Perror_Time> (OFDM 以外)

ここで

<EVM_Peak>::=<NRf> — ピーク EVM、単位 [%]
<EVM_RMS>::=<NRf> — RMS EVM、単位 [%]
<EVM_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS EVM の時間、単位 [s]
<Merror_Peak>::=<NRf> — ピーク振幅誤差、単位 [%]
<Merror_RMS>::=<NRf> — RMS 振幅誤差、単位 [%]
<Merror_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS 振幅誤差の時間、単位 [s]
<Perror_Peak>::=<NRf> — ピーク位相誤差、単位 [deg/rad]
<Perror_RMS>::=<NRf> — RMS 位相誤差、単位 [deg/rad]
<Perror_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS 位相誤差の時間、単位 [s]

CONSte

<EVM_Peak>,<EVM_RMS>,<EVM_Time>,<Merror_Peak>,<Merror_RMS>,<Merror_Time>,
<Perror_Peak>,<Perror_RMS>,<Perror_Time>

ここで

<EVM_Peak>::=<NRf> — ピーク EVM、単位 [%]
<EVM_RMS>::=<NRf> — RMS EVM、単位 [%]
<EVM_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS EVM の時間、単位 [s]
<Merror_Peak>::=<NRf> — ピーク振幅誤差、単位 [%]
<Merror_RMS>::=<NRf> — RMS 振幅誤差、単位 [%]
<Merror_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS 振幅誤差の時間、単位 [s]
<Perror_Peak>::=<NRf> — ピーク位相誤差、単位 [deg/rad]
<Perror_RMS>::=<NRf> — RMS 位相誤差、単位 [deg/rad]
<Perror_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS 位相誤差時間、単位 [s]

SCConste

<EVM_Peak>,<EVM_RMS>,<SC_Number>,<Merror_Peak>,<Merror_RMS>,<SC_Number>,
<Perror_Peak>,<Perror_RMS>,<SC_Number>

ここで

<EVM_Peak>::=<NRf> — ピーク EVM、単位 [%]
<EVM_RMS>::=<NRf> — RMS EVM、単位 [%]
<SC_Number>::=<NR1> — ピークおよび RMS EVM のサブキャリア番号
<Merror_Peak>::=<NRf> — ピーク振幅誤差、単位 [%]
<Merror_RMS>::=<NRf> — RMS 振幅誤差、単位 [%]
<SC_Number>::=<NR1> — ピークおよび RMS 振幅誤差のサブキャリア番号
<Perror_Peak>::=<NRf> — ピーク位相誤差、単位 [deg/rad]
<Perror_RMS>::=<NRf> — RMS 位相誤差、単位 [deg/rad]
<SC_Number>::=<NR1> — ピークおよび RMS 位相誤差のサブキャリア番号

FERRor

<Error_Peak>,<Error_RMS>,<Error_Time>

ここで

<Error_Peak>::=<NRf> — ピーク frequency error、単位 [Hz]

<Error_RMS>::=<NRf> — RMS frequency error、単位 [Hz]

<Error_Time>::=<NRf> — ピークおよび RMS の時間、単位 [s]

OFLatness

<CF_Leakage>::=<NRf> — 中心周波数漏洩電力、単位 [dB]

OLINearity

#<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 理想値、単位 [W]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

STABLE

#<Num_digit><Num_byte><Sym(1)><Sym(2)>...<Sym(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Sym(n)>::=<NR1> — シンボル・データ

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大値については、付録D の表D-8 参照。

測定モード : DEMWLAN

使用例 : 電力対時間測定結果を取得します。

:FETCh:WLAN? PVTTime

次は応答例です。

-2.21,-6.3,-28.7

関連コマンド : :INSTrument[:SElect], :UNIT:ANGLE

:FETCh:WLAN:POWer:TPOWer? (問合せのみ)

WLAN 解析で、送信電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:WLAN:Power:TPower? { POSitive | NEGative }

引数: POSitive — 送信電力オン時の勾配の波形データを取得します。

NEGative — 送信電力オフ時の勾配の波形データを取得します。

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 電力スペクトラム、単位 [W]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 512000 (1024 ポイント × 500 フレーム)

測定モード: DEMWLAN

使用例: 送信電力オン時の勾配の波形データを取得します。

:FETCh:WLAN:Power:TPower? POSitive

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:WLAN:SMASK? (問合せのみ)

WLAN 解析で、スペクトラム・マスク測定結果を取得します。

構文: :FETCh:WLAN:SMASK?

引数: なし

応答: <pass_Fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果: パス (1) またはフェイル (0)。

測定モード: DEMWLAN

使用例: スペクトラム・マスクの測定結果を問合せます。

:FETCh:WLAN:SMASK?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:WLAN:SPECTrum:SMASk? (問合せのみ)

WLAN解析で、スペクトラム・マスク測定のスペクトラム波形データを取得します。

構文: :FETCh:WLAN:SPECTrum:SMASk?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 240001

測定モード: DEMWLAN

使用例: スペクトラム波形データを取得します。

:FETCh:WLAN:SPECTrum:SMASk?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FETCh:WLAN:TPower? (問合せのみ)

WLAN 解析で、送信電力測定結果を取得します。

構文: :FETCh:WLAN:TPower?

引数: なし

応答: <Power_On>,<Power_Off>

ここで

<Power_On>::=<NRf> — 送信電力オン時の値、単位 [W]

<Power_Off>::=<NRf> — 送信電力オフ時の値、単位 [W]

測定モード: DEMWLAN

使用例: 送信電力測定結果を取得します。

:FETCh:WLAN:TPower?

次は応答例です。

1.352039E-6,1.695838E-6

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:FORMat コマンド

:FORMat コマンドでは、データの出力形式を設定します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:FORMat	
:BORder	NORMa1 SWAPped
[:DATA]	REAL,32 REAL,64

:FORMat:BORDer(?)

出力するバイナリ・データのバイト順を設定または問合せます。

構文: :FORMat:BORDer { NORMa1 | SWAPped }

:FORMat:BORDer?

引数: NORMa1 — 通常のバイト順にします。

SWAPped — バイト順をスワップします。

測定モード: 全モード

使用例: バイト順をスワップします。

:FORMat:BORDer SWAPped

:FORMat[:DATA](?)

出力データのフォーマットを選択または問合せます。

構文: :FORMat[:DATA] { REAL,32 | REAL,64 }

:FORMat[:DATA]?

引数: REAL,32 — 32ビット実数を指定します。

REAL,64 — 64ビット実数を指定します。

測定モード: 全モード

使用例: 32ビット実数を指定します。

:FORMat:DATA REAL,32

:HCOPY コマンド

:HCOPY コマンドでは、画面のハードコピーを出力します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:HCOPY	
:BACKground	BLACK WHITE
:DESTination	PRINter MMEMory
[:IMMediate]	

:HCOPY:BACKground(?)

ハードコピーの背景色を選択または問合せます。

構文: :HCOPY:BACKground { BLACK | WHITE }

:HCOPY:BACKground?

引数: BLACK — 画面の背景を黒のまま出力します。

WHITE — 画面の黒の領域を白に反転して出力します。

測定モード: 全モード

使用例: 画面の黒の領域を白に反転して出力します。

:HCOPY:BACKground WHITE

:HCOPY:DESTination(?)

ハードコピーの出力先（プリンタまたはファイル）を選択または問合せます。

構文: :HCOPY:DESTination { PRINter | MMEory }

:HCOPY:DESTination?

引数: PRINter — ハードコピーの出力先として指定プリンタを選択します。
指定プリンタは、Windows で通常使うプリンタとして設定されている機種です。
プリンタの使用については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

MMEory — ハードコピーの出力先として :MMEory:NAME コマンドで名前を指定したビットマップ・ファイルを選択します。

測定モード: 全モード

使用例: ハードコピーの出力先を指定プリンタにします。

:HCOPY:DESTination PRINter

関連コマンド: :HCOPY[:IMMediate], :MMEory:NAME

:HCOPY[:IMMEDIATE] (問合せなし)

:HCOPY:DESTINATION コマンドで選択した出力先に画面のハードコピーを出力します。

構文: :HCOPY[:IMMEDIATE]

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: 画面のハードコピー出力を実行します。

:HCOPY:IMMEDIATE

関連コマンド: :HCOPY:DESTINATION

:INITiate コマンド

:INITiate コマンドは、データの取り込みをコントロールします。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:INITiate	
:CONTinuous	<boolean>
[:IMMediate]	
:REStart	

:INITiate:CONTinuous(?)

入力信号を連続モードで取り込むかどうか選択します。

構文: :INITiate:CONTinuous { OFF | ON | 0 | 1 }

:INITiate:CONTinuous?

引数: OFF または 0 — 連続モードで取り込みません。シングル・モードで取り込みます。取り込みの開始には、下記の :INITiate[:IMMediate] コマンドを使います。

シングル・モードでトリガがかからないために取り込みを中断するときには、次のコマンドを再度送じます。

:INITiate:CONTinuous OFF

ON または 1 — 連続モードでデータ取り込みを開始します。

連続モードで取り込みを停止するときには、次のコマンドを送じます。

:INITiate:CONTinuous OFF

注: 本機器は、連続モードで動作中に :FETCh コマンドを受けると、実行エラーを返します。:FETCh コマンドを実行する場合には、:INITiate[:IMMediate] コマンドを使用してください。

測定モード: 全モード

使用例: 入力信号を連続モードで取り込みます。

:INITiate:CONTinuous ON

関連コマンド: :FETCh コマンド, :INITiate[:IMMediate]

:INITiate[:IMMediate] (問合せなし)

入力信号の取り込みを開始します。

構文: :INITiate[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: 入力信号の取り込みを開始します。

:INITiate:IMMediate

関連コマンド: :INITiate:CONTinuous

:INITiate:REStart (問合せなし)

入力信号の取り込みを再実行します。
シングル・モードの場合、:INITiate[:IMMediate] コマンドと等価です。
連続モードの場合、:ABORt コマンドと等価です。

構文: :INITiate:REStart

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: 入力信号の取り込みを再実行します。

:INITiate:REStart

関連コマンド: :ABORt, :INITiate[:IMMediate]

:INPut コマンド

:INPut コマンドでは、入力モードをコントロールします。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:INPut	
:ALEVel	
:ATTenuation	<numeric_value>
:AUTO	<boolean>
:COUPling	AC DC (オプション03 型のみ)
:MIXer	<numeric_value>
:MLEVel	<numeric_value>

:INPut:ALEVel (問合せなし)

入力信号のオート・レベルを実行します。オート・レベルでは、入力信号の振幅がオーバーロードしない範囲で最大になるようにレベルが調整されます。

構文: :INPut:ALEVel

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: 入力信号のオート・レベルを実行します。

:INPut:ALEVel

:INPut:ATTenuation(?)

下記の :INPut:ATTenuation:AUTO コマンドで OFF または 0 を選択したときに、入力アッテネータを設定します。問合せコマンドでは、入力アッテネータの設定値を問合せます。

構文: :INPut:ATTenuation <rel_amp1>

:INPut:ATTenuation?

引数: <rel_amp1>::=<NR1> — 入力アッテネータを設定します。

設定範囲: 0~55dB、2dB ステップ

0~35dB、2dB ステップ (オプション03 型 IQ 入力)

測定モード: 全モード

使用例: 入力アッテネータを 20dB に設定します。

:INPut:ATTenuation 20

関連コマンド: :INPut:ATTenuation:AUTO

:INPut:ATTenuation:AUTO(?)

入力アッテネータをリファレンス・レベルにより自動設定するかどうか選択または問合せます。

構文: :INPut:ATTenuation:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

:INPut:ATTenuation:AUTO?

引数: OFF または 0 — 入力アッテネータを自動で設定しません。
上記の :INPut:ATTenuation コマンドで設定します。

ON または 1 — 入力アッテネータを自動で設定します。

測定モード: 全モード

使用例: 入力アッテネータを自動で設定します。

:INPut:ATTenuation:AUTO ON

関連コマンド: :INPut:ATTenuation, :INPut:MIXer

:INPut:COUPling(?) (オプション03 型のみ)

IQ 入力モード時の入力カップリングを選択または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:FEED コマンドで IQ (IQ 入力) を選択したときに有効です。

構文: :INPut:COUPling { AC | DC }

:INPut:COUPling?

引数: AC — AC カップリングを選択します。

DC — DC カップリングを選択します。

測定モード: 全モード

使用例: AC カップリングを選択します。

:INPut:COUPling AC

関連コマンド: [:SENSe]:FEED

:INPut:MIXer(?)

ミキサ・レベルを設定または問合せます。

注：ミキサ・レベルを設定する場合は、:INPut:ATTenuation:AUTO コマンドで ON を選択しておく必要があります。

構文： :INPut:MIXer <amp1>

:INPut:MIXer?

引数： <amp1>::=<NR1> — ミキサ・レベルを設定します。
設定範囲：-25~0dBm、5dBm ステップ。

測定モード： 全モード

使用例： ミキサ・レベルを -20dBm に設定します。

:INPut:MIXer -20

関連コマンド： :INPut:ATTenuation:AUTO

:INPut:MLeVel(?)

リファレンス・レベルを設定または問合せます。リファレンス・レベルの設定は、前面パネルの **AMPLITUDE** キー → **Ref Level** サイド・キーの設定と同等です。

構文： :INPut:MLeVel <amp1>

:INPut:MLeVel?

引数： <amp1>::=<NR1> — リファレンス・レベルを設定します。

表 2-69: リファレンス・レベルの設定範囲

測定周波数帯	設定値
ベースバンド (DC~40MHz)	-30~+20 dBm、5dB ステップ
RF (40MHz~8GHz)	-50~+30 dBm、1dB ステップ
IQ (オプション03型のみ)	-10~+20 dBm、5dB ステップ

測定モード： 全モード

使用例： リファレンス・レベルを -10dBm に設定します。

:INPut:MLeVel -10

:INSTRument コマンド

:INSTRument コマンドでは、測定モードを設定します。測定を開始する前に、このコマンドを使用し、測定に応じたモードを設定しておかなければなりません。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:INSTRument	
:CATalog?	
[:SElect]	<mode_name>

:INSTrument:CATalog? (問合せのみ)

本機器に組み込まれたすべての測定モードを問合せます。

構文: :INSTrument:CATalog?

引数: なし

応答: <string> — 測定モード名がカンマで区切られた文字列として返ります。
下表にモード名とその意味を示します。

表 2-70: 測定モード

モード名	意味
S/A モード	
SANORMAL	一般的なスペクトラム解析
SASGRAM	スペクトログラムを使用したスペクトラム解析
SARTIME	リアルタイム・スペクトラム解析
SAZRTIME	ズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析
SAUL3G	W-CDMA アップリンクのスペクトラム解析 (オプション23 型のみ)
SADLR5_3G	3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析 (オプション27 型のみ)
DEMODO モード	
DEMADEM	アナログ変調解析
DEMDDEM	デジタル変調解析 (オプション21 型のみ)
DEMRFID	RFID 変調解析 (オプション21 型のみ)
DEMUL3G	W-CDMA アップリンクの変調解析 (オプション23 型のみ)
DEMGSMEDGE	GSM/EDGE の変調解析 (オプション24 型のみ)
DEMFLCDMA2K	cdma2000 フォワード・リンク解析 (オプション25 型のみ)
DEMRLCDMA2K	cdma2000 リバース・リンク解析 (オプション25 型のみ)
DEMFL1xEVD0	cdma2000 1xEV-DO フォワード・リンク解析 (オプション26 型のみ)
DEMRL1xEVD0	cdma2000 1xEV-DO リバース・リンク解析 (オプション26 型のみ)
DEMDLR5_3G	3GPP-R5 ダウンリンクの変調解析 (オプション27 型のみ)
DEMULR5_3G	3GPP-R5 アップリンクの変調解析 (オプション27 型のみ)
DEMWLAN	IEEE802.11a/b/g 解析 (オプション29 型のみ)
TIME モード	
TIMCCDF	CCDF 解析
TIMTRAN	時間特性解析
TIMPULSE	パルス特性解析
TIMSSOURCE	シグナル・ソース解析 (オプション21 型のみ)

フル・オプションでは、上記のすべてのモード名がカンマで区切られて返ります。

測定モード: 全モード

使用例： 本機器が持つすべての測定モードを問合せます。

```
:INSTrument:CATalog?
```

次は応答例です。

```
"SANORMAL", "SASGRAM", "SARTIME", "DEMADEM", "TIMCCDF", "TIMTRAN"
```

:INSTrument[:SElect](?)

測定モードを選択または問合せます。このコマンドは、*RST の影響を受けません。

注： 測定モードを変更するときには、データ取り込みを停止してください。データ取り込みの停止には、:INITiate:CONTinuous OFF コマンドを使います。

構文： :INSTrument[:SElect] { SANORMAL | SASGRAM | SARTIME | SAZRTIME
| SAUL3G | SADLR5_3G | DEMADEM | DEMDDEM | DEMRFID | DEMUL3G
| DEMDLR5_3G | DEMULR5_3G | DEMGSMEDGE
| DEMFLCDMA2K | DEMRLCDMA2K | DEMFL1XEVD0 | DEMRL1XEVD0
| DEMTD_SCDMA | DEMWLAN | TIMCCDF | TIMTRAN | TIMPULSE | TIMSSOURCE }

:INSTrument[:SElect]?

引数： <string> — 各モードの説明については、前ページの表2-70を参照してください。

使用例： 本機器をアナログ変調解析モードに設定します。

```
:INSTrument:SElect "DEMADEM"
```

関連コマンド： :CONFigure, :INITiate:CONTinuous

:MMEMory コマンド

:MMEMory コマンドでは、ハードディスクとフロッピー・ディスクのファイル操作を行います。

ファイルの取り扱いについての詳細は、ユーザ・マニュアルを参照してください。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:MMEMory	
:COpy	<file_name1>,<file_name2>
:DElete	<file_name>
:LOAD	
:CORRection	<file_name>
:IQT	<file_name>
:LIMit	<file_name> ¹
:STATe	<file_name>
:TRACe	<file_name>
:NAME	<file_name>
:STORe	
:ACPower	<file_name>
:CORRection	<file_name>
:IQT	<file_name>
:LIMit	<file_name> ¹
:PULSe	<file_name>
:STABle	<file_name> ²
:STATe	<file_name>
:TRACe	<file_name>

1. オプション25型、26型、27型、28型。

2. オプション21型、23型、25型、26型、27型、28型、29型。

注：ファイル名は、絶対パスで指定します。例えば、Windows の My Documents フォルダにあるデータ・ファイル Sample1.iqt は “C:¥My Documents¥Sample1.iqt” と表します。

:MMEMory:COpy (問合せなし)

1つのファイルを別のファイルにコピーします。

構文: :MMEMory:COpy <file_name1>,<file_name2>

引数: <file_name1>::=<string> — コピー元のファイルを指定します。

<file_name2>::=<string> — コピー先のファイルを指定します。

測定モード: 全モード

使用例: My Documents フォルダにあるファイル File1 を File2 にコピーします。

```
:MMEMory:COpy "C:¥My Documents¥File1","C:¥My Documents¥File2"
```

:MMEMory:DElete (問合せなし)

指定したファイルを削除します。

構文: :MMEMory:DElete <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 削除するファイルを指定します。

測定モード: 全モード

使用例: My Documents フォルダにあるファイル File1 を削除します。

```
:MMEMory:DElete "C:¥My Documents¥File1"
```

:MMEMory:LOAD:CORRection (問合せなし)

振幅補正ファイルを読み込みます。

構文: :MMEMory:LOAD:CORRection <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 振幅補正表を保存したファイルを指定します。ファイルの拡張子は .cor です。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: My Documents フォルダにあるファイル File1.cor から補正表を読み込みます。

```
:MMEMory:LOAD:CORRection "C:¥My Documents¥File1.cor"
```

:MMEMory:LOAD:IQT (問合せなし)

指定したファイルから、時間領域の IQ データを読み込みます。

注: DEMOD (変調解析) および TIME (時間解析) モードで、読み込んだデータを解析するには、[:SENSe]:Standard[:IMMediate] コマンドを使用してください。例えば、デジタル変調解析の場合には、[:SENSe]:DDEMod[:IMMediate] コマンドを実行します。

構文: :MMEMory:LOAD:IQT <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 読み込むファイルを指定します。ファイルの拡張子は .iqt です。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: My Documents フォルダにある Data1.iqt ファイルから IQ データを読み込みます。

```
:MMEMory:LOAD:IQT "C:¥My Documents¥Data1.iqt"
```

関連コマンド: :SENSe:Standard[:IMMediate]

:MMEMory:LOAD:LIMit (問合せなし、オプション25型、26型、27型、28型)

指定したファイルから測定リミットを読み込みます。

構文: :MMEMory:LOAD:LIMit <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 読み込むファイルを指定します。
ファイルの拡張子は、.lmt です。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K, DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0, SADLR5_3G, DEMTD_SCDMA

使用例: My Documents フォルダにある Test.lmt ファイルから測定リミットを読み込みます。

```
:MMEMory:LOAD:LIMit "C:¥My Documents¥Test.lmt"
```

:MMEMory:LOAD:STATe (問合せなし)

指定したファイルから設定条件を読み込みます。

構文: :MMEMory:LOAD:STATe <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 読み込むファイルを指定します。
ファイルの拡張子は .cfg です。

測定モード: 全モード

使用例: My Documents フォルダにあるファイル Setup1.cfg から設定を読み込みます。

```
:MMEMory:LOAD:STATe "C:¥My Documents¥Setup1.cfg"
```


:MMEMory:LOAD:TRACe<x> (問合せなし)

指定したファイルからトレース 1 または 2 の波形データを読み込みます。

構文: :MMEMory:LOAD:TRACe<x> <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 読み込むファイルを指定します。
ファイルの拡張子は .trc です。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: My Documents フォルダにある Trace1.trc ファイルから、トレース1の波形データを読み込みます。

```
:MMEMory:LOAD:TRACe1 "C:¥My Documents¥Trace1.trc"
```

関連コマンド: :MMEMory:STORe:TRACe<x>

:MMEMory:NAME(?)

ハードコピーの出力先がファイルのときに、ファイル名を指定または問合せます。
ハードコピーの出力先は、:HCOPY:DESTINATION コマンドで選択します。

構文: :MMEMory:NAME <file_name>

:MMEMory:NAME?

引数: <file_name>::=<string> — ハードコピー出力先のファイル名を指定します。
拡張子 “.bmp” は自動で付加されます。

測定モード: 全モード

使用例: 出力先のファイル名を My Documents フォルダにある Screen1.bmp とします。

```
:MMEMory:NAME "C:¥My Documents¥Screen1.bmp"
```

関連コマンド: :HCOPY:DESTINATION

:MMEMory:STORe:ACPower (問合せなし、オプション21 型)

RFID 解析で、指定したファイルに ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定結果を保存します。

構文: :MMEMory:STORe:ACPower <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 保存先のファイルを指定します。
ファイルの拡張子は .csv です。

測定モード: DEMRFID

使用例: ACPR 測定結果を My Documents フォルダの Result1.csv ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:ACPower "C:%My Documents%Result1.csv"
```

:MMEMory:STORe:CORRection (問合せなし)

指定したファイルに振幅補正表を格納します。

構文: :MMEMory:STORe:CORRection <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — ファイル名を指定します。
ファイルの拡張子は .cor です。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 振幅補正表を My Documents フォルダのファイル Sample1.cor に格納します。

```
:MMEMory:STORe:CORRection "C:%My Documents%Sample1.cor"
```

:MMEMory:STORe:IQT (問合せなし)

指定したファイルに IQ データを保存します。

構文: :MMEMory:STORe:IQT <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 保存先のファイルを指定します。
ファイルの拡張子は .iqt です。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: IQ データを My Documents フォルダの Data1.iqt ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:IQT "C:¥My Documents¥Data1.iqt"
```

:MMEMory:STORe:LIMit (問合せなし、オプション25 型、26 型、27 型、28 型)

指定したファイルに現在の測定リミットを保存します。

構文: :MMEMory:STORe:LIMit <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 現在の測定リミットを保存するファイルを指定します。
ファイルの拡張子は .lmt です。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K, DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0, SADLR5_3G, DEMTD_SCDMA

使用例: 現在の測定リミットを My Documents フォルダの Test.lmt ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:LIMit "C:¥My Documents¥Test.lmt"
```

:MMEMory:STORe:PULSe (問合せなし)

指定したファイルにパルス測定結果を保存します。

構文: :MMEMory:STORe:PULSe <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 保存先のファイルを指定します。
ファイルの拡張子は .csv です。

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス測定結果を My Documents フォルダの Result1.csv ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:PULSe "C:¥My Documents¥Result1.csv"
```

:MMEMory:STORe:STABle (オプション21型、23型、25型、26型、27型、28型、29型)

指定したファイルにシンボル・テーブルを保存します。

構文: :MMEMory:STORe:STABle <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 保存先のファイルを指定します。
ファイルはテキスト形式で、拡張子は .sym です。

データの前にヘッダとして次の情報が書き込まれます。

表 2-71: ファイル・ヘッダの内容 (オプション21型、23型、27型)

	デジタル変調解析 (オプション21型)	W-CDMA 解析 (オプション23型)	3GPP-R5 解析 (オプション27型)
1	日時	日時	日時
2	変調方式	変調方式	変調方式
3	シンボル・レート	シンボル・レート	シンボル・レート
4	測定フィルタ (Measurement Filter)	測定フィルタ (Measurement Filter)	測定フィルタ (Measurement Filter)
5	基準フィルタ (Reference Filter)	基準フィルタ (Reference Filter)	基準フィルタ (Reference Filter)
6	フィルタ係数 (α)	フィルタ係数 (α)	フィルタ係数 (α)
7	最初のシンボルのデータ 終了点からの時間	スロット番号	スロット番号
8		ショート・コード番号	ショート・コード番号
9		最初のシンボルのデータ 終了点からの時間	最初のシンボルのデータ 終了点からの時間

表 2-72: ファイル・ヘッダの内容 (オプション25型、26型、29型)

	cdma2000 解析 (オプション25型)	1xEV-DO 解析 (オプション26型)	WLAN 解析 (オプション29型)
1	日時	日時	日時
2	変調方式	変調方式	シンボル番号 ($-10^5 \sim 0$)
3	シンボル・レート	シンボル・レート	時間 ($-100 \sim 0$ ms)
4	Walsh コード長	Walsh コード長	シンボル・タイプ
5	Walsh コード番号	Walsh コード番号	
6	PN オフセット (FLCDMA2K のみ)	PN オフセット (FL1XEVD0 のみ)	
7	PCG 番号	I ロング・コード・マスク (RL1XEVD0 のみ)	
8	最初のシンボルのデータ 終了点からの時間	Q ロング・コード・マスク (RL1XEVD0 のみ)	
9		チャンネル・タイプ (FL1XEVD0 のみ)	
10		ハーフ・スロット番号	
11		最初のシンボルのデータ 終了点からの時間	

注： .sym ファイルに記録される日時は、シンボル・テーブル測定の最後の解析日時です。 .iqt ファイルから読み込んだデータについて解析を行なった場合には、 .sym ファイルの日時は、読み込んだ .iqt ファイルの日時と同じです。

RFID 解析（オプション21 型）のヘッダ

1. 日時
2. バースト番号
3. 通信規格
4. リンク
5. 変調方式
6. デコード方式
7. Auto Tari 設定値（デコード方式が PIE タイプA または C の場合）
Auto Bit Rate 設定値（デコード方式が PIE タイプA または C 以外の場合）
8. Tari 値（デコード方式が PIE タイプA または C の場合）
ビット・レート値（デコード方式が PIE タイプA または C 以外の場合）
9. 低しきい値
10. 高しきい値

項目2 については VIEW: DEFINE メニュー、項目3~10 については MEAS SETUP メニューを参照してください（RSA3408A 型ユーザ・マニュアル参照）。

測定モード： 全 DEMOD モード（DEMADEM と DEMGSMEDGE を除く）

使用例： シンボル・テーブルを My Documents フォルダの Data1.sym ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:STABle "C:%My Documents¥Data1.sym"
```

:MMEMory:STORe:STATe (問合せなし)

指定したファイルに現在の設定条件を保存します。

構文: :MMEMory:STORe:STATe <file_name>

引数: <file_name>::=<string> — 保存先のファイルを指定します。
ファイルの拡張子は .cfg です。

測定モード: 全モード

使用例: 現在の設定条件を My Documents フォルダの Setup1.cfg ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:STATe "C:%My Documents%Setup1.cfg"
```

:MMEMory:STORe:TRACe<x> (問合せなし)

指定したファイルにトレース 1 または 2 の波形データを保存します。

構文: :MMEMory:STORe:TRACe<x> <file_name>

引数: <file_name> — 保存先のファイルを指定します。
ファイルの拡張子は .trc です。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: トレース1 の波形データを My Documents フォルダの Trace1.trc ファイルに保存します。

```
:MMEMory:STORe:TRACe1 "C:%My Documents%Trace1.trc"
```

関連コマンド: :MMEMory:LOAD:TRACe<x>

:OUTPut コマンド

:OUTPut コマンドでは、本機器の出力ポートをコントロールします。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:OUTPut	
:IQ	
[:STATe]	<Boolean>

:OUTPut:IQ[:STATe](?) (オプション05 型のみ)

後部パネルからのデジタル IQ データ出力をオンにするかどうかを選択または問合せます。

構文: :OUTPut:IQ[:STATe] { 0 | 1 | OFF | ON }

:OUTPut:IQ[:STATe]?

引数: OFF または 0 (デフォルト) — デジタル IQ データ出力をオフにします。

ON または 1 — デジタル IQ データ出力をオンにします。

測定モード: 全モード

使用例: デジタル IQ データ出力をオンにします。

:OUTPut:IQ:STATe ON

:PROGrama コマンド

:PROGrama コマンドでは、マクロ・プログラムの実行をコントロールします。

実行するマクロ・プログラムは、本機器内の次のディレクトリの下に格納されていなければなりません。

C:\Program Files\Tektronix\wca200a\Python\wca200a\measmacro

マクロ・プログラムの組み込みについては、当社にご相談ください。
マクロ・プログラム実行例については、4-13ページを参照してください。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:PROGrama	
:CATalog?	
[:SElected]	
:DElete	
[:SElected]	
:EXECute	<command_name>
:NAME	<macro_name>
:NUMBer	<varname>,<nvalue>
:STRing	<varname>,<nvalue>

:PROGram:CATalog? (問合せのみ)

定義されたプログラムのリストを問合せます。

構文: :PROGram:CATalog?

引数: なし

応答: 以下のようにカンマで区切られた文字列です。
プログラムが定義されていない場合には、"" (Null) です。

```
"macro_name{,macro_name}"{"macro_name{,macro_name}"}
```

ここで、macro_name はマクロ名を表します。

測定モード: 全モード

使用例: 定義されたプログラムのリストを問合せます。

```
:PROGram:CATalog?
```

次の応答例は、ディレクトリ C:\Program Files\Tektronix\wca200a\Python\wca-200a\measmacro\nonregistered 下にマクロ MacroTest1 と MacroTest2 があることを示しています。

```
"NONREGISTERED.MACROTEST1","NONREGISTERED.MACROTEST2"
```

:PROGram[:SElected]:DElete[:SElected] (問合せなし)

マクロ・プログラムをメモリ上から削除します。

あらかじめ、:PROGram[:SElected]:NAME コマンドでマクロ・プログラムを指定しておきます。

構文: :PROGram[:SElected]:DElete[:SElected]

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: 指定したマクロ・プログラムをメモリ上から削除します。

```
PROGram:SElected:DElete:SElected
```

関連コマンド: :PROGram[:SElected]:NAME

:PROGrama[:SElected]:EXECute (問合せなし)

マクロ・ファイルに含まれるコマンドを実行します。

あらかじめ :PROGrama[:SElected]:NAME コマンドでマクロ・フォルダを指定しておきます。

構文: :PROGrama[:SElected]:EXECute <command_name>

引数: <command_name>::=<string> — コマンドを指定します。

応答: 指定したコマンドが存在しない場合には、次のエラー・メッセージが返ります。

“Program Syntax error” (-285)

測定モード: 全モード

使用例: TEST1 コマンドを実行します。

```
:PROGrama:SElected:EXECute "TEST1"
```

関連コマンド: :PROGrama[:SElected]:NAME

:PROGrama[:SElected]:NAME(?)

マクロ・プログラム・フォルダを指定または問合せます。

構文: :PROGrama[:SElected]:NAME <macro_name>

```
:PROGrama[:SElected]:NAME?
```

引数: <macro_name>::=<string> — マクロ・プログラム・フォルダを指定します。

応答: 指定したマクロが存在しない場合には、次のエラー・メッセージが返ります。

“Program Syntax error” (-285)

測定モード: 全モード

使用例: ディレクトリ C:\Program Files\Tektronix\wca200a\Python\wca200a\measmacro\nonregistered 下のマクロ・プログラム・フォルダ MacroTest1 を指定します。

```
:PROGrama:SElected:NAME "NONREGISTERED.MACROTEST1"
```

関連コマンド: :PROGrama[:SElected]:EXECute

:PROGram:NUMBer(?)

マクロ・プログラムで使用する数値変数を設定します。
問合せコマンドでは、数値変数または測定結果（数値）を問合せます。

構文: :PROGram:NUMBer <varname>,<nvalues>
:PROGram:NUMBer? <varname>

引数: <varname>::=<string> — 変数を指定します。
<nvalues>::=<NRf> — 数値を設定します。

応答: 指定した変数が存在しない場合には、次のエラー・メッセージが返ります。
“Illegal variable name” (-283)

測定モード: 全モード

使用例: 変数 LOW_LIMIT を 1.5 に設定します。

```
:PROGram:NUMBer "LOW_LIMIT",1.5
```

変数 RESULT に格納されている測定結果を問合せます。

```
:PROGram:NUMBer? "RESULT"
```

次は応答例です。

```
1.2345
```

:PROGrama:STRing(?)

マクロ・プログラムで使用する文字変数を設定します。
問合せコマンドでは、文字変数または測定結果（文字列）を問合せます。

構文: :PROGrama:STRing <varname>,<svalues>

:PROGrama:STRing? <varname>

引数: <varname>::=<string> — 変数を指定します。

<svalues>::=<string> — 文字列を設定します。

応答: 指定した変数が存在しない場合には、次のエラー・メッセージが返ります。

“Illegal variable name” (-283)

測定モード: 全モード

使用例: 変数 ERROR_MESSAGE に “Measurement Unsuccessful” を設定します。

:PROGrama:STRing "ERROR_MESSAGE","Measurement Unsuccessful"

:READ コマンド

:READコマンドでは、シングル・モードで1回だけ入力信号を取り込み、そのデータについて測定結果を取得します。

入力信号の取り込みを行わず、現在メモリ上にあるデータについて測定結果を取得する場合には、2-439ページの:FETCh コマンドを使用してください。

無効データは -1000 として返されます。

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. :INSTrument[:SElect] コマンドで測定モードを選択します。
例えば、SARTIME（リアルタイム・スペクトラム解析）を選択するときは、次のコマンドを使います。

```
:INSTrument[:SElect] "SARTIME"
```

2. 次のコマンドで、データ取り込みをシングル・モードに設定します。

```
:INITiate:CONTInuous OFF
```

注：連続モードでデータを取り込んでいるときに:READ コマンドを実行すると、強制的にシングル・モードに変更されます。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:READ	
:ADEMod	
:AM?	
:RESult?	
:FM?	
:RESult?	
:PM?	
:PSpectrum?	
:CCDF?	
:DISTRibution:CCDF?	
:OVIew?	
:PULSe?	ALL WIDTH PPOWer OORatio RIPPlE PERiod DCYClE PHASe CHPOWer OBWidth EBWidth FREQuency
:SPECTrum?	
:TAMPliTude?	
:TFRequency	
:SPECTrum?	
:ACPOWer?	
:CFRequency?	
:CHPOWer?	
:CNRatio?	
:EBWidth?	
:OBWidth?	
:SPURious?	
:TRANsient	
:FVTime?	
:IQVTime?	
:PVTTime?	

:READ:ADEMod:AM? (問合せのみ)

AM 変調信号解析の結果を取得します。

構文: :READ:ADEMod:AM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時系列の変調度データ、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: DEMADEM

使用例: AM 変調信号解析の結果を取得します。

:READ:ADEMod:AM?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:ADEMod:AM:RESult? (問合せのみ)

AM 変調信号解析の測定結果を取得します。

構文: :READ:ADEMod:AM:RESult?

引数: None

応答: <+AM>,<-AM>,<Total_AM>

ここで

<+AM>::=<NRf> — 変調度の正のピーク値、単位 [%]

<-AM>::=<NRf> — 変調度の負のピーク値、単位 [%]

<Total_AM>::=<NRf> — 全変調度 ((変調度のピーク-ピーク値) / 2)、単位 [%]

測定モード: DEMADEM

使用例: AM 変調信号解析の測定結果を取得します。

:READ:ADEMod:AM:RESult?

次は応答例です。

37.34,-48.75,43.04

関連コマンド: :INSTrument[:SELect]

:READ:ADEMod:FM? (問合せのみ)

FM 変調信号解析の結果を取得します。

構文: :READ:ADEMod:FM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時系列の周波数偏移データ、単位 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: DEMADEM

使用例: FM 変調信号解析の結果を取得します。

:READ:ADEMod:FM?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:ADEMod:FM:RESult? (問合せのみ)

FM 変調信号解析の測定結果を取得します。

構文: :READ:ADEMod:FM:RESult?

引数: None

応答: <+Pk_Freq_Dev>,<-Pk_Freq_Dev>,<P2P_Freq_Dev>,<P2P_Freq_Dev/2>,<RMS_Freq_Dev>

ここで、

<+Pk_Freq_Dev>::=<NRf> — 周波数偏移の正のピーク値、単位 [Hz]

<-Pk_Freq_Dev>::=<NRf> — 周波数偏移の負のピーク値、単位 [Hz]

<P2P_Freq_Dev>::=<NRf> — 周波数偏移のピーク-ピーク値、単位 [Hz]

<P2P_Freq_Dev/2>::=<NRf> — (周波数偏移のピーク-ピーク値) / 2、単位 [Hz]

<RMS_Freq_Dev>::=<NRf> — 周波数偏移の RMS 値、単位 [Hz]

測定モード: DEMADEM

使用例: FM 変調信号解析の測定結果を取得します。

```
:READ:ADEMod:FM:RESult?
```

次は応答例です。

```
1.13e+4,-1.55e+4,2.48e+4,1.24e+4,1.03e+4
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:ADEMod:PM? (問合せのみ)

PM 変調信号解析の結果を取得します。

構文: :READ:ADEMod:PM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時系列の位相偏移データ、単位 [deg]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: DEMADEM

使用例: PM 変調信号解析の結果を取得します。

:READ:ADEMod:PM?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:ADEMod:PSpectrum? (問合せのみ)

アナログ変調解析のパルス・スペクトラム測定で、スペクトラム・データを取得します。

構文: :READ:ADEMod:PSpectrum?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラムの振幅データ、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 240001

測定モード: DEMADEM

使用例: パルス・スペクトラム測定のスぺクトラム・データを取得します。

:READ:ADEMod:PSpectrum?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:CCDF? (問合せのみ)

CCDF 測定結果を取得します。

構文: :READ:CCDF?

引数: なし

応答: <meanpower>,<peakpower>,<cfactor>

ここで

<meanpower>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]

<peakpower>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]

<cfactor>::=<NRf> — クレスト・ファクタ、単位 [dB]

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF の測定結果を取得します。

```
:READ:CCDF?
```

次は応答例です。

```
-11.16,-8.18,2.96
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:DISTriBution:CCDF? (問合せのみ)

CCDF 測定で、CCDF 波形データを取得します。

構文: :READ:DISTriBution:CCDF?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 振幅スペクトラム、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024 ポイント × 500 フレーム)

無効データは -1000 として返されます。

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF 波形データを取得します。

:READ:DISTriBution:CCDF?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :CONFiGure:OVIew, :INSTrument[:SElect]

:READ:OView? (問合せのみ)

DEMOD (変調解析) および TIME (時間解析) モードで、オーバービューに表示する全波形データから 1024ポイントごとに最小値と最大値を取得します。

注: このコマンドを実行する前に :CONFigure:OView コマンドで測定をオフしておく必要があります。

構文: :READ:OView?

応答: #<Num_digit><Num_byte><MinData(1)><MaxData(1)>...<MinData(n)><MaxData(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<MinData(n)> — オーバービュー波形 1024ポイントごとの最小値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

<MaxData(n)> — オーバービュー波形 1024ポイントごとの最大値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 500

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: オーバービューに表示する全波形データから 1024ポイントごとに最小値と最大値を取得します。

:READ:OView?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :CONFigure:OView, :INSTrument[:SElect]

:READ:PULSe? (問合せのみ)

パルス解析の結果を取得します。

構文: :READ:PULSe? { ALL | WIDTH | PPOWer | OORatio | RIPPlE | PERiod | DCYClE | PHASe | CHPower | OBWidth | EBWidth | FREQuency }

引数: 各引数について問合せ内容を下表に示します。

表 2-73: パルス解析結果の取得

引数	問合せの内容
ALL	すべての測定結果
WIDTH	パルス幅測定結果
PPOWer	パルス・オン時のピーク電力測定結果
OORatio	パルス・オン時とオフ時の電力差測定結果
RIPPlE	パルス・オン時のリップル測定結果
PERiod	パルス周期測定結果
DCYClE	デューティ・サイクル測定結果
PHASe	パルス間位相差測定結果
CHPower	パルス・オン時のスペクトラムのチャンネル電力測定結果
OBWidth	パルス・オン時のスペクトラムの OBW 測定結果
EBWidth	パルス・オン時のスペクトラムの EBW 測定結果
FREQuency	パルス・オン時の周波数偏移測定結果

応答: 各引数ごとに応答を示します。

ALL

<width>,<ppower>,<ooratio>,<ripple>,<period>,<dcycle>,<phase>,<chp>,<obw>,<ebw>,<freq>

ここで

- <width>::=<NRf> — パルス幅、単位 [s]
- <ppower>::=<NRf> — ピーク電力、単位 [W]
- <ooratio>::=<NRf> — パルス・オン／オフ比、単位 [dB]
- <ripple>::=<NRf> — パルス・リップル、単位 [W]
- <period>::=<NRf> — パルス繰り返し間隔、単位 [s]
- <dcycle>::=<NRf> — デューティ・サイクル、単位 [%]
- <phase>::=<NRf> — パルス間位相差、単位 [度]
- <chp>::=<NRf> — チャンネル電力、単位 [W]
- <obw>::=<NRf> — OBW、単位 [Hz]
- <ebw>::=<NRf> — EBW、単位 [Hz]
- <freq>::=<NRf> — 周波数偏移、単位 [Hz]

WIDTh

#<Num_digit><Num_byte><Width(1)><Width(2)>...<Width(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Width(n)> — 各パルス番号に対応したパルス幅の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

PPOWer

#<Num_digit><Num_byte><Ppower(1)><Ppower(2)>...<Ppower(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Power(n)> — 各パルス番号に対応したピーク電力の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

OORatio

#<Num_digit><Num_byte><Ooratio(1)><Ooratio(2)>...<Ooratio(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ooratio(n)> — 各パルス番号に対応したオン／オフ比の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

RIPPlE

#<Num_digit><Num_byte><Ripple(1)><Ripple(2)>...<Ripple(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ripple(n)> — 各パルス番号に対応したリップルの値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

PERiod

#<Num_digit><Num_byte><Period(1)><Period(2)>...<Period(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Period(n)> — 各パルス番号に対応したパルス繰り返し間隔の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

DCYCLE

#<Num_digit><Num_byte><Dcycle(1)><Dcycle(2)>...<Dcycle(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Dcycle(n)> — 各パルス番号に対応したデューティ・サイクルの値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

PHASe

#<Num_digit><Num_byte><Phase(1)><Phase(2)>...<Phase(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Phase(n)> — 各パルス番号に対応したパルス間位相差の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

CHPower

#<Num_digit><Num_byte><Chp(1)><Chp(2)>...<Chp(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Chp(n)> — 各パルス番号に対応したチャンネル電力の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

OBWidth

#<Num_digit><Num_byte><Obw(1)><Obw(2)>...<Obw(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Obw(n)> — 各パルス番号に対応した OBW の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

EBWidth

#<Num_digit><Num_byte><Ebw(1)><Ebw(2)>...<Ebw(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ebw(n)> — 各パルス番号に対応した EBW の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

FREQuency

#<Num_digit><Num_byte><Freq(1)><Freq(2)>...<Freq(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Freq(n)> — 各パルス番号に対応したキャリア周波数の値。

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 1000

測定モード : TIMPULSE

使用例 : パルス幅測定結果を取得します。

:READ:PULSe? WIDTH

次の応答例では、500バイトのデータが返ります。

#3500xxxx...

関連コマンド : :INSTrument[:SElect]

:READ:PULSe:SPECTrum? (問合せのみ)

パルス解析で、周波数領域測定のスเปクトラム波形データを取得します。

このコマンドは、:DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat が CHPOwr、OBWidth、または EBWidth のときに有効です。

構文: :READ:PULSe:SPECTrum?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラム、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 16384

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス解析で、スペクトラム波形データを取得します。

:READ:PULSe:SPECTrum?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat, :INSTrument[:SElect]

:READ:PULSe:TAMPlitude? (問合せのみ)

パルス解析で、時間領域測定 of 振幅データを取得します。

このコマンドは :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat が WIDTH、PPOWer、OORatio、RIPple、PERiod、DCYCle、または PHASe のときに有効です。

構文: :READ:PULSe:TAMPlitude?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各データ・ポイントの絶対電力、単位 [W]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 262,144

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス解析で、時間領域測定 of 振幅データを取得します。

:READ:PULSe:TAMPlitude?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat, :INSTrument[:SElect]

:READ:PULSe:TFRequency? (問合せのみ)

パルス解析の周波数偏移 (Frequency Deviation) 測定データを取得します。

このコマンドは :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat が FREQuency のときに有効です。

構文: :READ:PULSe:TFRequency?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 時間軸上の周波数偏移の値、単位 [Hz]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 262,144

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス解析の周波数偏移測定データを取得します。

:READ:PULSe:TFRequency?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat, :INSTrument[:SElect]

:READ:SPECTrum? (問合せのみ)

S/A モードでスペクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:SPECTrum?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 振幅スペクトラム、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 400000 (800 ポイント × 500 フレーム)

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAZRTIME, SAUL3G

使用例: スペクトラム波形データを取得します。

:READ:SPECTrum?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SPECTrum:ACPower? (問合せのみ)

S/A モードの ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) の測定結果を取得します。

構文: :READ:SPECTrum:ACPower?

引数: なし

応答: <chpower>,<acpm1>,<acpp1>,<acpm2>,<acpp2>,<acpm3>,<acpp3>

ここで

<chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<acpm1>::=<NRf> — 下側第1 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpp1>::=<NRf> — 上側第1 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpm2>::=<NRf> — 下側第2 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpp2>::=<NRf> — 上側第2 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpm3>::=<NRf> — 下側第3 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

<acpp3>::=<NRf> — 上側第3 隣接チャンネル ACPR、単位 [dB]

注: チャンネル帯域幅とチャンネル間隔の設定 ([[:SENSe]:ACPower サブグループ参照) によって隣接チャンネルがスパン外に出た場合、その測定値は返りません。例えば、第3 隣接チャンネルがスパン外に出た場合には、<acpm3> と <acpp3> は返らず、応答は <chpower>,<acpm1>,<acpp1>,<acpm2>,<acpp2> となります。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: ACPR の測定結果を取得します。

```
:READ:SPECTrum:ACPower?
```

次は応答例です。

```
-11.38,-59.41,-59.51,-59.18,-59.31,-59.17,-59.74
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:ACPower サブグループ

:READ:SPECTrum:CFRequency? (問合せのみ)

S/A モードのキャリア周波数の測定結果を取得します。

構文: :READ:SPECTrum:CFRequency?

引数: なし

応答: <cfreq>::=<NRf> — キャリア周波数測定値、単位 [Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: キャリア周波数の測定結果を取得します。

:READ:SPECTrum:CFRequency?

次は応答例です。

846187328.5

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SPECTrum:CHPower? (問合せのみ)

S/A モードのチャンネル電力の測定結果を取得します。

構文: :READ:SPECTrum:CHPower?

引数: なし

応答: <chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: チャンネル電力の測定結果を取得します。

:READ:SPECTrum:CHPower?

次は応答例です。

-1.081

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SPECTrum:CNRatio? (問合せのみ)

S/A モードの C/N (キャリア対ノイズ比) の測定結果を取得します。

構文: :READ:SPECTrum:CNRatio?

引数: なし

応答: <ctn>,<ctno>

ここで

<ctn>::=<NRf> — C/N 測定値、単位 [dB]

<ctno>::=<NRf> — C/No 測定値、単位 [dB/Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: C/N の測定結果を取得します。

:READ:SPECTrum:CNRatio?

次は応答例です。

75.594,125.594

関連コマンド: :INSTRument[:SElect]

:READ:SPECTrum:EBWidth? (問合せのみ)

S/A モードの EBW（放射帯域幅）の測定結果を取得します。

構文: :READ:SPECTrum:EBWidth?

引数: なし

応答: <ebw>::=<NRf> — 放射帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: EBW の測定結果を取得します。

```
:READ:SPECTrum:EBWidth?
```

次は応答例です。

```
30956.26
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SPECTrum:OBWidth? (問合せのみ)

S/A モードの OBW（占有帯域幅）の測定結果を取得します。

構文: :READ:SPECTrum:OBWidth?

引数: なし

応答: <obw>::=<NRf> — 占有帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: OBW の測定結果を取得します。

```
:READ:SPECTrum:OBWidth?
```

次は応答例です。

```
26510.163
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SPECTrum:SPURious? (問合せのみ)

S/A モードのスプリアス測定結果を取得します。

構文: :READ:SPECTrum:SPURious?

引数: なし

応答: <num>{,<dfreq>,<rdb>}

ここで

<num>::=<NR1> — 検出したスプリアスの数、最大 20。

<dfreq>::=<NRf> — スプリアスのキャリアからの離調周波数、単位 [Hz]

<rdb>::=<NRf> — スプリアスのキャリアからの相対レベル、単位 [dB]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: スプリアス測定結果を取得します。

```
:READ:SPECTrum:SPURious?
```

次は応答例です。

```
3,1.2E6,-79,2.4E6,-79.59,1E6,-80.38
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:TRANSient:FVTime? (問合せのみ)

TIME モードの時間対周波数の測定結果を取得します。

構文: :READ:TRANSient:FVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 時系列の周波数データ、単位 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: TIMTRAN

使用例: 時間対周波数の測定結果を取得します。

:READ:TRANSient:FVTime?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:TRANSient:IQVTime? (問合せのみ)

TIME モードの時間対 IQレベルの測定結果を取得します。

構文: :READ:TRANSient:IQVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Idata(1)><Qdata(1)><Idata(2)><Qdata2>...
<Idata(n)><Qdata(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Idata(n)><Qdata(n)> — I および Q 信号レベル・データ、単位 [V]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: TIMTRAN

使用例: 時間対 IQレベルの測定結果を取得します。

:READ:TRANSient:IQVTime?

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:TRANSient:PVTime? (問合せのみ)

TIME モードの時間対電力の測定結果を取得します。

構文: :READ:TRANSient:PVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時系列の電力データ、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 512000 (1024 ポイント × 500 フレーム)

測定モード: TIMTRAN

使用例: 時間対電力の測定結果を取得します。

:READ:TRANSient:PVTime?

次の応答例では、1024 バイトのデータが返ります。

#41024xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ コマンド (オプション)

ここでは、オプションの解析ソフトウェアの :READ コマンドを説明します。
サブグループを表2-60 に示します。

表 2-74: :READ コマンドのサブグループ (オプション)

コマンド・ヘッダ	機能	参照
オプション21 型 拡張測定解析機能関連		
:READ:DDEMod	デジタル変調解析結果を取得する	p.2-646
:READ:RFID	RFID 解析結果を取得する	p.2-652
:READ:SSource	シグナル・ソース解析結果を取得する	p.2-657
オプション23 型 W-CDMA アップリンク関連		
:READ:AC3Gpp	ACLR 測定結果を取得する	p.2-661
オプション24 型 GSM/EDGE 関連		
:READ:GSMedge	GSM/EDGE 解析結果を取得する	p.2-662
オプション25 型 cdma2000 関連		
:READ:FLCDMA2K :RLCDMA2K	cdma2000 解析結果を取得する	p.2-673
オプション26 型 1xEV-DO 関連		
:READ:FL1xEVDO :RL1xEVDO	1xEV-DO 解析結果を取得する	p.2-687
オプション27 型 3GPP-R5 関連		
:READ:SADLR5_3GPP	3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析結果を取得する	p.2-701
オプション29 型 WLAN 関連		
:READ:WLAN	WLAN 解析結果を取得する	p.2-710

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. :INSTrument[:SElect] コマンドで測定モードを選択します。
例えば、SARTIME (リアルタイム・スペクトラム解析) を選択するときは、次のコマンドを使います。

```
:INSTrument[:SElect] "SARTIME"
```

2. 次のコマンドで、データ取り込みをシングル・モードに設定します。

```
:INITiate:CONTinuous OFF
```

注: 連続モードでデータを取り込んでいるときに :READ コマンドを実行すると、強制的にシングル・モードに変更されます。

:READ:DDEMod サブグループ

デジタル変調解析、オプション21型のみ

:READ:DDEMod コマンドでは、デジタル変調解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:READ	
:DDEMod?	IQVTime FVTime CONStE EVM AEVM PEVM MERRor AMERRor PMERRor PERRor APERRor PPERror RHO SLEngth FERRor OOFFset STABle PVTime AMAM AMPM CCDF PDF

:READ:DDEMod? (問合せのみ)

デジタル変調信号解析結果を取得します。

構文: :READ:DDEMod? { IQVTime | FVTime | CONSte | EVM | AEVM | PEVM | MERRor
| AMERRor | PMERRor | PERRor | APERRor | PPERror | RHO | SLEngth | FERRor
| OOFFset | STABle | PVTime | AMAM | AMPM | CCDF | PDF }

引数: 各引数について問合せ内容を下表に示します。

表 2-75: デジタル変調信号解析結果の取得

引数	問合せの内容
IQVTime	時間対 IQ レベル測定結果
FVTime	時間対周波数測定結果 (FSK 復調時のみ)
CONSte	コンスタレーション測定結果 (シンボルの座標データ列)
EVM	EVM (Error Vector Magnitude) 測定結果
AEVM	EVM の RMS 値
PEVM	EVM のピーク値とそのシンボル番号
MERRor	振幅誤差
AMERRor	振幅誤差の RMS 値
PMERRor	振幅誤差のピーク値とそのシンボル番号
PERRor	位相誤差
APERRor	位相誤差の RMS 値
PPERror	位相誤差のピーク値とそのシンボル番号
RHO	波形品質 (ρ) の値
SLEngth	解析されたシンボル数
FERRor	周波数誤差
OOFFset	原点オフセットの値 ([:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK、FSK または GFSK のときは無効)
STABle	シンボル・テーブルのデータ
PVTime	電力対時間測定結果 ([:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK のときに有効)
AMAM	AM/AM 測定結果
AMPM	AM/PM 測定結果
CCDF	CCDF 測定結果
PDF	PDF 測定結果

応答: 各引数ごとに応答を示します。
 角度の単位は、:UNIT:ANGLE コマンドで、度 (degree) またはラジアン (radian) が
 選択できます。

IQVTime

```
#<Num_digit><Num_byte><Idata(1)><Qdata(1)><Idata(2)><Qdata2>...  
<Idata(n)><Qdata(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Idata(n)><Qdata(n)> — I信号、Q信号のレベルデータ、単位 [V]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
 n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

FVTime

```
#<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 時系列の周波数偏移データ、単位 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
 n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

CONSte

```
#<Num_digit><Num_byte><Ip(1)><Qp(1)>...<Ip(n)><Qp(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Ip(n)> — I 座標軸上のサンプル位置を正規化した値

<Qp(n)> — Q 座標軸上のサンプル位置を正規化した値

<Ip(n)> と <Qp(n)> は IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動
 小数点フォーマット。n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

EVM

```
#<Num_digit><Num_byte><Evm(1)><Evm(2)>...<Evm(n)>
```

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Evm(n)> — シンボルのEVMの値、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
 n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

AEVM

```
<aevm>::=<NRf> — EVM の RMS 値、単位 [%]
```


PEVM

<pevm>,<symb>

ここで

<pevm>::=<NRf> — EVM のピーク値、単位 [%]

<symb>::=<NR1> — EVM のピーク値の時のシンボル番号

MERRor

#<Num_digit><Num_byte><Merr(1)><Merr(2)>...<Merr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Merr(n)> — シンボルの振幅誤差の値、単位 [%]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024 ポイント × 500 フレーム)

AMERror

<amer>::=<NRf> — 振幅誤差の RMS 値、単位 [%]

PMERror

<pmer>,<symb>

ここで

<pmer>::=<NRf> — 振幅誤差のピーク値、単位 [%]

<symb>::=<NR1> — 振幅誤差のピーク値のシンボル番号

PERRor

#<Num_digit><Num_byte><Perr(1)><Perr(2)>...<Perr(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Perr(n)> — シンボルの位相誤差の値、単位 [deg/rad]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024 ポイント × 500 フレーム)

APERror

<aper>::=<NRf> — 位相誤差の RMS 値、単位 [deg/rad]

PPERror

<pper>,<symb>

ここで

<pper>::=<NRf> — 位相誤差のピーク値、単位 [deg/rad]

<symb>::=<NRf> — 位相誤差のピーク値のシンボル番号

RHO

<rho>::=<NRf> — 波形品質 (q) の測定値。

SLEngth

<slen>::=<NR1> — 解析されたシンボル数。

FERRor

<ferr>::=<NRf> — 周波数誤差の測定値、単位 [Hz]

OOFFset

<ooff>::=<NRf> — 原点オフセットの測定値、単位 [dB]

STABle

#<Num_digit><Num_byte><Sym(1)><Sym(2)>...<Sym(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Sym(n)>::=<NR1> — シンボル・データ

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

PVTime

#<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Sym(n)>::=<NR1> — 時間領域電力データ、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

AMAM

<Comp>,<Coeff_num>{,<Coeff>}

ここで

<Comp>::=<NRf> — 1dB 圧縮点、単位 [dBm]

<Coeff_Num>::=<NR1> — 係数の数 (1~16)

この数は、[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:COEFFicient で設定した値に 1 を足した値です。

<Coeff>::=<NRf> — 係数の値。

AMPM

<Coeff_num>{,<Coeff>}

ここで

<Coeff_Num>::=<NR1> — 係数の数 (1~16)

この数は、[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:COEFFicient で設定した値に 1 を足した値です。

<Coeff>::=<NRf> — 係数の値。

CCDF

<Mean_Power_D>,<Peak_Power_D>,<Crest_Factor_D>,
<Mean_Power_R>,<Peak_Power_R>,<Crest_Factor_R>

ここで

<Mean_Power_D>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]
<Peak_Power_D>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]
<Crest_Factor_D>::=<NRf> — クレスト・ファクタ測定値、単位 [dB]
<Mean_Power_R>::=<NRf> — 平均電力基準値、単位 [dBm]
<Peak_Power_R>::=<NRf> — ピーク電力基準値、単位 [dBm]
<Crest_Factor_R>::=<NRf> — クレスト・ファクタ基準値、単位 [dB]

PDF

<Mean_Power_D>,<Peak_Power_D>,<Mean_Power_R>,<Peak_Power_R>

ここで

<Mean_Power_D>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]
<Peak_Power_D>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]
<Mean_Power_R>::=<NRf> — 平均電力基準値、単位 [dBm]
<Peak_Power_R>::=<NRf> — ピーク電力基準値、単位 [dBm]

測定モード : DEMDDEM

使用例 : 時間 対 IQ レベル測定結果を取得します。

```
:READ:DDEMod? IQVTime
```

次の応答例では、1024バイトのデータが返ります。

```
#41024xxxx...
```

関連コマンド : :INSTRument[:SElect], [:SENSe]:DDEMod:FORMat, :UNIT:ANGLE

:READ:RFID サブグループ

RFID 解析、オプション21 型のみ

:READ:RFID コマンドは、RFID (Radio Frequency Identification) 解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ

パラメータ

:READ

:RFID

:ACPower?

:SPURious?

:SPECTrum

:ACPower?

:SPURious?

:READ:RFID:ACPower? (問合せのみ)

RFID 解析で、ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定結果を取得します。

構文: :READ:RFID:ACPower?

引数: なし

応答: <Count>{,<Ofrequency>,<Upper>,<Lower>}

ここで

<Count>::=<NR1> — 後に続くデータ・セットの数 (0~25)

<Ofrequency>::=<NRf> — オフセット周波数 [Hz]

<Upper>::=<NRf> — 上側 n 次隣接チャンネルの ACPR [dBc]

<Lower>::=<NRf> — 下側 n 次隣接チャンネルの ACPR [dBc]

測定モード: DEMRFID

使用例: ACPR 測定結果を取得します。

:READ:RFID:ACPower?

次は応答例です。

2,500E+3,-38.45,-38.43,1E+6,-44.14,-44.11

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:RFID:SPURious? (問合せのみ)

RFID 解析で、スプリアス測定結果を取得します。

構文: :READ:RFID:SPURious?

引数: なし

応答: <Snum>{,<Dfreq>,<Rdbc>}

ここで

<Snum>::=<NR1> — 検出されたスプリアスの数、最大 20。

<Dfreq>::=<NRf> — スプリアス周波数 (キャリア基準) [Hz]

<Rdbc>::=<NRf> — スプリアス・レベル (キャリア基準) [dBc]

測定モード: DEMRFID

使用例: スプリアス測定結果を取得します。

:READ:RFID:SPURious?

次は応答例です。

2,-468.75E+3,-45.62,787.5E+3,-49.88

関連コマンド: :INSTrument[:SELect]

:READ:RFID:SPECTrum:ACPower? (問合せのみ)

RFID 解析で ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:RFID:SPECTrum:ACPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラムの振幅 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001

測定モード: DEMRFID

使用例: ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:RFID:SPECTrum:ACPower?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:RFID:SPECTrum:SPURious? (問合せのみ)

RFID 解析で、スプリアス測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:RFID:SPECTrum:SPURious?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラムの振幅 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 240001

測定モード: DEMRFID

使用例: スプリアス測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:RFID:SPECTrum:SPURious?

次の応答例では、3200 バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SSource サブグループ シグナル・ソース解析、オプション21 型のみ

:READ:SSource コマンドでは、シグナル・ソース解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ

:READ

 :SSource?

 :SPECTrum?

 :TRANsient

 :FVTime?

パラメータ

PN0ise | SPURious | FVTime

:READ:SSource? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で選択した測定の結果を取得します。

構文: :READ:SSource? { PNOise | SPURious | FVTime }

引数: 引数は、表に示した測定を意味します。

表 2-76: PLL 測定

引数	測定
PNOise	位相雑音
SPURious	スプリアス
FVTime	周波数対時間

応答: 各引数ごとに応答を示します。

PNOise

<Cfreq>,<Cpower>,<IP_Noise>,<Rj>,<Max_Pj>

ここで

<Cfreq>::=<NRf> — キャリア周波数 [Hz]
 <Cpower>::=<NRf> — チャンネル電力 [dBm]
 <IP_Noise>::=<NRf> — 積分位相雑音 [ラジアン/度]
 <Rj>::=<NRf> — ランダム・ジッタ [秒]
 <Max_Pj>::=<NRf> — 最大周期的ジッタ [秒]

SPURious

<snum>{,<dfreq>,<rdb>}

ここで

<snum>::=<NR1> — 検出されたスプリアス信号の数 (最大 20)
 <dfreq>::=<NRf> — スプリアス信号の周波数 (キャリアからの相対値) [Hz]
 <rdb>::=<NRf> — スプリアス信号のレベル (キャリアからの相対値) [dBc]

FVTime

<Fstime>,<Fsstart>,<Fsstop>,<TFstime>,<Tfsstart>,<Tfsstop>

ここで

<Fstime>::=<NRf> — 周波数セトリング・タイム
 <Fsstart>::=<NRf> — 周波数セトリング・タイム測定開始点
 <Fsstop>::=<NRf> — 周波数セトリング・タイム測定停止点
 <TFstime>::=<NRf> — トリガ点からの周波数セトリング・タイム
 <Tfsstart>::=<NRf> — トリガ点からの周波数セトリング・タイム測定開始点
 <Tfsstop>::=<NRf> — トリガ点からの周波数セトリング・タイム測定停止点
 単位:すべて秒

測定モード: TIMSSOURCE

使用例 : 位相雑音の測定結果を取得します。

:READ:SSource? PNOise

次は応答例です。

2.0E+9,-21.430,12.432E-12,8.95,217.725E-12

:READ:SSource:SPECTrum? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で周波数領域測定のスเปクトラム波形データを取得します。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement の設定が PNOise、SPURious、または RTSPurious のときに有効です。

構文 : :READ:SSource:SPECTrum?

引数 : なし

応答 : #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラムの振幅 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001

測定モード : TIMSSOURCE

使用例 : シグナル・ソース解析で、スペクトラム波形データを取得します。

:READ:SSource:SPECTrum?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド : [:SENSe]:SSource:MEASurement

:READ:SSource:TRANsient:FVTime? (問合せのみ)

シグナル・ソース解析で、周波数 vs 時間測定結果を取得します。

構文: :READ:SSource:TRANsient:FVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — 時間軸上の周波数偏移値 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n: 最大 512000 (1024 ポイント×500 フレーム)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: シグナル・ソース解析で、周波数 vs 時間測定結果を取得します。

:READ:SSource:TRANsient:FVTime?

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

:READ:AC3Gpp サブグループ

W-CDMA、オプション23型のみ

:READ:AC3Gpp コマンドでは、W-CDMA ACLR 測定結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:READ	
:AC3Gpp	
:ACLR?	

:READ:AC3Gpp:ACLR? (問合せのみ)

W-CDMA ACLR (隣接チャンネル漏洩電力比) の測定結果を取得します。

構文: :READ:AC3Gpp:ACLR?

引数: なし

応答: <chpower>,<ac1rm1>,<ac1rp1>,<ac1rm2>,<ac1rp2>

ここで

<chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<ac1rm1>::=<NRf> — 下側隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rp1>::=<NRf> — 上側隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rm2>::=<NRf> — 下側次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<ac1rp2>::=<NRf> — 上側次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

測定モード: SAUL3G

使用例: W-CDMA ACLR の測定結果を取得します。

```
:READ:AC3Gpp:ACLR?
```

次は応答例です。

```
-1.081,-68.420,-68.229,-74.506,-74.462
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:GSMedge サブグループ

GSM/EDGE、オプション24 型のみ

:READ:AC3Gpp コマンドでは、W-CDMA ACLR 測定結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:READ	
:GSMedge	
:MACCuracy?	
:MCPower?	
:MODulation?	
:PVTime?	
:SPECTrum	
:MODulation?	
:SWITching?	
:SPURious?	
:SWITching?	
:TAMPLitude	
:MCPower?	
:PVTime?	

:READ:GSMedge:MACCuracy? (問合せのみ)

バーストの変調確度測定結果を取得します。

バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDex コマンドで指定します。

構文: :READ:GSMedge:MACCuracy?

応答: <pass_fail>,<phase_error>,<peak_phase_error>,<evm>,<evm95>,<peak_evm>,<freq_error>,<o_off>

ここで

<pass_fail>::=<NR1> — 0 : フェイル、1 : パス

<phase_error>::=<NRf> — 位相誤差、単位 [degree]

<peak_phase_error>::=<NRf> — ピーク位相誤差、単位 [degree]

<evm>::=<NRf> — EVM (Error Vector Magnitude)、単位 [%]

<evm95>::=<NRf> — EVM 95% タイル、単位 [%]

<peak_evm>::=<NRf> — ピーク EVM、単位 [%]

<freq_error>::=<NRf> — 周波数誤差、単位 [Hz]

<o_off>::=<NRf> — 原点オフセット、単位 [dB]

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストの変調確度の測定結果を取得します。

:READ:GSMedge:MACCuracy?

次は応答例です。

1,0.47,0.86,0.93,0.75,2.15,4.209,-64.31

関連コマンド: :INSTRument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDex

:READ:GSMedge:MCPower? (問合せのみ)

バーストの平均キャリア電力測定結果を取得します。
バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INdEx コマンドで指定します。

構文: :READ:GSMedge:MCPower?

応答: <mean_power><max_power><max_bi><min_power><min_bi>

ここで

<mean_power>::=<NRf> — 平均電力、単位 [dBm]

<max_power>::=<NRf> — 最大電力、単位 [dBm]

<max_bi>::=<NR1> — 最大電力のバースト番号

<min_power>::=<NRf> — 最小電力、単位 [dBm]

<min_bi>::=<NR1> — 最小電力のバースト番号

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストの平均キャリア電力測定結果を取得します。

:READ:GSMedge:MACCuracy?

次は応答例です。

68.081,72.420,3,58.229,7

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INdEx

:READ:GSMedge:MODulation? (問合せのみ)

[[:SENSe]:GSMedge:STANdard コマンド・グループで指定した規格を用いたモジュレーションスペクトラム測定結果 (パス/フェイル) を問合せます。

構文: :READ:GSMedge:MODulation?

引数: なし

応答: <NR1>
0 – フェイル
1 – パス

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: モジュレーション・スペクトラムの測定結果を問合せます。

:READ:GSMedge:MODulation?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:STANdard

:READ:GSMedge:PVTime? (問合せのみ)

バーストの電力対時間測定結果 (パス/フェイル) を問合せます。
バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX コマンドで指定します。

構文: :READ:GSMedge:PVTime?

引数: なし

応答: <NR1>
0 – フェイル
1 – パス

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 電力対時間の測定結果を問合せます。

:READ:GSMedge:PVTime?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX

:READ:GSMedge:SPECTrum:MODulation? (問合せのみ)

バーストのモジュレーション・スペクトラム測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。バーストは [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX コマンドで指定します。

構文: :READ:GSMedge:SPECTrum:MODulation?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — モジュレーション・スペクトラムの値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 240001。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストのモジュレーション・スペクトラム測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。

:READ:GSMedge:SPECTrum:MODulation?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SELect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDeX

:READ:GSMedge:SPECTrum:SWITching? (問合せのみ)

バーストのスイッチング・スペクトラム測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDEx コマンドで指定します。

構文: :READ:GSMedge:SPECTrum:SWITching?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — Switching Spectrum の値、単位[dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストのスイッチング・スペクトラム測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。

:READ:GSMedge:SPECTrum:SWITching?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDEx

:READ:GSMedge:SPURious? (問合せのみ)

[[:SENSe]:GSMedge:STANdard コマンドで指定した規格を用いたスプリアス測定の結果を取得します。規格線を越えた信号をレベルの小さい順に最大 10個まで抽出し周波数とレベルを返します。

構文: :READ:GSMedge:SPURious?

応答: <num>{<freq>,<rdb>}

ここで

<num>::=<NR1> — 検出したスプリアスの数、最大 10

<freq>::=<NRf> — 周波数、単位 [Hz]

<rdb>::=<NRf> — レベル、単位 [dBm]

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スプリアス測定結果を取得します。

:READ:GSMedge:SPURious?

次は応答例です。

3,1.2E6,-79,2.4E6,-79.59,1E6,-80.38

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:STANdard

:READ:GSMedge:SWITching? (問合せのみ)

[[:SENSe]:GSMedge:STANdard]コマンドで指定した規格を用いたスイッチング・スペクトラム測定の結果 (パス/フェイル) を問合せます。

構文: :READ:GSMedge:SWITching?

引数: なし

応答: <NR1>
0 – フェイル
1 – パス

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スイッチング・スペクトラムの測定結果を問合せます。

:READ:GSMedge:SWITching?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [[:SENSe]:GSMedge:STANdard]

:READ:GSMedge:TAMplitude:MCPower? (問合せのみ)

バーストの平均キャリア電力測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。
バーストは、[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDEX コマンドで指定します。

構文: :READ:GSMedge:TAMplitude:MCPower?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

無効データは、-1000 として送られます。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 平均キャリア電力測定を行い、時間領域の振幅を取得します。

```
:READ:GSMedge:TAMplitude:MCPower?
```

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDEX

:READ:GSMedge:TAMplitude:PVTime? (問合せのみ)

バーストの電力対時間測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。
バーストは[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDExコマンドで指定します。

構文: :READ:GSMedge:TAMplitude:PVTime?

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力値、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n: 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

無効データは、-1000 として送られます。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストの電力対時間測定を行い、時間領域の振幅データを取得します。

:READ:GSMedge:TAMplitude:PVTime?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDEx

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K サブグループ

cdma2000、オプション25 型のみ

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2Kコマンドでは、cdma2000解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:READ	
	:FLCDMA2K :RLCDMA2K
	:ACPower?
	:CCDF?
	:CHPower?
	:DISTribution
	:CCDF?
	:IM?
	:OBWidth?
	:PVTime?
	:SEMask?
	:SPECTrum
	:ACPower?
	:CHPower?
	:IM?
	:OBWidth?
	:TAMPliitude
	:PVTime?

注 : :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K サブグループには、:CDPower?、:MAC-Curacy?、および :PCCHannel? コマンドは、ありません。これらの測定結果を取得するには、[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K[:IMMediate] コマンドを使用してください。

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の結果を取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACPower?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<Chpower>,<Acpr1>,<Acpr2>,<Acpr3>,<Acpr4>,<Acpr5>,<Acpr6>,<LAcpr7>,<Acpr8>,<Acpr9>,<Acpr10>,<Acpr11>,<Acpr12>

ここで

<pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果：1はパス、0はフェイル。

<Chpower>::=<NRf>—チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Acpr1>::=<NRf>—1次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr2>::=<NRf>—2次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr3>::=<NRf>—3次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

⋮

<Acpr10>::=<NRf>—10次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr11>::=<NRf>—11次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr12>::=<NRf>—12次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、ACPR 測定の結果を取得します。

```
:READ:FLCDMA2K:ACPower?
```

次は応答例です。

```
0,-2.048E+001,-6.29E+001,-4.248E+001,-6.526E+001,-6.607E+001,
-6.79E+001,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,
-1.0E+038,-1.0E+038
```

関連コマンド: :INSTrument[:SELect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF?

引数: なし

応答: <Mean_power>,<Peak_power>,<Crest_factor>

ここで

<Mean_power>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]

<Peak_power>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]

<Crest_factor>::=<NRf> — クレスト・ファクタ、単位 [dB]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

```
:READ:FLCDMA2K:CCDF?
```

次は応答例です。

```
-2.043E+001,-9.75E+000,1.068E+001
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CHPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定の結果を取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CHPower?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<Chpower>,<Power_density>

ここで

<pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<Chpower>::=<Nrf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Power_density>::=<Nrf> — 電力密度測定値、単位 [dBm/Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定の結果を取得します。

:READ:FLCDMA2K:CHPower?

次は応答例です。

1,-2.0375E+001,-8.1274E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DISTriBution:CCDF? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定のディストリビューション・データを取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DISTriBution:CCDF?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n: 最大 10001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

:READ:FLCDMA2K:DISTriBution:CCDF?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:IM? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定の結果を取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:IM?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<L_channel>,<U_channel>,<L3_lower>,<L3_upper>,<U3_lower>,<U3_upper>,<L5_lower>,<L5_upper>,<U5_lower>,<U5_upper>

ここで

<pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果：1はパス、0はフェイル

<L_channel>::=<NRf>—下側チャンネル測定値、単位 [dB]

<U_channel>::=<NRf>—上側チャンネル測定値、単位 [dB]

<L3_lower>::=<NRf>—下側3次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L3_upper>::=<NRf>—下側3次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U3_lower>::=<NRf>—上側3次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U3_upper>::=<NRf>—上側3次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<L5_lower>::=<NRf>—下側5次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L5_upper>::=<NRf>—下側5次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U5_lower>::=<NRf>—上側5次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U5_upper>::=<NRf>—上側5次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、相互変調測定の結果を取得します。

```
:READ:FLCDMA2K:IM?
```

次は応答例です。

```
1,-2.058E+001,-5.446E+001,-1.68E+001,1.71E+001,-4.76E+001,-1.37E+001,
-4.73E+001,-1.34E+001,-5.11E+001,-1.72E+001
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:OBWidth? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で占有帯域幅測定の結果を取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:OBWidth?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<obw>

ここで

<pass_fail>::={1|0} — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<obw>::=<Nrf> — 占有帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定の結果を取得します。

:READ:FLCDMA2K:OBWidth?

次は応答例です。

1,1.26763E+006

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:RLCDMA2K:PVTime? (問合せのみ)

cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲートッド・アウトプット・パワー測定結果を取得します。

構文: :READ:RLCDMA2K:PVTime?

引数: なし

応答: <pass_fail>

ここで

<pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果: 1はパス、0はフェイル

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲートッド・アウトプット・パワー測定結果を取得します。

:READ:RLCDMA2K:PVTime?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SEMask? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・エミッションマスク測定の結果を取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SEMask?

引数: なし

応答: <pass_fail>

ここで

<pass_fail>::={1|0}—リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。

```
:READ:FLCDMA2K:SEMask?
```

次は応答例です。

```
1
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:ACPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:ACPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で ACPR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:FLCDMA2K:SPECTrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:CHPower? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:CHPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:FLCDMA2K:SPECTrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:IM? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:IM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得します。

```
:READ:FLCDMA2K:SPECTrum:IM?
```

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:OBWidth? (問合せのみ)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、占有帯域幅測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum:OBWidth?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:FLCDMA2K:SPECTrum:OBWidth?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:RLCDMA2K:TAMPlitude:PVTime? (問合せのみ)

cdma2000 リバース・リンク解析でゲートッド・アウトプット・パワー 測定 の時間領域振幅データを取得します。

構文: :READ:RLCDMA2K:TAMPlitude:PVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲートッド・アウトプット・パワー測定結果を取得します。

:READ:RLCDMA2K:TAMPlitude:PVTime?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 サブグループ

1xEV-DO、オプション26 型のみ

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 コマンドでは、1xEV-DO ACLR 測定結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:READ	
	:FL1XEVD0 :RL1XEVD0
	:ACPower?
	:CCDF?
	:CHPower
	:IM?
	:OBWidth?
	:PVTime?
	:SEMask?
	:DISTribution
	:CCDF?
	:SPECTrum
	:ACPower?
	:CHPower?
	:IM?
	:OBWidth?
	:TAMPplitude
	:PVTime?

注 : :READ サブシステムには、:CDPower?、:MACCuracy?、および :PCCHannel? コマンドは、ありません。これらの測定結果を取得するためには、[:SENSe]-:FL1XEVD0|:RL1XEVD0[:IMMEDIATE] コマンドを使用してください。

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:ACPower? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の結果を取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:ACPower?

引数: なし

応答: <Pass_fail>,<Chpower>,<Acpr1>,<cpr2>,<Acpr3>,<Acpr4>,<Acpr5>,<Acpr6>,<Acpr7>,<Acpr8>,<Acpr9>,<Acpr10>,<Acpr11>,<Acpr12>

ここで

<Pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果：1はパス、0はフェイル。

<Chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Acpr1>::=<NRf> — 1次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr2>::=<NRf> — 2次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr3>::=<NRf> — 3次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

.

.

.

<Acpr10>::=<NRf> — 10次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr11>::=<NRf> — 11次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

<Acpr12>::=<NRf> — 12次隣接チャンネル ACPR、単位 [dBc]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ACPR 測定の結果を取得します。

```
:READ:FL1XEVD0:ACPower?
```

次は応答例です。

```
0,-2.048E+001,-6.29E+001,-4.248E+001,-6.526E+001,-6.607E+001,
-6.79E+001,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,-1.0E+038,
-1.0E+038,-1.0E+038
```

関連コマンド: :INSTrument[:SELect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF?

引数: なし

応答: <Mean_power>,<Peak_power>,<Crest_factor>

ここで

<Mean_power>::=<NRf> — 平均電力測定値、単位 [dBm]

<Peak_power>::=<NRf> — ピーク電力測定値、単位 [dBm]

<Crest_factor>::=<NRf> — クレスト・ファクタ、単位 [dB]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

```
:READ:FL1XEVD0:CCDF?
```

次は応答例です。

```
-2.043E+001,-9.75E+000,1.068E+001
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CHPower? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定の結果を取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CHPower?

引数: なし

応答: <Pass_fail>,<Chpower>,<Power_density>

ここで

<Pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果:1はパス、0はフェイル

<Chpower>::=<Nrf> —チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<Power_density>::=<Nrf> —電力密度測定値、単位 [dBm/Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVD0:CHPower?

次は応答例です。

1,-2.0375E+001,-8.1274E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DISTriBution:CCDF? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定のディストリビューション・データを取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DISTriBution:CCDF?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 10001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF 測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVD0:DISTriBution:CCDF?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定の結果を取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM?

引数: なし

応答: <Pass_fail>,<L_channel>,<U_channel>,<L3_lower>,<L3_upper>,<U3_lower>,<U3_upper>,<L5_lower>,<L5_upper>,<U5_lower>,<U5_upper>

ここで

<Pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果：1はパス、0はフェイル

<L_channel>::=<NRf>—下側チャンネル測定値、単位 [dB]

<U_channel>::=<NRf>—上側チャンネル測定値、単位 [dB]

<L3_lower>::=<NRf>—下側3次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L3_upper>::=<NRf>—下側3次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U3_lower>::=<NRf>—上側3次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U3_upper>::=<NRf>—上側3次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<L5_lower>::=<NRf>—下側5次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<L5_upper>::=<NRf>—下側5次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

<U5_lower>::=<NRf>—上側5次相対電力最小測定値、単位 [dBc]

<U5_upper>::=<NRf>—上側5次相対電力最大測定値、単位 [dBc]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定の結果を取得します。

```
:READ:FL1XEVD0:IM?
```

次は応答例です。

```
1,-2.058E+001,-5.446E+001,-1.68E+001,1.71E+001,-4.76E+001,-1.37E+001,
-4.73E+001,-1.34E+001,-5.11E+001,-1.72E+001
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:OBWidth? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で占有帯域幅 (OBW) 測定の結果を取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:OBWidth?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<obw>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — リミット・テスト結果: 1 はパス、0 はフェイル

<obw>::=<Nrf> — 占有帯域幅測定値、単位 [Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVD0:OBWidth?

次は応答例です。

1,1.26763E+006

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0:PVTime? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲートッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0:PVTime?

引数: なし

応答: <pass_fail>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1はパス、0はフェイル

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲートッド・アウトプット・パワー測定の結果を取得します。

:READ:FL1XEVD0:PVTime?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMask? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定の結果を取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMask?

引数: なし

応答: <pass_fail>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 }—リミット・テスト結果: 1はパス、0はフェイル

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定の結果を取得します。

```
:READ:FL1XEVD0:SEMask?
```

次は応答例です。

```
1
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:ACPower? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定のスペクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:ACPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ACPR 測定のスペクトラム波形データを取得します。

```
:READ:FL1XEVD0:SPECTrum:ACPower?
```

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:CHPower? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:CHPower?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:FL1XEVD0:SPECtrum:ACPower?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:IM? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum:IM?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2で規定された4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定のスเปクトラム波形データを取得します。

```
:READ:FL1XEVD0:SPECTrum:IM?
```

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

```
#510240xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:OBWidth? (問合せのみ)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で占有帯域幅測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECtrum:OBWidth?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit>—<Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位[dBm]。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 240001。

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:FL1XEVD0:SPECtrum:OBWidth?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:FL1XEVD0:TAMPlitude:PVTime? (問合せのみ)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲートド・アウトプット・パワー 測定の時
時間領域振幅データを取得します。

構文: :READ:FL1XEVD0:TAMPlitude:PVTime?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 各シンボルの絶対電力。

IEEE488.2 で規定された 4 バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 512000 (=1024 ポイント×500 フレーム)

無効データでは、-1000 が返されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲートド・アウトプット・パワー測定の結果
を取得します。

:READ:FL1XEVD0:TAMPlitude:PVTime?

次の応答例では、10240 バイトのデータが返されます。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SADLR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5、オプション27 型のみ

:READ:SADLR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム解析結果を取得します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:READ	
:SADLR5_3GPP	
:ACLR?	
:CHPower?	
:OBWidth?	
:SEMask?	
:SPECTrum?	
:ACLR?	
:CHPower?	
:OBWidth?	
:SEMask?	

:READ:SADLR5_3GPP:ACLR? (問合せのみ)

3GPP-R5ダウンリンクACLR (Adjacent Channel Leakage Power Ratio : 隣接チャンネル漏洩電力比) 測定結果を取得します。

構文: :READ:SADLR5_3GPP:ACLR?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<chpower>,<aclrm1>,<aclrp1>,<aclrm2>,<aclrp2>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果、1: パス、0: フェイル

<chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<aclrm1>::=<NRf> — 下側1次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<aclrp1>::=<NRf> — 上側1次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<aclrm2>::=<NRf> — 下側2次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

<aclrp2>::=<NRf> — 上側2次隣接チャンネル ACLR、単位 [dB]

測定モード: SADLR5_3G

使用例: ACLR測定結果を取得します。

```
:READ:SADLR5_3GPP:ACLR?
```

次は応答例です。

```
-1.081,-68.420,-68.229,-74.506,-74.462
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SADLR5_3GPP:CHPower? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンク チャンネル電力測定結果を取得します。

構文: :READ:SADLR5_3GPP:CHPower?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<chpower>,<power_density>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果、1: パス、0: フェイル

<chpower>::=<NRf> — チャンネル電力測定値、単位 [dBm]

<power_density>::=<NRf> — 電力密度測定値、単位 [dBm/Hz]

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定結果を取得します。

:READ:SADLR5_3GPP:CHPower?

次は応答例です。

1,-2.0375E+001,-8.1274E+001

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SADLR5_3GPP:OBWidth? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンク OBW (Occupied Bandwidth : 占有帯域幅) 測定結果を取得します。

構文: :READ:SADLR5_3GPP:OBWidth?

引数: なし

応答: <pass_fail>,<obw>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果、1: パス、0: フェイル

<obw>::=<NRf> — 占有帯域幅、単位 [Hz]

測定モード: SADLR5_3G

使用例: OBW測定結果を取得します。

```
:READ:SADLR5_3GPP:OBWidth?
```

次は応答例です。

```
1,1.27333E+006
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SADLR5_3GPP:SEMask? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンクの スペクトラム放射マスク測定結果を取得します。

構文: :READ:SADLR5_3GPP:SEMask?

引数: なし

応答: <pass_fail>

ここで

<pass_fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果、1: パス、0: フェイル

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定結果を取得します。

:READ:SADLR5_3GPP:SEMask?

次は応答例です。

1

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:ACLR? (問合せのみ)

3GPP-R5ダウンリンクACLR (Adjacent Channel Leakage Power Ratio : 隣接チャンネル漏洩電力比) 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:ACLR?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 時系列の周波数データ、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット
n : 最大 240001。

無効データは -1000 として返されます。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: ACLR 測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:ACLR?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:CHPower? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンクのチャンネル電力測定で、スペクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:CHPower?

引数: なし

応答: 形式は、:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:ACLR? 問合せと同じです。
2-706ページを参照してください。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:CHPower?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:OBWidth? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンクのOBW (Occupied Bandwidth : 占有帯域幅) 測定でスペクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:OBWidth?

引数: なし

応答: 形式は、:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:ACLR? 問合せと同じです。
2-706ページを参照してください。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:OBWidth?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:SEMask? (問合せのみ)

3GPP-R5 ダウンリンクのスペクトラム放射マスク測定で、スペクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:SEMask?

引数: なし

応答: 形式は、:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:ACLR? 問合せと同じです。
2-706ページを参照してください。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定のスペクトラム波形データを取得します。

:READ:SADLR5_3GPP:SPECTrum:SEMask?

次の応答例では、10240バイトのデータが返ります。

#510240xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:WLAN サブグループ

WLAN、オプション29 型のみ

:READ:WLAN コマンドでは、WLAN 解析の測定結果を取得します。

注：測定結果を取得するには、[:SENSe]:WLAN[:IMMEDIATE] コマンドを実行する必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:READ	
:WLAN	
:POWer	
:TPOWer?	POSitive NEGative
:SMASK?	
:SPECTrum	
:SMASK?	
:TPOWer?	

:READ:WLAN:POWer:TPOWer? (問合せのみ)

WLAN 解析で、送信電力測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:WLAN:Power:TPower? { POSitive | NEGative }

引数: POSitive — 送信電力オン時の勾配の波形データを取得します。

NEGative — 送信電力オフ時の勾配の波形データを取得します。

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数

<Data(n)> — 電力スペクトラム、単位 [W]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n : 最大 512000 (1024ポイント×500フレーム)

測定モード: DEMWLAN

使用例: 送信電力オン時の勾配の波形データを取得します。

:READ:WLAN:Power:TPower? POSitive

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

#43200xxxx...

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:WLAN:SMASK? (問合せのみ)

WLAN 解析で、スペクトラム・マスク測定結果を取得します。

構文: :READ:WLAN:SMASK?

引数: なし

応答: <pass_Fail>::={ 1 | 0 } — 測定結果: パス (1) またはフェイル (0)。

測定モード: DEMWLAN

使用例: スペクトラム・マスクの測定結果を問合せます。

```
:READ:WLAN:SMASK?
```

次は応答例です。

```
1
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:WLAN:SPECTrum:SMASK? (問合せのみ)

WLAN解析で、スペクトラム・マスク測定のスเปクトラム波形データを取得します。

構文: :READ:WLAN:SPECTrum:SMASK?

引数: なし

応答: #<Num_digit><Num_byte><Data(1)><Data(2)>...<Data(n)>

ここで

<Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Data(n)> — スペクトラム振幅、単位 [dBm]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット

n: 最大 240001

測定モード: DEMWLAN

使用例: スペクトラム波形データを取得します。

```
:READ:WLAN:SPECTrum:SMASK?
```

次の応答例では、3200バイトのデータが返ります。

```
#43200xxxx...
```

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:READ:WLAN:TPOWer? (問合せのみ)

WLAN 解析で、送信電力測定結果を取得します。

構文: :READ:WLAN:TPOWer?

引数: なし

応答: <Power_On>,<Power_Off>

ここで

<Power_On>::=<NRf> — 送信電力オン時の値、単位 [W]

<Power_Off>::=<NRf> — 送信電力オフ時の値、単位 [W]

測定モード: DEMWLAN

使用例: 送信電力測定結果を取得します。

:READ:WLAN:TPOWer?

次は応答例です。

1.352039E-6,1.695838E-6

関連コマンド: :INSTrument[:SElect]

:SENSe コマンド

:SENSe コマンドでは、各測定について詳細な設定を行います。
次のサブグループに分けられています。

表 2-77: :SENSe コマンドのサブグループ

コマンド・ヘッダ	機 能	参 照
[:SENSe] :ACPower	ACPR 測定の設定	p.2-716
[:SENSe] :ADEMod	アナログ変調信号解析の設定	p.2-720
[:SENSe] :AVERage	アベレージの設定	p.2-726
[:SENSe] :BSIZe	ブロック・サイズの設定	p.2-729
[:SENSe] :CCDF	CCDF 測定の設定	p.2-730
[:SENSe] :CFRequency	キャリア周波数測定の設定	p.2-733
[:SENSe] :CHPower	チャンネル電力測定の設定	p.2-734
[:SENSe] :CNRatio	C/N 測定の設定	p.2-737
[:SENSe] :CORRection	振幅補正の設定	p.2-741
[:SENSe] :EBWidth	EBW 測定の設定	p.2-746
[:SENSe] :FEED	信号パスの設定	p.2-748
[:SENSe] :FREQuency	周波数関連の設定	p.2-749
[:SENSe] :OBWidth	OBW 測定の設定	p.2-756
[:SENSe] :PULSe	パルス測定の設定	p.2-758
[:SENSe] :ROSCillator	基準発振器の設定	p.2-768
[:SENSe] :SPEctrum	スペクトラム測定の設定	p.2-769
[:SENSe] :SPURious	スプリアス測定の設定	p.2-786
[:SENSe] :TRANsient	時間領域測定の設定	p.2-790

[[:SENSe]:ACPower サブグループ

S/A (スペクトラム解析) モードの ACPR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[SENSe]	
:ACPower	
:BANDwidth :BWIDth	
:ACHannel	<frequency>
:INTegration	<frequency>
:CSPacing	<frequency>
:FILTer	
:COEfficient	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle GAUSSian NYQuist RNYQuist

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを S/A に設定します。

```
:INSTrument[:SElect] { SANORMAL | SASGRAM | SARTIME | SAUL3G }
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行して、ACPR 測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合

```
:CONFigure:SPECTrum:ACPower
```

- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合

```
[[:SENSe]:SPECTrum:MEASurement ACPower
```

[:SENSe] :ACPower :BANDwidth | :BWIDth :ACHannel (?)

ACPR 測定の際接チャンネルの帯域幅を設定または問合せます (図 2-19)。

構文: [:SENSe] :ACPower :BANDwidth | :BWIDth :ACHannel <value>

[:SENSe] :ACPower :BANDwidth | :BWIDth :ACHannel ?

引数: <value>::=<NRf> — ACPR 測定の際接チャンネルの帯域幅を設定します。

設定範囲: (ビン帯域幅) × 8 ~ スパン [Hz]

ビン帯域幅については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: 隣接チャンネルの帯域幅を 3.5MHz に設定します。

```
:SENSe:ACPower:BANDwidth:ACHannel 3.5MHz
```

[:SENSe] :ACPower :BANDwidth | :BWIDth :INTEgration (?)

ACPR 測定の主チャンネルの帯域幅を設定または問合せます (図 2-19)。

構文: [:SENSe] :ACPower :BANDwidth | :BWIDth :INTEgration <value>

[:SENSe] :ACPower :BANDwidth | :BWIDth :INTEgration ?

引数: <value>::=<NRf> — ACPR 測定のメイン・チャンネルの帯域幅を設定します。

設定範囲: (ビン帯域幅) × 8 ~ スパン [Hz]

ビン帯域幅については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: ACPR 測定の主チャンネルの帯域幅を 3.5MHz に設定します。

```
:SENSe:ACPower:BANDwidth:INTEgration 3.5MHz
```

[[:SENSe]:ACPower:CSPacing(?)]

ACPR 測定のチャンネル間隔を設定または問合せます (図 2-19)。

構文: [[:SENSe]:ACPower:CSPacing <value>

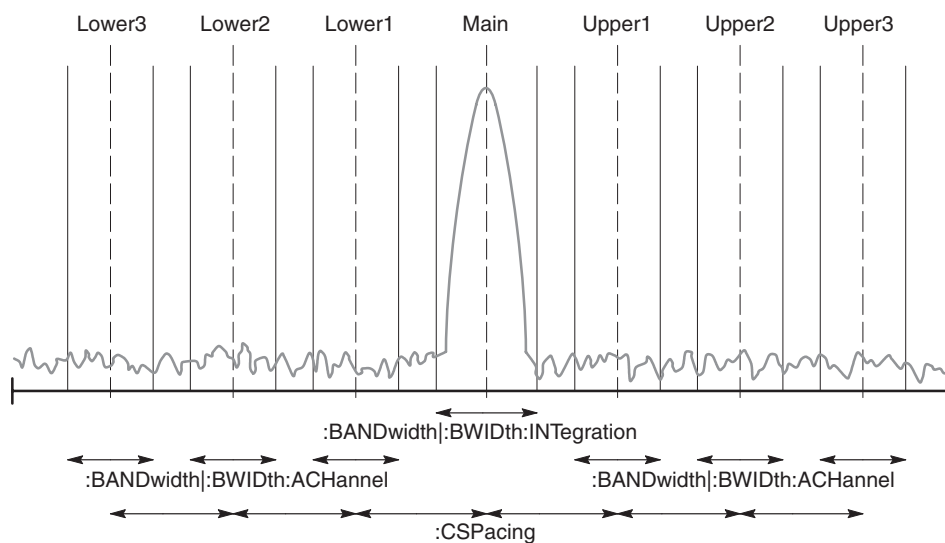
[[:SENSe]:ACPower:CSPacing?

引数: <value>::=<Nrf> — ACPR 測定のチャンネル間隔を設定します。
 設定範囲: (ビン帯域幅) × 8 ~ スパン [Hz]
 ビン帯域幅については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: ACPR 測定のチャンネル間隔を 5MHz に設定します。

:SENSe:ACPower:CSPacing 5MHz



注: [[:SENSe]:ACPowerコマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-19 : ACPR 測定の設定

[:SENSe]:ACPower:FILTer:COEFFicient(?)

ACPR 測定フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:ACPower:FILTer:TYPE で NYQuist (ナイキスト) または RNYQuist (ルート・ナイキスト) を選択したときに有効です。

構文: [:SENSe]:ACPower:FILTer:COEFFicient <ratio>

[:SENSe]:ACPower:FILTer:COEFFicient?

引数: <ratio>::=<NRf> — ロールオフ係数。設定範囲: 0~1。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: ACPR 測定フィルタのロールオフ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:ACPower:FILTer:COEFFicient 0.5

関連コマンド: [:SENSe]:ACPower:FILTer:TYPE

[:SENSe]:ACPower:FILTer:TYPE(?)

ACPR 測定フィルタを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:ACPower:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist
| RNYQuist }

[:SENSe]:ACPower:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-78: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: ACPR 測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:ACPower:FILTer:TYPE NYQuist

[:SENSe]:ADEMod サブグループ

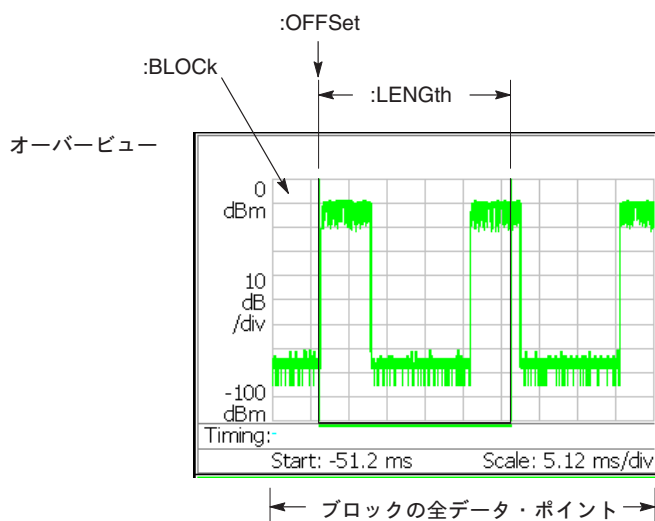
アナログ変調信号解析の設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMAdEM（アナログ変調信号解析）を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:ADEMod	
:BLOCK	<numeric_value>
:CARRier	
OFFSet	<numeric_value>
SEARch	<boolean>
:FM	
:THReshold	<numeric_value>
[:IMMediate]	
:LENGth	<numeric_value>
:MODulation	AM FM PM IQVT OFF
:OFFSet	<numeric_value>
:PM	
:THReshold	<numeric_value>

解析範囲の設定コマンドについては、下図を参照してください。
解析範囲は、オーバービューに緑色の下線で示されます。



注：コマンド・ヘッダの [:SENSe]:ADEMod は省いています。

図 2-20：解析範囲の設定

[:SENSe]:ADEMod:BLOCK(?)

アナログ変調信号解析を行うブロック番号を設定または問合せます (図 2-20)。

構文: [:SENSe]:ADEMod:BLOCK <number>

[:SENSe]:ADEMod:BLOCK?

引数: <number>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: DEMADEM

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:ADEMod:BLOCK -5

[:SENSe]:ADEMod:CARRIER:OFFSET(?)

FM 変調信号解析でキャリア周波数オフセットを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:ADEMod:CARRIER:OFFSET <freq>

[:SENSe]:ADEMod:CARRIER:OFFSET?

引数: <freq>::=<NR1> — キャリア周波数オフセットを設定します。
設定範囲: -30 ~ +30 MHz

測定モード: DEMADEM

使用例: キャリア周波数オフセットを 10MHz に設定します。

:SENSe:ADEMod:CARRIER:OFFSET 10MHz

関連コマンド: [:SENSe]:ADEMod:CARRIER:SEARCH

[[:SENSe]:ADEMod:CARRier:SEARch(?)]

FM 変調信号解析で、キャリア検出を自動で行うかどうか選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:ADEMod:CARRier:SEARch { OFF | ON | 0 | 1 }]

[[:SENSe]:ADEMod:CARRier:SEARch?

引数: OFF または 0 — キャリア検出を自動で行いません。
[[:SENSe]:ADEMod:CARRier:OFFSet コマンドで、キャリア周波数オフセットを設定します。

ON または 1 — キャリア検出を自動で行います。

測定モード: DEMADEM

使用例: キャリア検出を自動で行います。

:SENSe:ADEMod:CARRier:SEARch ON

関連コマンド: [[:SENSe]:ADEMod:CARRier:OFFSet]

[[:SENSe]:ADEMod:FM:THReshold(?)]

FM 変調信号解析で、入力信号をバーストと判断するしきい値を設定または問合せます。最初に検出されたバーストが測定に使用されます。

構文: [[:SENSe]:ADEMod:FM:THReshold <value>]

[[:SENSe]:ADEMod:FM:THReshold?

引数: <value>::=<NRf> — 入力信号をバーストと判断するしきい値を設定します。
設定範囲: -100.0~0.0 dB。

測定モード: DEMADEM

使用例: しきい値を -10dB に設定します。

:SENSe:ADEMod:FM:THReshold -10

[[:SENSe]:ADEMod[:IMMediate]] (問合せなし)

取り込んだデータについてアナログ復調演算を実行します。
アナログ復調の形式は、[:SENSe]:ADEMod:MODulation コマンドで選択します。
データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。

構文: [:SENSe]:ADEMod[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: DEMADEM

使用例: アナログ復調演算を実行します。

:SENSe:ADEMod:IMMediate

関連コマンド: :INITiate, [:SENSe]:ADEMod:MODulation

[[:SENSe]:ADEMod:LENGth(?)

アナログ変調信号解析の測定範囲を設定または問合せます (図 2-20)。

構文: [:SENSe]:ADEMod:LENGth <value>

[:SENSe]:ADEMod:LENGth?

引数: <value>::=<NR1> — 測定範囲をポイント数で設定します。
設定範囲: 1 ~ 1024 × ブロック・サイズ (ブロック・サイズ ≤ 500)

ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZE コマンドで設定します。

測定モード: DEMADEM

使用例: 測定範囲を 1000ポイントに設定します。

:SENSe:ADEMod:LENGth 1000

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZE

[:SENSe]:ADEMod:MODulation(?)

アナログ変調信号解析の測定項目を選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:ADEMod:MODulation { AM | FM | PM | IQVT | OFF }

[:SENSe]:ADEMod:MODulation?

引数: 引数と測定項目を下表に示します。

表 2-79: 測定項目の選択

引数	測定項目
AM	AM 変調信号解析
FM	FM 変調信号解析
PM	PM 変調信号解析
IQVT	IQ レベル変動 (時間 vs. IQ レベル) 測定
OFF	測定を行いません。

測定モード: DEMADEM

使用例: PM 変調信号解析を選択します。

:SENSe:ADEMod:MODulation PM

[:SENSe]:ADEMod:OFFSet(?)

アナログ変調信号解析の測定開始位置を設定または問合せます (図 2-20)。

構文: [:SENSe]:ADEMod:OFFSet <value>

[:SENSe]:ADEMod:OFFSet?

引数: <value>::=<NR1> — 測定開始位置をポイント数で設定します。
 設定範囲: 0 ~ 1024 × (ブロック・サイズ) - 1
 (ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZE コマンドで設定します)

測定モード: DEMADEM

使用例: 測定開始位置を 500ポイントに設定します。

:SENSe:ADEMod:OFFSet 500

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZE

[:SENSe] :AEMod :PM :THReshold (?)

PM 変調信号解析で、入力信号をバーストと判断するしきい値を設定または問合せます。最初に検出されたバーストが測定に使用されます。

構文: [:SENSe] :AEMod :PM :THReshold <value>

[:SENSe] :AEMod :PM :THReshold ?

引数: <value> ::= <NRf> — 入力信号をバーストと判断するしきい値を設定します。
設定範囲: -100.0 ~ 0.0 dB。

測定モード: DEMAEM

使用例: しきい値を -10dB に設定します。

```
:SENSe:AEMod:PM:THReshold -10
```

[[:SENSe]:AVERage サブグループ

[[:SENSe]:AVERage コマンドでは、変調解析 (DEMOD モード) と時間解析 (TIME モード) で測定値のアベレージ処理をコントロールします。

注 : DEMOD および TIME モードでは、常にアベレージ処理なしでデータが取り込まれます。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:AVERage	
:CLEar	
:COUNT	<numeric_value>
[:STATE]	<boolean>
:TCONtrol	EXPonential REPeat

[[:SENSe]:AVERage:CLEar (問合せなし)

アベレージ処理を中断し、初めから実行し直します。

構文: [:SENSe]:AVERage:CLEar

引数: なし

測定モード: 全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: アベレージ処理を中断し、初めから実行し直します。

```
:SENSe:AVERage:CLEar
```

[[:SENSe]:AVERage:COUNT(?)

アベレージ回数を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:AVERage:COUNT <value>

```
[:SENSe]:AVERage:COUNT?
```

引数: <value>::=<NR1> — アベレージ回数を設定します。
設定範囲: 1~100000 (デフォルト: 20)

測定モード: 全 DEMOD モード、TIMTRAN

使用例: アベレージ回数を 64 に設定します。

```
:SENSe:AVERage:COUNT 64
```

[:SENSe]:AVERAge[:STATe](?)

アベレージのオン/オフを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:AVERAge[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:AVERAge[:STATe]?

引数: OFF または 0 — アベレージをオフにします。

ON または 1 — アベレージをオンにします。

測定モード: 全 DEMOD モード、TIMTRAN

使用例: アベレージをオンにします。

:SENSe:AVERAge:STATe ON

[:SENSe]:AVERAge:TCONtrol(?)

アベレージ回数が [:SENSe]:AVERAge:COUNT コマンドで設定した回数に達した後の処理を選択または問合せます (TCONtrol は TerminalCONtrol の短縮形です)。

構文: [:SENSe]:AVERAge:TCONtrol { EXPonential | REPeat }

[:SENSe]:AVERAge:TCONtrol?

引数: EXPonential — 指数関数的 RMS (二乗平均) でアベレージ処理を継続します。

[:SENSe]:AVERAge:COUNT コマンド設定値を重み付けに使い、古いデータの重み付けを指数関数的に減少します。

REPeat — アベレージ処理を反復します。[:SENSe]:AVERAge:COUNT コマンドで設定した回数ごとに、処理の終了と再実行を繰り返します。

測定モード: 全 DEMOD モード、TIMTRAN

使用例: アベレージ処理を反復します。

:SENSe:AVERAge:TCONtrol REPeat

関連コマンド: [:SENSe]:AVERAge:COUNT

[:SENSe]:BSIZE サブグループ

[:SENSe]:BSIZE コマンドでは、ブロック・サイズ（1ブロックあたりのフレーム数）を設定します。

注：このコマンド・グループは、Real Time S/A（リアルタイム・スペクトラム解析）、DEMOM（変調解析）および TIME（時間解析）モードで有効です。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:BSIZE	<numeric_value>

[:SENSe]:BSIZE(?)

ブロック・サイズ（一度に取り込むフレーム数）を設定または問合せます。

構文： [:SENSe]:BSIZE <value>

[:SENSe]:BSIZE?

引数： <value>::=<NR1> — ブロック・サイズを設定します。設定範囲は、トリガ・モード (:TRIGger[:SEQuence]:MODE) の設定によって異なります（下表参照）。

表 2-80: ブロック・サイズ設定範囲

トリガ・モード	ブロック・サイズ
AUTO	1~16000（標準） / 64000（オプション02型）
NORMal	5~16000（標準） / 64000（オプション02型）

測定モード： SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例： ブロック・サイズを 8 に設定します。

```
:SENSe:BSIZE 8
```

関連コマンド： :TRIGger[:SEQuence]:MODE

[[:SENSe]:CCDF サブグループ

[[:SENSe]:CCDF コマンドでは、CCDF 測定の設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで TIMCCDF (CCDF 測定) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:CCDF	
:BLOCK	<numeric_value>
:CLEar	
:RMEasurement	
:THReshold	<numeric_value>

[:SENSe]:CCDF:BLOCK(?)

CCDF 測定を行うブロック番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:CCDF:BLOCK <number>

[:SENSe]:CCDF:BLOCK?

引数: <number>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。
設定範囲: -M~0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: TIMCCDF

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:CCDF:BLOCK -5

[:SENSe]:CCDF:CLEAr (問合せなし)

CCDF 測定をリセットし、再実行します。
このコマンドは、[:SENSe]:CCDF:RMEasurementコマンドと等価です。

構文: [:SENSe]:CCDF:CLEAr

引数: なし

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF 測定をリセットし、再実行します。

:SENSe:CCDF:CLEAr

関連コマンド: [:SENSe]:CCDF:RMEasurement

[[:SENSe]:CCDF:RMEasurement (問合せなし)

CCDF 測定をリセットし、再実行します。
このコマンドは、[:SENSe]:CCDF:CLEar コマンドと等価です。

構文: [:SENSe]:CCDF:RMEasurement

引数: なし

測定モード: TIMCCDF

使用例: CCDF 測定をリセットし、再実行します。

```
:SENSe:CCDF:RMEasurement
```

関連コマンド: [:SENSe]:CCDF:CLEar

[[:SENSe]:CCDF:THReshold(?)

CCDF 計算処理にサンプル・ポイントを含めるかどうかを決定するしきい値を設定または問合せます。振幅がしきい値以上のサンプル・ポイントを計算に含めます。

構文: [:SENSe]:CCDF:THReshold <value>

```
[:SENSe]:CCDF:THReshold?
```

引数: <value>::=<NR1> — しきい値を設定します。設定範囲: -250~130 dBm。

測定モード: TIMCCDF

使用例: しきい値を 50dBm に設定します。

```
:SENSe:CCDF:THReshold 50dBm
```

[[:SENSe]:CFrequency サブグループ

[[:SENSe]:CFrequency コマンドでは、キャリア周波数測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:CFrequency	
:CRESolution	<numeric_value>

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを S/A に設定します。

```
:INSTRument[:SElect] { SANORMAL | SASGRAM | SARTIME | SAUL3G
| SADLR5_3G }
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行して、キャリア周波数測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合

```
:CONFigure:SPECTrum:CFrequency
```

- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合

```
[[:SENSe]:SPECTrum:MEASurement CFrequency
```

[[:SENSe]:CFrequency:CRESolution(?)

キャリア周波数測定のカウンタ分解能を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:CFrequency:CRESolution <value>

[[:SENSe]:CFrequency:CRESolution?

引数: <value>::=<NRf> — カウンタ分解能を設定します。

設定値 (Hz) : 0.001, 0.01, 0.1, 1, 10, 100, 1k, 10k, 100k, 1M

測定モード: 全 S/A モード

使用例: カウンタ分解能をを 1kHz に設定します。

```
:SENSe:CFrequency:CRESolution 1kHz
```

[:SENSe]:CHPower サブグループ

[:SENSe]:CHPower コマンドでは、チャンネル電力測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:CHPower	
:BANDwidth :BWIDth	
:INTegration	<numeric_value>
:FILTer	
:COEFFicient	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle GAUSSian NYQuist RNYQuist

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを S/A に設定します。

```
:INSTrument[:SElect] { SANORMAL | SASGRAM | SARTIME | SAUL3G }
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行して、チャンネル電力測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合
:CONFigure:SPECTrum:CHPower
- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合
[:SENSe]:SPECTrum:MEASurement CHPower

[[:SENSe]:CHPower:BANDwidth]:BWIDth:INTegration(?)

チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を設定または問合せます (図 2-21)。

構文: [[:SENSe]:CHPower:BANDwidth]:BWIDth:INTegration <value>

[[:SENSe]:CHPower:BANDwidth]:BWIDth:INTegration?

引数: <value>::=<NRf> — チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を設定します。

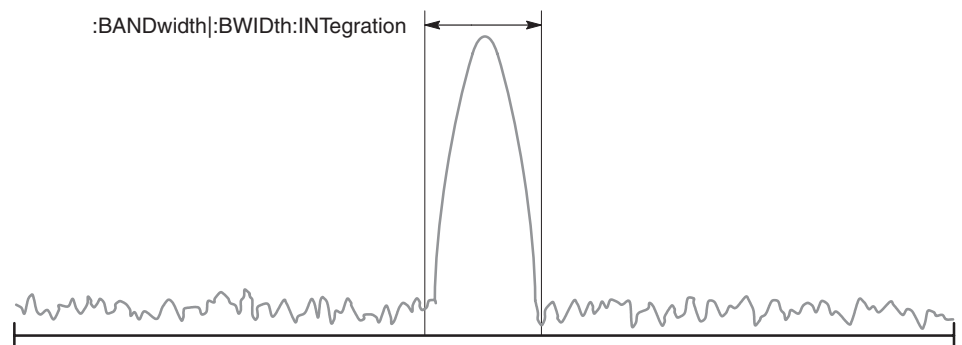
設定範囲: (ビン帯域幅) × 8 ~ スパン [Hz]

ビン帯域幅については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を 2.5MHz に設定します。

```
:SENSe:CHPower:BANDwidth:INTegration 2.5MHz
```



注: コマンド・ヘッダの [[:SENSe]:CHPower は省略しています。

図 2-21: チャンネル電力測定の設定

[[:SENSe]:CHPower:FILTer:COEFficient(?)]

チャンネル電力測定フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:CHPower:FILTer:TYPE で、NYQuist (ナイキスト) か RNYQuist (ルート・ナイキスト) を選択したときに有効です。

構文: [:SENSe]:CHPower:FILTer:COEFficient <ratio>

[:SENSe]:CHPower:FILTer:COEFficient?

引数: <ratio>::=<Nrf> — チャンネル電力測定フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.0001~1 (デフォルト: 0.5)

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: フィルタのロールオフ係数を 0.3 に設定します。

:SENSe:CHPower:FILTer:COEFficient 0.3

関連コマンド: [:SENSe]:CHPower:FILTer:TYPE

[[:SENSe]:CHPower:FILTer:TYPE(?)]

チャンネル電力測定フィルタを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:CHPower:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist
| RNYQuist }

[:SENSe]:CHPower:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-81: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:CHPower:FILTer:TYPE RNYQuist

[:SENSe]:CNRatio サブグループ

[:SENSe]:CNRatio コマンドでは、C/N (キャリア対ノイズ比) 測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:CNRatio	
:BANdwidth :BWiDth	
:INTEgration	<frequency>
:NOISE	<frequency>
:FILTer	
:COEFFicient	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle GAUSSian NYQuist RNYQuist
:OFFSet	<frequency>

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを S/A に設定します。

```
:INSTRument[:SElect] { SANORMAL | SASGRAM | SARTIME }
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行して、C/N 測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合

```
:CONFigure:SPECTrum:CNRatio
```

- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合

```
[:SENSe]:SPECTrum:MEASurement CNRatio
```

[:SENSe]:CNRatio:BANDwidth|:BWIDth:INTEgration(?)

C/N (キャリア対ノイズ比) 測定のキャリア帯域幅を設定または問合せます。
(図2-22)

構文: [:SENSe]:CNRatio:BANDwidth|:BWIDth:INTEgration <value>

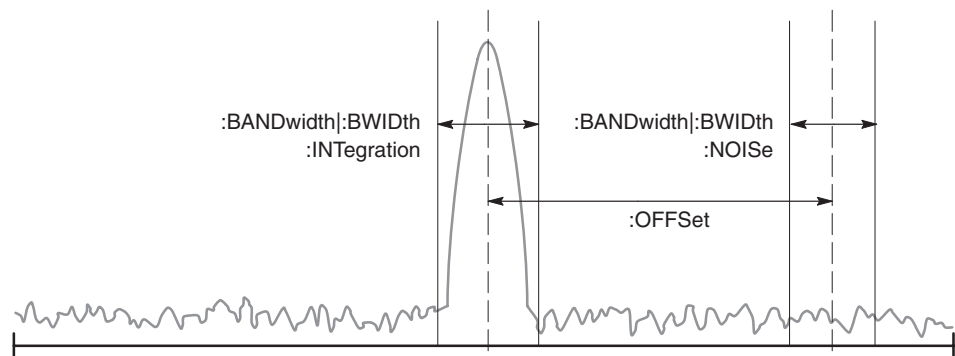
[:SENSe]:CNRatio:BANDwidth|:BWIDth:INTEgration?

引数: <value>::=<NRf> — C/N 測定のキャリア帯域幅を設定します。
設定範囲: (ビン帯域幅) × 8 ~ スパン [Hz]
ビン帯域幅については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: C/N 測定のキャリア帯域幅を 1MHz に設定します。

:SENSe:CNRatio:BANDwidth:INTEgration 1MHz



注: [:SENSe]:CNRatioコマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-22 : C/N 測定の設定

[:SENSe]:CNRatio:BANDwidth|:BWIDth:NOISe(?)

C/N 測定のノイズ帯域幅を設定または問合せます (図2-22)。

構文: [:SENSe]:CNRatio:BANDwidth|:BWIDth:NOISe <value>

[:SENSe]:CNRatio:BANDwidth|:BWIDth:NOISe?

引数: <value>::=<NRf> — C/N 測定のノイズ帯域幅を設定します。
設定範囲: (ビン帯域幅) × 8 ~ スパン [Hz]
ビン帯域幅については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: C/N 測定のノイズ帯域幅を 1.5MHz に設定します。

```
:SENSe:CNRatio:BANDwidth:NOISe 1.5MHz
```

[:SENSe]:CNRatio:FILTer:COEFficient(?)

C/N 測定のフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:CNRatio:FILTer:TYPE で、NYQuist (ナイキスト) か RNYQuist (ルート・ナイキスト) を選択したときに有効です。

構文: [:SENSe]:CNRatio:FILTer:COEFficient <value>

[:SENSe]:CNRatio:FILTer:COEFficient?

引数: <value>::=<NRf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.0001~1 (デフォルト: 0.5)

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: フィルタのロールオフ係数を 0.3 に設定します。

```
:SENSe:CNRatio:FILTer:COEFficient 0.3
```

関連コマンド: [:SENSe]:CNRatio:FILTer:TYPE

[[:SENSe]:CNRatio:FILTer:TYPE(?)]

C/N 測定フィルタを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:CNRatio:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSsian | NYQuist
| RNYQuist }

[[:SENSe]:CNRatio:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-82: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSsian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:CNRatio:FILTer:TYPE RNYQuist

[[:SENSe]:CNRatio:OFFSet(?)]

C/N 測定で、中心周波数からのオフセットを設定または問合せます (図2-22)。

構文: [[:SENSe]:CNRatio:OFFSet <freq>

[[:SENSe]:CNRatio:OFFSet?

引数: <freq>::=<Nrf> — オフセット周波数を設定します。
設定範囲: - (スパン) /2 ~ + (スパン) /2 [Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: オフセット周波数を 5MHz に設定します。

:SENSe:CNRatio:OFFSet 5MHz

[:SENSe]:CORRection サブグループ

[:SENSe]:CORRection コマンドでは、振幅補正をコントロールします。
振幅補正については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

注 : [:SENSe]:CORRection コマンドは、リアルタイムを除いた S/A (スペクトラム解析) モードで有効です。このコマンド・グループを使用する場合は、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで S/A モード (SARTIME と SAZRTIME を除く) を選択しておく必要があります。ただし、[:SENSe]:CORRection[:MAGNitude] コマンドだけは、すべての測定モードで使用できます。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:CORRection	
:DATA	#<Num_digit><Num_byte><Freq(1)><Amp1(1)> <Freq(2)><Amp1(2)>...<Freq(n)><Amp1(n)>
:DElete	
:OFFSet	
[:MAGNitude]	<numeric_value>
:FREQency	<numeric_value>
[:STATe]	
:X	
:SPACing	LINear LOGarithmic
:Y	
:SPACing	LINear LOGarithmic

[[:SENSe]:CORRection:DATA(?)]

振幅補正データを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:CORRection:DATA #<Num_digit><Num_byte><Freq(1)><Amp1(1)>
<Freq(2)><Amp1(2)>...<Freq(n)><Amp1(n)>

[[:SENSe]:CORRection:DATA?

引数: <Num_digit> — <Num_byte> に含まれる数字の桁数。

<Num_byte> — 後に続くデータのバイト数。

<Freq(n)> — 補正点の周波数、単位 [Hz]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

<Amp1(n)> — 周波数 <Freq(n)> での振幅補正值、単位 [dB]

IEEE488.2 で規定された 4バイト・リトルエンディアン浮動小数点フォーマット。

周波数と振幅補正值のペアでデータを入力します。n : 最大 3000。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 1024 の補正点で補正值を設定します。

```
:SENSe:CORRection:DATA #41024xxxx...
```

[[:SENSe]:CORRection:DELeTe] (問合せなし)

振幅補正データをすべて削除します。

構文: [[:SENSe]:CORRection:DELeTe

引数: なし

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 振幅補正データをすべて削除します。

```
:SENSe:CORRection:DELeTe
```

[:SENSe]:CORRection:OFFSet:MAGNitude(?)

振幅補正で振幅オフセットを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:CORRection:OFFSet[:MAGNitude] <value>

[:SENSe]:CORRection:OFFSet[:MAGNitude]?

引数: <value>::=<NRf> — 振幅オフセットを設定します。範囲：-200～+200 dB。

測定モード: 全モード

使用例: 振幅オフセットを 10dB に設定します。

:SENSe:CORRection:OFFSet:MAGNitude 10

関連コマンド: [:SENSe]:CORRection:OFFSet:STATe

[:SENSe]:CORRection:OFFSet:FREQuency(?)

振幅補正で周波数オフセットを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:CORRection:OFFSet:FREQuency <value>

[:SENSe]:CORRection:OFFSet:FREQuency?

引数: <value>::=<NRf> — 周波数オフセットを設定します。範囲：-100GHz～+100GHz。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 周波数オフセットを 1GHz に設定します。

:SENSe:CORRection:OFFSet:FREQuency 1GHz

関連コマンド: [:SENSe]:CORRection:OFFSet:STATe

[[:SENSe]:CORRection[:STATe](?)

振幅補正のオン／オフを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:CORRection[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:CORRection[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 振幅補正をオフにします。

ON または 1 — 振幅補正をオンにします。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 振幅補正をオンにします。

:SENSe:CORRection:STATe ON

[:SENSe]:CORRection:X:SPACing(?)

振幅補正データの補間で横軸（周波数）のスケーリング（線形または対数）を選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:CORRection:X:SPACing { LINear | LOGarithmic }

[:SENSe]:CORRection:X:SPACing?

引数: LINear — 線形スケールを選択します。

LOGarithmic — 対数スケールを選択します。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 線形スケールを選択します。

:SENSe:CORRection:X:SPACing LINear

[:SENSe]:CORRection:Y:SPACing(?)

振幅補正データの補間で、縦軸（振幅）のスケーリング（線形または対数）を選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:CORRection:Y:SPACing { LINear | LOGarithmic }

[:SENSe]:CORRection:Y:SPACing?

引数: LINear — 線形スケールを選択します。

LOGarithmic — 対数スケールを選択します。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 線形スケールを選択します。

:SENSe:CORRection:Y:SPACing LINear

[[:SENSe]:EBWidth サブグループ

[[:SENSe]:EBWidth コマンドでは、EBW（放射帯域幅）測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:EBWidth	
:XDB	<numeric_value>

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを S/A に設定します。

```
:INSTRument[:SElect] { SANORMAL | SASGRAM | SARTIME | SAUL3G }
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行して、EBW 測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合
 :CONFigure:SPECTrum:EBWidth
- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合
 [[:SENSe]:SPECTrum:MEASurement EBWidth

[:SENSe]:EBWidth:XDB(?)

最大ピークからどれだけ低いレベルで EBW を測定するかを設定または問合せます。
(図2-23)

構文: [:SENSe]:EBWidth:XDB <rel_amp1>

[:SENSe]:EBWidth:XDB?

引数: <rel_amp1>::=<NRf> — EBW を測定するレベルを最大ピークからの相対振幅で設定します (図 2-23)。設定範囲: $-100 \sim -1$ dB (デフォルト: -30 dB)。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: 最大ピークから -20 dB のレベルで EBW を測定します。

:SENSe:EBWidth:XDB -20

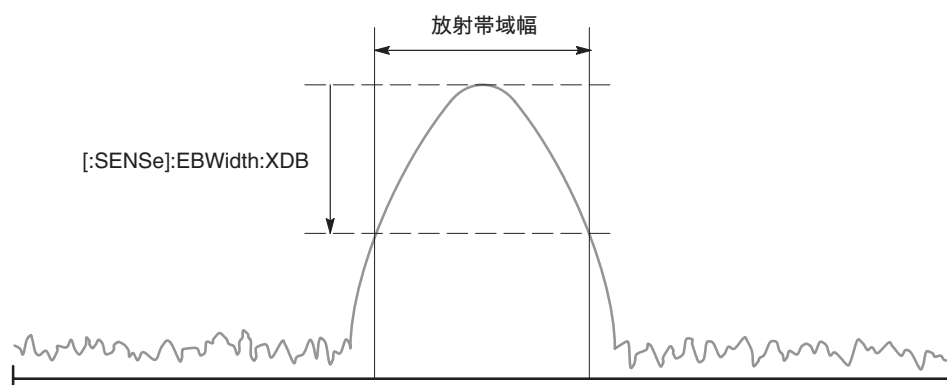


図 2-23 : EBW 測定の設定

[[:SENSe]:FEED サブグループ

[[:SENSe]:FEED コマンドでは、入力信号を選択します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:FEED	RF IQ AREFERENCE

[[:SENSe]:FEED (問合せなし)

入力信号を選択します (RF 入力、IQ 入力、または校正信号)。

構文: [[:SENSe]:FEED { RF | IQ | AREFERENCE }

引数: RF — RF 入力を選択します。

IQ — IQ 入力を選択します (オプション03 型のみ)。

AREFERENCE — 内部の校正信号を選択します。

測定モード: 全モード

使用例: RF 入力を選択します。

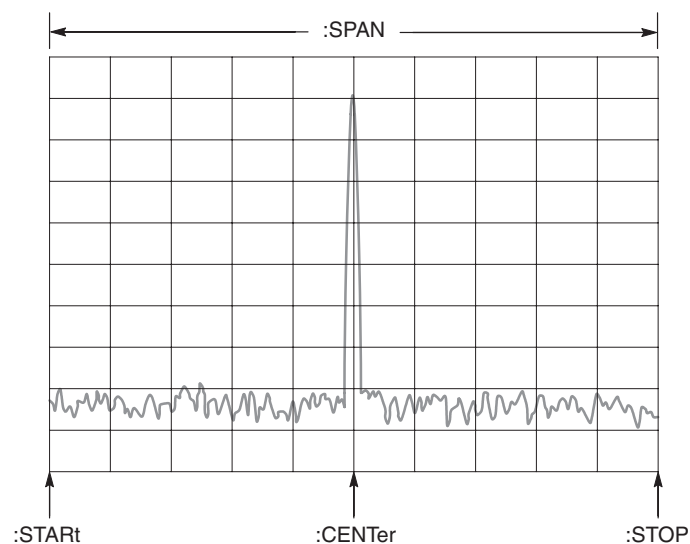
```
:SENSe:FEED RF
```

[:SENSe]:FREQuency サブグループ

[:SENSe]:FREQuency コマンドでは、周波数関連の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:FREQuency	
:BAND?	
:CENTer	<frequency>
:STEP	<frequency>
:AUTO	<boolean>
[:INCRement]	<frequency>
:CHANnel	<numeric_value>
:CTABle	
:CATalog?	
[:SELect]	<table_name>
:SPAN	<frequency>
:START	<frequency>
:STOP	<frequency>



注：[:SENSe]:FREQuency コマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-24：周波数とスパンの設定

[:SENSe]:FREQuency:BAND? (問合せのみ)

測定周波数帯を問合せます。

構文: [:SENSe]:FREQuency:BAND?

応答: 下表に示した応答が返ります。

表 2-83: 測定周波数帯

応答	周波数範囲
BAS	DC~40MHz
RF1B	40MHz~3.5GHz
RF2B	3.5~6.5 GHz
RF3B	5~8 GHz

測定モード: 全モード

使用例: 測定周波数帯を問合せます。

```
:SENSe:FREQuency:BAND?
```

次は応答例です。

```
RF1B
```

[:SENSe]:FREQuency:CENTer(?)

中心周波数を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FREQuency:CENTer <freq>

```
[:SENSe]:FREQuency:CENTer?
```

引数: <freq>::=<Nrf> — 中心周波数を設定します。
設定範囲については、上記の表 2-83 を参照してください。

測定モード: 全モード

使用例: 中心周波数を 800MHz に設定します。

```
:SENSe:FREQuency:CENTer 800MHz
```

関連コマンド: [:SENSe]:FREQuency:BAND

[:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP:AUTO(?)

中心周波数のステップ・サイズ（設定値の増分）をスパンによって自動的に定めるかどうか選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP:AUTO?

引数: OFF または 0 — 中心周波数のステップ・サイズを自動的に定めません。
[:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP[:INCRement] コマンドを使用して定めます。

ON または 1 — 中心周波数のステップ・サイズをスパンによって自動的に定めます。

測定モード: 全モード

使用例: 中心周波数の設定値増分をスパンによって自動的に定めます。

:SENSe:FREQuency:CENTer:STEP:AUTO ON

関連コマンド: [:SENSe] :FREQuency:SPAN, [:SENSe] :FREQuency:START, [:SENSe] :FREQuency:STOP

[:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP[:INCRement](?)

中心周波数のステップ・サイズ（設定値の増分）を設定または問合せます。
[:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP:AUTO が OFF のときに有効です。

注: このコマンドを使用した設定は、リモート操作でのみ有効です。前面パネル・キーによる中心周波数ステップ・サイズの設定には影響しません。

構文: [:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP[:INCRement] <freq>

[:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP[:INCRement]?

引数: <freq>::=<NRf> — 中心周波数のステップ・サイズを設定します。

測定モード: 全モード

使用例: 中心周波数のステップ・サイズを 10kHz に設定します。

:SENSe:FREQuency:CENTer:STEP:INCRement 10kHz

関連コマンド: [:SENSe] :FREQuency:CENTer:STEP:AUTO

[:SENSe]:FREQuency:CHANnel(?)

指定したチャンネル・テーブルからチャンネルを選択または問合せます。
チャンネル・テーブルは、[:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SElect] コマンドで指定します。

構文: [:SENSe]:FREQuency:CHANnel <value>

[:SENSe]:FREQuency:CHANnel?

引数: <value>::=<NR1> — チャンネル番号を指定します。

測定モード: 全モード

使用例: W-CDMA ダウンリンク解析でチャンネル 10558 を選択します。

:SENSe:FREQuency:CHANnel 10558

関連コマンド: [:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SElect]

[:SENSe]:FREQuency:CTABle:CATalog? (問合せのみ)

使用できるチャンネル・テーブルを問合せます。

構文: [:SENSe]:FREQuency:CTABle:CATalog?

応答: <string> — 使用できるチャンネル・テーブル名が返ります。テーブルが複数ある場合には、テーブル名がカンマで区切られた文字列として返ります。

テーブル名については、下記の [:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SElect] コマンドを参照してください。

測定モード: 全モード

使用例: 使用できるチャンネル・テーブルを問合せます。

:SENSe:FREQuency:CTABle:CATalog?

次は応答例です。

"CDMA2000 EU PAMR400-FL","CDMA2000 EU PAMR400-RL",CDMA2000 EU
PAMR800-FL","CDMA2000 EU PAMR800-RL",...

関連コマンド: [:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SElect]

[:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SElect](?)

チャンネル・テーブルを選択します。
 問合せコマンドでは、選択したチャンネル・テーブルを返します。

構文: [:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SElect] <table>

[:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SElect]?

引数: <table>::=<string> — チャンネル・テーブルを指定します。テーブル名は、通信規格名の後に“-UL”（アップリンク）または“-DL”（ダウンリンク）を付けて表します。以下のチャンネル・テーブルが使用できます。

None（チャンネル・テーブルを使用しません）

CDMA2000 EU PAMR400-FL	CDMA2000 EU PAMR400-RL
CDMA2000 EU PAMR800-FL	CDMA2000 EU PAMR800-RL
CDMA2000 GSM BAND 1-FL	CDMA2000 GSM BAND 1-RL
CDMA2000 GSM BAND 2-FL	CDMA2000 GSM BAND 2-RL
CDMA2000 IMT2000-FL	CDMA2000 IMT2000-RL
CDMA2000 JTACS BAND-FL	CDMA2000 JTACS BAND-RL
CDMA2000 KOREA PCS-FL	CDMA2000 KOREA PCS-RL
CDMA2000 N.A. 700MHz Cellular-FL	CDMA2000 N.A. 700MHz Cellular-RL
CDMA2000 N.A. Cellular-FL	CDMA2000 N.A. Cellular-RL
CDMA2000 N.A. PCS-FL	CDMA2000 N.A. PCS-RL
CDMA2000 NMT450 20k-FL	CDMA2000 NMT450 20k-RL
CDMA2000 NMT450 25k-FL	CDMA2000 NMT450 25k-RL
CDMA2000 SMR800-FL	CDMA2000 SMR800-RL
CDMA2000 TACS BAND-FL	CDMA2000 TACS BAND-RL
DCS1800-DL	DCS1800-UL
GSM850-DL	GSM850-UL
GSM900-DL	GSM900-UL
NMT450-DL	NMT450-UL
PCS1900-DL	PCS1900-UL
W-CDMA-DL	W-CDMA-UL

引数は、チャンネル・テーブル名を引用符 (“”) で囲んで指定します。

測定モード: 全モード

使用例: W-CDMA ダウンリンクのチャンネル・テーブルを選択します。

```
:SENSe:FREQuency:CTABle:SElect "W-CDMA-DL"
```

関連コマンド: :SENSe:FREQuency:CTABle:CATalog?

[[:SENSe]:FREQuency:SPAN(?)]

スパンを設定または問合せます。

注： 中心周波数、スタート周波数、ストップ周波数、およびスパンは、次の関係があり、連動して設定されます。

$$(\text{ストップ周波数} + \text{スタート周波数})/2 = \text{中心周波数}$$

$$\text{ストップ周波数} - \text{スタート周波数} = \text{スパン}$$

どれかの値を設定すると、それに応じて他の値も自動的に変更されます。

構文： [[:SENSe]:FREQuency:SPAN <freq>

[[:SENSe]:FREQuency:SPAN?

引数： <freq>::=<NRf> — スパンを設定します。設定範囲は、測定モードによります。

表 2-84: スパンの設定

測定モード	測定周波数帯	設定範囲
SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード	RF	50Hz～3GHz (任意の値)
	ベースバンド	50Hz～40MHz (任意の値)
上記以外	RF	100Hz～20MHz (1-2-5 ステップ)、36MHz
	ベースバンド	100Hz～40MHz (1-2-5 ステップ)

測定モード： 全モード

使用例： スパンを 1MHz に設定します。

:SENSe:FREQuency:SPAN 1MHz

関連コマンド： [[:SENSe]:FREQuency:CENTer, [[:SENSe]:FREQuency:START, [[:SENSe]:FREQuency:STOP

[:SENSe]:FREQuency:STARt(?)

スタート周波数を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FREQuency:STARt <freq>

[:SENSe]:FREQuency:STARt?

引数: <freq>::=<Nrf> — スタート周波数を設定します。
設定範囲については、2-750ページの表 2-83 を参照してください。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SADLR5_3G

使用例: スタート周波数を 800MHz に設定します。

:SENSe:FREQuency:STARt 800MHz

関連コマンド: [:SENSe]:FREQuency:CENTer, [:SENSe]:FREQuency:SPAN, [:SENSe]:FREQuency:STOP

[:SENSe]:FREQuency:STOP(?)

ストップ周波数を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FREQuency:STOP <freq>

[:SENSe]:FREQuency:STOP?

引数: <freq>::=<Nrf> — ストップ周波数を設定します。
設定範囲については、2-750ページの表 2-83 を参照してください。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SADLR5_3G

使用例: ストップ周波数を 1GHz に設定します。

:SENSe:FREQuency:STOP 1GHz

関連コマンド: [:SENSe]:FREQuency:CENTer, [:SENSe]:FREQuency:SPAN, [:SENSe]:FREQuency:STARt

[[:SENSe]:OBWidth サブグループ

OBW（占有帯域幅）測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[SENSe]	
:OBWidth	
:PERCent	<numeric_value>

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを S/A に設定します。

```
:INSTRument[:SElect] { SANORMAL | SASGRAM | SARTIME | SAUL3G }
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行して、OBW 測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合
 :CONFigure:SPECTrum:OBWidth
- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合
 [:SENSe]:SPECTrum:MEASurement OBWidth

[:SENSe]:OBWidth:PERCent(?)

OBW 測定の占有帯域幅 (%) を設定または問合せます。

構 文 : [:SENSe]:OBWidth:PERCent <value>

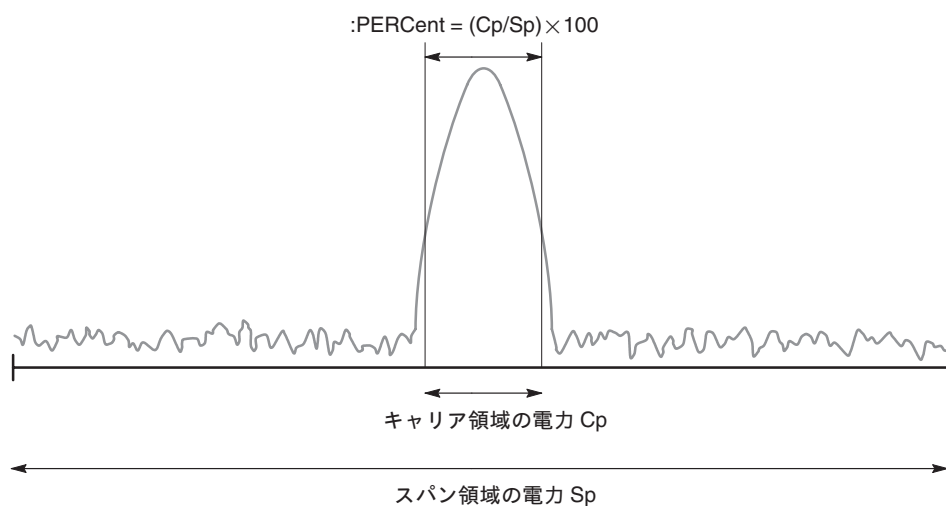
[:SENSe]:OBWidth:PERCent?

引 数 : <value>::=<NRf> — 占有帯域幅を設定します。
設定範囲 : 80~99.99% (デフォルト : 99%)。

測定モード : SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例 : 占有帯域幅を 95% に設定します。

:SENSe:OBWidth:PERCent 95



注 : [:SENSe]:OBWidthコマンド・ヘッダは省略しています。

図 2-25 : OBW 測定の設定

[:SENSe]:PULSe サブグループ

[:SENSe]:PULSe コマンドでは、パルス特性解析の設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで TIMPULSE（パルス解析）を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:PULSe	
:BLOCK	
:CHPower	
:BAWdth BWIDth	
:INTEgration	<numeric_value>
:CRESolution	<numeric_value>
:EBWdth	
:XDB	<numeric_value>
:FFT	
:COEFFicient	<numeric_value>
:WINDow	
[:TYPE]	NYQuist BH4B
:FILTer	
:BAWdth BWIDth	<numeric_value>
:COEFFicient	<numeric_value>
:MEASurement	OFF GAUSSian
:FREQuency	
:OFFSet	<numeric_value>
:RECovery	FIRSt USER OFF
[:IMMediate]	
:LENGth	<numeric_value>
:OBWdth	
:PERCent	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
:PTOFFset	<numeric_value>
:THReshold	<numeric_value>

[:SENSe] :PULSe :BLOCk (?)

パルス特性解析を行うブロック番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :PULSe :BLOCk <value>

[:SENSe] :PULSe :BLOCk ?

引数: <value> ::= <NR1> — ブロック番号を設定します。0 が最新のブロックを表します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: TIMPULSE

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:PULSe:BLOCk -5

[:SENSe] :PULSe :CHPower :BANDwidth | :BWIDth :INTegration (?)

パルス特性解析でチャンネル電力測定チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :PULSe :CHPower :BANDwidth | :BWIDth :INTegration <value>

[:SENSe] :PULSe :CHPower :BANDwidth | :BWIDth :INTegration ?

引数: <value> ::= <NRf> — チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: (ビン帯域幅) × 8 ~ スパン [Hz]
ビン帯域幅については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: TIMPULSE

使用例: チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を 1.5MHz に設定します。

:SENSe:PULSe:CHPower:BANDwidth:INTegration 1.5MHz

[[:SENSe]:PULSe:CRESolution(?)]

パルス特性解析で周波数偏移測定の分解能を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:PULSe:CRESolution <value>

[[:SENSe]:PULSe:CRESolution?

引数: <value>::=<NRf> — 分解能を設定します。

設定値: 1Hz、10Hz、100Hz、1kHz、10kHz、100kHz、1MHz

測定モード: TIMPULSE

使用例: 分解能をを 1kHz に設定します。

```
:SENSe:PULSe:CRESolution 1kHz
```

[[:SENSe]:PULSe:EBWidth:XDB(?)]

パルス特性解析で最大ピークからどれだけ低いレベルで EBW を測定するかを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:PULSe:EBWidth:XDB <rel_amp1>

[[:SENSe]:PULSe:EBWidth:XDB?

引数: <rel_amp1>::=<NRf> — EBW を測定するレベルを最大ピークからの相対振幅で設定します。設定範囲: -100~-1 dB (デフォルト: -30dB)。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 最大ピークから -20dB のレベルで EBW を測定します。

```
:SENSe:PULSe:EBWidth:XDB -20
```

関連コマンド: [[:SENSe]:EBWidth:XDB

[:SENSe] :PULSe :FFT :COEFFicient (?)

パルス特性解析で、FFT ウィンドウがナイキストのときに、ロールオフ係数を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :PULSe :FFT :COEFFicient <value>

[:SENSe] :PULSe :FFT :COEFFicient?

引数: <value>::=<NRf> — ロールオフ係数を設定します。
設定範囲：0.0001～1（デフォルト：0.2）

測定モード: TIMPULSE

使用例: ロールオフ係数を 0.5 に設定します。

```
:SENSe:PULSe:FFT:COEFFicient 0.5
```

関連コマンド: [:SENSe] :PULSe :FFT :WINDow [:TYPE]

[:SENSe] :PULSe :FFT :WINDow [:TYPE] (?)

パルス特性解析で、FFT ウィンドウを選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :PULSe :FFT :WINDow [:TYPE] { NYQuist | BH4B }

[:SENSe] :PULSe :FFT :WINDow [:TYPE] ?

引数: NYQuist — ナイキスト・ウィンドウを選択します。

BH4B — ブラックマン・ハリス 4B ウィンドウを選択します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: ナイキスト・ウィンドウを選択します。

```
:SENSe:PULSe:FFT:WINDow:TYPE NYQuist
```

[[:SENSe]:PULSe:FILTer:Bandwidth|BWidth(?)]

パルス特性解析で時間測定フィルタの帯域を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:PULSe:FILTer:Bandwidth|BWidth <value>

[[:SENSe]:PULSe:FILTer:Bandwidth|BWidth?

引数: <value>::=<Nrf> — 時間測定フィルタの帯域を設定します。
設定範囲: スパン/10 ~ スパン。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 時間測定フィルタの帯域を 1MHz に設定します。

:SENSe:PULSe:FILTer:Bandwidth 1MHz

[[:SENSe]:PULSe:FILTer:COEFFicient(?)]

[[:SENSe]:PULSe:FILTer:MEASurement で GAUSSian (ガウス・フィルタ) を選択したときに、フィルタの α/BT 値を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:PULSe:FILTer:COEFFicient <value>

[[:SENSe]:PULSe:FILTer:COEFFicient?

引数: <value>::=<Nrf> — ガウス・フィルタの α/BT 値を設定します。
設定範囲: 0.0001~1 (デフォルト: 0.35)

測定モード: TIMPULSE

使用例: ガウス・フィルタの α/BT 値を 0.5 に設定します。

:SENSe:PULSe:FILTer:COEFFicient 0.5

関連コマンド: [[:SENSe]:PULSe:FILTer:MEASurement

[:SENSe] :PULSe :FILTer :MEASurement (?)

パルス特性解析で時間測定フィルタを選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :PULSe :FILTer :MEASurement { OFF | GAUSSian }

[:SENSe] :PULSe :FILTer :MEASuerment ?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

GAUSSian — ガウス・フィルタを使用します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: ガウス・フィルタを使用します。

```
:SENSe:PULSe:FILTer:MEASurement GAUSSian
```

[:SENSe] :PULSe :FREQuency :OFFSet (?)

パルス特性解析でパルス間位相差および周波数偏移測定の周波数オフセットを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe] :PULSe :FREQuency :RECoverY が USER のときに有効です。問合せコマンドは、[:SENSe] :PULSe :FREQuency :RECoverY が FIRSt または USER のときに有効です。

構文: [:SENSe] :PULSe :FREQuency :OFFSet <value>

[:SENSe] :PULSe :FREQuency :OFFSet ?

引数: <value>::=<NRf> — 周波数オフセットを設定します。

設定範囲: -10 ~ +10 MHz。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 周波数オフセットを 5MHz に設定します。

```
:SENSe:PULSe:FREQuency:OFFSet 5MHz
```

関連コマンド: [:SENSe] :PULSe :FREQuency :RECoverY

[[:SENSe]:PULSe:FREQuency:RECovery(?)]

パルス間位相差 (Pulse-Pulse Phase) および周波数偏移 (Frequency Deviation) 測定の際に、周波数補正方法を選択または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:PULSe:FREQuency:RECovery { FIRSt | USER | OFF }`

`[[:SENSe]:PULSe:FREQuency:RECovery?`

引数: FIRSt — 解析範囲の最初のパルスから補正値を自動で設定します。
補正値は、Frequency Offset サイド・キーに表示されます。

USER — `[[:SENSe]:PULSe:FREQuency:OFFSet` コマンドで補正値を設定します。

OFF (デフォルト) — 周波数補正を行いません。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 解析範囲の最初のパルスから補正値を設定します。

`:SENSe:PULSe:FREQuency:RECovery FIRSt`

関連コマンド: `[[:SENSe]:PULSe:FREQuency:OFFSet`

[[:SENSe]:PULSe[:IMMediate]] (問合せなし)

取り込んだデータについてパルス特性解析の演算を実行します。
データの取り込みには、`:INITiate` コマンドを使います。

構文: `[[:SENSe]:PULSe[:IMMediate]]`

引数: なし

測定モード: TIMPULSE

使用例: パルス特性解析の演算を実行します。

`:SENSe:PULSe:IMMediate`

関連コマンド: `:INITiate`

[:SENSe]:PULSe:LENGth(?)

アナログ変調信号解析の測定範囲を設定または問合せます (図 2-20)。

構文: [:SENSe]:PULSe:LENGth <value>

[:SENSe]:PULSe:LENGth?

引数: <value>::=<NR1> — 測定範囲をポイント数で設定します。
設定範囲: 1 ~ 1024 × (ブロック・サイズ)

ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 測定範囲を 1000ポイントに設定します。

```
:SENSe:PULSe:LENGth 1000
```

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZe

[:SENSe]:PULSe:OBWidth:PERcent(?)

パルス特性解析で、OBW 測定の占有帯域幅 (%) を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:PULSe:OBWidth:PERcent <value>

[:SENSe]:PULSe:OBWidth:PERcent?

引数: <value>::=<NRf> — 占有帯域幅を設定します。
設定範囲: 80 ~ 99.9% (デフォルト: 99%)。

測定モード: TIMPULSE

使用例: 占有帯域幅を 95% に設定します。

```
:SENSe:PULSe:OBWidth:PERcent 95
```

[[:SENSe]:PULSe:OFFSet(?)]

パルス特性解析で、測定開始位置を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:PULSe:OFFSet <value>

[[:SENSe]:PULSe:OFFSet?

引数: <value>::=<NR1> — 測定開始位置をポイント数で設定します。
設定範囲: 0 ~ 1024 × (ブロック・サイズ) - 1
(ブロック・サイズは [[:SENSe]:BSIZE コマンドで設定します)

測定モード: TIMPULSE

使用例: 測定開始位置を 500ポイントに設定します。

:SENSe:PULSe:OFFSet 500

関連コマンド: [[:SENSe]:BSIZE

[[:SENSe]:PULSe:PTOFFset(?)]

パルス間位相差測定のアフセット時間を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:PULSe:PTOFFset <value>

[[:SENSe]:PULSe:PTOFFset?

引数: <value>::=<NRf> — アフセット時間を設定します。
設定範囲: 0 ~ 1 秒 (デフォルト: 0)。
デフォルトでは、パルス・オン時の始点が測定点です。

測定モード: TIMPULSE

使用例: アフセット時間を 1.5ms に設定します。

:SENSe:PULSe:PTOFFset 1.5m

[:SENSe]:PULSe:THReshold(?)

取り込んだデータの中からパルスの位置を検出するレベル(しきい値)を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:PULSe:THReshold <value>

[:SENSe]:PULSe:THReshold?

引数: <value>::=<NRf> — しきい値を設定します。
設定範囲: -100~0 dBc (デフォルト: -3dBc)

測定モード: TIMPULSE

使用例: しきい値を -20dBc に設定します。

:SENSe:PULSe:THReshold -20

[:SENSe]:ROSCillator サブグループ

[:SENSe]:ROSCillator コマンドでは、基準発振器を設定します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:ROSCillator	
:SOURce	INTernal EXTernal

[:SENSe]:ROSCillator:SOURce(?)

基準発振器を選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:ROSCillator:SOURce { INTernal | EXTernal }

[:SENSe]:ROSCillator:SOURce?

引数: INTernal — 内部基準発振器を選択します。

EXTernal — 外部基準発振器を選択します。

外部基準発振器は、後部パネルの REF IN コネクタに接続します。

測定モード: 全モード

使用例: 外部基準発振器を選択します。

:SENSe:ROSCillator:SOURce EXTernal

[[:SENSe]:SPECTrum サブグループ

[[:SENSe]:SPECTrum コマンドでは、S/A（スペクトラム解析）モードでスペクトラム測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:SPECTrum	
:AVERage	
:CLEar	
:COUNT	<numeric_value>
[:STATE]	<boolean>
:TYPE	RMS MAXimum MINimum
: BANDwidth :BWIDth	
[:RESolution]	<numeric_value>
:AUTO	<boolean>
:STATE	<boolean>
:VIDeo	<numeric_value> (Option 21 型のみ)
:STATE	<boolean>
:SWEEp	
[:TIME]	<numeric_value>
:DETECTOR	
[:FUNCTION]	NEGative POSitive PNEGative
:FILTer	
:COEFFicient	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle GAUSSian NYquist RNYquist
:FFT	
:ERESolution	<boolean>
:LENGth	<numeric_value>
:START	<numeric_value>
:WINDow	
[:TYPE]	BH3A BH3B BH4A BH4B BLACKman HAMming HANNing PARZen ROSEnfield WELCh SLOBe SCUBed ST04 FLATtop RECT
:FRAME	<numeric_value>
:MEASurement	OFF CHPower ACPower OBWidth EBWidth CNRatio CFRequency

```
:ZOOM
  :BLOCk          <numeric_value>
  :FREQuency
    :CENTer      <numeric_value>
    :WIDTh       <numeric_value>
  :LENGth        <numeric_value>
  :OFFSet        <numeric_value>
```

[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:CLEar (問合せなし)

アベレージ処理をリセットして再実行します。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:AVERage:CLEar

引数: なし

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: アベレージ処理をリセットして再実行します。

`:SENSe:SPEctrum:AVERage:CLEar`

[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:COUNT(?)

アベレージ回数を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:AVERage:COUNT <value>

`[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:COUNT?`

引数: <value>::=<NR1> — アベレージ回数を設定します。
設定範囲: 1~100000 (デフォルト: 20)

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: アベレージ回数を 64 に設定します。

`:SENSe:SPEctrum:AVERage:COUNT 64`

[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage[:STATe](?)

アベレージのオン/オフを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:SPEctrum:AVERage[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage[:STATe]?

引数: OFF または 0 — アベレージをオフにします。

ON または 1 — アベレージをオンにします。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: アベレージをオンにします。

:SENSe:SPEctrum:AVERage:STATe ON

[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:TYPE(?)

アベレージの種類を選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:TYPE { RMS | MAXimum | MINimum }

[[:SENSe]:SPEctrum:AVERage:TYPE?

引数: RMS — RMS (二乗平均) でアベレージ処理を行います。

MAXimum — 波形の各データ・ポイントで最大値を保持します。

MINimum — 波形の各データ・ポイントで最小値を保持します。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: RMS でアベレージ処理を行います。

:SENSe:SPEctrum:AVERage:TYPE RMS

[[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth[:BWIDth[:RESolution]](?]

RBW（分解能帯域幅）を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth[:BWIDth[:RESolution]] <freq>

[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth[:BWIDth[:RESolution]]?

引数: <freq>::=<NRf> — RBW を設定します。
設定範囲については、付録D の表D-9 を参照してください。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: RBW を 80kHz に設定します。

```
:SENSe:SPEctrum:BA NDwidth:RESolution 80kHz
```

[[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth[:BWIDth[:RESolution]:AUTO(?]

分解能帯域幅をスパンによって自動設定するかどうか選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth[:BWIDth[:RESolution]:AUTO { OFF | ON
| 0 | 1 }

[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth[:BWIDth[:RESolution]:AUTO?

引数: OFF または 0 — 分解能帯域幅を自動設定しません。
[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth[:BWIDth[:RESolution]] コマンドで設定します。

ON または 1 — 分解能帯域幅を自動設定します。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 分解能帯域幅を自動設定します。

```
:SENSe:SPEctrum:BA NDwidth:RESolution:AUTO ON
```

関連コマンド: [:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth[:BWIDth[:RESolution]]

[[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth]:BWIDth:STATe(?)

分解能帯域幅の演算処理のオン/オフを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth]:BWIDth:STATe { OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth]:BWIDth:STATe?

引数: OFF または 0 — 分解能帯域幅の演算処理を行いません。

ON または 1 — 分解能帯域幅の演算処理を行います。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 分解能帯域幅の演算処理を行います。

:SENSe:SPEctrum:BA NDwidth:STATe ON

[[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth]BWIDth:VIDeo(?) (オプション21 型のみ)

ビデオ・フィルタの周波数帯域を設定または問合せます。

このコマンドは、:INSTrument[:SElect] の設定が DEMRFID で、[:SENSe]:RFID :MEASurement の設定が SPURious のときに有効です。

構文: [[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth]BWIDth:VIDeo <value>

[[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth]BWIDth:VIDeo?

引数: <value>::=<NRf> — ビデオ・フィルタの周波数帯域を設定します。

設定範囲: 0~1 GHz。

掃引時間の設定値によりフィルタ帯域の設定値が制限されることがあります。

測定モード: DEMRFID

使用例: ビデオ・フィルタの周波数帯域を 100kHz に設定します。

:SENSe:SPEctrum:BA NDwidth:VIDeo 100kHz

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:SPEcTrum:BA NDwidth|BWI Dth:VI Deo:STATe(?)]

(オプション21 型のみ)

ビデオ・フィルタのオン/オフを選択または問合せます。

このコマンドは、:INSTrument[:SElect] の設定が DEMRFID で、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が SPURious のときに有効です。

構文: [:SENSe]:SPEcTrum:BA NDwidth|BWI Dth:VI Deo:STATe { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:SPEcTrum:BA NDwidth|BWI Dth:VI Deo:STATe?

引数: OFF または 0 — ビデオ・フィルタを無効にします。

ON または 1 — ビデオ・フィルタを有効にします。

測定モード: DEMRFID

使用例: ビデオ・フィルタを有効にします。

:SENSe:SPEcTrum:BA NDwidth:VI Deo:STATe ON

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:SPEcTrum:BA NDwidth|BWI Dth:VI Deo:SWEEp[:TIME](?)]

(オプション21 型のみ)

ビデオ・フィルタの掃引時間を設定または問合せます。

このコマンドは、:INSTrument[:SElect] の設定が DEMRFID で、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が SPURious のときに有効です。

構文: [:SENSe]:SPEcTrum:BA NDwidth|BWI Dth:VI Deo:SWEEp[:TIME] <value>

[:SENSe]:SPEcTrum:BA NDwidth|BWI Dth:VI Deo:SWEEp[:TIME]?

引数: <value>::=<NRf> — ビデオ・フィルタの掃引時間を設定します。
設定範囲: 0~100 s。

測定モード: DEMRFID

使用例: ビデオ・フィルタの掃引時間を 100ms に設定します。

:SENSe:SPEcTrum:BA NDwidth:VI Deo:SWEEp:TIME 100m

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:SPEctrum:DETEctor[:FUNction](?)

画面の水平方向のピクセル数は、一般に波形のデータ・ポイント数より少ないため、波形データは、実際に表示されるときにピクセル数に合わせて間引き圧縮されます。このコマンドで波形表示の圧縮方法を選択します。

波形表示の圧縮についての詳細は、ユーザ・マニュアルを参照してください。

構文: `[[:SENSe]:SPEctrum:DETEctor[:FUNction] { NEGative | POSitive | PNEgative }`

`[[:SENSe]:SPEctrum:DETEctor[:FUNction]?`

引数: `NEGative` — 各ピクセルに対応するデータの最小値を表示します。

`POSitive` — 各ピクセルに対応するデータの最大値を表示します。

`PNEgative` — 各ピクセルに対応するデータの最大値と最小値を線で結びます。

測定モード: `SARTIME` と `SAZRTIME` を除く全 S/A モード

使用例: 各ピクセルに対応するデータの最大値と最小値を線で結びます。

`:SENSe:SPEctrum:DETEctor:FUNction PNEgative`

[:SENSe]:SPEctrum:FILTer:COEFFicient(?)

RBW（分解能帯域幅）フィルタのロールオフ係数を設定します。
このコマンドは、RBW フィルタが Nyquist または Root Nyquist のときに有効です。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:FILTer:COEFFicient <value>

[:SENSe]:SPEctrum:FILTer:COEFFicient?

引数: <value>::=<NRf> — RBW フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲：0～1（デフォルト：0.5）

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: RBW フィルタのロールオフ係数を 0.7 に設定します。

```
:SENSe:SPEctrum:FILTer:COEFFicient 0.7
```

関連コマンド: [:SENSe]:SPEctrum:FILTer:TYPE

[:SENSe]:SPEctrum:FILTer:TYPE(?)

RBW（分解能帯域幅）フィルタの種類を選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist
| RNYQuist }

[:SENSe]:SPEctrum:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-85: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: ナイキスト・フィルタを選択します。

```
:SENSe:SPEctrum:FILTer:TYPE NYQuist
```

関連コマンド: [:SENSe]:SPEctrum:FILTer:COEFFicient

[:SENSe]:SPEctrum:FFT:ERESolution(?)

分解能拡大 (Extended Resolution) を有効にするかどうかを選択または問合せます。FFT ポイント数は通常、内部で制限されています。制限をなくすときには、オンに設定します。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:FFT:ERESolution { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:SPEctrum:FFT:ERESolution?

引数: OFF または 0 — 分解能拡大を無効にします。FFT ポイント数は内部で制限されます。

ON または 1 — 分解能拡大を有効にします。

FFT ポイント数は [:SENSe]:SPEctrum:FFT:LENGth コマンドで設定してください。

注: 分解能拡大は通常、デフォルトのオフのままにしておいてください。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: 分解能拡大を有効にします。

:SENSe:SPEctrum:FFT:ERESolution ON

関連コマンド: [:SENSe]:SPEctrum:FFT:LENGth

[:SENSe]:SPEctrum:FFT:LENGth(?)

FFT ポイント数を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth|:B WIDth:STATe が OFF のときに有効です。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:FFT:LENGth <value>

[:SENSe]:SPEctrum:FFT:LENGth?

引数: <value>::=<NR1> — FFT ポイント数を設定します。設定範囲：64~65536 (2ⁿ)

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: FFT ポイント数を 1024 に設定します。

```
:SENSe:SPEctrum:FFT:LENGth 1024
```

関連コマンド: [:SENSe]:SPEctrum:BA NDwidth|:B WIDth:STATe

[:SENSe]:SPEctrum:FFT:STARt(?)

1024 ポイント・オーバーラップ FFT の FFT 開始点を選択または問合せます。

注: このコマンドは、SARTIME (リアルタイム S/A) モードでのみ有効です。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:FFT:STARt <value>

[:SENSe]:SPEctrum:FFT:STARt?

引数: <value>::={ 64 | 128 | 256 | 512 | 1024 }
— 1024 ポイント・オーバーラップ FFT の FFT 開始点を選択します。

測定モード: SARTIME

使用例: FFT 開始点を 256 に設定します。

```
:SENSe:SPEctrum:FFT:STARt 256
```

[:SENSe]:SPECTrum:FFT:WINDow[:TYPE](?)

FFT ウィンドウ関数を選択または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:SPECTrum:BANDwidth[:BWIDth:STATe] が OFF のときに有効です。

構文: [:SENSe]:SPECTrum:FFT:WINDow[:TYPE] { BH3A | BH3B | BH4A | BH4B
| BLACKman | HAMMing | HANNing | PARZen | ROSENfield | WELCh
| SLOBe | SCUBed | ST4T | FLATtop | RECT }

[:SENSe]:SPECTrum:FFT:WINDow[:TYPE]?

引数: FFT ウィンドウを選択します。

表 2-86: FFT ウィンドウ

引数	ウィンドウ
BH3A	ブラックマン・ハリス 3A 型
BH3B	ブラックマン・ハリス 3B 型
BH4A	ブラックマン・ハリス 4A 型
BH4B	ブラックマン・ハリス 4B 型
BLACKman	ブラックマン
HAMMing	ハミング
HANNing	ハニング
PARZen	Parzen
ROSENfield	Rosenfield
WELCh	Welch
SLOBe	サイン・ローブ
SCUBed	Sine Cubed
ST4T	Sine to 4th
FLATtop	フラット・トップ
RECT	矩形

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: ハミング・ウィンドウを選択します。

:SENSe:SPECTrum:FFT:WINDow:TYPE HAMMing

関連コマンド: [:SENSe]:SPECTrum:BANDwidth[:BWIDth:STATe]

[:SENSe] :SPEctrum :FRAMe (?)

測定するスペクトラムのフレーム番号を設定または問合せます。
このコマンドは、Real Time S/A モードで有効です。

構文: [:SENSe] :SPEctrum :FRAMe <number>

[:SENSe] :SPEctrum :FRAMe ?

引数: <number> ::= <NR1> — フレーム番号を設定します。
設定範囲: -M ~ 0 (M : [:SENSe] :BSIZe コマンドで設定したブロック・サイズ)

測定モード: SARTIME

使用例: フレーム番号を -5 に設定します。

```
:SENSe:SPEctrum:FRAMe -5
```

関連コマンド: [:SENSe] :BSIZe, [:SENSe] :SPEctrum :BLOCk

[[:SENSe]:SPEctrum:MEASurement(?)]

S/A モード（スペクトラム解析）の測定項目を選択して実行します。
 問合せコマンドでは、現在の測定項目を返します。

構文: [[:SENSe]:SPEctrum:MEASurement { OFF | CHPower | ACPower | OBWidth
 | EBWidth | CNRatio | CFRequency | SPURious }

[[:SENSe]:SPEctrum:MEASurement?

引数: 各引数に応じた測定を実行します。

表 2-87: S/A モードの測定項目

引数	測定項目
OFF	測定を行いません。
CHPower	チャンネル電力測定
ACPower	ACPR（隣接チャンネル漏洩電力）測定
OBWidth	OBW（占有帯域幅）測定
EBWidth	EBW（放射帯域幅）測定
CNRatio	C/N（キャリア対ノイズ比）測定
CFRequency	キャリア周波数測定
SPURious	スプリアス測定

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME, SAUL3G

使用例: チャンネル電力測定を実行します。

:SENSe:SPEctrum:MEASurement CHPower

[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:BLOCK(?)

ズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析で、ズーム操作を行うブロックの番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:BLOCK <value>

[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:BLOCK?

引数: <value>::=<NR1> — ズーム操作を行うブロックの番号を設定します。
ゼロは、最新のブロックを表します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: SAZRTIME

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:SPEctrum:ZOOM:BLOCK -5

[[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:CENTer(?)]

ズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析で、ズーム領域の中心の周波数を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:CENTer <value>

[[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:CENTer?

引数: <value>::=<Nrf> — ズーム領域の中心の周波数を設定します。
設定範囲は、測定周波数範囲内になければなりません。

測定モード: SAZRTIME

使用例: ズーム領域の中心の周波数を 1.75GHz に設定します。

:SENSe:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:CENTer 1.75GHz

[[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:WIDTh(?)]

ズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析で、ズーム領域の周波数幅を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:WIDTh <value>

[[:SENSe]:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:WIDTh?

引数: <value>::=<Nrf> — ズーム領域の周波数幅を設定します。
設定範囲は、測定周波数範囲内になければなりません。

測定モード: SAZRTIME

使用例: ズーム領域の周波数幅を 500kHz に設定します。

:SENSe:SPEctrum:ZOOM:FREQuency:WIDTh 500kHz

[:SENSe] :SPEctrum :ZOOM :LENGth (?)

ズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析で、ズーム領域の時間長（データポイント数）を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :SPEctrum :ZOOM :LENGth <value>

[:SENSe] :SPEctrum :ZOOM :LENGth?

引数: <value> ::= <NR1> — ズーム領域の時間長をデータ・ポイント数で設定します。
設定範囲：1 ~ [1024 × ブロック・サイズ] または [81920 - 512 = 81408] の小さい方
(ブロック・サイズは [:SENSe] :BSIZe コマンドで設定します)

測定モード: SAZRTIME

使用例: ズーム領域の時間長を 1000 ポイントに設定します。

:SENSe :SPEctrum :ZOOM :LENGth 1000

関連コマンド: [:SENSe] :BSIZe

[:SENSe] :SPEctrum :ZOOM :OFFSet (?)

ズーム機能付きリアルタイム・スペクトラム解析で、ズーム領域の開始点（データポイント）を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :SPEctrum :ZOOM :OFFSet <value>

[:SENSe] :SPEctrum :ZOOM :OFFSet?

引数: <value> ::= <NR1> — トリガ点を基準としてズーム領域の開始点を設定します。
設定範囲：0 ~ 1024 × (ブロック・サイズ) - 1
(ブロック・サイズは [:SENSe] :BSIZe コマンドで設定します)

測定モード: SAZRTIME

使用例: ズーム領域の開始点を 500 ポイントに設定します。

:SENSe :SPEctrum :ZOOM :OFFSet 500

関連コマンド: [:SENSe] :BSIZe

[[:SENSe]:SPURious サブグループ

[[:SENSe]:SPURious コマンドでは、スプリアス測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[SENSe]	
:SPURious	
[:THReshold]	
:EXCursion	<numeric_value>
:IGNore	<numeric_value>
:SIGNal	<numeric_value>
:SPURious	<numeric_value>

使用条件

このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ、少なくとも次の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. 次のコマンドを実行して、測定モードを S/A に設定します。

```
:INSTrument[:SElect] { SANORMAL | SASGRAM | SARTIME }
```

2. 次のいずれかのコマンドを実行して、スプリアス測定を開始します。

- デフォルト設定で測定を開始する場合
 :CONFigure:SPECTrum:SPURious
- 現在の設定をそのままにして測定を開始する場合
 [:SENSe]:SPECTrum:MEASurement SPURious

[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:EXCursion(?)

スプリアス測定で、スプリアスを判定する突出レベルを設定または問合せます。
(図 2-26)

構文: [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:EXCursion <level>

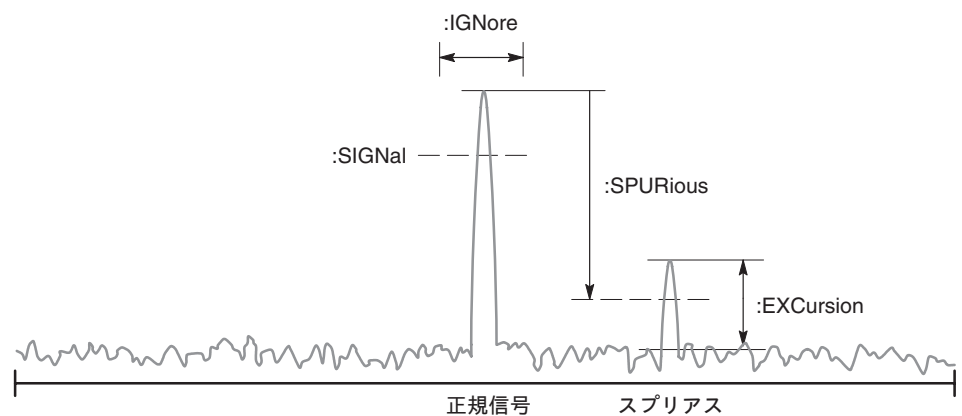
[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:EXCursion?

引数: <level>::=<NRf> — 突出レベルを設定します。
設定範囲: 0~30 dB (デフォルト: 3dB)

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: 突出レベルを 5dB に設定します。

```
:SENSe:SPURious:THReshold:EXCursion 5
```



注: コマンド・ヘッダの [:SENSe]:SPURious[:THReshold] は省いています。

図 2-26 : スプリアス測定のセットアップ

[[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:IGNore(?)]

スプリアス測定のスプリアス非検出範囲を設定または問合せます (図 2-26)。

構文: [[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:IGNore <value>

[[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:IGNore?

引数: <value>::=<NRf> — スプリアス非検出範囲を設定します。
設定範囲: 0 ~ (スパン) / 2 [Hz]

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: スプリアス非検出範囲を 1MHz に設定します。

:SENSe:SPURious:THReshold:IGNore 1MHz

[[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SIGNal(?)]

スプリアス測定のカリヤ判定レベルを設定または問合せます (図 2-26)。

構文: [[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SIGNal <level>

[[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SIGNal?

引数: <level>::=<NR1> — カリヤ判定レベルを設定します。
設定範囲: -100 ~ +30 dBm。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: カリヤ判定レベルを -30dBm に設定します。

:SENSe:SPURious:THReshold:SIGNal -30

[[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SPURious(?]

スプリアス測定のスプリアス判定レベルを設定または問合せます (図 2-26)。

構文: [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SPURious <level>

[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SPURious?

引数: <level>::=<NR1> — スプリアス判定レベルを設定します。
設定範囲: -90~-30 dB。

測定モード: SANORMAL, SASGRAM, SARTIME

使用例: スプリアス判定レベルを -50 dB に設定します。

:SENSe:SPURious:THReshold:SPURious -50

[:SENSe]:TRANsient サブグループ

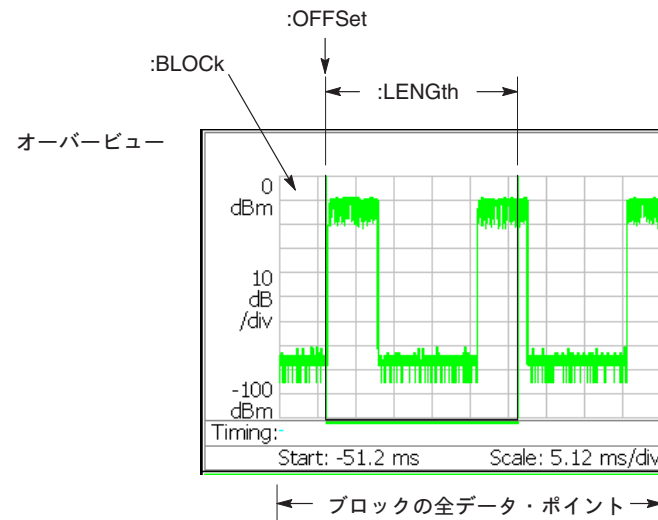
[:SENSe]:TRANsient コマンドでは、時間特性解析の設定を行います。時間特性解析には、時間対 IQ レベル、時間対電力、および時間対周波数測定が含まれます。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで TIMTRAN（時間特性解析）を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:TRANsient	
:BLOCK	<numeric_value>
[:IMMediate]	
:ITEM	IQVTime PVTime FVTime
:LENGth	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>

解析範囲の設定コマンドについては、下図を参照してください。解析範囲は、オーバービューに緑色の下線で示されます。



注：コマンド・ヘッダの [:SENSe]:TRANsient は省いています。

図 2-27：解析範囲の設定

[:SENSe]:TRANSient:BLOCK(?)

時間特性解析を行うブロック番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:TRANSient:BLOCK <value>

[:SENSe]:TRANSient:BLOCK?

引数: <value>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。
設定範囲: -M~0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: TIMTRAN

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

```
:SENSe:TRANSient:BLOCK -5
```

[:SENSe]:TRANSient[:IMMediate] (問合せなし)

取り込んだデータについて時間特性解析の演算を実行します。
測定項目は、[:SENSe]:TRANSient:ITEM コマンドで選択します。
データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。

構文: [:SENSe]:TRANSient[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: TIMTRAN

使用例: 時間特性解析の演算を実行します。

```
:SENSe:TRANSient:IMMediate
```

関連コマンド: :INITiate, [:SENSe]:TRANSient:ITEM

[[:SENSe]:TRANSient:ITEM(?)]

時間特性解析の測定項目を選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:TRANSient:ITEM { OFF | IQVTime | PVTime | FVTime }

[[:SENSe]:TRANSient:ITEM?

引数: OFF — 測定をオフにします。

IQVTime — 時間対 IQ レベル測定を選択します。

PVTime — 時間対電力測定を選択します。

FVTime — 時間対周波数測定を選択します。

測定モード: TIMTRAN

使用例: 時間対 IQ レベル測定を選択します。

:SENSe:TRANSient:ITEM IQVTime

[[:SENSe]:TRANSient:LENGth(?)]

時間特性解析の測定範囲を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:TRANSient:LENGth <value>

[[:SENSe]:TRANSient:LENGth?

引数: <value>::=<NR1> — 測定範囲をポイント数で設定します。

設定範囲: 1~1024×ブロック・サイズ (ブロック・サイズ ≤ 500)

ブロック・サイズは [[:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します。

測定モード: TIMTRAN

使用例: 測定範囲を 1000ポイントに設定します。

:SENSe:TRANSient:LENGth 1000

関連コマンド: [[:SENSe]:BSIZe

[:SENSe]:TRANSient:OFFSet(?)

時間特性解析の測定開始位置を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:TRANSient:OFFSet <value>

[:SENSe]:TRANSient:OFFSet?

引数: <value>::=<NR1> — 測定開始位置をポイント数で設定します。
設定範囲: 0~1024×ブロック・サイズ
(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します)

測定モード: TIMTRAN

使用例: 測定開始位置を 500ポイントに設定します。

```
:SENSe:TRANSient:OFFSet 500
```

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZe

:SENSe コマンド (オプション)

ここでは、オプションの解析ソフトウェアの :SENSe コマンドについて説明します。
サブグループを表2-88 に示します。

表 2-88: :SENSe コマンドのサブグループ (オプション)

コマンド・ヘッダ	機 能	参 照
オプション21 型 拡張測定解析機能関連		
[:SENSe] :DDEMod	デジタル変調信号解析の設定	p.2-797
[:SENSe] :RFID	RFID 解析の設定	p.2-814
[:SENSe] :SSource	シグナル・ソース解析の設定	p.2-839
オプション23 型 W-CDMA アップリンク関連		
[:SENSe] :AC3Gpp	W-CDMA ACLR 測定の設定	p.2-861
[:SENSe] :UL3Gpp	W-CDMA アップリンク解析の設定	p.2-863
オプション24 型 GSM/EDGE 関連		
[:SENSe] :GSMedge	GSM/EDGE 解析の設定	p.2-872
オプション25 型 cdma2000 関連		
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K	cdma2000 解析全般に関する設定	p.2-884
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:ACPower	ACPR 測定の設定	p.2-891
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:CCDF	CCDF 測定の設定	p.2-895
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:CDPower	コード・ドメイン・パワー測定の設定	p.2-895
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:CHPower	チャンネル電力測定の設定	p.2-905
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:IM	相互変調測定の設定	p.2-908
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:MACCuracy	変調確度測定の設定	p.2-913
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:OBWidth	占有帯域幅測定の設定	p.2-924
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:PCChannel	パイロット／コード・チャンネル測定の設定	p.2-926
[:SENSe] :RLCDMA2K:PVTtime	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の設定	p.2-934
[:SENSe] :FLCDMA2K :RLCDMA2K:SEMask	スペクトラム・エミッション・マスク測定の設定	p.2-938
オプション26 型 1xEV-DO 関連		
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO	1xEV-DO 解析全般に関する設定	p.2-947
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:ACPower	ACPR 測定の設定	p.2-954
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:CCDF	CCDF 測定の設定	p.2-958
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:CDPower	コード・ドメイン・パワー測定の設定	p.2-960
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:CHPower	チャンネル電力測定の設定	p.2-968
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:IM	相互変調測定の設定	p.2-971
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:MACCuracy	変調確度測定の設定	p.2-976
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:OBWidth	占有帯域幅測定の設定	p.2-987
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:PCChannel	パイロット／コード・チャンネル測定の設定	p.2-989
[:SENSe] :RLCDMA2K:PVTtime	ゲーテッド・アウトプット・パワー測定の設定	p.2-996
[:SENSe] :FL1xEVDO :RL1xEVDO:SEMask	スペクトラム・エミッション・マスク測定の設定	p.2-1001

表 2-88: :SENSe コマンドのサブグループ (オプション) (続き)

コマンド・ヘッダ	機 能	参 照
オプション27 型 3GPP-R5 関連		
[:SENSe] :DLR5_3GPP	ダウンリンク変調解析の設定	p.2-1012
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR	ダウンリンク ACLR 測定の設定	p.2-1022
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:CHPower	ダウンリンク チャンネル電力測定の設定	p.2-1026
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:OBWidth	ダウンリンク OBW 測定の設定	p.2-1029
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask	ダウンリンクのスペクトラム放射マスク測定の設定	p.2-1031
[:SENSe] :ULR5_3GPP	アップリンク変調解析の設定	p.2-1036
オプション29 型 WLAN 関連		
[:SENSe] :WLAN	WLAN 解析に関する設定	p.2-1046

[:SENSe]:DDEMod サブグループ デジタル変調解析、オプション21 型のみ

[:SENSe]:DDEMod コマンドでは、デジタル変調信号解析の設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMDDEM (変調解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ

[:SENSe]

:DDEMod

:BLOCk <numeric_value>

:CARRier

:SEARCh <boolean>

:OFFSet <frequency>

:DECode NRZ | MANChester | MILLer

:FDEviation <numeric_value>

:AUTO <boolean>

:FILTer

:ALPHa <numeric_value>

:MEASurement OFF | RRCosine

:REFerence OFF | RCOsine | GAUSSian | HSINe

:FORMat BPSK | QPSK | PS8P | Q16P | Q32P | Q64P
| Q128P | Q256P | GMSK | GFSK | DQPSk | OQPSk
| ASK | FSK

[:IMMediate]

:LENGth <numeric_value>

:MDEPth <numeric_value>

:AUTO <boolean>

:NLINearity

:COEFFicient <numeric_value>

:HDIVision <numeric_value>

:LSRegion

[:SET] <numeric_value>

:UNIT RELative | ABSolute

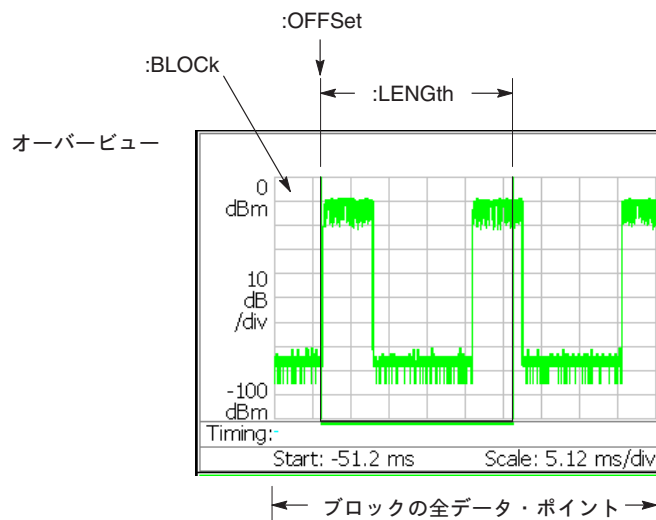
:OFFSet <numeric_value>

:PRESet OFF | ZOQPSk | NADC | PDC | PHS | TETRa
| GSM | CDPD | BLUetooth

:SRATe <numeric_value>

パラメータ

解析範囲の設定コマンドについては、下図を参照してください。
 解析範囲は、オーバービューに緑色の下線で示されます。



注：コマンド・ヘッダの [:SENSe]:DDEMod は省いています。

図 2-28 : 解析範囲の設定

[:SENSe]:DDEMod:BLOCK(?)

デジタル変調信号解析を行うブロック番号を設定または問合せます (図2-28)。

構文: [:SENSe]:DDEMod:BLOCK <value>

[:SENSe]:DDEMod:BLOCK?

引数: <value>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: DEMDDEM

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:DDEMod:BLOCK -5

[[:SENSe]:DDEMod:CARRier:OFFSet(?)]

デジタル変調信号解析で、キャリア周波数オフセットを設定または問合せます。
このコマンドは [[:SENSe]:DDEMod:CARRier:SEARch] が OFF のときに有効です。

構文: [[:SENSe]:DDEMod:CARRier:OFFSet] <freq>

[[:SENSe]:DDEMod:CARRier:OFFSet?]

引数: <freq>::=<NRf> — キャリア周波数オフセットを設定します。
設定範囲: $-F_s \sim +F_s$ (F_s : スパン)

測定モード: DEMDDEM

使用例: キャリア周波数オフセットを 10MHz に設定します。

:SENSe:DDEMod:CARRier:OFFSet 10MHz

関連コマンド: [[:SENSe]:DDEMod:CARRier:SEARch]

[[:SENSe]:DDEMod:CARRier:SEARch(?)]

デジタル変調信号解析で、キャリアを自動で検出するかどうかを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DDEMod:CARRier:SEARch] { OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:DDEMod:CARRier:SEARch?]

引数: OFF または 0 — キャリアを自動で検出しません。
[[:SENSe]:DDEMod:CARRier:OFFSet] コマンドでキャリア周波数を設定します。

ON または 1 — キャリアを自動で検出します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: キャリアを自動で検出します。

:SENSe:DDEMod:CARRier:SEARch ON

関連コマンド: [[:SENSe]:DDEMod:CARRier:OFFSet]

[:SENSe]:DDEMod:DECode(?)

ASKまたはFSK信号測定時に各シンボルからデータ・ビットをデコードする方法を選択または問合せます。

注：このコマンドは、[:SENSe]:DDEMod:FORMatがASK、FSKまたはGFSKのときに有効です。

構文： [:SENSe]:DDEMod:DECode { NRZ | MANchester | MILLer }

[:SENSe]:DDEMod:DECode?

引数： NRZ — NRZ (Non-Return to Zero) 符号を選択します。

MANchester — Manchester 符号を選択します。

MILLer — Miller 符号を選択します。

測定モード： DEMDDEM

使用例： NRZ 符号を選択します。

:SENSe:DDEMod:DECode NRZ

関連コマンド： [:SENSe]:DDEMod:FORMat

[:SENSe]:DDEMod:FDEVIation(?)

FSK または GFSK 信号の 2つの状態を区別する周波数偏移を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が FSK または GFSK で、[:SENSe]:DDEMod:FDEVIation:AUTO が OFF のときに有効です。

構文: [:SENSe]:DDEMod:FDEVIation <value>

[:SENSe]:DDEMod:FDEVIation?

引数: <value>::=<Nrf> — FSK または GFSK 信号の 2つの状態を区別する周波数偏移を設定します。設定範囲: 0~スパン/2 [Hz]

測定モード: DEMDDEM

使用例: 周波数偏移を 1MHz に設定します。

:SENSe:DDEMod:FDEVIation 1MHz

関連コマンド: [:SENSe]:DDEMod:FDEVIation:AUTO, [:SENSe]:DDEMod:FORMat

[:SENSe]:DDEMod:FDEVIation:AUTO(?)

FSK または GFSK 信号の 2つの状態を区別する周波数偏移を自動で設定するかどうかを選択または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が FSK または GFSK のときに有効です。

構文: [:SENSe]:DDEMod:FDEVIation:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:DDEMod:FDEVIation:AUTO?

引数: ON または 1 (デフォルト) — 周波数偏移を自動で設定します。値は、Frequency Deviation サイド・キーに表示されます。

OFF または 0 — [:SENSe]:DDEMod:FDEVIation コマンドで周波数偏移を設定します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: 周波数偏移を自動で設定します。

:SENSe:DDEMod:FDEVIation:AUTO ON

関連コマンド: [:SENSe]:DDEMod:FDEVIation, [:SENSe]:DDEMod:FORMat

[:SENSe]:DDEMod:FILTer:ALPHa(?)

デジタル変調信号解析のフィルタ係数 (α/BT) を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:DDEMod:FILTer:ALPHa <value>

[:SENSe]:DDEMod:FILTer:ALPHa?

引数: <value>::=<NRf> — フィルタ係数を設定します。設定範囲: 0.0001~1。

測定モード: DEMDDEM

使用例: フィルタ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:DDEMod:FILTer:ALPHa 0.5

[[:SENSe]:DDEMod:FILTer:MEASurement(?)]

デジタル変調信号解析で、測定フィルタ (Measurement Filter) を選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DDEMod:FILTer:MEASurement { OFF | RRCosine }

[[:SENSe]:DDEMod:FILTer:MEASurement?

引数: OFF — フィルタなしに設定します。

RRCosine — Root Raised Cosine フィルタを選択します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: 測定フィルタとして Root Raised Cosine を選択します。

:SENSe:DDEMod:FILTer:MEASurement RRCosine

[[:SENSe]:DDEMod:FILTer:REFeRence(?)]

デジタル変調信号解析で、基準フィルタ (Reference Filter) を選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DDEMod:FILTer:REFeRence { OFF | RCOsine | GAUSsian | HSINe }

[[:SENSe]:DDEMod:FILTer:REFeRence?

引数: OFF — フィルタなしに設定します。

RCOsine — Raised Cosine フィルタを選択します。

GAUSsian — ガウス・フィルタを選択します。

HSINe — Half Sine フィルタを選択します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: 基準フィルタとして Raised Cosine を選択します。

:SENSe:DDEMod:FILTer:REFeRence RCOsine

[:SENSe]:DDEMod:FORMat(?)

デジタル変調信号解析の変調方式を選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:DDEMod:FORMat { BPSK | QPSK | PS8P | Q16P | Q32P | Q64P
| Q128P | Q256P | GMSK | GFSK | DQPSk | OQPSk | ASK | FSK }

[:SENSe]:DDEMod:FORMat?

引数: 各引数に対応する変調方式を下表に示します。

表 2-89: 変調方式の選択

引数	変調方式
BPSK	BPSK
QPSK	QPSK
PS8P	8PSK
Q16P	16QAM
Q32P	32QAM
Q64P	64QAM
Q128P	128QAM
Q256P	256QAM
GMSK	GMSK
GFSK	GFSK
DQPSk	1/4 π QPSK
OQPSk	OQPSK
ASK	ASK
FSK	FSK

測定モード: DEMDDEM

使用例: 1/4 π QPSK を選択します。

:SENSe:DDEMod:FORMat DQPSk

[[:SENSe]:DDEMod[:IMMediate]] (問合せなし)

取り込んだデータについてデジタル復調演算を実行します。
測定項目は、:DISPlay:DDEMod:MView:FORMat コマンドで選択します。
データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。

構文: [:SENSe]:DDEMod[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: DEMDDEM

使用例: デジタル復調演算を実行します。

:SENSe:DDEMod:IMMediate

関連コマンド: :INITiate, :DISPlay:DDEMod:MView:FORMat

[[:SENSe]:DDEMod:LENGth(?)

デジタル変調信号解析の測定範囲を設定または問合せます (図2-28)。

注: [:SENSe]:DDEMod:LENGth? 問合せの応答は、ブロックのデータ・ポイント数で制限されるため、デフォルト値 (81408) より小さい値が返る場合があります。

構文: [:SENSe]:DDEMod:LENGth <value>

:SENSe]:DDEMod:LENGth?

引数: <value>::=<NR1> — 測定範囲をポイント数で設定します。

設定範囲: 1 ~ [1024×ブロック・サイズ] または [81920 - 512 = 81408] の小さい方
(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZE コマンドで設定します)

測定モード: DEMDDEM

使用例: 測定範囲を 1000ポイントに設定します。

:SENSe:DDEMod:LENGth 1000

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZE

[:SENSe]:DDEMod:MDEPth(?)

ASK 信号の 2つの状態を区別する変調の深さを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK で、[:SENSe]:DDEMod:MDEPth:AUTO が OFF のときに有効です。

構文: [:SENSe]:DDEMod:MDEPth <value>

[:SENSe]:DDEMod:MDEPth?

引数: <value>::=<NRf> — ASK 信号の 2つの状態を区別する変調の深さを設定します。
設定範囲: 0~100%

測定モード: DEMDDEM

使用例: 変調の深さを 20% に設定します。

:SENSe:DDEMod:MDEPth 20

関連コマンド: [:SENSe]:DDEMod:FORMat, [:SENSe]:DDEMod:MDEPth:AUTO

[:SENSe]:DDEMod:MDEPth:AUTO(?)

ASK 信号の 2つの状態を区別する変調の深さを自動で設定するかどうか選択または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:DDEMod:FORMat が ASK のときに有効です。

構文: [:SENSe]:DDEMod:MDEPth:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:DDEMod:MDEPth:AUTO?

引数: ON または 1 (デフォルト) — 変調の深さを自動で設定します。
値は、Modulation Depth サイド・キーに表示されます。

OFF または 0 — [:SENSe]:DDEMod:MDEPth コマンドで、変調の深さを設定します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: 変調の深さを自動で設定します。

:SENSe:DDEMod:MDEPth:AUTO ON

関連コマンド: [:SENSe]:DDEMod:FORMat, [:SENSe]:DDEMod:MDEPth

[[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:COEFFicient(?)]

AM/AM または AM/PM 測定で、曲線近似式の次数を設定または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat が AMAM、AMPM、DAMam または DAMPm のときに有効です。

構文: [:SENSe]:DDEMod:NLINearity:COEFFicient <number>

[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:COEFFicient?

引数: <number>::=<NR1> — 曲線近似式の次数を設定します。
設定範囲: 0~15 (デフォルト: 8)

測定モード: DEMDDEM

使用例: 曲線近似式の次数を 15 に設定します。

:SENSe:DDEMod:NLINearity:COEFFicient 15

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

[[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:HDIVision(?)]

CCDF または PDF 測定で、画面上の表示点間の水平間隔を設定または問合せます。このコマンドは、:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat が CCDF または PDF のときに有効です。

構文: [:SENSe]:DDEMod:NLINearity:HDIVision <value>

[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:HDIVision?

引数: <value>::=<NRf> — 画面上の表示点間の水平間隔を設定します。
設定範囲: 0.01~1dB (デフォルト: 0.1dB)

測定モード: DEMDDEM

使用例: 画面上の表示点間の水平間隔を 0.2 に設定します。

:SENSe:DDEMod:NLINearity:HDIVision 0.2

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat

[[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion[:SET](?)

AM/AM または AM/PM 測定で、特性が理想とされる線形領域を設定または問合せます。このコマンドは :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat が AMAM、AMPM、DAMam または DAMPm のときに有効です。

構文: [[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion[:SET] <value>

[[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion[:SET]?

引数: <value>::=<NRf> — 特性が理想とされる線形領域を設定します。
設定範囲: -100~50 dB または dBm.

単位は、[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion:UNIT が RELative のとき dB、ABSolute のとき dBm です。

測定モード: DEMDDEM

使用例: 特性が理想とされる線形領域を -10dB (または dBm) に設定します。

```
:SENSe:DDEMod:NLINearity:LSRegion:SET -10
```

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat, [[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion:UNIT

[[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion:UNIT(?)]

AM/AM または AM/PM 測定で線形領域を設定するときの単位を選択または問合せます。このコマンドは :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat が AMAM、AMPM、DAMam または DAMPm のときに有効です。線形領域の設定には、[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion[:SET] コマンドを使用します。

構文: [:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion:UNIT { RELative | ABSolute }

[:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion:UNIT?

引数: RELative (デフォルト) — 振幅の相対値 (dB) で線形領域を設定します。解析範囲内の電力測定値の最大値を基準 (0) とします。

ABSolute — 振幅の絶対値 (dBm) で線形領域を設定します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: 振幅の相対値 (dB) で線形領域を設定します。

:SENSe:DDEMod:NLINearity:LSRegion:UNIT RELative

関連コマンド: :DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat, [:SENSe]:DDEMod:NLINearity:LSRegion[:SET]

[[:SENSe]:DDEMod:OFFSet(?)]

デジタル変調信号解析の測定開始位置を設定または問合せます (図2-28)。

注 : [:SENSe]:DDEMod:OFFSet? 問合せの応答は、ブロック内のトリガ位置で制限されるため、デフォルト値 (0) より大きい値が返る場合があります。

構文 : [:SENSe]:DDEMod:OFFSet <value>

[:SENSe]:DDEMod:OFFSet?

引数 : <value>::=<NR1> — 測定開始位置をポイント数で設定します。
設定範囲 : 0 ~ 1024 × (ブロック・サイズ) - 1
(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZE コマンドで設定します)

測定モード : DEMDDEM

使用例 : 測定開始位置を 500ポイントに設定します。

:SENSe:DDEMod:OFFSet 500

関連コマンド : [:SENSe]:BSIZE

[[:SENSe]:DDEMod:PRESet(?)]

デジタル変調信号解析で、通信規格を選択または問合せます。
選択した通信規格に応じて本機器が設定されます。

構文: [[:SENSe]:DDEMod:PRESet { OFF | NADC | PDC | PHS | TETRa | GSM | CDPD
| BLUetooth }

[[:SENSe]:DDEMod:PRESet?

引数: 各引数に対応する通信規格を下表に示します。

表 2-90: 通信規格の選択

引数	通信規格
OFF	規格を選択しません。
ZOQPsk	IEEE802.15.4/OQPSK
NADC	NADC
PDC	PDC
PHS	PHS
TETRa	TETRA
GSM	GSM
CDPD	CDPD
BLUetooth	Bluetooth

測定モード: DEMDDEM

使用例: PDC 規格を選択します。

:SENSe:DDEMod:PRESet PDC

[[:SENSe]:DDEMod:SRATE(?)]

デジタル変調信号解析のシンボル・レートを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DDEMod:SRATE <value>

[[:SENSe]:DDEMod:SRATE?

引数: <value>::=<NRf> — シンボル・レートを設定します。
設定範囲：1～32M sps (symbol per second)

注: このコマンドの引数は、単位なしで指定してください。
例えば、21k sps は、21.0E3、21000 などで表します。

測定モード: DEMDDEM

使用例: シンボル・レートを 21k sps に設定します。

:SENSe:DDEMod:SRATE 21.0E3

[:SENSe]:RFID サブグループ

RFID 解析、オプション21 型のみ

[:SENSe]:RFIDコマンドは、RFID 解析の設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMRFID (RFID 解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:RFID	
:ACPower	
:BANDwidth BWIDth	
:ACHannel	<numeric_value>
:INTEgration	<numeric_value>
:CSPacing	<numeric_value>
:FILTer	
:COEfficient	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle GAUSSian NYQuist RNYQuist
:BLOCK	<numeric_value>
:Carrier	
:BANDwidth :BWIDth	
:INTEgration	<numeric_value>
:COUNter	
[:RESolution]	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
:PRATio	
[:SET]	<numeric_value>
:UNIT	PERCent PCT DB
[:IMMediate]	
:LENGth	<numeric_value>
:MEASurement	CARRier SPURious ACPower PODown RFENvelope CONSTe EYE STABLE
:MODulation	
:BRATe	
:AUTO	<boolean>
[:SET]	<numeric_value>
:DECode	"PIE-A" "PIE-C" "FM0" "MANCHESTER" "MILLER" "MILLER-2" "MILLER-4" "MILLER-8" "M-MILLER" "NRZ"
:FORMat	"ASK" "DSB-ASK" "SSB-ASK" "PR-ASK" "OOK"
:INTErpolate	<numeric_value>
:LINK	INTErrogator TAG
:SERRor[:WIDTh]	<numeric_value>

:STANdard	"18000-4-1" "18000-6-A" "18000-6-B" "18000-6-C" "MANUAL"
:TARI	
:AUTO	<boolean>
[:SET]	<numeric_value>
[:THReshold]	
:HIGHer	<numeric_value>
:LOWer	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
:SPurious	
[:THReshold]	
:EXCursion	<numeric_value>
:IGNore	<numeric_value>
:SIGNal	<numeric_value>
:SPURious	<numeric_value>
:ZOOM	
:FREQuency	
:CENTer	<numeric_value>
:WIDTh	<numeric_value>

[[:SENSe]:RFID:ACPower:BANDwidth]:BWIDth:ACHannel(?)

ACPR 測定で、隣接チャンネルの帯域幅を設定または問合せます。(2-717ページの[:SENSe]:ACPower:BANDwidth]:BWIDth:ACHannel コマンドを参照)。このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が ACPower のとき有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:ACPower:BANDwidth]:BWIDth:ACHannel <value>

[:SENSe]:RFID:ACPower:BANDwidth]:BWIDth:ACHannel?

引数: <value>::=<Nrf> — 隣接チャンネルの帯域幅を設定します。
設定範囲: 50kHz~36MHz

測定モード: DEMRFID

使用例: 隣接チャンネルの帯域幅を 1MHz に設定します。

:SENSe:RFID:ACPower:BANDwidth:ACHannel 1MHz

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:ACPower:BANDwidth]:BWIDth:INTEgration(?)

ACPR 測定で、主チャンネルの帯域幅を設定または問合せます。(2-717ページの[:SENSe]:ACPower:BANDwidth]:BWIDth:INTEgration コマンドを参照)。このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が ACPower のとき有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:ACPower:BANDwidth]:BWIDth:INTEgration <value>

[:SENSe]:RFID:ACPower:BANDwidth]:BWIDth:INTEgration?

引数: <value>::=<Nrf> — 主チャンネルの帯域幅を設定します。
設定範囲: 50kHz~36MHz (デフォルト: 1MHz)

測定モード: DEMRFID

使用例: 主チャンネルの帯域幅を 1MHz に設定します。

:SENSe:RFID:ACPower:BANDwidth:INTEgration 1MHz

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:ACPower:CSPacing(?)

ACPR 測定でチャンネル間隔を設定または問合せます。(2-718ページの [:SENSe]:ACPower:CSPacing コマンドを参照)。このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が ACPower のとき有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:ACPower:CSPacing <value>

[:SENSe]:RFID:ACPower:CSPacing?

引数: <value>::=<NRf> — チャンネル間隔を設定します。
設定範囲: 6.25kHz~36MHz (デフォルト: 1.4MHz)

測定モード: DEMRFID

使用例: チャンネル間隔を 1.4MHz に設定します。

:SENSe:RFID:ACPower:CSPacing 1.4MHz

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:COEFFicient(?)

ACPR 測定フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が ACPower で、[:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:TYPE コマンドで NYQuist (ナイキスト) または RNYQuist (ルート・ナイキスト) を選択したときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:COEFFicient <ratio>

[:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:COEFFicient?

引数: <ratio>::=<NRf> — ロールオフ係数。設定範囲: 0~1。

測定モード: DEMRFID

使用例: ACPR 測定フィルタのロールオフ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:RFID:ACPower:FILTer:COEFFicient 0.5

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:TYPE, [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:TYPE(?)

ACPR 測定フィルタを選択または問合せます。(2-719ページの[:SENSe]:ACPower:FILTer:TYPE コマンドを参照) このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が ACPower のとき有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist
| RNYQuist }

[:SENSe]:RFID:ACPower:FILTer:TYPE?

引数: RECTangle — 矩形フィルタを選択します。

GAUSSian — ガウス・フィルタを選択します。

NYQuist (デフォルト) — ナイキスト・フィルタを選択します。

RNYQuist — ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

測定モード: DEMRFID

使用例: ACPR 測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:RFID:ACPower:FILTer:TYPE NYQuist

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:BLOCK(?)

RFID 解析を行うブロック番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:RFID:BLOCK <number>

[:SENSe]:RFID:BLOCK?

引数: <number>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。0が最新のブロックを表します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: DEMRFID

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:RFID:BLOCK -5

[[:SENSe]:RFID:CARRier:BANDwidth]:BWIDth:INTegration(?)

RFID 解析で、最大 EIRP (実効等方放射電力) のチャンネル帯域幅を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement が CARRier のとき有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:CARRier:BANDwidth]:BWIDth:INTegration <value>

[:SENSe]:RFID:CARRier:BANDwidth]:BWIDth:INTegration?

引数: <value>::=<NRf> — 最大 EIRP のチャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: 0~10 MHz

測定モード: DEMRFID

使用例: チャンネル帯域幅を 1MHz に設定します。

:SENSe:RFID:CARRier:BANDwidth:INTegration 1MHz

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:CARRier:COUNTER[:RESolution]](?)

RF キャリア測定 of 周波数カウンタ分解能を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement が CARRier のとき有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:CARRier:COUNTER[:RESolution] <value>

[:SENSe]:RFID:CARRier:COUNTER[:RESolution]?

引数: <value>::=<NRf> — 周波数カウンタ分解能を設定します。
設定値 (Hz): 0.001, 0.01, 0.1, 1, 10, 100, 1k, 10k, 100k, 1M (デフォルト)

測定モード: DEMRFID

使用例: 周波数カウンタ分解能を 1Hz に設定します。

:SENSe:RFID:CARRier:COUNTER[:RESolution] 1Hz

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:CARRier:OFFSet(?)]

RFID 解析で、最大 EIRP（実効等方放射電力）の振幅オフセットを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement が CARRier のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:CARRier:OFFSet <value>

[:SENSe]:RFID:CARRier:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — 最大 EIRP の振幅オフセットを設定します。
設定範囲：-100～+100 dB

測定モード: DEMRFID

使用例: 最大 EIRP の振幅オフセットを 10dB に設定します。

:SENSe:RFID:CARRier:OFFSet 10

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:CARRier:PRATio[:SET]](?)

RFID 解析で、OBW（占有帯域幅）の電力比を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement が CARRier のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:CARRier:PRATio[:SET] <value>

[:SENSe]:RFID:CARRier:PRATio[:SET]?

引数: <value>::=<NRf> — OBW の電力比を設定します。
設定範囲: -100~+100 dB (デフォルト: 0dB)

測定モード: DEMRFID

使用例: OBW の電力比を 20dB に設定します。

:SENSe:RFID:CARRier:OFFSet 20

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:CARRier:PRATio:UNIT](?)

RFID 解析で、OBW（占有帯域幅）の電力比の単位を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement が CARRier のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:CARRier:PRATio:UNIT { PERCent | PCT | DB }

[:SENSe]:RFID:CARRier:PRATio:UNIT?

引数: PERCent または PCT — 電力比の単位をパーセント (%) とします。

DB — 電力比の単位を dB とします。

測定モード: DEMRFID

使用例: 電力比の単位をパーセント (%) とします。

:SENSe:RFID:CARRier:PRATio:UNIT PERCent

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID[:IMMediate] (問合せなし)

RFID 解析で、取り込んだデータについて解析演算を実行します。
測定項目は、[:SENSe]:RFID:MEASurement コマンドで選択します。
データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。

構文: [:SENSe]:RFID[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: DEMRFID

使用例: 取り込んだデータについて解析演算を実行します。

:SENSe:RFID:IMMediate

関連コマンド: :INITiate, [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:LENGth(?)

RFID 解析の測定範囲を設定または問合せます。

注: [:SENSe]:RFID:LENGth? 問合せの応答は、ブロックのデータ・ポイント数で制限されるため、デフォルト値 (7680) より小さい値が返る場合があります。

構文: [:SENSe]:RFID:LENGth <value>

:SENSe]:RFID:LENGth?

引数: <value>::=<NR1> — 測定範囲をデータ・ポイント数で設定します。

設定範囲: 1 ~ 256K

(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZE コマンドで設定します)

測定モード: DEMRFID

使用例: 測定範囲を 1000ポイントに設定します。

:SENSe:RFID:LENGth 1000

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZE

[:SENSe]:RFID:MEASurement(?)

RFID 解析の測定項目を選択して実行します。
問合せコマンドでは、現在の測定項目を返します。

構文: [:SENSe]:RFID:MEASurement { CARRier | SPURious | ACPower | PODown
| RFENvelope | CONStE | EYE | STABle }

[:SENSe]:RFID:MEASurement?

引数: 各引数に応じた測定を実行します。

表 2-91: RFID 解析の測定項目

引数	測定項目
CARRier	キャリア
SPURious	スプリアス
ACPower	ACPR
PODown	パワー・オン/ダウン
RFENvelope	RF エンベロープ
CONStE	コンスタレーション
EYE	アイ・ダイアグラム
STABle	シンボル・テーブル

測定モード: DEMRFID

使用例: キャリア測定を選択します。

:SENSe:RFID:MEASurement CARRier

[[:SENSe]:RFID:MODulation:BRATe:AUTO(?)]

パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、ビット・レートを自動で判定するか手動で設定するかを選択または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、STABLE、または PODown で、[:SENSe]:RFID:MODulation:DECode の設定が “PIE-A” および “PIE-C” 以外のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:BRATe:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:RFID:MODulation:BRATe:AUTO?

引数: OFF または 0 (デフォルト) — ビット・レートを手動で設定します。
[:SENSe]:RFID:MODulation:BRATe[:SET] コマンドで設定してください。

ON または 1 — ビット・レートを自動で判定します。

測定モード: DEMRFID

使用例: ビット・レートを自動で判定します。

:SENSe:RFID:MODulation:BRATe:AUTO ON

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:MODulation:BRATe[:SET]](?)

パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、[:SENSe]:RFID:MODulation:BRATe:AUTO が OFF のときにビット・レートを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONSte、EYE、STABLE、または PODown で、[:SENSe]:RFID:MODulation:DECode の設定が “PIE-A” および “PIE-C” 以外のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:BRATe[:SET] <value>

[:SENSe]:RFID:MODulation:BRATe[:SET]?

引数: <value>::=<NRf> — ビット・レートを設定します。
設定範囲: 1bps~51.2Mbps

測定モード: DEMRFID

使用例: ビット・レートを 40k に設定します。

:SENSe:RFID:MODulation:BRATe:SET 40k

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:MODulation:DECode(?)

パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、デコード方式を選択または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStable、EYE、STABLE、または PODown のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:DECode { "PIE-A" | "PIE-C" | "FM0"
| "MANCHESTER" | "MILLER" | "MILLER-2" | "MILLER-4" | "MILLER-8"
| "M-MILLER" | "NRZ" }

[:SENSe]:RFID:MODulation:DECode?

引数: 各引数とデコード方式を下表に示します。

表 2-92: デコード方式

引数	デコード方式
"PIE-A"	PIE タイプA
"PIE-C"	PIE タイプC
"FM0"	FM0
"MANCHESTER"	Manchester
"MILLER-2"	Miller (M_2)
"MILLER-4"	Miller (M_4)
"MILLER-8"	Miller (M_8)
"M-MILLER"	Modified Miller
"NRZ"	NRZ

測定モード: DEMRFID

使用例: パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、FM0 デコード方式を選択します。

:SENSe:RFID:MODulation:DECode FM0

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:MODulation:FORMat(?)

パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、変調方式を選択または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONSte、EYE、STABLE、または PODown のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:FORMat { "ASK" | "DSB-ASK" | "SSB-ASK"
| "PR-ASK" | "OOK" }

[:SENSe]:RFID:MODulation:FORMat?

引数: 各引数に対応する変調方式を下表に示します。

表 2-93: 変調方式の選択

引数	変調方式
"ASK"	ASK
"DSB-ASK"	DSB-ASK
"SSB-ASK"	SSB-ASK
"PR-ASK"	PR-ASK
"OOK"	OOK

測定モード: DEMRFID

使用例: ASK 変調を選択します。

```
:SENSe:RFID:MODulation:FORMat "ASK"
```

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:MODulation:INTerpolate(?)]

パワー・オン／ダウンまたは変調測定で、波形補間のポイント数を設定または問合せます。このコマンドは、MEAS SETUP メニューの **Interpolation Points** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONSte、EYE、STABLE、または PODown のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:INTerpolate <value>

[:SENSe]:RFID:MODulation:INTerpolate?

引数: <value>::=<Nrf> — 波形補間のポイント数を設定します。
設定範囲: 0~7 (デフォルト: 1)。ゼロは、補間なしを意味します。

測定モード: DEMRFID

使用例: 波形補間のポイント数を 3 に設定します。

```
:SENSe:RFID:MODulation:INTerpolate 3
```

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:MODulation:LINK(?)]

パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、リンクを選択または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStable、EYE、STABLE、または PODown のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:LINK { INTERrogator | TAG }

[:SENSe]:RFID:MODulation:LINK?

引数: INTERrogator (デフォルト) — 測定信号からリーダ/ライタのプリアンブルを検出し、信号をリーダ/ライタのデコード方式でデコードします。

TAG — 測定信号からタグのプリアンブルを検出し、信号をタグのデコード方式でデコードします。

測定モード: DEMRFID

使用例: 測定信号からリーダ/ライタのプリアンブルを検出し、信号をリーダ/ライタのデコード方式でデコードします。

```
:SENSe:RFID:MODulation:LINK INTERrogator
```

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:MODulation:SERRor[:WIDTh](?)

パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、セトリング・タイムを判定する誤差幅を設定または問合せます。このコマンドは、MEAS SETUP メニューの **Interpolation Points** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、STABLE、または PODown のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:SERRor[:WIDTh] <value>

[:SENSe]:RFID:MODulation:SERRor[:WIDTh]?

引数: <value>::=<NRf> — 誤差幅を設定します。
設定範囲: 1~100% (デフォルト: 5%)

測定モード: DEMRFID

使用例: 誤差幅を 5% に設定します。

```
:SENSe:RFID:MODulation:SERRor:WIDTh 5
```

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:MODulation:STANdard(?)

パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、復調規格を選択または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、STABle、または PODown のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:STANdard { "18000-4-1" | "18000-6-A"
| "18000-6-B" | "18000-6-C" | "MANUAL" }

[:SENSe]:RFID:MODulation:STANdard?

引数: 各引数に対応する通信規格を下表に示します。

表 2-94: 復調規格の選択

引数	復調規格
"18000-4-1"	ISO/IEC 1800_4 Mode 1
"18000-6-A"	ISO/IEC 1800_6 Type A
"18000-6-B"	ISO/IEC 1800_6 Type B
"18000-6-C"	ISO/IEC 1800_6 Type C
"MANUAL"	手動で設定

測定モード: DEMRFID

使用例: ISO/IEC 1800_4 Mode 1 規格を選択します。

```
:SENSe:RFID:MODulation:STANdard "18000-4-1"
```

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:MODulation:TARI:AUTO(?)]

パワー・オン／ダウンまたは変調測定で、Tari を自動で判定するか手動で設定するかを選択または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、STABLE、または PODown で、[:SENSe]:RFID:MODulation:DECode の設定が “PIE-A” および “PIE-C” のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:TARI:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:RFID:MODulation:TARI:AUTO?

引数: OFF または 0 (デフォルト) — ビット・レートを手動で設定します。
[:SENSe]:RFID:MODulation:TARI[:SET] コマンドで設定してください。

ON または 1 — ビット・レートを自動で判定します。

測定モード: DEMRFID

使用例: Tari を自動で判定します。

:SENSe:RFID:MODulation:TARI:AUTO ON

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:MODulation:TARI[:SET](?)

パワー・オン/ダウンまたは変調測定で、[:SENSe]:RFID:MODulation:TARI:AUTO が OFF のときに Tari を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、STABle、または PODown で、[:SENSe]:RFID:MODulation:DECode の設定が “PIE-A” および “PIE-C” のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation:TARI[:SET] <value>

[:SENSe]:RFID:MODulation:TARI[:SET]?

引数: <value>::=<NRf> — Tari を設定します。設定範囲: 1ns ~ 1s。

測定モード: DEMRFID

使用例: Tari を 25 μ s に設定します。

```
:SENSe:RFID:MODulation:TARI:SET 25u
```

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:MODulation[:THReshold]:HIGHer(?)]

パワー・オン／ダウンまたは変調測定で、パルスの立ち上がり／立ち下がり時間を測定する高い方のしきい値を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、STABle、または PODown のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation[:THReshold]:HIGHer <value>

[:SENSe]:RFID:MODulation[:THReshold]:HIGHer?

引数: <value>::=<NRf> — 立ち上がり／立ち下がり時間測定時の高い方のしきい値を設定します。設定範囲：50～99%（デフォルト：90%）

測定モード: DEMRFID

使用例: しきい値を 90% に設定します。

```
:SENSe:RFID:MODulation:THReshold 90
```

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:MODulation[:THReshold]:LOWer(?)]

パワー・オン／ダウンまたは変調測定で、パルスの立ち上がり／立ち下がり時間を測定する低い方のしきい値を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RFID:MEASurement の設定が RFENvelope、CONStE、EYE、STABle、または PODown のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:MODulation[:THReshold]:LOWer <value>

[:SENSe]:RFID:MODulation[:THReshold]:LOWer?

引数: <value>::=<NRf> — 立ち上がり／立ち下がり時間測定時の低い方のしきい値を設定します。設定範囲：1～50%（デフォルト：10%）

測定モード: DEMRFID

使用例: しきい値を 10% に設定します。

```
:SENSe:RFID:MODulation:THReshold 10
```

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:OFFSet(?)

RFID 解析の測定開始位置を設定または問合せます。

注 : [:SENSe]:RFID:OFFSet? 問合せの応答はブロック内のトリガ位置で制限されるため、デフォルト値 (0) より大きい値が返る場合があります。

構文 : [:SENSe]:RFID:OFFSet <value>

[:SENSe]:RFID:OFFSet?

引数 : <value>::=<NR1> — 測定開始位置をポイント数で設定します。
設定範囲 : 0 ~ 1024 × ブロック・サイズ - 1
(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZE コマンドで設定します)

測定モード : DEMRFID

使用例 : 測定開始位置を 500ポイントに設定します。

:SENSe:RFID:OFFSet 500

関連コマンド : [:SENSe]:BSIZE

[:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:EXCursion(?)

スプリアス測定で、スプリアスを判定する突出レベルを設定または問合せます。
(2-787ページの [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:EXCursion コマンドを参照)
このコマンドは [:SENSe]:RFID:MEASurement が SPURious のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:EXCursion <value>

[:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:EXCursion?

引数: <level>::=<Nrf> — 突出レベルを設定します。
設定範囲: 0~30 dB (デフォルト: 3dB)

測定モード: DEMRFID

使用例: 突出レベルを 5dB に設定します。

:SENSe:RFID:SPURious:THReshold:EXCursion 5

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:IGNore(?)

スプリアス測定のスプリアス非検出範囲を設定または問合せます。
(2-788ページの [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:IGNore コマンドを参照)
このコマンドは [:SENSe]:RFID:MEASurement が SPURious のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:IGNore <value>

[:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:IGNore?

引数: <value>::=<Nrf> — スプリアス非検出範囲を設定します。
設定範囲: 0 ~ (スパン) / 2 [Hz] (デフォルト: 0Hz)

測定モード: DEMRFID

使用例: スプリアス非検出範囲を 5MHz に設定します。

:SENSe:RFID:SPURious:THReshold:IGNore 5MHz

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:SIGNa1(?)

スプリアス測定のキャリア判定レベルを設定または問合せます。
 (2-788ページの [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SIGNa1 コマンドを参照)
 このコマンドは [:SENSe]:RFID:MEASurement が SPURious のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:SIGNa1 <value>
 [:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:SIGNa1?

引数: <level>::=<NRf> — キャリア判定レベルを設定します。
 設定範囲: -100~+30 dBm (デフォルト: -20dBm)

測定モード: DEMRFID

使用例: キャリア判定レベルを -30dBm に設定します。

:SENSe:RFID:SPURious:THReshold:SIGNa1 -30

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:SPURious(?)

スプリアス測定のスプリアス判定レベルを設定または問合せます。
 (2-789ページの [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SPURious コマンドを参照)
 このコマンドは [:SENSe]:RFID:MEASurement が SPURious のときに有効です。

構文: [:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:SPURious <value>
 [:SENSe]:RFID:SPURious[:THReshold]:SPURious?

引数: <level>::=<NR1> — スプリアス判定レベルをキャリア・ピークからの相対値で設定します。設定範囲: -90~-30 dBc (デフォルト: -70dBc)

測定モード: DEMRFID

使用例: スプリアス判定レベルを -50 dB に設定します。

:SENSe:RFID:SPURious:THReshold:SPURious -80

関連コマンド: [:SENSe]:RFID:MEASurement

[[:SENSe]:RFID:ZOOM:FREQuency:CENTer(?)

ズーム領域の中心の周波数を設定または問合せます。
このコマンドは、:DISPlay:RFID:OView:FORMat の設定が ZOOM のとき有効です。

構文: [[:SENSe]:RFID:ZOOM:FREQuency:CENTer <value>

[[:SENSe]:RFID:ZOOM:FREQuency:CENTer?

引数: <value>::=<Nrf> — ズーム領域の中心の周波数を設定します。
設定範囲は、測定周波数範囲内になければなりません。

測定モード: DEMRFID

使用例: ズーム領域の中心の周波数を 1.75GHz に設定します。

:SENSe:RFID:ZOOM:FREQuency:CENTer 1.75GHz

関連コマンド: :DISPlay:RFID:OView:FORMat

[[:SENSe]:RFID:ZOOM:FREQuency:WIDTh(?)

ズーム領域の周波数幅を設定または問合せます。
このコマンドは、:DISPlay:RFID:OView:FORMat の設定が ZOOM のとき有効です。

構文: [[:SENSe]:RFID:ZOOM:FREQuency:WIDTh <value>

[[:SENSe]:RFID:ZOOM:FREQuency:WIDTh?

引数: <value>::=<Nrf> — ズーム領域の周波数幅を設定します。
設定範囲は、測定周波数範囲内になければなりません。

測定モード: DEMRFID

使用例: ズーム領域の周波数幅を 500kHz に設定します。

:SENSe:RFID:ZOOM:FREQuency:WIDTh 500kHz

関連コマンド: :DISPlay:RFID:OView:FORMat

[:SENSe]:SSource サブグループ シグナル・ソース解析、オプション21 型のみ

[:SENSe]:SSourceコマンドは、シグナル・ソース解析の設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで TIMSSOURCE (シグナル・ソース解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:SSource	
:BLOCK	<numeric_value>
:CARRier	
:BAWdwidth :BWIth	
:INTEgration	<numeric_value>
[:THReshold]	<numeric_value>
:TRACking	
[:STATe]	<boolean>
:CNRatio	
:FFT	
[:LENGth]	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
:SBANd	UPPer LOWer
[:THReshold]	<numeric_value>
:FVTime	
:SMOothing	<numeric_value>
[:THReshold]	<numeric_value>
[:IMMediate]	
:LENGth	<numeric_value>
:MEASurement	OFF PNOise SPURious RTPNoise RTSPurious FVTime }
:OFFSet	<numeric_value>
:PNOise	
:MPJitter	
[:THReshold]	<numeric_value>
:RJITter	
:OFFSet	
:STARt	<numeric_value>
:STOP	<numeric_value>
[:THReshold]	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
:MAXimum	<numeric_value>
:MINimum	<numeric_value>
:SPURious	
:IGNore	<numeric_value>
:SFILter	
[:STATe]	<boolean>
[:THReshold]	
:EXCURsion	<numeric_value>
:SPURious	<numeric_value>

[:SENSe] :SSOurce :BLOck (?)

シグナル・ソース解析を行うブロック番号を設定または問合せます。

このコマンドは [:SENSe] :SSOurce :MEASurement が RTPNoise, RTSPurious, または FVTime のとき有効です。

構文: [:SENSe] :SSOurce :BLOck <number>

[:SENSe] :SSOurce :BLOck?

引数: <number> ::= <NR1> — ブロック番号を設定します。0 が最新のブロックを表します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:SSOurce:BLOck -5

関連コマンド: [:SENSe] :SSOurce :MEASurement

[:SENSe] :SSOurce :CARRier :BANDwidth | :BWIDTH :INTegration (?)

シグナル・ソース解析で、チャンネル電力を計算する周波数帯域幅を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe] :SSOurce :MEASurement が PNoise、RTPNoise、または RTSPurious のとき有効です。

構文: [:SENSe] :SSOurce :CARRier :BANDwidth | :BWIDTH :INTegration <value>

[:SENSe] :SSOurce :CARRier :BANDwidth | :BWIDTH :INTegration?

引数: <value> ::= <NRf> — チャンネル電力を計算する周波数帯域幅を設定します。
設定範囲: スパン/100 (デフォルト) ~ スパン/2 [Hz]

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: チャンネル電力を計算する周波数帯域幅を 1MHz に設定します。

:SENSe:SSOurce:CARRier:BANDwidth:INTegration 1MHz

関連コマンド: [:SENSe] :SSOurce :MEASurement

[[:SENSe]:SSource:CARRier[:THReshold](?)

シグナル・ソース解析で、キャリアを検出するしきい値を設定または問合せます。
このしきい値より振幅の大きい信号をキャリアとします。

このコマンドは [:SENSe]:SSource:MEASurementが PNOise, SPURious, RTPNoise,
または RTSPurious のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:CARRier[:THReshold] <value>

[:SENSe]:SSource:CARRier[:THReshold]?

引数: <value>::=<NRf> — キャリアを検出するしきい値を設定します。
設定範囲: -100~+30 dBm (デフォルト: -20dBm)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: キャリアを検出するしきい値を -10dBm に設定します。

[:SENSe]:SSource:CARRier:THReshold -10

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[[:SENSe]:SSource:CARRier:TRACking[:STATe](?)

シグナル・ソース解析でキャリア追跡を行うかどうかを選択します。キャリア追跡は、信号がドリフトする場合でも、常にキャリア周波数を中心に置いて処理を行う機能です（波形表示には影響しません）。

このコマンドは [:SENSe]:SSource:MEASurement が SPURious または RTSPurious のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:CARRier:TRACking[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:SSource:CARRier:TRACking[:STATe]?

引数: OFF または 0 — キャリア追跡をオフにします。

ON または 1 (デフォルト) — キャリア追跡をオンにします。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: キャリア追跡をオンにします。

:SENSe:SSource:CARRier:TRACking:STATe ON

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[[:SENSe]:SSource:CNRatio:FFT[:LENGth](?)

シグナル・ソース解析のリアルタイム位相雑音測定で、フレームあたりの FFT サンプル数を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が RTPNoise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:CNRatio:FFT[:LENGth] <value>

[:SENSe]:SSource:CNRatio:FFT[:LENGth]?

引数: <value>::=<NR1> — FFT サンプル数を設定します。

設定範囲: 64~65536 (2ⁿ、デフォルト: 1024)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: FFT サンプル数を 2048 に設定します。

:SENSe:SSource:CNRatio:FFT:LENGth 2048

関連コマンド: :DISPlay:SSource:MVIEW:FORMat

[:SENSe]:SSource:CNRatio:OFFSet(?)

サブ・ビューに C/N 対時間を表示する周波数を設定または問合せます。
このコマンドは MEAS SETUP メニューの **C/N Offset Frequency** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が RTPNoise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:CNRatio:OFFSet <value>

[:SENSe]:SSource:CNRatio:OFFSet?

引数: <value>::=<Nrf> — サブ・ビューに C/N 対時間を表示する周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定します。設定値は、リアルタイム位相雑音測定周波数範囲になければなりません。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: オフセットを 50kHz に設定します。

:SENSe:SSource:CNRatio:OFFSet 50kHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[:SENSe]:SSource:CNRatio:SBANd(?)

シグナル・ソース解析で、位相雑音を測定する側波帯を選択または問合せます。

このコマンドは [:SENSe]:SSource:MEASurement が PNOise、RTPNoise、または RTSPurious のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:CNRatio:SBANd { UPPER | LOWER }

[:SENSe]:SSource:CNRatio:SBANd?

引数: UPPER (デフォルト) — 上側波帯を測定します。

LOWER — 下側波帯を測定します。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 上側波帯を測定します。

:SENSe:SSource:CNRatio:SBANd UPPER

関連コマンド: :DISPlay:SSource:MVIEW:FORMat

[[:SENSe]:SSource:CNRatio[:THReshold](?)

シグナル・ソース解析で、位相雑音のセトリング・タイムを求めるしきい値を設定または問合せます。このコマンドは MEAS SETUP メニューの **C/N Settling Threshold** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が RTPNoise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:CNRatio[:THReshold] <value>

[:SENSe]:SSource:CNRatio[:THReshold]?

引数: <value>::=<NRf> — 位相雑音のセトリング・タイムを求めるしきい値を設定します。
設定範囲: -200~0 dBc/Hz。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: しきい値を -20dBc/Hz に設定します。

:SENSe:SSource:CNRatio:THReshold -20

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[:SENSe]:SSource:FVTime:SMOothing(?)

シグナル・ソース解析の周波数対時間測定でスムージング・ファクタを設定または問合せます。このコマンドは [:SENSe]:SSource:MEASurement が FVTime のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:FVTime:SMOothing <value>

[:SENSe]:SSource:FVTime:SMOothing?

引数: <value>::=<Nrf> — スムージング・ファクタを設定します。
設定範囲: 1 ~ (解析範囲) / 2

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: スムージング・ファクタを 10 に設定します。

:SENSe]:SSource:FVTime:SMOothing 10

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[:SENSe]:SSource:FVTime[:THReshold](?)

シグナル・ソース解析で周波数セトリング・タイムを決めるしきい値を設定または問合せます。このコマンドは MEAS SETUP メニューの **Freq Settling Threshold** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が FVTime のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:FVTime[:THReshold] <value>

[:SENSe]:SSource:FVTime[:THReshold]?

引数: <value>::=<Nrf> — 周波数セトリング・タイムを決めるしきい値を設定します。
設定範囲: スパン/100 ~ スパン/2 [Hz]

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 周波数セトリング・タイムを決めるしきい値を 300kHz に設定します。

:SENSe:SSource:FVTime:THReshold 300kHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[[:SENSe]:SSource[:IMMediate]] (問合せなし)

シグナル・ソース解析で、取り込んだデータについて解析演算を実行します。
測定は、[:SENSe]:SSource:MEASurement コマンドで選択します。

構文: [:SENSe]:SSource[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 取り込んだデータについて解析演算を実行します。

[:SENSe]:SSource:IMMediate

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[:SENSe]:SSource:LENGth(?)

シグナル・ソース解析の測定範囲を設定または問合せます。

このコマンドは [:SENSe]:SSource:MEASurement が RTPNoise, RTSPurious, または FVTime のとき有効です。

注 : [:SENSe]:SSource:LENGth? 問合せの応答はブロックのデータ・ポイント数で制限されるため、デフォルト値 (7680) より小さい値が返る場合があります。

構文 : [:SENSe]:SSource:LENGth <value>

[:SENSe]:SSource:LENGth?

引数 : <value>::=<NR1> — 測定範囲をデータ・ポイント数で設定します。設定範囲は、オプションと測定項目により異なります (表2-95)。

表 2-95: 設定範囲

オプション	設定範囲
オプション02型 以外	1 ~ [1024×ブロック・サイズ] または [8192-512=7680] の小さい方
オプション02型 (256MBメモリ)	リアルタイム位相雑音およびリアルタイム・スプリアス測定 : 1 ~ 65,534,976 (1024×最大ブロック・サイズ (=64000) - 1024) 周波数対時間測定 : 1 ~ 512,000 (500フレーム×1024)

ブロック・サイズは、[:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します。

測定モード : TIMSSOURCE

使用例 : 測定範囲を 1000ポイントに設定します。

```
:SENSe:SSource:LENGth 1000
```

関連コマンド : [:SENSe]:BSIZe, [:SENSe]:SSource:MEASurement

[:SENSe]:SSource:MEASurement(?)

シグナル・ソース解析の測定項目を選択して実行します。
問合せコマンドでは、現在の測定項目を返します。

構文: [:SENSe]:SSource:MEASurement { OFF | PNOise | SPURious | RTPNoise
| RTSPurious | FVTime }

[:SENSe]:SSource:MEASurement?

引数: 各引数に応じた測定を実行します。

表 2-96: S/A モードの測定項目

引数	測定項目
OFF	測定を行いません。
PNOise	位相雑音
SPURious	スプリアス
RTPNoise	リアルタイム位相雑音
RTSPurious	リアルタイム・スプリアス
FVTime	周波数対時間

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 位相雑音測定を選択して実行します。

:SENSe:SSource:MEASurement PNOise

[:SENSe]:SSource:OFFSet(?)

シグナル・ソース解析の測定開始位置を設定または問合せます。

このコマンドは [:SENSe]:SSource:MEASurement が RTPNoise, RTSPurious, または FVTime のとき有効です。

注： [:SENSe]:SSource:OFFSet? 問合せの応答はブロック内のトリガ位置で制限されるため、デフォルト値 (0) より大きい値が返る場合があります。

構文： [:SENSe]:SSource:OFFSet <value>

[:SENSe]:SSource:OFFSet?

引数： <value>::=<NR1> — 測定開始位置をポイント数で設定します。
設定範囲：0 ~ 1024×ブロック・サイズ - 1
(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZE コマンドで設定します)

測定モード： TIMSSOURCE

使用例： 測定開始位置を 500ポイントに設定します。

:SENSe:SSource:OFFSet 500

関連コマンド： [:SENSe]:BSIZE, [:SENSe]:SSource:MEASurement

[[:SENSe]:SSource:PNOise:MPJitter[:THReshold](?)

シグナル・ソース解析で、周期的ジッタ (Periodic Jitter) を判定するしきい値を設定または問合せます。このコマンドは MEAS SETUP メニューの **Max Pj Threshold** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が PNOise または RTPNoise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:PNOise:MPJitter[:THReshold] <value>

[:SENSe]:SSource:PNOise:MPJitter[:THReshold]?

引数: <value>::=<NRf> — 周期的ジッタを判定するしきい値を設定します。
設定範囲: 1 ~ 50 dB (デフォルト: 10dB)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: しきい値を 20dB に設定します。

```
:SENSe:SSource:PNOise:MPJitter:THReshold 20
```

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:START(?)

シグナル・ソース解析で、ランダム・ジッタ測定開始周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定します。このコマンドは、MEAS SETUP メニューの **Rj Start Offset Frequency** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が PNOise または RTPNoise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:START <value>

[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:START?

引数: <value>::=<NRf> — ランダム・ジッタ測定開始周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定します。

設定範囲: 10Hz (デフォルト) ~ 測定停止オフセット周波数

測定停止オフセット周波数は [:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:STOP コマンドで設定します。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: ランダム・ジッタ測定開始オフセット周波数を 10kHz に設定します。

:SENSe:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:START 10kHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement, [:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:STOP

[[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:STOP(?)]

シグナル・ソース解析で、ランダム・ジッタ測定停止周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定します。このコマンドは、MEAS SETUP メニューの **Rj Stop Offset Frequency** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が PNOise または RTPNoise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:STOP <value>

[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:STOP?

引数: <value>::=<NRf> — ランダム・ジッタ測定停止周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定します。

設定範囲: 測定開始オフセット周波数 ~ 100MHz (デフォルト)

測定開始オフセット周波数は、[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:START コマンドで設定します。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: ランダム・ジッタ測定停止オフセット周波数を 1MHz に設定します。

:SENSe:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:STOP 1MHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement, [:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter:OFFSet:START

[[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter[:THReshold](?)

リアルタイム位相雑音測定でランダム・ジッタのセトリング・タイムを求めるしきい値を設定または問合せます。このコマンドは、MEAS SETUP メニューの **Rj Settling Threshold** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が RTPNoise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter[:THReshold] <value>

[:SENSe]:SSource:PNOise:RJITter[:THReshold]?

引数: <value>::=<Nrf> — ランダム・ジッタのセトリング・タイムを求めるしきい値を設定します。設定範囲: 0~1 s (デフォルト: 0s)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: しきい値を 0.2ps に設定します。

:SENSe:SSource:PNOise:RJITter:THReshold 0.2ps

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[[:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MAXimum(?)]

シグナル・ソース解析で、位相雑音測定範囲の最大周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定または問合せます。このコマンドは、MEAS SETUP メニューの **Maximum Offset Frequency** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が PNOise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MAXimum <value>

[:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MAXimum?

引数: <value>::=<Nrf> — 位相雑音測定範囲の最大周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定します。

設定値: 100Hz、1kHz、10kHz、100kHz、1MHz、10MHz、または 100MHz
(デフォルト: 100MHz)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 最大オフセット周波数を 1MHz に設定します。

:SENSe:SSource:PNOise:OFFSet:MAXimum 1MHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement, [:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MINimum

[[:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MINimum(?)]

シグナル・ソース解析で、位相雑音測定範囲の最小周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定または問合せます。このコマンドは、MEAS SETUP メニューの **Minimum Offset Frequency** の設定と等価です。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が PNOise のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MINimum <value>

[:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MINimum?

引数: <value>::=<NRf> — 位相雑音測定範囲の最小周波数をキャリア周波数からのオフセットで設定します。

設定値: 10Hz、100Hz、1kHz、10kHz、100kHz、1MHz、または 10MHz
(デフォルト: 10Hz)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 最小オフセット周波数を 10kHz に設定します。

:SENSe:SSource:PNOise:OFFSet:MINimum 10kHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement, [:SENSe]:SSource:PNOise:OFFSet:MAXimum

[[:SENSe]:SSource:SPURious:IGNore(?)]

シグナル・ソース解析で、スプリアス測定のスプリアス非検出範囲を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:IGNore コマンドと同じ機能を持ちます (2-788ページ参照)。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が SPURious または RTSPurious のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:SPURious:IGNore <value>

[:SENSe]:SSource:SPURious:IGNore?

引数: <value>::=<NRf> — スプリアス非検出範囲を設定します。
設定範囲: 0 ~ (スパン) / 2 [Hz]

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: スプリアス非検出範囲を 1MHz に設定します。

:SENSe:SSource:SPURious:IGNore 1MHz

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement, [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:IGNore

[[:SENSe]:SSource:SPURious:SFILter[:STATe](?)

スプリアス測定で対称スプリアス・フィルタのオン/オフを選択または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が SPURious または RTSPuri-ous のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:SPURious:SFILter[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:SSource:SPURious:SFILter[:STATe]?

引数: OFF または 0 — 対称スプリアス・フィルタをオフにします。
すべてのスプリアスを表示します。

ON または 1 (デフォルト) — 対称スプリアス・フィルタをオンにします。
対称スプリアスのみ表示します。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 対称スプリアスのみ表示します。

:SENSe:SSource:SPURious:SFILter:STATe ON

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement

[[:SENSe]:SSource:SPURious[:THReshold]:EXCursion(?)]

スプリアス測定で、スプリアスを判定する突出レベルを設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:EXCursion コマンドと同じ機能
をもちます (2-787ページ参照)。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が SPURious または RTSPuri-
ous のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:SPURious[:THReshold]:EXCursion <level>

[:SENSe]:SSource:SPURious[:THReshold]:EXCursion?

引数: <level>::=<NRf> — 突出レベルを設定します。
設定範囲: 0~30 dB (デフォルト: 3dB)

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: 突出レベルを 5dB に設定します。

```
:SENSe:SSource:SPURious:THReshold:EXCursion 5
```

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement, [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:EXCursion

[[:SENSe]:SSource:SPURious[:THReshold]:SPURious(?)]

スプリアス測定で、スプリアス判定レベルを設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SPURious コマンドと同じ機能
をもちます (2-787ページ参照)。

このコマンドは、[:SENSe]:SSource:MEASurement が SPURious または RTSPuri-
ous のとき有効です。

構文: [:SENSe]:SSource:SPURious[:THReshold]:SPURious <level>

[:SENSe]:SSource:SPURious[:THReshold]:SPURious?

引数: <level>::=<NR1> — スプリアス判定レベルを設定します。
設定範囲: -90~-30 dB。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: スプリアス判定レベルを -50 dB に設定します。

:SENSe:SPURious:THReshold:SPURious -50

関連コマンド: [:SENSe]:SSource:MEASurement, [:SENSe]:SPURious[:THReshold]:SPURious

[[:SENSe]:AC3Gpp サブグループ

W-CDMA、 オプション23 型のみ

W-CDMA ACLR (隣接チャンネル漏洩電力比) 測定の設定を行います。

注: このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで SAUL3G (W-CDMA アップリンク・スペクトラム測定) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:AC3Gpp	
:FILTer	
:ALPHa	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle RNYQuist

[[:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:ALPHa(?)]

W-CDMA ACLR 測定フィルタ係数 (α /BT) を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:TYPE で RNYQuist (ルート・ナイキスト
フィルタ) を選択したときに有効です。

構文: [:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:ALPHa <value>

[:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:ALPHa?

引数: <value>::=<Nrf> — フィルタ係数 (α /BT) を設定します。設定範囲: 0~1。

測定モード: SAUL3G

使用例: フィルタ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:AC3Gpp:FILTer:ALPHa 0.5

関連コマンド: [:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:TYPE

[[:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:TYPE(?)]

W-CDMA ACLR 測定フィルタを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:TYPE { RECTangle | RNYQuist }

[:SENSe]:AC3Gpp:FILTer:TYPE?

引数: RECTangle — 矩形フィルタを選択します。

RNYQuist — ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

測定モード: SAUL3G

使用例: ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:AC3Gpp:FILTer:TYPE RNYQuist

[:SENSe]:UL3Gpp サブグループ

W-CDMA、 オプション23 型のみ

[:SENSe]:UL3Gpp コマンドでは、W-CDMA アップリンク解析の設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTrument[:SElect] コマンドで DEMUL3G (W-CDMA アップリンク解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:UL3Gpp	
:BLOCK	<numeric_value>
:CARRier	
:OFFSet	<frequency>
:SEARCh	<boolean>
:FILTer	
:ALPHa	<numeric_value>
:MEASurement	OFF RRCosine
:REFerence	OFF RCOsine GAUssian
[:IMMediate]	
:LENGth	<numeric_value>
:MMODE	DPCH PRACH PCPCh
:OFFSet	<numeric_value>
:SCODE	
:NUMBer	<numeric_value>
:TYPE	LONG SHORt
:THReshold	<relative_amplitude>

[**:SENSe**]:**UL3Gpp**:**BLOCK**(?)

W-CDMA アップリンク解析で、解析するブロックの番号を指定または問合せます。

構文: [**:SENSe**]:**UL3Gpp**:**BLOCK** <value>

[**:SENSe**]:**UL3Gpp**:**BLOCK**?

引数: <value>::=<Nrf> — 解析するブロックの番号を指定します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: DEMUL3G

使用例: 解析するブロックの番号を -5 に指定します。

:SENSe:**UL3Gpp**:**BLOCK** -5

[:SENSe] :UL3Gpp :CARRier :OFFSet (?)

W-CDMA アップリンク解析でキャリア周波数オフセットを設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :UL3Gpp :CARRier :OFFSet <freq>

[:SENSe] :UL3Gpp :CARRier :OFFSet?

引数: <freq> ::= <Nrf> — キャリア周波数オフセットを設定します。
設定範囲: $-F_s \sim F_s$ (F_s : スパン)

測定モード: DEMUL3G

使用例: キャリア周波数オフセットを 10MHz に設定します。

:SENSe:UL3Gpp:CARRier:OFFSet 10MHz

[:SENSe] :UL3Gpp :CARRier :SEARch (?)

W-CDMA アップリンク解析で、キャリア検出を自動で行うかどうか選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :UL3Gpp :CARRier :SEARch { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe] :UL3Gpp :CARRier :SEARch?

引数: OFF または 0 — キャリア検出を自動で行いません。
上記の [:SENSe] :UL3Gpp :CARRier :OFFSet コマンドで、キャリア周波数オフセットを設定します。

ON または 1 — キャリア検出を自動で行います。

測定モード: DEMUL3G

使用例: キャリア検出を自動で行います。

:SENSe:UL3Gpp:CARRier:SEARch ON

[[:SENSe]:UL3Gpp:FILTer:ALPHa(?)]

W-CDMA アップリンク解析で、フィルタ係数 (α/BT) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:UL3Gpp:FILTer:ALPHa <value>

[[:SENSe]:UL3Gpp:FILTer:ALPHa?

引数: <value>::=<NRf> — フィルタ係数 (α/BT) を設定します。設定範囲: 0~1。

測定モード: DEMUL3G

使用例: フィルタ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:UL3Gpp:FILTer:ALPHa 0.5

[:SENSe] :UL3Gpp :FILTer :MEASurement (?)

W-CDMA アップリンク解析の測定フィルタ (Measurement Filter) を選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :UL3Gpp :FILTer :MEASurement { OFF | RRCosine }

[:SENSe] :UL3Gpp :FILTer :MEASurement ?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

RRCosine — Root Raised Cosine フィルタを選択します。

測定モード: DEMUL3G

使用例: Root Raised Cosine フィルタを選択します。

:SENSe:UL3Gpp:FILTer:MEASurement RRCosine

[:SENSe] :UL3Gpp :FILTer :REFerence (?)

W-CDMA アップリンク解析の基準フィルタ (Reference Filter) を選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :UL3Gpp :FILTer :REFerence { OFF | RCOsine | GAUSSian }

[:SENSe] :UL3Gpp :FILTer :REFerence ?

引数: OFF — 基準フィルタを使用しません。

RCOsine — Raised Cosine フィルタを選択します。

GAUSSian — ガウス・フィルタを選択します。

測定モード: DEMUL3G

使用例: Raised Cosine フィルタを選択します。

:SENSe:UL3Gpp:FILTer:REFerence RCOsine

[[:SENSe]:UL3Gpp[:IMMediate]] (問合せなし)

取り込んだデータについて、W-CDMA アップリンク解析演算を実行します。
データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。

構文: [[:SENSe]:UL3Gpp[:IMMediate]]

引数: なし

測定モード: DEMUL3G

使用例: W-CDMA アップリンク解析演算を実行します。

:SENSe:UL3Gpp:IMMediate

関連コマンド: :INITiate

[[:SENSe]:UL3Gpp:LENGth(?)

W-CDMA アップリンク解析で、解析範囲長を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:UL3Gpp:LENGth <value>

[[:SENSe]:UL3Gpp:LENGth?

引数: <value>::=<NRf> — 解析範囲長をポイント数で設定します。
設定範囲: 1 ~ 1024×ブロック・サイズ
(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します)

測定モード: DEMUL3G

使用例: 解析範囲長を 1000 ポイントに設定します。

:SENSe:UL3Gpp:LENGth 1000

[:SENSe] :UL3Gpp :MMODE (?)

W-CDMA アップリンク解析で、測定時の移動機モードを選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :UL3Gpp :MMODE { DPCH | PRACH | PCPCH }

[:SENSe] :UL3Gpp :MMODE ?

引数: DPCH — DPDCH/DPCCH モードを選択します。

PRACH — PRACH モードを選択します。

PCPCH — PCPCH モードを選択します。

測定モード: DEMUL3G

使用例: PRACH モードを選択します。

```
:SENSe:UL3Gpp:MMODE PRACH
```

[:SENSe] :UL3Gpp :OFFSet (?)

W-CDMA アップリンク解析で、解析開始位置を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :UL3Gpp :OFFSet <value>

[:SENSe] :UL3Gpp :OFFSet ?

引数: <value> ::= <NRf> — 解析開始位置をポイント数で設定します。

設定範囲: 0 ~ 1024 × ブロック・サイズ - 1

(ブロック・サイズは [:SENSe] :BSIZE コマンドで設定します)

測定モード: DEMUL3G

使用例: 解析開始位置をポイント 100 に設定します。

```
:SENSe:UL3Gpp:OFFSet 100
```

[[:SENSe]:UL3Gpp:SCODE:NUMBER(?)]

W-CDMA アップリンク解析でスクランプリング・コードを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:UL3Gpp:SCODE:NUMBER <value>

[[:SENSe]:UL3Gpp:SCODE:NUMBER?

引数: <value>::=<NR1> — スクランプリング・コードを設定します。
設定範囲：0～16777215。

測定モード: DEMUL3G

使用例: スクランプリング・コードを 3 に設定します。

:SENSe:UL3Gpp:SCODE:NUMBER 3

[[:SENSe]:UL3Gpp:SCODE:TYPE(?)]

スクランプリング・コードの種類を選択または問合せます。

このコマンドは [[:SENSe]:UL3Gpp:MMODE コマンドで PRACH または PCPCH モードを選択したときに有効です。

構文: [[:SENSe]:UL3Gpp:SCODE:TYPE { LONG | SHORt }

[[:SENSe]:UL3Gpp:SCODE:TYPE?

引数: LONG — ロング・コードを選択します。

SHORt — ショート・コードを選択します。

測定モード: DEMUL3G

使用例: ロング・コードを選択します。

:SENSe:UL3Gpp:SCODE:TYPE LONG

関連コマンド: [[:SENSe]:UL3Gpp:MMODE

[:SENSe] :UL3Gpp :THReshold (?)

入力信号をバーストと判断するしきい値を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe] :UL3Gpp :MMODE コマンドで PRACH または PCPCH モードを選択したときに有効です。

構文: [:SENSe] :UL3Gpp :THReshold <rel_amp>

[:SENSe] :UL3Gpp :THReshold?

引数: <rel_amp>::=<NR1> — 入力信号をバーストと判断するしきい値を設定します。リファレンス・レベルを基準とします。設定範囲：-100~+10 dB。

測定モード: DEMUL3G

使用例: しきい値を -10dB に設定します。

:SENSe:UL3Gpp:THReshold -10

関連コマンド: [:SENSe] :UL3Gpp :MMODE

[:SENSe]:GSMedge サブグループ

GSM/EDGE、オプション24型のみ

GSM/EDGE 解析の設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMGSMEDGE（GSM/EDGE 変調解析）を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[SENSe]	
:GSMedge	
:ABITs	142 147 148
:BLOCK	<numeric_value>
:BURSt	
:INDEX	<numeric_value>
:MPOINT	HWAY S14
:RTFirst	
:CARRIER	
:OFFSET	<numeric_value>
:SEARCH	<boolean>
:FILTER	
:RCWRCosine	<boolean>
[:IMMEDIATE]	
:LIMIT	
:SIGNAL	<numeric_value>
:SPURious	<numeric_value>
:MEASurement	MCPower PVTIME MACCuracy MODulation SWITching SPURious
:MODulation	GMSK EDGE
:SLOT	<numeric_value>
:STANDARD	
:BAND	GSM850 GSM900 DCS1800 PCS1900
:DIRection	UPLink DOWNLink
:STINDEX	<numeric_value>
:TSCode	
:AUTO	<boolean>
[:NUMBER]	<numeric_value>

[:SENSe] :GSMEdge :ABITs (?)

変調確度測定のエVM計算に使うシンボル数を選択または問合せます。

このコマンドは、測定項目が変調確度 (MACCuracy) のときに有効です。

構文: [:SENSe] :GSMEdge :ABITs { 142 | 147 | 148 }

[:SENSe] :GSMEdge :ABITs?

引数: 142 — EDGE 信号でテール・ビットを除いた 142シンボルを測定します。

147 — GMSK 信号について規格に定められた 147シンボルを測定します。

148 — バーストの全シンボルを測定します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: GSM/EDGE 規格に準じた 147ビットを測定します。

:SENSe:GSMEdge:ABITs 147

関連コマンド: :CONFigure:GSMEdge:MACCuracy, [:SENSe] :GSMEdge:MEASurement

[:SENSe] :GSMEdge :BLOCk (?)

GSM/EDEG 解析を行うブロック番号を設定または問合せます。

このコマンドは、測定項目がスプリアス (SPURious) のときには無効です。

構文: [:SENSe] :GSMEdge :BLOCk <number>

[:SENSe] :GSMEdge :BLOCk?

引数: <number>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。0 が最新のブロックを表します。

設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:GSMEdge:BLOCk -5

関連コマンド: :CONFigure:GSMEdge コマンド、[:SENSe] :GSMEdge:MEASurement

[[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDex(?)]

GSM/EDEG 解析を行うバースト番号を設定または問合せます。

このコマンドは、測定項目がスプリアス (SPURious) のときには無効です。

構文: [[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDex <number>

[[:SENSe]:GSMedge:BURSt:INDex?

引数: <number>::=<NR1> — バースト番号を設定します。

設定範囲: -999~0。0 が最新のバーストを表します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 解析を行うバースト番号を -5 に設定します。

:SENSe:GSMedge:BURSt:INDex -5

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge コマンド、[:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[[:SENSe]:GSMedge:BURSt:MPoint(?)]

電力対時間測定で、マスクの中心位置を設定または問合せます。

このコマンドは、測定項目が電力対時間 (PVTime) のときに有効です。

構文: [[:SENSe]:GSMedge:BURSt:MPoint { HWAY | S14 }

[[:SENSe]:GSMedge:BURSt:MPoint?

引数: HWAY — マスクの中心をトレーニング・シーケンス中のシンボル13 と 14 の中点に合わせます。

S14 — マスクの中心をトレーニング・シーケンス中のシンボル14 に合わせます。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: バーストの 50% 点をシンボル13 とシンボル14 の中点とします。

:SENSe:GSMedge:BURSt:MPoint HWAY

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge:PVTime, [:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[[:SENSe]:GSMEdge:BURSt:RTFirst (問合せなし)

GSM/EDEG 解析で、解析を開始するバーストを最初に取り込まれたバーストに戻します。

このコマンドは、測定項目がスプリアス (SPURious) のときには無効です。

構文: [:SENSe]:GSMEdge:BURSt:RTFirst

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 解析を開始するバーストを最初に取り込まれたバーストに戻します。

:SENSe:GSMEdge:BURSt:RTFirst

関連コマンド: :CONFigure:GSMEdge コマンド、[:SENSe]:GSMEdge:MEASurement

[[:SENSe]:GSMedge:CARRier:OFFSet(?)]

GSM/EDEG 解析で、キャリア周波数オフセットを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:GSMedge:CARRier:SEARch が OFF のときに有効です。

構文: [:SENSe]:GSMedge:CARRier:OFFSet <freq>

[:SENSe]:GSMedge:CARRier:OFFSet?

引数: <freq>::=<Nrf> — 中心周波数を基準として、キャリア周波数オフセットを設定します。設定範囲: - (スパン設定値) ~ + (スパン設定値)

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: キャリア周波数オフセットを 10MHz に設定します。

:SENSe:GSMedge:CARRier:OFFSet 10MHz

関連コマンド: [:SENSe]:GSMedge:CARRier:SEARch

[[:SENSe]:GSMedge:CARRier:SEARch(?)]

GSM/EDEG 解析で、キャリアを自動で検出するかどうかを選択または問合せます。

このコマンドは、測定項目がスイッチング・スペクトラム (SWITching) およびスプリアス (SPURious) のときには無効です。

構文: [:SENSe]:GSMedge:CARRier:SEARch { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:GSMedge:CARRier:SEARch?

引数: OFF または 0 — キャリアを自動で検出しません。
[:SENSe]:GSMedge:CARRier:OFFSet コマンドでキャリア周波数を設定します。

ON または 1 — キャリアを自動で検出します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: キャリアを自動で検出します。

:SENSe:GSMedge:CARRier:SEARch ON

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge コマンド、[:SENSe]:GSMedge:CARRier:OFFSet,
[:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[[:SENSe]:GSMedge:FILTer:RCWRcosine(?)]

変調確度測定で、RCW (Raised Cosine Windowed) Raised Cosine フィルタを有効にするかどうかを選択または問合せます。

このコマンドは、測定項目が変調確度 (MACCuracy) のときに有効です。

構文: [:SENSe]:GSMedge:FILTer:RCWRcosine { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:GSMedge:FILTer:RCWRcosine?

引数: OFF または 0 — RCW Raised Cosine フィルタを無効にします。

ON または 1 — RCW Raised Cosine フィルタを有効にします。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: RCW Raised Cosine フィルタを有効にします。

:SENSe:GSMedge:FILTer:RCWRcosine ON

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge:MACCuracy, [:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[[:SENSe]:GSMedge[:IMMediate]] (問合せなし)

取り込んだデータについて、GSM/EDEG 解析演算を実行します。

構文: [:SENSe]:GSMedge[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: GSM/EDEG 解析演算を実行します。

:SENSe:GSMedge:IMMediate

関連コマンド: :INITiate

[[:SENSe]:GSMedge:LIMit:SIGNal(?)]

GSM/EDEG 解析のスプリアス測定で、正規信号を判定するしきい値を設定または問合せます。

このコマンドは、測定項目がスプリアス (SPURious) のときに有効です。

構文: [[:SENSe]:GSMedge:LIMit:SIGNal <value>

[[:SENSe]:GSMedge:LIMit:SIGNal?

引数: <value>::=<NRf> — スプリアス測定で正規信号を判定するしきい値を設定します。
このしきい値を越えた信号は、正規信号と見なされます。
設定範囲: -100~+30 dBm

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: しきい値を -20dBm に設定します。

```
:SENSe:GSMedge:LIMit:SIGNal -20
```

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge:SPURious, [[:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[[:SENSe]:GSMedge:LIMit:SPURious(?)]

GSM/EDEG 解析のスプリアス測定で、スプリアス信号を判定するしきい値を設定または問合せます。

このコマンドは、測定項目がスプリアス (SPURious) のときに有効です。

構文: [[:SENSe]:GSMedge:LIMit:SPURious <value>

[[:SENSe]:GSMedge:LIMit:SPURious?

引数: <value>::=<NRf> — スプリアス信号を判定するしきい値を設定します。
このしきい値を越えた信号は、スプリアス信号と見なされます。
設定範囲: -150~0 dBm

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スプリアス信号を判定するしきい値を -30dBm に設定します。

```
:SENSe:GSMedge:LIMit:SPURious -30
```

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge:SPURious, [[:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[:SENSe]:GSMedge:MEASurement(?)

GSM/EDGE 解析の測定項目を選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:GSMedge:MEASurement { MCPower | PVTime | MACCuracy | MODulation
| SWITching | SPURious }

[:SENSe]:GSMedge:MEASurement?

引数: 各引数に応じた測定を実行します。

表 2-97: GSM/EDGE モードの測定項目

引数	測定項目
MCPower	Mean Carrier Power (平均キャリア電力)
PVTime	Power versus Time (電力対時間)
MACCuracy	Modulation Accuracy (変調確度)
MODulation	Modulation Spectrum (モジュレーション・スペクトラム)
SWITching	Switching Spectrum (スイッチング・スペクトラム)
SPURious	Inband Spurious (送信帯域内スプリアス)

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 平均キャリア電力測定を選択します。

:SENSe:GSMedge:MEASurement MCPower

[:SENSe]:GSMedge:MODulation(?)

GSM/EDGE 解析の変調方式を選択または問合せます。

このコマンドは、測定項目がスプリアス (SPURious) のときには無効です。

構文: [:SENSe]:GSMedge:MODulation { GMSK | EDGE }

[:SENSe]:GSMedge:MODulation?

引数: GMSK — GMSK (Gaussian Minimum Shift Keying) を選択します。

EDGE — EDGE (Enhanced Data rates for GSM Evolution) を選択します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 変調方式として EDGE を選択します。

:SENSe:GSMedge:MODulation EDGE

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge コマンド、[:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[:SENSe]:GSMedge:SLOT(?)

1ブロックあたりのスロット数を設定または問合せます。

データはブロック単位で取り込まれます。

このコマンドは、測定項目がスプリアス (SPURious) のときには無効です。

構文: [:SENSe]:GSMedge:SLOT <value>

[:SENSe]:GSMedge:SLOT?

引数: <value>::=<NRf> — 1ブロックあたりのスロット数を設定します。

設定範囲: 1~65535

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: 1ブロックを 100スロットに設定します。

:SENSe:GSMedge:SLOT 100

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge コマンド、[:SENSe]:BSIZE, [:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[:SENSe] :GSMedge:STANdard:BAND(?)

GSM/EDGE の規格を選択または問合せます。

注：スプリアス測定有的时候には、問合せコマンドはありません。

構文： [:SENSe] :GSMedge:STANdard:BAND { GSM850 | GSM900 | DCS1800 | PCS1900 }

[:SENSe] :GSMedge:STANdard:BAND?

引数： GSM850 — GSM850 規格を選択します。

GSM900 — GSM900 規格を選択します。

DCS1800 — DCS1800 規格を選択します。

PCS1900 — PCS1900 規格を選択します。

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： PCS1900 規格を選択します。

:SENSe:GSMedge:STANdard:BAND PCS1900

[:SENSe] :GSMedge:STANdard:DIRection(?)

GSM/EDGE 解析のリンク方向を選択または問合せます。

注：スプリアス測定有的时候には、問合せコマンドはありません。

構文： [:SENSe] :GSMedge:STANdard:DIRection { UPLink | DOWNlink }

[:SENSe] :GSMedge:STANdard:DIRection?

引数： UPLink — アップリンクを選択します。

DOWNlink — ダウンリンクを選択します。

測定モード： DEMGSMEDGE

使用例： ダウンリンクを選択します。

:SENSe:GSMedge:STANdard:DIRection DOWNlink

[[:SENSe]:GSMedge:STINdex(?)]

スプリアス測定でスプリアス・テーブルの列番号を指定または問合せます。
指定した列は、ハイライト表示されます。

このコマンドは、測定項目がスプリアス (SPURious) のときに有効です。

構文: [[:SENSe]:GSMedge:STINdex <number>

[[:SENSe]:GSMedge:STINdex?

引数: <number>:::=<NRf> — スプリアス・テーブルの列番号を指定します。
範囲: 1~10。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: スプリアス・テーブルの列 3 を指定します。

:SENSe:GSMedge:STINdex 3

関連コマンド: :CONFigure:GSMedge:SPURious, [[:SENSe]:GSMedge:MEASurement

[[:SENSe]:GSMedge:TSCode:AUTO(?)]

GSM/EDGE 解析でトレーニング・シーケンス・コード (TSC) を自動で設定するかどうかを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:GSMedge:TSCode:AUTO { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:GSMedge:TSCode:AUTO?

引数: OFF または 0 — TSC を自動で設定しません。
[:SENSe]:GSMedge:TSCode[:NUMBER] コマンドで設定します。

ON または 1 — TSC を自動で設定します。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: TSC を自動で設定します。

:SENSe:GSMedge:TSCode:AUTO ON

関連コマンド: [:SENSe]:GSMedge:TSCode[:NUMBER]

[[:SENSe]:GSMedge:TSCode[:NUMBER](?)]

GSM/EDGE 解析でトレーニング・シーケンス・コード (TSC) を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:GSMedge:TSCode:AUTO が OFF のときに有効です。

構文: [:SENSe]:GSMedge:TSCode[:NUMBER] <number>

[:SENSe]:GSMedge:TSCode[:NUMBER]?

引数: <number>::=<NR1> — TSC を設定します。範囲: 0~7。

測定モード: DEMGSMEDGE

使用例: TSC を 7 に設定します。

:SENSe:GSMedge:TSCode:NUMBER 7

関連コマンド: [:SENSe]:GSMedge:TSCode:AUTO

[[:SENSE]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K サブグループ

cdma2000、オプション25 型のみ

[[:SENSE]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K コマンドは、cdma2000 フォワード・リンクまたはリバース・リンク測定全般に関する設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSE]
  :FLCDMA2K]:RLCDMA2K
    :ACQuisition
      :CHIPs          <numeric_value>
      :HISTory        <numeric_value>
      :SEConds        <numeric_value>
    :ANALysis
      :INTerval       <numeric_value>
      :OFFSet         <numeric_value>
    :BLOCk            <numeric_value>
    [:IMMediate]
    :MEASurement     CHPower | ACPower | IM|SEMAsk | CDPower
                    | MACCuracy | CCDF | PVTime | PCCHannel
                    | OBWidth | OFF
    :SPECTrum
      :OFFSet         <numeric_value>
      :TINTerval
```

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACQuisition:CHIPs(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で解析範囲をチップ単位で設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACQuisition:CHIPs <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACQuisition:CHIPs?

引数: <numeric_value>::=<NR1> — 解析範囲をチップ単位で設定します。
設定範囲: 6144 ~ (スパンとメモリ長によって決まる値)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、解析範囲を10240に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:ACQuisition:CHIPs 10240

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACQuisition:HISTory(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、解析するブロックの番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACQuisition:HISTory <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACQuisition:HISTory?

引数: <numeric_value>::=<NR1> — 解析するブロックの番号を設定します。
設定範囲: (スパン設定とメモリ長によって決まる値) ~ 0

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、解析するブロックの番号を0に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:ACQuisition:HISTory 0

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACQuisition:SEConds(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析時に、解析範囲を秒単位で設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACQuisition:SEConds <numeric_value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACQuisition:SEConds?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — 解析範囲を秒単位で設定します。
設定範囲: 4.998 ms ~ (スパンとメモリ長によって決まる値)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、解析範囲を9.163 ms に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:ACQuisition:SEConds 9.163ms

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ANALysis:INTerval(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で解析間隔をチップ単位で設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ANALysis:INTerval <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ANALysis:INTerval?

引数: <numeric_value>::=<NR1> — 解析間隔をチップ単位で設定します。
設定範囲は、解析範囲の設定値によります。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、解析間隔を3072チップに設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:ANALysis:INTerval 3072

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ANALysis:OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で解析範囲の始点をチップ単位で設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ANALysis:OFFSet <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ANALysis:OFFSet?

引数: <numeric_value>::=<NR1> — 解析範囲の始点をチップ単位で設定します。
設定範囲: 0 ~ 12293 チップ

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、解析範囲の始点を512チップに設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:ANALysis:OFFSet 10

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:BLOCK(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で解析するブロック番号を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:BLOCK <numeric_value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:BLOCK?

引数: <numeric_value>::=<NR1> — 解析するブロック番号を設定します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込まれたブロック数)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、ブロック番号を-5に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:BLOCK -5

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K[:IMMEDIATE] (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、取り込んだデータの演算を実行します。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K[:IMMEDIATE]

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、取り込んだデータの演算を実行します。

:SENSe:FLCDMA2K:IMMEDIATE

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MEASurement (?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、測定項目を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MEASurement { CHPower | ACPower | IM | SEMask | CDPower | MACCuracy | CCDF | PVTime | PCCHannel | OBWidth | OFF }

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MEASurement?

引数: 各引数に応じた測定を実行します。

表 2-98: S/A モードの測定項目

引数	測定項目
CHPower	チャンネル電力測定
ACPower	ACPR (隣接チャンネル漏洩電力) 測定
IM	相互変調測定
SEMask	スペクトラム・エミッション・マスク測定
CDPower	コード・ドメイン・パワー測定
MACCuracy	変調確度測定
CCDF	CCDF 測定
PVTime ¹	ゲートッド・アウトプット・パワー測定
PCCHannel	パイロット/コード・チャンネル測定
OBWidth	OBW (占有帯域幅) 測定
OFF	測定を中止します。

¹ **RLCDMA2K** が選択されているときにのみ有効。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF 測定を選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:MEASurement CCDF

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SPECTrum:OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラムの FFT 処理範囲の始点を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SPECTrum:OFFSet <numeric_value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SPECTrum:OFFSet?

引数: <numeric_value>::=<NR> — FFT 処理範囲の始点を設定します。
設定範囲: 0 ~ 26.56 ms

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、FFT 処理範囲の始点を 10 ms に設定します。

[[:SENSe]:FLCDMA2K:SPECTrum:OFFSet 10ms

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SPECTrum:TINterval ? (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム波形を構成する時間領域情報の時間長を返します。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SPECTrum:TINterval?

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、時間領域情報の時間長を返します。

:SENSe:FLCDMA2K:SPECTrum:TINterval?

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower コマンドは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FLCDMA2K]:RLCDMA2K
    :ACPower
      :BANDwidth]:BWIDTH
        :INTEgration           <numeric_value>
      :FILTer
        :COEFFicient           <numeric_value>
        :TYPE                   RECTangle | GAUSSian | NYQuist
                                | RNYQuist
      :LIMit
        :ADJacent<x>
          [:STATe]             <boolean>
```

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:BANDwidth|:BWIDth :INTegration (?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration
<numeric_value>`

`[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration?`

引数: `<numeric_value>::=<Nrf>` — ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

`:SENSe:FLCDMA2K:ACPower:BANDwidth:INTegration 2.5MHz`

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:FILTer:COEFFicient(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR測定フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:FILTer:COEFFicient <numeric_value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:FILTer:COEFFicient?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0 ~ 1

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、ACPR 測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:ACPower:FILTer:COEFFicient 0.5

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:FILTer:TYPE(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist | RNYQuist }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-99: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、ACPR 測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:ACPower:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:LIMit:ADJacent<x>[:STATe] (?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析の ACPR 測定で隣接チャンネル・リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:LIMit:ADJacent<x>[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }`

`[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:ACPower:LIMit:ADJacent<x>[:STATe]?`

ADJacent<x> (x = 1, 2, 3, ..., 12) は、次のように定義されます。

ADJacent[1] : 1 次隣接チャンネル

ADJacent2 : 2 次隣接チャンネル

ADJacent3 : 3 次隣接チャンネル

.

.

.

ADJacent12 : 12 次隣接チャンネル

引数: ON または 1 隣接チャンネルリミット・テストを有効にします。

OFF または 0 隣接チャンネルリミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、ACPR 測定の 1 次隣接チャンネル・リミットテストを有効にします。

`:SENSe:FLCDMA2K:ACPower:LIMit:ADJacent1 ON`

[[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

:SENSe:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF コマンドは cdma2000 フォワードまたは リバース・リンク解析で CCDF 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FLCDMA2K|:RLCDMA2K
    :CCDF
      :RMEasurement
      :THReshold <numeric_value>
```

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CCDF:RMEasurement (問合せなし)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF の計算処理をクリアし、再実行します。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CCDF:RMEasurement

引数: なし

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF の計算処理をクリアし、再実行します。

:SENSe:FLCDMA2K:CCDF:RMEasurement

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CCDF:THReshold(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定のスレッシュホールドを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CCDF:THReshold <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CCDF:THReshold?

引数: <value>::=<NRf> — CCDF 測定のスレッシュホールドを設定します。
設定範囲: -250 ~ 130 dBm

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、CCDF 測定のスレッシュホールドを -100 dBm に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CCDF:THReshold -100dBm

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

:SENSe:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower コマンドでは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でコード・ドメイン・パワー測定の設定を行います。

コマンド一覧

[[:SENSe]

: FLCDMA2K]:RLCDMA2K

:CDPower

:ACCThreshold <numeric_value>

:FILTer

:MEASurement OFF|EQComp|COMP

:IQSWap <boolean>

:MLEVel CHIP|SYMBol

:PNOFfset

:QOF <numeric_value>

:RCONfig <string>

:SElect

:CODE <numeric_value>

:PCG <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:ACCThreshold(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベル（コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル）を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:ACCThreshold <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:ACCThreshold?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。設定範囲：-50 ~ 50 dB

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを-27 dB に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:ACCThreshold -27dB

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:FILTer:MEASurement(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定の実測フィルタを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:FILTer:MEASurement {OFF|EQComp|COMP}

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:FILTer:MEASurement?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。

COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定の実測フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:FILTer:MEASurement COMP

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:CDPower:IQSWap(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での IQ データ・スワッピングの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:CDPower:IQSWap { ON | OFF | 1 | 0 }

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:CDPower:IQSWap?

引数: ON または 1 — IQ データのスワッピングを有効にします。

OFF または 0 — IQ データのスワッピングを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での IQ データスワッピングを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:IQSWap ON

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:CDPower:MLEVel(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での測定レベルを設定または問合せます。

この設定は、:DISPlay:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:FORMat コマンドが IQPower に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:CDPower:MLEVel {CHIP|SYMBol}

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:CDPower:MLEVel?

引数: CHIP — チップ・レベルに設定します。

SYMBol — シンボル・レベルに設定します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析でコード・ドメイン・パワー測定での測定レベルをチップ・レベルに設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:MLEVel CHIP

関連コマンド: :DISPLay:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:FORMat

[[:SENSe]:FLCDMA2K:CDPower:PNOFfset(?)]

cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定のパワーオフセットを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K:CDPower:PNOFfset <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K:CDPower:PNOFfset?

引数: <value>::=<NRf> — PN オフセットを64 チップ単位で設定します。
設定範囲: 0 ~ 511

測定モード: DEMFLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定のパワーオフセットを100に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:PNOFfset 100

[[:SENSe]:FLCDMA2K:CDPower:QOF(?)]

cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での Walsh コードの準直交関数 (QOF) を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVIEw:FORMat コマンドが CDPower または PCGRam に設定され、[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CDPower:MLEVel コマンドが SYMBol に設定されているときだけ有効です。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K:CDPower:QOF <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K:CDPower:QOF?

引数: <value>::=<NRf> — 準直交関数 (QOF) を設定します。設定範囲: 0 ~ 3

測定モード: DEMFLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での準直交関数を1に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:QOF 1

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:RCONfig(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での無線構成 (RC) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:RCONfig { "CDMAONE" | "CDMA2K1X" }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:RCONfig?

引数: "CDMAONE" — FLCDMA2K で RC1/RC2 を選択します。

"CDMA2K1X" — FLCDMA2K では RC3/RC4/RC5 を、RLCDMA2K では RC/RC4 を選択します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクのコード・ドメイン・パワー測定で、無線構成を RC1/RC2 に設定します。

```
:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:RCONfig "CDMAONE"
```

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:FORMat
[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:MLEVe1

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:SElect:CODE(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクのコード・ドメイン・パワー測定で PCG 内のコード番号を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:DDMod:MVIEw:FORMat コマンドが IQPower、CDPower、または PCGram に設定されているときだけ有効です。IQPower の場合、[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:MLEVel コマンドを CHIP に設定しているときには、引数の値は 0 に固定されます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:SElect:CODE <value>

[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:SElect:CODE?

引数: <value>::=<NR1> — PCG 内のコード番号を指定します。
設定範囲は、次のとおりです。

- **FLCDMA2K :**
[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig コマンドが “CDMAONE” に設定されているときは、64 に固定されます。
[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig コマンドが “CDMA2K1X” に設定されているときは、4 ~ 128。
- **RLCDMA2K :**
[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig コマンドが “CDMA2K1X” に設定されているときは、2 ~ 64。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での PCG 内のコード番号を 30 に設定します。

```
:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:SElect:CODE 30
```

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:DDEMod:MVIEw:FORMat
[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:MLEVel

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:SElect:PCG(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定でのPCG (パワー・コントロール・グループ) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:SElect:PCG <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CDPower:SElect:PCG?

引数: <value>::=<NR1> — PCG を指定します。
設定範囲: - (解析されたチップ数 -1) ~ 0

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での PCG を -10 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:SElect:PCG -10

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:WCODe(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での Walsh コード長を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:WCODe { COMPOSITE | W2L | W4L | W8L | W16L | W32L | W64L | W128L }

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:CDPower:WCODe?

引数: 引数とコード長の関係は、次のとおりです。

表 2-100: Walsh コード長

引数	コード長
COMPOSITE	コンポジット
W2L	2 (RLCDMA2K のみ)
W4L	4
W8L	8
W16L	16
W32L	32
W64L	64
W128L	128 (FLCDMA2K のみ)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での Walsh コード長を 4 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CDPower:WCODe W4L

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower コマンドは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクのチャンネル電力測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FLCDMA2K|:RLCDMA2K
    :CHPower
      :BANDwidth|BWIDTH
        :INTegration <numeric_value>
      :FILTer
        :COEFFicient <numeric_value>
        :TYPE RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist
      :LIMit
        [[:STATe] <boolean>
```

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:BANDwidth|BWIDth :INTegration(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定の主チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引数: <value>::=<Nrf> — チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CHPower:BANDwidth:INTegration 2.5MHz

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:FILTer:COEFficient(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクのチャンネル電力測定で、フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。

このコマンドは、[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:FILTer:TYPE コマンドが NYQuist または RNYQuist に設定されているときにのみ有効です。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:FILTer:COEFficient <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:FILTer:COEFficient?

引数: <value>::=<Nrf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.0001 ~ 1 (デフォルト値: 0.5)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.1 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:CHPower:FILTer:COEFficient 0.1

関連コマンド: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:FILTer:TYPE

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:FILTer:TYPE(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定のリミットを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSsian | NYQuist | RNYQuist }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-101: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSsian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクのチャンネル電力測定で、ナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:CHPower:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:LIMit[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクのチャンネル電力測定で、リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:LIMit[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:CHPower:LIMit[:STATe]?

引数: ON または 1 — リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:CHPower:LIMit:STATe ON

[[:SENSE]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM サブグループ

cdma2000、オプション25 型のみ

[[:SENSE]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM コマンドは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定の設定を行います。

コマンド一覧

[[:SENSE]

: FLCDMA2K]:RLCDMA2K

:IM

:BANDwidth|BWIDth

:INTegration <numeric_value>

:FILTer

:COEfficient <numeric_value>

:TYPE RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist

:LIMit

:LFOrDer

[:STATe] <boolean>

:TORDer

[:STATe] <boolean>

:SCOffset <numeric_value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:BANDwidth|BWIDth :INTegration(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:BANDwidth|BWIDth:INTegration <value>

[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引数: <value>::=<NRF> — 相互変調測定チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、相互変調測定主チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

```
:SENSe:FLCDMA2K:IM:BANDwidth:INTegration 2.5MHz
```

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:FILTer:COEFFicient(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの相互変調測定でフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:FILTer:TYPE コマンドが NYQuist または RNYQuist に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:FILTer:COEFFicient <value>

[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:FILTer:COEFFicient?

引数: <value>::=<NRF> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.000 ~ 1 (デフォルト値: 0.5)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクの相互変調測定で、フィルタのロールオフ係数を 0.1 に設定します。

```
:SENSe:FLCDMA2K:IM:FILTer:COEFFicient 0.1
```

関連コマンド: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:FILTer:TYPE

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:FILTer:TYPE(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:FILTer:TYPE {RECTangle|GAUSsian|NYQuist|RNYQuist}

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-102: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSsian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクの相互変調測定で、ナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:IM:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:LIMit:FORDER[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定での 5 次高調波のリミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:LIMit:FORDER[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }
[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:LIMit:FORDER[:STATe]?

引数: ON または 1 — 5 次高調波のリミット・テストを有効にします。
OFF または 0 — 5 次高調波のリミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、相互変調測定での 5 次高調波のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:IM:LIMit:FORDER:STATe ON

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:LIMit:TORDER[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定での 3 次高調波のリミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:LIMit:TORDER[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }
[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:LIMit:TORDER[:STATe]?

引数: ON または 1 — 3 次高調波のリミット・テストを有効にします。
OFF または 0 — 3 次高調波のリミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、相互変調測定での 3 次高調波のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:IM:LIMit:TORDER:STATe ON

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:SCOFfset(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定 of the 2nd channel center frequency is set or queried.

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:SCOFfset <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:IM:SCOFfset?

引数: <value>::=<NRF> — 相互変調測定 of the 2nd channel center frequency is set.
設定範囲: $-\text{span}/2 \sim +\text{span}/2$ [Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、相互変調測定 of the 2nd channel center frequency is set to 1.5 MHz.

:SENSe:FLCDMA2K:IM:SCOFfset 1.5MHz

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

:SENSe:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy コマンドは、cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で変調確度測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
: FLCDMA2K :RLCDMA2K	
:MACCuracy	
:ACCThreshold	<numeric_value>
:FILTer	
:MEASurement	OFF EQComp COMP
:IQSWap	<boolean>
:LIMit	
:EVM	
:PEAK	
[:STATe]	<boolean>
:RMS	
[:STATe]	<boolean>
:PCDerror	
[:STATe]	<boolean>
:RHO	
[:STATe]	<boolean>
:TAU	
[:STATe]	<boolean>
:MLEVel	CHIP SYMBol
:PNOFfset	<numeric_value>
:QOF	<numeric_value>
:RCONfig	<string>
:SElect	
:CODE	<numeric_value>
:PCG	<numeric_value>
:WCODe	COMPOSITE W2L W4L W8L W16L W32L W64L W128L

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:ACCThreshold(?)

cdma2000フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定でアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベル（コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル）を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:ACCThreshold <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:ACCThreshold?

引数: <value>::=<NRf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。設定範囲：-50 ~ 50 dB

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定 of アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを -27 dB に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:ACCThreshold -27dB

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:FILTer:MEASurement(?)

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定 of 測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:FILTer:MEASurement { OFF | EQComp | COMP }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:FILTer:MEASurement?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。

COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000フォワード・リンク解析で、変調確度測定 of 測定フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:FILTer:MEASurement COMP

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MACCuracy:IQSWap(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定での IQ データスワッピングの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MACCuracy:IQSWap { ON | OFF | 1 | 0 }

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MACCuracy:IQSWap?

引数: ON または 1 — IQ データのスワッピングを有効にします。

OFF または 0 — IQ データのスワッピングを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定での IQ データ・スワッピングを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:IQSWap ON

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定でのピーク EVM リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe]?

引数: ON または 1 — ピーク EVM リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — ピーク EVM リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのピーク EVM リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK:STATe ON

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS [:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定で rms EVM リミット
テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe] { ON | OFF
| 1 | 0 }`

`[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe]?`

引数: ON または 1 — rms EVM リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — rms EVM リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定 of rms EVM リミット・テスト
を有効にします。

`:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS:STATe ON`

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:PCDerror [:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定で、ピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe] { ON | OFF
| 1 | 0 }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe]?

引数: ON または 1 — ピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — ピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定のピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:PCDerror:STATe ON

[[:SENSE]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATE](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定で、ロー (ρ) リミットテストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSE]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATE] { ON | OFF | 1 | 0 }`

`[[:SENSE]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATE]?`

引数: ON または 1 — ロー・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — ロー・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのロー・リミット・テストを有効にします。

`:SENSE:FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:RHO:STATE ON`

[[:SENSE]:FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATE](?)

cdma2000 フォワード・リンクの変調確度測定で、タウ (τ) リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSE]:FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATE] { ON | OFF | 1 | 0 }`

`[[:SENSE]:FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATE]?`

引数: ON または 1 — タウ・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — タウ・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのタウ・リミット・テストを有効にします。

`:SENSE:FLCDMA2K:MACCuracy:LIMit:TAU:STATE ON`

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:MLEVel(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定で、測定レベルを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:MLEVel { CHIP | SYMBo1 }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:MLEVel?

引数: CHIP — チップ・レベルに設定します。

SYMBo1 — シンボル・レベルに設定します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクの変調確度測定で、測定レベルをチップ・レベルに設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:MLEVel CHIP

[[:SENSe]:FLCDMA2K:MACCuracy:PNOffset(?)

cdma2000 フォワード・リンクの変調確度測定で、PN オフセットを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K:MACCuracy:PNOffset <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K:MACCuracy:PNOffset?

引数: <value>::=<NRf> — PN オフセットを64 チップ単位で設定します。
設定範囲: 0 ~ 511

測定モード: DEMFLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定での PN オフセットを 100 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:PNOffset 100

[:SENSe]:FLCDMA2K:MACCuracy:QOF(?)

cdma2000 フォワード・リンクの変調確度測定で Walsh コードの準直交関数 (QOF) を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod:MVIew:FORMat コマンドが MACCuracy に設定され、[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:MLEVel コマンドが SYMBol に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K:MACCuracy:QOF <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K:MACCuracy:QOF?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — 準直交関数 (QOF) を設定します。
設定範囲: 0 ~ 3

測定モード: DEMFLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定での準直交関数を 1 に設定します。

```
:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:QOF 1
```

関連コマンド: :DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MVIew:FORMat
[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:MLEVel

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定で、無線構成 (RC) を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig { "CDMAONE" | "CDMA2K1X" }

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig?

引数: "CDMAONE" — FLCDMA2K において RC1/RC2 を選択します。

"CDMA2K1X" — FLCDMA2K では RC3/RC4/RC5 を、RLCDMA2K では RC/RC4 を選択します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクの変調確度測定で無線構成を RC1/RC2 に設定します。

```
:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig "CDMAONE"
```


[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:SElect:CODE(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定で、PCG 内のコード番号を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:MLEVel コマンドが SYMBol に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:SElect:CODE <value>

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:SElect:CODE?

引数: <value>::=<NR1> — PCG 内のコード番号を指定します。
設定範囲は、次のとおりです。

- FLCDMA2K :
[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig コマンドが “CDMAONE” に設定されているときは、64 に固定されます。
[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig コマンドが “CDMA2K1X” に設定されているときは、4 ~ 128。
- RLCDMA2K :
[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig コマンドが “CDMA2K1X” に設定されているときは、2 ~ 64。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、変調確度測定での PCG 内のコード番号を 30 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:SElect:CODE 30

関連コマンド: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:MLEVel
[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy:RCONfig

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:SElect:PCG(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定での PCG (パワー・コントロール・グループ) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:SElect:PCG <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:MACCuracy:SElect:PCG?

引数: <value>::=<NR1> — PCG を指定します。
設定範囲: - (解析されたチップ数 -1) ~ 0

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクの変調確度測定で PCG を -10 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:SElect:PCG -10

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:MACCuracy:WCODe(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定で、Walsh コード長を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:MACCuracy:WCODe { COMPOSITE | W2L | W4L | W8L | W16L | W32L|W64L|W128L}

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K:MACCuracy:WCODe?

引数: 引数とコード長の関係は、次のとおりです。

表 2-103: Walsh コード長

引数	コード長
COMPOSITE	コンボジット
W2L	2 (RLCDMA2K のみ)
W4L	4
W8L	8
W16L	16
W32L	32
W64L	64
W128L	128 (FLCDMA2K のみ)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000フォワード・リンクの変調確度測定での Walsh コード長を 4 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:MACCuracy:WCODe W4L

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:OBWidth サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

:SENSe:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:OBWidth コマンドでは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの占有帯域幅 (OBW) 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FLCDMA2K]:RLCDMA2K
    :OBWidth
      :LIMit
        [[:STATe]      <boolean>
          :PERCent    <numeric_value>
```

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:OBWidth:LIMit[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの占有帯域幅測定でリミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:OBWidth:LIMit[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }
[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:OBWidth:LIMit[:STATe]?

引数: ON または 1 — リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 — リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクの占有帯域幅測定で、リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:OBWidth:LIMit:STATe ON

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:OBWidth:PERCent(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクの占有帯域幅測定で、占有帯域幅を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:OBWidth:PERCent <value>
[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:OBWidth:PERCent?

引数: <value>::=<NRf> — 占有帯域幅を設定します。
設定範囲: 80 ~ 99.99% (デフォルト値: 99%)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクの占有帯域幅測定で占有帯域幅を 95% に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:OBWidth:PERCent 95PCT

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:PCCHannel サブグループ

cdma2000、オプション25 型のみ

:SENSe:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:PCCHannel コマンドは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクのパイロット/コード・チャンネル測定の設定を行います。

コマンド一覧

[:SENSe]

: FLCDMA2K[:RLCDMA2K]

:PCCHannel

:ACCThreshold <numeric_value>

:FILTer

:MEASurement OFF|EQComp|COMP

:IQSwap <boolean>

:LIMit

:PHASe

[:STATe] <boolean>

:TIME

[:STATe] <boolean>

:PNOffset <numeric_value>

:RCONfig <string>

:SELECT

:CODE <numeric_value>

:PCG <numeric_value>

:WCODe COMposit|W2L|W4L|W8L|W16L|W32L|W64L|W128L

[:SENSe] :FLCDMA2K | :RLCDMA2K :PCCHannel :ACCThreshold (?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベル（コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル）を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :FLCDMA2K | :RLCDMA2K :PCCHannel :ACCThreshold <value>

[:SENSe] :FLCDMA2K | :RLCDMA2K :PCCHannel :ACCThreshold ?

引数: <value>::=<NRf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。
設定範囲：-50 ~ 50 dB

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンクのパイロット／コード・チャンネル測定でアクティブチャンネル・スレッショルド・レベルを -27 dB に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:ACCThreshold -27dB

[:SENSe] :FLCDMA2K | :RLCDMA2K :PCCHannel :FILTER :MEASurement (?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定の測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :FLCDMA2K | :RLCDMA2K :PCCHannel :FILTER :MEASurement { OFF | EQComp | COMP }

[:SENSe] :FLCDMA2K | :RLCDMA2K :PCCHannel :FILTER :MEASurement ?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。

COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析でパイロット／コード・チャンネル測定の測定フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:FILTER:MEASurement COMP

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:IQSWap(?)

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定でのIQデータのスイッチングの有効／無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:IQSWap { ON | OFF | 1 | 0 }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:IQSWap?

引数: ON または 1 — IQデータのスイッチングを有効にします。

OFF または 0 — IQデータのスイッチングを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定でのIQデータ・スイッチングを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:IQSWap ON

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での位相リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe]?

引数: ON または 1 — 位相リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — 位相リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での位相リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:LIMit:PHASe:STATe ON

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクのパイロット／コード・チャンネル測定で、時間リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe] { ON | OFF
| 1 | 0 }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe]?

引数: ON または 1 — 時間リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — 時間リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での時間リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:LIMit:TIME:STATe ON

[[:SENSe]:FLCDMA2K:PCCHannel:PNOFfset(?)

cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での PN オフセットを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K:PCCHannel:PNOFfset <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K:PCCHannel:PNOFfset?

引数: <value>::=<NRf> — PN オフセット数を 64 チップ単位で設定します。

設定範囲: 0 ~ 511

測定モード: DEMFLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での PN オフセットを 100 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:PNOFfset 100

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig(?)

cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での無線構成 (RC) を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig { "CDMAONE" | "CDMA2K1X" }`

`[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig?`

引数: "CDMAONE" — FLCDMA2K で RC1/RC2 を選択します。

"CDMA2K1X" — FLCDMA2K では RC3/RC4/RC5 を、RLCDMA2K では RC/RC4 を選択します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での無線構成を RC1/RC2 に設定します。

`:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig "CDMAONE"`

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel:SElect:CODE(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での PCG 内のコード番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel:SElect:CODE <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel:SElect:CODE?

引数: <numeric_value>::=<NR1> — PCG 内のコード番号を指定します。
設定範囲は、次のとおりです。

- FLCDMA2K :

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig コマンドが “CDMAONE” に設定されているときは、64 に固定されます。

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig コマンドが “CDMA2K1X” に設定されているときは、4 ~ 128。

- RLCDMA2K :

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig コマンドが “CDMA2K1X” に設定されているときは、2 ~ 64。

[:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig コマンドが “CDMAONE” に設定されているときは、無効です。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での PCG 内のコード番号を 30 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:SElect:CODE 30

関連コマンド: [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PCCHannel:RCONfig

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:SElect:PCG(?)

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での PCG (パワー・コントロール・グループ) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:SElect:PCG <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:PCCHannel:SElect:PCG?

引数: <value>::=<NR1> — PCG を指定します。
設定範囲: - (解析されたチップ数 -1) ~ 0

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での PCG を -10 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:SElect:PCG -10

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:PCCHannel:WCODe(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での Walsh コード長を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:PCCHannel:WCODe { COMPOSITE | W2L | W4L | W8L | W16L | W32L | W64L | W128L }

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:PCCHannel:WCODe?

引数: 引数とコード長の関係は、次のとおりです。

表 2-104: Walsh コード長

引数	コード長
COMPOSITE	コンポジット
W2L	2 (RLCDMA2K のみ)
W4L	4
W8L	8
W16L	16
W32L	32
W64L	64
W128L	128 (FLCDMA2K のみ)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での Walsh コード長を 4 に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:PCCHannel:WCODe W4L

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

:SENSe:RLCDMA2K:PVTimeコマンドは、cdma2000リバース・リンクのゲーテッドアウトプット・パワー測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  :RLCDMA2K
    :PVTime
      :BURSt
        :GATE          RPCHannel|RFCHannel
        :OFFSet        <numeric_value>
        :SYNC          REDGe|MP0int|TPOStion
      :LIMit
        :ZONE[1]|2|3|4|5
          [:STATe]    <boolean>
      :RCHannel
        :LEVel         <numeric_value>
        :MODE          AUTO|MANua1
```

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:GATE(?)

cdma2000リバース・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、バーストゲートを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:GATE { RPCHannel | RFCHannel }

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:GATE?

引数: RPCHannel — リバース・パイロット・チャンネルまたは RC1/RC2 を設定します。

RFCHannel — リバース・ファンダメンタル・チャンネルを設定します。

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのバースト・ゲートをリバース・パイロット・チャンネルに設定します。

:SENSe:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:GATE RPCHannel

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:OFFSet(?)

cdma2000 リバース・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、トリガ位置とバースト位置間のバースト・オフセットを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:SYNC コマンドが TPOsition に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:OFFSet <numeric_value>

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:OFFSet?

引数: <numeric_value>::=<NRf> — バースト・オフセットを設定します。

設定範囲: $-1 \text{ E-3} \sim 1 \text{ E-3} \text{ [s]}$

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのバースト・オフセットを 100 μs に設定します。

:SENSe:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:OFFSet 100us

関連コマンド: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:SLOT[:TYPE]

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:SYNC

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:SYNC(?)

cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のパースト・シンクを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:SYNC { REDGe | MPOint | TPOStion }

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:SYNC?

引数: REDGe — 立ち上がりエッジを指定します。

MPOint — 中間点を指定します。

TPOStion — トリガ・ポジションを指定します。

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のパースト・シンクをトリガ・ポジションに設定します。

:SENSe:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:SYNC TPOStion

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe](?)

cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定ゾーンのリミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe]?

ZONE<x> (x = 1, 2, ..., 5) は、それぞれリミット・エディタの Zone A ~ E に対応しています。

引数: ON または 1 — ゾーン・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — ゾーン・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのゾーン 1 のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:RLCDMA2K:PVTime:LIMit:ZONE1:STATe ON

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:LEVel(?)

cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:MODE コマンドがMANual に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:LEVel <value>

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:LEVel?

引数: <value>::=<NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲：-150 ~ 30 dBm

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを -10 dB に設定します。

:SENSe:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:LEVel -10dB

関連コマンド: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:MODE

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:MODE(?)

cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのリファレンス・チャンネル・レベルのモードを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:MODE { AUTO | MANual }

[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:MODE?

引数: AUTO — リファレンス・レベルが入力信号から算出されます。

MANual — リファレンス・レベルを、[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:LEVel コマンドにより設定します。

測定モード: DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 リバース・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定でのリファレンス・チャンネル・レベルのモードを自動モードに設定します。

:SENSe:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:MODE AUTO

関連コマンド: [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:LEVel

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk サブグループ

cdma2000、 オプション25 型のみ

:SENSe:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk コマンドでは、cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析でスペクトラム・エミッション・マスク測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  : FLCDMA2K[:RLCDMA2K]
    :SEMAsk
      :BANDwidth|BWIDth
        :INTegration          <numeric_value>
      :BURSt
        :OFFSet              <numeric_value>
        :SYNC                REDGe|MP0int|TPOSition
      :FILTer
        :COEfficient         <numeric_value>
        :TYPE                RECTangle|GAUSSsian|NYQuist|RNYQuist
      :LIMit
        :ISPurious
          :ZONE[1]|2|3|4|5
            [:STATe]         <boolean>
        :OFCHanne1
          :ZONE[1}|2|3|4|5
            [:STATe]         <boolean>
      :MEASurement           OFCHanne1|ISPurious
      :RCHanne1
        :LEVel               <numeric_value>
        :MODE                AUTO|MANua1
      :SLOT
        :GATE                 <numeric_value>
```

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BANDwidth|BWIDTH :INTegration(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定 of チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BANDwidth|BWIDTH:INTegration <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BANDwidth|BWIDTH:INTegration?

引数: <value>::=<NRf> — スペクトラム・エミッション・マスク測定 of チャンネル帯域幅を設定します。設定範囲: スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定 of チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:BANDwidth:INTegration 2.5MHz

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BURSt:OFFSet(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定 of トリガ・ポジションとバースト・ポジション間のバースト・オフセットを設定または問合せます。

このコマンドは、[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BURSt:SYNC コマンドが TPOsition に設定されているときにのみ有効です。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BURSt:OFFSet <value>

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BURSt:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — バースト・オフセットを設定します。設定範囲: $-1 \text{ E}-3 \sim 1 \text{ E}-3$ [s]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMFLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定 of バースト・オフセットを 100 μ s に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:BURSt:OFFSet 100us

関連コマンド: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BURSt:SYNC

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BURSt:SYNC(?)

cdma2000 フォワード・リンク・またはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のパースト・シンクを設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BURSt:SYNC { REDGe | MPOint
| TPOsition }`

`[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:BURSt:SYNC?`

引数: REDGe — 立ち上がりエッジを指定します。

MPOint — 中間点を指定します。

TPOsition — トリガ・ポジションを指定します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のパースト・シンクをトリガ・ポジションに設定します。

`:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:BURSt:SYNC TPOsition`

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:FILTer:COEFFicient(?)

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定のためのフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:FILTer:TYPE コマンドが NYQuist または RNYQuist に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:FILTer:COEFFicient <numeric_value>

[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:FILTer:COEFFicient?

引数: <numeric_value>::=<Nrf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.000 ~ 1 (デフォルト値: 0.5)

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.5 に設定します。

```
:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:FILTer:COEFFicient 0.5
```

関連コマンド: [:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:FILTer:TYPE

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:FILTer:TYPE(?)

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定のフィルタを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist | RNYQuist }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-105: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:LIMit:ISpurious :ZONE<x>[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンクのスペクトラム・エミッション・マスク測定で、インバンド・スプリアス・リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE<x>[:STATe]`
{ ON | OFF | 1 | 0 }

`[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE<x>[:STATe]?`

ZONE<x> (x = 1, 2, ..., 5) は、それぞれリミット・エディタの Zone A ~ E に対応しています。

引数: ON または 1 — インバンド・スプリアス・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 — インバンド・スプリアス・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのインバンド・スプリアス・リミット・テスト (ゾーン 1) を有効にします。

`:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE1:STATe ON`

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:LIMit:OFCHannel :ZONE<x>[:STATe](?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定での周波数オフセット・リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE<x>[:STATe]
{ ON | OFF | 1 | 0 }

[[:SENSe]:FLCDMA2K]:RLCDMA2K:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE<x>[:STATe]?

ZONE<x> (x = 1, 2, ..., 5) は、それぞれリミット・エディタの Zone A ~ E に対応しています。

引数: ON または 1 一周波数オフセット・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 一周波数オフセット・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定での周波数オフセット・リミット・テスト (ゾーン 1) を有効にします。

:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE1:STATe ON

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk:MEASurement(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリミット・テーブルの種類を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk:MEASurement {OFCHannel|ISPurious}

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk:MEASurement?

引数: OFCHannel — 周波数オフセットを測定するためのリミット・テーブルを選択します。この測定では、周波数ゾーンが、中心周波数からの差として指定されます。

ISPurious — インバンド・スプリアスを測定するためのリミット・テーブルを選択します。このテーブルでは、周波数ゾーンが絶対値で指定されます。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定で、インバンド・スプリアス・リミット・テーブルを選択します。

:SENSe:FLCDMA2K:SEMAsk:MEASurement ISPurious

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk:RCHannel:LEVel(?)

cdma2000 フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk:RCHannel:MODE コマンドが MANual に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk:RCHannel:LEVel <value>

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk:RCHannel:LEVel?

引数: <value>::=<NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲: -150 ~ 30 dBm

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを -10 dB に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:SEMAsk:RCHannel:LEVel -10dB

関連コマンド: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMAsk:RCHannel:MODE

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:RCHannel:MODE(?)

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定のリファレンス・チャンネル・レベルのモードを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:RCHannel:MODE { AUTO | MANua1 }

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:RCHannel:MODE?

引数: AUTO — リファレンス・レベルが入力信号から算出されます。

MANua1 — リファレンス・レベルを、[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:PVTime:RCHannel:LEVel コマンドにより設定します。

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリファレンス・チャンネル・レベルのモードを自動モードに設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:RCHannel:MODE AUTO

関連コマンド: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:RCHannel:LEVel

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:SLOT:GATE(?)

cdma2000フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定でのスロット・ゲート時間を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:SLOT:GATE <value>

[:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:SLOT:GATE?

引数: <value>::=<NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲: 180 E-6 ~ 840 E-6 [s]

測定モード: DEMFLCDMA2K, DEMRLCDMA2K

使用例: cdma2000 フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのスロット・ゲート時間を 200 μs に設定します。

:SENSe:FLCDMA2K:SEMask:SLOT:GATE 200us

関連コマンド: [:SENSe]:FLCDMA2K[:RLCDMA2K]:SEMask:SLOT[:TYPE]

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 サブグループ

1xEV-DO、 オプション26 型のみ

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 コマンドでは、1xEV-DO フォワード・リンクまたはリバース・リンク測定全般に関する設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  :FL1XEVD0|:RL1XEVD0
    :ACQuisition
      :CHIPs          <numeric_value>
      :HISTory        <numeric_value>
      :SEConds        <numeric_value>
    :ANALysis
      :INTerval       <numeric_value>
      :OFFSet         <numeric_value>
    :BLOCk            <numeric_value>
    [:IMMediate]
    :MEASurement     CHPower|ACPower|IM|SEMask|CDPower|MACCuracy|
                     CCDF|PVTime|PCCHannel|OBWidth|OFF
    :SPEctrum
      :OFFSet         <numeric_value>
      :TINTerval
```

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:CHIPs(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、解析範囲をチップ単位で設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:CHIPs <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:CHIPs?

引数: <value>::=<NR1> — 解析範囲をチップ単位で設定します。
設定範囲: 6144 ~ (スパンとメモリ長によって決まる値)

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、解析範囲を10240に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ACQuisition:CHIPs 10240

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:HISTory(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、解析するブロックの番号を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:HISTory <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:HISTory?

引数: <value>::=<NR1> — 解析するブロックの番号を設定します。
設定範囲: (スパン設定とメモリ長によって決まる値) ~ 0

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、解析するブロックの番号を0に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ACQuisition:HISTory 0

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:SEConds(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析時に、解析範囲を秒単位で設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:SEConds <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACQuisition:SEConds?

引数: <value>::=<NRf> — 解析範囲を秒単位で設定します。
設定範囲: 4.988 ms ~ (スパンとメモリ長によって決まる値)

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、解析範囲を9.163 ms に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ACQuisition:SEConds 9.163E-3

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ANALysis:INTerval(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、解析間隔をハーフ・スロット単位で設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ANALysis:INTerval <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ANALysis:INTerval?

引数: <value>::=<NR1> — 解析間隔をハーフ・スロット単位で設定します。設定範囲は、解析範囲の設定値によります。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で解析間隔を 10 ハーフ・スロットに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ANALysis:INTerval 10

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ANALysis:OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ANALysis:OFFSet <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ANALysis:OFFSet?

引数: <value>::=<NR1> — 解析範囲の始点をハーフ・スロット単位で設定します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で解析範囲の始点を 10 ハーフ・スロットに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ANALysis:OFFSet 10

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:BLOCK(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、解析するブロック番号を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:BLOCK <numeric_value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:BLOCK?

引数: <numeric_value>::=<NR1> — 解析するブロック番号を設定します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込まれたブロック数)

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ブロック番号を-5に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:BLOCK -5

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0[:IMMediate] (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、取り込んだデータの演算を実行します。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、取り込んだデータの演算を実行します。

:SENSe:FL1XEVD0:IMMediate

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MEASurement(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、測定項目を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MEASurement { CHPower | ACPower | IM|SEMask | CDPower | MACCuracy | CCDF | PVTime | PCCHannel | OBWidth | OFF }

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MEASurement?

引数: 各引数に応じた測定を実行します。

表 2-106: S/A モードの測定項目

引数	測定項目
CHPower	チャンネル電力測定
ACPower	ACPR (隣接チャンネル漏洩電力) 測定
IM	相互変調測定
SEMask	スペクトラム・エミッション・マスク測定
CDPower	コード・ドメイン・パワー測定
MACCuracy	変調確度測定
CCDF	CCDF 測定
PVTime ¹	ゲートッド・アウトプット・パワー測定
PCCHannel	パイロット/コード・チャンネル測定
OBWidth	OBW (占有帯域幅) 測定
OFF	測定を中止します。

¹ FL1XEVD0 が選択されているときにのみ有効。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF 測定を選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:MEASurement CCDF

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SPECTrum:OFFSet(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラムのFFT処理範囲の始点を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SPECTrum:OFFSet <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SPECTrum:OFFSet?

引数: <value>::=<NR> — FFT 処理範囲の始点を設定します。設定範囲: 0 ~ 26.56 ms

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、FFT 処理範囲の始点を 10 ms に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:SPECTrum:OFFSet 10ms

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SPECTrum:TINTerval ?

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム波形を構成する時間領域情報の時間長を返します。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SPECTrum:TINTerval?

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、時間領域情報の時間長を返します。

:SENSe:FL1XEVD0:SPECTrum:TINTerval?

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower サブグループ

1xEV-DO、オプション26 型のみ

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSE]]
  : FL1XEVD0]:RL1XEVD0
    :ACPower
      :BANDwidth|BWIDth
        :INTegration <numeric_value>
      :FILTer
        :COEfficient <numeric_value>
        :TYPE RECTangle|GAUSSian|NYQuist|
          RNYQuist
      :LIMit
        :ADJacent[1]|2|3..|12
          [:STATe] <boolean>
```

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:BANDwidth|BWIDth :INTegration(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引数: <value>::=<NRf> — ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ACPR 測定の主チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ACPower:BANDwidth:INTegration 2.5MHz

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:FILTer:COEFFicient(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR測定フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:FILTer:COEFFicient <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:FILTer:COEFFicient?

引数: <value>::=<Nrf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。設定範囲: 0 ~ 1

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ACPR 測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:ACPower:FILTer:COEFFicient 0.5

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:FILTer:TYPE(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定のためのフィルタを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist | RNYQuist }

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPower:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-107: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ACPR 測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:ACPower:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPpower:LIMit:ADJacent<x>[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、ACPR 測定の隣接チャンネルリミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPpower:LIMit:ADJacent<x>[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }`

`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:ACPpower:LIMit:ADJacent<x>[:STATe]?`

ADJacent<x> (x = 1, 2, 3,..., 12) は、次のように定義されます。

ADJacent[1] : 1 次隣接チャンネル

ADJacent2 : 2 次隣接チャンネル

ADJacent3 : 3 次隣接チャンネル

.

.

ADJacent12 : 12 次隣接チャンネル

引数: ON または 1 隣接チャンネルリミット・テストを有効にします。

OFF または 0 隣接チャンネルリミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ACPR 測定の 1 次隣接チャンネル・リミットテストを有効にします。

`:SENSe:FL1XEVD0:ACPpower:LIMit:ADJacent1 ON`

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CCDF サブグループ

1xEV-DO、 オプション26 型のみ

:SENSe:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CCDF コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FL1XEVD0]:RL1XEVD0
  :CCDF
    :RMEasurement
    :THreshold <numeric_value>
```

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CCDF:RMEasurement (問合せなし)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF の計算処理をクリアし、再実行します。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CCDF:RMEasurement

引数: なし

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF の計算処理をクリアし、再実行します。

:SENSe:FL1XEVD0:CCDF:RMEasurement

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CCDF:THReshold(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、CCDF 測定のスレッシュホールドを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CCDF:THReshold <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CCDF:THReshold?

引数: <value>::=<NRf> — CCDF 測定のスレッシュホールドを設定します。
設定範囲: -250 ~ 130 dBm

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、CCDF 測定のスレッシュホールドを -100 dBm に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CCDF:THReshold -100dB

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower サブグループ

1xEV-DO、オプション26 型のみ

:SENSe:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower コマンドでは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でコード・ドメイン・パワー測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  : FL1XEVD0|:RL1XEVD0
    :CDPower
      :ACCThreshold <numeric_value>
      :CHANnel
        [:TYPE] MAC|PILot|DATA|PREamble|OVERa11
      :FILTer
        :MEASurement OFF|EQComp|COMP
      :IQSwap <boolean>
      :LCMask
        :I <num1>,<num2>,<num3>
        :Q <num1>,<num2>,<num3>
      :MLEVel CHIP|SYMBo1
      :PNOFfset <numeric_value>
      :SElect
        :CODE <numeric_value>
        :HSLot <numeric_value>
```


[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CDPower:ACCThreshold(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベル(コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル)を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CDPower:ACCThreshold <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CDPower:ACCThreshold?

引数: <value>::=<NRf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。
設定範囲: -100 ~ 0 dB

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定のアクティブチャンネル・スレッショルド・レベルを-27 dB に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:ACCThreshold -27dB

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CDPower:CHANnel[:TYPE](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定チャンネル・タイプを設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CDPower:CHANnel[:TYPE]{ MAC | PILOt | DATA | PREamble | OVERall }`

`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CDPower:CHANnel[:TYPE]?`

引数: MAC — MAC チャンネルを選択します。

PILOt — パイロット・チャンネルを選択します。

DATA — データ・チャンネルを選択します。

PREamble — プリアンブル・チャンネルを選択します。

OVERall — すべてのチャンネルを選択します。

この引数は、`:DISPlay:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:FORMat` コマンドで `IQPower` が選択されているときにのみ有効です。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定チャンネルタイプを MAC に設定します。

`:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:CHANnel:TYPE MAC`

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : CDPower : FILTer : MEASurement (?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定の測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : CDPower : FILTer : MEASurement { OFF
| EQComp | COMP }

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : CDPower : FILTer : MEASurement ?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。

COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定の測定フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:FILTer:MEASurement COMP

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : CDPower : IQSWap (?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での IQ データ・スワッピングの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : CDPower : IQSWap { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : CDPower : IQSWap ?

引数: ON または 1 — IQ データのスワッピングを有効にします。

OFF または 0 — IQ データのスワッピングを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定の IQ データスワッピングを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:IQSWap ON

[[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I(?)

1xEV-DO リバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での I ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I <num1>,<num2>,<num3>

[[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I?

引数: <boolean>::={0N|OFF|1|0}

<num1> I ロング・コード・マスクの上位 3 桁。

設定範囲: #H0 (0) ~ #H3FF (1023)

<num2> I ロング・コード・マスクの中央 4 桁。

設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

<num3> I ロング・コード・マスクの下位 4 桁。

設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード: DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO リバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での I ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I 3FF,FFFF,FFFF

[[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:Q(?)

1xEV-DO リバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での Q ロング
コード・マスクの値を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:Q <num1>,<num2>,<num3>

[[:SENSe]:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:Q?

引数: <num1> Q ロング・コード・マスクの上位 3 桁。
設定範囲: #H0 (0) ~ #H3FF (1023)
<num2> Q ロング・コード・マスクの中央 4 桁。
設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)
<num3> Q ロング・コード・マスクの下位 4 桁。
設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード: DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO リバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での Q ロング
コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVD0:CDPower:LCMask:Q 3FF,FFFF,FFFF

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower:MLEVel(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での測定レベルを設定または問合せます。

この設定は、:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:FORMat コマンドが IQPower に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower:MLEVel {CHIP|SYMBol}

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower:MLEVel?

引数: CHIP チップ・レベルに設定します。
SYMBol シンボル・レベルに設定します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での測定レベルをチップ・レベルに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:MLEVel CHIP

関連コマンド: :DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod:MVIew:FORMat

[:SENSe]:FL1XEVD0:CDPower:PNOffset(?)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での PN オフセットを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0:CDPower:PNOffset <value>

[:SENSe]:FL1XEVD0:CDPower:PNOffset?

引数: <value>::=<NRf> — PN オフセットを 64 チップ単位で設定します。
設定範囲: 0 ~ 511

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定での PN オフセットを 100 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:PNOffset 100

[:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:CDPower:SElect:CODE(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定でのハーフ・スロット内のコード番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:CDPower:SElect:CODE <number>

[:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:CDPower:SElect:CODE?

引数: <number>::=<NR1> — ハーフ・スロット内のコード番号を指定します。設定範囲は、次のとおりです。

表 2-108: コード番号設定範囲

リンク	チャンネル・タイプ	範囲
FL1XEVD0	パイロット	0 ~ 31
	MAC	0 ~ 63
	データ	0 ~ 15
	プリアンプル	0 ~ 31
RL1XEVD0	—	0 ~ 15

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定でのハーフ・スロット内のコード番号を 30 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:SElect:CODE 30

[:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:CDPower:SElect:HSLot(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定でのハーフ・スロットを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:CDPower:SElect:HSLot <numeric_value>

[:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:CDPower:SElect:HSLot?

引数: <numeric_value>::=<NR1> — ハーフ・スロットを指定します。設定範囲: - (解析されたチップ数 - 1) ~ 0

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、コード・ドメイン・パワー測定でのハーフスロットを -10 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CDPower:SElect:HSLot -10

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower サブグループ

1xEV-DO、オプション26 型のみ

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSE]]
  : FL1XEVD0]:RL1XEVD0
    :CHPower
      :BANDwidth|BWIDth
        :INTegration <numeric_value>
      :FILTer
        :COEfficient <numeric_value>
        :TYPE RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist
      :LIMit
        [[:STATE]] <boolean>
```


[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:BANDwidth|BWIDth :INTegration(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定の主チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引数: <value>::=<NRf> — チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CHPower:BANDwidth:INTegration 2.5MHz

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:FILTer:COEFFicient(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:FILTer:TYPE コマンドが NYQuist または RNYQuist に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:FILTer:COEFFicient <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:FILTer:COEFFicient?

引数: <value>::=<NRf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.0001 ~ 1 (デフォルト値: 0.5)

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.1 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:CHPower:FILTer:COEFFicient 0.1

関連コマンド: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:FILTer:TYPE

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:FILTer:TYPE(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、チャンネル電力測定のリミットを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSsian | NYQuist | RNYQuist }

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-109: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSsian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:CHPower:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:LIMit[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でチャンネル電力測定のリミットテストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:LIMit[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:CHPower:LIMit[:STATe]?

引数: ON または 1 リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、チャンネル電力測定のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:CHPower:LIMit:STATe ON

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM サブグループ

1xEV-DO、 オプション26 型のみ

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FL1XEVD0]:RL1XEVD0
    :IM
      :BANDwidth|BWIDTH
        :INTegration      <numeric_value>
      :FILTer
        :COEFFicient      <numeric_value>
        :TYPE              RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist
      :LIMit
        :LFORder
          [:STATe]        <boolean>
        :TORder
          [:STATe]        <boolean>
      :SCOFFset            <numeric_value>
```

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:BANDwidth|BWIDth :INTegration(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: [[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:BANDwidth|BWIDth:INTegration <value>

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引数: <value>::=<Nrf> — 相互変調測定チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定主チャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

:SENSE:FL1XEVD0:IM:BANDwidth:INTegration 2.5MHz

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:FILTer:COEFFicient(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。

このコマンドは、[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:FILTer:TYPE コマンドが NYQuist または RNYQuist に設定されているときにのみ有効です。

構文: [[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:FILTer:COEFFicient <value>

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:FILTer:COEFFicient?

引数: <value>::=<Nrf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.000 ~ 1 (デフォルト値: 0.5)

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.1 に設定します。

:SENSE:FL1XEVD0:IM:FILTer:COEFFicient 0.1

関連コマンド: [[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:FILTer:TYPE

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM:FILTer:TYPE(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSsian
| NYQuist | RNYQuist }

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-110: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSsian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定でナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:IM:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:LIMit:FORDER[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定での 5 次高調波のリミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:LIMit:FORDER[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }`
`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:LIMit:FORDER[:STATe]?`

引数: ON または 1 5 次高調波のリミット・テストを有効にします。
OFF または 0 5 次高調波のリミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定での 5 次高調波のリミット・テストを有効にします。

`:SENSe:FL1XEVD0:IM:LIMit:FORDER:STATe ON`

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:LIMit:TORDER[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定での 3 次高調波のリミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:LIMit:TORDER[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }`
`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:LIMit:TORDER[:STATe]?`

引数: ON または 1 3 次高調波のリミット・テストを有効にします。
OFF または 0 3 次高調波のリミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定での 3 次高調波のリミット・テストを有効にします。

`:SENSe:FL1XEVD0:IM:LIMit:TORDER:STATe ON`

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:SCOFFset(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、相互変調測定 of the 2nd channel center frequency is set or queried.

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:SCOFFset <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:IM:SCOFFset?

引数: <value>::=<NRf> — 相互変調測定 of the 2nd channel center frequency is set.
設定範囲: $-\text{span}/2 \sim +\text{span}/2$ [Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、相互変調測定 of the 2nd channel center frequency is set to 1.5 MHz.

:SENSe:FL1XEVD0:IM:SCOFFset 1.5MHz

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MACCuracy サブグループ

1xEV-DO、オプション26 型のみ

:SENSe:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MACCuracy コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で変調確度測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  : FL1XEVD0|:RL1XEVD0
    :MACCuracy
      :ACCThreshold <numeric_value>
      :CHANnel
        [:TYPE] MAC|PILot|DATA|PREamble|OVERa11
      :FILTer
        :MEASurement OFF|EQComp|COMP
      :IQSWap <boolean>
      :LCMask
        :I <num1>,<num2>,<num3>
        :Q <num1>,<num2>,<num3>
      :LIMit
        :EVM
          :PEAK
            [:STATe] <boolean>
          :RMS
            [:STATe] <boolean>
        :PCDerror
          [:STATe] <boolean>
        :RHO
          [:STATe] <boolean>
        :TAU
          [:STATe] <boolean>
      :MLEVel CHIP|SYMBol
      :PNOffset <numeric_value>
      :SElect
        :CODE <numeric_value>
        :HSLot <numeric_value>
```


[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:ACCThreshold(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバーズ・リンク解析で、変調確度測定のアクティブチャンネル・スレッショルド・レベル (コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:ACCThreshold <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:ACCThreshold?

引数: <value>::=<Nrf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。
設定範囲: -100 ~ 0 dB

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを -27 dB に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:ACCThreshold -27dB

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:CHANnel[:TYPE](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定チャンネルタイプを設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:CHANnel[:TYPE]{ MAC | PILOt | DATA | PREamble | OVERall }`

`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:CHANnel[:TYPE]?`

引数: MAC — MAC チャンネルを選択します。

PILOt — パイロット・チャンネルを選択します。

DATA — データ・チャンネルを選択します。

PREamble — プリアンブル・チャンネルを選択します。

OVERall — すべてのチャンネルを選択します。

この引数は、`:DISPlay:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy` コマンドで CHIP が選択されているときにのみ有効です。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定チャンネル・タイプを MAC に設定します。

`:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:CHANnel:TYPE MAC`

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : MACCuracy : FILTer : MEASurement (?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定の測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : MACCuracy : FILTer : MEASurement { OFF | EQComp | COMP }

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : MACCuracy : FILTer : MEASurement ?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。

COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定の測定フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:FILTer:MEASurement COMP

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : MACCuracy : IQSWap (?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定での IQ データスワッピングの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : MACCuracy : IQSWap { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : MACCuracy : IQSWap ?

引数: ON または 1 — IQ データのスワッピングを有効にします。

OFF または 0 — IQ データのスワッピングを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定での IQ データ・スワッピングを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:IQSWap ON

[[:SENSe]:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:I(?)

1xEV-DO リバース・リンク解析で、変調確度測定での I ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:I <num1>,<num2>,<num3>

[[:SENSe]:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:I?

引数: <boolean>::={0N|OFF|1|0}

<num1> I ロング・コード・マスクの上位 3 桁。

設定範囲: #H0 (0) ~ #H3FF (1023)

<num2> I ロング・コード・マスクの中央 4 桁。

設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

<num3> I ロング・コード・マスクの下位 4 桁。

設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード: DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO リバース・リンク解析で、変調確度測定での I ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:I 3FF,FFFF,FFFF

[[:SENSe]:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:Q(?)]

1xEV-DO リバース・リンク解析で、変調確度測定での Q ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:Q <num1>,<num2>,<num3>

[[:SENSe]:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:Q?

引数: <num1> Q ロング・コード・マスクの上位 3 桁。
設定範囲: #H0 (0) ~ #H3FF (1023)
<num2> Q ロング・コード・マスクの中央 4 桁。
設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)
<num3> Q ロング・コード・マスクの下位 4 桁。
設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード: DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO リバース・リンク解析で、変調確度測定での Q ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

:SENSe:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:Q 3FF,FFFF,FFFF

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK [:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定でのピーク EVM リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe] { OFF | ON
| 0 | 1 }`

`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK[:STATe]?`

引数: ON または 1 ピーク EVM リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 ピーク EVM リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのピーク EVM リミット・テストを有効にします。

`:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:PEAK:STATe ON`

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS [:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定での rms EVM リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe] { OFF | ON
| 0 | 1 }`

`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe]?`

引数: ON または 1 rms EVM リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 rms EVM リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定での rms EVM リミット・テストを有効にします。

`:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS:STATe ON`

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定でのピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe]?

引数: ON または 1 ピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 ピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのピーク・コード・ドメイン・エラー・リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:PCDerror:STATe ON

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンクの変調確度測定で、ロー (ρ) リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe]?

引数: ON または 1 ロー・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 ロー・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのロー・リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:RHO:STATe ON

[[:SENSe]:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe](?)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのタウ (τ) リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe]{ OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe]?

引数: ON または 1 タウ・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 タウ・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのタウ・リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:LIMit:TAU:STATe ON

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:MLEVe1(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定での測定レベルを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:MLEVe1 { CHIP | SYMBo1 }

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:MLEVe1?

引数: CHIP チップ・レベルに設定します。

SYMBo1 シンボル・レベルに設定します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定の測定レベルをチップ・レベルに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:MLEVe1 CHIP

[[:SENSe]:FL1XEVD0:MACCuracy:PNOFfset(?)]

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定の PN オフセットを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0:MACCuracy:PNOFfset <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0:MACCuracy:PNOFfset?

引数: <value>::=<NRf> — PN オフセットを64 チップ単位で設定します。
設定範囲: 0 ~ 511

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定の PN オフセットを 100 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:PNOFfset 100

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:SElect:CODE(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定でのハーフ・スロット内のコード番号を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:SElect:CODE <number>
 [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:SElect:CODE?

引数: <number>::=<NR1> — ハーフ・スロット内のコード番号を指定します。
 設定範囲は、次のとおりです。

表 2-111: コード番号設定範囲

リンク	チャンネル・タイプ	範囲
FL1XEVD0	パイロット	0 ~ 31
	MAC	0 ~ 63
	データ	0 ~ 15
	プリアンブル	0 ~ 31
RL1XEVD0	-	0 ~ 15

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのハーフ・スロット内のコード番号を 30 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:SElect:CODE 30

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:SElect:HSLot(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、変調確度測定でのハーフ・スロットを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:SElect:HSLot <value>
 [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:MACCuracy:SElect:HSLot?

引数: <value>::=<NR1> — ハーフ・スロットを指定します。
 設定範囲: - (解析されたチップ数 - 1) ~ 0

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、変調確度測定でのハーフ・スロットを -10 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:MACCuracy:SElect:HSLot -10

[[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0]:OBWidth サブグループ

1xEV-DO、 オプション26 型のみ

:SENSe:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:OBWidth コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、占有帯域幅 (OBW) 測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FL1XEVD0|:RL1XEVD0
    :OBWidth
      :LIMit
        [:STATe] <boolean>
      :PERCent <numeric_value>
```

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:OBWidth:LIMit[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、占有帯域幅測定のリミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:OBWidth:LIMit[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }`
`[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:OBWidth:LIMit[:STATe]?`

引数: ON または 1 リミット・テストを有効にします。
OFF または 0 リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定のリミット・テストを有効にします。

`:SENSE:FL1XEVD0:OBWidth:LIMit:STATe ON`

[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:OBWidth:PERCent(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で占有帯域幅測定の占有帯域幅を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:OBWidth:PERCent <value>`
`[[:SENSE]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:OBWidth:PERCent?`

引数: `<value>::=<Nrf>` — 占有帯域幅を設定します。
設定範囲: 80 ~ 99.99% (デフォルト値: 99%)

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、占有帯域幅測定の占有帯域幅を 95% に設定します。

`:SENSE:FL1XEVD0:OBWidth:PERCent 95PCT`

[[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0]:PCCHannel サブグループ

1xEV-DO、 オプション26 型のみ

:SENSe:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:PCCHannel コマンドは、1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット/コード・チャンネル測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FL1XEVD0|:RL1XEVD0
    :PCCHannel
      :ACCThreshold      <numeric_value>
      :CHANnel
        [:TYPE]          MAC|DATA|PREamble
      :FILTer
        :MEASurement     OFF|EQComp|COMP
      :IQSwap            <boolean>
      :LCMask
        :I                <num1>,<num2>,<num3>
        :Q                <num1>,<num2>,<num3>
      :LIMit
        :PHASe
          [:STATe]       <boolean>
        :TIME
          [:STATe]       <boolean>
      :PNOFfset          <numeric_value>
      :SElect
        :CODE            <numeric_value>
        :HSLot           <numeric_value>
```

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:PCCHannel:ACCThreshold(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベル（コード・チャンネルがアクティブになるかどうかを決めるレベル）を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:PCCHannel:ACCThreshold <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:PCCHannel:ACCThreshold?

引数: <value>::=<NRf> — アクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを設定します。
設定範囲: -100 ~ 0 dB

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定のアクティブ・チャンネル・スレッショルド・レベルを -27 dB に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:ACCThreshold -27dB

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PCCHannel:CHANnel[:TYPE](?)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定チャンネル・タイプを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0:PCCHannel:CHANnel[:TYPE]{ MAC | DATA | PREamble }

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PCCHannel:CHANnel[:TYPE]?

引数: MAC — MAC チャンネルを選択します。

DATA — データ・チャンネルを選択します。

PREamble — プリアンブル・チャンネルを選択します。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定チャンネル・タイプを MAC に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:CHANnel:TYPE MAC

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : FILTer : MEASurement (?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定の測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : FILTer : MEASurement { OFF
| EQComp | COMP }

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : FILTer : MEASurement ?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

EQComp — コンプリメンタリ・フィルタ+イコライザを選択します。

COMP — コンプリメンタリ・フィルタを選択します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定の測定フィルタとしてコンプリメンタリ・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:FILTer:MEASurement COMP

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : IQSWap (?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定でのIQデータ・スワッピングの有効／無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : IQSWap { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : IQSWap ?

引数: ON または 1 IQ データのスワッピングを有効にします。

OFF または 0 IQ データのスワッピングを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定でのIQデータ・スワッピングを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:IQSWap ON

[[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I(?)

1xEV-DO リバース・リンク解析でパイロット／コード・チャンネル測定 of I ロングコード・マスクの値を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I <num1>,<num2>,<num3>`

`[[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I?`

引数: `<num1>` I ロング・コード・マスクの上位 3 桁。
 設定範囲: #H0 (0) ~ #H3FF (1023)
`<num2>` I ロング・コード・マスクの中央 4 桁。
 設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)
`<num3>` I ロング・コード・マスクの下位 4 桁。
 設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード: DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO リバース・リンク解析でパイロット／コード・チャンネル測定 of I ロングコード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

`:SENSe:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I 3FF,FFFF,FFFF`

[[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:Q(?)

1xEV-DO リバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での Q ロング・コード・マスクの値を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:Q <num1>,<num2>,<num3>`

`[[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:Q?`

引数: `<num1>` Q ロング・コード・マスクの上位 3 桁。
 設定範囲: #H0 (0) ~ #H3FF (1023)
`<num2>` Q ロング・コード・マスクの中央 4 桁。
 設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)
`<num3>` Q ロング・コード・マスクの下位 4 桁。
 設定範囲: #H0000 (0) ~ #HFFFF (65535)

測定モード: DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO リバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での Q ロング・コード・マスクの値を 3FFFFFFFFF に設定します。

`:SENSe:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:Q 3FF,FFFF,FFFF`

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : LIMit : PHASe [:STATe] (?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でパイロット／コード・チャンネル測定での位相リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : LIMit : PHASe [:STATe] { OFF | ON
| 0 | 1 }

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : LIMit : PHASe [:STATe] ?

引数: ON または 1 位相リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 位相リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での位相リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:LIMit:PHASe:STATe ON

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : LIMit : TIME [:STATe] (?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析でパイロット／コード・チャンネル測定での時間リミット・テストの有効／無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : LIMit : TIME [:STATe] { OFF | ON
| 0 | 1 }

[:SENSe] : FL1XEVD0 | : RL1XEVD0 : PCCHannel : LIMit : TIME [:STATe] ?

引数: ON または 1 時間リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 時間リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での時間リミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:LIMit:TIME:STATe ON

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PCCHannel:PNOffset(?)]

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での PN オフセットを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0:PCCHannel:PNOffset <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PCCHannel:PNOffset?

引数: <value>::=<NRf> — PN オフセットを64 チップ単位で設定します。
設定範囲: 0 ~ 511

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定での PN オフセットを 100 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:PNOffset 100

[:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:PCCHannel:SElect:CODE(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定でのハーフ・スロット内のコード番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:PCCHannel:SElect:CODE <value>

[:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:PCCHannel:SElect:CODE?

引数: <value>::=<NR1> — ハーフ・スロット内のコード番号を指定します。
設定範囲は、次のとおりです。

表 2-112: コード番号設定範囲

リンク	チャンネル・タイプ	範囲
FL1XEVD0	MAC	0 ~ 1
	データ	0 ~ 15
	プリアンブル	0
RL1XEVD0	-	0、0 ~ 1、0 ~ 2、または 0 ~ 3

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定でのハーフ・スロット内のコード番号を 1 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:SElect:CODE 1

[:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:PCCHannel:SElect:HSLot(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定でのハーフ・スロットを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:PCCHannel:SElect:HSLot <value>

[:SENSe]:FL1XEVD0[:RL1XEVD0]:PCCHannel:SElect:HSLot?

引数: <value>::=<NR1> — ハーフ・スロットを指定します。
設定範囲: - (解析されたチップ数 - 1) ~ 0

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、パイロット／コード・チャンネル測定でのハーフ・スロットを -10 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PCCHannel:SElect:HSLot -10

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime サブグループ

1xEV-DO、オプション26 型のみ

:SENSe:FL1XEVD0:PVTime コマンドは、1xEV-DO フォワード・リンク解析で
ゲネテッド・アウトプット・パワー測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[[:SENSe]
  : FL1XEVD0
    :PVTime
      :BURSt
        :OFFSet          <numeric_value>
        :SYNC            REDGe|MP0int|TPOStion
      :LIMit
        :ZONE[1]|2|3|4|5
          [:STATe]      <boolean>
      :RCHanne1
        :LEVe1          <numeric_value>
        :MODE           AUTO|MANua1
      :SLOT
        [:TYPE]         IDLE|ACTive
```

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:OFFSet(?)]

1xEV-DOフォワード・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、トリガポジションとバースト・ポジション間のバースト・オフセットを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定され、[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:SYNC コマンドが TPOsition に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:OFFSet <value>

[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — バースト・オフセットを設定します。
設定範囲: $-1 \text{ E-3} \sim 1 \text{ E-3} \text{ [s]}$

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、バースト・オフセットを $100 \mu\text{s}$ に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:OFFSet 100us

関連コマンド: [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:SLOT[:TYPE]
[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:SYNC

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:SYNC(?)]

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のパースト・シンクを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:SYNC { REDGe | MPOint | TPOStion }

[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:SYNC?

引数: REDGe — 立ち上がりエッジを指定します。

MPOint — 中間点を指定します。

TPOStion — トリガ・ポジションを指定します。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のパースト・シンクをトリガ・ポジションに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PVTime:BURSt:SYNC TPOStion

関連コマンド: [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:SLOT[:TYPE]

[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe](?)

1xEV-DO フォワード・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、ゾーン・リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe]?

ZONE<x> (x = 1, 2, ..., 5) は、それぞれリミット・エディタの Zone A ~ E に対応しています。

引数: ON または 1 ゾーン・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 ゾーン・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定でゾーン 1 のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:PVTime:LIMit:ZONE1:STATe ON

[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:LEVEl(?)

1xEV-DO フォワード・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、リファレンス・チャンネル・レベルを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:MODE コマンドを MANual に設定しているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:LEVEl <value>

[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:LEVEl?

引数: <value> ::= <NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲: -150 ~ 30 dBm

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、リファレンス・チャンネル・レベルを -10 dB に設定します。

[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:LEVEl -10dB

関連コマンド: :SENSe:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:MODE

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:MODE(?)]

1xEV-DOフォワード・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、リファレンス・チャンネル・レベルのモードを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:MODE { AUTO | MANua1 }]

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:MODE?

引数: AUTO — リファレンス・レベルは、入力信号から算出されます。

MANua1 — リファレンス・レベルを [[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel-:LEVe1] コマンドで設定します。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンクのゲーテッド・アウトプット・パワー測定で、リファレンス・チャンネル・レベルのモードを自動モードに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:MODE AUTO

関連コマンド: [[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:LEVe1]

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:SLOT[:TYPE](?)]

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のスロット・タイプを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:SLOT { IDLE | ACTive }]

[[:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime:RCHannel:SLOT?

引数: IDLE — パイロットおよび MAC チャンネルを含むアイドル・スロットを選択します。

ACTive — パイロット、MAC、データ・チャンネルを含むアクティブ・スロットを選択します。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、ゲーテッド・アウトプット・パワー測定のスロット・タイプをアイドルに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:PVTime:SLOT:TYPE IDLE

[:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMask サブグループ

1xEV-DO、 オプション26 型のみ

:SENSe:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMask コマンドは 1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定の設定を行います。

コマンド一覧

```
[:SENSe]
  : FL1XEVD0|:RL1XEVD0
    :SEMask
      :BANDwidth|BWIDTH
        :INTegration <numeric_value>
      :BURSt
        :OFFSet <numeric_value>
        :SYNC REDGe|MPOint|TPosition
      :FILTer
        :COEfficient <numeric_value>
        :TYPE RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist
      :LIMit
        :ISPurious
          :ZONE[1]|2|3|4|5
            [:STATe] <boolean>
        :OFCHannel
          :ZONE[1]|2|3|4|5
            [:STATe] <boolean>
      :MEASurement OFCHannel|ISPurious
      :RCHannel
        :LEVel <numeric_value>
        :MODE AUTO|MANual
      :SLOT
        :GATE <numeric_value>
        [:TYPE] IDLE|ACTive
```

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:BANDwidth|BWIDth :INTegration(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定のチャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:BANDwidth|BWIDth:INTegration <value>`

`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:BANDwidth|BWIDth:INTegration?`

引数: `<value>::=<NRf>` — スペクトラム・エミッション・マスク測定のチャンネル帯域幅を設定します。設定範囲：スパン/20 ~ フル・スパン [Hz]

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のチャンネル帯域幅を 2.5 MHz に設定します。

`:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:BANDwidth:INTegration 2.5MHz`

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:BURSt:OFFSet(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析のスペクトラム・エミッション・マスク測定で、トリガ・ポジションとバースト・ポジション間のバースト・オフセットを設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定され、[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:BURSt:SYNC コマンドが TPOsition に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:BURSt:OFFSet <value>

[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:BURSt:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — バースト・オフセットを設定します。
設定範囲: $-1 \text{ E-3} \sim 1 \text{ E-3} \text{ [s]}$

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のバースト・オフセットを $100 \mu\text{s}$ に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:BURSt:OFFSet 100us

関連コマンド: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:SLOT[:TYPE]
[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:BURSt:SYNC

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:BURSt:SYNC(?)

1xEV-DO フォワード・リンク・またはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のパースト・シンクを設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:BURSt:SYNC { REDGe | MPOint
| TPOStion }

[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:BURSt:SYNC?

引数: REDGe — 立ち上がりエッジを指定します。

MPOint — 中間点を指定します。

TPOStion — トリガ・ポジションを指定します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のパースト・シンクをトリガ・ポジションに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMAsk:BURSt:SYNC TPOStion

関連コマンド: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:SLOT[:TYPE]

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:FILTer:COEFFicient(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定のためのフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:FILTer:TYPE コマンドが NYQuist または RNQuist に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:FILTer:COEFFicient <value>

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:FILTer:COEFFicient?

引数: <value>::=<NRf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.000 ~ 1 (デフォルト値: 0.5)

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のためのフィルタのロールオフ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:FILTer:COEFFicient 0.5

関連コマンド: [:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:FILTer:TYPE

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:FILTer:TYPE(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定フィルタを設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:FILTer:TYPE {RECTangle|GAUSSian|NYQuist|RNYQuist}

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:FILTer:TYPE?

引数: 引数とフィルタを下表に示します。

表 2-113: フィルタの選択

引数	フィルタ
RECTangle	矩形
GAUSSian	ガウス
NYQuist	ナイキスト
RNYQuist	ルート・ナイキスト

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DOフォワード・リンクのスペクトラム・エミッション・マスク測定で、ナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE<x> [:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のインバンド・スプリアス・リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE<x>[:STATe]`
{ OFF | ON | 0 | 1 }

`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE<x>[:STATe]?`

ZONE<x> (x = 1, 2, ..., 5) は、それぞれリミット・エディタの Zone A ~ E に対応しています。

引数: ON または 1 インバンド・スプリアス・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 インバンド・スプリアス・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のインバンド・スプリアス・リミット・テスト (ゾーン 1) を有効にします。

`:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE1:STATe ON`

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:LIMit:OFCHannel :ZONE<x>[:STATe](?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定の周波数オフセット・リミット・テストの有効/無効を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE<x>[:STATe]
{ OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE<x>[:STATe]?

ZONE<x> (x = 1, 2, ..., 5) は、それぞれリミット・エディタの Zone A ~ E に対応しています。

引数: ON または 1 周波数オフセット・リミット・テストを有効にします。

OFF または 0 周波数オフセット・リミット・テストを無効にします。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定の周波数オフセット・リミット・テスト (ゾーン 1) を有効にします。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE1:STATe ON

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:MEASurement(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のリミット・テーブルの種類を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:MEASurement { OFCHannel | ISPurious }
[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:MEASurement?

引数: OFCHannel 周波数オフセットを測定するためのリミット・テーブルを選択します。この測定では、周波数ゾーンが、中心周波数からの差として指定されます。

ISPurious インバンド・スプリアスを測定するためのリミット・テーブルを選択します。このテーブルでは、周波数ゾーンが絶対値で指定されます。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定で、インバンド・スプリアス・リミット・テーブルを選択します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:MEASurement ISPurious

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:RCHannel:LEVel(?)

1xEV-DO フォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定でのリファレンス・チャンネル・レベルを設定または問合せます。このコマンドは、[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:RCHannel:MODE コマンドが MANual に設定されているときにのみ有効です。

構文: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:RCHannel:LEVel <value>
[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:RCHannel:LEVel?

引数: <value>::=<NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲: -150 ~ 30 dBm

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のリファレンス・チャンネル・レベルを -10 dB に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:RCHannel:LEVel -10dB

関連コマンド: [[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMask:RCHannel:MODE

[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:RCHanne1:MODE(?)

1xEV-DOフォワードまたはリバース・リンク解析で、スペクトラム・エミッションマスク測定のリファレンス・チャンネル・レベルのモードを設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:RCHanne1:MODE { AUTO | MANua1 }`

`[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:RCHanne1:MODE?`

引数: AUTO — リファレンス・レベルが入力信号から算出されます。

MANua1 — リファレンス・レベルを `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:PVTime-:RCHanne1:LEVe1` コマンドで設定します。

測定モード: DEMFL1XEVD0, DEMRL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のリファレンス・チャンネル・レベルのモードを自動モードに設定します。

`:SENSe:FL1XEVD0:SEMAsk:RCHanne1:MODE AUTO`

関連コマンド: `[[:SENSe]:FL1XEVD0]:RL1XEVD0:SEMAsk:RCHanne1:LEVe1`

[:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT:GATE(?)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のスロット・ゲート時間を設定または問合せます。

このコマンドは、[:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT[:TYPE] コマンドが IDLE に設定されているときにのみ有効です。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT:GATE <value>

[:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT:GATE?

引数: <value>::=<NRf> — リファレンス・チャンネル・レベルを設定します。
設定範囲: 180 E-6 ~ 840 E-6 [s]

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のスロット・ゲート時間を 200 μs に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT:GATE 200us

関連コマンド: [:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT[:TYPE]

[:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT[:TYPE](?)

1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のスロット・タイプを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:RCHannel:SLOT { IDLE | ACTive }

[:SENSe]:FL1XEVD0:SEMAsk:RCHannel:SLOT?

引数: IDLE — パイロットおよび MAC チャンネルを含むアイドル・スロットを選択します。

ACTive — パイロット、MAC、データ・チャンネルを含むアクティブ・スロットを選択します。

測定モード: DEMFL1XEVD0

使用例: 1xEV-DO フォワード・リンク解析で、スペクトラム・エミッション・マスク測定のスロット・タイプをアイドルに設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMAsk:SLOT:TYPE IDLE

[:SENSe]:DLR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5、オプション27型のみ

[:SENSe]:DLR5_3GPPコマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンク変調解析の条件を設定します。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMDLR5_3G (3GPP-R5 ダウンリンク変調解析モード) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:DLR5_3GPP	
:BLOCK	<numeric_value>
:CARRier	
:OFFSet	<frequency>
:SEARCh	<boolean>
:COMPOSITE	<boolean>
:DTYPe	
:SEARCh	<boolean>
:FILTer	
:ALPHa	<ratio>
:MEASurement	OFF RRCosine
:REFerence	OFF RCOsine GAUSSian
[:IMMediate]	
:LENGth	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
:SCHPart	<boolean>
:SCODE	
:ALTerNative	NUSed PRIMary LEFT RIGHT
:NUMBer	<code_number>
:SEARCh	<boolean>

[:SENSe] :DLR5_3GPP:BLOCK(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、測定するブロック番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :DLR5_3GPP:BLOCK <number>

[:SENSe] :DLR5_3GPP:BLOCK?

引数: <number>::=<NR1> — ブロック番号を指定します。
0 (ゼロ) は、最後のブロックを表します。
設定範囲: -M~0 (M: 取り込まれたブロック数)

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

```
:SENSe:DLR5_3GPP:BLOCK -5
```

[:SENSe] :DLR5_3GPP:CARRIER:OFFSET(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析でキャリア周波数オフセットを設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :DLR5_3GPP:CARRIER:OFFSET <freq>

[:SENSe] :DLR5_3GPP:CARRIER:OFFSET?

引数: <freq>::=<NRf> — キャリア周波数オフセットを指定します。
設定範囲: - (スパン) ~ + (スパン)

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: キャリア周波数オフセットを 10MHz に設定します。

```
:SENSe:DLR5_3GPP:CARRIER:OFFSET 10MHz
```

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:CARRier:SEARch(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、キャリア検出を自動で行うかどうかを指定します。

構文: [[:SENSe]:DLR5_3GPP:CARRier:SEARch { OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:CARRier:SEARch?

引数: OFF または 0 — キャリアの自動検出を行わないように指定します。キャリア周波数オフセットを設定するときは、[:SENSe]:DLR5_3GPP:CARRier:OFFSet コマンドを使用します。

ON または 1 — キャリアの自動検出を行うように指定します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: キャリアの自動検出の実行を指定します。

:SENSe:DLR5_3GPP:CARRier:SEARch ON

関連コマンド: [[:SENSe]:DLR5_3GPP:CARRier:OFFSet

[:SENSe]:DLR5_3GPP:COMPOSITE(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、コンポジット解析（シンボル・レートの自動判定）を行うかどうかを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:DLR5_3GPP:COMPOSITE { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:DLR5_3GPP:COMPOSITE?

引数: OFF または 0 — コンポジット解析を行いません。

ON または 1 — コンポジット解析を行います（デフォルト）。

注: 通常はコンポジット解析を行います。正しく解析できないときには、このコマンドで OFF を選択し、:DISPlay:DL3Gpp:AVIew:SRATe コマンドで特定のシンボル・レートを選択してください。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: コンポジット解析を行います。

:SENSe:DLR5_3GPP:COMPOSITE ON

関連コマンド: :DISPlay:DLR5_3GPP:AVIew:SRATe

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:DTYPe:SEARch(?)]

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、コード・チャンネルの変調方式 (QPSK/16QAM) を自動で検出するかどうかを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DLR5_3GPP:DTYPe:SEARch { OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:DTYPe:SEARch?

引数: OFF または 0 — コード・チャンネルを QPSK に指定します。

ON または 1 — コード・チャンネル (QPSK/16QAM) を自動で検出します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: コード・チャンネルを自動で検出します。

:SENSe:DLR5_3GPP:DTYPe:SEARch ON

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:ALPHa(?)]

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、フィルタ係数 (α/BT) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:ALPHa <value>

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:ALPHa?

引数: <value>::=<Nrf> — フィルタ係数 (α/BT) を設定します。設定範囲: 0~1。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: フィルタ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:DLR5_3GPP:FILTer:ALPHa 0.5

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:MEASurement(?)]

3GPP-R5 ダウンリンク解析の測定フィルタ (Measurement Filter) を選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:MEASurement { OFF | RRCosine }

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:MEASurement?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

RRCosine — Root Raised Cosine フィルタを選択します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 測定フィルタに Root Raised Cosine フィルタを選択します。

:SENSe:DLR5_3GPP:FILTer:MEASurement RRCosine

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:REFerence(?)]

3GPP-R5 ダウンリンク解析の基準フィルタ (Reference Filter) を選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:REFerence { OFF | RCOsine | GAUSSian }

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:FILTer:REFerence?

引数: OFF — 測定フィルタを使用しません。

RCOsine — Raised Cosine フィルタを選択します。

GAUSSian — ガウス・フィルタを選択します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 基準フィルタとして Raised Cosine フィルタを選択します。

:SENSe:DLR5_3GPP:FILTer:REFerence RCOsine

[[:SENSe]:DLR5_3GPP[:IMMediate]] (問合せなし)

取り込んだデータについて、3GPP-R5 ダウンリンク解析演算を実行します。
データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。

構文: [:SENSe]:DLR5_3GPP[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 3GPP-R5 ダウンリンク解析演算を実行します。

:SENSe:DLR5_3GPP:IMMediate

関連コマンド: :INITiate

[:SENSe]:DLR5_3GPP:LENGth(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、解析範囲を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:DLR5_3GPP:LENGth <value>

[:SENSe]:DLR5_3GPP:LENGth?

引数: <value>::=<NRf> — 解析範囲をポイント数で設定します。
設定範囲: 1 ~ 1024×ブロック・サイズ
(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します)

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 解析範囲長を 1000 ポイントに設定します。

:SENSe:DLR5_3GPP:LENGth 1000

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZe

[:SENSe]:DLR5_3GPP:OFFSet(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、解析開始点を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:DLR5_3GPP:OFFSet <value>

[:SENSe]:DLR5_3GPP:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 解析開始点をポイント数で設定します。
設定範囲: 0 ~ 1024×ブロック・サイズ
(ブロック・サイズは [:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します)

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 解析開始位置をポイント 100 に設定します。

:SENSe:DLR5_3GPP:OFFSet 100

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZe

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCHPart(?]

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、シンク・チャンネルの部分を解析に含めるかどうかを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCHPart { OFF | ON | 0 | 1 }

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCHPart?

引数: OFF または 0 — シンク・チャンネル部分を解析に含めません。

ON または 1 — シンク・チャンネル部分を解析に含めます。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: シンク・チャンネル部分を解析に含めます。

:SENSe:DLR5_3GPP:SCHPart ON

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:ALternative(?]

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、代替スクランプリング・コードを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:ALternative { NUSed | PRIMary | LEFT | RIGHT }

[[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:ALternative?

引数: NUSed (デフォルト) — 入力信号の逆拡散にプライマリ・スクランプリング・コードのみ (左右の代替スクランプリング・コードを除く) を使用します。

PRIMary — プライマリ・スクランプリング・コードと左右の代替スクランプリング・コードを使用して入力信号を逆拡散します。

LEFT — 左代替スクランプリング・コードを使用して入力信号を逆拡散します。

RIGHT — 右代替スクランプリング・コードを使用して入力信号を逆拡散します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: 入力信号の逆拡散に右代替スクランプリング・コードを使用します。

:SENSe:DLR5_3GPP:SCODE:ALternative RIGHT

[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:NUMBER(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析でスクランプリング・コードを設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:NUMBER <value>

[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:NUMBER?

引数: <value>::=<NR1> — スクランプリング・コードを設定します。
設定範囲: 0~24575。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: スクランプリング・コードを 3 に設定します。

:SENSe:DLR5_3GPP:SCODE:NUMBER 3

関連コマンド: [:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:SEARCh

[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:SEARCh(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析で、スクランプリング・コードの自動検出のオン/オフを選択します。

構文: [:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:SEARCh { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:SEARCh?

引数: OFF または 0 — スクランプリング・コードを自動で検出しません。
上記の [:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:NUMBER コマンドで設定します。

ON または 1 — スクランプリング・コードを自動で検出します。

測定モード: DEMDLR5_3G

使用例: スクランプリング・コードを自動で検出します。

:SENSe:DLR5_3GPP:SCODE:SEARCh ON

関連コマンド: [:SENSe]:DLR5_3GPP:SCODE:NUMBER

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR サブグループ

3GPP-R5、オプション27 型のみ

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンクの ACLR ((隣接チャンネル漏洩電力比) 測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:SADLR5_3GPP	
:ACLR	
:FILTer	
:ALPHa	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle RNYQuist
:LIMit	
:ADJacent<x>	
[:STATe]	<boolean>
:NCORrection	<boolean>
:SWEepn	<boolean>

使用条件

このグループのコマンドを使用する場合は、以下の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. :INSTrument[:SElect] コマンドで、測定モード SADLR5_3G を選択します。

```
:INSTrument[:SElect] "SADLR5_3G"
```

2. :CONFiGure コマンドを実行して、デフォルト設定で測定を開始します。

```
:CONFiGure:SADLR5_3GPP:ACLR
```

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:ALPHa(?)

3GPP-R5 ACLR測定フィルタ係数(α /BT)を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:TYPEコマンドで RNYQuist (ルートナイキスト・フィルタ) を選択したときに有効です。

構文: [:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:ALPHa <value>

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:ALPHa?

引数: <value>::=<NRf> — フィルタ係数を設定します。設定範囲: 0~1。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: フィルタ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:ALPHa 0.5

関連コマンド: [:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:TYPE

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:TYPE(?)

3GPP-R5 ACLR 測定フィルタを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:TYPE { RECTangle | RNYQuist }

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:TYPE?

引数: RECTangle — 矩形フィルタを選択します。

RNYQuist — ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:TYPE RNYQuist

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:NCORrection(?)]

ACLR 測定で、ノイズ補正を行うかどうか選択または問合せます。ノイズ補正は、測定結果を算出する際に信号レベルからノイズ・レベルを差し引く機能です。

注： 振幅・周波数の設定条件を変更すると、ノイズ補正はオフに戻ります。必要に応じて、オンに設定し直してください。

構文： [:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:NCORrection { ON | OFF | 1 | 0 }

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:NCORrection?

引数： OFF または 0 (デフォルト) — 信号レベルから直接 ACLR測定値を算出します。

ON または 1 — 最初にノイズ・レベルを測定し、それ以降、信号レベルからノイズレベルを差し引いて、ACLR測定値を算出します。

測定モード： SADLR5_3G

使用例： ノイズ補正をオンにします。

:SENSe:SADLR5_3GPP:ACLR:NCORrection ON

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:SWEep(?)]

ACLR 測定で、25MHzスパンの掃引方法を選択または問合せます。

構文： [:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:SWEep { ON | OFF | 1 | 0 }

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:SWEep?

引数： OFF または 0 — 25MHzスパンを 1回のスキャンで取り込みます。

ON または 1 (デフォルト) — チャンネル間隔 (5MHz) ずつ 5回のスキャンで信号を取り込みます。

測定モード： SADLR5_3G

使用例： チャンネル間隔ずつ 5回のスキャンで信号を取り込みます。

:SENSe:SADLR5_3GPP:ACLR:SWEep ON

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:LIMit:ADJacent<x>[:STATe](?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析の ACLR 測定で、隣接リミット・テストの有効/無効を選択します。

構文: [[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:LIMit:ADJacent<x>[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR:LIMit:ADJacent<x>[:STATe]?

ここで、ADJacent<x>::={ ADJacent[1] | ADJacent2 | ADJacent3 | ADJacent4 }
ADJacentN (N=1~4) は、N 次隣接を表します。

引数: OFF または 0 — 隣接リミット・テストを有効にします。

ON または 1 — 隣接リミット・テストを無効にします。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: ACLR 測定で第1隣接リミット・テストを有効にします。

:SENSe:SADLR5_3GPP:ACLR:LIMit:ADJacent1 ON

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower サブグループ

3GPP-R5、オプション27 型のみ

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンクのチャネル電力測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:SADLR5_3GPP	
:CHPower	
:BAWdth :BWiDth	
:INTEgration	<numeric_value>
:FILTer	
:COEfficient	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle GAUSSian NYQuist RNYQuist
:LIMit	
[:STATe]	<boolean>

使用条件

このグループのコマンドを使用する場合は、以下の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

3. :INSTrument[:SElect] コマンドで、測定モード SADLR5_3G を選択します。

```
:INSTrument[:SElect] "SADLR5_3G"
```

4. :CONFiGure コマンドを実行して、デフォルト設定で測定を開始します。

```
:CONFiGure:SADLR5_3GPP:CHPower
```

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:BANDwidth]:BWIDth :INTegration(?)

3GPP-R5 ダウンリンクのチャンネル電力測定で、チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:BANDwidth|:BWIDth:INTegration <value>

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:BANDwidth|BWIDth:INTegration?

引数: <value>::=<NRf> — チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: スパン/20~フルスパン、単位 [Hz]

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定で、チャンネル帯域幅を 2.5MHz に設定します。

```
:SENSe:FL1XEVD0:CHPower:BANDwidth:INTegration 2.5MHz
```

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:COEFFicient(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析のチャンネル電力測定で、フィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:TYPEコマンドで NYQuist または RNYQuist を選択したときに有効です。

構文: [:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:COEFFicient <value>

[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:COEFFicient?

引数: <value>::=<NRf> — ロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.0001~1 (デフォルト: 0.5)

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定で、フィルタのロールオフ係数を 0.1 に設定します。

```
:SENSe:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:COEFFicient 0.1
```

[[:SENSE]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:TYPE(?]

3GPP-R5 ダウンリンク解析のチャンネル電力測定で、フィルタを選択または問合せます。

構文: [[:SENSE]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist | RNYQuist }

[[:SENSE]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:TYPE?

引数: RECTangle — 矩形フィルタを選択します。

GAUSSian — ガウス・フィルタを選択します。

NYQuist — ナイキスト・フィルタを選択します。

RNYQuist — ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定で、Nyquistフィルタを選択します。

:SENSE:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSE]:SADLR5_3GPP:CHPower:LIMit[:STATe](?)

3GPP-R5ダウンリンク解析のチャンネル電力測定で、リミット・テストの有効/無効を選択します。

構文: [[:SENSE]:SADLR5_3GPP:CHPower:LIMit[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }

[[:SENSE]:SADLR5_3GPP:CHPower:LIMit[STATe]?

引数: OFF または 0 — リミット・テストを有効にします。

ON または 1 — リミット・テストを無効にします。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: チャンネル電力測定のリミット・テストを有効にします。

:SENSE:SADLR5_3GPP:CHPower:LIMit:STATe ON

関連コマンド:

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth サブグループ

3GPP-R5、 オプション27 型のみ

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンク解析で、OBW (占有帯域幅) 測定の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:SADLR5_3GPP	
:OBWidth	
:LIMit	
[:STATe]	<boolean>
:PERCent	<numeric_value>

使用条件

このグループのコマンドを使用する場合は、以下の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. :INSTrument[:SElect] コマンドで、測定モードSADLR5_3Gを選択します。

```
:INSTrument[:SElect] "SADLR5_3G"
```

2. :CONFigureコマンドを実行して、デフォルト設定で測定を開始します。

```
:CONFigure:SADLR5_3GPP:OBWidth
```

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth:LIMit[:STATe](?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析の OBW 測定で、リミット・テストの有効/無効を選択します。

構文: [[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth:LIMit[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth:LIMit[:STATe]?

引数: OFF または 0 — リミット・テストを有効にします。

ON または 1 — リミット・テストを無効にします。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: OBW 測定のリミット・テストを有効にします。

:SENSe:SADLR5_3GPP:OBWidth:LIMit:STATe ON

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth:PERCent(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析の OBW 測定で、占有帯域幅を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth:PERCent <value>

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth:PERCent?

引数: <value>::=<Nrf> — 占有帯域幅を設定します。
設定範囲: 80~99.99% (デフォルト: 99%)。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: OBW測定で、占有帯域幅を95%に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:OBWidth:PERCent 95PCT

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMAsk サブグループ

3GPP-R5、 オプション27 型のみ

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMAsk コマンドでは、3GPP-R5 ダウンリンク解析で、スペクトラム放射マスク測定の条件設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[[:SENSe]	
:SADLR5_3GPP	
:SEMAsk	
:BAWdth :BWIth	
:INtegration	<numeric_value>
:FILTer	
:COEFFicient	<numeric_value>
:TYPE	RECTangle GAUSSian NYQuist RNYQuist
:LIMit	
:ZONE<x>	
[:STATe]	<boolean>
:RCHanne1	
:LEVe1	<numeric_value>
:MODE	AUTO MANua1

使用条件

このグループのコマンドを使用する場合は、以下の2つのコマンドを実行しておく必要があります。

1. :INSTrument[:SElect] コマンドで、測定モード SADLR5_3G を選択します。

```
:INSTrument[:SElect] "SADLR5_3G"
```

2. :CONFigure コマンドを実行して、デフォルト設定で測定を開始します。

```
:CONFigure:SADLR5_3GPP:SEMAsk
```

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:BANDwidth]:BWIDth :INTegration(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析のスペクトラム放射マスク測定で、チャンネル帯域幅を設定または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:BANDwidth|BWIDth:INTegration <value>`

`[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:BANDwidth|BWIDth:INTegration?`

引数: `<value>::=<Nrf>` — チャンネル帯域幅を設定します。
設定範囲: (ビン帯域幅) × 8 ~ スパン [Hz]
ビン帯域幅については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定で、チャンネル帯域幅を 2.5MHz に設定します。

`:SENSe:SADLR5_3GPP:SEMask:BANDwidth:INTegration 2.5MHz`

[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:COEFFicient(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析のスペクトラム放射マスク測定でフィルタのロールオフ係数を設定または問合せます。このコマンドは [:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:TYPE コマンドで NYQuist または RNYQuist を選択したときに有効です。

構文: [:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:COEFFicient <value>

[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:COEFFicient?

引数: <ratio>::=<NRf> — フィルタのロールオフ係数を設定します。
設定範囲: 0.0001~1 (デフォルト: 0.5)

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定で、フィルタのロールオフ係数を 0.1 に設定します。

:SENSe:SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:COEFFicient 0.1

[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:TYPE(?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析のスペクトラム放射マスク測定で、フィルタを選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:TYPE { RECTangle | GAUSSian | NYQuist
| RNYQuist }

[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:TYPE?

引数: RECTangle — 矩形フィルタを選択します。

GAUSSian — ガウス・フィルタを選択します。

NYQuist — ナイキスト・フィルタを選択します。

RNYQuist — ルート・ナイキスト・フィルタを選択します。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定で、ナイキスト・フィルタを選択します。

:SENSe:SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:TYPE NYQuist

[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:LIMit:ZONE<x>[:STATe](?)

3GPP-R5 ダウンリンク解析のスペクトラム放射マスク測定で、ゾーン・リミット・テストの有効/無効を選択します。

構文: `[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:LIMit:ZONE<x>[:STATe] { ON | OFF | 1 | 0 }`

`[[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:LIMit:ZONE<x>[:STATe]?`

ここで

`ZONE<x>::={ ZONE[1] | ZONE2 | ZONE3 | ZONE4 | ZONE5 }`

Zone 1、2、3、4、および5は、それぞれリミット・エディタの Zone A、B、C、D および E に対応しています。

引数: OFF または 0 — ゾーン・リミット・テストを有効にします。

ON または 1 — ゾーン・リミット・テストを無効にします。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定で、Zone 1のリミット・テストを有効にします。

`:SENSe:SADLR5_3GPP:SEMask:LIMit:ZONE1:STATe ON`

[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:LEVel(?)

スプリアス放射レベルを単位 dBc で測定するときに、リファレンス・チャンネル・レベルを設定または問合せます。このコマンドは、[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:MODE コマンドで MANual を選択したときだけ有効です。

構文: [:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:LEVel <value>

[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:LEVel?

引数: <value>::=<NRf> — リファレンス・レベルを設定します。
設定範囲: -150~30 dBm。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: リファレンス・チャンネル・レベルを -10 dBm に設定します。

:SENSe:SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:LEVel -10dBm

関連コマンド: [:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:MODE

[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:MODE(?)

スプリアス放射レベルを単位 dBc で測定するときに、リファレンス・チャンネル・レベルのモードを選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:MODE { AUTO | MANual }

[:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:MODE?

引数: AUTO — リファレンス・レベルが入力信号から算出されます。

MANual — [:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:LEVel コマンドで、リファレンス・レベルを設定します。

測定モード: SADLR5_3G

使用例: スペクトラム放射マスク測定で、リファレンス・チャンネル・レベルのモードを AUTO に設定します。

:SENSe:FL1XEVD0:SEMask:RCHannel:MODE AUTO

関連コマンド: [:SENSe] :SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:LEVel

[:SENSe]:ULR5_3GPP サブグループ

3GPP-R5、オプション27型のみ

[:SENSe]:ULR5_3GPP コマンドでは、3GPP-R5 アップリンク解析の条件設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMULR5_3G (3GPP-R5 アップリンク解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:ULR5_3GPP	
:BLOCK	<numeric_value>
:CARRIER	
:OFFSet	<frequency>
:SEARCh	<boolean>
:FILTer	
:ALPHa	<numeric_value>
:MEASurement	OFF RRCosine
:REFerence	OFF RCOsine GAUSSian
[:IMMediate]	
:LENGth	<numeric_value>
:OFFSet	<numeric_value>
:SCODE	
:NUMBer	<numeric_value>
:TYPE	LONG SHORT
:SFRame	
:OFFSet	
:DLTime	<numeric_value>
[:STSLot]	<numeric_value>
:SEARCh	AUTO STSLot DLTime

[:SENSe]:ULR5_3GPP:BLOCK(?)

3GPP-R5 アップリンク解析を行うブロック番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:ULR5_3GPP:BLOCK <value>

[:SENSe]:ULR5_3GPP:BLOCK?

引数: <value>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。
設定範囲: -M ~ 0 (M: 取り込んだブロックの数)

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:ULR5_3GPP:BLOCK -5

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:OFFSet(?)]

3GPP-R5 アップリンク解析で、キャリア周波数オフセットを設定または問合せます。
このコマンドは、[:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:SEARch が OFF のとき有効です。

構文: [:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:OFFSet <freq>

[:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:OFFSet?

引数: <freq>::=<NRf> — キャリア周波数オフセットを設定します。
設定範囲: $-Fs \sim +Fs$ (Fs: スパン)

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: キャリア周波数オフセットを 10MHz に設定します。

:SENSe:ULR5_3GPP:CARRier:OFFSet 10MHz

関連コマンド: [:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:SEARch

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:SEARch(?)]

3GPP-R5 アップリンク解析で、キャリアを自動で検出するかどうかを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:SEARch { OFF | ON | 0 | 1 }

[:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:SEARch?

引数: OFF または 0 — キャリアを自動で検出しません。
[:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:OFFSet コマンドでキャリア周波数を設定します。

ON または 1 — キャリアを自動で検出します。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: キャリアを自動で検出します。

:SENSe:ULR5_3GPP:CARRier:SEARch ON

関連コマンド: [:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:OFFSet

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:ALPHa(?)]

3GPP-R5 アップリンク解析のフィルタ係数 (α /BT) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:ALPHa <value>

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:ALPHa?

引数: <value>::=<NRf> — フィルタ係数を設定します。設定範囲: 0~1。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: フィルタ係数を 0.5 に設定します。

:SENSe:ULR5_3GPP:FILTer:ALPHa 0.5

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:MEASurement(?)]

3GPP-R5 アップリンク解析で、測定フィルタ (Measurement Filter) を選択または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:MEASurement { OFF | RRCosine }`

`[[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:MEASurement?`

引数: OFF — フィルタなしに設定します。

RRCosine — Root Raised Cosine フィルタを選択します。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: 測定フィルタとして Root Raised Cosine を選択します。

`:SENSe:ULR5_3GPP:FILTer:MEASurement RRCosine`

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:REFerence(?)]

3GPP-R5 アップリンク解析で、基準フィルタ (Reference Filter) を選択または問合せます。

構文: `[[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:REFerence { OFF | RCOsine | GAUSsian }`

`[[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:REFerence?`

引数: OFF — フィルタなしに設定します。

RCOsine — Raised Cosine フィルタを選択します。

GAUSsian — ガウス・フィルタを選択します。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: 基準フィルタとして Raised Cosine を選択します。

`:SENSe:ULR5_3GPP:FILTer:REFerence RCOsine`

[[:SENSe]:ULR5_3GPP[:IMMediate]] (問合せなし)

取り込んだデータについて 3GPP-R5 アップリンク解析演算を実行します。
データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。

構文: [:SENSe]:ULR5_3GPP[:IMMediate]

引数: なし

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: 3GPP-R5 アップリンク解析演算を実行します。

:SENSe:ULR5_3GPP:IMMediate

関連コマンド: :INITiate

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:LENGth(?)]

3GPP-R5 アップリンク解析の測定範囲を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:ULR5_3GPP:LENGth <value>

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:LENGth?

引数: <value>::=<NR1> — 測定範囲をポイント数で設定します。
設定範囲: 1 ~ [1024×ブロック・サイズ]
(ブロック・サイズは [[:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します)

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: 測定範囲を 1000ポイントに設定します。

:SENSe:ULR5_3GPP:LENGth 1000

関連コマンド: [[:SENSe]:BSIZe

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:OFFSet(?)]

3GPP-R5 アップリンク解析の測定開始位置を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:ULR5_3GPP:OFFSet <value>

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:OFFSet?

引数: <value>::=<NR1> — 測定開始位置をポイント数で設定します。
設定範囲: 0 ~ 1024×ブロック・サイズ -1
(ブロック・サイズは [[:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します)

測定モード: DEMDDEM

使用例: 測定開始位置を 500ポイントに設定します。

:SENSe:ULR5_3GPP:OFFSet 500

関連コマンド: [[:SENSe]:BSIZe

[:SENSe] :ULR5_3GPP:SCODE:NUMBER(?)

3GPP-R5 アップリンク解析で、スクランプリング・コードを設定または問合せます。

構文: [:SENSe] :ULR5_3GPP:SCODE:NUMBER <value>

[:SENSe] :ULR5_3GPP:SCODE:NUMBER?

引数: <value>::=<NR1> — スクランプリング・コードを設定します。
設定範囲: 0~16777215。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: スクランプリング・コードを 3 に設定します。

:SENSe:ULR5_3GPP:SCODE:NUMBER 3

[:SENSe] :ULR5_3GPP:SCODE:TYPE(?)

スクランプリング・コードの種類を選択または問合せます。

構文: [:SENSe] :ULR5_3GPP:SCODE:TYPE { LONG | SHORT }

[:SENSe] :ULR5_3GPP:SCODE:TYPE?

引数: LONG — ロング・コードを選択します。

SHORT — ショート・コードを選択します。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: ロング・コードを選択します。

:SENSe:ULR5_3GPP:SCODE:TYPE LONG

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:DLTime(?)]

3GPP-R5 アップリンク解析で、[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch が DLTime のとき、ダウンリンク・タイム・オフセットを設定または問合せます。ダウンリンク・タイム・オフセットは、HS-SCCH 開始点と DPCH 開始点の間の時間オフセットです (RSA3408A オプション27 型ユーザ・マニュアル参照)。

構文: [:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:DLTime <value>

[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:DLTime?

引数: <value>::=<NRf> — ダウンリンク・タイム・オフセットを設定します。
設定範囲: 0~149シンボル。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: サブフレーム・オフセットを 35 シンボルに設定します。

:SENSe:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:DLTime 35

関連コマンド: [:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet[:STSLot](?)]

3GPP-R5 アップリンク解析で、[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch が SLSLot のとき、サブフレーム・タイムスロット・オフセットを設定または問合せます。サブフレーム・タイムスロット・オフセットは、DPDCH タイムスロット開始点と HS-DPCCHサブフレーム開始点の間の時間オフセットです (RSA3408A オプション 27 型ユーザ・マニュアル参照)。

構文: [:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet[:STSLot] <value>

[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet[:STSLot]?

引数: <value>::=<NRf> — サブフレーム・タイムスロット・オフセットを設定します。
設定範囲: 0~9 シンボル。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: サブフレーム・オフセットを 5 に設定します。

:SENSe:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:STSLot 5

関連コマンド: [:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch(?)

3GPP-R5 アップリンク解析で、サブフレーム・オフセットを自動で検出するかどうかを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch { AUTO | STSLot | DLTime }

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch?

引数: AUTO (デフォルト) — サブフレーム・オフセットを自動で検出します。

STSLot — サブフレーム・タイムスロット・オフセットを指定します。

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet[:STSLot] コマンドで設定してください。

DLTime — ダウンリンク・タイム・オフセットを指定します。

[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:DLTime コマンドで設定してください。

測定モード: DEMULR5_3G

使用例: サブフレーム・オフセットを自動で検出します。

:SENSe:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch AUTO

関連コマンド: [[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:DLTime,
[[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet[:STSLot]

[:SENSe]:WLAN サブグループ

WLAN、オプション29 型のみ

[:SENSe]:WLAN コマンドでは、WLAN 解析の条件設定を行います。

注：このコマンド・グループを使用する場合、あらかじめ :INSTRument[:SElect] コマンドで DEMWLAN (WLAN 解析) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
[:SENSe]	
:WLAN	
:ACquisition	
:HISTory	<numeric_value>
:SEConds	<numeric_value>
:ANALysis	
:EQualization	
[:STATe]	<boolean>
:LENGth	<numeric_value>
:MODulation	AUTO 064QH 064QL 016QH 016QL OQH OQL OBH OBL CCKH CCKL DDQ DDB P8PH P8PL PQH PBL
:OFFSet	<numeric_value>
:SYNC	LTSYmbol GI
:BLOCK	<numeric_value>
[:IMMediate]	
:MEASurement	PVTime EVTime PVSC EVSC CONSTe SCConste FERRor OFLatness OLINearity STABle SMASK TPOWer OFF
:SMASK	
[:SElect]	DSSS OFDM
:SPECTrum	
:OFFSet	<numeric_value>
:SSEGment	<numeric_value>
:SUBCarrier	
:SElect	DATA PIlot BOTH SSUBcarrier
[:NUMBer]	<numeric_value>
:TPOWer	
:BURSt	
:INDEX	<numeric_value>
:SLOPe	POSitive NEGative

[:SENSe]:WLAN:ACQuisition:HISTory(?)

解析・表示するデータ取り込みブロック番号 (Acquisition History) を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:WLAN:ACQuisition:HISTory <number>

[:SENSe]:WLAN:ACQuisition:HISTory?

引数: <number>::=<Nrf> — データ取り込みブロック番号 (Acquisition History)。最大値は 0 で、最新のブロックを表します。最小値は、スパンとメモリ長により異なります。
[:SENSe]:WLAN:ACQuisition:HISTory? MINimum で確認できます。

測定モード: DEMWLAN

使用例: ブロック番号を -100 に設定します。

:SENSe:WLAN:ACQuisition:HISTory -100

[:SENSe]:WLAN:ACQuisition:SEConds(?)

データ取り込み長 (Acquisition Length) を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:WLAN:ACQuisition:SEConds <value>

[:SENSe]:WLAN:ACQuisition:SEConds?

引数: <number>::=<Nrf> — データ取り込み長 (Acquisition Length)。最小値は $20\mu s$ です。最大値は、スパンとメモリ長により異なります。
[:SENSe]:WLAN:ACQuisition:SEConds? MAXimum で確認できます。

測定モード: DEMWLAN

使用例: データ取り込み長を 2.5ms に設定します。

:SENSe:WLAN:ACQuisition:SEConds 2.5ms

[[:SENSe]:WLAN:ANALysis:EQUalization[:STATe](?)

WLAN 解析で、ロング・トレーニング・シンボルのデータ補正を行うかどうかを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:WLAN:ANALysis:EQUalization[:STATe] { 0 | 1 | OFF | ON }

[[:SENSe]:WLAN:ANALysis:EQUalization[:STATe]?

引数: OFF または 0 — データ補正を行いません。

ON または 1 — データ補正を行います。

測定モード: DEMWLAN

使用例: データ補正を行います。

:SENSe:WLAN:ANALysis:EQUalization:STATe ON

[[:SENSe]:WLAN:ANALysis:LENGth(?)

解析時間 (Analysis Length) を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:WLAN:ANALysis:LENGth <value>

[[:SENSe]:WLAN:ANALysis:LENGth?

引数: <number>::=<NRf> — 解析時間 (Analysis Length)。設定範囲: 0~100ms。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 解析時間を 50 ms に設定します。

:SENSe:WLAN:ANALysis:LENGth 50m

[:SENSe]:WLAN:ANALysis:MODulation(?)

WLAN 解析で、変調の種類を選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:WLAN:ANALysis:MODulation { AUTO | 064QH | 064QL | 016QH | 016QL
| 0QH | 0QL | 0BH | 0BL | CCKH | CCKL | DDQ | DDB | P8PH | P8PL
| PQH | PBL }

[:SENSe]:WLAN:ANALysis:MODulation?

引数: 各引数の意味を下表に示します。

表 2-114: 変調の種類

引数	データ・レート	変調 1次/2次	エンコーディング
AUTO (デフォルト)	自動	自動	
064QH	54Mbps	64QAM/OFDM	3/4
064QL	48Mbps	64QAM/OFDM	2/3
016QH	36Mbps	16QAM/OFDM	3/4
016QL	24Mbps	16QAM/OFDM	1/2
0QH	18Mbps	QPSK/OFDM	3/4
0QL	12Mbps	QPSK/OFDM	1/2
0BH	9Mbps	BPSK/OFDM	3/4
0BL	6Mbps	BPSK/OFDM	1/2
CCKH	11Mbps	CCK	
CCKL	5.5Mbps	CCK	
DDQ	2Mbps	DQPSK/DSSS	
DDB	1Mbps	DBPSK/DSSS	
P8PH	33Mbps	8PSK/PBCC	
P8PL	22Mbps	8PSK/PBCC	
PQH	11Mbps	QPSK/PBCC	
PBL	5.5Mbps	BPSK/PBCC	

測定モード: DEMWLAN

使用例: 64QAM/OFDM (54 Mbps) 変調を選択します。

:SENSe:WLAN:ANALysis:MODulation 064QH

[[:SENSe]:WLAN:ANALysis:OFFSet(?)]

WLAN 解析で、測定開始点を設定または問合せます。

構文: [[:SENSe]:WLAN:ANALysis:OFFSet <value>

[[:SENSe]:WLAN:ANALysis:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — 測定開始点を設定します。設定範囲：0～100ms。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 測定開始点を 50ms に設定します。

`:SENSe:WLAN:ANALysis:OFFSet 50m`

[[:SENSe]:WLAN:ANALysis:SYNC(?)]

WLAN 解析で、ロング・トレーニング・シンボルの同期方法を選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:WLAN:ANALysis:SYNC { LTSYmbol | GI }

[[:SENSe]:WLAN:ANALysis:SYNC?

引数: LTSYmbol — ロング・トレーニング・シンボルと同期を取ります。

GI — ガード・インターバルと同期を取ります。

測定モード: DEMWLAN

使用例: ロング・トレーニング・シンボルと同期を取ります。

`:SENSe:WLAN:ANALysis:SYNC LTSYmbol`

[:SENSe]:WLAN:BLOCK(?)

WLAN 解析で、測定するブロックの番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:WLAN:BLOCK <value>

[:SENSe]:WLAN:BLOCK?

引数: <value>::=<NR1> — ブロック番号を設定します。0 が最新のブロックを表します。
設定範囲: -M~0 (M: 取り込んだブロック数)

測定モード: DEMWLAN

使用例: ブロック番号を -5 に設定します。

:SENSe:WLAN:BLOCK -5

[:SENSe]:WLAN[:IMMEDIATE] (問合せなし)

取り込んだデータについて WLAN 解析の演算を実行します。
測定項目は、[:SENSe]:WLAN:MEASurement コマンドで選択します。
データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。

構文: [:SENSe]:WLAN[:IMMEDIATE]

引数: なし

測定モード: DEMWLAN

使用例: WLAN 解析の演算を実行します。

[:SENSe]:WLAN[:IMMEDIATE]

関連コマンド: :INITiate, [:SENSe]:WLAN:MEASurement

[:SENSe]:WLAN:MEASurement(?)

WLAN 解析で、測定項目を選択または問合せます。
 データの取り込みには、:INITiate コマンドを使います。
 解析を開始するには、[:SENSe]:WLAN[:IMMediate] コマンドを使用します。

構文: [:SENSe]:WLAN:MEASurement { PVTTime | EVTTime | PVSC | EVSC
 | CONStE | SCConste | FERRor | OFLatness | OLINearity | STABle
 | SMASk | TPOWer | OFF }

[:SENSe]:WLAN:MEASurement?

引数: 引数と測定項目を下表に示します。

表 2-115: サブ・ビューの表示形式

引数	表示形式
PVTTime	Power versus Time (電力対時間)
EVTTime	EVM versus Time (EVM 対時間)
PVSC	Power versus SC (電力対サブキャリア)
EVSC	EVM versus SC (EVM 対サブキャリア)
CONStE	コンスタレーション
SCConste	SC Constellation (サブキャリア・コンスタレーション)
FERRor	Frequency error (周波数誤差)
OFLatness	OFDM flatness (OFDM フラットネス)
OLINearity	OFDM linearity (OFDM リニアリティ)
STABle	シンボル・テーブル
SMASk	スペクトラム・マスク
TPOWer	Transmit power (送信電力)
OFF	測定オフ

測定モード: DEMADEM

使用例: 電力対時間を選択します。

:SENSe:WLAN:MEASurement PVTTime

関連コマンド: :INITiate, [:SENSe]:WLAN[:IMMediate]

[[:SENSe]:WLAN:SMASK[:SElect]](?)

スペクトラム・マスク測定 of 信号の種類を選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:WLAN:SMASK[:SElect]] { DSSS | OFDM }

[[:SENSe]:WLAN:SMASK[:SElect]]?

引数: DSSS — DSSS (Direct Sequence Spread Spectrum) 信号を選択します。

OFDM — OFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplexing) 信号を選択します。

測定モード: DEMWLAN

使用例: スペクトラム・マスク測定で DSSS 信号を選択します。

```
:SENSe:WLAN:SMASK:SElect DSSS
```

[[:SENSe]:WLAN:SPECTrum:OFFSet](?)

データ取り込み長 (Acquisition Length) 内でスペクトラム・オフセットを設定または問合せます。スペクトラム・オフセットは、スペクトラムをサブビューに表示するときのスペクトラム長 (Spectrum Length) の開始点です。詳しくは、RSA3408A 型ユーザ・マニュアルを参照してください。

構文: [[:SENSe]:WLAN:SPECTrum:OFFSet <value>

[[:SENSe]:WLAN:SPECTrum:OFFSet?

引数: <value>::=<NRf> — スペクトラム・オフセットを設定します。

設定範囲: 0~100ms。

測定モード: DEMWLAN

使用例: スペクトラム・オフセットを 20ms に設定します。

```
:SENSe:WLAN:SPECTrum:OFFSet 20m
```

[[:SENSe]:WLAN:SSEgment(?)]

シンボル番号を設定または問合せます。

このコマンドは、:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat が、PVSC、EVSC、SSConste、または STABLE のときに有効です。

構文: [:SENSe]:WLAN:SSEgment <number>

[:SENSe]:WLAN:SSEgment?

引数: <value>::=<NR1> — シンボル番号を設定します。設定範囲: 0~14285。

測定モード: DEMWLAN

使用例: シンボルまたはセグメント番号をを 150 に設定します。

:SENSe:WLAN:SSEgment 150

関連コマンド: :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

[[:SENSe]:WLAN:SUBCarrier[:NUMBER](?)

[[:SENSe]:WLAN:SUBCarrier:SElect で SSUBcarrier を選択したときに、サブキャリア番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:WLAN:SUBCarrier[:NUMBER] <number>

[:SENSe]:WLAN:SUBCarrier[:NUMBER]?

引数: <value>::=<NR1> — サブキャリア番号を設定します。
設定範囲: -26~-1、+1~+26 (0 は不可)。

測定モード: DEMWLAN

使用例: サブキャリア番号を 10 に設定します。

:SENSe:WLAN:SUBCarrier:NUMBER 10

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:SUBCarrier:SElect

[[:SENSe]:WLAN:SUBCarrier:SElect(?)]

表示するサブキャリアを選択または問合せます。

構文: [:SENSe]:WLAN:SUBCarrier:SElect { DATA | PIlot | BOTH | SSUBcarrier }

[:SENSe]:WLAN:SUBCarrier:SElect?

引数: DATA — データのみを選択します。

PIlot — パイロットのみを選択します。

BOTH — データとパイロットを選択します。

SSUBcarrier — [:SENSe]:WLAN:SUBCarrier[:NUMBER] コマンドで指定したサブキャリアを選択します (単一サブキャリア)。この選択は、:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat で、PVTime、EVTime、または CONSTe を選択したとき有効です。

測定モード: DEMWLAN

使用例: データのみを選択します。

:SENSe:WLAN:SUBCarrier:SElect DATA

関連コマンド: [:SENSe]:WLAN:SUBCarrier[:NUMBER], :DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat

[[:SENSe]:WLAN:TPOWer:BURSt:INDex(?)]

送信電力測定で、結果を表示するバースト番号を設定または問合せます。

構文: [:SENSe]:WLAN:TPOWer:BURSt:INDex <number>

[:SENSe]:WLAN:TPOWer:BURSt:INDex?

引数: <number>::=<NR1> — バースト番号を設定します。0 が最新のバーストを表します。
設定範囲: -N~0 (N: 解析したバースト数 -1)

測定モード: DEMWLAN

使用例: バースト番号を -10 に設定します。

:SENSe:WLAN:TPOWer:BURSt:INDex -10

[[:SENSe]:WLAN:TPOWer:SLOPe(?)]

送信電力測定で、送信電力オンまたはダウンを選択または問合せます。

構文: [[:SENSe]:WLAN:TPOWer:SLOPe { POSitive | NEGative }

[[:SENSe]:WLAN:TPOWer:SLOPe?

引数: POSitive — 送信電力オンを選択します。

NEGative — 送信電力ダウンを選択します。

測定モード: DEMWLAN

使用例: 送信電力オンを選択します。

:SENSe:WLAN:TPOWer:SLOPe POSitive

:STATus コマンド

:STATus コマンドでは、ステータス・レジスタの設定／読み取りを行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:STATus	
:OPERation	
:CONDition	
:ENABle	<bit_value>
[:EVENT]?	
:NTRansition	<bit_value>
:PTRansition	<bit_value>
:PRESet	
:QUEStionable	
:CONDition	
:ENABle	<bit_value>
[:EVENT]?	
:NTRansition	<bit_value>
:PTRansition	<bit_value>

:STATus:OPERation:CONDition? (問合せのみ)

ステータス・レポーティング機能のレジスタ OCR (Operation Condition Register) の内容を問合せます。レジスタの詳細については第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

構文: :STATus:OPERation:CONDition?

引数: なし

応答: <NR1> — OCR の 2 進数の値が 10 進数で返ります。

測定モード: 全モード

使用例: :STATus:OPERation:CONDition? に対する応答例です。

16

この場合、OCR の内容は、000000000010000 となり、機器が測定中の状態であることを示しています。

:STATus:OPERation:ENABLE(?)

ステータス・レポーティング機能のレジスタ OENR (Operation Enable Register) のマスクを設定します。レジスタの使い方の詳細については、第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

構文: :STATus:OPERation:ENABLE <bit_value>

:STATus:OPERation:ENABLE?

引数: <bit_value>::=<NR1> — OENR のイネーブル・マスク。設定範囲：0～65535。

応答: <NR1> — OENR の2進数の値が10進数で返ります。
範囲：0～32767（最上位ビットはセットされません）

測定モード: 全モード

使用例: CALibrating ビットを「有効」に設定します。

```
:STATus:OPERation:ENABLE 1
```

次は、:STATus:OPERation:ENABLE? 問合せに対する応答例です。

```
1
```

この場合、OENR の内容は 00000000 00000001 で、CAL ビットが有効であることを示しています。

:STATus:OPERation[:EVENT]? (問合せのみ)

ステータス・レポーティング機能のレジスタ OEVR (Operation Event Register) の内容を問合せます。このコマンドで、OEVRの内容は消去されます。レジスタの詳細については、第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

構文: :STATus:OPERation[:EVENT]?

引数: なし

応答: <NR1> — OEVRの2進数の値が10進数で返ります。

測定モード: 全モード

使用例: STATus:OPERation:EVENT? に対する応答例です。

1

この場合、OEVRの内容は 00000000 00000001 で、CALビットがセットされていたことを示します。

:STATus:OPERation:NTRansition(?)

ステータス・レポーティング機能のレジスタ OTR (Operation Transition Register) のネガティブ・トランジション・フィルタの値を設定または問合せます。詳しくは第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

構文: :STATus:OPERation:NTRansition <bit_value>

:STATus:OPERation:NTRansition?

引数: <bit_value>::=<NR1> — OTRのネガティブ・トランジション・フィルタの値。
設定範囲: 0~65535。

応答: <NR1> — OTRの2進数の値が10進数で返ります。
範囲: 0~32767 (最上位ビットはセットされません)

測定モード: 全モード

使用例: ネガティブ・トランジション・フィルタの値を #H120 に設定します。

:STATus:OPERation:NTRansition #H120

次は、:STATus:OPERation:NTRansition? 問合せに対する応答例です。

288

:STATus:OPERation:PTRansition(?)

ステータス・レポーティング機能のレジスタ OTR (Operation Transition Register) のポジティブ・トランジション・フィルタの値を設定または問合せます。詳しくは第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

構文: :STATus:OPERation:PTRansition <bit_value>

:STATus:OPERation:PTRansition?

引数: <bit_value>::=<NR1> — OTR のポジティブ・トランジション・フィルタの値。
設定範囲: 0~65535。

応答: <NR1> — OTR の2進数の値が10進数で返ります。
範囲: 0~32767 (最上位ビットはセットされません)

測定モード: 全モード

使用例: ポジティブ・トランジション・フィルタの値を0に設定します。

```
:STATus:OPERation:PTRansition 0
```

次は、:STATus:OPERation:PTRansition? 問合せに対する応答例です。

```
0
```

:STATus:PRESet (問合せなし)

SCPI のイネーブル・レジスタ (OENR、QENR) をプリセットします。レジスタの詳細については、第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

構文: :STATus:PRESet

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: SCPI のイネーブル・レジスタをプリセットします。

```
:STATus:PRESet
```

:STATus:QUEStionable:CONDition? (問合せのみ)

ステータス・レポーティング機能のレジスタ QCR (Questionable Condition Register) の内容を問合せます。レジスタの詳細については、第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

注：本機器では、レジスタ QCR を使用していません。

構文： :STATus:QUEStionable:CONDition?

引数： なし

応答： <NR1> — QCR の 2 進数の値が 10 進数で返ります。

測定モード： 全モード

:STATus:QUEStionable:ENABle(?)

ステータス・レポーティング機能のレジスタ QENR (Questionable Enable Register) のマスクを設定または問合せます。レジスタの詳細は、第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

注：本機器では、レジスタ QENR を使用していません。

構文： :STATus:QUEStionable:ENABle <bit_value>
:STATus:QUEStionable:ENABle?

引数： <bit_value>::=<NR1> — QENR のイネーブル・マスク。設定範囲：0~65535。

応答： <NR1> — QENR の 2 進数の値が 10 進数で返ります。
範囲：0~32767 (最上位ビットはセットされません)

測定モード： 全モード

:STATus:QUEStionable[:EVENT]? (問合せのみ)

ステータス・レポート機能のレジスタ QEVR (Questionable Event Register) の内容を問合せます。このコマンドによって、QEVR の内容は消去されます。レジスタの詳細については、第 3 章「ステータスとイベント」を参照してください。

注：本機器では、レジスタ QEVR を使用していません。

構文： :STATus:QUEStionable[:EVENT]?

引数： なし

応答： <NR1> — QEVR の 2 進数の値が 10 進数で返ります。

測定モード： 全モード

:STATus:QUEStionable:NTRansition(?)

ステータス・レポート機能のレジスタ QTR (Questionable Transition Register) のネガティブ・トランジション・フィルタの値を設定または問合せます。詳しくは、第 3 章「ステータスとイベント」を参照してください。

注：本機器では、レジスタ QTR を使用していません。

構文： :STATus:QUEStionable:NTRansition <bit_value>

:STATus:QUEStionable:NTRansition?

引数： <bit_value>::=<NR1> — QTR のネガティブ・トランジション・フィルタの値。
設定範囲：0～65535。

応答： <NR1> — QTR の 2 進数の値が 10 進数で返ります。
範囲：0～32767（最上位ビットはセットされません）

測定モード： 全モード

:STATus:QUEStionable:PTRansition(?)

ステータス・レポーティング機能のレジスタ QTR (Questionable Transition Register) のポジティブ・トランジション・フィルタの値を設定または問合せます。詳しくは、第3章「ステータスとイベント」を参照してください。

注：本機器では、レジスタ QTR を使用していません。

構文： :STATus:QUEStionable:PTRansition <bit_value>

:STATus:QUEStionable:PTRansition?

引数： <bit_value>::=<NR1> — QTR のポジティブ・トランジション・フィルタの値。
設定範囲：0～65535。

応答： <NR1> — QTR の2進数の値が10進数で返ります。
範囲：0～32767（最上位ビットはセットされません）

測定モード： 全モード

:SYSTem コマンド

:SYSTem コマンドでは、システム関連の設定を行います。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:SYSTem	
:DATE	<year>,<month>,<day>
:ERRor	
:ALL?	
:CODE	
:ALL?	
[:NEXT]?	
:COUnT?	
[:NEXT]?	
:KLOCK	<boolean>
:OPTions?	
:PRESet	
:TIME	<hour>,<minute>,<second>
:VERSion?	

:SYSTem:DATE(?)

日付（年月日）を設定または問合せます。
この設定は、Windows コントロール・パネルの日付の設定と等価です。

構文： :SYSTem:DATE <year>,<month>,<day>
:SYSTem:DATE?

引数： <year>::=<NRf> 一年、4桁。設定範囲：2000～2099。
<month>::=<NRf> 一月。設定範囲：1～12。
<day>::=<NRf> 一日。設定範囲：1～31。

入力値は、最も近い整数値に丸められます。
*RST では、設定は変わりません。

注： このコマンドでは、引数として MINimum と MAXimum は使用できません。

測定モード： 全モード

使用例： 内部カレンダーを 2002 年 3 月 19 日に設定します。
:SYSTem:DATE 2002,3,19

関連コマンド： :SYSTem:TIME

:SYSTem:ERRor:ALL? (問合せのみ)

エラー／イベント・キューの未読の情報をすべて返し、すべての情報をキューから削除します。エラー・メッセージについては、3-19ページを参照してください。

構文: :SYSTem:ERRor:ALL?

引数: なし

応答: <ecode>,"<edesc>[;<einfo>]"{,<ecode>,"<edesc>[;<einfo>]"}

ここで

<ecode>::=<NR1> — エラー／イベント・コード、-32768~32767。

<edesc>::=<string> — エラー／イベントの内容。

<einfo>::=<string> — エラー／イベントの詳細情報。

測定モード: 全モード

使用例: エラー／イベント・キューの未読の情報をすべて返し、すべての情報をキューから削除します。

```
:SYSTem:ERRor:ALL?
```

次は応答例です。

```
-130, "Suffix error; Unrecognized suffix, INPut:MLEVel -10dBm"
```

この場合、単位が不適切であることを示しています。

:SYSTem:ERRor:CODE:ALL? (問合せのみ)

エラー／イベント・キューの未読のエラー／イベント・コードをすべて返し、すべての情報をキューから削除します。

エラー・メッセージについては、3-19ページを参照してください。

構文: :SYSTem:ERRor:CODE:ALL?

引数: なし

応答: <ecode>{,<ecode>}

ここで

<ecode>::=<NR1> — エラー／イベント・コード、-32768～32767。

測定モード: 全モード

使用例: エラー／イベント・キューの未読のエラー／イベント・コードをすべて返し、すべての情報をキューから削除します。

:SYSTem:ERRor:CODE:ALL?

次は応答例です。

-101,-108

:SYSTem:ERRor:CODE[:NEXT]? (問合せのみ)

エラー／イベント・キューの未読の最新エラー／イベント・コードを返して、その情報をキューから削除します。

エラー・メッセージについては、3-19ページを参照してください。

構文: :SYSTem:ERRor:CODE[:NEXT]?

引数: なし

応答: <ecode>::=<NR1> — エラー／イベント・コード、-32768~32767。

測定モード: 全モード

使用例: エラー／イベント・キューの未読の最新エラー／イベント・コードを返して、その情報をキューから削除します。

:SYSTem:ERRor:CODE:NEXT?

次は応答例です。

-101

:SYSTem:ERRor:COUNT? (問合せのみ)

エラー／イベント・キューの未読のエラー／イベントの数を返します。

構文: :SYSTem:ERRor:COUNT?

引数: なし

応答: <enum>::=<NR1> — エラー／イベントの数。

測定モード: 全モード

使用例: エラー／イベント・キューの未読のエラー／イベントの数を返します。

:SYSTem:ERRor:COUNT?

次の応答例は、エラーが2個あることを示しています。

2

:SYSTem:ERRor[:NEXT]? (問合せのみ)

エラー／イベント・キューの未読の情報を返し、その情報をキューから削除します。
エラー／イベント・メッセージについては、3-19ページを参照してください。

構文: :SYSTem:ERRor[:NEXT]?

応答: <ecode>,"<edesc>[:<einfo>]"

ここで

<ecode>::=<NR1> — エラー／イベント・コード、-32768~32767。

<edesc>::=<string> — エラー／イベントの内容。

<einfo>::=<string> — エラー／イベントの詳細。

測定モード: 全モード

使用例: :SYSTem:ERRor[:NEXT]? 問合せコマンドに対する応答例です。

-130, "Suffix error; Unrecognized suffix, INPut:MLEVel -10dBm"

この場合、単位が不適切であることを示しています。

:SYSTem:KLOCK(?)

前面パネル・キーの機能のロックまたはロック解除を選択あるいは問合せます。

構文: :SYSTem:KLOCK { OFF | ON | 0 | 1 }

:SYSTem:KLOCK?

引数: OFF または 0 — 前面パネル・キーの機能のロックを解除します。

ON または 1 — 前面パネル・キーの機能をロックします。

測定モード: 全モード

使用例: 前面パネル・キーの機能をロックします。

:SYSTem:KLOCK ON

:SYSTem:OPTions? (問合せのみ)

本機器に組み込まれているオプションを確認します。
このコマンドは、IEEE 共通コマンドの *OPT? と等価です。

構文: :SYSTem:OPTions?

引数: なし

応答: <option>::=<string> — コンマで区切ったオプション番号。

測定モード: 全モード

使用例: :SYSTem:OPTions? 問合せコマンドに対する応答例です。

"02,03,21"

これは、オプション02型、03型、および21型が組み込まれていることを示しています。

関連コマンド: *OPT?

:SYSTem:PRESet (問合せなし)

本機器をデフォルト状態に設定します。前面パネルの **PRESET** キーと等価です。

構文: :SYSTem:PRESet

引数: なし

測定モード: 全モード

使用例: 本機器をデフォルト状態に設定します。

:SYSTem:PRESet

:SYSTem:TIME(?)

時刻（時、分、秒）を設定または問合せます。
この設定は、Windows コントロール・パネルの時刻の設定と等価です。

構文: :SYSTem:TIME <hour>,<minute>,<second>

:SYSTem:TIME?

引数: <hour>::=<NRf> — 時。設定範囲：0～23。

<minute>::=<NRf> — 分。設定範囲：0～59。

<second>::=<NRf> — 秒。設定範囲：0～59。

入力値は、最も近い整数値に丸められます。
*RST では、設定は変わりません。

注: このコマンドでは、引数として MINimum と MAXimum は使用できません。

測定モード: 全モード

使用例: 時刻を 10時 15分 30秒に設定します。

:SYSTem:TIME 10,15,30

関連コマンド: :SYSTem:DATE

:SYSTem:VERsion? (問合せのみ)

SCPI のバージョンを確認します。

構 文 : :SYSTem:VERsion?

引 数 : なし

応 答 : <NR2> – YYYY.V の数値データが返ります (例 : 1999.0)。

測定モード : 全モード

使用例 : SCPI のバージョンを確認します。

```
:SYSTem:VERsion?
```

次は応答例です。

```
1999.0
```


:TRACe コマンド

:TRACe コマンドでは、トレース1, 2 の表示の仕方を設定します。

注 : :TRACe コマンドは、リアルタイム以外の S/A (スペクトラム解析) モードで有効です。このコマンド・グループを使用する場合には、あらかじめ :INSTRument [:SElect] コマンドで S/A モード (SARTIME と SAZRTIME を除く) を選択しておく必要があります。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:TRACe<x> :DATA<x>	
:AVERage	
:CLEar	
:COUNT	<number>
:DDETEctor	MAXimum MINimum PTPeak
:MODE	NORMal AVERage MAXHold MINHold FREeze OFF
:TRACe2 :DATA2 (オプション21 型のみ)	
:MODE	MAXimum REference OFF

ここで

TRACe<x>::={ TRACe[1] | TRACe2 }、DATA<x>::={ DATA[1] | DATA2 }

TRACe[1] または DATA[1] — トレース1 に対する設定を表します。

TRACe2 または DATA2 — トレース2 に対する設定を表します。

:TRACe<x>|:DATA<x>:AVERage:CLEar (問合せなし)

トレース1 または 2 のアベレージ処理を初めから実行し直します。

構文: :TRACe<x>|:DATA<x>:AVERage:CLEar

引数: なし

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: トレース1 のアベレージ処理を初めから実行し直します。

:TRACe1:AVERage:CLEar

:TRACe<x>|:DATA<x>:AVERage:COUNT(?)

トレース1 または 2 のアベレージ回数を設定します。

構文: :TRACe<x>|:DATA<x>:AVERage:COUNT <number>

:TRACe<x>|:DATA<x>:AVERage:COUNT?

引数: <number>::=<NR1> — アベレージ回数を設定します。設定範囲：1～100000。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: トレース1 のアベレージ回数を 64 に設定します。

:TRACe1:AVERage:COUNT 64

関連コマンド: :TRACe<x>|:DATA<x>:MODE

:TRACe<x>|:DATA<x>:DDETECTOR(?)

トレース1 または 2 の表示ディテクタを選択または問合せます。

画面の水平方向のピクセル数は、一般に波形のデータ・ポイント数より少ないため、波形データは、実際に表示されるときにピクセル数に合わせて間引き圧縮されます。このコマンドで波形表示の圧縮方法を選択します。詳細は、ユーザ・マニュアルを参照してください。

構文: :TRACe<x>|:DATA<x>:DDETECTOR { MAXimum | MINimum | PTPeak }

:TRACe<x>|:DATA<x>:DDETECTOR?

引数: MAXimum — 各ピクセルごとに対応するデータの最大値を表示します。

MINimum — 各ピクセルごとに対応するデータの最小値を表示します。

PTPeak — 各ピクセルごとに対応するデータの最大値と最小値を直線で結んで表示します。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: トレース1 について、各ピクセルごとに対応するデータの最大値を表示します。

:TRACe1:DDETECTOR MAXimum

:TRACe<x>|:DATA<x>:MODE(?)

トレース1 または 2 の表示モードを設定または問合せます。

構文: :TRACe<x>|:DATA<x>:MODE { NORMAl | AVERAge | MAXHold | MINHold | FREeze
| OFF }

:TRACe<x>|:DATA<x>:MODE?

引数: NORMAl — 通常のスpektrum表示を選択します。

AVERAge — 波形を平均処理して表示します。

平均回数は :TRACe<x>|:DATA<x>:AVERAge:COUNT コマンドで設定します。

MAXHold — 波形の各データ・ポイントで最大値を保持します。

MINHold — 波形の各データ・ポイントで最小値を保持します。

FREeze — 波形表示の更新を停止します。

OFF — 波形を画面に表示しません。

測定モード: SARTIME と SAZRTIME を除く全 S/A モード

使用例: トレース1 を平均処理して表示します。

:TRACe1:MODE AVERAge

関連コマンド: :TRACe<x>|:DATA<x>:AVERAge:COUNT

:TRACe2|:DATA2:MODE(?) (オプション21 型のみ)

シグナル・ソース解析で、トレース2の表示の仕方を選択または問合せます。

このコマンドは :INSTrument[:SElect] の設定が TIMSSOURCE (シグナル・ソース解析) で、[:SENSe]:SSO-urce:MEASurement の設定が PNOise (位相雑音測定) のときに有効です。

構文: :TRACe2|:DATA2:MODE { MAXMinimum | REference | OFF }

:TRACe2|:DATA2:MODE?

引数: MAXMinimum — Max-Min 波形を表示します。Max-Min 波形については、RSA3408A 型ユーザ・マニュアルの「トレースの圧縮表示」を参照してください。

REference — :MMEMory:STORe:TRACe1 (1 でなければなりません) コマンドで保存したリファレンス波形を表示します。

OFF — トレース2を表示しません。

測定モード: TIMSSOURCE

使用例: トレース2としてリファレンス波形を表示します。

:TRACe2:MODE REference

関連コマンド: :INSTrument[:SElect], :MMEMory:STORe:TRACe1, [:SENSe]:SSO-urce:MEASurement

:TRIGger コマンド

:TRIGger コマンドでは、トリガの設定を行います。
トリガの説明については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:TRIGger	
[:SEquence]	
:LEVel	
:EXternal	<numeric_value>
:IQFrequency	<bin_number>,<amplitude> (オプション02 型のみ)
:IQTime	<numeric_value>
:MODE	AUTO NORMal
:MPOsition?	<numeric_value>
:OPOsition?	<numeric_value>
:POsition	<numeric_value>
:SAVE	
:COUNt	
:MAXimum	<numeric_value>
[:STATe]	<boolean>
[:STATe]	<boolean>
:SLOPe	POSitive NEGative PNEGative NPOSitive
:SOURce	EXternal IQFrequency IQTime

:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:EXTernal(?)

:TRIGger[:SEQuence]:SOURce コマンドでトリガ・ソースを EXTernal に設定したときに、トリガ・レベルを設定または問合せます。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:LEVel:EXTernal <value>

:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:EXTernal?

引数: <value>::=<NR1> — 外部トリガ・レベルを設定します。
設定範囲: -1.5~+1.5V、0.1V ステップ (デフォルト: 1.4V)

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: 外部トリガ・レベルを 1.2V に設定します。

```
:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:EXTernal 1.2
```

関連コマンド: :TRIGger[:SEQuence]:SOURce

:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:IQFRrequency(?) (オプション02 型のみ)

:TRIGger[:SEQuence]:SOURce コマンドでトリガ・ソースを IQFRrequency に設定したときに、トリガ・レベルを設定または問合せます。

IQ 周波数トリガは、トリガ・マスクを使用したトリガ機能です。
この機能の詳細については、ユーザ・マニュアルを参照してください。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:LEVel:IQFRrequency <bnum>,<amp;lt;1>

:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:IQFRrequency? <bnum>

引数: <bnum>::=<NR1> — トリガ・レベルを設定する点のビン番号 (スパン内で周波数の下限から上限までを等分した番号) を入力します。設定範囲はスパンによります。

表 2-116: ビン番号設定範囲

スパン	ビン番号
20MHz 以下	0~800
36MHz	0~720
40MHz (ベースバンド)	0~800

<amp;lt;1>::=<NRf> — リファレンス・レベルを基準として、トリガ・レベルを設定します。設定範囲: -60~0 dB。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例 : スパン 2MHz で、下図に示したトリガ・マスク（灰色の領域）を設定します。

```

:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 0,-10dB
:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 1,-10dB
...
:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 255,-10dB
:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 256,-30dB
:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 257,-30dB
...
:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 384,-30dB
:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 385,-10dB
:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 386,-10dB
...
:TRIGger:SEquence:LEVel:IQFrequency 640,-10dB

```

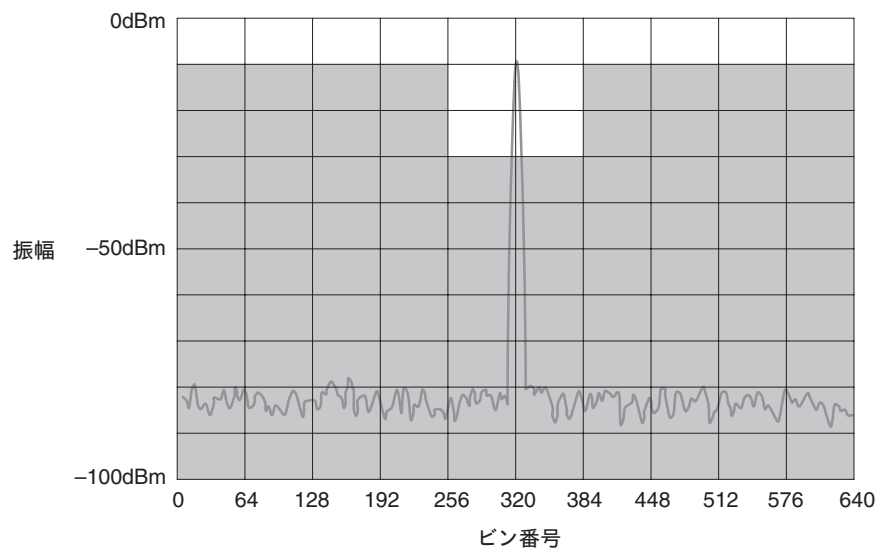


図 2-29 : トリガ・マスク設定例

関連コマンド : :TRIGger[:SEquence]:SOURce

:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:IQTime(?)

:TRIGger[:SEQuence]:SOURce コマンドでトリガ・ソースを IQTime に設定したときに、トリガ・レベルを設定または問合せます。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:LEVel:IQTime <amp1>

:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:IQTime?

引数: <amp1>::=<NR1> — IQ 時間トリガ・レベルを設定します。設定範囲：-40~0 dB。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: IQ 時間トリガ・レベルを -10dB に設定します。

:TRIGger:SEQuence:LEVel:IQTime -10

関連コマンド: :TRIGger[:SEQuence]:SOURce

:TRIGger[:SEQuence]:MODE(?)

トリガ・モードを選択または問合せます。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:MODE { AUTO | NORMal }

:TRIGger[:SEQuence]:MODE?

引数: AUTO — :INITiate[:IMMediate] コマンドを送ると、トリガが発生します。シングル・モードでは、1波形分のデータが取り込まれ、表示されます。連続モードでは、データの取り込みと表示が繰り返されます。

NORMal — あらかじめトリガ条件を設定しておき、:INITiate[:IMMediate] コマンドを送ると、トリガが発生した後に処理が停止します。トリガ条件はトリガ・ソース、スロープ、レベル、およびポジションがあります。次ページを参照してください。

注: トリガ・モードを AUTO に設定した場合には、トリガ・ソース、スロープ、ポジション、およびレベルは設定できません。

*RST コマンドを実行すると、トリガ・モードは AUTO に設定されます。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: AUTO トリガを選択します。

```
:TRIGger:SEQuence:MODE AUTO
```

関連コマンド: :INITiate:CONTinuous, :INITiate[:IMMediate]
:TRIGger[:SEQuence]:LEVel, :TRIGger[:SEQuence]:POSition,
:TRIGger[:SEQuence]:SLOPe, :TRIGger[:SEQuence]:SOURce

:TRIGger[:SEQuence]:MPOStion? (問合せのみ)

:FETCh または :READ コマンドで測定結果を取得したときに取り込んだ1ブロックデータ中のトリガ発生点を問合せます。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:MPOStion? <value>

引数: <value>::=<NR1> — ブロック番号を指定します。0が最新のフレームを表します。
 設定範囲: -2285~0 (標準) / -9142~0 (オプション02型)

応答: <NR1> — トリガ発生点。応答値の範囲は、トリガの発生によります (下表参照)。

トリガの発生	応答値の範囲 ¹
トリガが発生した場合	-1024 ~ (ブロック・サイズ) × 1024 - 1
トリガが発生なかった場合	(ブロック・サイズ) × 1024

¹ ブロック・サイズは、[:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します。

マイナスの値は、ブロック・データが取り込まれる前にトリガが発生したことを示しています。

測定がされていない場合に :TRIGger[:SEQuence]:MPOStion? MINimum | MAXimum を送ると、“Execution error” (-200) が返ります。

注: :TRIGger[:SEQuence]:SLOPe コマンドで PNEGative または NPOStive を選択した場合または :TRIGger[:SEQuence]:SOURce コマンドで IQFRequency を選択した場合、本機器はトリガ発生点が定められないため、応答値は :TRIGger[:SEQuence]:OPOStion? 問合せと同じになります。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: ブロック-15 のトリガ発生点を問合せます。

```
:TRIGger:SEQuence:OPOStion? -15
```

次の応答例は、トリガ発生点が1ブロック中123ポイント目であることを示しています。

```
123
```

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZe, :TRIGger[:SEQuence]:OPOStion?, :TRIGger[:SEQuence]:SLOPe, :TRIGger[:SEQuence]:SOURce

:TRIGger[:SEQuence]:OPOStion? (問合せのみ)

:FETCh または :READ コマンドで測定結果を取得したときに取り込んだ1ブロックデータ中のトリガ出力点を問合せます (トリガ出力点は画面上、オーバービューに“T”で示されます)。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:OPOStion? <value>

引数: <value> ::= <NR1> — ブロック番号を指定します。0が最新のフレームを表します。
設定範囲: -2285~0 (標準) / -9142~0 (オプション02型)

応答: <NR1> — トリガ出力点。応答値の範囲は、トリガの発生によります (下表参照)。

トリガの発生	応答値の範囲 ¹
トリガが発生した場合	-1024 ~ (ブロック・サイズ) × 1024 - 1
トリガが発生なかった場合	(ブロック・サイズ) × 1024

¹ ブロック・サイズは、[:SENSe]:BSIZe コマンドで設定します。

マイナスの値は、ブロック・データが取り込まれる前にトリガが出力されたことを示しています。

測定がされていない場合に :TRIGger[:SEQuence]:OPOStion? MINimum | MAXimum を送ると、“Execution error” (-200) が返ります。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: ブロック-15のトリガ出力点を問合せます。

```
:TRIGger:SEQuence:OPOStion? -15
```

次の応答例は、トリガ出力点が1ブロック中134ポイント目であることを示しています。

```
134
```

関連コマンド: [:SENSe]:BSIZe

:TRIGger[:SEQuence]:POSition(?)

トリガ・ポジションを設定または問合せます。

このコマンドを実行する前に、:TRIGger[:SEQuence]:MODE コマンドでトリガ・モードを NORMAl に設定しておく必要があります。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:POSition <value>

:TRIGger[:SEQuence]:POSition?

引数: <value>::=<NRf> — トリガ・ポジションを設定します。設定範囲：0～100%。
トリガ・ポジションは、1ブロック内のトリガ位置を % で表した値です。
例えば 50% では、1ブロックの真中のフレームがトリガ発生位置となります。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: トリガ・ポジションを 10% に設定します。

:TRIGger:SEQuence:POSition 10pct

関連コマンド: :TRIGger[:SEQuence]:MODE

:TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT[:STATe](?)

セーブ・オン・トリガで、データ保存回数に上限を設定するかどうか選択または問合せます。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }

:TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT[:STATe]?

引数: OFF または 0 — データ保存回数に上限を設定しません。
この場合、前面パネルの **RUN/STOP** キーか、:ABORt または :INITiate コマンドでデータ取り込みを中止します。

ON または 1 — データ保存回数が上限に達すると、取り込みが停止します。
上限の設定には、:TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT:MAXimum コマンドを使用します。

注: 内蔵ハード・ディスクが一杯になると、データ取り込みが停止し、エラー・メッセージ「Media full」が表示されます。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: データ保存回数が上限に達すると、取り込みが停止するように設定します。

:TRIGger:SEQuence:SAVE:COUNT:STATe ON

関連コマンド: :ABORt, :INITiate, :TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT:MAXimum

:TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT:MAXimum(?)

セーブ・オン・トリガで、データ保存回数の上限を設定または問合せます。
このコマンドは、:TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT[:STATe] の設定が On のときに有効です。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT:MAXimum <value>
:TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT:MAXimum?

引数: <value>::=<NRF> — データ保存回数の上限を設定します。設定範囲: 1~16383。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: データ保存回数の上限を 10000 に設定します。

:TRIGger:SEQuence:SAVE:COUNT:MAXimum 10000

関連コマンド: :TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT[:STATe]

:TRIGger[:SEQuence]:SAVE[:STATe](?)

セーブ・オン・トリガ機能（トリガ発生ごとに 1 ブロック・データを .IQT ファイルに保存する）を有効にするかどうか選択または問合せます。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:SAVE[:STATe] { OFF | ON | 0 | 1 }
:TRIGger[:SEQuence]:SAVE[:STATe]?

引数: OFF または 0 (デフォルト) — セーブ・オン・トリガを無効にします。

ON または 1 — セーブ・オン・トリガを有効にします。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: セーブ・オン・トリガを有効にします。

:TRIGger:SEQuence:SAVE:STATe ON

関連コマンド: :TRIGger[:SEQuence]:SAVE:COUNT[:STATe]

:TRIGger[:SEQuence]:SLOPe(?)

トリガ・スロープを選択または問合せます。

このコマンドを実行する前に、:TRIGger[:SEQuence]:MODE コマンドでトリガ・モードを NORMAl に設定しておく必要があります。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:SLOPe { POSitive | NEGative | PNEGative | NPOSitive }
:TRIGger[:SEQuence]:SLOPe?

引数: POSitive — トリガ信号の立ち上がりでトリガをかけます。

NEGative — トリガ信号の立ち下がりでトリガをかけます。

PNEGative — 最初のブロックはトリガ信号の立ち上がりでトリガをかけて取り込み、次のブロックは立ち下がりでトリガをかけて取り込みます。ブロック取り込みごとに立ち上がりと立ち下がりを交互に切り替えます。

NPOSitive — 最初のブロックはトリガ信号の立ち下がりでトリガをかけて取り込み、次のブロックは立ち上がりでトリガをかけて取り込みます。ブロック取り込みごとに立ち上がりと立ち下がりを交互に切り替えます。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: トリガ信号の立ち上がりでトリガをかけます。

```
:TRIGger:SEQuence:SLOPe POSitive
```

関連コマンド: :TRIGger[:SEQuence]:MODE

:TRIGger[:SEQuence]:SOURce(?)

トリガ・ソースを選択または問合せます。

このコマンドを実行する前に、:TRIGger[:SEQuence]:MODE コマンドでトリガ・モードを NORMAl に設定しておく必要があります。

構文: :TRIGger[:SEQuence]:SOURce { IQTime | IQFrequency | EXTernal }

:TRIGger[:SEQuence]:SOURce?

引数: IQTime (デフォルト) — 時間領域でトリガをかけます。
入力信号をトリガ・ソースとします。

IQFrequency (オプション02型のみ) — 周波数領域でトリガをかけます。
トリガ・マスクをトリガ・ソースとします。

EXTernal — 後部パネルにある TRIG INコネクタから入力した外部信号をトリガ・ソースとします。トリガ・レベルは、:TRIGger[:SEQuence]:LEVel:EXTernal コマンドで設定します。

測定モード: SARTIME、SAZRTIME、全 DEMOD モード、全 TIME モード

使用例: 外部トリガを選択します。

:TRIGger:SEQuence:SOURce EXTernal

関連コマンド: :TRIGger[:SEQuence]:LEVel:EXTernal, :TRIGger[:SEQuence]:MODE

:UNIT コマンド

:UNIT コマンドでは、測定単位を設定します。

コマンド一覧

ヘッダ	パラメータ
:UNIT	
:ANGLE	DEG RAD

:UNIT:ANGLE(?)

角度の単位を選択または問合せます。

構文: :UNIT:ANGLE { DEG | RAD }

:UNIT:ANGLE?

引数: DEG — 角度の単位を度 (degree) にします (デフォルト)。

RAD — 角度の単位をラジアン (radian) にします。

測定モード: 全モード

使用例: 角度の単位をラジアンにします。

:UNIT:ANGLE RAD

応答メッセージの取り出し

外部コントローラから WCA230A型/WCA280A型に問合せコマンドを送ると、出力キューに応答メッセージが置かれます。応答メッセージを見るときは、外部コントローラから取り出し操作を行う必要があります（例えば、National Instruments 社の GPIB ソフトウェアに含まれるサブルーチン IBRD を呼び出します）。

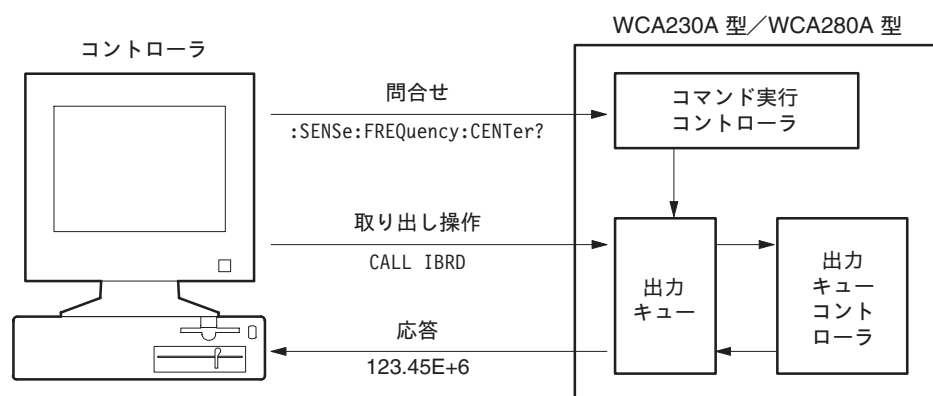


図 2-30 : 応答メッセージの取り出し

応答メッセージが出力キューに入っているときに、そのメッセージを取り出す前に外部コントローラから他のコマンドを送ると、キューにあるメッセージは消去されます。出力キューには、常に最新の問合せコマンドに対する応答メッセージが入ります。

応答メッセージが出力キューに入っているかいないかの確認には、レジスタ SBR (Status Byte Register) の MAV ビットを使います。詳しくは、3-7ページの「ステータス・バイト・レジスタ (SBR)」を参照してください。

第 3 章 ステータスとイベント

ステータスとイベント

ステータス／イベント・レポーティング機能

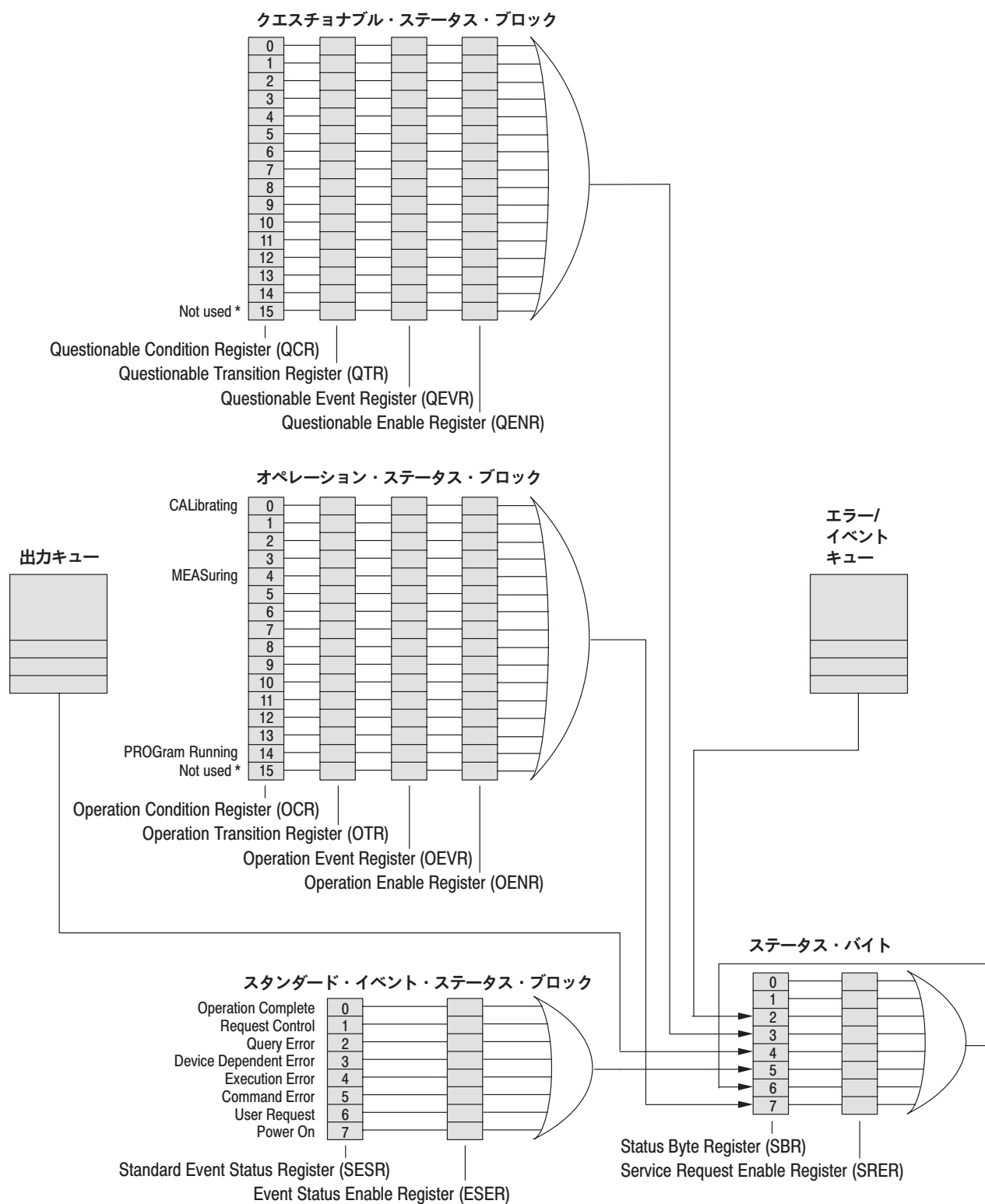
WCA200 シリーズは、SCPI 1999.0 および IEEE-488.2 規格に準拠したステータス／イベント・レポーティング機能を持っています。この機能は、本機器にどのイベントが発生したか、また本機器がどのような状態にあるかを調べるものです。

図 3-1 に WCA200 シリーズのステータス／イベント・レポーティング機構の概要を示します。

ステータス・レポーティング機構は、次の 3 つのブロックに分類されます。

- スタンダード・イベント・ステータス
- オペレーション・ステータス
- クエスチョナブル・ステータス

これらブロックで行われる処理は、ステータス・バイトに集約され、ユーザに必要なステータス／イベント情報を提供します。



* SCPI では、ビット15 の使用は許されていません。ビット15 の値は常に0 です。

図 3-1 : ステータス/イベント・レポート機構

スタンダード・イベント・ステータス・ブロック

電源のオン/オフ、コマンドのエラー、および実行状態をレポートするブロックです。

図 3-1 下部のスタンダード・イベント・ステータス・ブロックを参照してください。このブロックは、次の2つのレジスタで構成されています。

- イベント・ステータス・レジスタ
(SESR: Standard Event Status Register)
8ビットのステータス・レジスタです。機器にエラーその他のイベントが発生すると、対応するビットがセットされます。ユーザの書き込みはできません。
- イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ
(ESER: Event Status Enable Register)
8ビットのイネーブル・レジスタで、SESR にマスクをかける働きをします。マスクは、ユーザが設定できます。SESR と論理積をとり、SBR (ステータスバイト・レジスタ) の ESB (イベント・ステータス・ビット) をセットするかどうかを決定できます。

レジスタの各ビットの内容については、3-6ページの「レジスタ」を参照してください。

処理の流れ

イベントが発生すると、イベントに対応する SESR のビットがセットされ、エラー／イベント・キューにイベントがスタックされます。SBR の OAV ビットもセットされます。イベントに対応するビットが ESER にもセットされていれば、SBR の ESB ビットもセットされます。

メッセージが出力キューに送られると、SBR の MAV ビットがセットされます。

オペレーション・ステータス・ブロック

機能実行中の状態をレポートします。

図 3-1 中央のオペレーション・ステータス・ブロックを参照してください。
このブロックは、次の 4種類のレジスタで構成されています。

- オペレーション・コンディション・レジスタ
(OCR: Operation Condition Register)
機器がある状態になると、対応するビットがセットされます。
ユーザの書き込みはできません。
- オペレーション・トランジション・レジスタ
(OTR: Operation Transition Register)
OTR には、次の 2種類があります。
 - オペレーション・ポジティブ・トランジション・レジスタ
(OPTR: Operation Positive Transition Register)
OCR の対応するビットが“偽” (リセット状態) から“真” (セット状態) に
変化した時にフィルタリングを行うフィルタです。
 - オペレーション・ネガティブ・トランジション・レジスタ
(OPNR: Operation Negative Transition Register)
OCR の対応するビットが“真” から“偽” に変化した時にフィルタリング
を行うフィルタです。
- オペレーション・イベント・レジスタ
(OEVR: Operation Event Register)
OEVR には、OTR のフィルタを通して対応するビットがセットされます。
- オペレーション・イネーブル・レジスタ
(OENR: Operation Enable Register)
OEVR にマスクをかける働きがあります。マスクは、ユーザが設定できます。
OEVR と論理積をとり、SBR (ステータス・バイト・レジスタ) の OSB (オペ
レーション・ステータス・ビット) をセットするかどうかを決定できます。

レジスタの各ビットの内容については、3-6ページの「レジスタ」を参照してくだ
さい。

処理の流れ

OCR に指定された状態が変化すると、OCR のビットがセットまたはリセットされ
ます。この変化はトランジション・レジスタでフィルタリングされ、OEVR の対応
するビットがセットされます。状態に対応するビットが OENR にもセットされて
いれば、SBR の OSS ビットもセットされます。

クエスチョナブル・ステータス・ブロック

機器が生成する信号や取り込むデータの精度など、信号やデータに関する状態などをレポートします。レジスタの構成と処理の流れは、オペレーション・ステータスブロックと同じです。ただし、SBRの対応ビットはQSBです。

注：本機器では、クエスチョナブル・ステータス・ブロックを使用していません。このブロックのレジスタの値は、いずれも常にゼロです。

レジスタ

レジスタは、大別すると次の3種類に分類されます。

- ステータス・レジスタ：機器のステータスに関するデータを保存します。このレジスタは、機器により設定されます。
- イネーブル・レジスタ：機器内で発生するイベントを、ステータス・レジスタとイベント・キューの対応するビットにセットするかどうかを決めます。
- トランジション・レジスタ：イベントが生成したか、あるいは消滅したかを調べるフィルタ・レジスタです。ユーザが目的に応じて設定できます。

ステータス・レジスタ

ステータス・レジスタには、次の6種類があります。

- ステータス・バイト・レジスタ (SBR)
- スタンダード・イベント・ステータス・レジスタ (SESR)
- オペレーション・コンディション・レジスタ (OCR)
- オペレーション・イベント・レジスタ (OEVR)
- クエスチョナブル・コンディション・レジスタ (QCR)
- クエスチョナブル・イベント・レジスタ (QEVN)

エラーと機器の状態を調べるときには、これらのレジスタの内容を読み出してください。

ステータス・バイト・レジスタ (SBR: Status Byte Register)

SBR は、8 ビットで構成されます。ビット4, 5, 6 は、IEEE Std 488.2-1987 に準拠しています (図3-2、表3-1 参照)。これらのビットは、それぞれ、出力待ち行列、SESR、およびサービス・リクエストをモニタするために使用されます。このレジスタの内容は、問合せ *STB? が送られたときに返されます。

	6							
7	RQS	5	4	3	2	1	0	
OSS	6	ESB	MAV	QSS	EAV	—	—	
	MSS							

図 3-2 : ステータス・バイト・レジスタ (SBR)

表 3-1: SBR のビット機能

ビット	機 能
7	OSS (Operation Summary Status)
6	RQS (Request Service) / MSS (Master Summary Status) : 機器が GPIB シリアル・ポール・コマンドでアクセスされたとき、このビットはリクエスト・サービス (RQS) ビットとして機能し、コントローラに対してサービス・リクエストが発生したこと (GPIB バスの SRQ ラインが "L") を示します。RQS ビットは、シリアル・ポールが終了したときにクリアされます。 機器が、問合せ*STB?によりアクセスされた場合には、このビットは、マスタサマリ・ステータス(MSS)ビットとして機能し、機器が何かの理由でサービスリクエストを要求していることを示します。MSS ビットは、問合せ *STB? で 0 になることはありません。
5	ESB (Event Status Bit) : 前のスタンダード・イベント・ステータス・レジスタ (SESR) がクリアされた後、またはイベントの読み出しが実行された後に、新しいイベントが発生しているかどうかを示します。
4	MAV (Message Available Bit) : このビットは、メッセージが出力キュー内に置かれ、検索できることを示します。
3	QSS (Questionable Summary Status) : 本機器では、常にゼロです。
2	EAV (Event Queue Available)
1, 0	未使用。

スタンダード・イベント・ステータス・レジスタ (SESR: Standard Event Status Register)

SESR は、8 ビットで構成されます。各ビットは、図3-3 と表3-2 に示すように様々なイベントの発生を記録します。このレジスタの内容は、問合せ *ESR? を送ったときに返されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
PON	—	CME	EXE	DDE	QYE	—	OPC

図 3-3 : スタンダード・イベント・ステータス・レジスタ (SESR)

表 3-2: SESR のビット機能

ビット	機 能
7	PON (Power On) : 機器の電源がオンになっていることを示します。
6	未使用。
5	CME (Command Error) : コマンドの構文解析で、コマンド・テーブル検索中にコマンド・エラーが発生したことを示します。
4	EXE (Execution Error) : コマンドまたは問合せ実行中にエラーが発生したことを示します。
3	DDE (Device-Dependent Error) : 機器固有のエラーが検出されたことを示します。
2	QYE (Query Error) : 出力キュー・コントローラで、問合せエラーが検出されたことを示します。このエラーは、次のいずれかの原因で発生します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 出力キューが空の状態またはステータスが未処理にもかかわらず、出力キューからメッセージを読み出そうとしたとき。 ■ 出力キュー・メッセージが検索されていないにもかかわらず、クリアされたとき。
1	未使用。
0	OPC (Operation Complete) : このビットは、*OPC コマンドの実行結果によりセットされます。未処理のすべての操作が完了したことを示します。

オペレーション・コンディション・レジスタ (OCR: Operation Condition Register)

オペレーション・コンディション・レジスタは、16ビットのレジスタで、各ビットに以下のイベントの発生を記録します。

15	14 PROG	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4 MEAS	3	2	1	0 CAL
----	------------	----	----	----	----	---	---	---	---	---	-----------	---	---	---	----------

図 3-4 : オペレーション・コンディション・レジスタ (OCR)

表 3-3: OCR のビット機能

ビット	機 能
15	未使用。
14	PROG (PROGram Running Bit) : マクロ・プログラムが実行中かどうかを示します。:PROGram:EXECute コマンドでマクロ・プログラム実行中、このビットがセットされ、終了すると、リセットされます。
13~5	未使用。
4	MEAS (MEASuring Bit) : 機器が測定中かどうかを示します。測定中、このビットがセットされ、終了すると、リセットされます。測定中とは、以下のコマンドのいずれかが実行中であることを意味します。 :INITiate 全コマンド :READ 全コマンド [:SENSe]:Standard[:IMMediate] (:IMMediate 全コマンド)
3~1	未使用。
0	CAL (Calibration Bit) : 機器が校正中かどうかを示します。校正中、このビットがセットされ、終了すると、リセットされます。

オペレーション・イベント・レジスタ (OEVR: Operation Event Register)

本機器では、上記のオペレーション・コンディション・レジスタの内容と同じです。

15	14 PROG	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4 MEAS	3	2	1	0 CAL
----	------------	----	----	----	----	---	---	---	---	---	-----------	---	---	---	----------

図 3-5 : オペレーション・イベント・レジスタ (OEVR)

クエスチョナブル・コンディション・レジスタ (QCR: Questionable Condition Register)

本機器では、QCR を使用していません。

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
----	----	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

図 3-6 : クエスチョナブル・コンディション・レジスタ (QCR)

クエスチョナブル・イベント・レジスタ (QEV: Questionable Event Register)

本機器では、QEV を使用していません。

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
----	----	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

図 3-7 : クエスチョナブル・イベント・レジスタ (QEV)

イネーブル・レジスタ

イネーブル・レジスタには、次の 4 種類があります。

- イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ (ESER)
- サービス・リクエスト・イネーブル・レジスタ (SRER)
- オペレーション・イネーブル・レジスタ (OENR)
- クエスチョナブル・イネーブル・レジスタ (QENR)

これらのイネーブル・レジスタの各ビットは、ステータス・レジスタの各ビットに対応しています。イネーブル・レジスタのビットをセット/リセットすることにより、発生したイベントをステータス・レジスタとキューに記録するかどうか決めます。

イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ (ESER: Event Status Enable Register)

ESER は、SESR のビット 0~7 と全く同じビットで構成されています (図3-8 参照)。このレジスタは、イベントが発生したときに SBR レジスタの ESB ビットをセットするか、また対応する SESR のビットをセットするかを指定するときに使います。

SBR レジスタの ESB ビットをセットするには (SESR ビットがセットされたとき)、SESR に対応する ESER のビットをセットします。ESB ビットがセットされるのを防ぐには、そのイベントに対応した ESER ビットをリセットします。

ESER のビットをセットするときは、*ESR コマンドを使います。また、ESER の内容を読み出すときは、問合せ *ESE? を使います。

7	6	5	4	3	2	1	0
PON	—	CME	EXE	DDE	QYE	—	OPC

図 3-8 : イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ (ESER)

サービス・リクエスト・イネーブル・レジスタ (SRER: Service Request Enable Register)

SRER は、SBR のビット 0~7 に対応したビットで構成されています (図3-9 参照)。このレジスタは、どのイベントでサービス・リクエストを発生するか指定するときに使います。

SRER のビット 6 は、セットできません。また、RQS はマスクできません。

GPIB インタフェースでのサービス・リクエスト発生は、SRQ ラインを “L” に変更することと、コントローラにサービス・リクエストを要求することを含みます。この結果、コントローラからのシリアル・ポーリングに応答して RQS をセットしたステータス・バイトが返されます。

SRER のビットをセットするときは、*SRE コマンドを使います。また、SRER の内容を読み出すときは、問合せ *SRE? を使います。ビット 6 は、通常 0 にセットされています。

7	6	5	4	3	2	1	0
OSS	—	ESB	MAV	QSS	EAV	—	—

図 3-9 : サービス・リクエスト・イネーブル・レジスタ (SRER)

**オペレーション・イネーブル・レジスタ
(OENR: Operation Enable Register)**

オペレーション・イネーブル・レジスタ OENR は、OEVR のビット 0~15 の内容と同じ定義のビットで構成されます。イベントが発生し、対応する OEVR のビットがセットされたときに SBR の OSB ビットをセットするかどうかを、このレジスタで指定します。

15	14 PROG	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4 MEAS	3	2	1	0 CAL
----	------------	----	----	----	----	---	---	---	---	---	-----------	---	---	---	----------

図 3-10 : オペレーション・イネーブル・レジスタ (OENR)

OENR の内容は、:STATus:OPERation:ENABLE コマンドで設定します。また、内容を問合せるときは、STATus:OPERation:ENABLE? 問合せコマンドを使います。

**クエスチョナブル・イネーブル・レジスタ
(QENR: Questionable Enable Register)**

クエスチョナブル・イネーブル・レジスタ QENR は、QEVR のビット 0~15 と同じ定義のビットで構成されます。イベントが発生して、対応する QEVR のビットがセットされたときに SBR の QSB ビットをセットするかどうかを、このレジスタで指定します。

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
----	----	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

図 3-11 : クエスチョナブル・イネーブル・レジスタ (QENR)

本機器では、QENR を使用していません。

トランジション・レジスタ

トランジション・レジスタには、次の2種類があります。

- オペレーション・トランジション・レジスタ (OTR)
- クエスチョナブル・トランジション・レジスタ (QTR)

オペレーション・トランジション・レジスタ (OTR: Operation Transition Register)

オペレーション・トランジション・レジスタ OTR は、OCR (3-9ページ) のビット0~15の内容と同じ定義のビットで構成されます。OCRの対応するビットが“偽”(リセット状態)から“真”(セット状態)に変化したときにフィルタリングを行うポジティブ・トランジション・フィルタと“真”から“偽”に変化したときにフィルタリングを行うネガティブ・トランジション・フィルタの機能があります。

ポジティブ・トランジション・フィルタとして OTR のビットをセットするときは :STATus:OPERation:PTRansition コマンドを使い、内容を読み出すときは、問合せ :STATus:OPERation:PTRansition? を使います。

ネガティブ・トランジション・フィルタとして OTR のビットをセットするときは :STATus:OPERation:NTRansition コマンドを使い、内容を読み出すときは、問合せ :STATus:OPERation:NTRansition? を使います。

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PROG										MEAS				CAL

図 3-12 : オペレーション・トランジション・レジスタ (OTR)

クエスチョナブル・トランジション・レジスタ (QTR: Questionable Transition Register)

本機器では、QTR を使用していません。

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
----	----	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

図 3-13 : クエスチョナブル・トランジション・レジスタ (QTR)

キュー

WCA200 シリーズで使用されているステータス・レポート・システムには、出力キューとイベント・キューの2種類のキューがあります。

出力キュー

出力キューは FIFO (先入れ先出し方式) キューで、問合せに対する応答メッセージを保持します。このキューにメッセージがあるときは、SBR MAV ビットがセットされます。

出力キューは、コマンドまたは問合せを受け取るごとに空になります。このため、コントローラは、次のコマンドまたは問合せが発生する前に出力キューを読み取る必要があります。もし、この動作が実行されないと、エラーが発生し、出力キューは空になります。ただし、エラーが発生しても、動作は継続されます。

エラー／イベント・キュー

イベント・キューは FIFO (先入れ先出し方式) キューで、機器内で発生したイベントを保持します。32 以上のイベントが発生した場合には、32 番目のイベントはイベント・コード -350 (“Queue Overflow”) に置き換わります。最も古いエラー・コードとテキストは、:SYSTem:ERRor? 問合せで読み出すことができます。

ステータスとイベントの処理

ここでは、ブロックごとにステータスとイベントの処理の流れを示します。

オペレーション・ステータス・ブロック

イベントが発生すると、信号は OEVR に送られます (1) (図3-14 参照)。対応する OENR のビットがセットされていれば (2)、SBR の OSS ビットもセットされます (3) (図3-16 参照)。

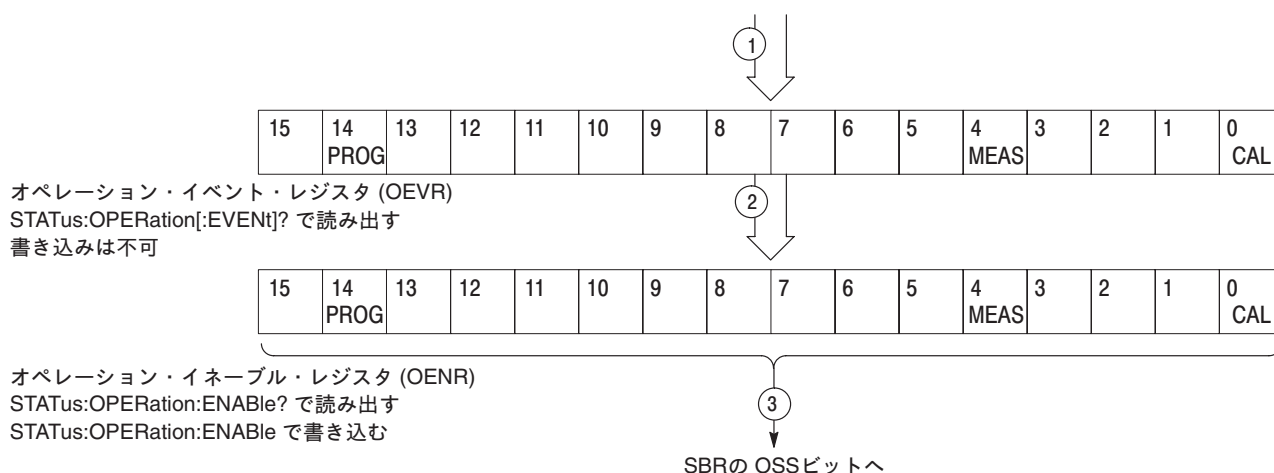


図 3-14 : ステータスとイベントの処理 — オペレーション・ステータス・ブロック

クエスチョナブル・ステータス・ブロック

イベントが発生すると、信号は QEVR に送られます (1) (図3-15 参照)。対応する QENR のビットがセットされていれば (2)、SBR の QSS ビットもセットされます (3) (図3-16 参照)。

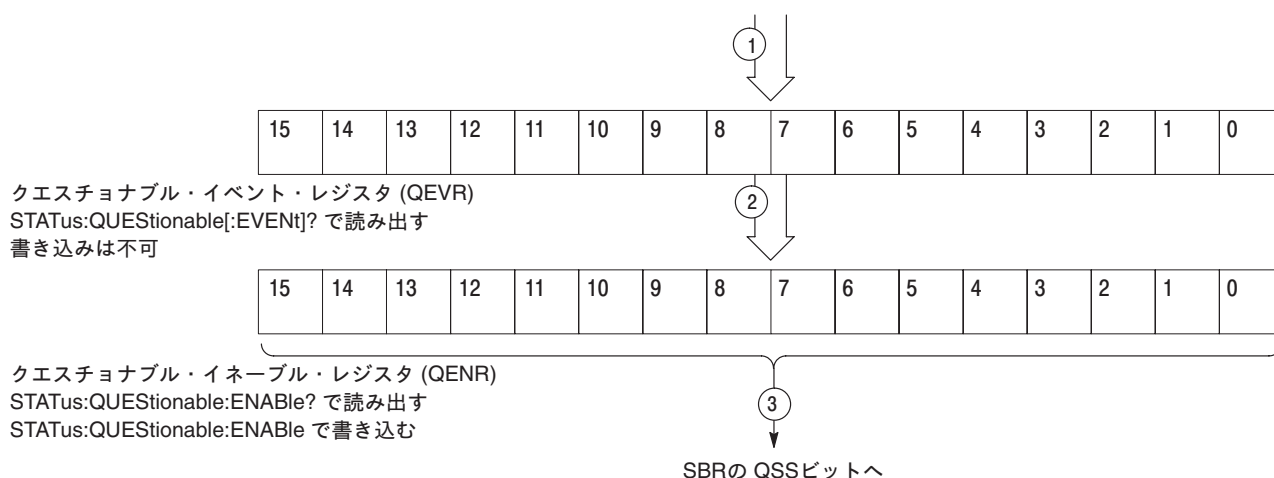


図 3-15 : ステータスとイベントの処理 — クエスチョナブル・ステータス・ブロック

スタンダード・イベント・ステータス・ブロック

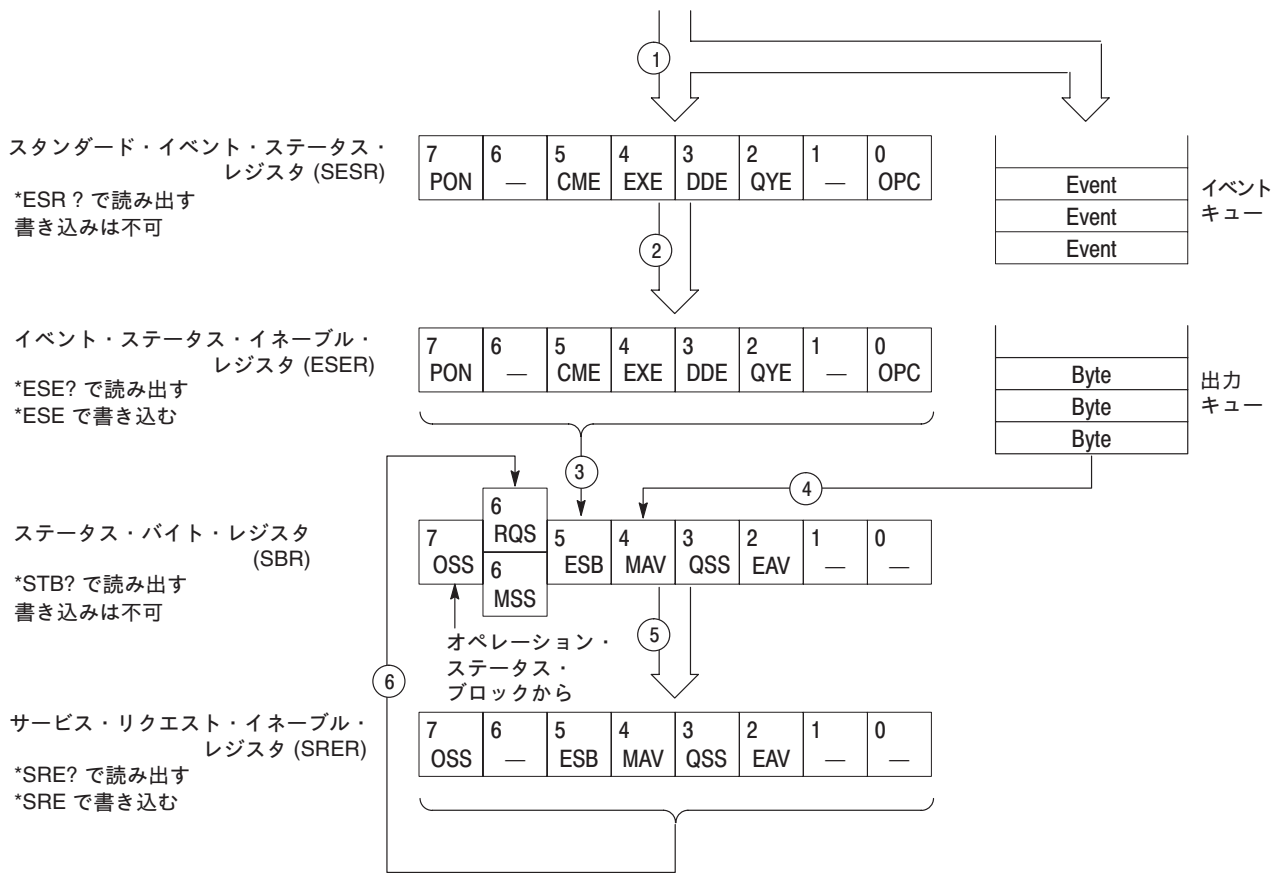


図 3-16 : ステータスとイベントの処理 — スタンダード・イベント・ステータス・ブロック

1. イベントが発生すると、そのイベントに対応する SESR ビットがセットされ、イベントがイベント・キューに記録されます。
2. そのイベントに対応した ESER のビットがセットされます。
3. ESER のステータスによって SBR ESB ビットがセットされます。
4. メッセージが出力キューに送られると、SBR MAV ビットがセットされます。
5. SBR の ESB ビットまたは MAV ビットのいずれかがセットされることにより、SRER のそれぞれのビットがセットされます。
6. SRER ビットがセットされていれば、SBR MSS ビットがセットされ、GPIB を使用している場合には、サービス・リクエストが発生します。

コマンドの同期処理

ほとんどのコマンドは、コントローラから送られた順番に実行され、各コマンドは短時間で完了します。しかし、次のコマンドは別スレッドでデータ解析を実行するため、他のコマンドを同時に実行できます。

```
:INITiate 全コマンド
:PROGram[:SElected]:EXEcute
:PROGram[:SElected]:NAME
:READ 全コマンド
[:SENSe]:Standard[:IMMediate] (:IMMediate 全コマンド)
```

これらのコマンドは、前のコマンドの完了を待たずに、次に送るコマンドが実行されるように作られています。ある場合には、これらのコマンドが実行される前に、他のコマンドで実行される処理が完了しなければならないことがあります。また、別の場合は、次に送るコマンドが実行される前に、これらのコマンドが完了しなければならないことがあります。

コマンドの同期処理を行うには、次の2通りがあります。

- ステータス/イベント・レポーティング機能を使う方法
- 同期処理コマンドを使う方法

ステータス/イベント・レポーティング機能を使う方法

オペレーション・コンディション・レジスタ (OCR) を使用して同期をとりながら :READ コマンドで測定結果を取得する例を示します。

```
:STATus:OPERation:NTRansition 16
// OCR の MEASuring ビットのフィルタをセット
:STATus:OPERation:ENABle 16
// OCR の MEASuring ビットを有効にする

*SRE 128 // レジスタ SRER の OSS ビットをセット
:READ:SPECtrum? // 測定結果を取得
```

ここで、SRQ が発生するのを待ちます。

同期処理コマンドを使う方法

IEEE-488.2 共通コマンドに次の同期処理コマンドがあります。

```
*OPC  
*OPC?  
*WAI
```

*OPC コマンドの使用

*OPC コマンドは、待機中のすべての動作が完了すると、SESR の OPC ビットをセットします。GPIB インタフェースを使用している場合は、このコマンドとシリアル・ポールまたはサービス・リクエスト機能を併用することで実行の同期をとることができます。

次にコマンド・シーケンス例を示します。

```
*ESE 1 // レジスタ ESER の OPC ビットを有効にする  
*SRE 32 // レジスタ SRER の ESB ビットを有効にする  
:ABORt;INITiate:IMMediate;*OPC // SRQ を待ち、同期をとる
```

問合せ *OPC? の使用

問合せ *OPC? は、待機中のすべての操作が完了すると、ASCII コード “1” を出力キューに書き込みます。次のコマンド列を使って同期をとることができます。

次に例を示します。

```
:ABORt;INITiate:IMMediate;*OPC?
```

ここで、出力キューに “1” が書き込まれるのを待ちます。出力キューにデータを読みに行くと、データが出力キューに書き込まれる前に、タイムアウトが発生することがあります。

*WAI コマンドの使用

*WAI コマンドは、直前に実行したコマンドの処理が終了してから、次のコマンドの処理に移ります。

次に例を示します。

```
:ABORt;INITiate:IMMediate;*WAI // *WAI 処理終了を待ち、同期をとる
```

エラー・メッセージ

以下の表に、ステータス/イベント・レポート・システムで使われているコードとメッセージを示します。

エラー・コードとメッセージは、問合せ SYSTem:ERRor? を使って得られます。コマンドの詳細については、2-1067ページ以降を参照してください。応答は、次の書式で返ります。

```
<error code>,"<error message>"
```

エラーなし システムにエラーがないときのメッセージです。

表 3-4: ノー・エラー

コード	メッセージ	説明
0	No error	エラーなし

コマンド・エラー コマンドのシンタックス・エラーがあった場合、コマンド・エラーが起こります。

表 3-5: コマンド・エラー

コード	メッセージ	説明
-100	Command error	コマンド・エラー
-101	Invalid character	無効なキャラクタ
-102	Syntax error	構文エラー
-103	Invalid separator	無効なセパレータ
-104	Data type error	データ・タイプ・エラー
-105	GET not allowed	GET は許されていない
-108	Parameter not allowed	パラメータは許されていない
-109	Missing parameter	パラメータがない
-110	Command header error	コマンド・ヘッダ・エラー
-111	Header separator error	ヘッダ・セパレータ・エラー
-112	Program mnemonic too long	プログラム・ニーモニックが長すぎる
-113	Undefined header	未定義のヘッダ
-114	Header suffix out of range	ヘッダのサフィックスが範囲外
-120	Numeric data error	数値データ・エラー
-121	Invalid character in numeric	数値に無効なキャラクタ
-123	Exponent too large	指数が大きすぎる
-124	Too many digits	桁数が多すぎる
-128	Numeric data not allowed	数値データは許されていない
-130	Suffix error	サフィックス・エラー
-131	Invalid suffix	無効なサフィックス
-134	Suffix too long	サフィックスが長すぎる
-138	Suffix not allowed	サフィックスは許されていない

表 3-5: コマンド・エラー(続き)

コード	メッセージ	説明
-140	Character data error	キャラクタ・データ・エラー
-141	Invalid character data	無効なキャラクタ・データ
-144	Character data too long	キャラクタが長すぎる
-148	Character data not allowed	キャラクタ・データは許されていない
-150	String data error	ストリング・データ・エラー
-151	Invalid string data	無効なストリング・データ
-158	String data not allowed	ストリング・データは許されていない
-160	Block data error	ブロック・データ・エラー
-161	Invalid block data	無効なブロック・データ
-168	Block data not allowed	ブロック・データは許されていない
-170	Command expression error	コマンド表現エラー
-171	Invalid expression	無効な表現
-178	Expression data not allowed	表現データは許されていない
-180	Macro error	マクロ・エラー
-181	Invalid outside macro definition	無効な外部マクロ定義
-183	Invalid inside macro definition	無効な内部マクロ定義
-184	Macro parameter error	マクロ・パラメータ・エラー

実行エラー コマンド実行時にエラーが生じた場合、エラー・コードとメッセージが返ります。

表 3-6: 実行エラー

コード	メッセージ	説明
-200	Execution error	実行エラー
-201	Invalid while in local	ローカルで無効
-202	Settings lost due to RTL	RTLにより設定が失われた
-210	Trigger error	トリガ・エラー
-211	Trigger ignored	トリガが無視された
-212	Arm ignored	アームが無視された
-213	Init ignored	初期化が無視された
-214	Trigger deadlock	トリガ・デッドロック
-215	Arm deadlock	アーム・デッドロック
-220	Parameter error	パラメータ・エラー
-221	Settings conflict	設定が整合していない
-222	Data out of range	データの値が範囲外
-223	Too much data	データが多すぎる
-224	Illegal parameter value	違法なパラメータ値
-225	Out of memory	メモリ範囲外
-226	Lists not same length	リストが同じ長さでない
-230	Data corrupt or stale	データが破壊された
-231	Data questionable	データが疑わしい
-240	Hardware error	ハードウェア・エラー
-241	Hardware missing	ハードウェアが見つからない

表 3-6: 実行エラー(続き)

コード	メッセージ	説明
-250	Mass storage error	FDD または HDD のエラー
-251	Missing mass storage	FDD または HDD がない
-252	Missing media	メディアがない
-253	Corrupt media	メディアが破壊されている
-254	Media full	メディアが一杯になっている
-255	Directory full	ディレクトリが一杯になっている
-256	FileName not found	ファイル名が見つからない
-257	FileName error	ファイル名のエラー
-258	Media protected	メディアは書き込み禁止
-260	Execution expression error	実行表現エラー
-261	Math error in expression	数学的表現の誤り
-270	Execution macro error	実行マクロ・エラー
-271	Macro syntax error	マクロ構文エラー
-272	Macro execution error	マクロ実行エラー
-273	Illegal macro label	違法なマクロ・ラベル
-274	Execution macro parameter error	実行マクロ・パラメータ・エラー
-275	Macro definition too long	マクロ定義が長すぎる
-276	Macro recursion error	マクロ再帰エラー
-277	Macro redefinition not allowed	マクロ再定義は許されていない
-278	Macro header not found	マクロ・ヘッダが見つからない
-280	Program error	プログラム・エラー
-281	Cannot create program	プログラムが生成できない
-282	Illegal program name	違法なプログラム名
-283	Illegal variable name	違法な変数名
-284	Program currently running	プログラムは現在実行中
-285	Program syntax error	プログラム構文エラー
-286	Program runtime error	プログラム・ルーチン・エラー

デバイス固有エラー

デバイスに固有のエラーは次の通りです。

表 3-7: デバイス固有エラー

コード	メッセージ	説明
-300	Device specific error	デバイス固有エラー
-310	System error	システム・エラー
-311	Memory error	メモリ・エラー
-312	PUD memory lost	PUD メモリが失われた
-313	Calibration memory lost	校正メモリが失われた
-314	Save recall memory lost	保存/読み出しメモリが失われた
-315	Configuration memory lost	構成メモリが失われた
-330	Self test failed	セルフ・テストが失敗した
-350	Queue overflow	キューのオーバーフロー

問合せエラー 問合せコマンドのエラーは次の通りです。

表 3-8: デバイス固有エラー

コード	メッセージ	説明
-400	Query error	問合せエラー
-410	Query INTERRUPTED	問合せ時に割り込み発生
-420	Query UNTERMINATED	問合せが終了しない
-430	Query DEADLOCKED	問合せがデッドロック
-440	Query UNTERMINATED after indefinite response	未定義の応答後に問合せが デッドロック

第 4 章 プログラム例

プログラム例

ここでは、GPIB を通して本機器を制御するアプリケーション・プログラム例と、
:PROGram コマンドを使用したマクロ・プログラム実行例を示します。

- アプリケーション・プログラム例 .. p.4-2
- マクロ・プログラム実行例 p.4-13

アプリケーション・プログラム例

次の2つの測定を行うアプリケーション・プログラム例を示します。

- チャンネル電力測定 (measCHPOWER() サブルーチン)
S/A モードで、*OPC コマンドで同期をとってチャンネル電力測定を行い、測定データをファイルに保存します。
- FM 変調信号測定 (measFM() サブルーチン)
DEMOD のアナログ変調信号解析モードで、ステータス・バイトの MAV ビットで同期をとって FM 変調信号測定を行い、測定データをファイルに保存します。

このプログラムは、Microsoft Visual C++ 6.0 用に記述されています。ナショナルインスツルメンツ社製の GPIB ボードとドライバ・ソフトウェアを装備した IBM PC 互換システムで動作します (Windows 98、ナショナル・インスツルメンツ社製 GPIB ボード PCI-GPIB で動作確認済み)。本機器は、wibconf など、あらかじめ DEV1 に設定されていることを前提としています。

```
//
// サンプル・プログラム — チャンネル電力測定・FM 変調信号測定
//
#include <windows.h>
#include <stdio.h>
#include <string.h>

#include "decl-32.h"

#define LONG_TIME T100s
#define NORMAL_TIME T10s

#define BOARD_NAME "GPIB0"
#define MAX_BUF (1024)

// ステータス・バイト・レジスタ (SBR) のビット定義
#define ESB (1<<5) // ESB (Event Stats Bit)
#define MAV (1<<4) // MAV (Message Available)
#define EAV (1<<2) // EAV (Event Queue Available)
```

```
char readBuf[MAX_BUF + 1];
char openDevice [MAX_BUF/2 + 1];

void GpibClose(void);
void GpibError(char *errorMessage);
void GpibExit(int code);
void GpibOpen(char *device);
void GpibRead(char *resp, int count);
void GpibReadFile(char *filename);
int GpibSerialPoll(void);
void GpibTimeOut(int timeout);
void GpibWait(int wait);
void GpibWrite(char *string);
void measCHPOWER(void);
void measFM(void);
void WaitOPC(void);
void WaitMAV(void);

int GpibDevice; // デバイスの記述子
int GpibBoard; // GPIB ボードの記述子
int GpibCount; // ibcnt の保存値
int GpibStatus; // ibsta の保存値

// メイン・ルーチン
void
main(int argc, char *argv[])
{
    strcpy(openDevice, "dev1");

    GpibOpen(openDevice); // 指定デバイスの検出

    measCHPOWER(); // チャンネル電力測定

    measFM(); // FM 変調信号測定

    GpibClose(); // デバイスとボードの終了処理
}
```

```
// チャンネル電力測定
void
measCHPOWER(void)
{
    GpibWrite("*CLS");           // ステータス・レジスタをクリア
    GpibWrite("*ESE 1");        // レジスタ ESER の OPC ビットをセット
    GpibWrite("*SRE 32");       // レジスタ SRER の ESB ビットをセット

    // 本機器のセットアップ
    GpibTimeOut(LONG_TIME);
    GpibWrite("INSTRument 'SANORMAL'");
    GpibWrite("*RST");          // 本機器をリセット
    GpibTimeOut(NORMAL_TIME);
    GpibWrite("CONFigure:SPECTrum:CHPower");
    GpibWrite("FREQuency:CENTer 1GHz");
    GpibWrite("FREQuency:SPAN 1MHz");
    GpibTimeOut(LONG_TIME);
    GpibWrite("*CAL?");
    GpibRead(readBuf, MAX_BUF);
    printf("*CAL? result = %s\n", readBuf);
    GpibTimeOut(NORMAL_TIME);
    GpibWrite("CHPower:BANDwidth:INTEgration 300kHz");
    GpibWrite("SPECTrum:AVERAge ON");
    GpibWrite("SPECTrum:AVERAge:COUNT 100");

    // 測定の実行
    GpibTimeOut(LONG_TIME);
    GpibWrite("INITiate:CONTInuous OFF;*OPC");
    WaitOPC();                  // OPC ビットがセットされるのを待つ
    GpibWrite("INITiate;*OPC");
    WaitOPC();
    GpibTimeOut(NORMAL_TIME);

    // 測定結果を取得し、ファイル chpower に保存
    GpibWrite("FETCh:SPECTrum:CHPower?");
    GpibReadFile("chpower");
}
```

```
// FM 変調信号測定
void
measFM(void)
{
    // 本機器のセットアップ
    GpibTimeOut(LONG_TIME);
    GpibWrite("INSTRument 'DEMADEM'");
    GpibWrite("*RST");
    GpibTimeOut(NORMAL_TIME);
    GpibWrite("CONFigure:ADEMod:FM");
    GpibWrite("FREQuency:CENTer 1GHz");
    GpibWrite("FREQuency:SPAN 1MHz");
    GpibWrite("BSIZE 100");
    GpibTimeOut(LONG_TIME);
    GpibWrite("*CAL?");
    GpibRead(readBuf, MAX_BUF);
    printf("*CAL? result = %s\n", readBuf);
    GpibTimeOut(NORMAL_TIME);
    GpibWrite("ADEMod:LENGth 102400");
    GpibWrite("ADEMod:FM:THReshold -100");

    GpibWrite("*CLS");           // ステータス・レジスタをクリア
    GpibWrite("*SRE 16");       // レジスタ SRER の MAV ビットをセット

    // 測定の実行
    GpibTimeOut(LONG_TIME);
    GpibWrite("READ:ADEMod:FM?");
    WaitMAV();                  // MAV ビットがセットされるのを待つ
    GpibTimeOut(NORMAL_TIME);

    // 測定結果を取得し、ファイル fm に保存
    GpibReadFile("fm");
}
```

```
// OPC (Operation Complete) ビットのセットを待つ
void
WaitOPC(void)
{
    int statusByte;

    // SRQ を待つ
    GpibWait(RQS);
    if (GpibStatus & TIMO)
    {
        fprintf(stderr, "Timeout occurred in waiting SRQ cycle.\n");
        GpibExit(0);
    }

    // シリアル・ポール
    statusByte = GpibSerialPoll();
    if (statusByte & ESB)
    {
        printf("ESB bit is TRUE\n");
        GpibWrite("*ESR?");
        GpibRead(readBuf, MAX_BUF);
        printf("Standard Event Status Register = %s\n", readBuf);
    }
    if (statusByte & MAV)
        printf("MAV bit is TRUE\n");
    if (statusByte & EAV)
        printf("EAV bit is TRUE\n");
}
```



```
// MAV (Message Available) ビットのセットを待つ
void
WaitMAV(void)
{
    int statusByte;

    // SRQ を待つ
    GpibWait(RQS);
    if (GpibStatus & TIM0)
    {
        fprintf(stderr, "Timeout occurred in waiting SRQ cycle.\n");
        GpibExit(0);
    }

    // シリアル・ポール
    statusByte = GpibSerialPoll();
    if (statusByte & MAV)
        printf("MAV bit is TRUE\n");
    if (statusByte & EAV)
        printf("EAV bit is TRUE\n");
}
```

```
// GPIB デバイスの接続
void
GpibOpen(char *device)
{
    // デバイスとインタフェース・ボードに ID を割り当て、エラー・チェック
    GpibDevice = ibfind(device);
    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibfind Error: Unable to find device");
        GpibExit(0);
    }
    GpibBoard = ibfind(BOARD_NAME);
    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibfind Error: Unable to find board");
        GpibExit(0);
    }

    // デバイスをクリアし、エラー・チェック
    ibclr(GpibDevice);
    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibclr Error: Unable to clear device");
        GpibExit(0);
    }
    ibsre(GpibBoard, 0);
    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibclr Error: Unable to clear board");
        GpibExit(0);
    }

    // タイムアウトを 10秒 (NORMAL_TIME) に設定
    GpibTimeOut(NORMAL_TIME);
}

// GPIB デバイスの切断
void
GpibClose(void)
{
    // デバイスとインタフェース・ボードをオフラインにする
    ibonl(GpibDevice, 0);
    ibonl(GpibBoard, 0);
}
```

```
// プログラムの終了
void
GpibExit(int code)
{
    GpibClose();
    exit(code);
}

// デバイスに文字列を送り、書き込み終了を待つ
void
GpibWrite(char *string)
{
    int count = strlen(string);

    // 文字列を送る
    ibwrt(GpibDevice, string, count);

    // ibwrt の I/O 終了判定
    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibwrt I/O Error:");
        GpibExit(0);
    }
    else
    {
        GpibCount = ibcnt;
        GpibStatus = ibsta;
        if (GpibSerialPoll() & EAV)
        {
            ibwrt(GpibDevice, "SYSTem:ERRor:ALL?",
                strlen("SYSTem:ERRor:ALL?"));
            ibrd(GpibDevice, readBuf, MAX_BUF);
            fprintf(stderr, "%s\n", readBuf);
        }
    }
}
```

```
// デバイスからの応答を読み取る
void
GpibRead(char *resp, int count)
{
    ibrd(GpibDevice, resp, count);

    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibrd I/O Error:");
        GpibExit(0);
    }
    else
    {
        resp[ibcnt] = '\0';
        GpibCount = ibcnt;
        GpibStatus = ibsta;
    }
}

// デバイスからの応答を読み取り、ファイルに書き込む
void
GpibReadFile(char *filename)
{
    ibrdf(GpibDevice, filename);

    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibrdf I/O Error:");
        GpibExit(0);
    }
    else
    {
        GpibStatus = ibsta;
    }
}

// ステータス・バイトを読み取る
int
GpibSerialPoll(void)
{
    char poll = 0;
```

```
    ibrsp(GpibDevice, &poll);
    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibrsp Error:");
        GpibExit(0);
    }
    else
    {
        GpibStatus = ibsta;
    }

    return poll & 0xff;
}
```

```
// タイムアウト設定
```

```
void
GpibTimeOut(int timeout)
{
    ibtmo(GpibDevice, timeout);
    if (ibsta & ERR)
    {
        GpibError("ibtmo Error:");
        GpibExit(0);
    }
    else
    {
        GpibStatus = ibsta;
    }
}
```

```
// 指定イベントを待つ
```

```
void
GpibWait(int wait)
{
    ibwait(GpibDevice, wait | TIMO);
    if (ibsta & (ERR | TIMO))
    {
        GpibError("ibwait Error:");
    }
    GpibStatus = ibsta;
}
```

```
// ibsta の内容によりエラー表示
void
GpibError(char *errorMessage)
{
    fprintf (stderr, "%s\n", errorMessage);
    fprintf (stderr, "ibsta=(%X)h <", ibsta);

    if (ibsta & ERR ) fprintf (stderr, " ERR");
    if (ibsta & TIMO) fprintf (stderr, " TIMO");
    if (ibsta & END ) fprintf (stderr, " END");
    if (ibsta & SRQI) fprintf (stderr, " SRQI");
    if (ibsta & RQS ) fprintf (stderr, " RQS");
    if (ibsta & CMPL) fprintf (stderr, " CMPL");
    if (ibsta & LOK ) fprintf (stderr, " LOK");
    if (ibsta & REM ) fprintf (stderr, " REM");
    if (ibsta & CIC ) fprintf (stderr, " CIC");
    if (ibsta & ATN ) fprintf (stderr, " ATN");
    if (ibsta & TACS) fprintf (stderr, " TACS");
    if (ibsta & LACS) fprintf (stderr, " LACS");
    if (ibsta & DTAS) fprintf (stderr, " DTAS");
    if (ibsta & DCAS) fprintf (stderr, " DCAS");

    fprintf (stderr, " >\n");
    fprintf (stderr, "iberr= %d", iberr);

    if (iberr == EDVR) fprintf (stderr, " EDVR <DOS Error>\n");
    if (iberr == ECIC) fprintf (stderr, " ECIC <Not CIC>\n");
    if (iberr == ENOL) fprintf (stderr, " ENOL <No Listener>\n");
    if (iberr == EADR) fprintf (stderr, " EADR <Address error>\n");
    if (iberr == EARG) fprintf (stderr, " EARG <Invalid argument>\n");
    if (iberr == ESAC) fprintf (stderr, " ESAC <Not Sys Ctrl>\n");
    if (iberr == EABO) fprintf (stderr, " EABO <Op. aborted>\n");
    if (iberr == ENEB) fprintf (stderr, " ENEB <No GPIB board>\n");
    if (iberr == EOIP) fprintf (stderr, " EOIP <Async I/O in prg>\n");
    if (iberr == ECAP) fprintf (stderr, " ECAP <No capability>\n");
    if (iberr == EFSO) fprintf (stderr, " EFSO <File sys. error>\n");
    if (iberr == EBUS) fprintf (stderr, " EBUS <Command error>\n");
    if (iberr == ESTB) fprintf (stderr, " ESTB <Status byte lost>\n");
    if (iberr == ESRQ) fprintf (stderr, " ESRQ <SRQ stuck on>\n");
}
```

マクロ・プログラム実行例

ここでは、マクロ・プログラムの実行例を示します。

マクロ・プログラムは、本機器の次のディレクトリにインストールされます。

- ユーザ固有のマクロ

C:\Program Files\Tektronix\wca200a\Python\wca200a\measmacro
¥nonregistered

- オプションに含まれるマクロ

C:\Program Files\Tektronix\wca200a\Python\wca200a\measmacro
¥registered

以下の例では、次のマクロ・フォルダが置かれています。

nonregistered ディレクトリ下に MacroTest1, MacroTest2, MacroTest3

registered ディレクトリ下に MacroTest1, MacroTest4, MacroTest5

MacroTest1 マクロ・フォルダには、test1、test2、および test3 マクロ・コマンドが含まれています。

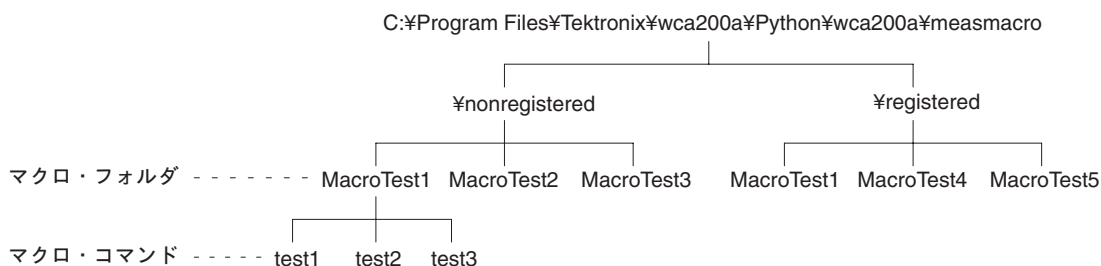


図 4-1 : マクロ・プログラムの保存

test1 マクロ・コマンドで、次の変数が定義されているとします。

LOW_LIMIT、HIGH_LIMIT (数値パラメータ)

ERROR_MESSAGE (文字列パラメータ)

RESULT (測定結果 (数値))

コマンドの送出・応答例を示します。

```
(送出)  PROG:CAT? // マクロ・プログラムのリストを問合せ
(応答)  "NONREGISTERED.MACROTEST1","NONREGISTERED.MACROTEST2",
        "NONREGISTERED.MACROTEST3","REGISTERED.MACROTEST1",
        "REGISTERED.MACROTEST4","REGISTERED.MACROTEST5"
(送出)  PROG:NAME "NONREGISTERED.MACROTEST1" // マクロ・フォルダを指定
(送出)  PROG:NUMB "LOW_LIMIT",1.5 // LOW_LIMIT を 1.5 に設定
(送出)  PROG:NUMB "HIGH_LIMIT",20 // HIGH_LIMIT を 20 に設定
(送出)  PROG:STR "ERROR_MESSAGE","Unsuccessful"
                                     // ERROR_MESSAGE を設定
(送出)  PROG:EXEC "TEST1" // マクロ・コマンドを実行
(送出)  PROG:NUMB? "RESULT" // 結果を取得
(応答)  1.2345
(送出)  PROG:DEL // メモリ上のマクロ・プログラムを削除
```


付 録

付録 A ASCII コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7
0	0 NUL	20 DLE	40 SP	60 0	80 @	100 P	120 '	140 p
1	1 SOH	21 DC1	41 !	61 1	81 A	101 Q	121 a	141 q
2	2 STX	22 DC2	42 "	62 2	82 B	102 R	122 b	142 r
3	3 ETX	23 DC3	43 #	63 3	83 C	103 S	123 c	143 s
4	4 EOT	24 DC4	44 \$	64 4	84 D	104 T	124 d	144 t
5	5 ENQ	25 NAK	45 %	65 5	85 E	105 U	125 e	145 u
6	6 ACK	26 SYN	46 &	66 6	86 F	106 V	126 f	146 v
7	7 BEL	27 ETB	47 ,	67 7	87 G	107 W	127 g	147 w
8	10 BS	30 CAN	50 (70 8	90 H	110 X	130 h	150 x
9	11 HT	31 EM	51)	71 9	91 I	111 Y	131 i	151 y
A	12 LF	32 SUB	52 *	72 :	92 J	112 Z	132 j	152 z
B	13 VT	33 ESC	53 +	73 ;	93 K	113 [133 k	153 {
C	14 FF	34 FS	54 ,	74 <	94 L	114 \	134 l	154
D	15 CR	35 GS	55 -	75 =	95 M	115]	135 m	155 }
E	16 SO	36 RS	56 .	76 >	96 N	116 ^	136 n	156 ~
F	17 SI	37 US	57 /	77 ?	97 O	117 _	137 o	157 DEL (RUBOUT)
	アドレス・ コマンド	ユニバーサル・ コマンド	リスン・ アドレス		トーク・ アドレス		セカンダリ・アドレス またはコマンド	

KEY 8進 25 PPU
NAK
 16進 15 21
 GPIB コード
 ASCII キャラクタ
 10進

付録 B GPIB インタフェース仕様

インタフェース機能

インタフェース機能は、IEEE Std 488.1-1987 で定義されているもので、メッセージを送信したり、メッセージを受信したり、あるいはメッセージに従って機器を制御する機能です。WCA230A 型/WCA280A 型に組み込まれたインタフェース機能を表B-1 に示します。括弧で囲んだ略号は、IEEE Std 488.1-1987 で定義され、広く用いられているインタフェース機能を示す記号です。

表 B-1: GPIB インタフェース機能と組み込みサブセット

インタフェース機能	組み込みサブセット	サブセットの機能
Acceptor Handshake (AH)	AH1	AH1 の全機能
Source Handshake (SH)	SH1	SH の全機能
Talker (T)	T6	基本トーク、シリアル・ポール MLA によるアクティブ・トークの解除 Talk Only モードなし
Listener (L)	L4	基本リスナ MTA によるアクティブ・リスナの解除 Listen Only モードなし
Device Clear (DC)	DC1	DC の全機能
Remote/Local (RL)	RL0	サポートしていません。
Service Request (SR)	SR1	SR の全機能
Parallel Poll (PP)	PP0	サポートしていません。
Device Trigger (DT)	DT0	サポートしていません。
Controller (C)	C0	サポートしていません。
Electrical Interface	E2	3 ステート・ドライバ

Acceptor Handshake (AH)

データを確実に受信するためのハンドシェイク機能です。この機能は、機器が次のデータの受信準備が完了するまで、データの送開始と完了を遅らせます。

Source Handshake (SH)

データを確実に転送するために、AH との間でハンドシェイクを行う機能です。この機能は、バイト単位にデータの送開始と完了を制御します。

Listener (L)

バスを通して、デバイス依存データを受信できる機能です。ただし、データを受信できるのは、受信指定されたアドレスを持つリスナに限ります。

Talker (T)

バスを通して、デバイス依存データを送出できる機能です。ただし、データを送出できるのは、送信指定されたアドレスを持つトーカーに限ります。

Device Clear (DC)

システムに接続された機器を、個々に、またはまとめて初期化を行う機能です。

Remote / Local (RL)

機器を操作する方法を選択します。機器の制御には、前面パネルの操作（ローカルコントロール）による方法と、インタフェースを通して、コントローラから操作（リモート・コントロール）する方法の、2つの方法があります。

Service Request (SR)

コントローラに対して、非同期のサービスを要求する機能です。

Controller (C)

バスを通して、他の機器に、デバイス・アドレス、ユニバーサル・コマンド、アドレス・コマンドを送出する機能です。デバイス・アドレス、ユニバーサルコマンド、アドレス・コマンドについては、次項の「インタフェース・メッセージ」を参照ください。

Electrical Interface (E)

電氣的インタフェースの種類を示すもので、インタフェース機能には含まれません。記号は E1 と E2 が使われ、インタフェースの種類がそれぞれ 3ステート・ドライバとオープン・コレクタ・ドライバであることを示します。

インタフェース・メッセージ

表B-2 に、WCA230A 型/WCA280A 型に組み込まれた GPIB ユニバーサル・コマンドとアドレス・コマンドを示します。

表 B-2: GPIB インタフェース・メッセージ

インタフェース・メッセージ	種 別	組み込み
Device Clear (DCL)	UC	○
Local Lockout (LLO)	UC	–
Serial Poll Disable (SPD)	UC	○
Serial Poll Enable (SPE)	UC	○
Parallel Poll Unconfigure (PPU)	UC	–
Go To Local (GTL)	AC	○
Selected Device Clear (SDC)	AC	○
Group Execute Trigger (GET)	AC	–
Take Control (TCT)	AC	–
Parallel Poll Configure (PPC)	AC	–

* UC、AC は、それぞれユニバーサル・コマンドとアドレス・コマンドを表します。

Device Clear (DCL)

DCL インタフェース・メッセージが組み込まれたすべての機器を初期化します。

Local Lockout (LLO)

ローカル状態に戻る機能を無効にします。この場合、前面パネルからの操作はできなくなります。

Serial Poll Enable (SPE)

サービス要求機能を持つすべての機器をシリアル・ポール・モードにします。このモードの機器は、コントローラが送出するトーク・アドレスを受け取ると、コントローラにステータス・バイトを戻します。コントローラは、シリアル・ポーリングによって、サービス要求を行った機器を特定することができます。

Serial Poll Disable (SPD)

サービス要求機能を持つすべての機器に対して、シリアル・ポール・モードを解除し、通常の動作モードに戻します。

Go To Local (GTL)

リモート・コントロール状態を解除して、ローカル・コントロール状態に戻します。

Select Device Clear (SDC)

DCL インタフェース・メッセージが組み込まれた機器を初期化します。

Group Execute Trigger (GET)

特定の機器、またはあるグループの機器に対してトリガをかけ、プログラムされた機能を実行します。

Take Control (TCT)

バスを管理しているコントローラから、コントローラの機能を有する他の機器に、バス管理権を移します。

Parallel Poll Configure (PPC)

PPC コマンドに続いて送出される PPE (Parallel Poll Enable) コマンドと PPD (Parallel Poll Disable) コマンドに従い、パラレル・ポールのモードを設定または解除します。

付録 C デフォルト設定

ここでは、コマンドのデフォルト設定値をグループ別に示します。
本機器は、:INSTrument[:SElect] コマンドで設定した測定モードについて、*RST
コマンドで設定がデフォルト値に戻ります。

表 C-1: IEEE 共通コマンド

ヘッダ	デフォルト値
*ESE	0
*OPC	0
*SRE	0

表 C-2: :CALCulate コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:CALCulate<x>:DLINe<y>	0
:CALCulate<x>:DLINe<y>:STATe	OFF
:CALCulate<x>:MARKer<y>:MODE	POSition
:CALCulate<x>:MARKer<y>:T	0
:CALCulate<x>:MARKer<y>:TRACe	MAIN
:CALCulate<x>:MARKer<y>:X	0
:CALCulate<x>:MARKer<y>:Y	0
:CALCulate<x>:VLINe<y>	0
:CALCulate<x>:VLINe<y>:STATe	OFF

表 C-3: :CALibration コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:CALibration:AUTO	OFF
:CALibration::IQ:VFRAme:BNUMber	0
:CALibration::IQ:VFRAme[:TYPE]	ALL

表 C-4: :DISPlay コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:DISPlay:CCDF サブグループ	
:DISPlay:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]	ON
:DISPlay:CCDF:LINE:REFerence[:STATe]	OFF
:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:AUTO	ON
:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum	15 dB
:DISPlay:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet	0 dB
:DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum	1E-7
:DISPlay:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum	100%

表 C-4: :DISPlay コマンド (続き)

ヘッダ	デフォルト値
:DISPlay:OView サブグループ	
:DISPlay:OView:FORMat	WAVEform
:DISPlay:OView:OTINdicator	OFF
:DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:OView:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe	100 dB
:DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALe]:OFFSet	1.4925 GHz
:DISPlay:OView:SGRam:X[:SCALe]:SPAN	15 MHz
:DISPlay:OView:SGRam:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:OView:SGRam:Y[:SCALe]:PLINe	1
:DISPlay:OView:WAVEform:X[:SCALe]:OFFSet	-40 ms
:DISPlay:OView:WAVEform:X[:SCALe]:PDIVision	4 ms/div
:DISPlay:OView:WAVEform:Y[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:OView:WAVEform:Y[:SCALe]:PDIVision	100 dB
:DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:OView:ZOOM:COLor[:SCALe]:RANGe	100 dB
:DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALe]:OFFSet	1.4925 GHz
:DISPlay:OView:ZOOM:X[:SCALe]:SPAN	15 MHz
:DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:OView:ZOOM:Y[:SCALe]:PLINe	1
:DISPlay:PULSe サブグループ	
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:CHPower	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:DCYClE	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:EBWidth	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:FREQuency	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:OBWidth	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:OORatio	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:PERiod	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:PHASe	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:PPOWer	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:RIPPlE	OFF
:DISPlay:PULSe:MVIew:RESUlt:WIDTh	ON
:DISPlay:PULSe:SVIew:FORMat	WIDTh
:DISPlay:PULSe:SVIew:GUIDelines	ON
:DISPlay:PULSe:SVIew:RANGe	ADAPtive
:DISPlay:PULSe:SVIew:RESUlt	SINGLe
:DISPlay:PULSe:SVIew:SElect	0
:DISPlay:SPECTrum サブグループ	
:DISPlay:SPECTrum:BMARker:STATe	ON
:DISPlay:SPECTrum:GRATicule:GRID	FIX
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:INTERval	0 dB
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude:OFFSet	0 dBm
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:AMPLitude[:STATe]	OFF
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:ANNotation[:STATe]	ON
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:INTERval	0 Hz

表 C-4: :DISPlay コマンド (続き)

ヘッダ	デフォルト値
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency:OFFSet	中心周波数
:DISPlay:SPECTrum:MLINe:FREQuency[:STATe]	OFF
:DISPlay:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet	1.4925 GHz
:DISPlay:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision	1.5 MHz/div
:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision	10 dB/div
:DISPlay:TFRequency サブグループ	
:DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:TFRequency:SGRam:COLor[:SCALe]:RANGe	100 dB
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:ANNotation[:STATe]	ON
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:FREQuency:INTerVal	0 Hz
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:FREQuency:OFFSet	中心周波数
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:FREQuency[:STATe]	OFF
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:INTerVal	0 s
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME:OFFSet	10 ms
:DISPlay:TFRequency:SGRam:MLINe:TIME[:STATe]	OFF
:DISPlay:TFRequency:SGRam:X[:SCALe]:OFFSet	1.4925 GHz
:DISPlay:TFRequency:SGRam:X[:SCALe]:SPAN	15 MHz
:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:TFRequency:SGRam:Y[:SCALe]:PLINe	1
:DISPlay[:VIEW] サブグループ	
:DISPlay[:VIEW]:BRIGhtness	100
:DISPlay[:VIEW]:FORMat	V1S (SANORMAL) MULTitude (上記以外)
:DISPlay:WAVeform サブグループ	
:DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet	-160 ms
:DISPlay:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision	16 ms/div
:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision	0

表 C-5: :DISPlay コマンド (オプション)

ヘッダ	デフォルト値
オプション21 型デジタル変調解析関連	
:DISPlay:DDEMod:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]	ON
:DISPlay:DDEMod:MVIew:DSTart	AUTO
:DISPlay:DDEMod:MVIew:FORMat	OFF
:DISPlay:DDEMod:MVIew:RADIX	BINary
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:MAXimum	100%
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:MINimum	1m%
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0

表 C-5: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:BFIT[:STATe]	ON
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:LINE:REfERENCE[:STATe]	ON
:DISPlay:DDEMod:NLINearity:MASK[:STATe]	ON
:DISPlay:DDEMod:SVIew:DStArt	AUTO
:DISPlay:DDEMod:SVIew:FORMat	SPECTrum
:DISPlay:DDEMod:SVIew:RADIX	BINary
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MAXimum	100%
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:MINimum	1m%
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:RFID:DDEMod サブグループ	
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:BURSt[:NUMBer]	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:EDGE[:NUMBer]	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:ENVeLope[:NUMBer]	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:GUIDeLine[:STATe]	OFF
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:PDIVision	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:PDIVision	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:BURSt[:NUMBer]	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:EDGE[:NUMBer]	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:ENVeLope[:NUMBer]	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:FORMat	SPECTrum
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:GUIDeLine[:STATe]	OFF
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:PDIVision	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:PDIVision	0
:DISPlay:RFID:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:RFID:SPECTrum サブグループ	
:DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet	1.495GHz
:DISPlay:RFID:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision	1MHz
:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet	-100dBm
:DISPlay:RFID:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision	10dB
:DISPlay:RFID:WAVEform サブグループ	
:DISPlay:RFID:WAVEform:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:RFID:WAVEform:X[:SCALe]:PDIVision	0
:DISPlay:RFID:WAVEform:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:RFID:WAVEform:Y[:SCALe]:PDIVision	0

表 C-5: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
:DISPlay:SSource:MView サブグループ	
:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALE]:PDIVision	0
:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALE]:RANGe	0
:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALE]:START	0
:DISPlay:SSource:MView:X[:SCALE]:STOP	0
:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALE]:PDIVision	0
:DISPlay:SSource:MView:Y[:SCALE]:RANGe	0
:DISPlay:SSource:SView サブグループ	
:DISPlay:SSource:SView:COLor[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:SView:COLor[:SCALE]:RANGe	0
:DISPlay:SSource:SView:FORMat	SPECtrum
:DISPlay:SSource:SView:X[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:SView:X[:SCALE]:PDIVision	0
:DISPlay:SSource:SView:X[:SCALE]:RANGe	0
:DISPlay:SSource:SView:X[:SCALE]:START	0
:DISPlay:SSource:SView:X[:SCALE]:STOP	0
:DISPlay:SSource:SView:Y[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:SView:Y[:SCALE]:PDIVision	0
:DISPlay:SSource:SView:Y[:SCALE]:PLINe	1
:DISPlay:SSource:SView:Y[:SCALE]:RANGe	0
:DISPlay:SSource:SPECTrum サブグループ	
:DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision	0
:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision	0
:DISPlay:SSource:TFRrequency サブグループ	
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:COLor[:SCALE]:OFFSet	-130dBc/Hz
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:COLor[:SCALE]:RANGe	100dB
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:X[:SCALE]:START	10Hz
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:X[:SCALE]:SPOP	18MHz
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:Y[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:TFRrequency:NGRam:Y[:SCALE]:PLINe	1
:DISPlay:SSource:WAVEform サブグループ	
:DISPlay:SSource:WAVEform:X[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:WAVEform:X[:SCALE]:PDIVision	0
:DISPlay:SSource:WAVEform:Y[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPlay:SSource:WAVEform:Y[:SCALE]:PDIVision	0
オプション 23 W-CDMA uplink related	
:DISPlay:AC3Gpp サブグループ	
:DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALE]:OFFSet	1.4875 GHz
:DISPlay:AC3Gpp:X[:SCALE]:RANGe	25 MHz

表 C-5: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:AC3Gpp:Y[:SCALe]:RANGe	100 dB
:DISPlay:UL3Gpp サブグループ	
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:COLor[:SCALe]:RANGe	100 dB
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:FORMat	OFF
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:RADIX	BINary
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:X[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALe]:PUNit	RELative
:DISPlay:UL3Gpp:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:COLor[:SCALe]:RANGe	100 dB
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:FORMat	SPECTrum
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:RADIX	BINary
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:X[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:PUNit	RELative
:DISPlay:UL3Gpp:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0
オプション24 型 GSM/EDGE 関連	
:DISPlay:GSMedge:DDEMod サブグループ	
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVIew:FILTer:EINVerse	OFF
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVIew:FORMat	EVM
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVIew:STIMe	SYMBOL
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVIew:X[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:MVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FILTer:EINVerse	OFF
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:FORMat	VECTor
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:STIMe	SYMBOL
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:GSMedge:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0
:DISPlay:GSMedge:SPECTrum サブグループ	
:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:BMARker:STATe	OFF
:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision	0
:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:GSMedge:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision	0

表 C-5: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
:DISPlay:GSMedge:WAVeform サブグループ	
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:BURSt	FULL
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision	0
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:GSMedge:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision	0
オプション25 型 cdma2000 解析関連 (:Standard = :FLCDMA2K :RLCDMA2K)	
:DISPlay:Standard:CCDF サブグループ	
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]	ON
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REFerence[:STATe]	OFF
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:AUTO	ON
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum	150 dB
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum	100%
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum	10μ%
:DISPlay:Standard:DDEMod サブグループ	
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:FORMat	SPEctrum
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]OFFSet	20.5 MHz
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe	5 MHz
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe	100 dB
:DISPlay:Standard:SPEctrum サブグループ	
:DISPlay:Standard:SPEctrum:X[:SCALe]:OFFSet	1.4925 GHz
:DISPlay:Standard:SPEctrum:X[:SCALe]:PDIVision	1.5 MHz/div
:DISPlay:Standard:SPEctrum:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:Standard:SPEctrum:Y[:SCALe]:PDIVision	10 dB/div
:DISPlay:Standard:WAVeform サブグループ	
:DISPlay:Standard:WAVeform:X[:SCALe]:OFFSet	-40 μs
:DISPlay:Standard:WAVeform:X[:SCALe]:PDIVision	4 μs/div
:DISPlay:Standard:WAVeform:Y[:SCALe]:OFFSet	-100 dBm
:DISPlay:Standard:WAVeform:Y[:SCALe]:PDIVision	100 dB/div
オプション26 型 1xEV-DO 解析関連 (:Standard = :FL1XEVD0 :RL1XEVD0)	
:DISPlay:Standard:CCDF サブグループ	
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:GAUSSian[:STATe]	ON
:DISPlay:Standard:CCDF:LINE:REFerence[:STATe]	OFF
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:AUTO	ON
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:MAXimum	150 dB
:DISPlay:Standard:CCDF:X[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:MAXimum	100%
:DISPlay:Standard:CCDF:Y[:SCALe]:MINimum	10 μ%
:DISPlay:Standard:DDEMod サブグループ	
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:FORMat	SPEctrum
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]OFFSet	20.5 MHz
:DISPlay:Standard:DDEMod:SVIew:X[:SCALe]:RANGe	5 MHz

表 C-5: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
:DISPLay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPLay:Standard:DDEMod:SVIew:Y[:SCALE]:RANGe	100 dB
:DISPLay:Standard:SPECTrum サブグループ	
:DISPLay:Standard:SPECTrum:X[:SCALE]:OFFSet	1.4925 GHz
:DISPLay:Standard:SPECTrum:X[:SCALE]:PDIVision	1.5 MHz/div
:DISPLay:Standard:SPECTrum:Y[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPLay:Standard:SPECTrum:Y[:SCALE]:PDIVision	10 dB/div
:DISPLay:Standard:WAVEform サブグループ	
:DISPLay:Standard:WAVEform:X[:SCALE]:OFFSet	-40 μs
:DISPLay:Standard:WAVEform:X[:SCALE]:PDIVision	4 μs/div
:DISPLay:Standard:WAVEform:Y[:SCALE]:OFFSet	-100 dBm
:DISPLay:Standard:WAVEform:Y[:SCALE]:PDIVision	100 dB/div
オプション27 型 3GPP-R5 解析関連 (:Standard = :DLR5_3GPP :ULR5_3GPP)	
:DISPLay:SADLR5_3GPP サブグループ	
:DISPLay:SADLR5_3GPP:X[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPLay:SADLR5_3GPP:X[:SCALE]:RANGe	25 MHz
:DISPLay:SADLR5_3GPP:Y[:SCALE]:OFFSet	-100 dBm
:DISPLay:SADLR5_3GPP:Y[:SCALE]:RANGe	100 dB
:DISPLay:DLR5_3GPP :ULR5_3GPP サブグループ	
:DISPLay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot:HEAD	-14
:DISPLay:DLR5_3GPP:AVIew:MSLot[:STATe]	ON
:DISPLay:DLR5_3GPP:AVIew:SHORtcode	0
:DISPLay:DLR5_3GPP:AVIew:SRATe	COMPosite
:DISPLay:DLR5_3GPP:AVIew:SSCHpart	OFF
:DISPLay:DLR5_3GPP:AVIew:TSLot	0
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:COLor[:SCALE]:RANGe	0
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:FORMat	OFF
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:RADIx	BINary
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:X[:SCALE]:RANGe	0
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:PUNit	RELative
:DISPLay:DLR5_3GPP:MVIew:Y[:SCALE]:RANGe	0
:DISPLay:ULR5_3GPP:AVIew:SRATe	R960S
:DISPLay:ULR5_3GPP:AVIew:TSLot	0
:DISPLay:ULR5_3GPP:MVIew:FORMat	OFF
:DISPLay:Standard:SVIew:COLor[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPLay:Standard:SVIew:COLor[:SCALE]:RANGe	0
:DISPLay:Standard:SVIew:FORMat	SPECTrum
:DISPLay:Standard:SVIew:RADIx	BINary
:DISPLay:Standard:SVIew:X[:SCALE]:OFFSet	0
:DISPLay:Standard:SVIew:X[:SCALE]:RANGe	0

表 C-5: :DISPlay コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
:DISPlay:Standard:SVIew:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:Standard:SVIew:Y[:SCALe]:PUNit	RELative
:DISPlay:Standard:SVIew:Y[:SCALe]:RANGe	0
オプション 29 WLAN analysis related	
:DISPlay:WLAN:DDEMod サブグループ	
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:FORMat	OLINearity
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:MCONtent	EVM
:DISPlay:WLAN:DDEMod:MVIew:RADix	BINary
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:FORMat	SPECtrum
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:MCONtent	EVM
:DISPlay:WLAN:DDEMod:SVIew:RADix	BINary
:DISPlay:WLAN:SPECTrum サブグループ	
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X[:SCALe]:OFFSet	1.45 GHz
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:X[:SCALe]:PDIVision	10 MHz/div
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALe]:OFFSet	0
:DISPlay:WLAN:SPECTrum:Y[:SCALe]:PDIVision	10 dB/div

表 C-6: :FORMat コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:FORMat:BORDER	NORMAL
:FORMat[:DATA]	REAL,32

表 C-7: :INITiate コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:INITiate:CONTinuous	OFF

表 C-8: :INPut コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:INPut:ATTenuation	20 dB
:INPut:ATTenuation:AUTO	ON
:INPut:COUPling	AC
:INPut:MAXLevel	0 dB
:INPut:MIXer	-25 dBm

表 C-9: :SENSe コマンド

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe]:ACPower サブグループ	
[:SENSe]:ACPower:BANDwidth BWIDth:ACHannel	1.5 MHz
[:SENSe]:ACPower:BANDwidth BWIDth:INTEgration	1.5 MHz
[:SENSe]:ACPower:CSPacing	2.1MHz
[:SENSe]:ACPower:FILTer:TYPE	NYQuist
[:SENSe]:ACPower:FILTer:COEfficient	0.5
[:SENSe]:ADEMod サブグループ	
[:SENSe]:ADEMod:BLOCK	0
[:SENSe]:ADEMod:CARRier:OFFSet	0
[:SENSe]:ADEMod:CARRier:SEARCh	ON
[:SENSe]:ADEMod:FM:THReshold	-100 dB
[:SENSe]:ADEMod:LENGth	8192
[:SENSe]:ADEMod:MODuLation	OFF
[:SENSe]:ADEMod:OFFSet	0
[:SENSe]:ADEMod:PM:THReshold	-100 dB
[:SENSe]:AVERage サブグループ	
[:SENSe]:AVERage:COUNT	20
[:SENSe]:AVERage[:STATe]	OFF
[:SENSe]:AVERage:TCONtrol	EXPONential
[:SENSe]:BSIZe サブグループ	
[:SENSe]:BSIZe	2
[:SENSe]:CCDF サブグループ	
[:SENSe]:CCDF:BLOCK	0
[:SENSe]:CCDF:THReshold	-150 dBm
[:SENSe]:CFRequency サブグループ	
[:SENSe]:CFRequency:CRESolution	1 Hz
[:SENSe]:CHPower サブグループ	
[:SENSe]:CHPower:BANDwidth BWIDth:INTEgration	3 MHz
[:SENSe]:CHPower:FILTer:COEfficient	0.5
[:SENSe]:CHPower:FILTer:TYPE	NYQuist
[:SENSe]:CNRatio サブグループ	
[:SENSe]:CNRatio:BANDwidth BWIDth:INTEgration	1.5 MHz
[:SENSe]:CNRatio:BANDwidth BWIDth:NOISe	1.5 MHz
[:SENSe]:CNRatio:FILTer:COEfficient	0.5
[:SENSe]:CNRatio:FILTer:TYPE	NYQuist
[:SENSe]:CNRatio:OFFSet	4.5 MHz
[:SENSe]:CORRection サブグループ	
[:SENSe]:CORRection:OFFSet[:MAGNitude]	0
[:SENSe]:CORRection:OFFSet:FREQuency	0
[:SENSe]:CORRection[:STATe]	OFF
[:SENSe]:CORRection:X:SPACing	LINear
[:SENSe]:CORRection:Y:SPACing	LOGarithmic
[:SENSe]:EBWidth サブグループ	
[:SENSe]:EBWidth:XDB	-30 dB

表 C-9: :SENSe コマンド (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe]:FEED サブグループ	
[:SENSe]:FEED	RF
[:SENSe]:FREQuency サブグループ	
[:SENSe]:FREQuency:CENTer	1.5 GHz
[:SENSe]:FREQuency:CENTer:STEP:AUTO	ON
[:SENSe]:FREQuency:CENTer:STEP[:INCRement]	150 kHz
[:SENSe]:FREQuency:CTABle[:SELect]	None
[:SENSe]:FREQuency:SPAN	15 MHz
[:SENSe]:FREQuency:START	1.4925 GHz
[:SENSe]:FREQuency:STOP	1.5075 GHz
[:SENSe]:OBWidth サブグループ	
[:SENSe]:OBWidth:PERCent	99%
[:SENSe]:PULSe サブグループ	
[:SENSe]:PULSe:BLOCK	0
[:SENSe]:PULSe:CHPower:Bandwidth :BWidth:INTEgration	1 MHz
[:SENSe]:PULSe:CRESolution	1 kHz
[:SENSe]:PULSe:EBWidth:XDB	-30 dB
[:SENSe]:PULSe:FILTer:COEFFicient	0.35
[:SENSe]:PULSe:FILTer:Bandwidth BWidth	3.6 MHz
[:SENSe]:PULSe:FILTer:MEASurment	OFF
[:SENSe]:PULSe:FILTer:OBWidth:PERcent	90%
[:SENSe]:PULSe:PTOffset	0
[:SENSe]:PULSe:THReshold	-3 dBc
[:SENSe]:ROSCillator サブグループ	
[:SENSe]:ROSCillator:SOURce	INTernal
[:SENSe]:SPECtrum サブグループ	
[:SENSe]:SPECtrum:AVERage:COUNT	20
[:SENSe]:SPECtrum:AVERage[:STATe]	OFF
[:SENSe]:SPECtrum:AVERage:TYPE	RMS
[:SENSe]:SPECtrum:Bandwidth BWidth[:RESolution]	80 kHz
[:SENSe]:SPECtrum:Bandwidth BWidth[:RESolution]:AUTO	ON
[:SENSe]:SPECtrum:Bandwidth BWidth:STATe	ON
[:SENSe]:SPECtrum:DETEctor[:FUNCTion]	POSitive
[:SENSe]:SPECtrum:FILTer:COEFFicient	0.5
[:SENSe]:SPECtrum:FILTer:TYPE	NYQuist
[:SENSe]:SPECtrum:FFT:ERESolution	OFF
[:SENSe]:SPECtrum:FFT:LENGth	1024
[:SENSe]:SPECtrum:FFT:START	1024
[:SENSe]:SPECtrum:FFT:WINDow[:TYPE]	BH4B
[:SENSe]:SPECtrum:FRAME	0
[:SENSe]:SPECtrum:MEASurment	OFF
[:SENSe]:SPECtrum:ZOOM:BLOCK	0
[:SENSe]:SPECtrum:ZOOM:FREQuency:CENTer	中心周波数
[:SENSe]:SPECtrum:ZOOM:FREQuency:WIDTh	スパン

表 C-9: :SENSe コマンド (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe] :SPEctrum:ZOOM:LENGth	7680
[:SENSe] :SPEctrum:ZOOM:OFFSet	0
[:SENSe] :SPURious サブグループ	
[:SENSe] :SPURious [:THReshold] :EXCursion	3 dB
[:SENSe] :SPURious [:THReshold] :IGNore	0 Hz
[:SENSe] :SPURious [:THReshold] :SIGNal	-20 dBm
[:SENSe] :SPURious [:THReshold] :SPURious	-70 dB
[:SENSe] :TRANsient サブグループ	
[:SENSe] :TRANsient:BLOCK	0
[:SENSe] :TRANsient:ITEM	OFF
[:SENSe] :TRANsient:LENGth	8192
[:SENSe] :TRANsient:OFFSet	0

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション)

ヘッダ	デフォルト値
オプション21 型デジタル変調解析関連	
[:SENSe] :DDEMod サブグループ	
[:SENSe] :DDEMod:BLOCK	0
[:SENSe] :DDEMod:CARRier:OFFSet	0
[:SENSe] :DDEMod:CARRier:SEARCh	ON
[:SENSe] :DDEMod:FILTer:ALPHA	0.3
[:SENSe] :DDEMod:FILTer:MEASurement	OFF
[:SENSe] :DDEMod:FILTer:REFerence	GAUSSian
[:SENSe] :DDEMod:FORMat	GMSK
[:SENSe] :DDEMod:LENGth	7680
[:SENSe] :DDEMod:NLINearity:COEFFicient	8
[:SENSe] :DDEMod:NLINearity:HDIVision	0.1
[:SENSe] :DDEMod:NLINearity:LSRegion [:SET]	-10
[:SENSe] :DDEMod:NLINearity:LSRegion:UNIT	RELative
[:SENSe] :DDEMod:OFFSet	0
[:SENSe] :DDEMod:PRESet	OFF
[:SENSe] :DDEMod:SRATE	270.833ksps
[:SENSe] :RFID サブグループ	
[:SENSe] :RFID:ACPower:BANDwidth :BWIDth:ACHanne1	1MHz
[:SENSe] :RFID:ACPower:BANDwidth :BWIDth:INTegration	1MHz
[:SENSe] :RFID:ACPower:CSPacing	1.4MHz
[:SENSe] :RFID:ACPower:FILTer:COEFFicient	0.5
[:SENSe] :RFID:ACPower:FILTer:TYPE	NYQuist
[:SENSe] :RFID:BLOCK	0
[:SENSe] :RFID:CARRier:BANDwidth :BWIDth:INTegration	0
[:SENSe] :RFID:CARRier:COUNter [:RESolution]	1MHz
[:SENSe] :RFID:CARRier:OFFSet	0

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe] :RFID :CARRier :PRATio [:SET]	20dB
[:SENSe] :RFID :CARRier :PRATio :UNIT	dB
[:SENSe] :RFID :LENGth	7680
[:SENSe] :RFID :MEASurement	OFF
[:SENSe] :RFID :MODulation :BRATe :AUTO	OFF
[:SENSe] :RFID :MODulation :BRATe [:SET]	40kbps
[:SENSe] :RFID :MODulation :DECode	NRZ
[:SENSe] :RFID :MODulation :FORMat	ASK
[:SENSe] :RFID :MODulation :INTERpolate	1
[:SENSe] :RFID :MODulation :LINK	INTerrogator
[:SENSe] :RFID :MODulation :SERRor [:WIDTh]	5%
[:SENSe] :RFID :MODulation :STANdard	MANUAL
[:SENSe] :RFID :MODulation :TARI :AUTO	OFF
[:SENSe] :RFID :MODulation :TARI [:SET]	20μs
[:SENSe] :RFID :MODulation [:THReshold] :HIGHer	90%
[:SENSe] :RFID :MODulation [:THReshold] :LOWer	10%
[:SENSe] :RFID :OFFSet	0
[:SENSe] :RFID :RFSPurious [:THReshold] :EXCURsion	3dB
[:SENSe] :RFID :RFSPurious [:THReshold] :IGNore	0
[:SENSe] :RFID :RFSPurious [:THReshold] :SIGNal	-20dBm
[:SENSe] :RFID :RFSPurious [:THReshold] :SPURious	-70dBc
[:SENSe] :RFID :ZOOM :FREQuency :CENTer	中心周波数
[:SENSe] :RFID :ZOOM :FREQuency :WIDTh	フル・スパン
[:SENSe] :SSOurce サブグループ	
[:SENSe] :SSOurce :BLOCk	0
[:SENSe] :SSOurce :CARRier :BANDwidth :BWIth :INTegration	スパン/100
[:SENSe] :SSOurce :CARRier [:THReshold]	-20dBm
[:SENSe] :SSOurce :CARRier :TRACking [:STATe]	ON
[:SENSe] :SSOurce :CNRatio :FFT [:LENGth]	1024
[:SENSe] :SSOurce :CNRatio :OFFSet	10Hz
[:SENSe] :SSOurce :CNRatio :SBANd	UPPer
[:SENSe] :SSOurce :CNRatio [:THReshold]	-30dBc/Hz
[:SENSe] :SSOurce :FVTime :SMOothing	1
[:SENSe] :SSOurce :FVTime [:THReshold]	10Hz
[:SENSe] :SSOurce :LENGth	7680
[:SENSe] :SSOurce :MEASurement	OFF
[:SENSe] :SSOurce :OFFSet	0
[:SENSe] :SSOurce :PNOise :MPJitter [:THReshold]	10dB
[:SENSe] :SSOurce :PNOise :RJITter :OFFSet :START	10Hz
[:SENSe] :SSOurce :PNOise :RJITter :OFFSet :STOP	100MHz
[:SENSe] :SSOurce :PNOise :RJITter [:THReshold]	0
[:SENSe] :SSOurce :PNOise :OFFSet :MAXimum	100MHz
[:SENSe] :SSOurce :PNOise :OFFSet :MINimum	10Hz
[:SENSe] :SSOurce :SPURious :IGNore	0

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe] :SSOurce:SPURious:SFILter[:STATe]	ON
[:SENSe] :SSOurce:SPURious[:THReshoId]:EXCursion	3
[:SENSe] :SSOurce:SPURious[:THReshoId]:SPURious	-70dBc
オプション23 型 W-CDMA 解析関連	
[:SENSe] :AC3Gpp サブグループ	
[:SENSe] :AC3Gpp:FILTer:ALPHA	0.22
[:SENSe] :AC3Gpp:FILTer:TYPE	RNYQuist
[:SENSe] :UL3Gpp サブグループ	
[:SENSe] :UL3Gpp:AVIew:SHORtcode	0
[:SENSe] :UL3Gpp:AVIew:SRATe	R960S
[:SENSe] :UL3Gpp:AVIew:TSLot	0
[:SENSe] :UL3Gpp:BLOCK	0
[:SENSe] :UL3Gpp:CARRier:OFFSet	0
[:SENSe] :UL3Gpp:CARRier:SEARCh	ON
[:SENSe] :UL3Gpp:FILTer:ALPHA	0.22
[:SENSe] :UL3Gpp:FILTer:MEASurement	RRCosine
[:SENSe] :UL3Gpp:FILTer:REFerence	RCOSine
[:SENSe] :UL3Gpp:LENGth	512000
[:SENSe] :UL3Gpp:MMODE	DPCH
[:SENSe] :UL3Gpp:OFFSet	0
[:SENSe] :UL3Gpp:SCODE:NUMBER	0
[:SENSe] :UL3Gpp:SCODE:TYPE	LONG
[:SENSe] :UL3Gpp:THReshoId	-30 dB
オプション24 型 GSM/EDGE 解析関連	
[:SENSe] :GSMedge サブグループ	
[:SENSe] :GSMedge:ABITs	147
[:SENSe] :GSMedge:BLOCK	0
[:SENSe] :GSMedge:BURSt:INDEX	0
[:SENSe] :GSMedge:BURSt:MPoint	HWAY
[:SENSe] :GSMedge:CARRier:OFFSet	0
[:SENSe] :GSMedge:CARRier:SEARCh	ON
[:SENSe] :GSMedge:FILTer:RCWRcosine	ON
[:SENSe] :GSMedge:LIMit:SIGNal	-20
[:SENSe] :GSMedge:LIMit:SPURious	-36
[:SENSe] :GSMedge:MEASurement	MACCuracy
[:SENSe] :GSMedge:MODulation	GMSK
[:SENSe] :GSMedge:SLOT	17
[:SENSe] :GSMedge:STANDard:BAND	GSM900
[:SENSe] :GSMedge:STANDard:DIRection	UPLlink
[:SENSe] :GSMedge:STINDEX	1
[:SENSe] :GSMedge:TSCode:AUTO	OFF
[:SENSe] :GSMedge:TSCode[:NUMBER]	0

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
オプション25 型 cdma2000 解析関連 (:Standard = :FLCDMA2K :RLCDMA2K)	
[:SENSe] :Standard サブグループ	
[:SENSe] :Standard: ACQuisition: CHIPS	6144
[:SENSe] :Standard: ACQuisition: HISTory	0
[:SENSe] :Standard: ACQuisition: SEConds	4.998 ms
[:SENSe] :Standard: ANALySis: INTerva1	6
[:SENSe] :Standard: ANALySis: OFFSet	0
[:SENSe] :Standard: BLOCk	0
[:SENSe] :Standard: MEASurement	0
[:SENSe] :Standard: SPEctrum: OFFSet	OFF
[:SENSe] :Standard: ACQuisition: TINTerva1	0
[:SENSe] :Standard: ACPower サブグループ	
[:SENSe] :Standard: ACPower: BANDwidth BWiDth: INTegration	1.23 MHz
[:SENSe] :Standard: ACPower: FILTer: TYPE	RECTangle
[:SENSe] :Standard: ACPower: LIMit: ADJacent<x>[:STATE]	x=1~5: ON x=6~12: OFF
[:SENSe] :Standard: CCDF サブグループ	
[:SENSe] :Standard: CCDF: THResho1d	-150 dBm
[:SENSe] :Standard: CDPower サブグループ	
[:SENSe] :Standard: CDPower: ACThresho1d	FLCDMA2K: -27 dB RLCDMA2K: -21 dB
[:SENSe] :Standard: CDPower: FILTer: MEASurement	FLCDMA2K: EQComp RLCDMA2K: COMP
[:SENSe] :Standard: CDPower: IQSWap	OFF
[:SENSe] :Standard: CDPower: MLEVe1	SYMBol0
[:SENSe] :FLCDMA2K: CDPower: PNOFFset	0
[:SENSe] :FLCDMA2K: CDPower: QOF	0
[:SENSe] :Standard: CDPower: SElect: CODE	0
[:SENSe] :Standard: CDPower: SElect: PCG	0
[:SENSe] :Standard: CDPower: WCODe	COMPOSITE
[:SENSe] :Standard: CHPower サブグループ	
[:SENSe] :Standard: CHPower: BANDwidth BWiDth: INTegration	1.23 MHz
[:SENSe] :Standard: CHPower: FILTer: TYPE	RECTangle
[:SENSe] :Standard: CHPower: LIMit[:STATE]	OFF
[:SENSe] :Standard: IM サブグループ	
[:SENSe] :Standard: IM: BANDwidth BWiDth: INTegration	1.23 MHz
[:SENSe] :Standard: IM: FILTer: TYPE	RECTangle
[:SENSe] :Standard: IM: LIMit: FORDer[:STATE]	ON
[:SENSe] :Standard: IM: LIMit: TORDer[:STATE]	ON
[:SENSe] :Standard: IM: SCOFFset	1.25 MHz

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe]:Standard:MACCuracy サブグループ	
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:ACCThreshold	FLCDMA2K: -27 dB RLCDMA2K: -21 dB
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:FILTer:MEASurement	FLCDMA2K: EQComp RLCDMA2K: COMP
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:IQSWap	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:REAK[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:MLeVe1	SYMBOL
[:SENSe]:FLCDMA2K:MACCuracy:PNOFFset	0
[:SENSe]:FLCDMA2K:MACCuracy:QOF	0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:CODE	0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:PCG	0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:WCODe	COMPOSITE
[:SENSe]:Standard:OBWidth サブグループ	
[:SENSe]:Standard:OBWidth:LIMit[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:OBWidth:PERcent	99%
[:SENSe]:Standard:PCCHannel サブグループ	
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:ACCThreshold	FLCDMA2K: -27 dB RLCDMA2K: -21 dB
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:FILTer:MEASurement	FLCDMA2K: EQComp RLCDMA2K: COMP
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:IQSWap	OFF
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe]	ON
[:SENSe]:FLCDMA2K:PCCHannel:PNOFFset	0
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SElect:CODE	0
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:SElect:PCG	0
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:WCODe	COMPOSITE
[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime サブグループ	
[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:OFFSet	416.67 μs
[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:BURSt:SYNC	MPOINT
[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:LIMit:ZONE<x>[:STATe]	ON
[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:LeVe1	30 dBm
[:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime:RCHannel:MODE	AUTO

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe] :Standard:SEMask サブグループ	
[:SENSe] :Standard:SEMask:BANDwidth BWIDth:INTEgration	1.2288 MHz
[:SENSe] :Standard:SEMask:BURSt:OFFSet	416.67 μ s
[:SENSe] :Standard:SEMask:BURSt:SYNC	MPOint
[:SENSe] :Standard:SEMask:FILTer:TYPE	RECTangle
[:SENSe] :Standard:SEMask:LIMit:ISpurious:ZONE<x>[:STATe]	OFF
[:SENSe] :Standard:SEMask:LIMit:OFCHannel:ZONE<x>[:STATe]	OFF
[:SENSe] :Standard:SEMask:MEASurement	OFCHannel
[:SENSe] :Standard:SEMask:RCHannel:LEVe1	0
[:SENSe] :Standard:SEMask:RCHannel:MODE	AUTO
[:SENSe] :Standard:SEMask:SLOT:GATE	200 μ s
オプション26型 1xEV-DO 解析関連 (:Standard = :FL1XEVD0 :RL1XEVD0)	
[:SENSe] :Standard サブグループ	
[:SENSe] :Standard:ACQuisition:CHIPs	6144
[:SENSe] :Standard:ACQuisition:HISTory	0
[:SENSe] :Standard:ACQuisition:SEConds	4.998 ms
[:SENSe] :Standard:ANALysis:INTerva1	6
[:SENSe] :Standard:ANALysis:OFFSet	0
[:SENSe] :Standard:BLOCK	0
[:SENSe] :Standard:MEASurement	OFF
[:SENSe] :Standard:SPECTrum:OFFSet	0
[:SENSe] :Standard:ACPower サブグループ	
[:SENSe] :Standard:ACPower:BANDwidth BWIDth:INTEgration	1.23 MHz
[:SENSe] :Standard:ACPower:FILTer:TYPe	RECTangle
[:SENSe] :Standard:ACPower:LIMit:ADJacent<x>[:STATe]	x=1 to 5: OFF x=6 to 12: ON
[:SENSe] :Standard:CCDF サブグループ	
[:SENSe] :Standard:CCDF:THResho1d	-150 dBm
[:SENSe] :Standard:CDPower サブグループ	
[:SENSe] :Standard:CDPower:ACThresho1d	FL1XEVD0: -27 dB RL1XEVD0: -21 dB
[:SENSe] :FL1XEVD0:CDPower:CHANne1[:TYPE]	MAC
[:SENSe] :Standard:CDPower:FILTer:MEASurement	FL1XEVD0: EQComp RL1XEVD0: COMP
[:SENSe] :Standard:CDPower:IQSWap	OFF
[:SENSe] :RL1XEVD0:CDPower:LCMask:I	#H0,#H0,#H0
[:SENSe] :RL1XEVD0:CDPower:LCMask:Q	#H0,#H0,#H0
[:SENSe] :Standard:CDPower:MLEVe1	SYMBol
[:SENSe] :FL1XEVD0:CDPower:PNOFFset	0
[:SENSe] :Standard:CDPower:SElect:CODE	0
[:SENSe] :Standard:CDPower:SElect:HSLot	0

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe]:Standard:CHPower サブグループ	
[:SENSe]:Standard:CHPower:BANDwidth BWIDth:INTEgration	1.23 MHz
[:SENSe]:Standard:CHPower:FILTer:TYPE	RECTangle
[:SENSe]:Standard:CHPower:LIMit[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:IM サブグループ	
[:SENSe]:Standard:IM:BANDwidth BWIDth:INTEgration	1.23 MHz
[:SENSe]:Standard:IM:FILTer:TYPE	RECTangle
[:SENSe]:Standard:IM:LIMit:FORDer[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:IM:LIMit:TORDer[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:IM:SCOFFset	1.25 MHz
[:SENSe]:Standard:MACCuracy サブグループ	
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:ACCThreshoId	FL1XEVD0: -27 dB RL1XEVD0: -21 dB
[:SENSe]:FL1XEVD0:MACCuracy:CHANne1[:TYPE]	PILot
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:FILTer:MEASurement	FL1XEVD0: EQComp RL1XEVD0: COMP
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:IQSWap	OFF
[:SENSe]:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:I	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:RL1XEVD0:MACCuracy:LCMask:Q	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:REAK[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:EVM:RMS[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:PCDerror[:STATe]	OFF
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:RHO[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:LIMit:TAU[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:MLeVe1	SYMBol
[:SENSe]:FL1XEVD0:MACCuracy:PNOFFset	0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:CODE	0
[:SENSe]:Standard:MACCuracy:SElect:HSLot	0
[:SENSe]:Standard:OBWidth サブグループ	
[:SENSe]:Standard:OBWidth:LIMit[:STATe]	ON
[:SENSe]:Standard:OBWidth:PERcent	99%
[:SENSe]:Standard:PCCHannel サブグループ	
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:ACCThreshoId	FL1XEVD0: -27 dB RL1XEVD0: -21 dB
[:SENSe]:FL1XEVD0:PCCHannel:CHANne1[:TYPE]	MAC
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:FILTer:MEASurement	FL1XEVD0: EQComp RL1XEVD0: COMP
[:SENSe]:Standard:PCCHannel:IQSWap	OFF
[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:I	#H0,#H0,#H0
[:SENSe]:RL1XEVD0:PCCHannel:LCMask:Q	#H0,#H0,#H0

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:LIMit:PHASe[:STATe]	ON
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:LIMit:TIME[:STATe]	ON
[:SENSe] :FL1XEVD0:PCCHannel:PNOFFset	0
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:SElect:CODE	0
[:SENSe] :Standard:PCCHannel:SElect:HSLot	0
[:SENSe] :FL1XEVD0:PVTIme サブグループ	
[:SENSe] :FL1XEVD0:PVTIme:BURSt:OFFSet	416.67 μ s
[:SENSe] :FL1XEVD0:PVTIme:BURSt:SYNC	MPOInt
[:SENSe] :FL1XEVD0:PVTIme:LIMit:ZONE[1] 2 3 4 5[:STATe]	ON
[:SENSe] :FL1XEVD0:PVTIme:RCHannel:LEVe1	30 dBm
[:SENSe] :FL1XEVD0:PVTIme:RCHannel:MODE	AUTO
[:SENSe] :FL1XEVD0:PVTIme:SLOT[:TYPE]	IDLE
[:SENSe] :Standard:SEMAsk サブグループ	
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:BANDwidth BWIDth:INTegration	1.2288 MHz
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:BURSt:OFFSet	416.67 μ s
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:BURSt:SYNC	MPOInt
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:FILTer:TYPE	RECTangle
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:LIMit:ISPurious:ZONE<x>[:STATe]	OFF
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:LIMit:OFCHannel:ZONE<x>[:STATe]	OFF
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:MEASurement	OFCHannel
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:RCHannel:LEVe1	0
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:RCHannel:MODE	AUTO
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:SLOT:GATE	200 μ s
[:SENSe] :Standard:SEMAsk:SLOT[:TYPE]	IDLE
オプション27 型 3GPP-R5 解析関連 (:Standard = :DLR5_3GPP :ULR5_3GPP)	
[:SENSe] :DLR5_3GPP サブグループ	
[:SENSe] :DLR5_3GPP:BLOCK	0
[:SENSe] :DLR5_3GPP:CARRier:OFFSet	0
[:SENSe] :DLR5_3GPP:CARRier:SEARch	ON
[:SENSe] :DLR5_3GPP:FILTer:ALPHa	0.22
[:SENSe] :DLR5_3GPP:FILTer:MEASurement	RRCosine
[:SENSe] :DLR5_3GPP:FILTer:REFerence	RCOSine
[:SENSe] :DLR5_3GPP:LENGth	512000
[:SENSe] :DLR5_3GPP:OFFSet	0
[:SENSe] :DLR5_3GPP:SCHPart	OFF
[:SENSe] :DLR5_3GPP:SCODE:ALTErnative	NUSed
[:SENSe] :DLR5_3GPP:SCODE:NUMBer	0
[:SENSe] :DLR5_3GPP:SCODE:SEARch	ON
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR サブグループ	
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:ALPHa	0.22
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR:FILTer:TYPE	RNYQuist
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR:LIMit:ADJacent<x>[:STATe]	ON
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR:NCORrection	OFF
[:SENSe] :SADLR5_3GPP:ACLR:SWEp	ON

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower サブグループ	
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:BANDwidth BWIDTH:INTEgration	15 MHz
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:COEFFicient	0.5
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:FILTer:TYPE	Gaussian
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower:LIMit[:STATe]	OFF
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth サブグループ	
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth:LIMit[:STATe]	ON
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth:PERCent	0.95
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask サブグループ	
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:BANDwidth BWIDTH:INTEgration	15 MHz
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:COEFFicient	0.95
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:FILTer:TYPE	Gaussian
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:LIMit:ZONE<x>[:STATe]	ON (x=1~4) OFF (x=5)
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:LEVel	0
[:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMask:RCHannel:MODE	AUTO
[:SENSe]:ULR5_3GPP サブグループ	
[:SENSe]:ULR5_3GPP:BLOCK	0
[:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:OFFSet	0
[:SENSe]:ULR5_3GPP:CARRier:SEARch	ON
[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:ALPha	0.22
[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:MEASurement	RRCosine
[:SENSe]:ULR5_3GPP:FILTer:REFerence	RCOSine
[:SENSe]:ULR5_3GPP:LENGth	512000
[:SENSe]:ULR5_3GPP:OFFSet	0
[:SENSe]:ULR5_3GPP:SCODE:NUMBER	0
[:SENSe]:ULR5_3GPP:SCODE:TYPE	LONG
[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet:DLTime	0
[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:OFFSet[:STSLot]	0
[:SENSe]:ULR5_3GPP:SFRame:SEARch	AUTO
オプション29 WLAN analysis related	
[:SENSe]:WLAN サブグループ	
[:SENSe]:WLAN:ACQuisition:HISTory	0
[:SENSe]:WLAN:ACQuisition:SEConds	10 ms
[:SENSe]:WLAN:ANALYsis:EQUalization[:STATe]	ON
[:SENSe]:WLAN:ANALYsis:LENGth	10 ms
[:SENSe]:WLAN:ANALYsis:MODulation	AUTO
[:SENSe]:WLAN:ANALYsis:OFFSet	0
[:SENSe]:WLAN:ANALYsis:SYNC	LTSYmbol
[:SENSe]:WLAN:BLOCK	0
[:SENSe]:WLAN:MEASurement	EVTTime
[:SENSe]:WLAN:SMASK[:SElect]	DSSS
[:SENSe]:WLAN:SPECTrum:OFFSet	0
[:SENSe]:WLAN:SSEGment	1

表 C-10: :SENSe コマンド (オプション) (続き)

ヘッダ	デフォルト値
[:SENSe] :WLAN :SUBCarrier [:NUMBer]	-26
[:SENSe] :WLAN :SUBCarrier :SElect	BOTH
[:SENSe] :WLAN :TPOWer :BURSt :INDex	0
[:SENSe] :WLAN :TPOWer :SLOPe	POSitive

表 C-11: :STATus コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:STATus :OPERation :ENABle	0
:STATus :QUESTionable :ENABle	0
:SYSTem :QUESTionable [:EVENT]	0

表 C-12: :TRACe コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:TRACe <x> :AVERage :COUNT	20
:TRACe <x> :DDETEctor	MAXimum
:TRACe <x> :MODE	NORMal
:TRACe2 :MODE (オプション21 型のみ)	MAXimum

表 C-13: :TRIGger コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:TRIGger [:SEQuence] :LEVel :EXTerna1	1.4V
:TRIGger [:SEQuence] :LEVel :IQFRequency	0,0,... (1198 個のゼロ)
:TRIGger [:SEQuence] :LEVel :IQTTime	-40 dBfs
:TRIGger [:SEQuence] :MODE	AUTO
:TRIGger [:SEQuence] :POSition	50%
:TRIGger [:SEQuence] :SAVE :COUNT [:STATe]	OFF
:TRIGger [:SEQuence] :SAVE :COUNT :MAXimum	100
:TRIGger [:SEQuence] :SAVE [:STATe]	OFF
:TRIGger [:SEQuence] :SLOPe	Rise
:TRIGger [:SEQuence] :SOURce	IQTTime

表 C-14: :UNIT コマンド

ヘッダ	デフォルト値
:UNIT :ANGLe	DEG

付録 D 設定範囲

表示形式とスケール

表 D-1 に、各表示形式の横軸・縦軸のスケール設定範囲を示します。

表 D-1: 表示形式とスケール範囲

表示形式	横軸範囲	縦軸範囲
スペクトラム	0Hz~8GHz	-200~+100 dBm
スペクトログラム	0Hz~8GHz	フレーム -15999~0 (標準) フレーム -63999~0 (オプション02 型)
時間領域表示	$-(T_f * N_f) \sim 0$ s	-200~+100 dBm (振幅) -30~+30 V (I/Q レベル) -300~+300 % (AM) -38.4~+38.4 MHz (FM/FVT) -675~+675 deg (PM)
CCDF	0~15.01 dB	$10^{-9} \sim 100$ %

* T_f : フレーム時間; N_f : フレーム数

表 D-2: 表示形式とスケール範囲: デジタル変調解析 (オプション21 型)

表示形式	横軸範囲	縦軸範囲
コンスタレーション	$-(T_f * N_f) \sim 0$ s	固定
EVM	$-(T_f * N_f) \sim 0$ s	-100~+200 % (EVM) -300~+300 % (振幅誤差) -675~+675deg (位相誤差)
アイ・ダイアグラム	$-(T_f * N_f) \sim 0$ s	固定
シンボル・テーブル	0 ~ (1024 * N_f) シンボル	-

* T_f : フレーム時間; N_f : フレーム数

表 D-3: 表示形式とスケール範囲 : RFID 解析 (オプション21 型)

測定項目	表示形式	横軸範囲	縦軸範囲
キャリア (Carrier)	電力 vs 時間 (Waveform)	表D-1 参照。	
	スペクトログラム		
	ズーム	スペクトログラムと同じ。	
	スペクトラム	(中心周波数) ± (ズーム・スパン) / 2	-200 ~ +100 dBm
	電力 vs 時間		
	周波数 vs 時間	(中心周波数) ± (ズーム・スパン) / 2	
	RF キャリア	スペクトラムと同じ。	
スプリアス (Spurious)	スプリアス	キャリア測定のスペクトラムと同じ。	
ACPR	ACPR	キャリア測定のスペクトラムと同じ。	
送信電力オン/ダウン (Power On/Down)	電力 vs 時間 (Waveform)	キャリア測定と同じ。	
	スペクトログラム		
	ズーム		
	スペクトラム		
	電力 vs 時間		
	周波数 vs 時間		
	電力オン/ダウン		-200 ~ +100 dBm
RF エンベロープ (RF Envelope) コンスタレーション (Constellation) アイ・ダイアグラム (Eye Diagram) シンボル・テーブル (Symbol Table)	電力 vs 時間 (Waveform)	キャリア測定と同じ。	
	スペクトログラム		
	ズーム		
	スペクトラム		
	電力 vs 時間		
	周波数 vs 時間		
	RF エンベロープ		-200 ~ +100 dBm
	コンスタレーション	表D-2 参照。	
	アイ・ダイアグラム		
シンボル・テーブル			

表 D-4: 表示形式とスケール範囲：シグナル・ソース解析（オプション21 型）

測定項目	表示形式	横軸範囲	縦軸範囲
位相雑音 (Phase Noise)	スペクトラム	(中心周波数) ± (スパン) / 2	-200 ~ +100 dBm
	C/N vs オフセット周波数	10Hz~100MHz	-310 ~ +140 dBc/Hz
スプリアス (Spurious)	スプリアス	(中心周波数) ± (スパン) / 2	-200 ~ +100 dBm
リアルタイム位相雑音 (Real-Time Phase Noise)	スペクトログラム	表D-1 参照。	
	電力 vs 時間		
	スペクトラム	位相雑音のスペクトラムと同じ。	
	ノイズグラム	10Hz~100MHz	縦軸：40~40960 フレーム 色軸：-230~70 dBc/Hz
	等価ジッタ vs 時間	-(データ取り込み長) ~ 0 s	0~0.1 s
	RMS 雑音 vs 時間	-(データ取り込み長) ~ 0 s	0~359 度 / 0~6.28 ラジアン
	C/N vs 時間	0 ~ (解析長)	-310~+140 dBc/Hz
	C/N vs オフセット周波数	位相雑音の C/N vs オフセット周波数と同じ。	
リアルタイム・スプリアス (Real-Time Spurious)	スペクトログラム	表D-1 参照。	
	電力 vs 時間		
	スペクトラム	位相雑音のスペクトラムと同じ。	
	ノイズグラム	リアルタイム位相雑音のノイズグラムと同じ。	
	C/N vs オフセット周波数	位相雑音の C/N vs オフセット周波数と同じ。	
	スプリアス	上記のスプリアスと同じ。	
周波数 vs 時間 (Frequency versus Time)	スペクトログラム	表D-1 参照。	
	電力 vs 時間		
	スペクトラム	位相雑音のスペクトラムと同じ。	
	周波数 vs 時間	表D-1 参照。	

表 D-5: 表示形式とスケール範囲（オプション23 型、27 型）

表示形式	横軸範囲	縦軸範囲
CDP スペクトログラム	0~511 チャンネル	-3999~0 スロット (標準) -15999~0 スロット (オプション02 型)
CDP vs. ショート・コード	0~511 チャンネル	-200~+100 dB/dBm
CDP vs. シンボル	0~639 シンボル	-200~+100 dB/dBm
CDP vs. タイム・スロット	-3999~0 スロット (標準) -15999~0 スロット (オプション02 型)	-200~+100 dB/dBm
シンボル・ コンスタレーション	0~639 シンボル	固定
シンボル EVM	0~639 シンボル	-100~+200 % (EVM) -300~+300 % (振幅誤差) -675~+675deg (位相誤差)
シンボル・ アイ・ダイアグラム	0~639 シンボル	固定

* T_f: フレーム時間; N_f: フレーム数; CDP: コード・ドメイン・パワー

表 D-6: 表示形式とスケール範囲（オプション25 型 cdma2000 解析関連）

表示形式	リンク	横軸範囲	縦軸範囲
コード・ドメイン・パワー	フォワード	RC1/RC2 : 16 ~ 64 チャンネル RC3/RC4/RC5 : 16 ~ 128 チャンネル	相対目盛 : -200 ~ 100 dB 絶対目盛 : 140 ~ -160 dBm
	リバース	RC3/RC4 : 16 ~ 64 チャンネル	
変調確度	両方	固定	固定
EVM	フォワード	チップ : 24 ~ 1536 シンボル : 24 (固定)	-100 ~ 200%
	リバース	チップ : 24 ~ 1536 シンボル : 24 ~ 48	
振幅誤差	両方	EVM の水平軸範囲と同じ	-300 ~ 300%
位相誤差	両方	EVM の水平軸範囲と同じ	-675 ~ 675 度
パワー・コードグラム		コード・ドメイン・パワーの横軸範囲と同じ	-6144 ~ 0 フレーム -24579 ~ 0 フレーム (オプション 02 型)
シンボル・テーブル	両方	最大 256	-
IQ パワー・グラフ	両方	EVM の水平軸範囲と同じ	-6144 ~ 0 フレーム -24579 ~ 0 フレーム (オプション 02 型)
コンスタレーション	両方	固定	固定

表 D-7: 表示形式とスケール範囲（オプション26 型 1xEV-DO 解析関連）

表示形式	リンク	横軸範囲	縦軸範囲																		
コード・ドメイン・パワー	フォワード	MAC : 64 コード Pilot : 32 コード Data : 16 コード Preamble : 32 コード	相対目盛 : -200 ~ 100 dB 絶対目盛 : 140 ~ -160 dBm																		
	リバース	16 コード																			
変調確度	両方	固定	固定																		
EVM	フォワード	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Channel</th> <th>Chip</th> <th>Symbol</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Overall</td> <td>1024</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>MAC</td> <td>128</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Pilot</td> <td>96</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Data</td> <td>最大 800</td> <td>最大 50</td> </tr> <tr> <td>Preamble</td> <td>最大 800</td> <td>最大 25</td> </tr> </tbody> </table>	Channel	Chip	Symbol	Overall	1024	-	MAC	128	2	Pilot	96	3	Data	最大 800	最大 50	Preamble	最大 800	最大 25	-100 ~ 200%
	Channel	Chip	Symbol																		
Overall	1024	-																			
MAC	128	2																			
Pilot	96	3																			
Data	最大 800	最大 50																			
Preamble	最大 800	最大 25																			
リバース	Chip : 1024 Symbol : 最大 256																				
振幅誤差	両方	EVM の水平軸範囲と同じ	-300 ~ 300%																		
位相誤差	両方	EVM の水平軸範囲と同じ	-675 ~ 675 度																		
パワー・コードグラム	両方	コード・ドメイン・パワーの横軸範囲と同じ	-6144 ~ 0 フレーム -24579 ~ 0 フレーム (オプション 02 型)																		
シンボル・テーブル	フォワード	MAC : 2 Pilot : 3 Data : 最大 50 Preamble : 最大 25	-																		
	リバース	最大 256																			
IQ パワー・グラフ	両方	EVM の水平軸範囲と同じ	-6144 ~ 0 フレーム -24579 ~ 0 フレーム (オプション 02 型)																		
コンスタレーション	両方	固定	固定																		

表 D-8: 表示形式とスケール範囲 (オプション29型 WLAN 解析関連)

表示形式	信号の種類	横軸範囲	縦軸範囲
EVM vs Time (EVM 対時間)	全信号	-100~0ms	-100~+200%
MagErr vs Time (振幅誤差対時間)	全信号	-100~0ms	-300~+300%
PhaseErr vs Time (位相誤差対時間)	全信号	-100~0ms	-675~+675°
Power vs Time (電力対時間)	全信号	-100~0ms	-100~+50dBm
Constellation (コンスタレーション)	全信号	固定	固定
EVM vs SC (EVM 対サブキャリア)	OFDM	サブキャリア番号 -32~31	-100~+200%
	OFDM 以外	-100~0ms	
MagErr vs SC (振幅誤差対サブキャリア)	OFDM	サブキャリア番号 -32~31	-300~+300%
	OFDM 以外	-100~0ms	
PhaseErr vs Time (位相誤差対サブキャリア)	OFDM	サブキャリア番号 -32~31	-675~+675°
	OFDM 以外	-100~0ms	
Power vs SC (電力対サブキャリア)	OFDM	サブキャリア番号 -32~31	-100~+50dBm
	OFDM 以外	-100~0ms	
SC Constellation (サブキャリア・ コンスタレーション)	全信号	固定	固定
Frequency error (周波数誤差)	全信号	-100~0ms	-750~+750kHz
OFDM flatness (OFDM フラットネス)	OFDM	サブキャリア番号 -32~31	-150~+150dB
OFDM linearity (OFDM リニアリティ)	OFDM	-5~10 mW	-5~+10mW
Symbol table (シンボル・テーブル)	OFDM	Short training symbol : 0シンボル Long training symbol : 0シンボル Signal field : 48シンボル Data : 48シンボル	-
	OFDM 以外	Long preamble : 144シンボル Long header : 48シンボル Short preamble : 72シンボル Short header : 48シンボル データ DSSS/DBPSK (1 Mbps) : 8シンボル DSSS/DQPSK (2 Mbps) : 8シンボル CCK (5.5 Mbps) : 40シンボル CCK (11 Mbps) : 40シンボル PBCC/BPSK (5.5 Mbps) : 80シンボル PBCC/QPSK (11 Mbps) : 80シンボル	

RBW（分解能帯域幅）

RBW の設定範囲は、スパンによって異なります。

表 D-9: RBW 設定範囲

スパン (Hz)	デフォルト値 (Hz) ／ [サンプル数]	最小値 (Hz) ／ [サンプル数]	最大値 (Hz) ／ [サンプル数]
50～100	2 [1024]	1 [2048]	10 [128]
120～200	5 [512]	1 [4096]	20 [128]
250～500	10 [1024]	1 [8192]	50 [128]
600～1k	20 [1024]	1 [16384]	100 [128]
1.2k～2k	50 [512]	2 [16384]	200 [128]
2.5k～5k	100 [1024]	5 [16384]	500 [128]
6k～10k	100 [2048]	10 [16384]	1k [128]
12k～20k	200 [2048]	20 [16384]	2k [128]
30k～50k	300 [4096]	50 [16384]	5k [128]
60k～100k	500 [4096]	100 [16384]	10k [128]
120k～200k	1k [4096]	200 [16384]	20k [128]
250k～500k	2k [2048]	500 [16384]	50k [128]
600k～1M	5k [2048]	1k [16384]	100k [128]
1.2M～2M	10k [4096]	1k [32768]	200k [128]
2.5M～5M	20k [4096]	1k [65536]	500k [256]
6M～10M	50k [2048]	1k [65536]	1M [128]
15M	80k [4096]	2k [65536]	2M [256]
20M～40M	100k [1024*N]	10k [8192*N]	2M [64*N]
50M～80M	300k [512*N]	10k [8192*N]	2M [64*N]
100M～150M	500k [256*N]	10k [8192*N]	10M [64*N]
200M～400M	1M [128*N]	10k [8192*N]	10M [64*N]
500M～800M	2M [128*N]	20k [4096*N]	10M [64*N]
1G～1.5G	5M [128*N]	50k [2048*N]	20M [64*N]
2G～3G	10M [128*N]	100k [1024*N]	30M [64*N]

* N : マルチ・フレーム数 (スパン/10MHz を正の無限大方向に丸めた値)

付録 E SCPI 適合情報

RSA3400A シリーズのすべてのコマンドは SCPI バージョン 1999.0 を基準としています。表E-1 に RSA3400A シリーズで使用されるコマンドの内、SCPI 1999.0 規格で定義されているものを示します。表に示されていないコマンドは、SCPI 1999.0 規格で定義されていません。

表 E-1: SCPI 1999.0 で定義されたコマンド

コマンド・グループ	コマンド
IEEE 共通	*CAL?
	*CLS
	*ESE
	*ESR?
	*IDN?
	*OPC
	*RST
	*SRE
	*STB?
	*TST?
*WAI	
:ABORt	:ABORt
:CALibration	:CALibration [:ALL]? :AUTO
:HCOPy	:HCOPy :DESTination [:IMMediate]
:INITiate	:INITiate :CONTinuous [:IMMediate] :REStart
:INPut	:INPut :ATTenuation :AUTO :COUPling
:INSTrument	:INSTrument :CATalog [:SElect]
:MMEMory	:MMEMory :COPY :DElete :NAME
:PROGram	:PROGram :CATalog? [:SElected] :DElete [:SElected] :EXECute :NAME :NUMBer :STRing

表 E-1: SCPI 1999.0 で定義されたコマンド (続き)

コマンド・グループ	コマンド
:SENSe	[:SENSe] :FREQuency :CENTer :STEP :AUTO [:INCrement] :SPAN :START :STOP :ROSCillator :SOURce
:STATus	:STATus :OPERation :CONDition? :ENABle [:EVENT]? NTRansition PTRansition :PRESet :QUEStionable :CONDition? :ENABle [:EVENT]? NTRansition PTRansition
:SYSTem	:SYSTem :DATE :ERRor :ALL? :CODE :ALL? [:NEXT]? :COUNT? [:NEXT]? :KLOCK :PRESet :TIME :VERSion?
:TRIGger	:TRIGger [:SEQuence] :MODE :POSition :SLOPe :SOURce
:UNIT	:UNIT :ANGLe

索引
保証規定
お問い合わせ

索引

A

:ABORt コマンド, 2-65
ASCII コード表, A-1

B

BNF 表記法, 2-1

C

:CALCulate コマンド, 2-67
:CALibration コマンド, 2-83
:CONFigure コマンド, 2-95
:CONFigure コマンド (オプション), 2-107
:CONFigure:AC3Gpp サブグループ (オプション23型), 2-111
:CONFigure:DDEMod サブグループ (オプション21型), 2-108
:CONFigure:DLR5_3GPP サブグループ (オプション27型), 2-129
:CONFigure:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 サブグループ (オプション26型), 2-123
:CONFigure:FLCDMA2K|:RLCDMA2K サブグループ (オプション25型), 2-117
:CONFigure:GSMedge サブグループ (オプション24型), 2-113
:CONFigure:RFID サブグループ (オプション21型), 2-109
:CONFigure:SADLR5_3GPP サブグループ (オプション27型), 2-130
:CONFigure:SSource サブグループ (オプション21型), 2-110
:CONFigure:UL3Gpp サブグループ (オプション23型), 2-112
:CONFigure:ULR5_3GPP サブグループ (オプション27型), 2-133
:CONFigure:WLAN サブグループ (オプション29型), 2-134

D

DEMOD モード, 定義, 2-14, 2-594
:DISPlay コマンド, 2-137
:DISPlay コマンド (オプション), 2-203

:DISPlay:AC3Gpp サブグループ (オプション23型), 2-287
:DISPlay:CCDF サブグループ, 2-140
:DISPlay:DDEMod サブグループ (オプション21型), 2-204
:DISPlay:DLR5_3GPP|:ULR5_3GPP サブグループ (オプション27型), 2-396
:DISPlay:FL1XEVD0:WAVEform サブグループ (オプション26型), 2-388
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF サブグループ (オプション26型), 2-365
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:DDEMod サブグループ (オプション26型), 2-371
:DISPlay:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SPECTrum サブグループ (オプション26型), 2-384
:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF サブグループ (オプション25型), 2-336
:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:DDEMod サブグループ (オプション25型), 2-342
:DISPlay:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SPECTrum サブグループ (オプション25型), 2-357
:DISPlay:GSMedge:DDEMod サブグループ (オプション24型), 2-312
:DISPlay:GSMedge:SPECTrum サブグループ (オプション24型), 2-326
:DISPlay:GSMedge:WAVEform サブグループ (オプション24型), 2-331
:DISPlay:OVIew サブグループ, 2-146
:DISPlay:PULSe:MVIew|:SVIew サブグループ, 2-158
:DISPlay:PULSe:SPECTrum サブグループ, 2-168
:DISPlay:PULSe:WAVEform サブグループ, 2-173
:DISPlay:RFID:DDEMod サブグループ (オプション21型), 2-231
:DISPlay:RFID:SPECTrum サブグループ (オプション21型), 2-247
:DISPlay:RFID:WAVEform サブグループ (オプション21型), 2-251
:DISPlay:RLCDMA2K:WAVEform サブグループ (オプション25型), 2-361
:DISPlay:SADLR5_3GPP サブグループ (オプション27型), 2-392
:DISPlay:SPECTrum サブグループ, 2-177
:DISPlay:SSource:MVIew サブグループ (オプション21型), 2-255
:DISPlay:SSource:SPECTrum サブグループ (オプション21型), 2-275

F

:DISPlay:SSource:SVIew サブグループ
(オプション21型), 2-263
:DISPlay:SSource:TFRrequency サブグループ
(オプション21型), 2-279
:DISPlay:SSource:WAVeform サブグループ
(オプション21型), 2-283
:DISPlay:TFRrequency サブグループ, 2-187
:DISPlay:UL3Gpp サブグループ (オプション23型),
2-292
:DISPlay:WAVeform サブグループ, 2-199
:DISPlay:WLAN:DDEMod サブグループ
(オプション29型), 2-418
:DISPlay:WLAN:SPECTrum サブグループ
(オプション29型), 2-434
:DISPlay[:VIEW] サブグループ, 2-196

F

:FETCh コマンド, 2-439
:FETCh コマンド (オプション), 2-467
:FETCh:AC3Gpp サブグループ (オプション21型),
2-491
:FETCh:DDEMod サブグループ (オプション21型),
2-468
:FETCh:DLR5_3GPP サブグループ (オプション27型),
2-554
:FETCh:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 サブグループ
(オプション26型), 2-530
:FETCh:FLCDMA2K|:RLCDMA2K サブグループ
(オプション25型), 2-510
:FETCh:GSMedge サブグループ (オプション24型),
2-498
:FETCh:RFID サブグループ (オプション21型), 2-474
:FETCh:SADLR5_3GPP サブグループ
(オプション27型), 2-560
:FETCh:SSource サブグループ (オプション21型),
2-482
:FETCh:UL3Gpp サブグループ (オプション23型),
2-492
:FETCh:ULR5_3GPP サブグループ (オプション27型),
2-568
:FETCh:WLAN サブグループ (オプション29型), 2-570
:FORMat コマンド, 2-579

G

GPIO インタフェース仕様, B-1

H

:HCOPy コマンド, 2-581

I

IEEE 共通コマンド, 2-55
:INITiate コマンド, 2-585
:INPut コマンド, 2-589
:INSTrument コマンド, 2-593

M

:MMEMory コマンド, 2-597

O

:OUTPut コマンド, 2-609

P

:PROGram コマンド, 2-611

R

RBW, 設定範囲, D-6
:READ コマンド, 2-617
:READ コマンド (オプション), 2-645
:READ:AC3Gpp サブグループ (オプション23型),
2-661
:READ:DDEMod サブグループ (オプション21型),
2-646
:READ:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 サブグループ
(オプション26型), 2-687
:READ:FLCDMA2K|:RLCDMA2K サブグループ
(オプション25型), 2-673
:READ:GSMedge サブグループ (オプション24型),
2-662
:READ:RFID サブグループ (オプション21型), 2-652
:READ:SADLR5_3GPP サブグループ
(オプション27型), 2-701
:READ:SSource サブグループ (オプション21型),
2-657
:READ:WLAN サブグループ (オプション29型), 2-710

S

S/A モード, 定義, 2-14, 2-594

SCPI

説明, 2-2
単位, 2-8
適合情報, E-1
パラメータ・タイプ, 2-4

- :SENSe コマンド, 2-715
- :SENSe コマンド (オプション), 2-795
- [:SENSe]:Standard:ACPower サブグループ, 2-891, 2-954
- [:SENSe]:Standard:CCDF サブグループ, 2-895
- [:SENSe]:Standard:CDPower サブグループ, 2-897
- [:SENSe]:Standard:CHPower サブグループ, 2-905
- [:SENSe]:Standard:IM サブグループ, 2-908
- [:SENSe]:Standard:MACCuracy サブグループ, 2-913
- [:SENSe]:Standard:OBWidth サブグループ, 2-924
- [:SENSe]:Standard:PCCHannel サブグループ, 2-926
- [:SENSe]:Standard:SEMMask サブグループ, 2-1001
- [:SENSe]:AC3Gpp サブグループ (オプション23 型), 2-861
- [:SENSe]:ACPower サブグループ, 2-716
- [:SENSe]:ADEMod サブグループ, 2-720
- [:SENSe]:AVERage サブグループ, 2-726
- [:SENSe]:BSIZe サブグループ, 2-729
- [:SENSe]:CCDF サブグループ, 2-730
- [:SENSe]:CFRequency サブグループ, 2-733
- [:SENSe]:CHPower サブグループ, 2-734
- [:SENSe]:CNRatio サブグループ, 2-737
- [:SENSe]:CORRection サブグループ, 2-741
- [:SENSe]:DDEMod サブグループ (オプション21 型), 2-797
- [:SENSe]:DLR5_3GPP サブグループ (オプション27 型), 2-1012
- [:SENSe]:EBWidth サブグループ, 2-746
- [:SENSe]:FEED サブグループ, 2-748
- [:SENSe]:FL1XEVD0:PVTime サブグループ (オプション26 型), 2-996
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0 サブグループ (オプション26 型), 2-947
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:ACPower サブグループ (オプション26 型), 2-954
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CCDF サブグループ (オプション26 型), 2-958
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CDPower サブグループ (オプション26 型), 2-960
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:CHPower サブグループ (オプション26 型), 2-968
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:IM サブグループ (オプション26 型), 2-971
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:MACCuracy サブグループ (オプション26 型), 2-976
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:OBWidth サブグループ (オプション26 型), 2-987
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:PCCHannel サブグループ (オプション26 型), 2-989
- [:SENSe]:FL1XEVD0|:RL1XEVD0:SEMMask サブグループ (オプション26 型), 2-1001
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K サブグループ (オプション25 型), 2-884
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:ACPower サブグループ (オプション25 型), 2-891
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CCDF サブグループ (オプション25 型), 2-895
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CDPower サブグループ (オプション25 型), 2-897
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:CHPower サブグループ (オプション25 型), 2-905
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:IM サブグループ (オプション25 型), 2-908
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:MACCuracy サブグループ (オプション25 型), 2-913
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:OBWidth サブグループ (オプション25 型), 2-924
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:PPCHannel サブグループ (オプション25 型), 2-926
- [:SENSe]:FLCDMA2K|:RLCDMA2K:SEMMask サブグループ (オプション25 型), 2-938
- [:SENSe]:FREQuency サブグループ, 2-749
- [:SENSe]:GSMedge サブグループ (オプション24 型), 2-872
- [:SENSe]:OBWidth サブグループ, 2-756
- [:SENSe]:PULSe サブグループ, 2-758
- [:SENSe]:RFID サブグループ (オプション21 型), 2-814
- [:SENSe]:RLCDMA2K:PVTime サブグループ (オプション25 型), 2-934
- [:SENSe]:ROSCillator サブグループ, 2-768
- [:SENSe]:SADLR5_3GPP:ACLR サブグループ (オプション27 型), 2-1022
- [:SENSe]:SADLR5_3GPP:CHPower サブグループ (オプション27 型), 2-1026
- [:SENSe]:SADLR5_3GPP:OBWidth サブグループ (オプション27 型), 2-1029
- [:SENSe]:SADLR5_3GPP:SEMMask サブグループ (オプション27 型), 2-1031
- [:SENSe]:SPECtrum サブグループ, 2-769
- [:SENSe]:SPURious サブグループ, 2-786
- [:SENSe]:SSOurce サブグループ (オプション21 型), 2-839
- [:SENSe]:TRANsient サブグループ, 2-790
- [:SENSe]:UL3Gpp サブグループ (オプション23 型), 2-863
- [:SENSe]:ULR5_3GPP サブグループ (オプション27 型), 2-1036
- [:SENSe]:WLAN サブグループ (オプション29 型), 2-1046
- SI 接頭辞, 2-8
- :STATus コマンド, 2-1057
- :SYSTem コマンド, 2-1065

T

TekVISA, 1-8

インストール, 1-8

TIME モード, 定義, 2-14, 2-594

:TRACe コマンド, 2-1075

:TRIGger コマンド, 2-1081

U

:UNIT コマンド, 2-1093

W

*WAI, IEEE 共通コマンド, 2-63

あ

アプリケーション・プログラム例, 4-2

い

イネーブル・レジスタ, 3-10

イベント, 3-1

イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ(ESER),
3-11

インタフェース

使用, 1-5

接続, 1-4

通信パラメータの設定, 1-6

インタフェース仕様, GPIB, B-1

お

オペレーション・イネーブル・レジスタ (OENR), 3-12

オペレーション・イベント・レジスタ (OEVR), 3-9

オペレーション・コンディション・レジスタ (OCR), 3-9

オペレーション・トランジション・レジスタ (OTR),
3-13

き

キュー, 3-14

く

クエスチョナブル・イネーブル・レジスタ (QENR),
3-12

クエスチョナブル・イベント・レジスタ (QEVR), 3-10

クエスチョナブル・コンディション・レジスタ (QCR),
3-10

クエスチョナブル・トランジション・レジスタ (QTR),
3-13

こ

構造化ニーモニック, 2-11

コマンド, 構文, 2-1

さ

サービス・リクエスト・イネーブル・レジスタ(SRER),
3-11

サンプル・プログラム, 4-1

す

スケール設定上の注意、横軸, 2-138

スタンダード・イベント・ステータス・レジスタ
(SESR), 3-8

ステータス, 3-1

ステータス/イベント・レポーティング機能, 3-1

ステータス・バイト・レジスタ (SBR), 3-7

ステータス・レジスタ, 3-6

せ

設定範囲, 表示形式とスケール, D-1

そ

測定モード, 定義, 2-14, 2-594

た

単位, 2-8

て

適合情報, SCPI, E-1

デフォルト設定, C-1

と

同期処理, 3-17

トランジション・レジスタ, 3-13

は

パラメータ・タイプ, 2-4

ふ

プログラム例, 4-1

ま

マクロ・プログラム, 実行例, 4-13

め

メッセージ, エラー, 3-19

も

モード, 定義, 2-14, 2-594

よ

横軸スケール設定上の注意, 2-138

れ

レジスタ, 3-6

イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ
(ESER), 3-11

オペレーション・イネーブル・レジスタ (OENR),
3-12

オペレーション・コンディション・レジスタ (OCR),
3-9

オペレーション・トランジション・レジスタ (OTR),
3-13

クエスチョナブル・イネーブル・レジスタ (QENR),
3-12

クエスチョナブル・イベント・レジスタ (QEVR),
3-10

クエスチョナブル・コンディション・レジスタ
(QCR), 3-10

クエスチョナブル・トランジション・レジスタ
(QTR), 3-13

サービス・リクエスト・イネーブル・レジスタ
(SRER), 3-11

スタンダード・イベント・ステータス・レジスタ
(SESR), 3-8

ステータス・バイト・レジスタ (SBR), 3-7

ステータス・レジスタ, 3-6

保証規定

保証期間 (納入後 1 年間) 内に、通常の取り扱いによって生じた故障は無料で修理いたします。

1. 取扱説明書、本体ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状況で保証期間内に故障した場合には、販売店または当社に修理をご依頼下されば無料で修理いたします。なお、この保証の対象は製品本体に限られます。
 2. 転居、譲り受け、ご贈答品などの場合で販売店に修理をご依頼できない場合には、当社にお問い合わせください。
 3. 保証期間内でも次の事項は有料となります。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害、当社および当社指定の技術員以外による修理、改造などから生じた故障および損傷の修理
 - 当社指定外の電源(電圧・周波数)使用または外部電源の異常による故障および損傷の修理
 - 移動時の落下などによる故障および損傷の修理
 - 火災、地震、風水害、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などによる故障および損傷の修理
 - 消耗品、付属品などの消耗による交換
 - 出張修理(ただし故障した製品の配送料金は、当社負担)
 4. 本製品の故障またはその使用によって生じた直接または間接の損害について、当社はその責任を負いません。
 5. この規定は、日本国内においてのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)
- この保証規定は本書に明示された条件により無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
 - ソフトウェアは、本保証の対象外です。
 - 保証期間経過後の修理は有料となります。詳しくは、販売店または当社までお問い合わせください。

お問い合わせ

製品についてのご相談・ご質問につきましては、下記までお問い合わせください。

お客様コールセンター

TEL 03-6714-3010  **FAX 0120-046-011**

東京都港区港南 2-15-2 品川インターシティ B棟 6階 〒108-6106

電話受付時間 / 9:00~12:00 13:00~19:00 月曜~金曜 (休祝日を除く)

E-Mail: ccc.jp@tektronix.com

URL: <http://www.tektronix.co.jp>

修理・校正につきましては、お買い求めの販売店または下記サービス受付センターまでお問い合わせください。

(ご連絡の際に、型名、故障状況等を簡単にお知らせください)

サービス受付センター

 **TEL 0120-741-046** **FAX 0550-89-8268**

静岡県御殿場市神場 143-1 〒412-0047

電話受付時間 / 9:00~12:00 13:00~19:00 月曜~金曜 (休祝日を除く)

プログラマ・マニュアル
RSA3408A 型
8GHz リアルタイム・スペクトラム・アナライザ
(P/N 077-0004-01)

● 2005 年 10 月 第 2 版発行